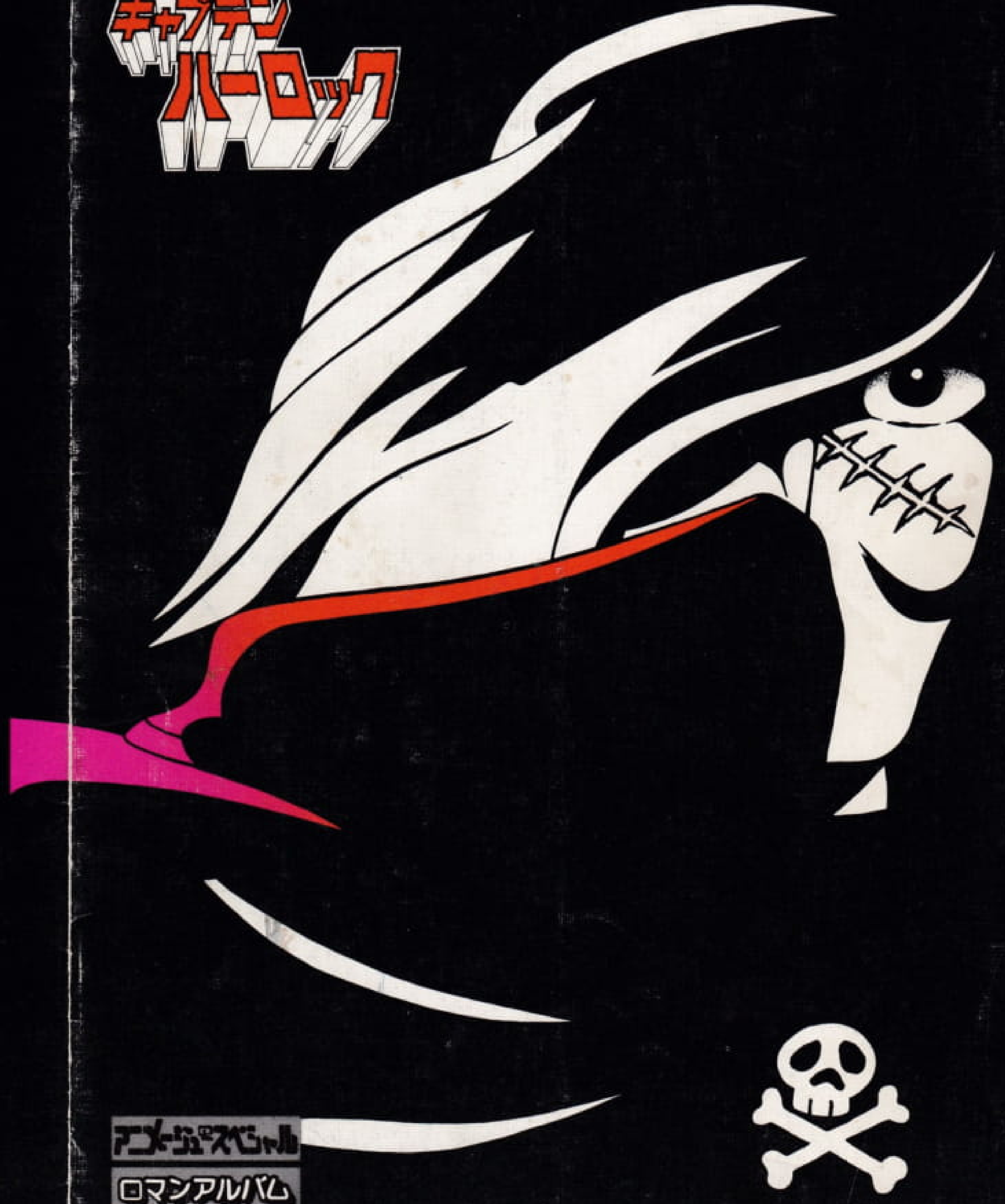
COSMIC CORSAIR

CAPTAIN HERLOCK

宇宙海賊
キャプテンハーロック



アニメージュ・スペシャル
ロマンアルバム
デラックス30 680yen

ロマンアルバム・デラックス30 キャプテンハーロック CAPTAIN HERLOCK 徳間書店



ロマンアルバム・デラックス30
宇宙海賊キャプテン・ハーロック
昭和55年8月10日発行（3刷）
編集人 尾形英夫 発行人 小金井道宏 発行所
徳間書店
定価 六八〇円
雑誌 61577—36 ©徳間書店 1980 三晃印刷／千代田グラビヤ Printed in Japan

COSMIC CORSAIR

CAPTAIN HERLOCK

宇宙海賊
キャプテン
ハーロック



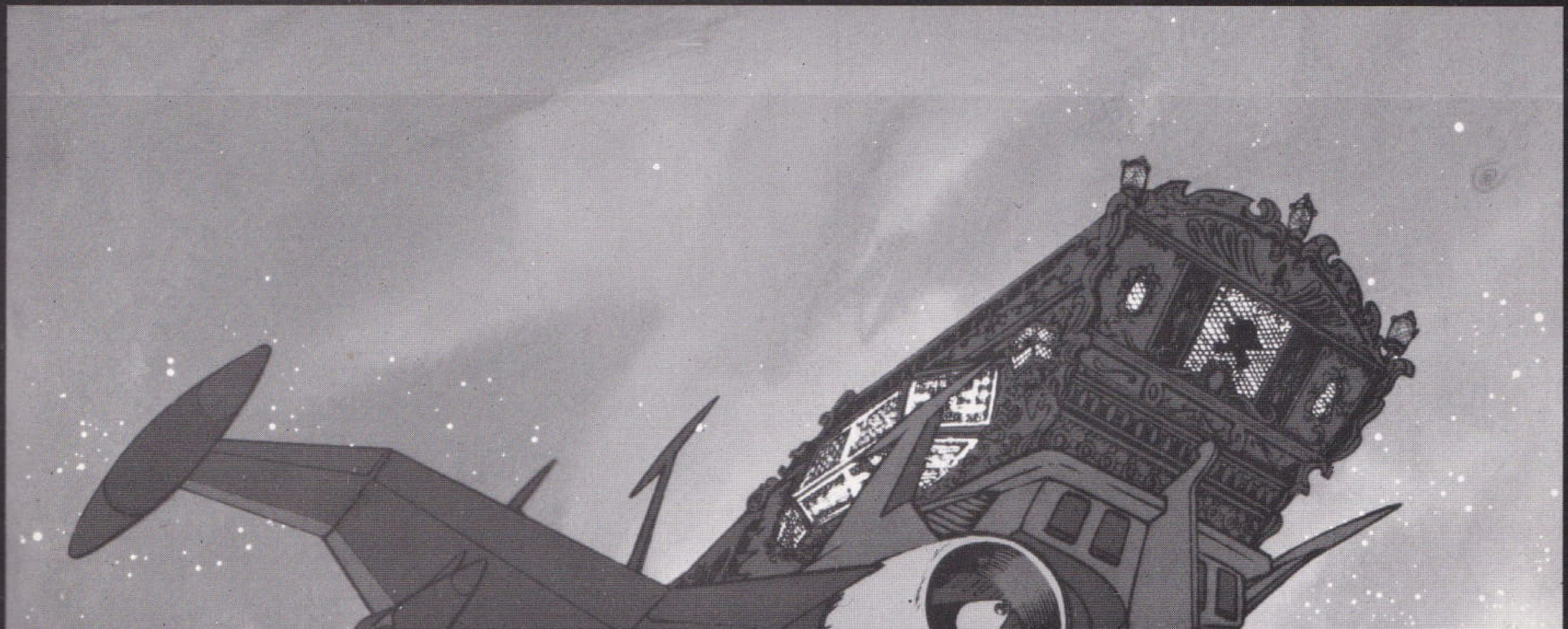
アニメージュ・スペシャル
ロマンアルバム
デラックス30 680yen

ロマンアルバム・デラックス30 キャプテン ハーロック CAPTAIN HERLOCK 徳間書店

ロマンアルバム・デラックス30
宇宙海賊キャプテン・ハーロック
昭和55年8月10日発行（3刷）
編集人 尾形英夫 発行人 小金井道宏 発行所 徳間書店
東京都港区新橋4-10-1 ☎東京(433)6231
定価 六八〇円



雑誌 61577―36 ©徳間書店 1980 三晃印刷／千代田グラビヤ Printed in Japan




PROLOGUE


SPECIAL STILL BROMIDE
COSMIC CORSAIR
CAPTAIN HERLOCK


COSMIC CORSAIR
CAPTAIN HERLOCK
CAPTAIN HERLOCK
CAPTAIN HERLOCK

マンアルバム㉚付録

PROLOGUE

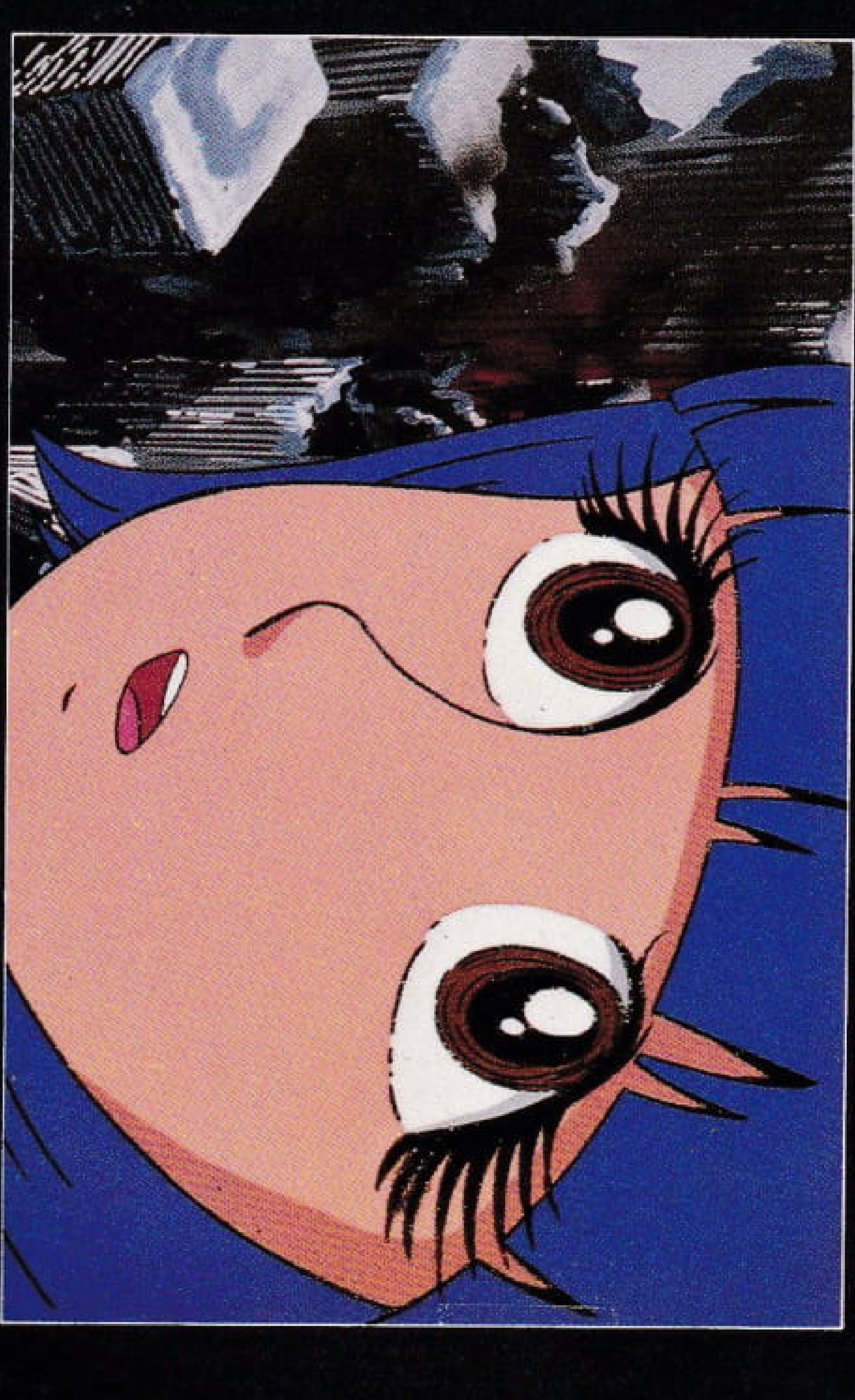
SPECIAL STILL BROMIDE COSMIC CORSAIR CAPTAIN HERLOCK

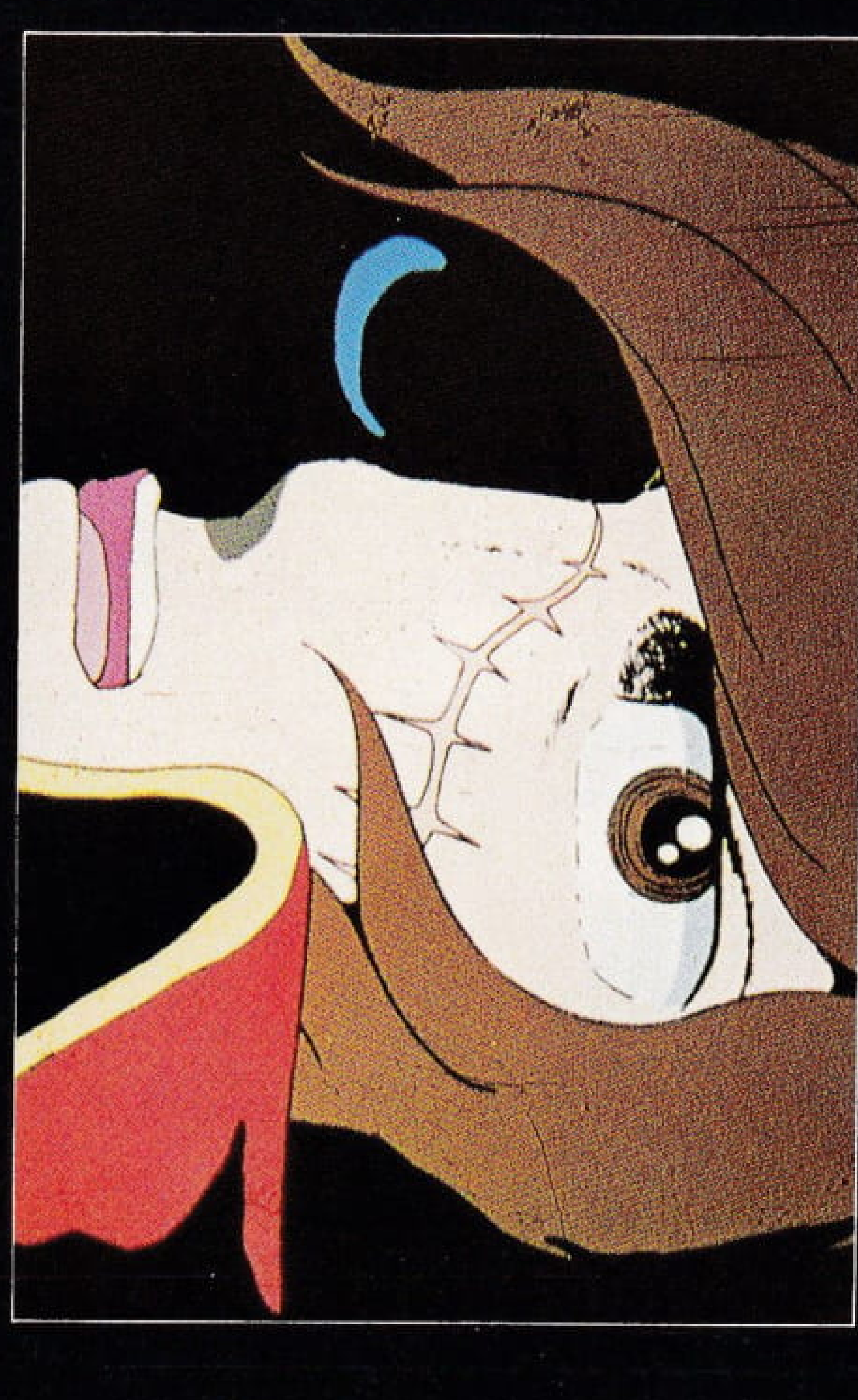


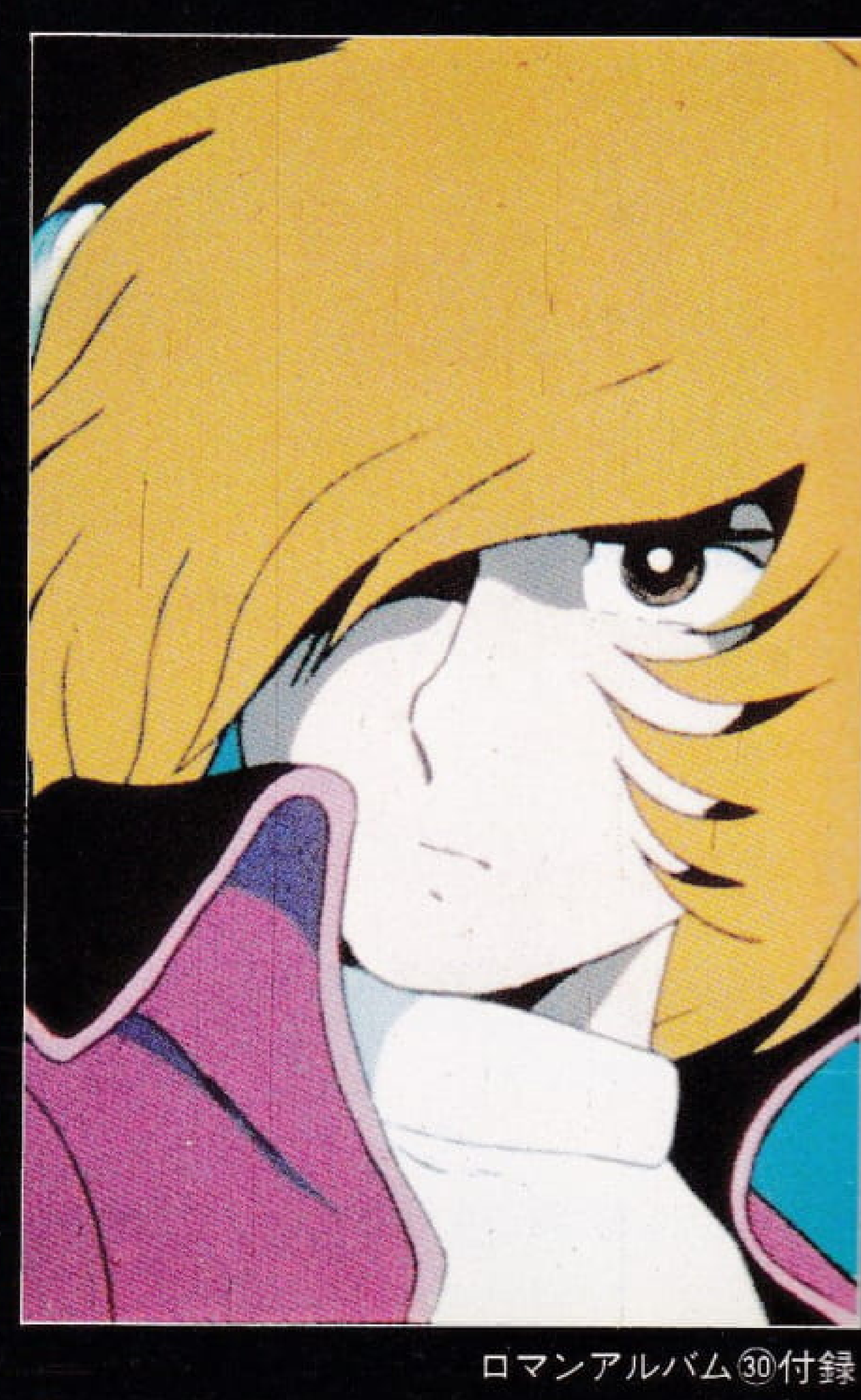




ロマンアルバム㉚付録

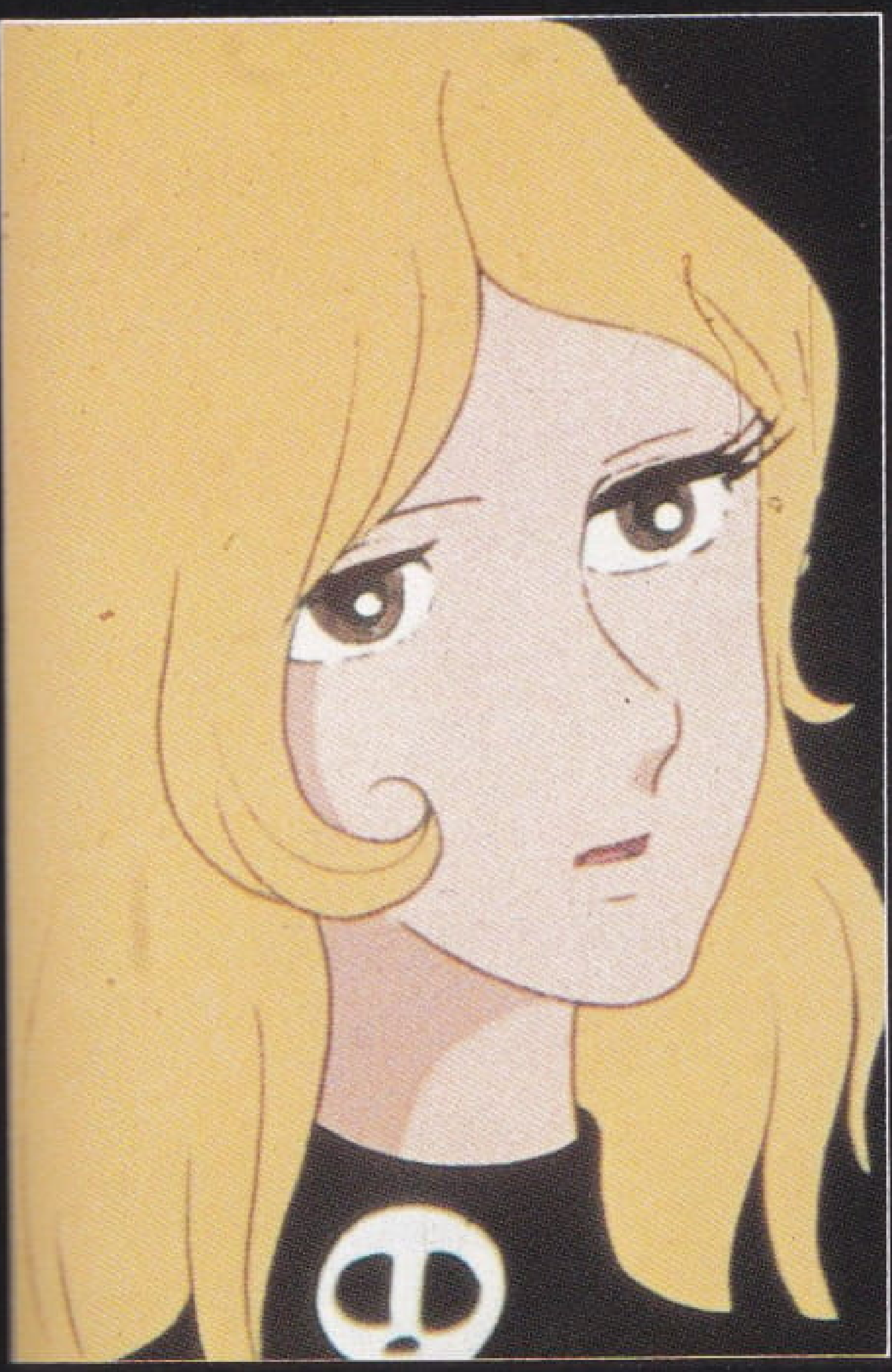




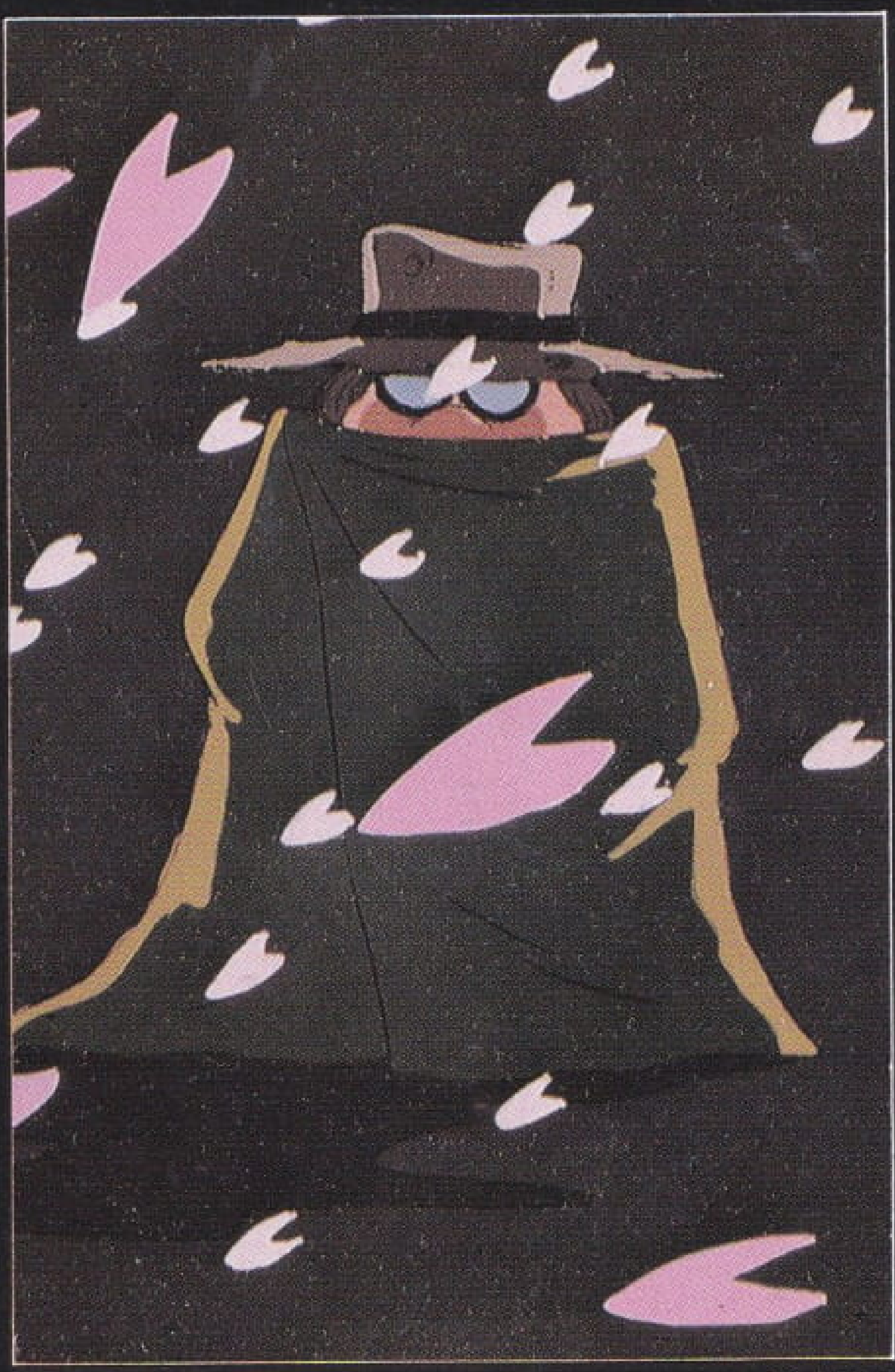


ロマンアルバム㉚付録

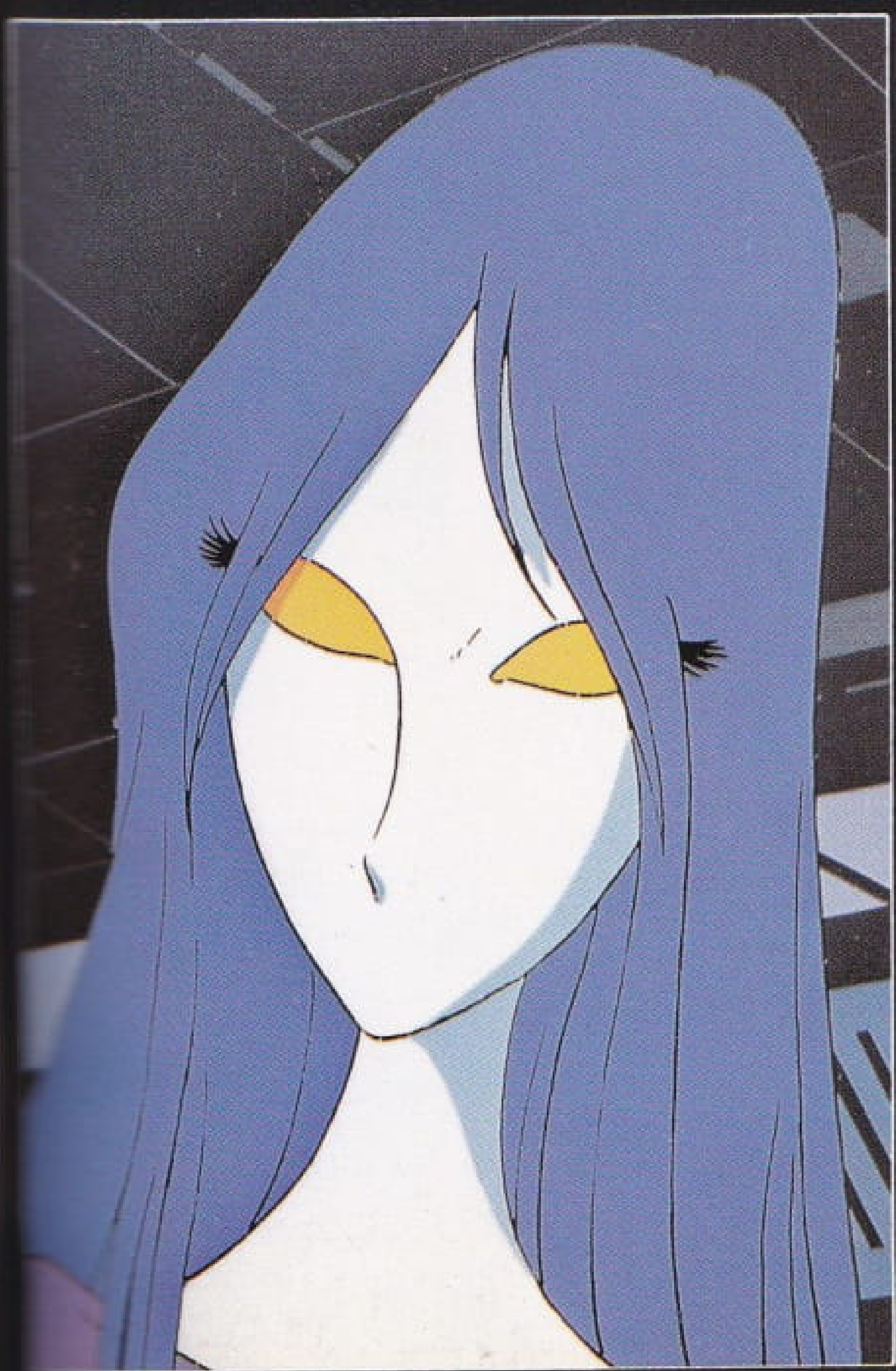
SPECIAL STILL BROMIDE COSMIC CORSAIR CAPTAIN HERLOCK

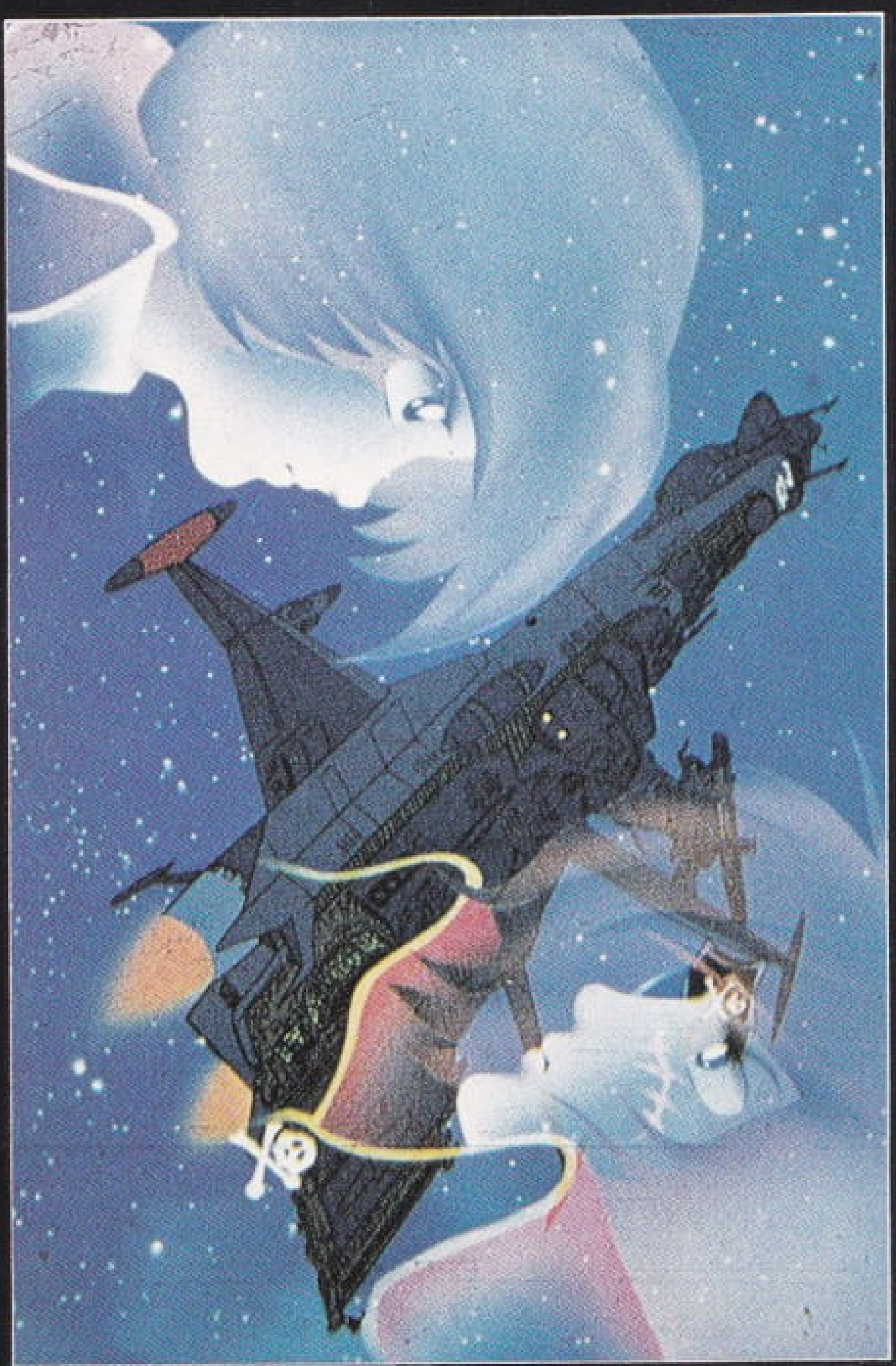


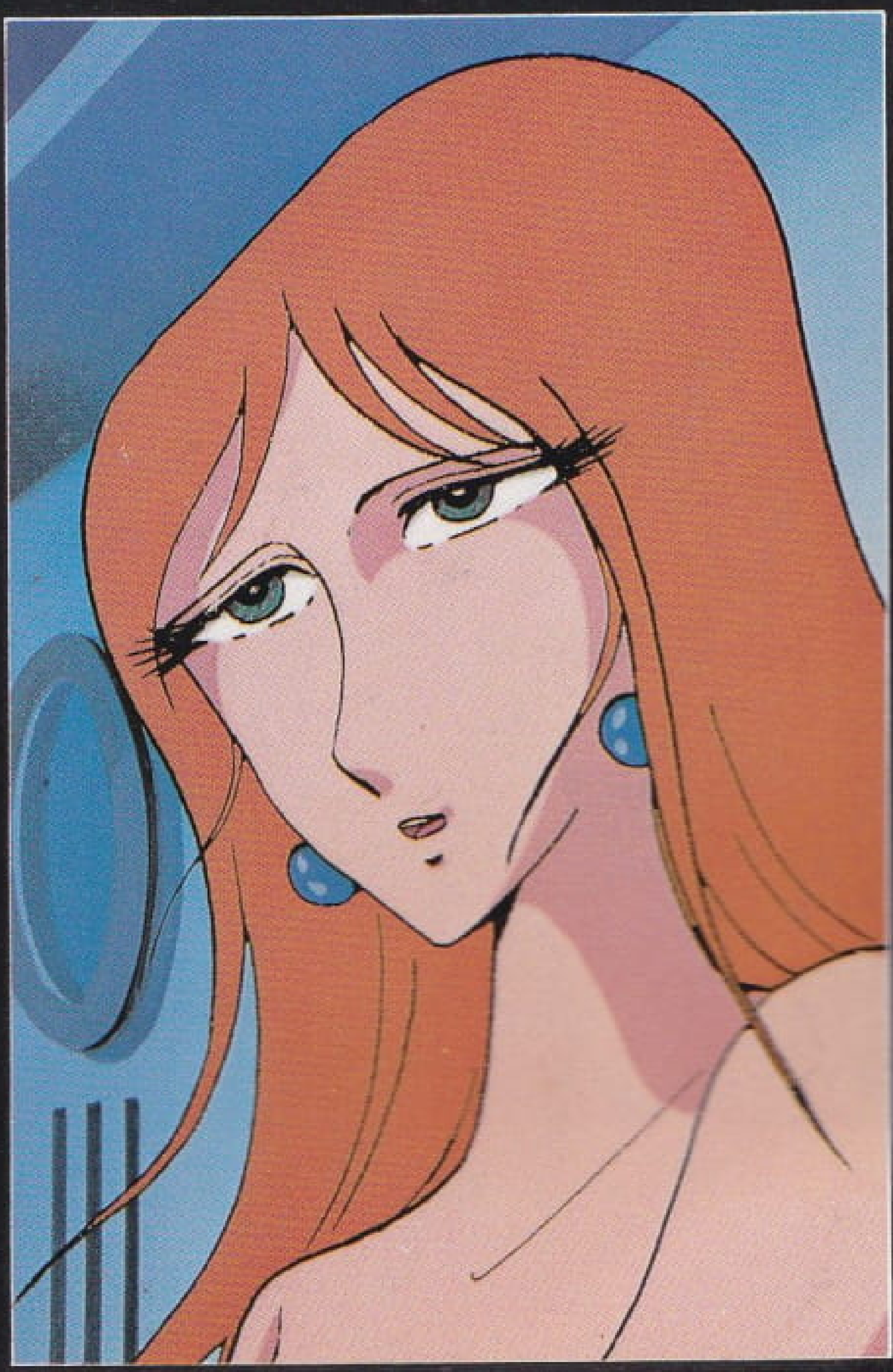




ロマンアルバム㉚付録





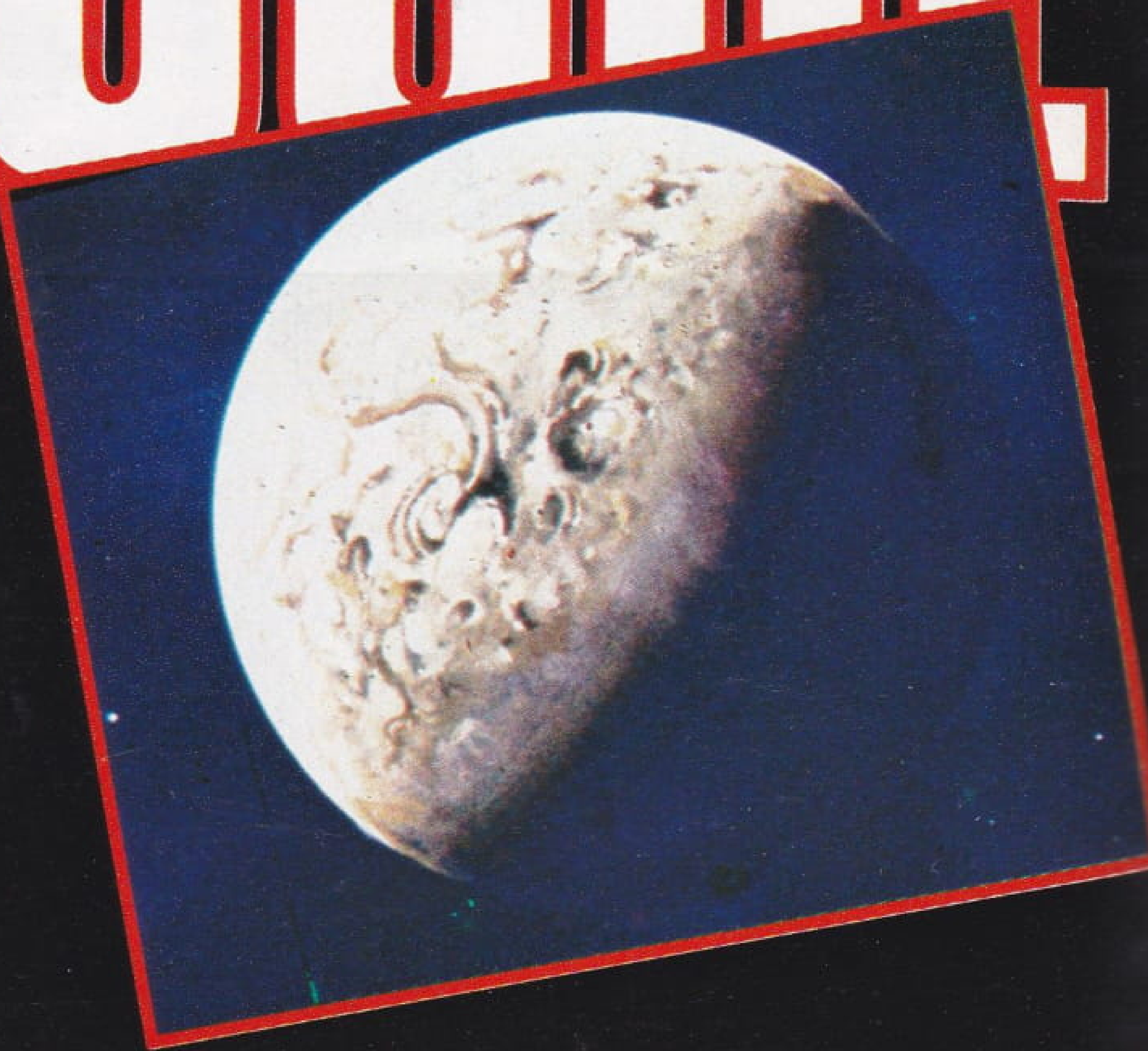


ロマンアルバム㉚付録

PROLOGUE

わが青春のアルカディア

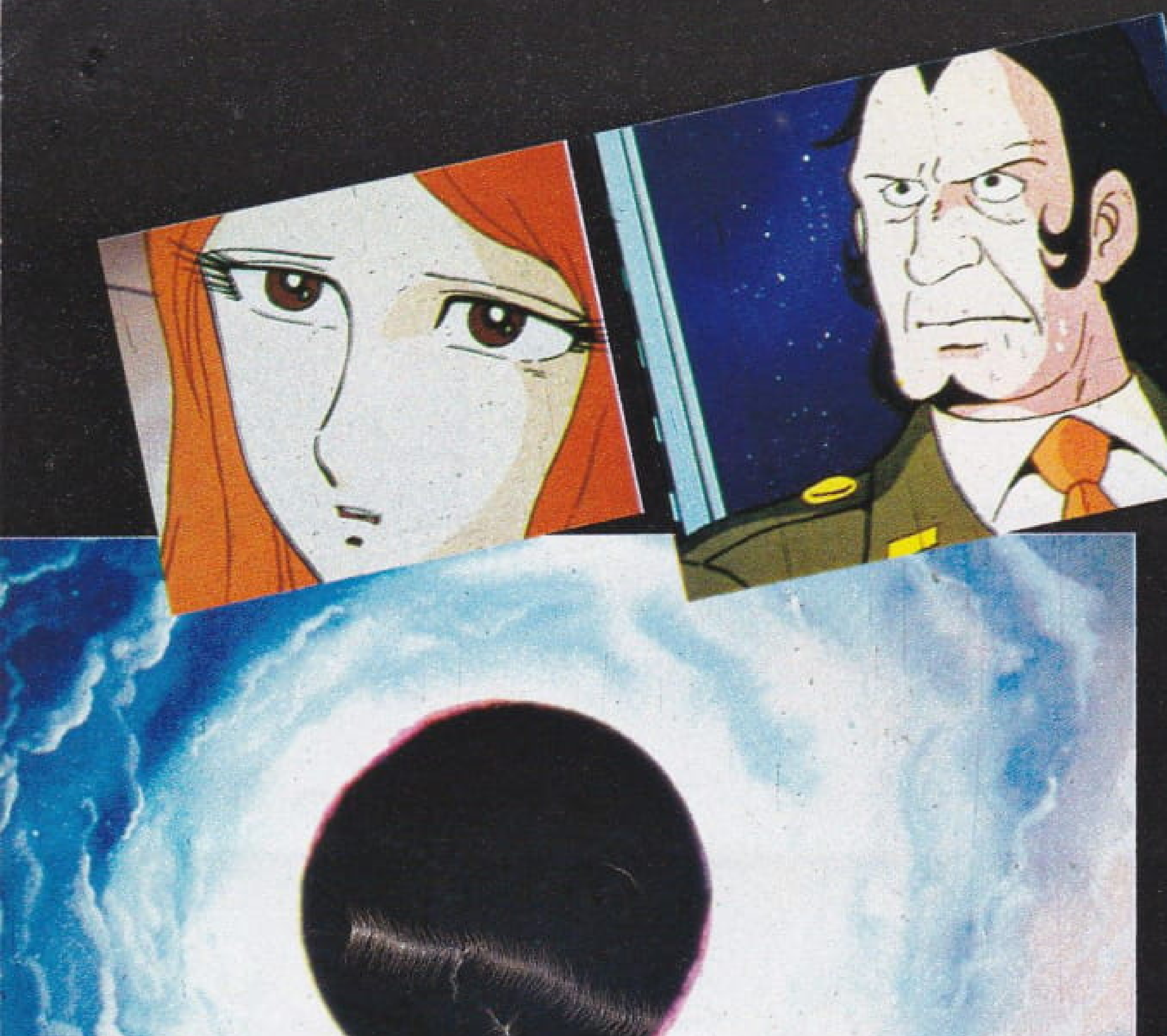
……………さらば友よ……………



地球の海が死滅した時、人々はいった
『人類の終わりの時が来た』と……　頭上に広がる無限の海に
なぜか目をつぶって　人類の行く末をひたすら嘆いた
新しい人類の輝かしい未来を信じて　新しい無限の海『宇宙』へ
歯をくいしばって乗り出して行った
わずかばかりの男たちの事を　この人々は　指さしあざ笑った
『はかない夢を追う無法者』と……
これはそういう時代の物語である








――西暦二九七〇年、ユリシーズ星雲、山羊惑星の、とある安酒場。ここが大山トチローとエメラーダの二人が運命的な出会いをしたところだ。そして二人が結ばれるきっかけとなった、バッド鉱山の戦艦エベレストの単独爆破も、今はもう伝説となってしまった。

大山トチローは、ロケット工学における天才的な科学者であった。だが、彼はだらけきった地球に絶望し、夢と希望を求めて宇宙へ旅立ったのだった。友人のハーロックとともに……。

その頃、ハーロックをはじめとする宇宙海賊たちが暗躍し、地球へ物資を運ぶ輸送船が次々と襲われていた。地球政府は、こうした宇宙海賊を退治するために、無敵の宇宙戦艦の建造を計画した。だが、宇宙戦艦の建造には、どうしても大山トチローの頭脳が必要だったのである。

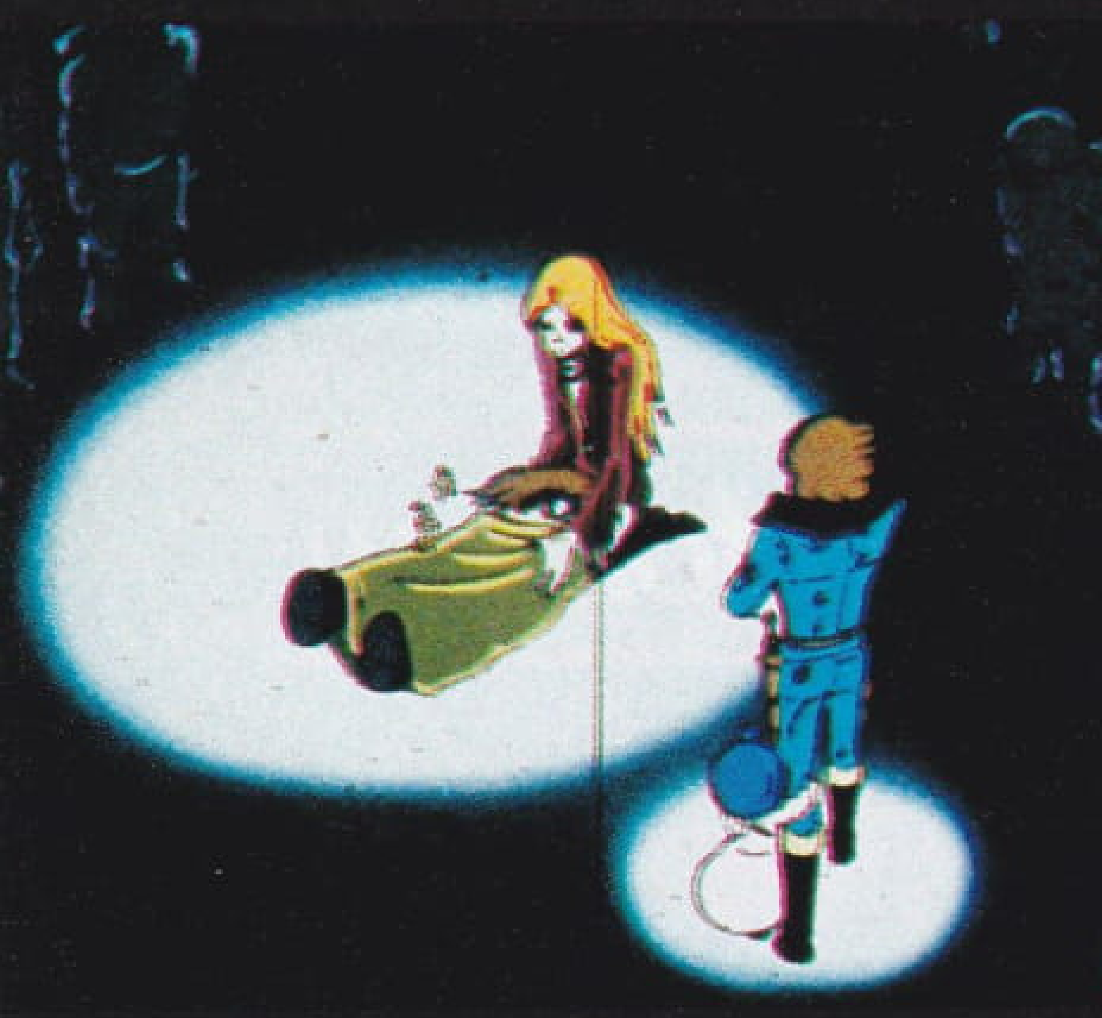
大山トチローは惑星ヘビーメルダーにいた。



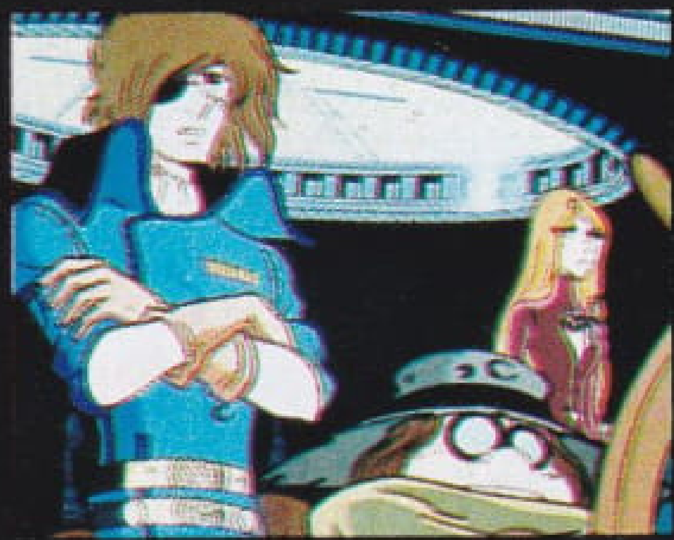


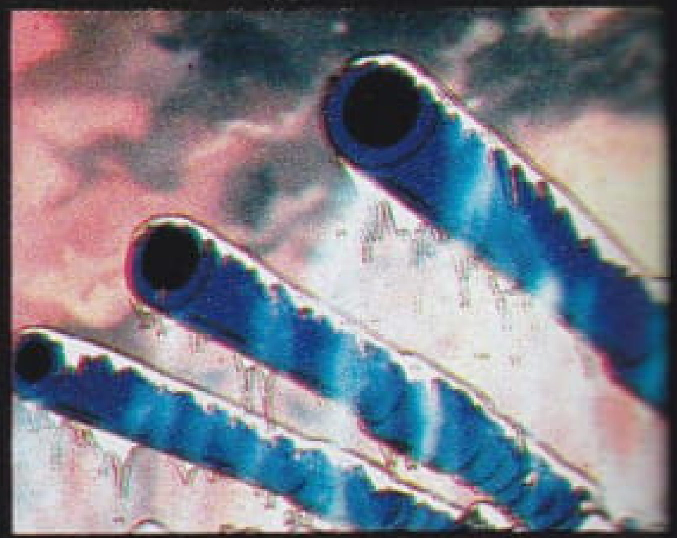








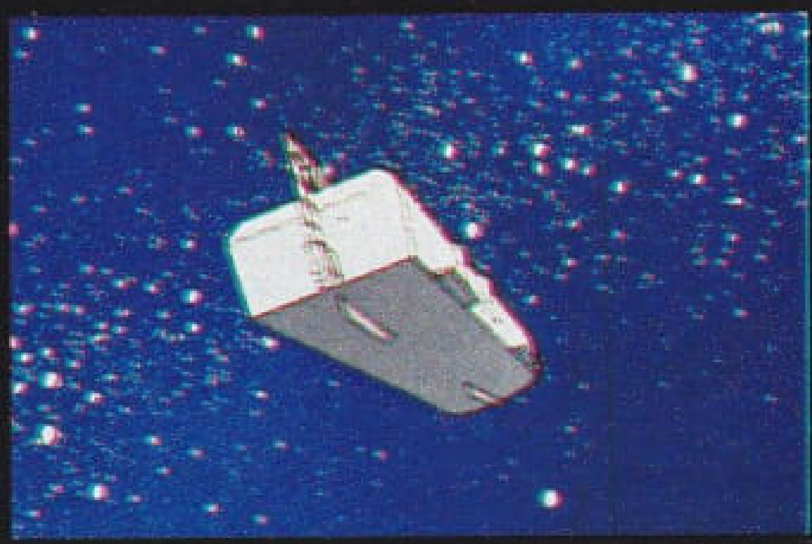
惑星ヘビーメルダーは、さびれた開拓惑星であった。人生に夢と希望を失った人々が集まったふきだまりのような惑星だった。だが、ある日一人の若者が訪れた時から、ヘビーメルダーは夢と希望の惑星となった。人々は自由の歌を唄い、夢と希望のために日夜おしみなく働いた……

〝アルカディアのために！〟

妖星ガンダの軌道上に位置していた、惑星ヘビーメルダーは、宇宙から消えゆく運命にあったのだ。

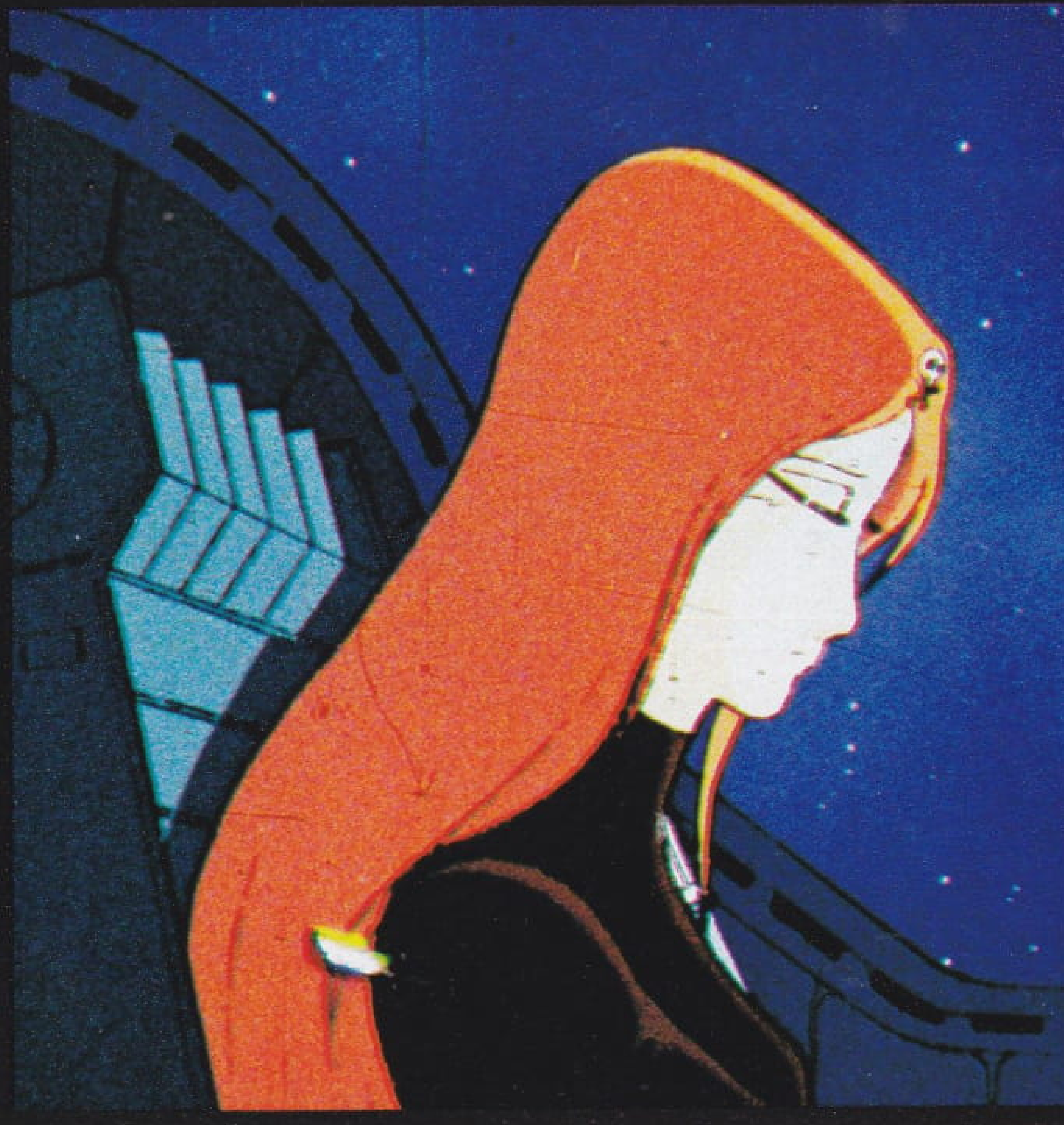
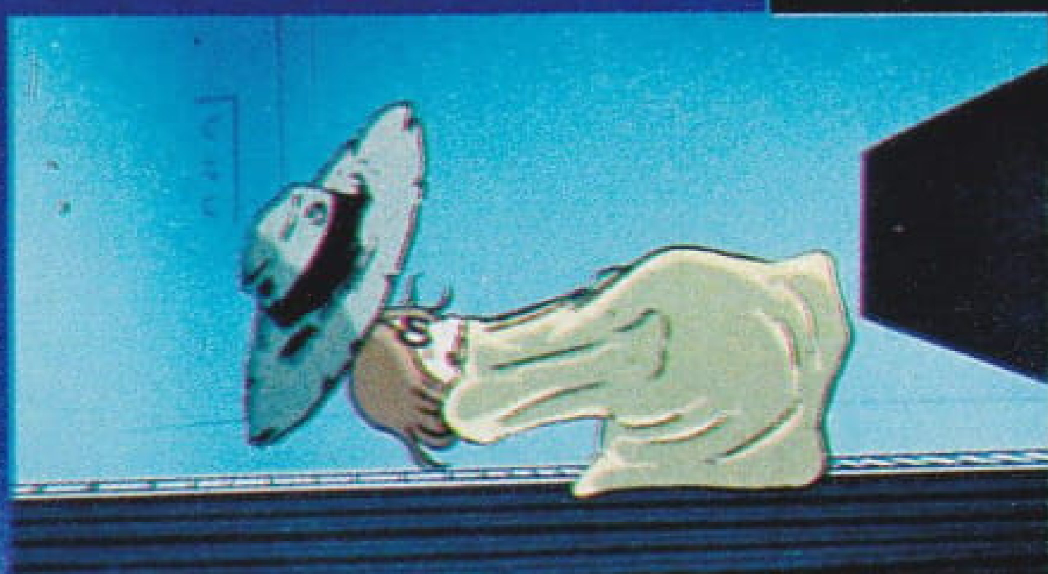
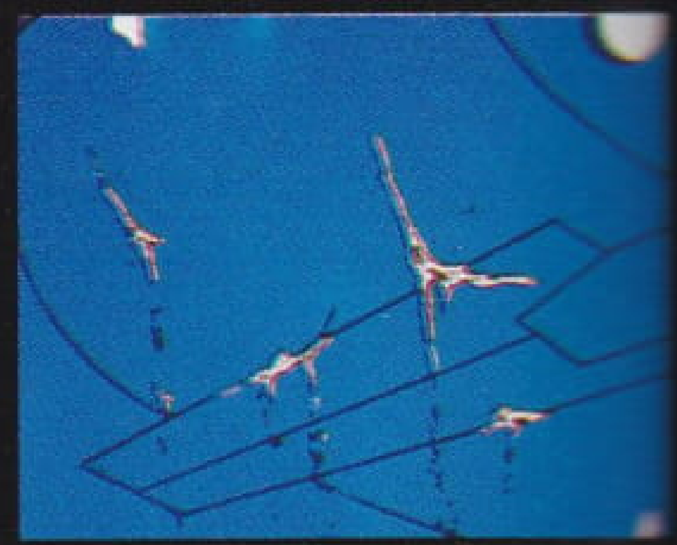
そしてヘビーメルダー最后の日、崩れた山の裂け目からゆっくりと浮上する宇宙戦艦アルカディア号。その姿は正に天地創造のノアの方舟さながらであった。

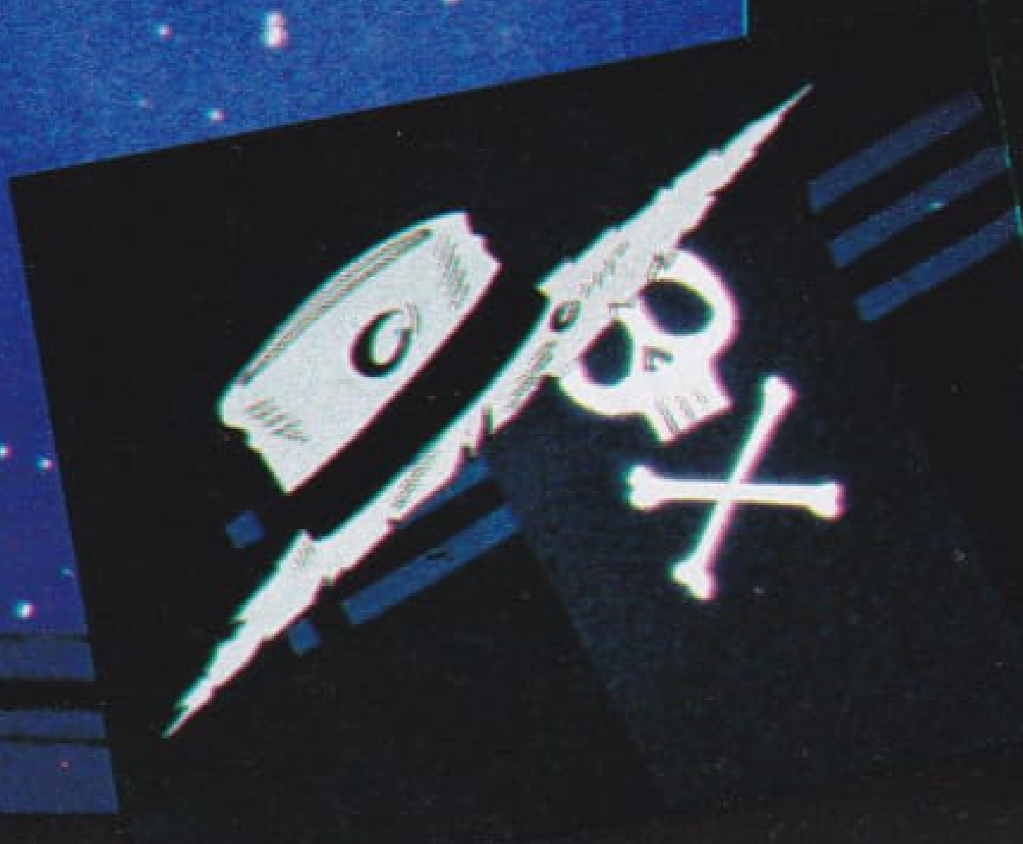
アルカディアが妖星ガンダの引力圏外に出た時、使命を果たし終えたかのように、トチローは倒れた。エメラーダは、宇宙葬にしたトチローの柩を追って、つれそうようにして宇宙の闇へと消えていった。










OPENING

Superior photograph album of Captain Herlock

memorial animation for you

いまよみがえるファン待望の厳選フィルム・ストーリー



暗黒の空間の中をも、時は更に流れ続け、偉大なる大山トチロ十も、その後を追って宇宙へ消えたエメラーダもすでに忘却の彼方へと去り、すでに何年かが過ぎた。

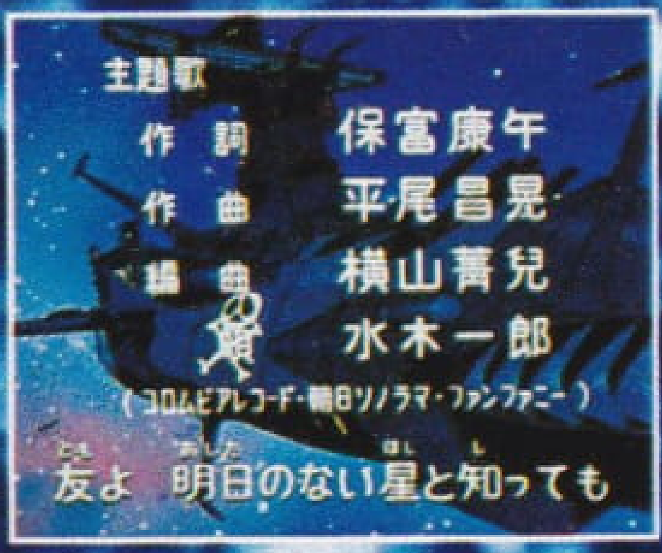
——西暦2977年

この時代地球は平和であった。だがその頃、小惑星から資源を貯えて地球をめざす宇宙貨物船が頻頻と宇宙海賊に襲われていた。キャプテンハーロックの仕業である。アルカディア号には、あのヘビーメルダーから脱出した時、そのままにドクロの旗が翻っていた。































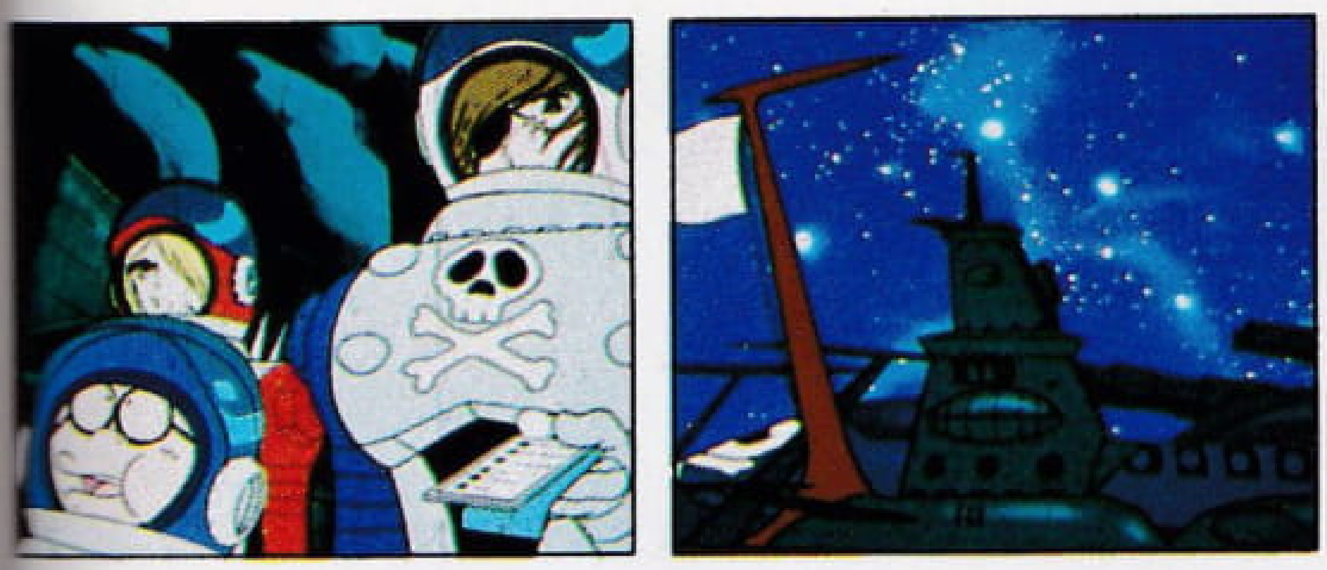


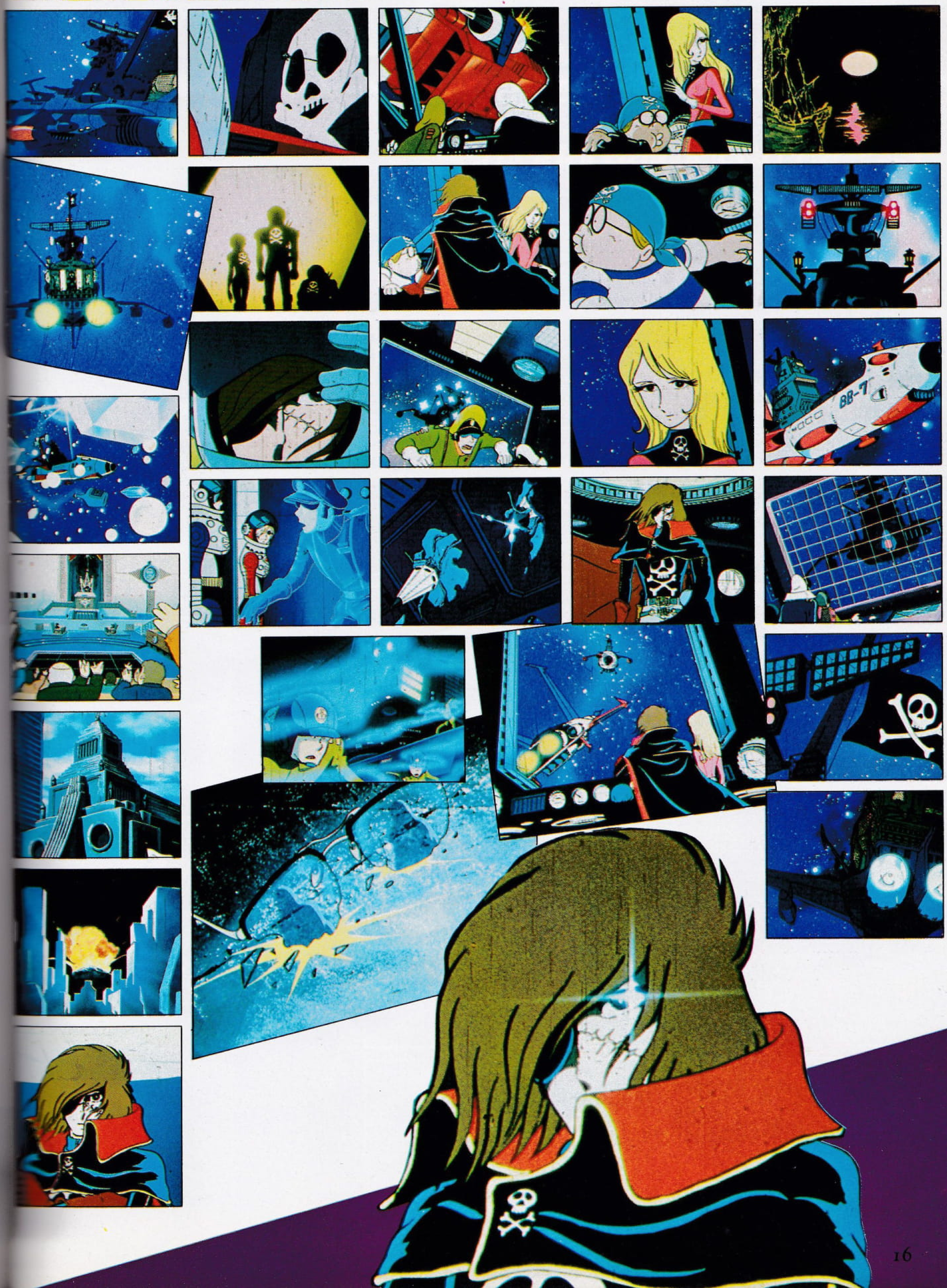


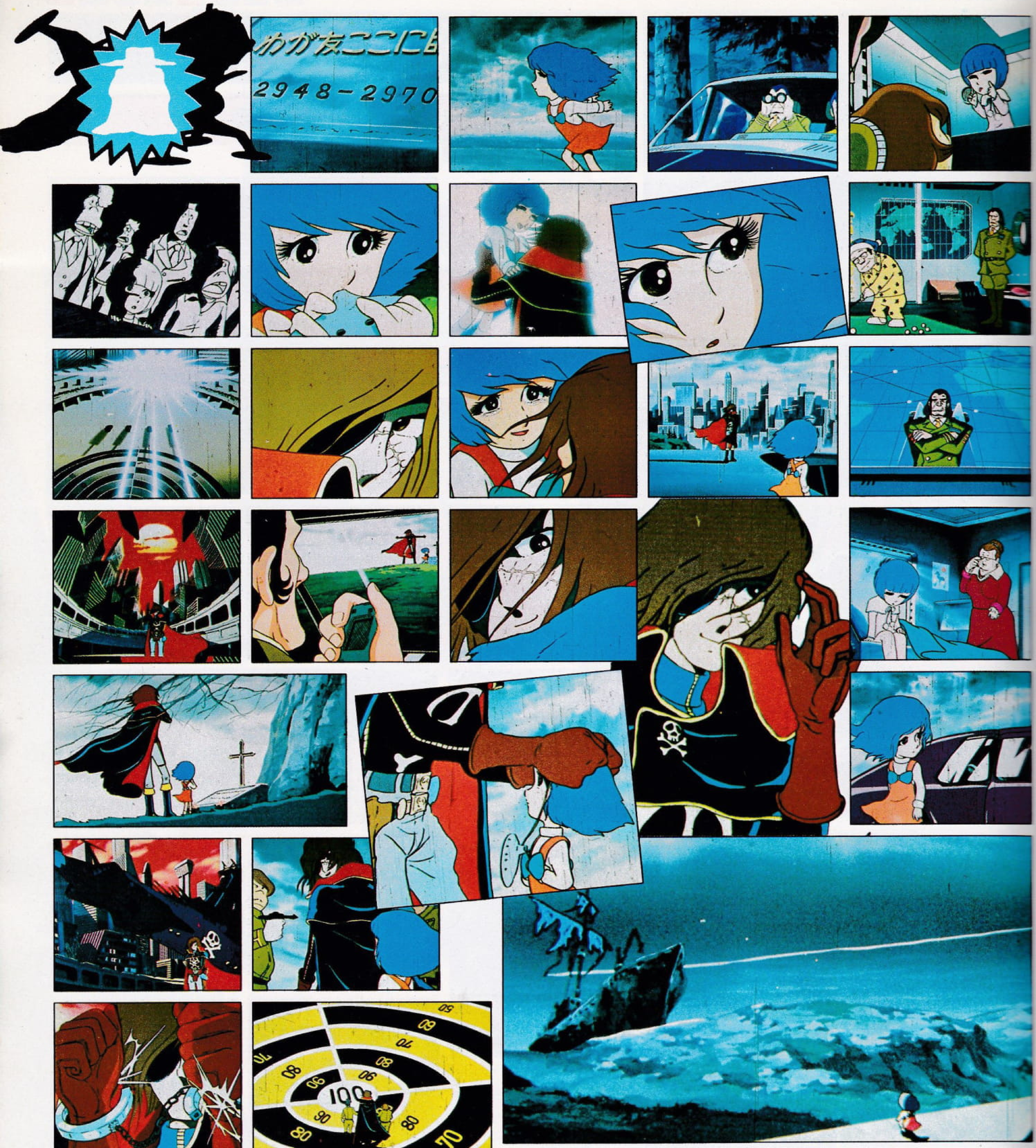
第1話

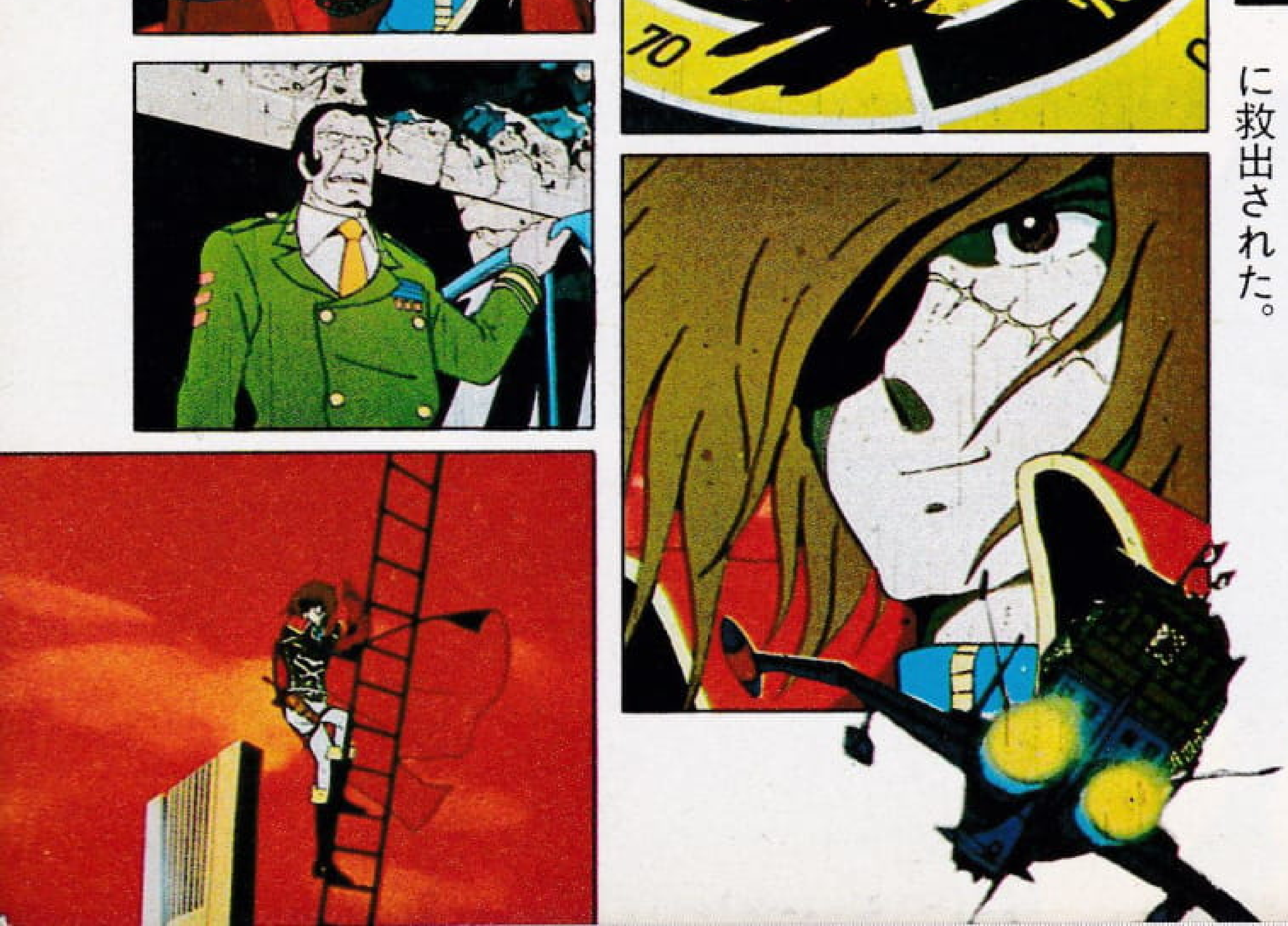
宇宙にはためく海賊旗

人は俺を呼ぶ……キャプテンハーロック









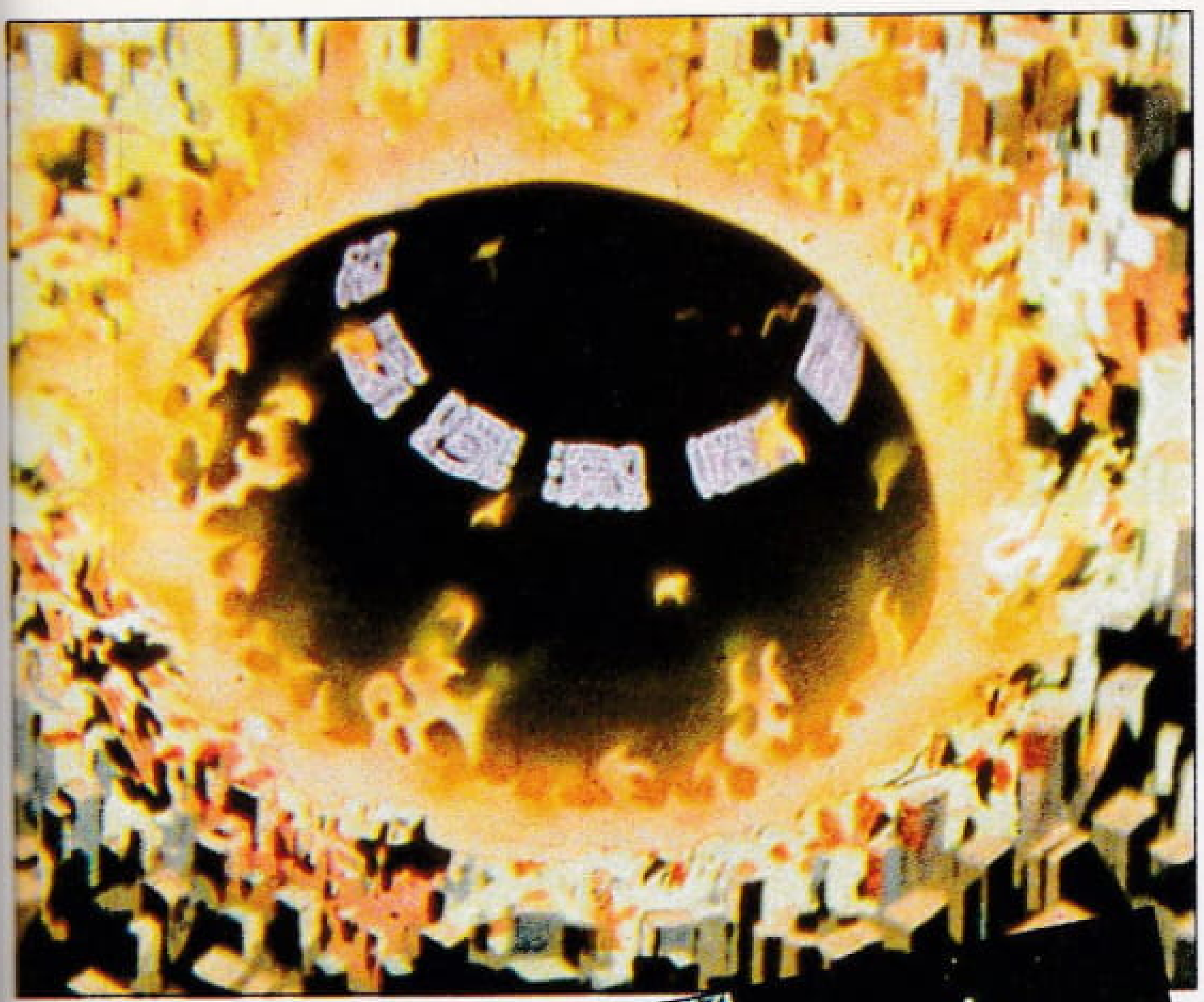
トチローとエメラーダの忘れ形見、まゆは、父の生前の願いどおり、母なる大地ですくすくと成長していた。そんなまゆに、ハーロックは年に一度、必ずどんな危険をも顧みないで会いにくる。まゆの誕生日には、トチローの墓に、必ず二人で訪れる約束なのだ。わが友が愛し続けた地球の大地に立てた仮の墓標の前で、ハーロックは心の中でそっと呟く。

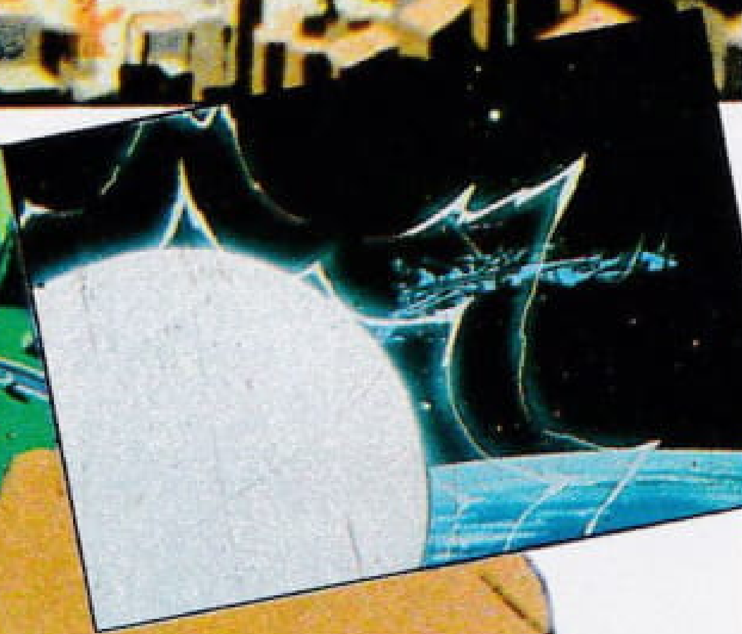
「まゆはもう7才になったぞ……」

夕焼け空に、まゆの吹くオカリナの音がしみわたり、回りは快い静寂に包まれた。

だが、その時突然それを破るものが出現した。切田長官の率いる地球連邦軍の戦車部隊である。

捕われの身となったハーロックは、銃殺寸前の所を無事アルカディア号に救出された。

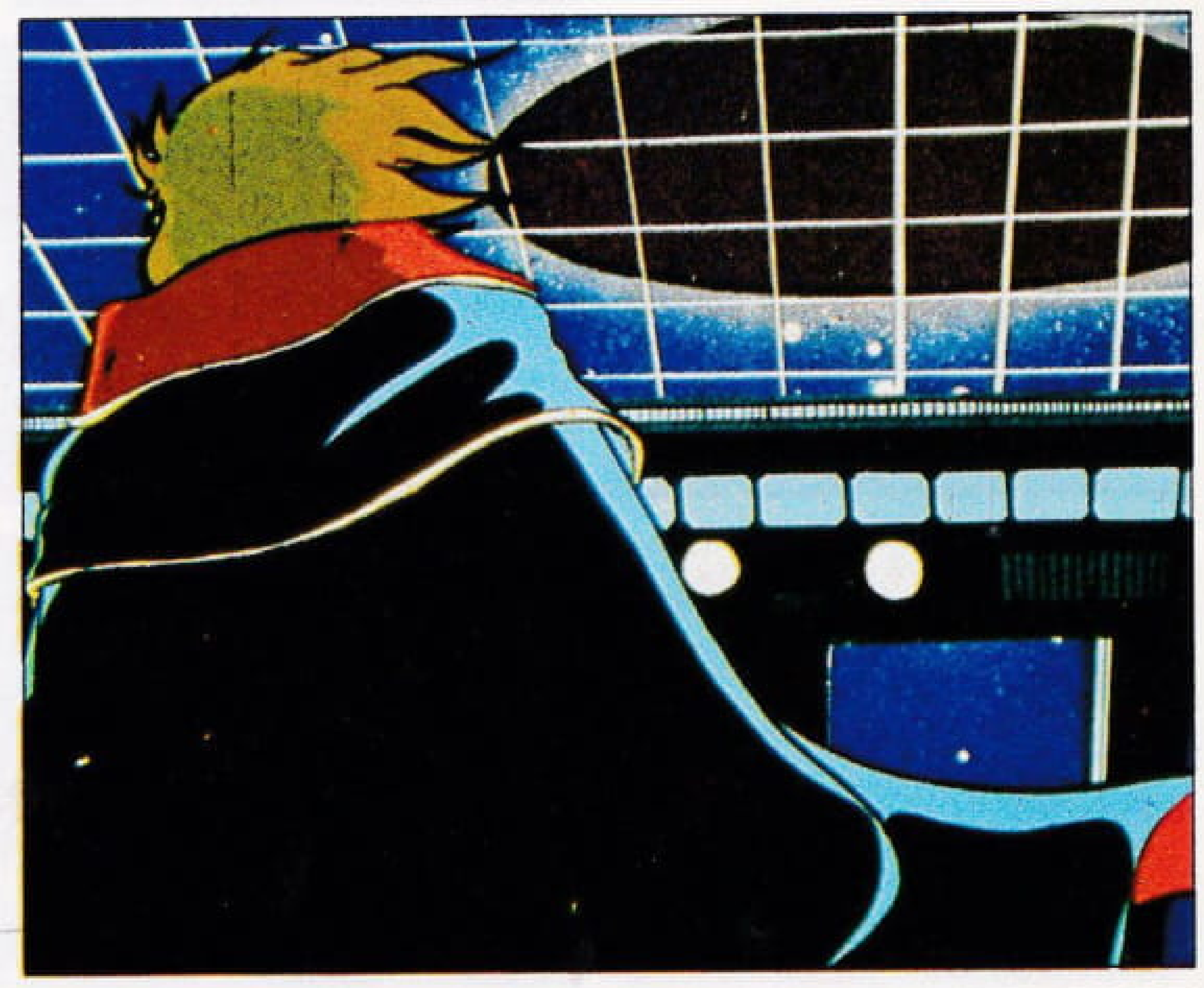
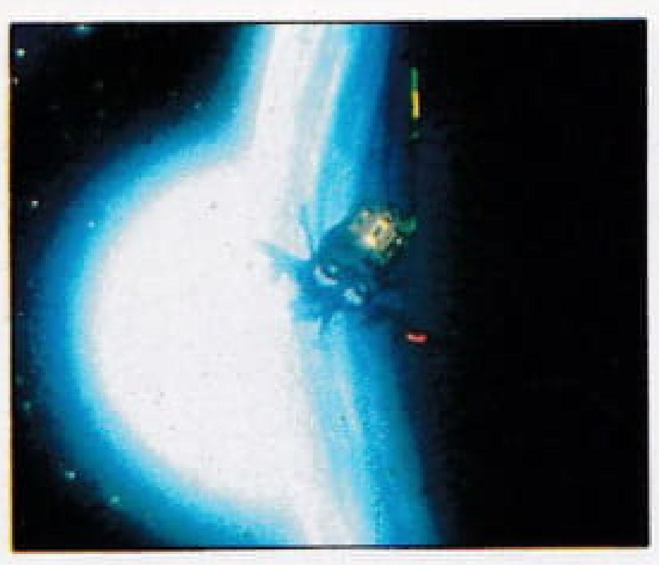


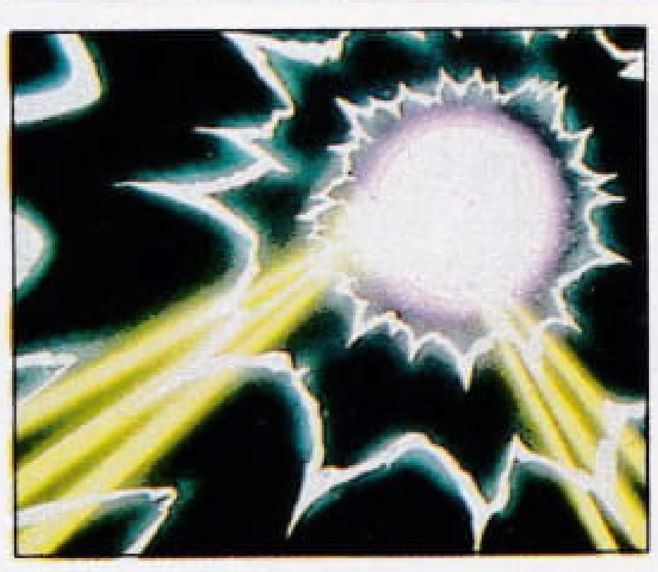



少年の旅立ち

ぼくは自由の旗の下に戦う！

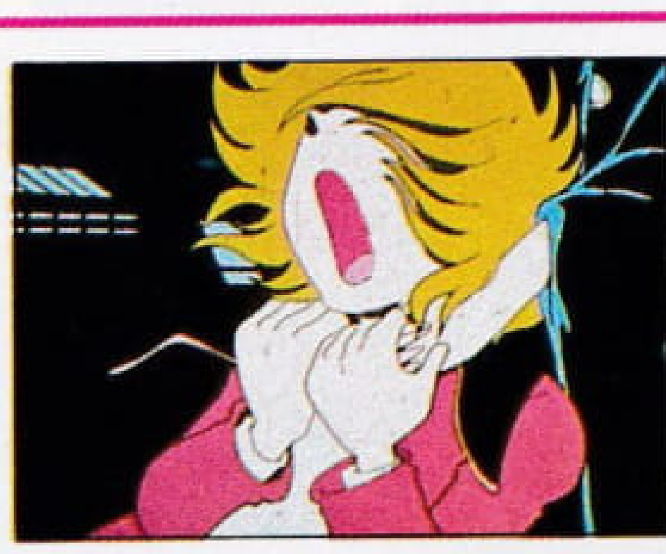
宇宙から突如、謎のペナントが地球に飛来した。以前から宇宙人の地球侵略の予感を抱いていたハーロックは、〝マゾーン〟の侵攻がついに積極的に開始された事に戦慄を覚えた。しかし、この人類史上未曾有の危機に瀕して、真剣にとりくむ者は、地球全人類の中でたった三人しかいなかった。



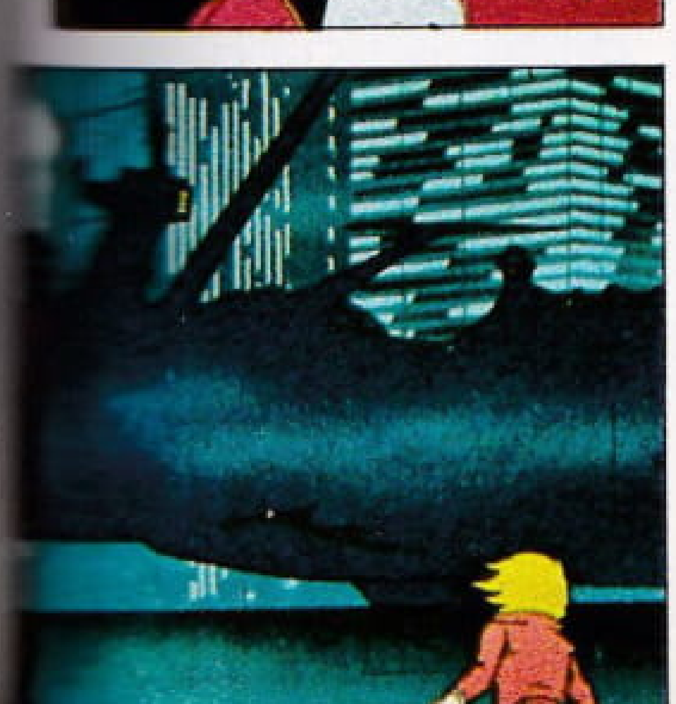
マゾーン地球侵略の唯一の手掛りを摑む、天文学者の台羽博士が殺された。その息子正もまたかけつけたところをマゾーンに襲われるが、黒い影の人物に危うい所を救われる。紙のように燃える女—マゾーンの存在を知り、父の復讐を誓う正だった。運命の3時が正に迫った。



















約束の時刻に無人の宇宙港に行った正を待ち受けていたものは、キャプテンハーロックの海賊戦艦アルカディア号だった。ハーロックは正に乗船を勧める。——悩む正。

その頃台羽博士の親友でもあり、マゾーンの存在を知るもう一人の人物、クスコ教授は、ペナントの文字の解読に成功していた。

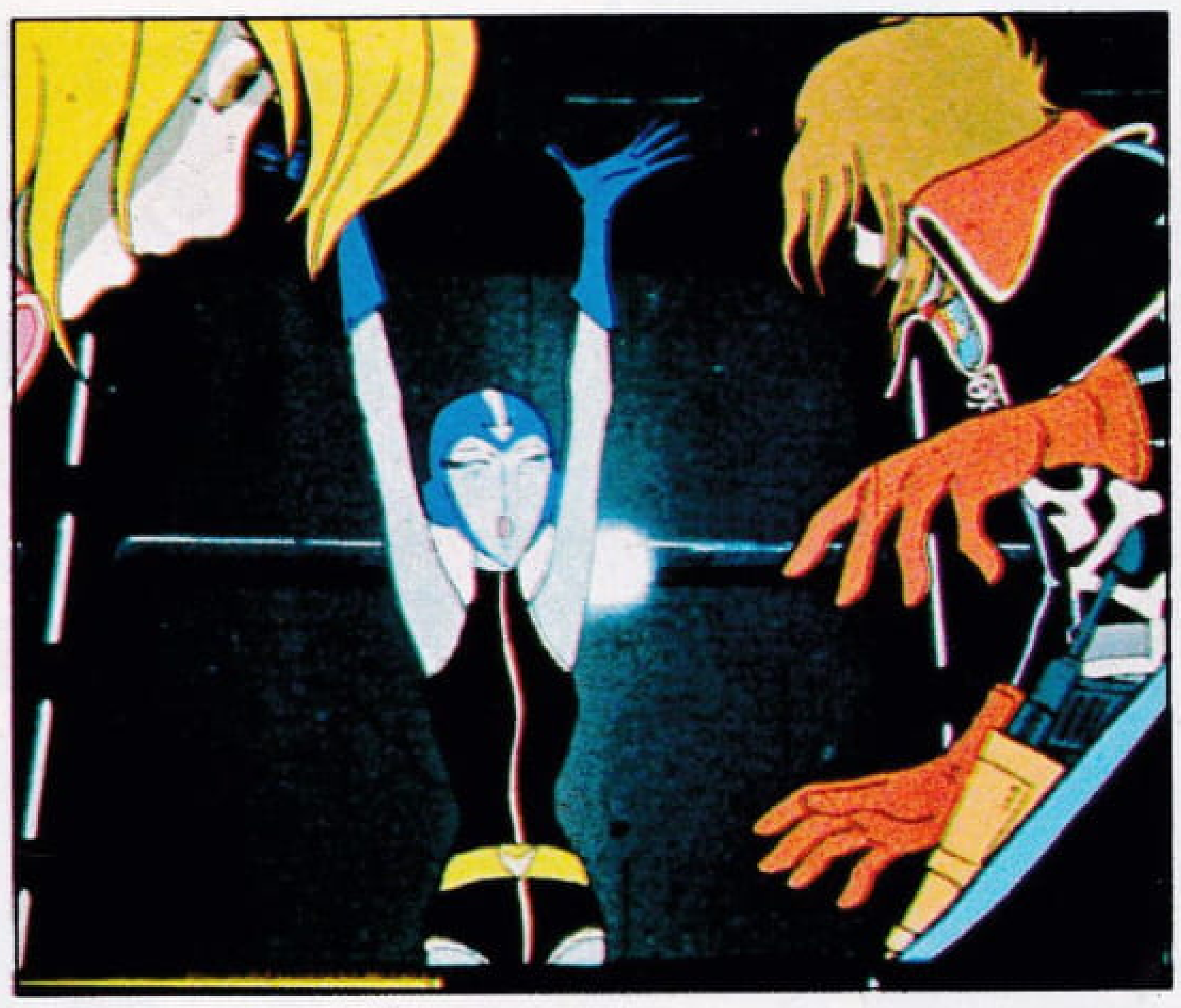
『ここは全能なるマゾーンの第2のふるさとなり』

ペナントにはそう刻まれてあった。しかもペナントは、次元波を絶えず出して、遠い彼方にいる何者かを確実に誘導し続けているのだ！　だが迫りつつある危機を世界に知らせようとしたクスコ教授もまたマゾーンの手にかかる。——台羽正の心は決まった。ぼくは自由の旗の下で、自分の信じるもののために戦うと。

美しき侵略者

ワレハ全能ナリマゾーンノ女王ラフレシア

第5話





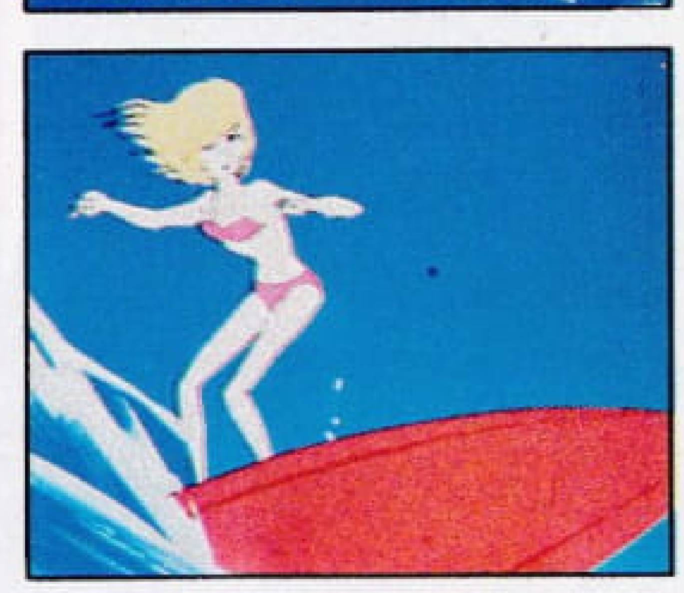
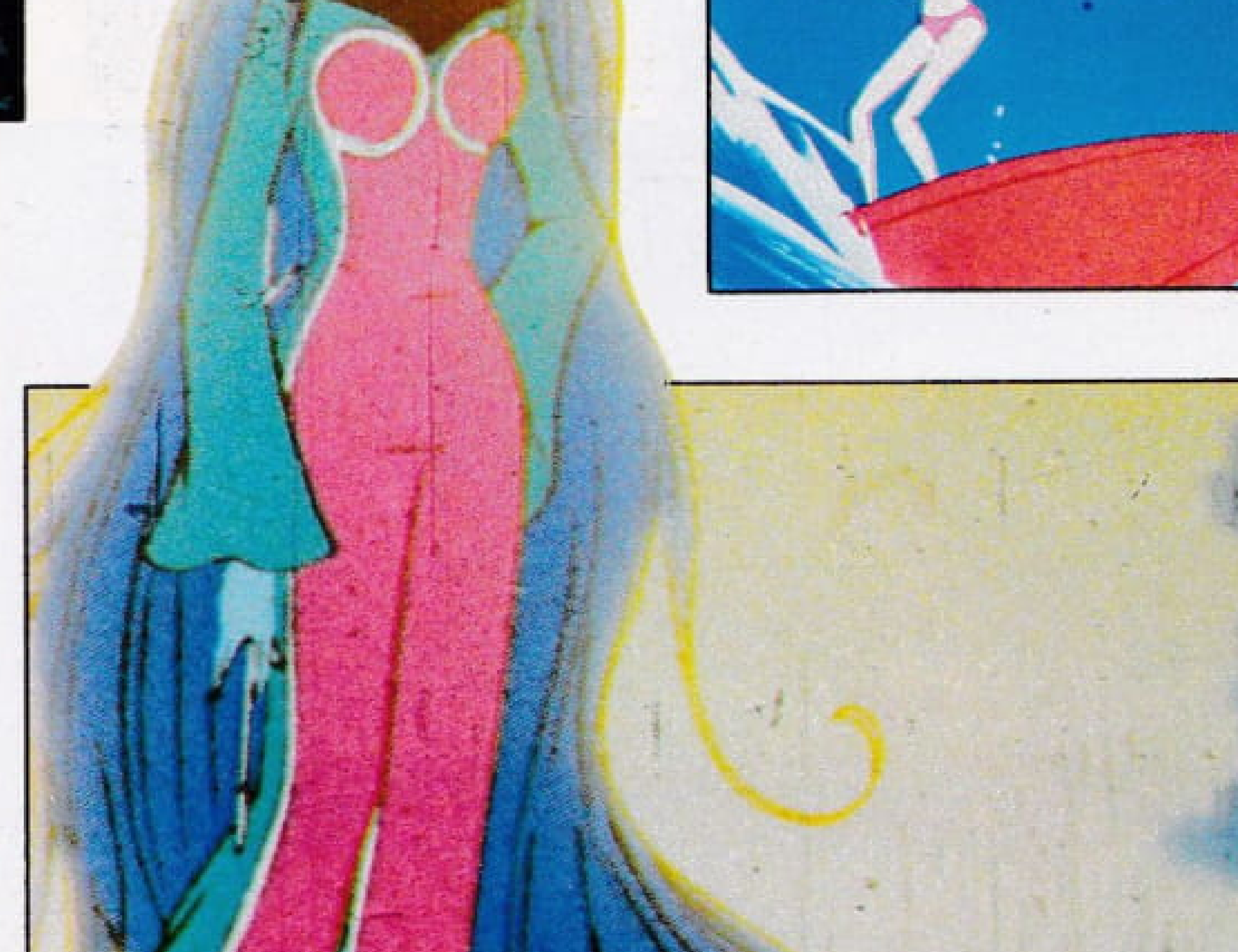
無気力な地球政府に失望し、侵略者と戦うべくアルカディア号に乗りこんだ正は、一時の絶望を吹きとばすほどの艦のすばらしさを少しずつ知っていく。そんな時攻撃したマゾーン戦闘艇の生き残りの兵士の言葉からマゾーンはラフレシアという女王の下に忠誠を誓う恐るべき存在である事がわかった。ハーロックと正は燃える。

第6話



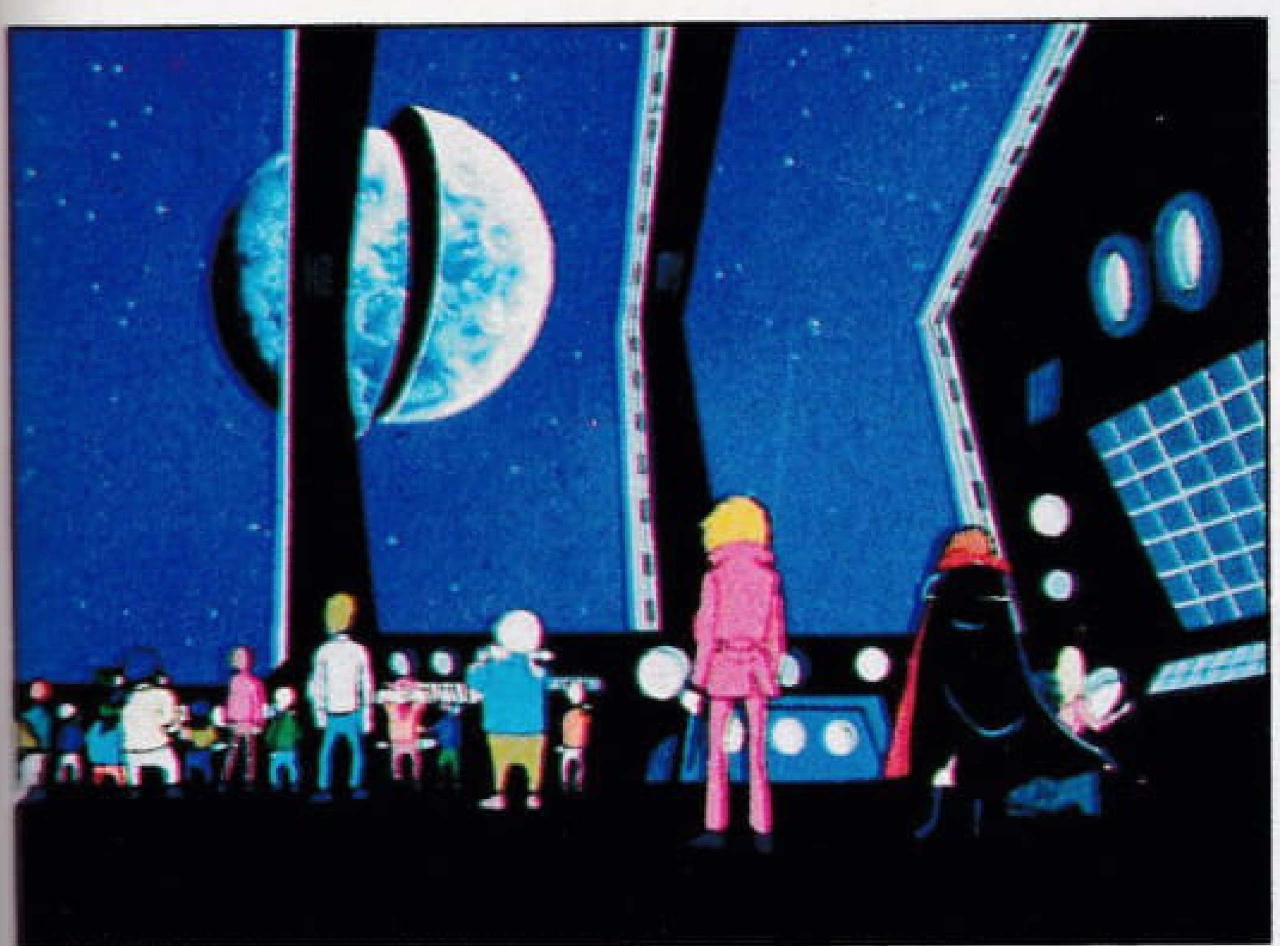




アルカディア号は第1海賊島へ進路を向けた。久し振りにくつろいだ一時を過ごす40人の海賊達。だが、その人工の海に浮かび上がるマゾーンの要塞と、女王ラフレシアの幻影。大胆にも、ラフレシアは自らの姿を送って挑戦してきたのだ!

第7話









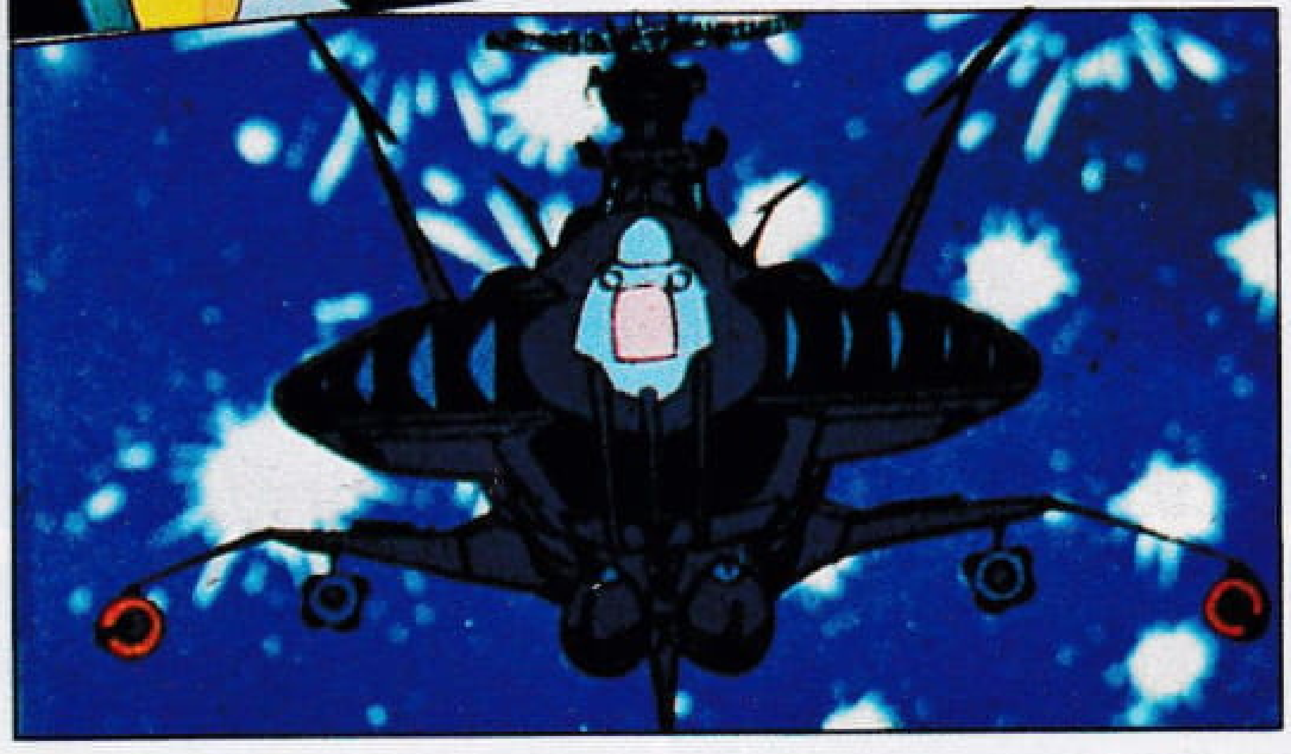


地球がズレて見える!? この奇妙な現象の原因を解明するために、アルカディア号はズレの中心、バミューダ沖、魔の三角海域に潜水調査を開始した。I号重爆雷を落とした海底の底からは、巨大なピラミッドが出現! その中には、カプセルの中で永遠の眠りにつきながら同胞を導く美しきマゾーンがいた。

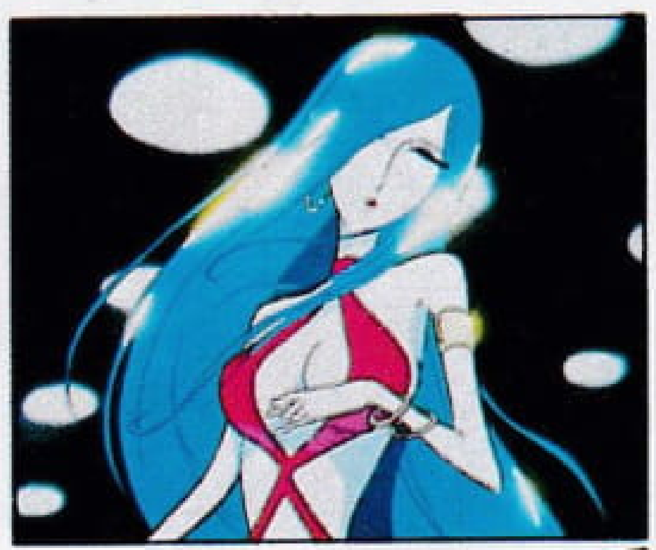
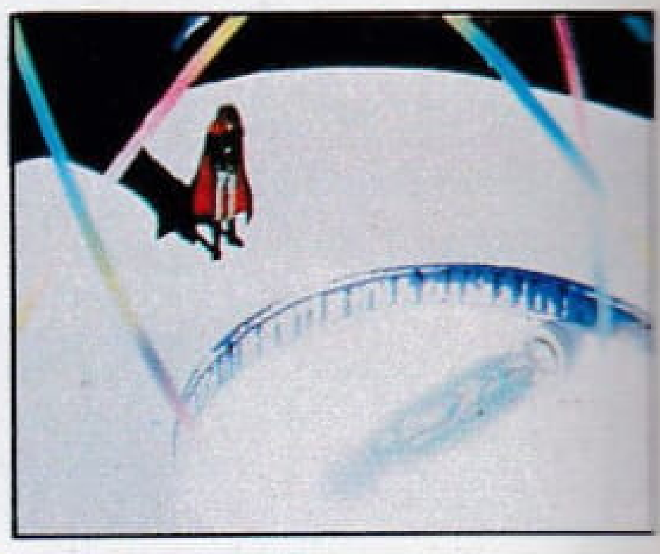
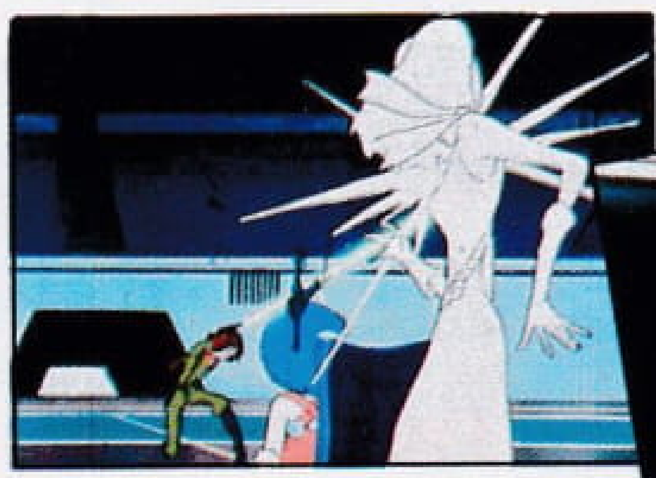
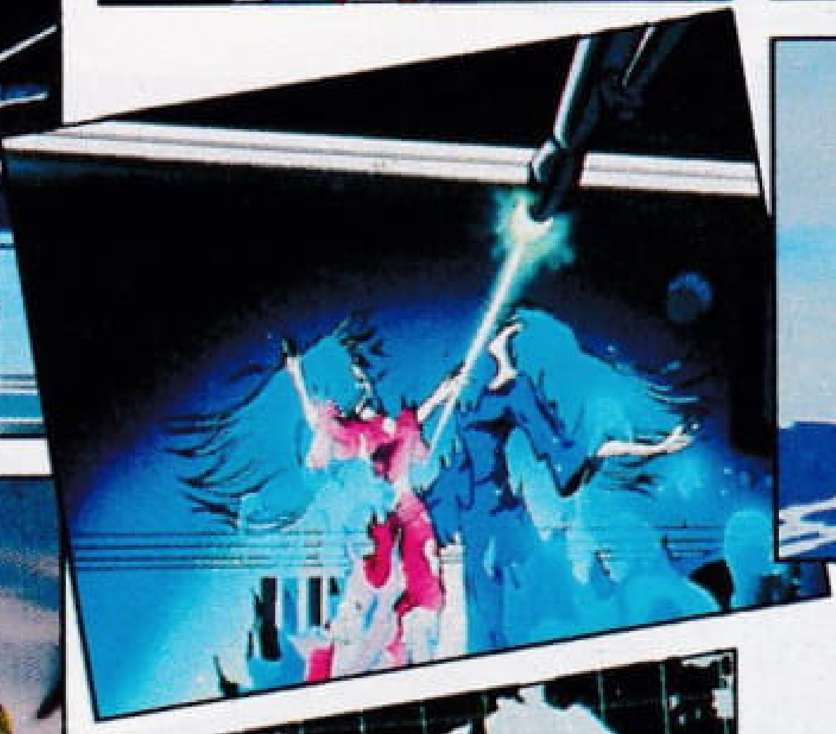
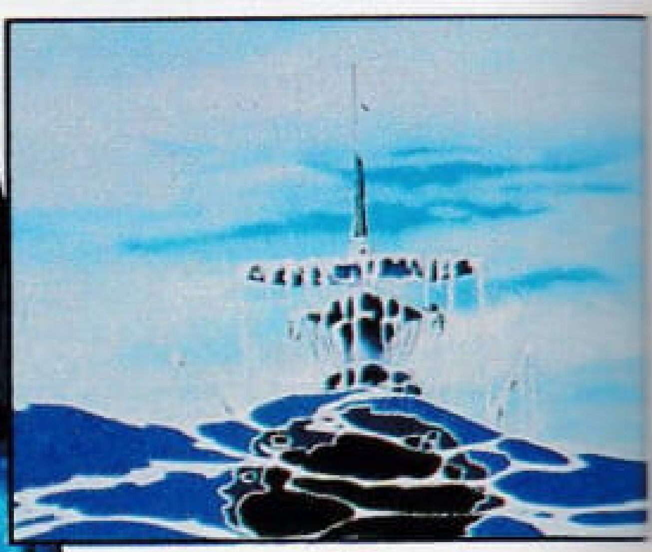


第8話

マゾーンへの復讐の鬼と化した正は、自分の所属をもらしてしまい死に場所を求めてさまようしかないマゾーン高官のボートをおさえ執拗に追いかけて破壊した。だが正の小型宇宙艇もまた……。



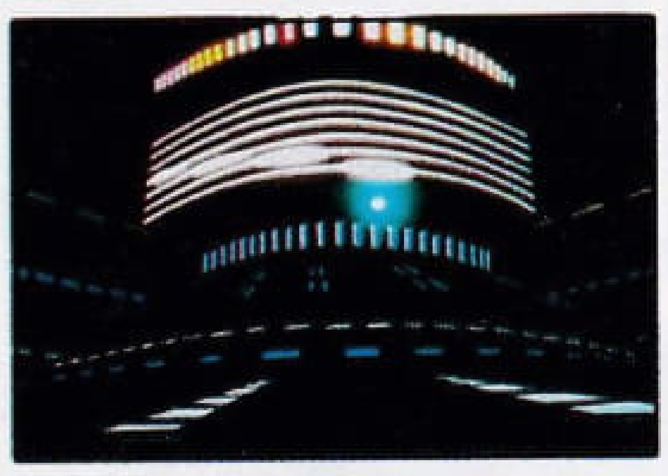









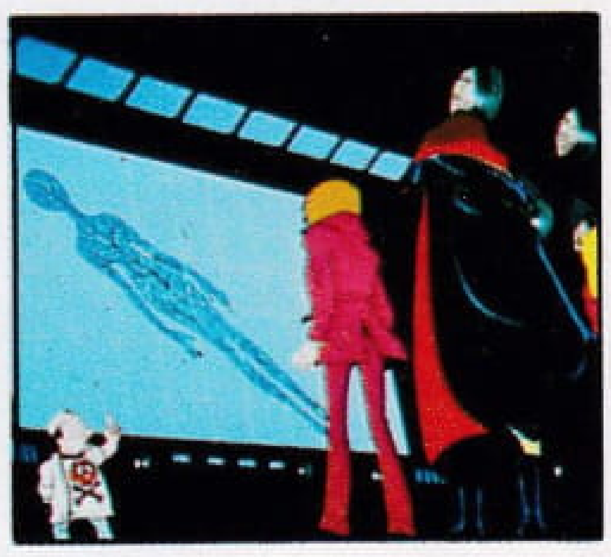



第9話

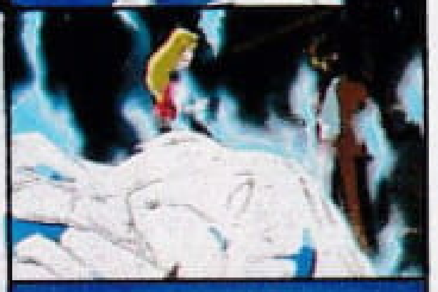
正、螢、ワーワーの三人が、すでにマゾーンの手がのびていた博物館から火炎土器を持ち帰り、中枢コンピューターで分析した結果、そこには恐るべき事実が…。



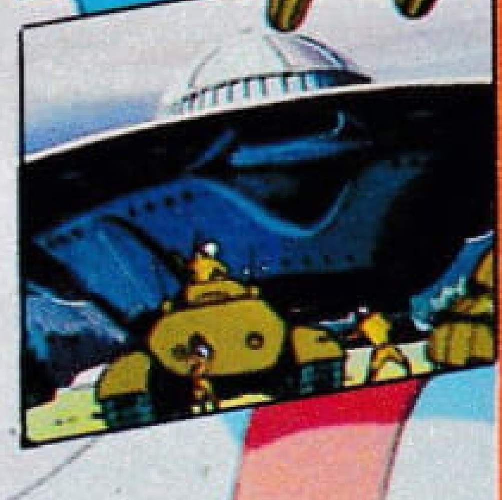
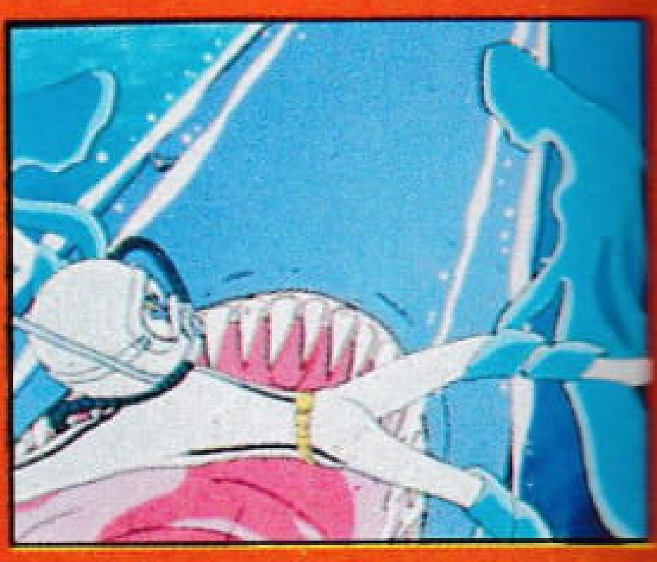
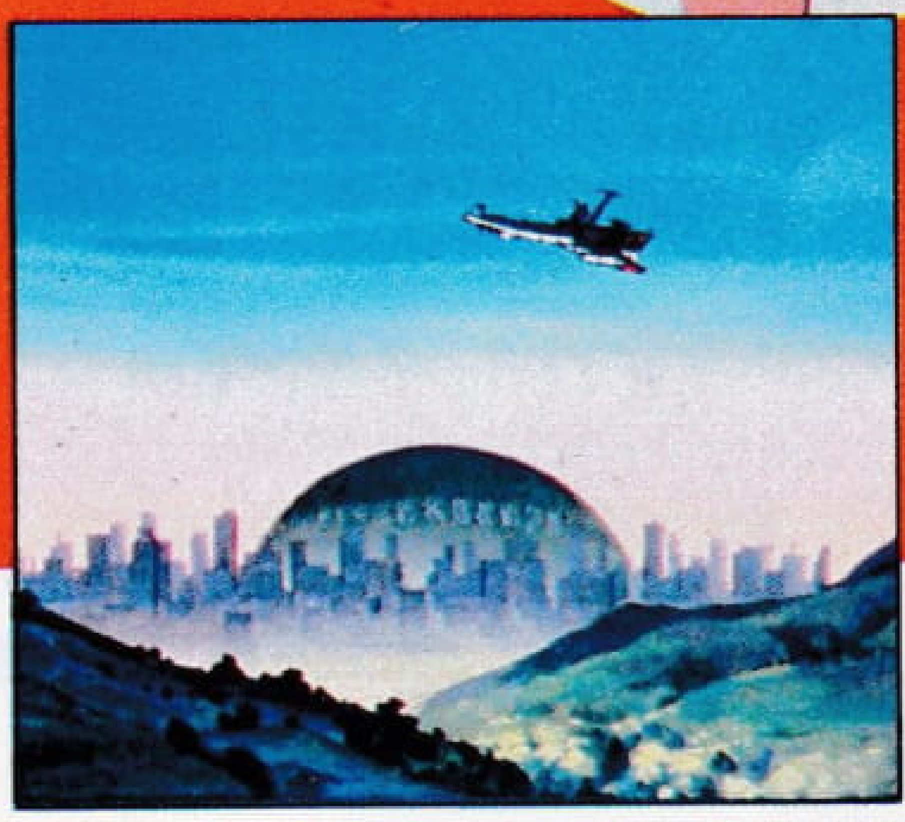
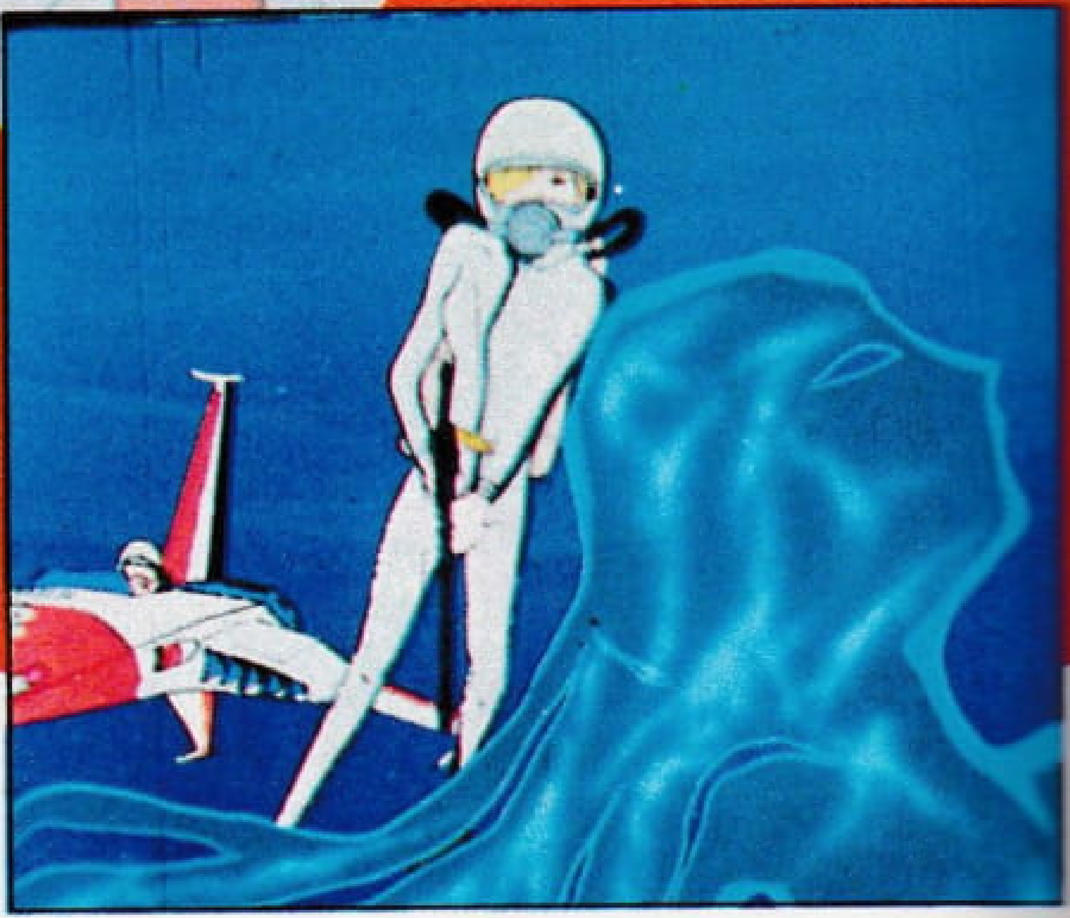






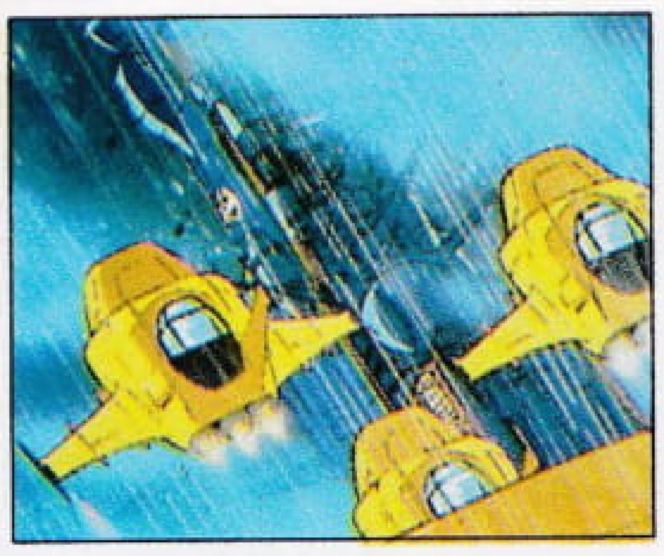


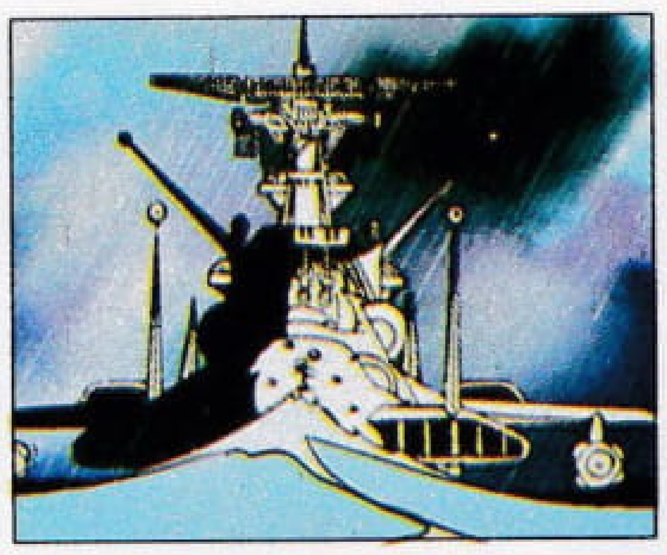






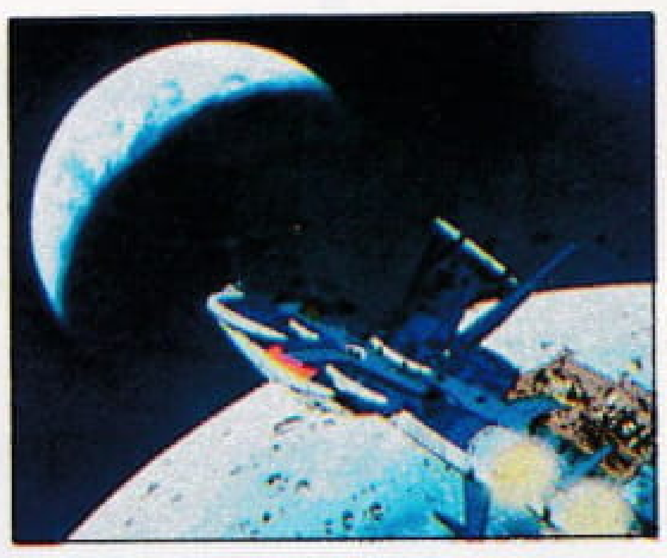
死の海の魔城

恐るべきマゾーンの侵略

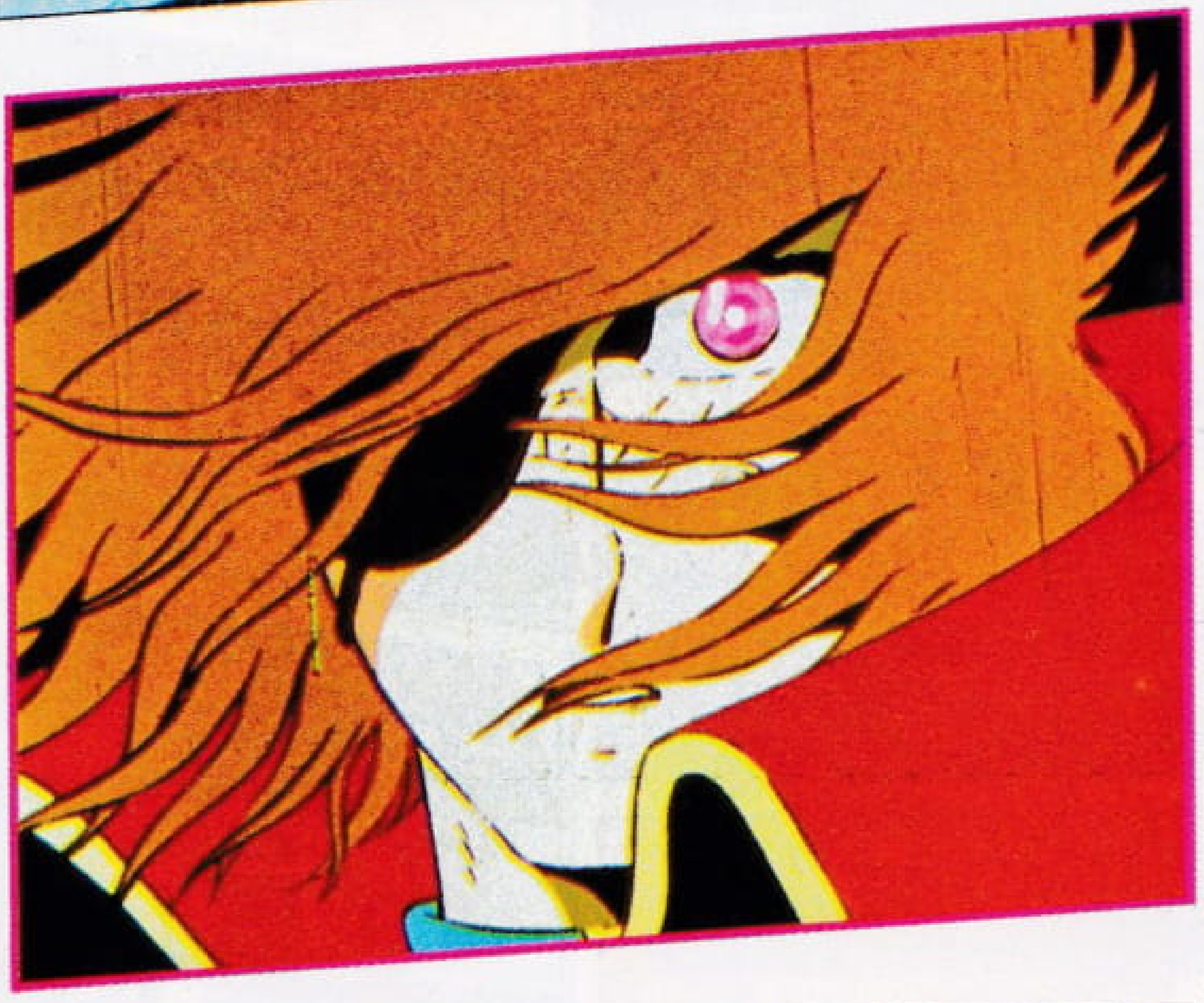






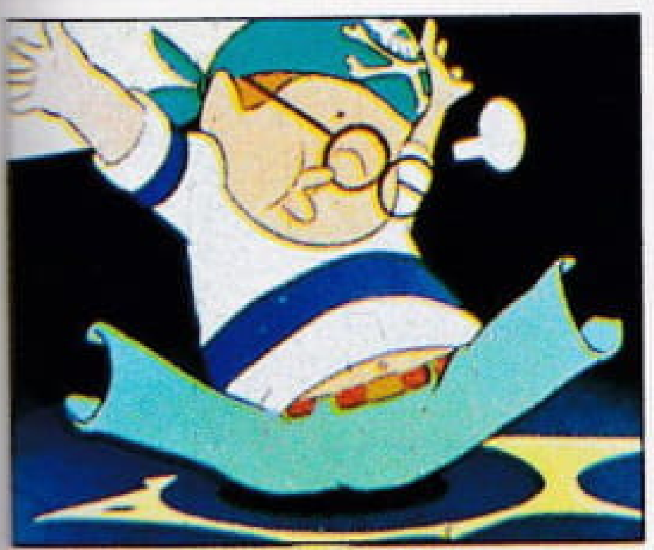


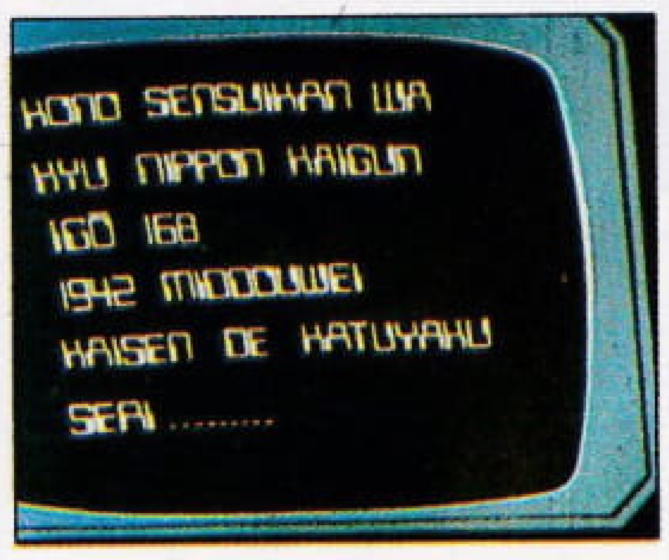


























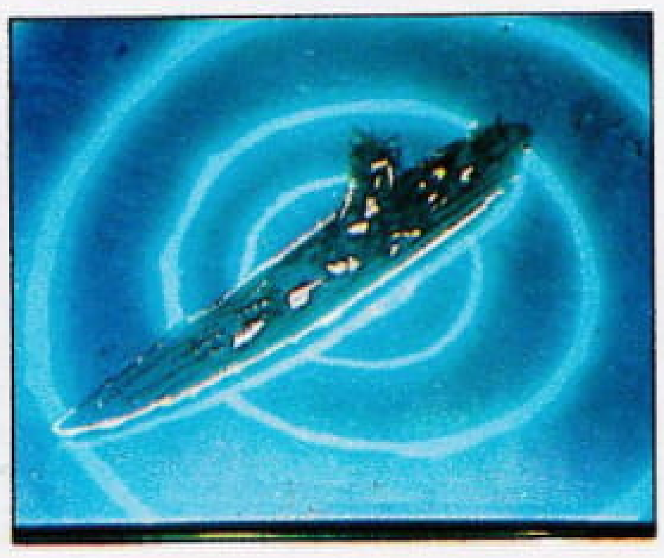


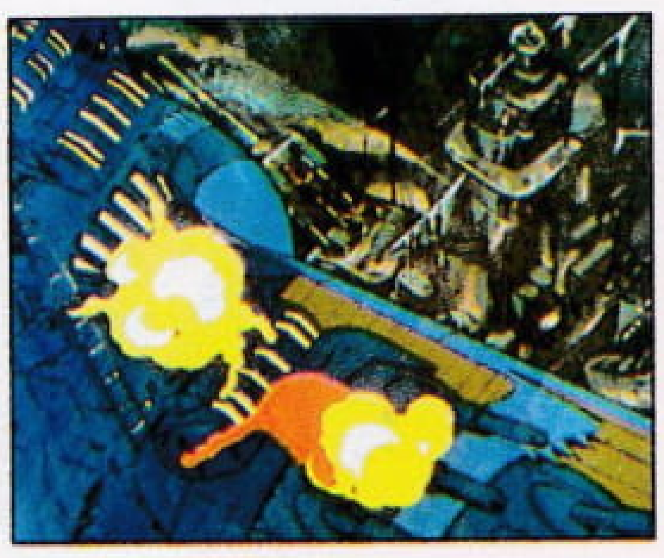


















北大西洋の南アメリカ沿岸。海の墓場といわれているサルガッソ海から、ペナント、海底ピラミットに次ぐ第3の信号が確認された。

サルガッソ海で、赤外線カメラにとらえた伊号の写真に、そういうものが大好きだった友の想い出が、ハーロックの脳裏に蘇る。トリさんも泣いている。しかし今はそれどころではない。切田長官のジェット戦闘隊を追い返し、幽霊戦艦武蔵をパルサーカノンで撃沈したアルカディア号は、問題の信号の発信源―マゾーンの海底ドームに突入した。ドームの中では、睡魔が全員を襲いアマンは勝ち誇ったように笑う。

「ここの一日は、地球上の一年にあたいするのじゃ。ゆっくりと眠るがいい。百年後の地上へもどしてやる。マゾーンが支配する地上へな」

がっくりと膝をついたハーロックはアルカディア号に向かって叫んだ。

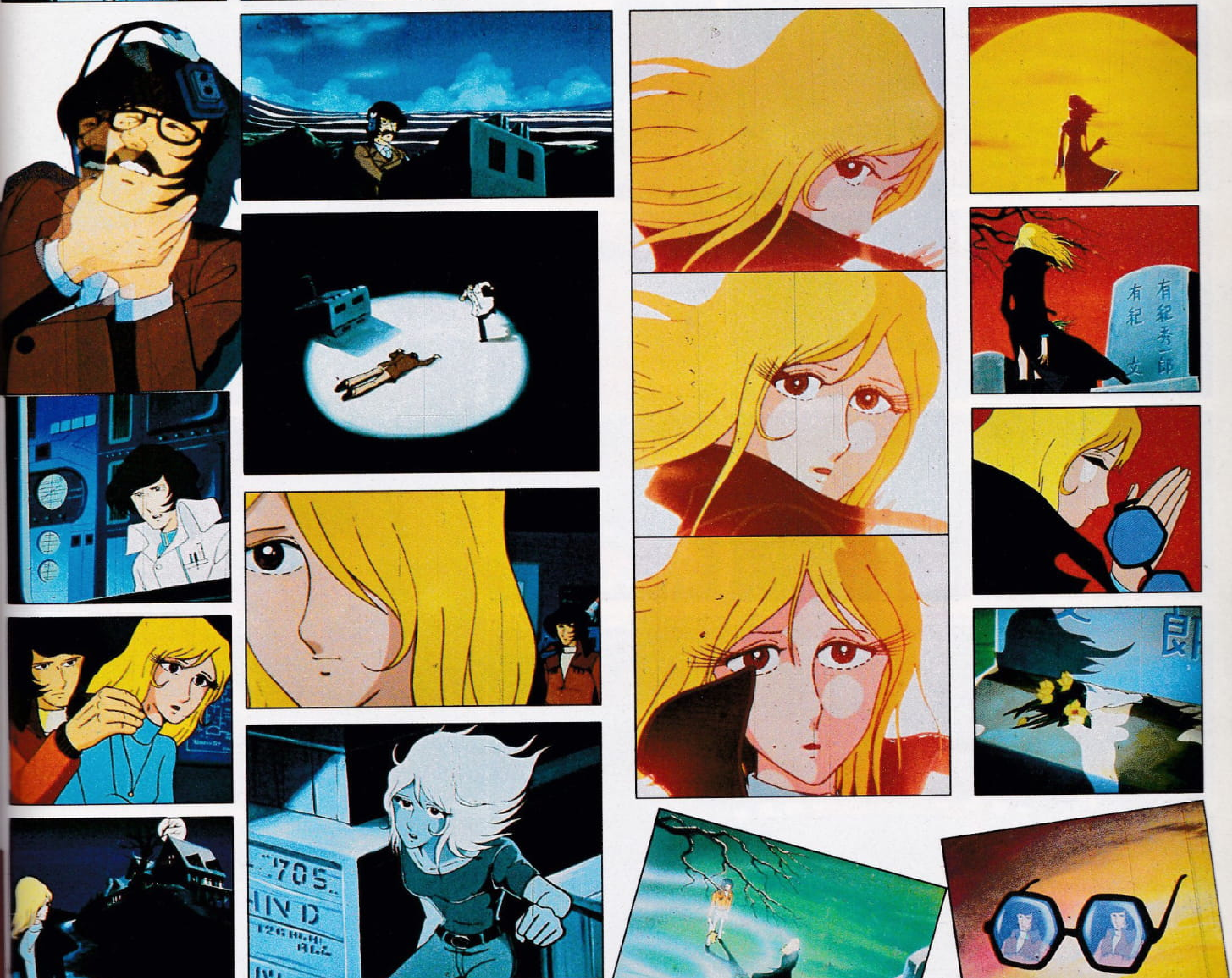
「友よ！」

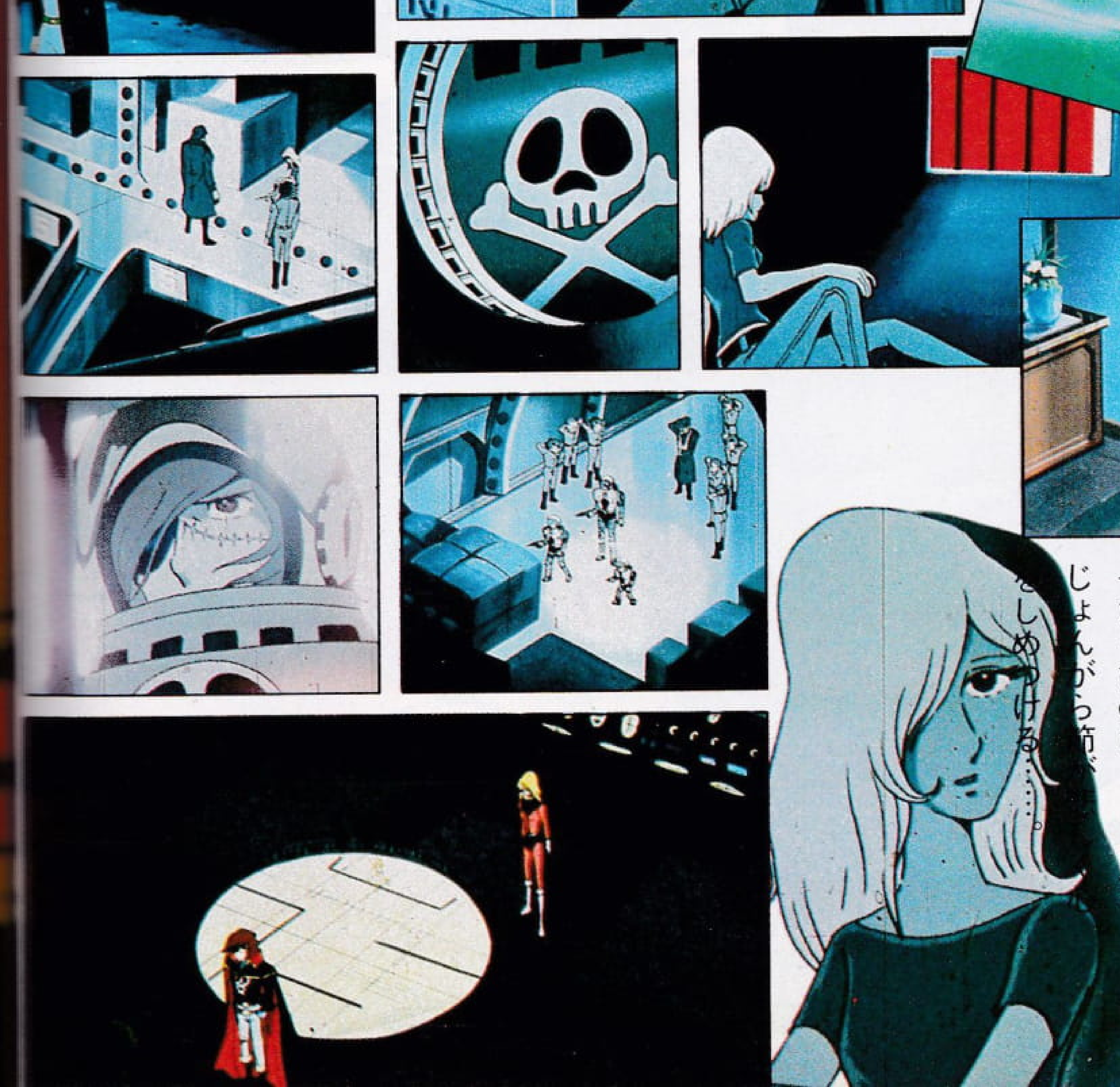





螢・わかれうた

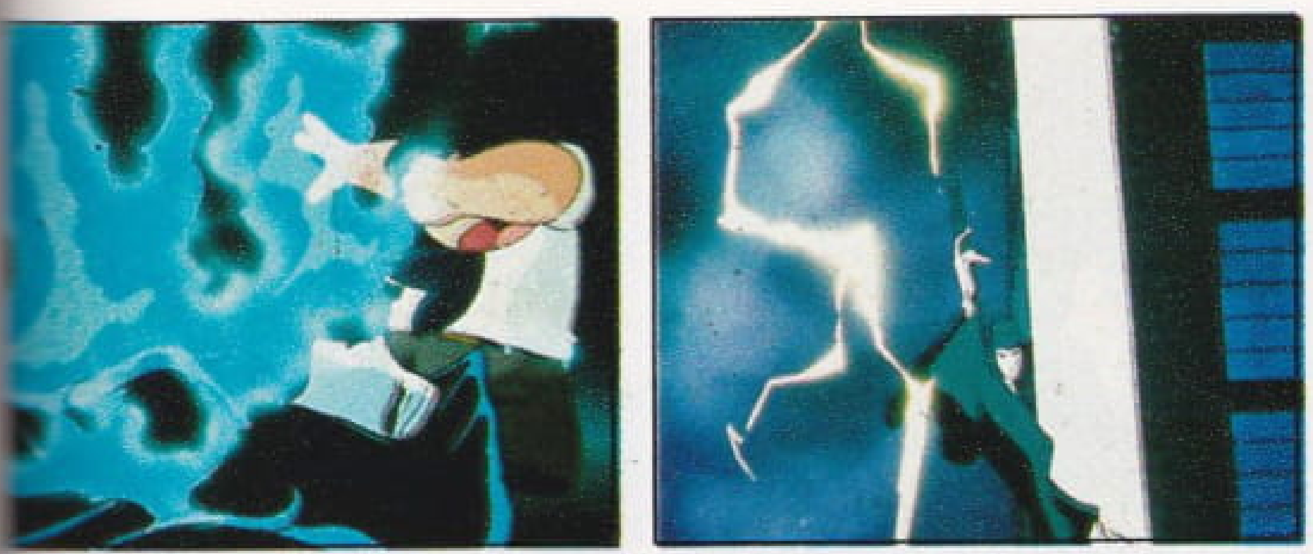
聴いて下さい……別れじょんがら節





アルカディア号唯一の女性乗組員、有紀螢の父有紀博士は、スペースコロニーの実験中に死亡し、その助手であり、螢の婚約者でもあった片桐一也はその責任の全てを有紀博士にかぶせた。数年ぶりで両親の墓参りにきた螢はそこで一也に出会う。一也は過去の事を非常に後悔し、螢を愛しているという。しかし一也はマゾーンと切田の二重スパイだったのだ。――別れじょんがら節がをしめつける……。





魔地・鎮魂曲（レクイエム）

**俺は知った～人の心をもてあそぶ恐るべき
マゾーンの存在を～山中艦長、許してくれ**





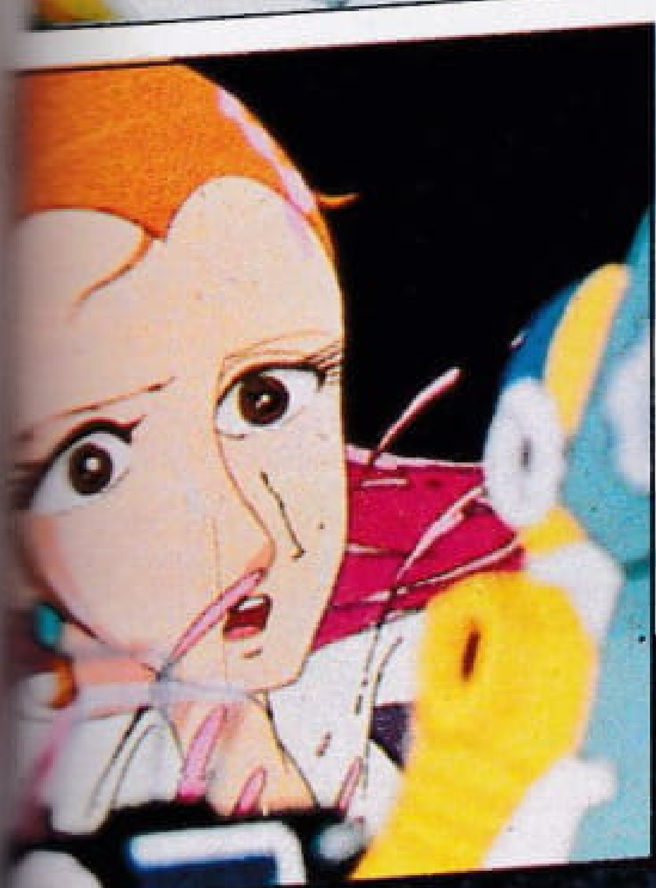
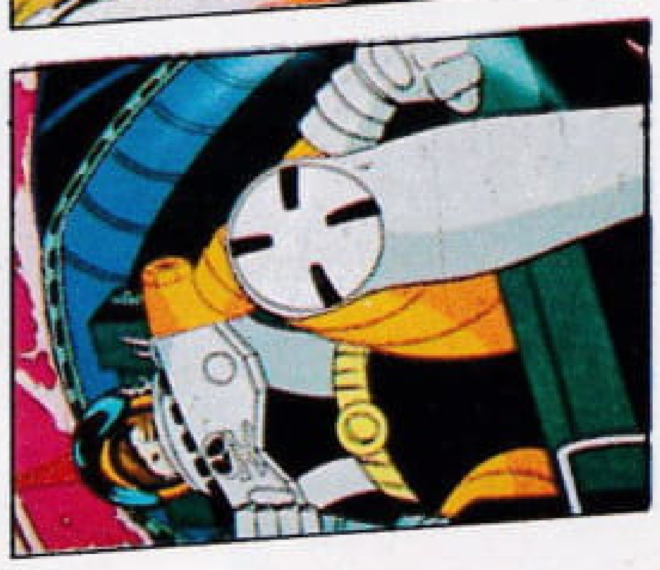
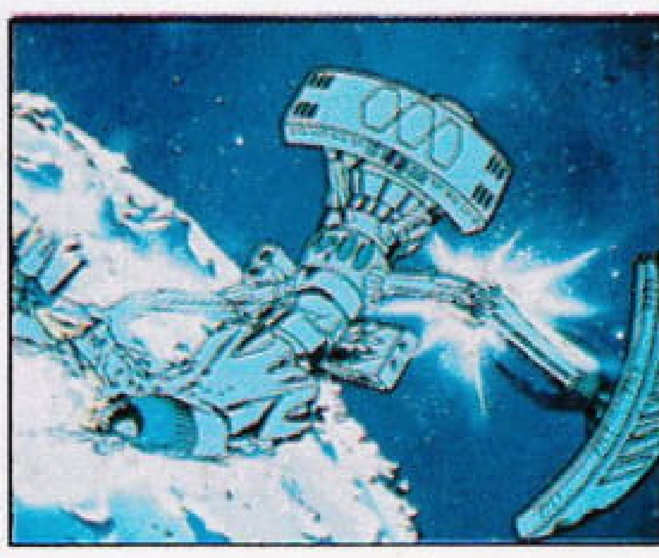


[illegible]機関長には、子供好きという意外な側面がある。実はそこに魔地がアルカディア号の一員となるきっかけになった悲しい過去があるのだ。魔地はかつて地球連邦の旗艦ブレーブス号の機関長であり、アルカディア号とは何度か宇宙で戦った事もあった。いつも敵ながらアルカディア号の性能のすばらしさ、指揮の見事さには、ブレーブス号の艦長、山中と共に認めざるえないところだった。やがて美しい妻と可愛い娘に恵まれ、山中艦長という尊敬する人の艦を動かせるこの時の魔地はそれだった。ところがある夜、魔地はそれらの全てを失う事になってしまうのだ。——そして悲劇はここに甦った。それは、白骨と化した山中艦長と、成長した娘との再会であった。

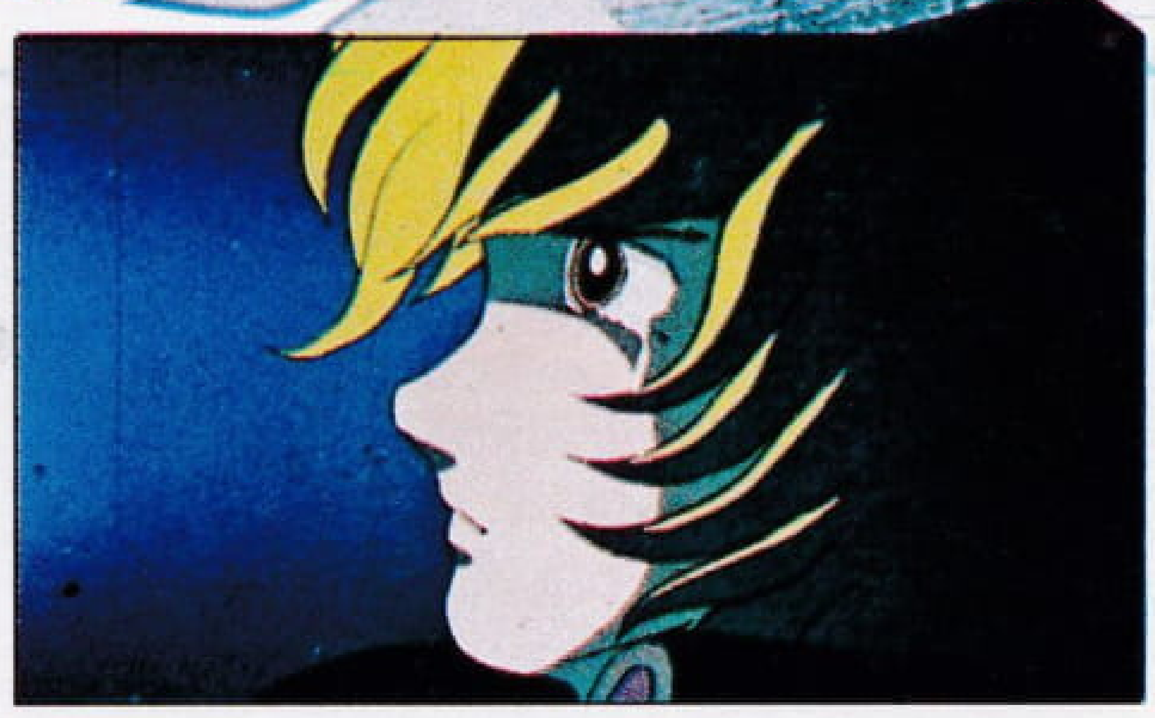
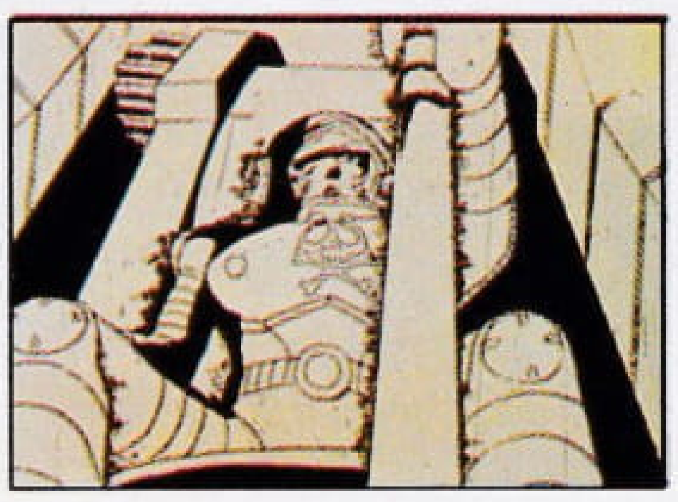
戦火の中の過去の夢





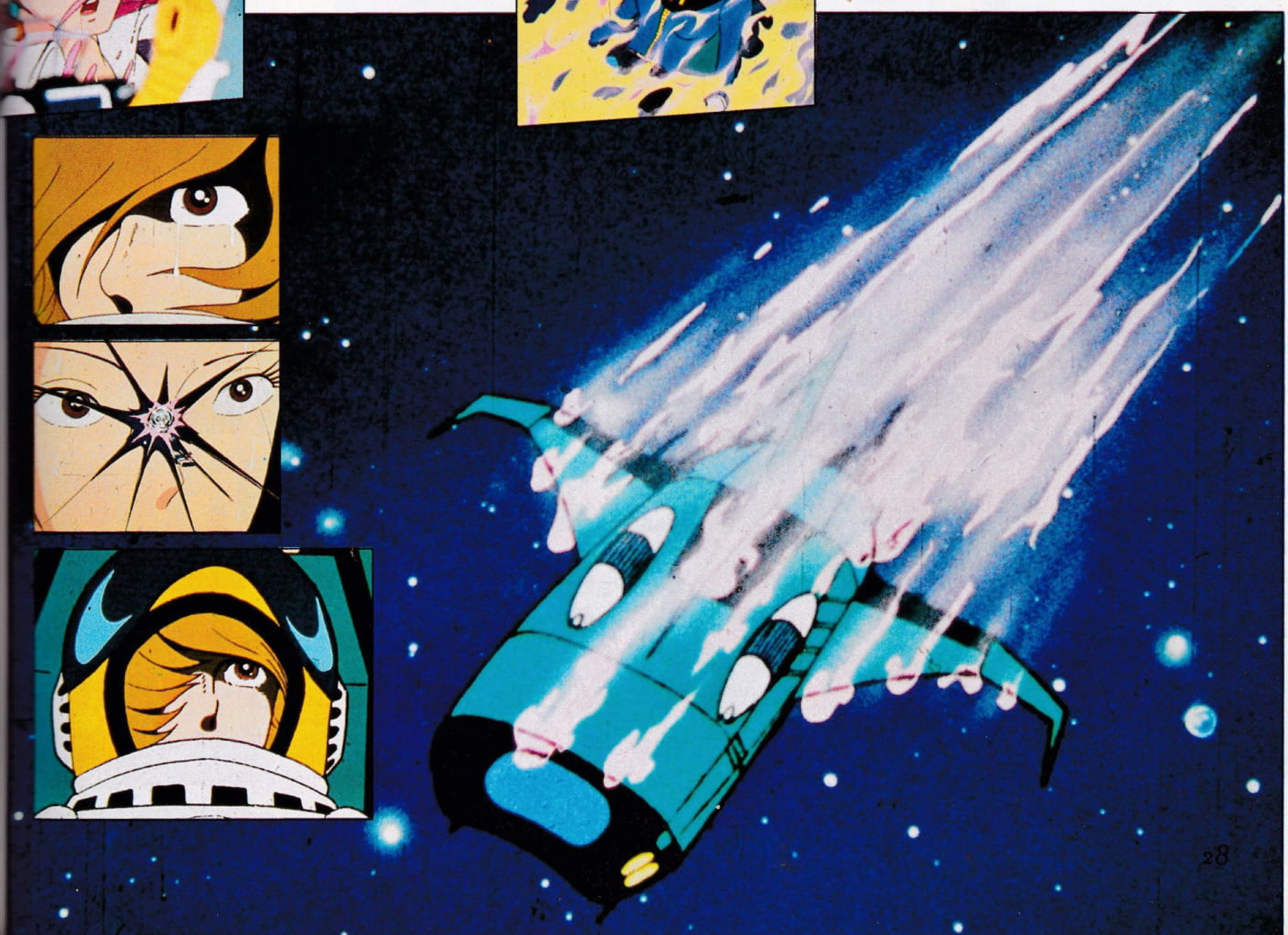





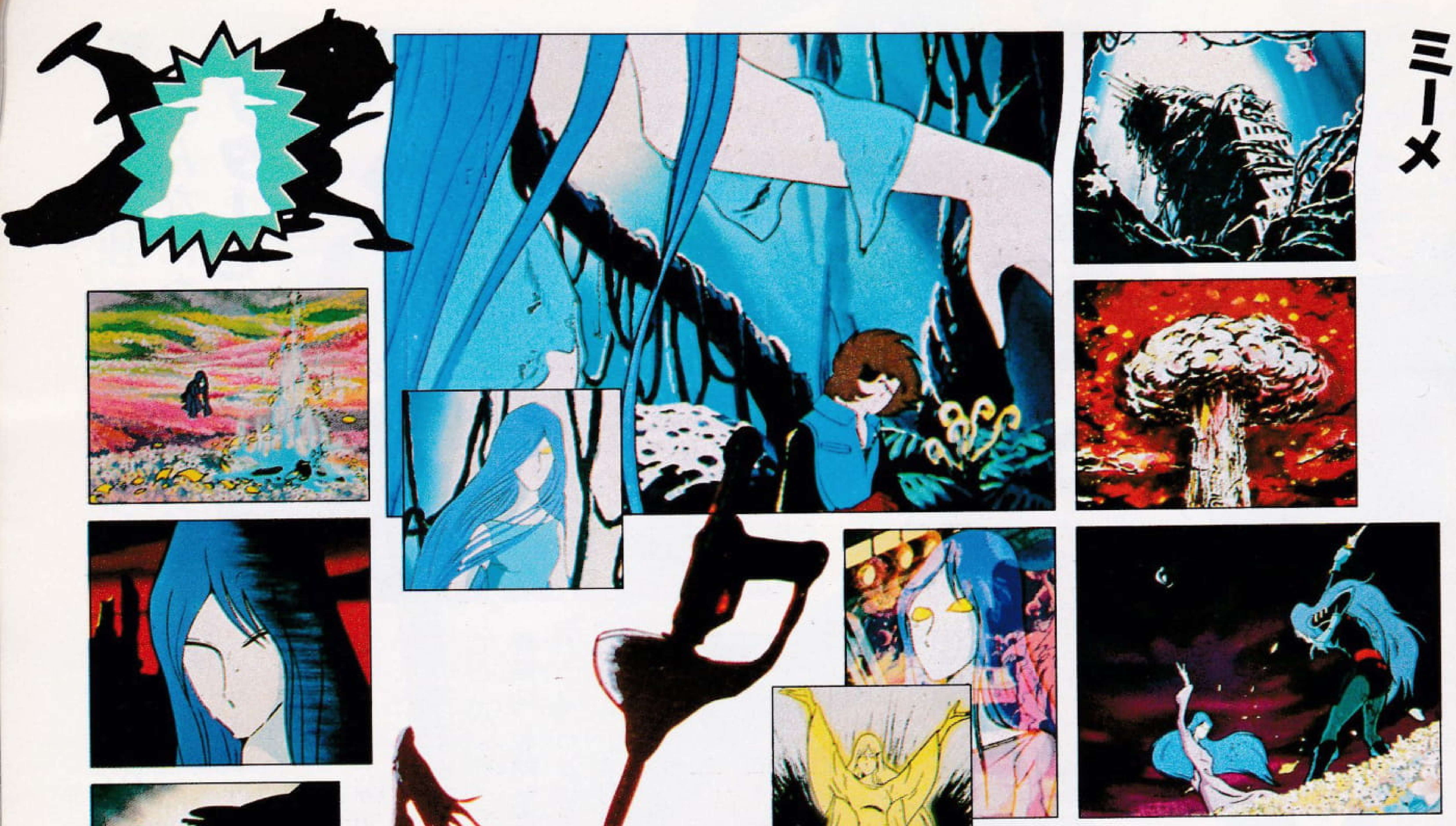

台羽正……母さん

惑星の大気分析家だった台羽正の母は、彼が12才の時に事故で死んだ。そして今またさらに父がマゾーンに殺された。彼のマゾーンへの憎しみの表現は、堕落しきった地球人への怒りをも含みこんでいるのだろう。そんな彼の心をマゾーンはもて遊ぶ。母の幻影を理用する恐るべきマゾーン・ローラ。母の幻影を越えた時、台羽正は胸の中に生き続ける真の母の姿を見た……。

10、11、12話



ミーメ

ミーメにはよくわかる……たったひとり、
どんなに悲しい寂しいことか……

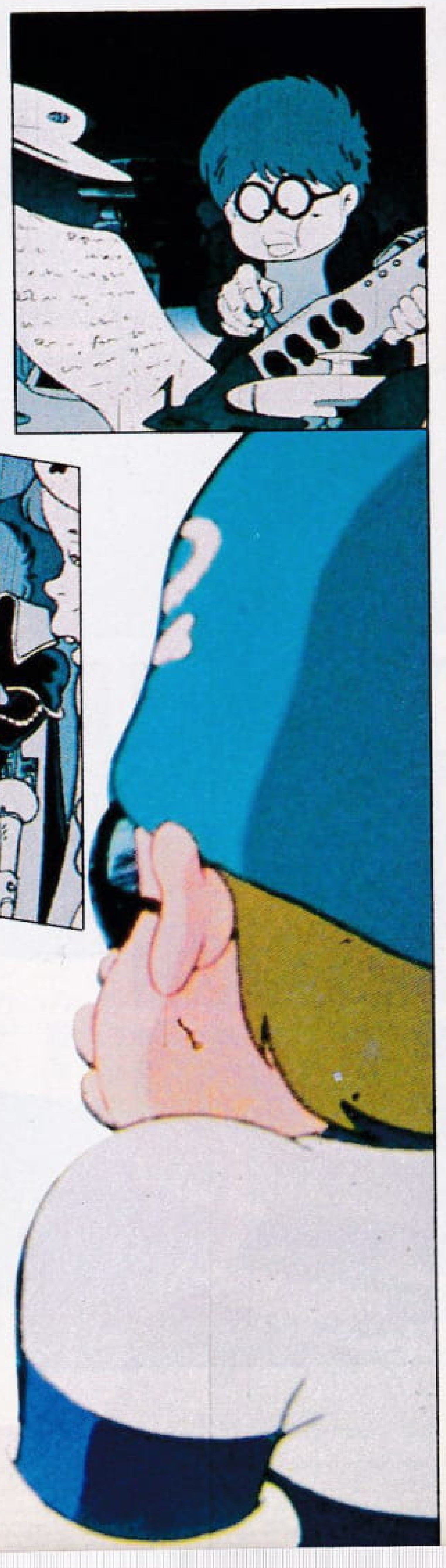


「ジュラ星人ハ今ノ地球人ト同ジク、正義ヲ忘レ無気力ト化シ、ソノ上、愚カニモ核戦争ヲ始メテシマッタ。
恐シイノハソレダケデハナカッタ。核分裂ノタメ、植物が意志ヲ持チ始メ、巨大化シテ襲イカカッテキタ。
ジュラ人ハ、モウ私一人シカイナイノダ」

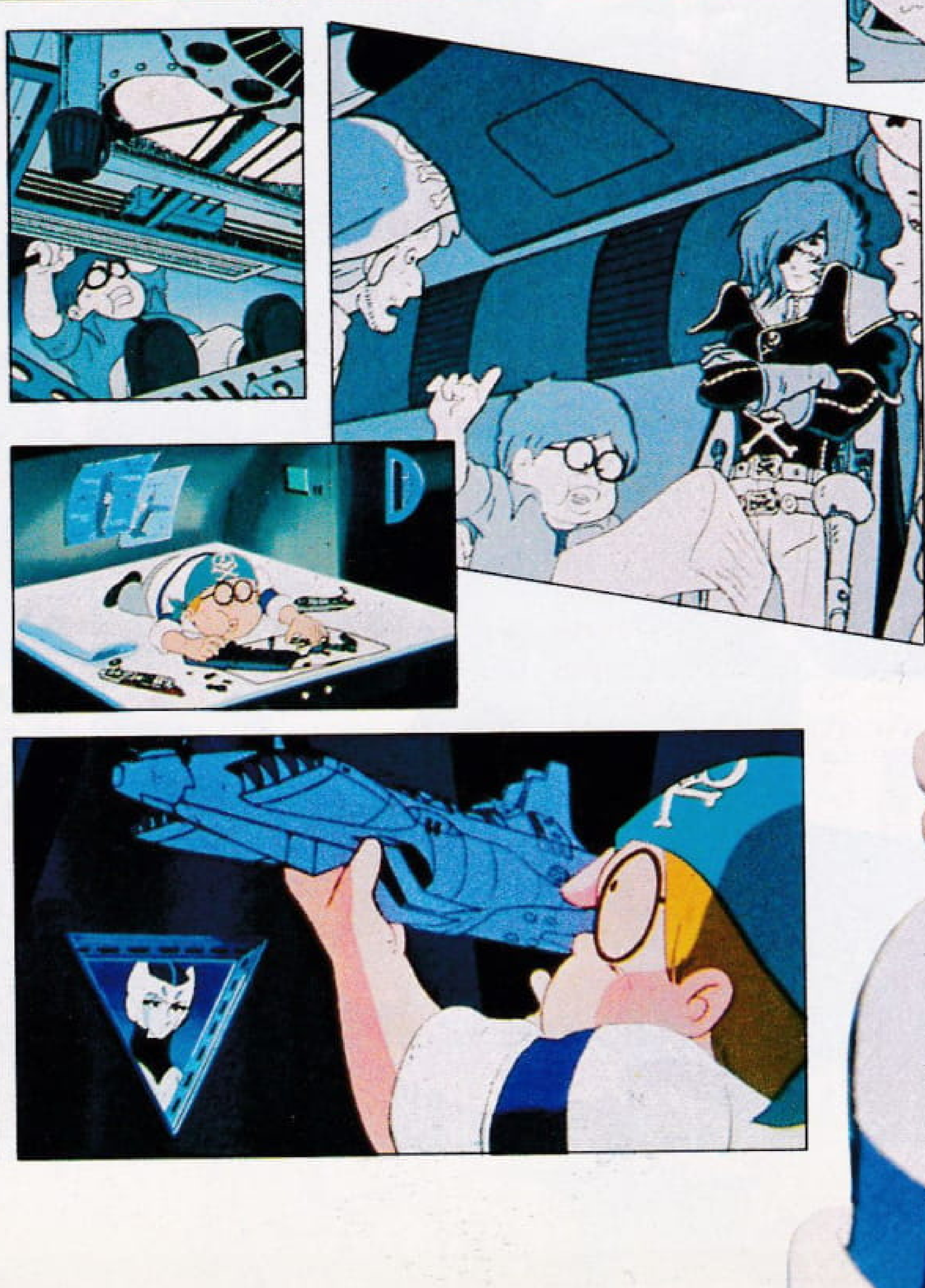
ヤッタラン副長

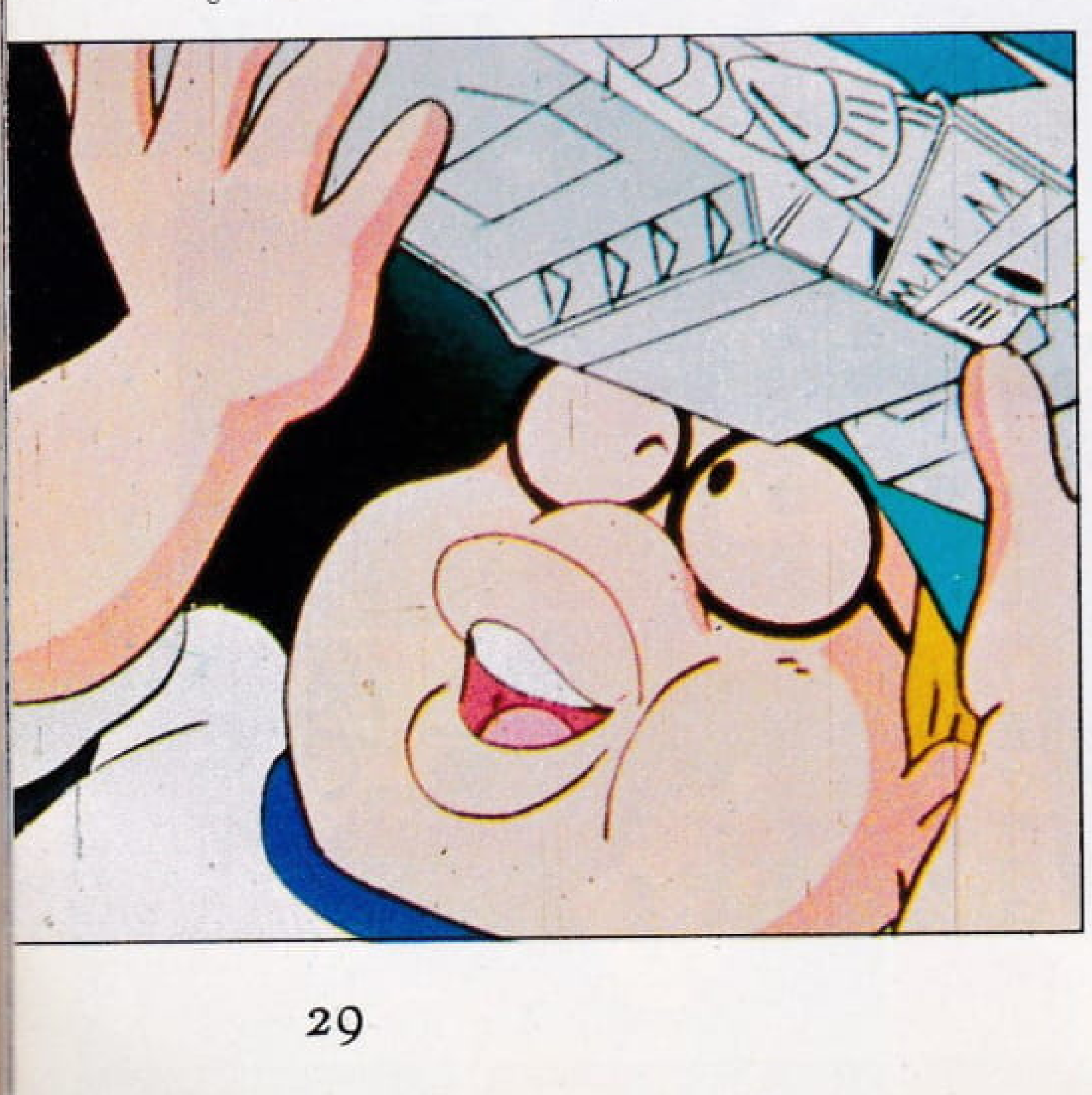
あの時、この位のが作れたらなあ……



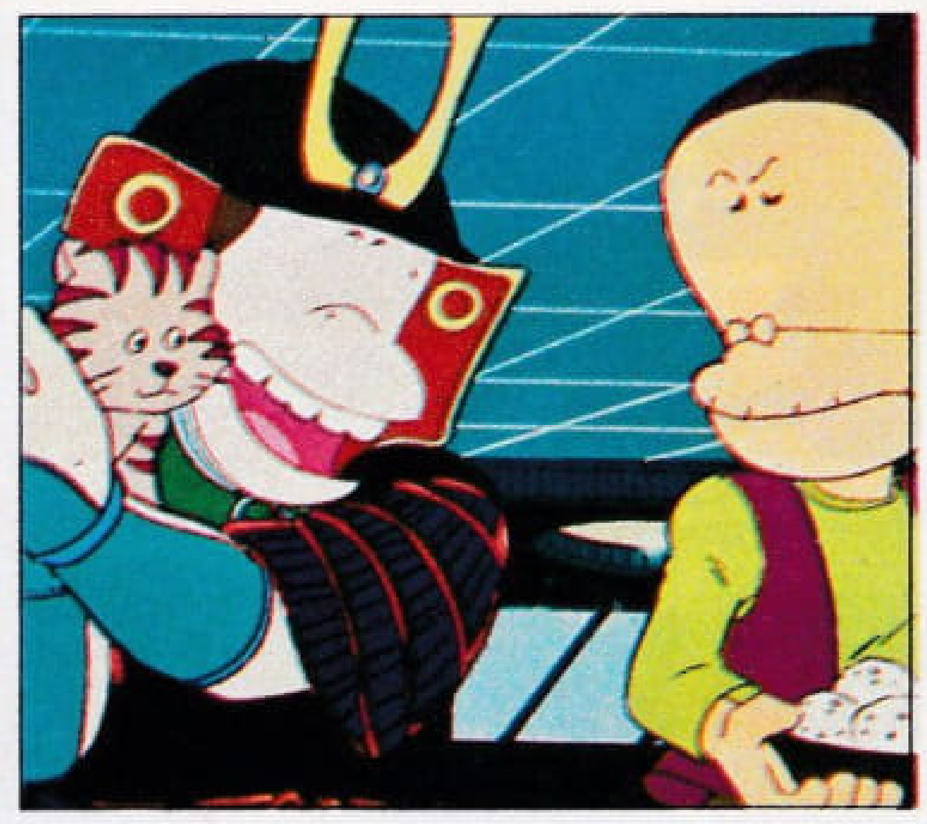


既に小学生にして微分積分を解くほどの神童だったといわれ、とにかく小さな頃から部屋に閉じこもってプラモばかり作っていたのは今も昔も変わらない。高校2年の秋、失恋が原因で家出。アルカディア号が故障した時、通りかかってこれを簡単に修理してしまった。







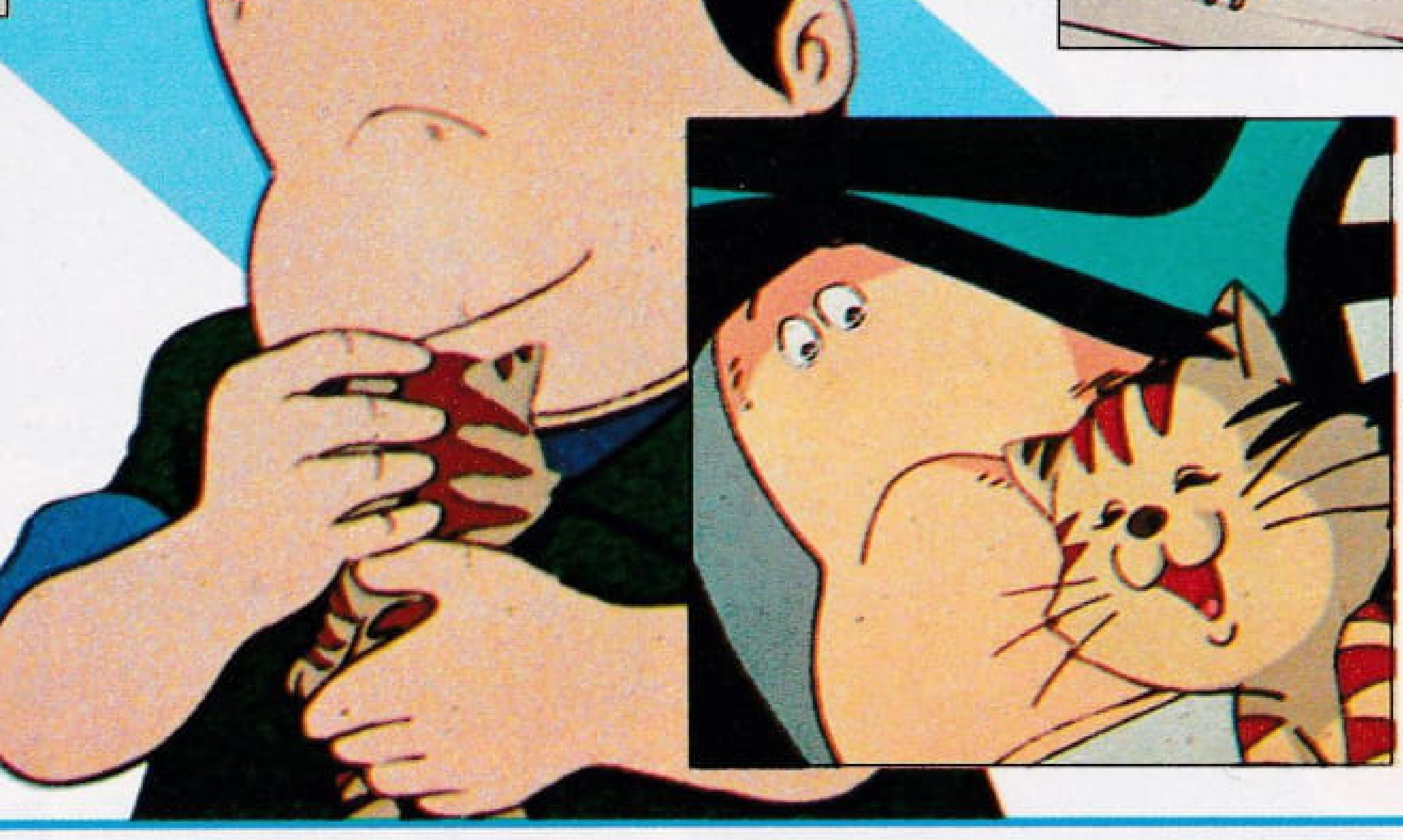


■天涯孤独なワシにとって、ミーくんはどんなになぐさめになったか……

ドクターゼロ







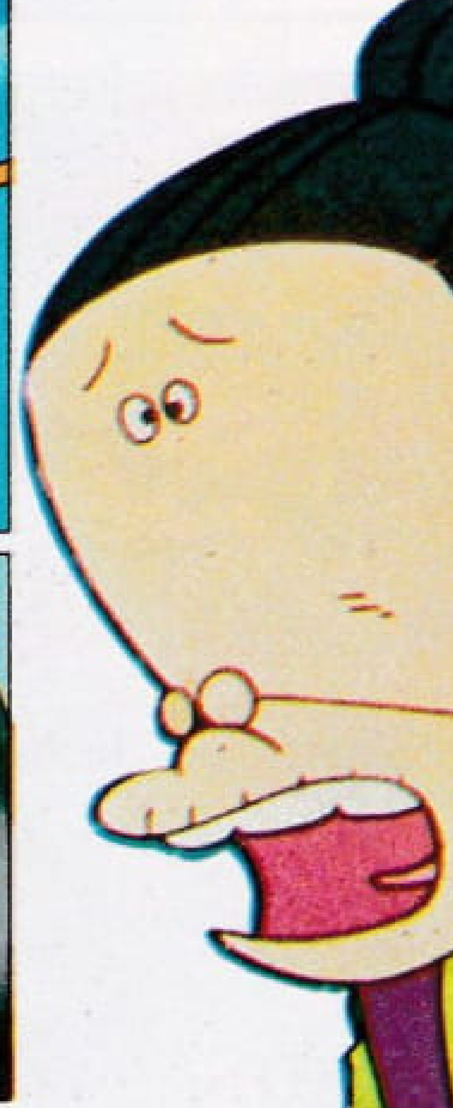
ワシは、その頃裏町の診療所で開業しておったんだが、ある雨の日、茶の間から魚を盗んでいったケガした猫がおったんじゃ、しばらくするとその猫は子猫をワシにあずけてどこかへ行ってしまった。親猫は、死期を悟っていたのだろう。ワシはその子ネコに"ミー"と名付けた。

■剛三さん……マスです……

マスさん







大田原——

「マスさん、憶えているか？　二人で船に乗って釣りに行ったときのことを……」

マス——

「忘れるもんですか！　あの頃、まだ海には魚がいて……。教えてもらった『大
節』いまでも時々歌ってますよ」

■私の妹の民は7才で死んだ……この砂漠で……

切田長官








私の父は秘密探索官をしていた。首相閣下の命令でファラオの秘密を捜していた。父は一家でクルナ村に移り住んだ。父は秘密の発掘に熱中した。一年後、母が原因不明の熱病で死んだ。そして妹も…私は、妹の魂を、王や神の守護神であるスフィンクスに守ってもらいたかったのだ……。



■俺は真の友に出会うのが遅すぎたようだ

……さらばハーロック

ゾル



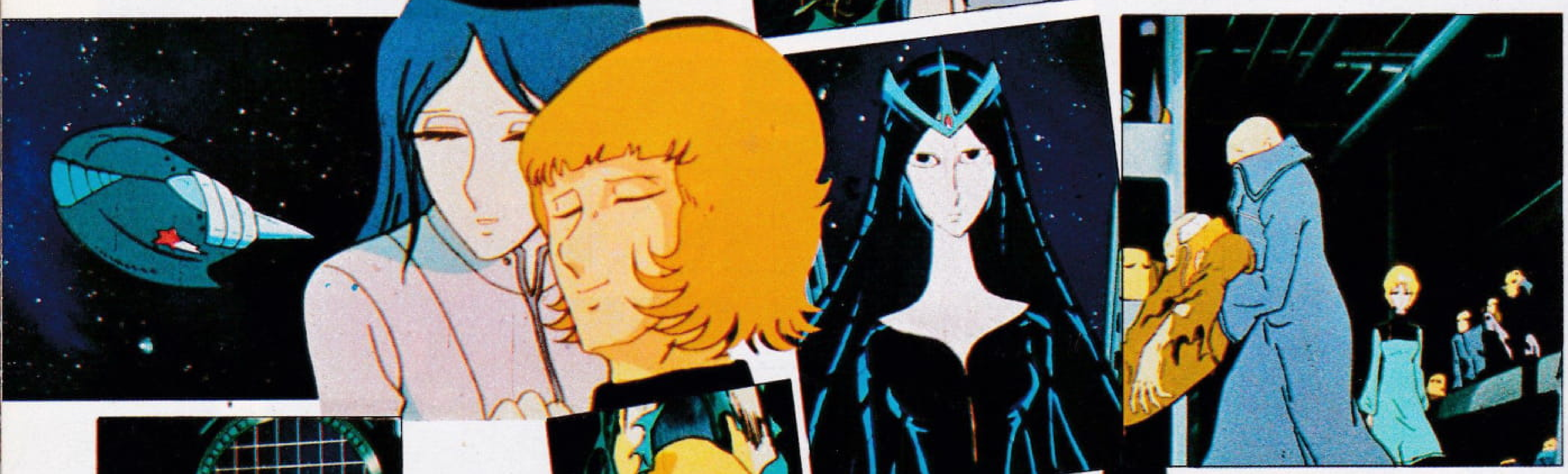
我々は最後の一兵まで戦う覚悟ではあったが、マゾーンに非戦闘員を人質にとられて……そして我々生き残った戦士は、マゾーンの特訓を受け特別攻撃隊として編成されたのだ。俺が口惜しいのは……マゾーンの……憎むべきマゾーンの手先となったことが……無念だ……。



■ぼくはウソはいいません。死んだ父に誓って

ウソはいいません。

ゾルバ





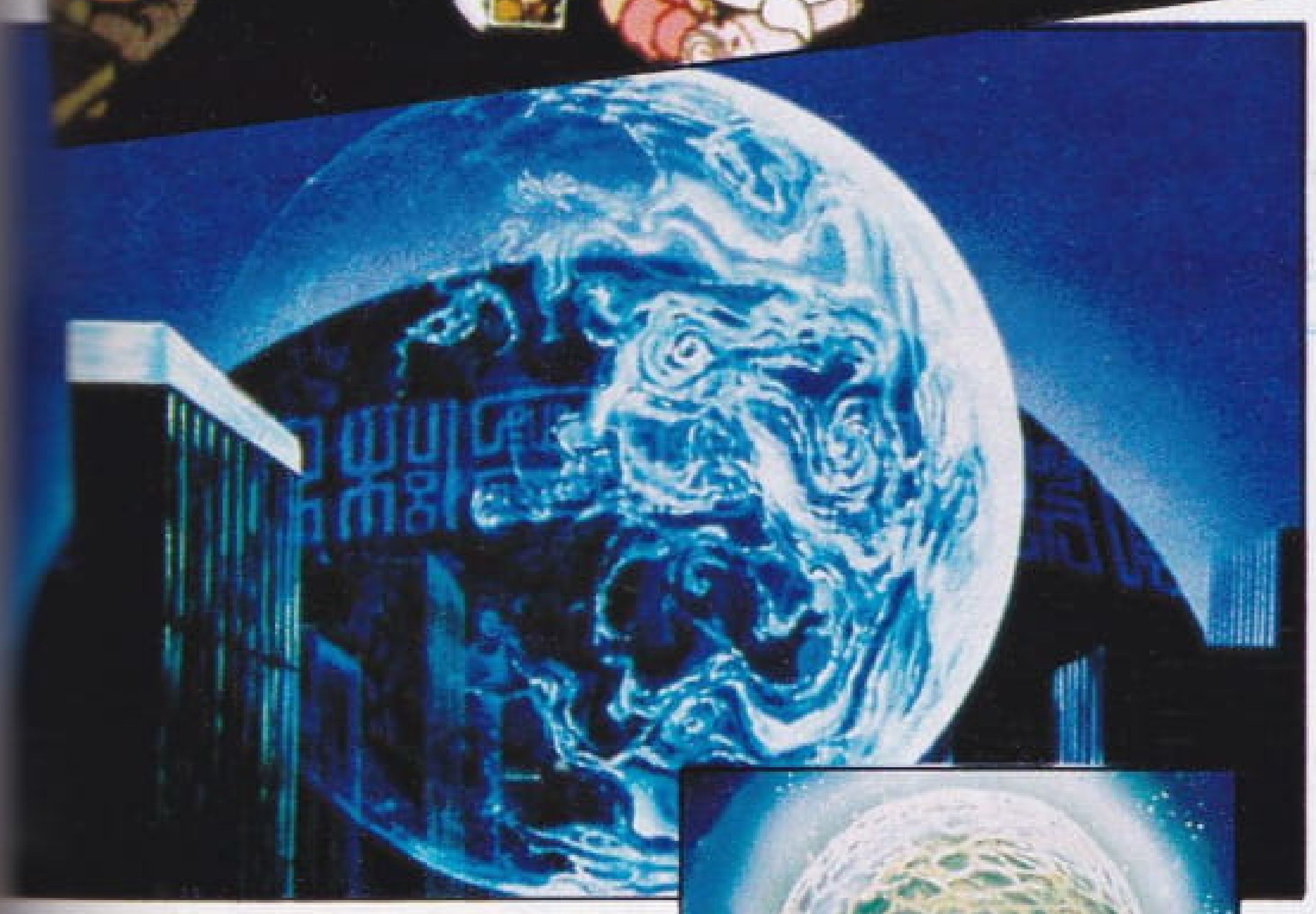
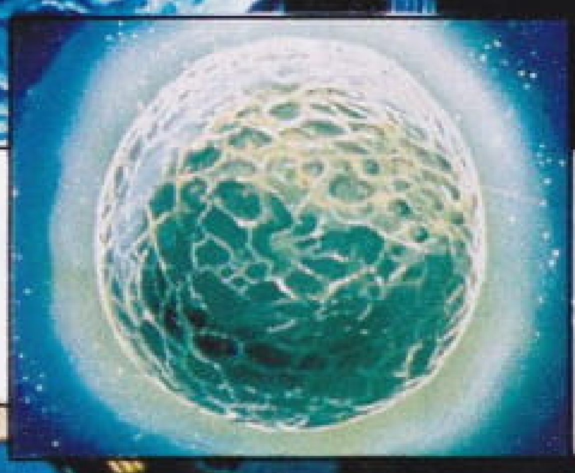
「マゾーンは父のことを卑怯者と呼んでいます。敵にしっぽをまいた弱虫だったと、でも母さんはいいました。父さんはりっぱな勇士だったと…」

運命の皮肉であろうか。悲劇の最後を遂げたトカーガのゾルの息子ゾルバが、マゾーンの看護婦ルシアをつれてアルカディア号に収容された。

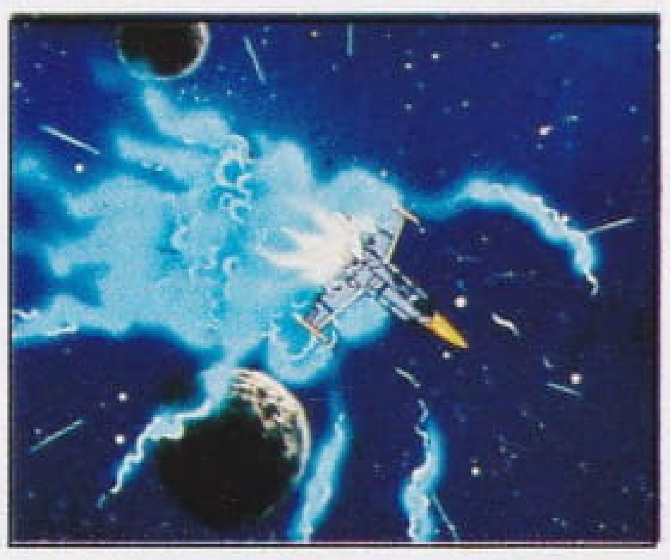
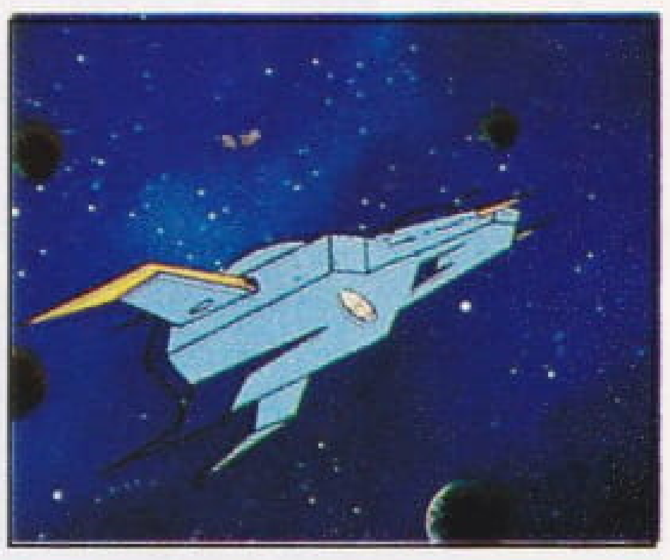
第26話

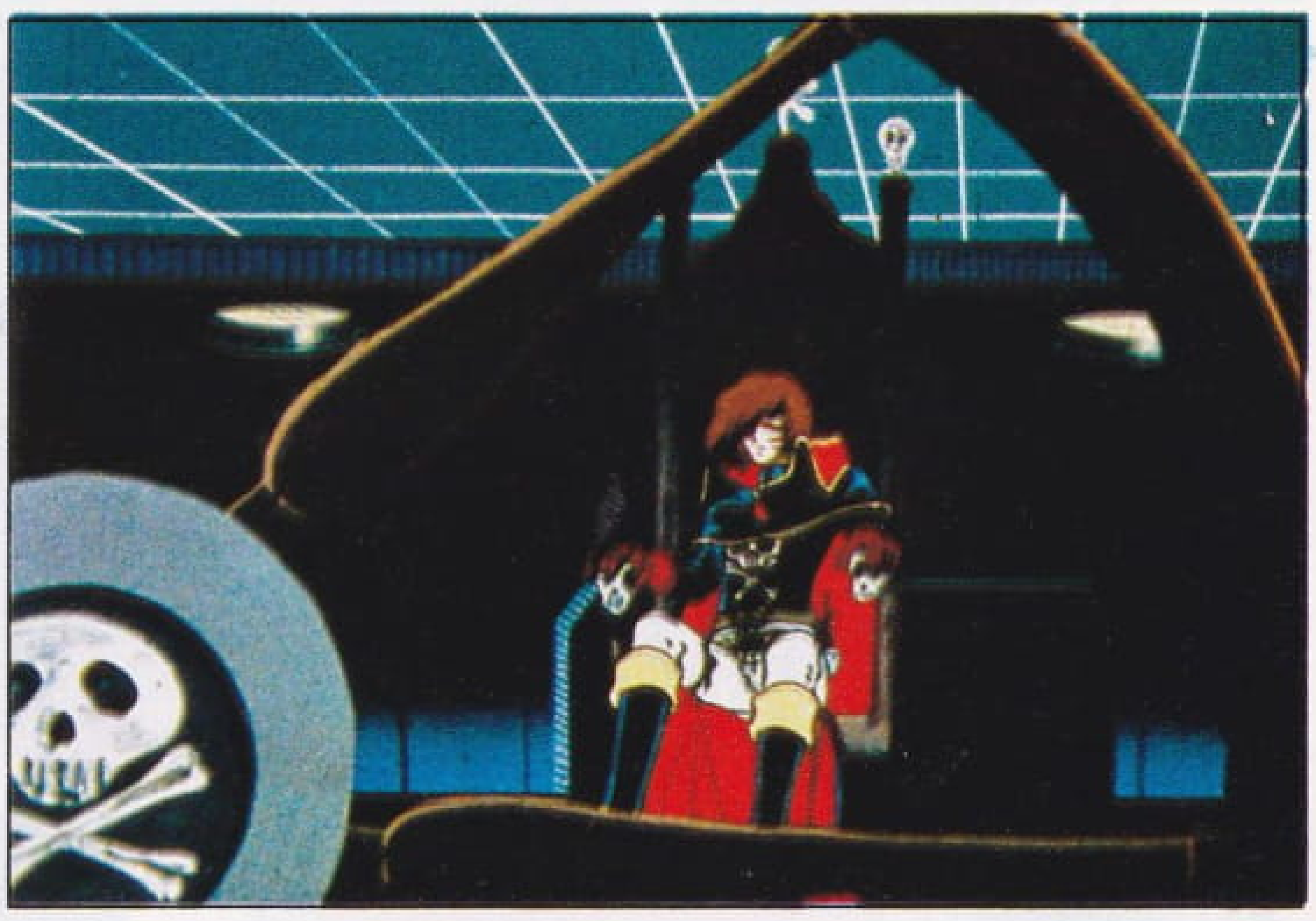
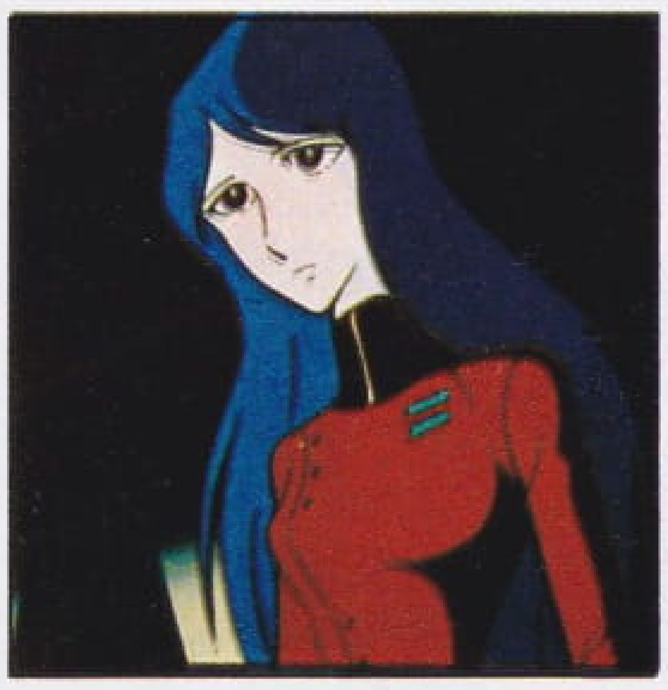
はるかなる長い旅

使命遂行のためなら、このラフレシア、歴代随一の残酷無比の女王と喜んで呼ばれもしよう。











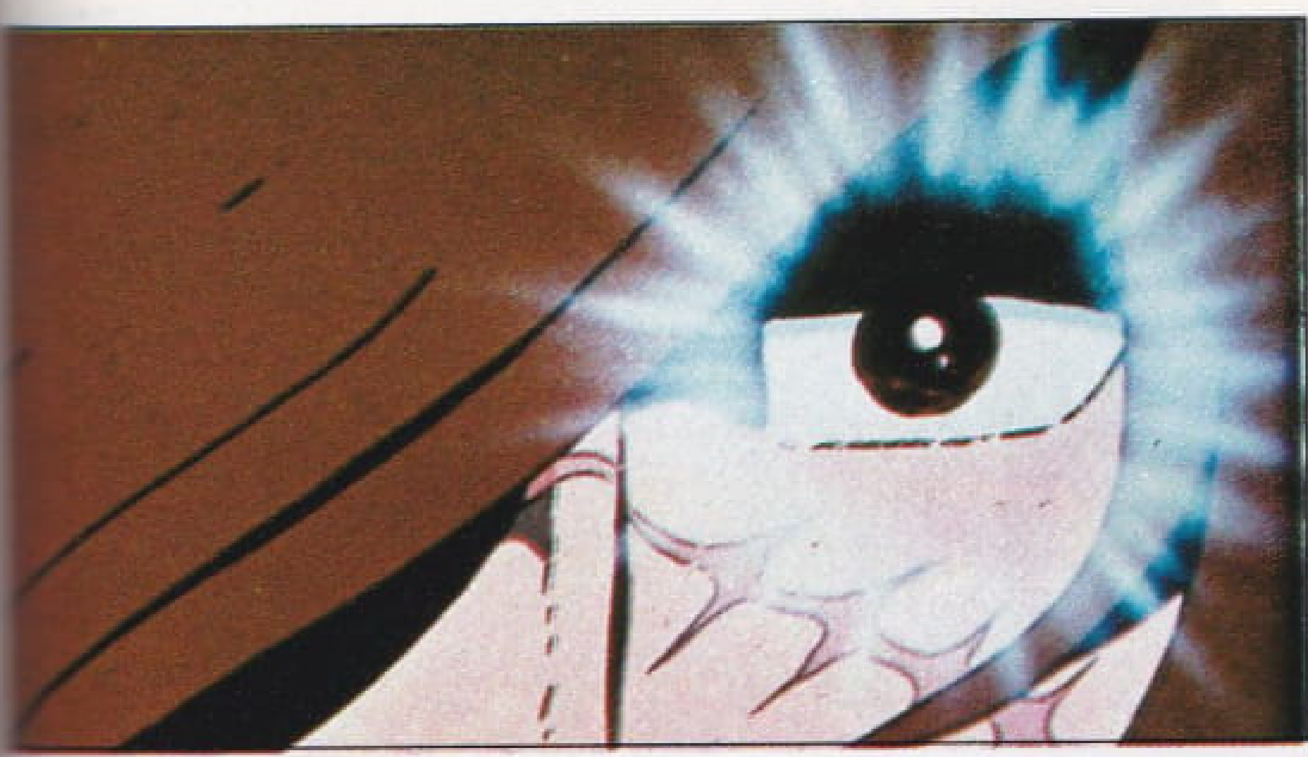


マゾーンの母なる星の滅ぶ時、遥かなる故郷―地球を目指そうという一大使命の下に宇宙に乗り出したマゾーンの大キャラバン隊は動揺していた。キャプテンハーロックのアルカディア号一隻によるマゾーン艦隊への抵抗は、一般市民達を疲労させ、もはや無理をしてまで地球へ移住などしなくても、M―31星雲のベータ星に移り住もうと、脱走計画を企む者も出てきた。マゾーンの為政者達は、しだいに広がっていく亀裂の大きさに震憾した。

女王ラフレシアは事態の重大さを把握し、使命遂行のためには断固として非情な措置をとる決心を固めた。だがその代償は大きく、彼女は左腕ともいえる科学者のテシウスを失う事になった。

その頃ハーロック達もマゾーンが、ただの侵略者ではなく、一族を挙げて地球という故郷へ大移動することを目的とした集団である事実を知り愕然とするのだった。

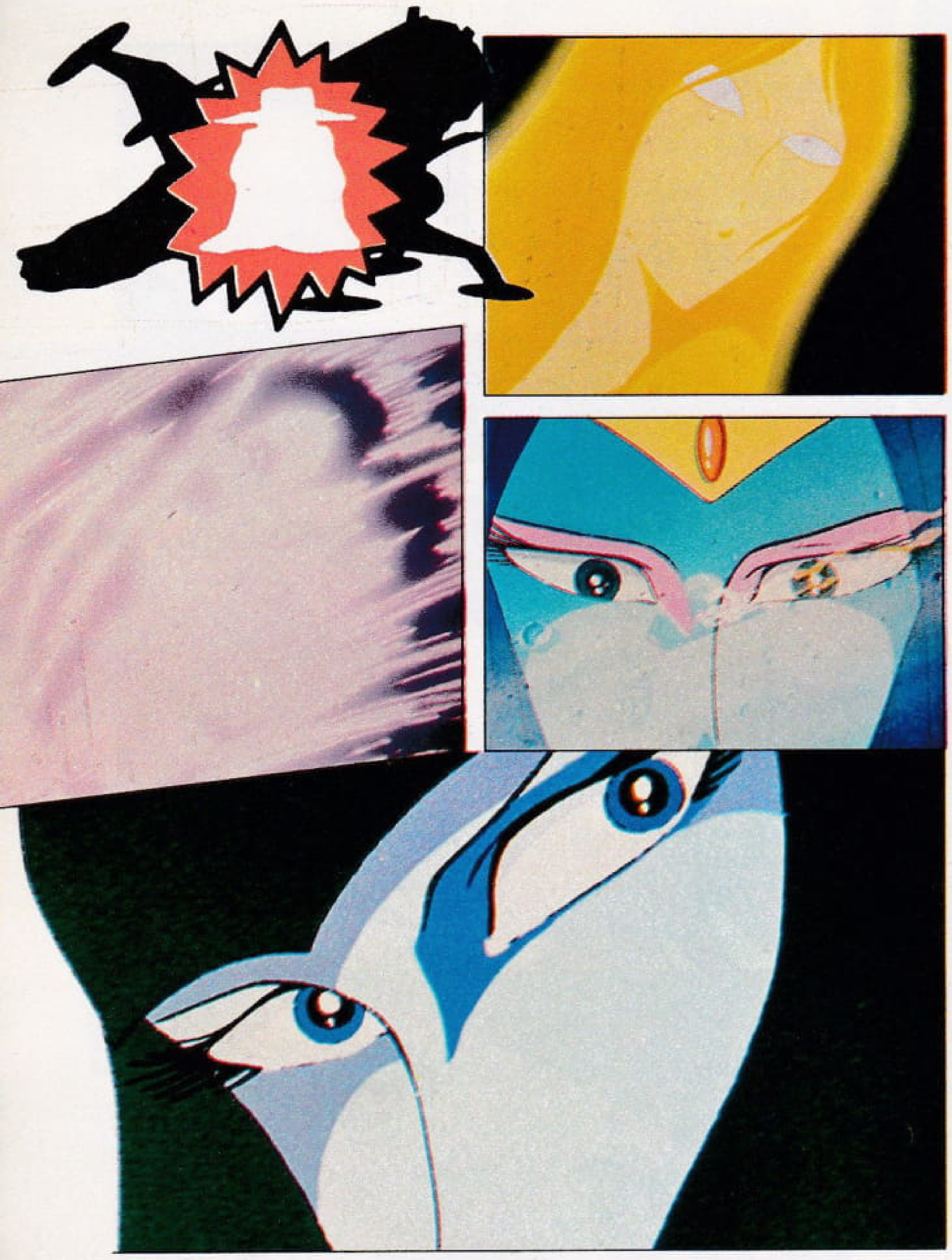




銀河子守唄

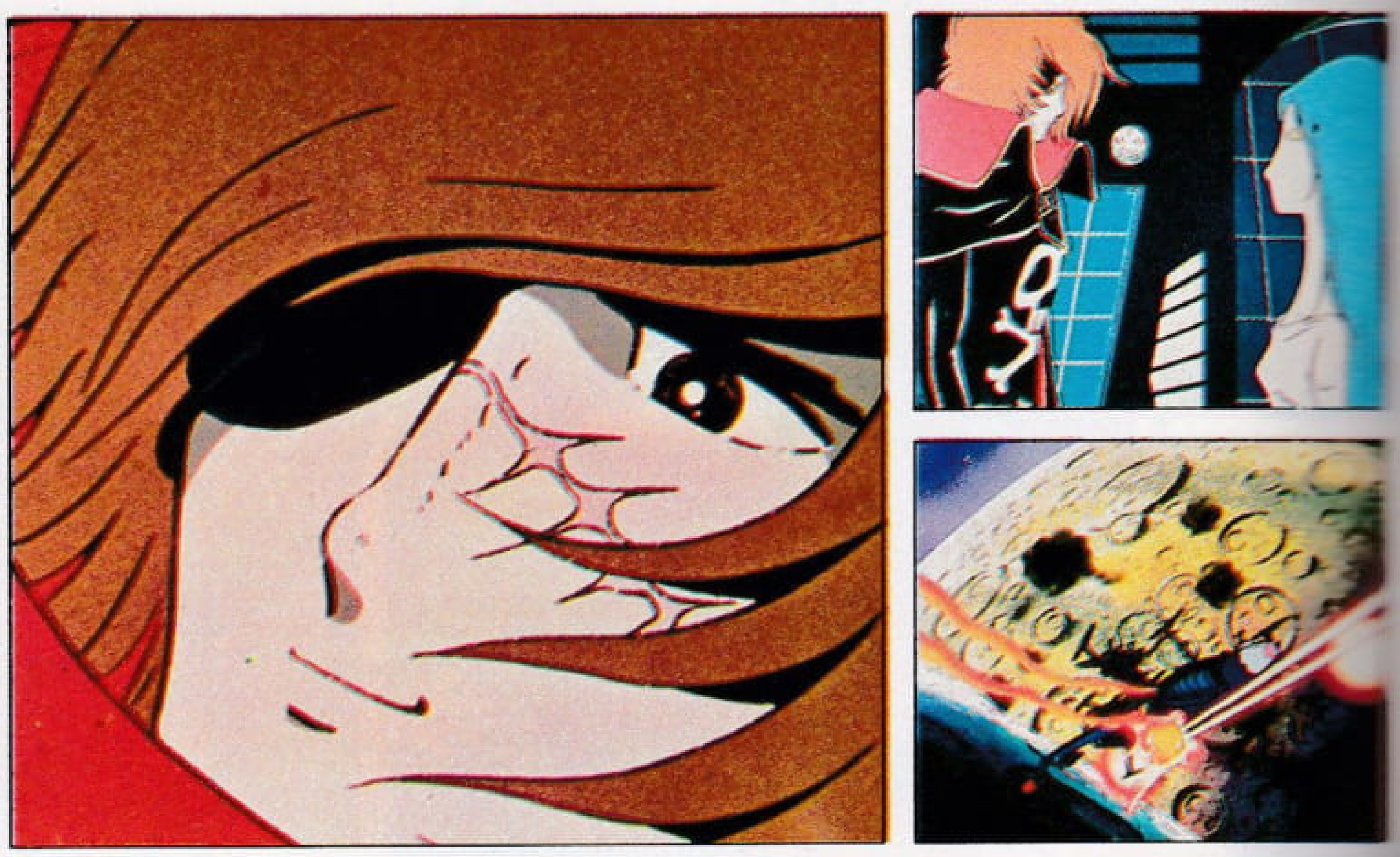
友よまゆを眠らせてくれ!…



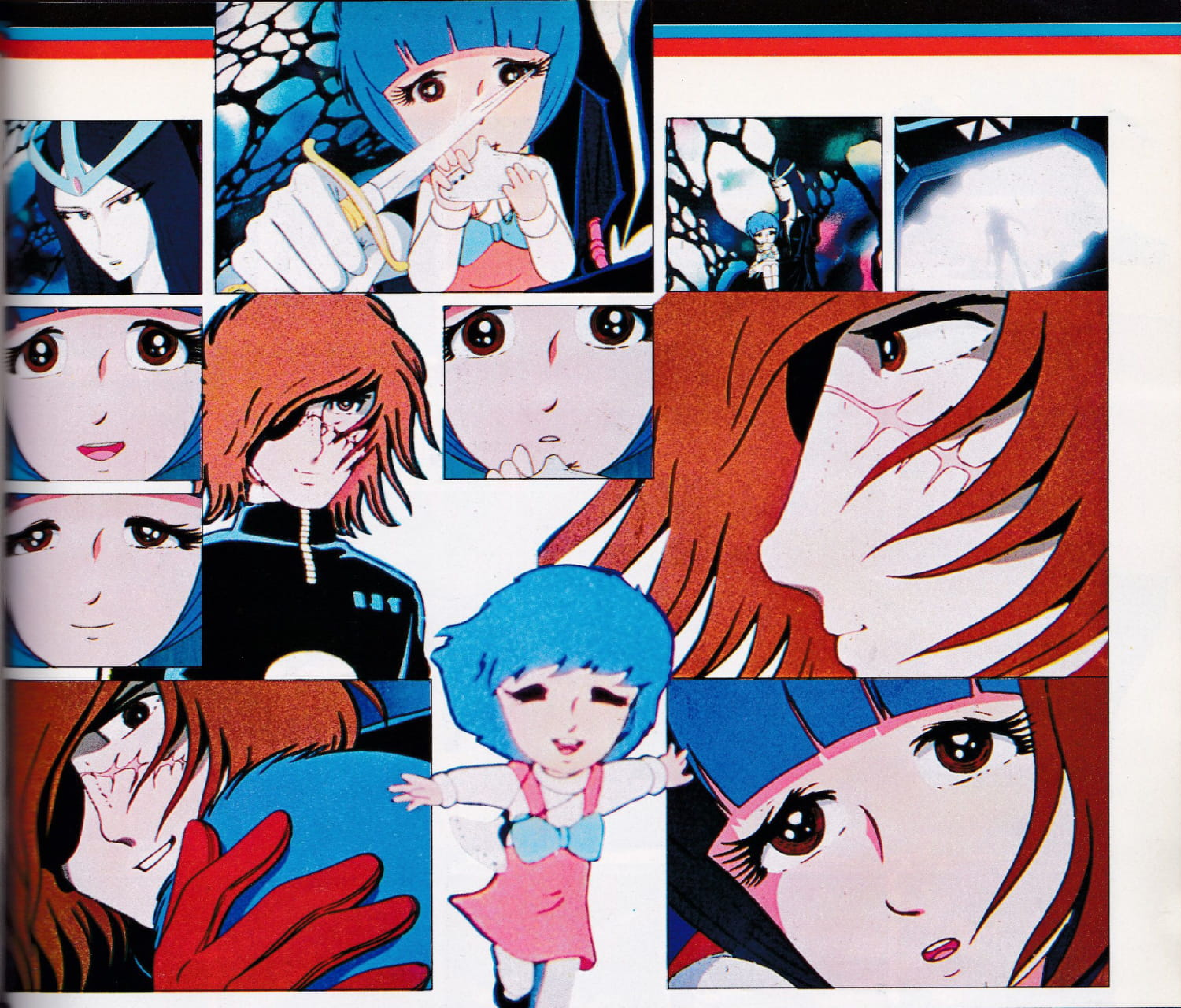


マゾーンの女王ラフレシアは、ハーロックの徹底した抗戦に手を焼いていた。そしてとうとう卑怯者と呼ばれる事にもあまんじてまゆをさらうという最後の手段に出た。ハーロックは、戦闘か救出かに悩む。アルカディア号は自らの意志で、ユリシーズ星雲に艦首を向けた。ユリシーズ星雲は、氷の星、虫の星、山羊の星、風の星、虹の星双児の星、人間の星の七つの惑星で構成されている。六つの星にはまゆはいなかった。そしてついにユリシーズ星雲最後の惑星、双児の星にアルカディア号はやってきた。待ち受けるのは双子のマゾーン・ツインシスターである。双子星の人工引力装置を破壊したアルカディア号は、ボレット戦闘機隊を発進して、その隙にハーロックは、スペーストレーラーを単身走らせて、まゆの救出に向かった。

どこからともなく聞こえてくるオカリナの音に導かれてハーロックは進む。





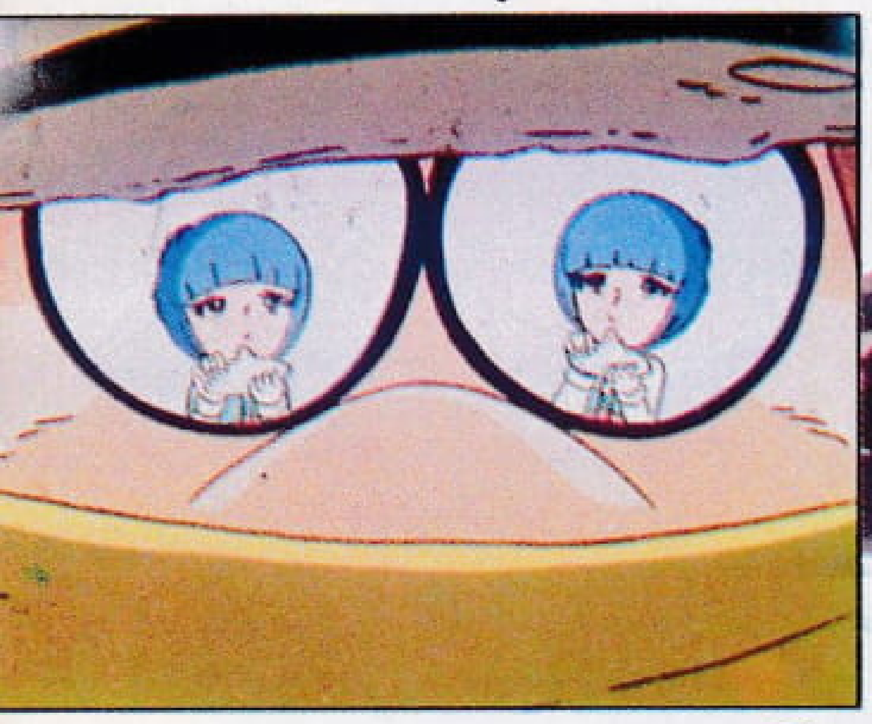












ハーロックは、更にオカリナの聞こえる奥へと侵入していった。そして、そこにはマゾーンの女王ラフレシアが、まゆを抱いて坐っているのだ。——立体映像のラフレシアが消え去った部屋には、オカリナをしっかりと握り続けるまゆだけがとり残されていた。

「まゆ……生きていてくれたか……」

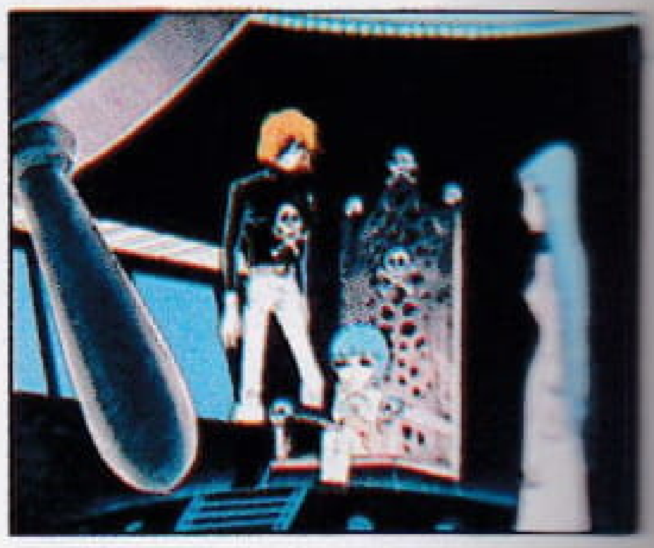
だが、まゆは人質という、あまりにも長い間の緊張を強いられたためか、眠れなくなっていたのだ。しかも、まゆの頭の中にある事は、ただ、オカリナを吹き続けることだけなのだ。ハーロックでさえ、今のまゆの心に触れる事は出来なかった。——どうしたらいいんだ。このままでは……。ハーロックはまゆを、まゆの父トチローの分身である中枢コンピューターに、最後の望みを賭ける。コンピューターから、オカリナに合わせて子守唄が流れてくる。まゆの瞳はようやく安心したように閉じられた。

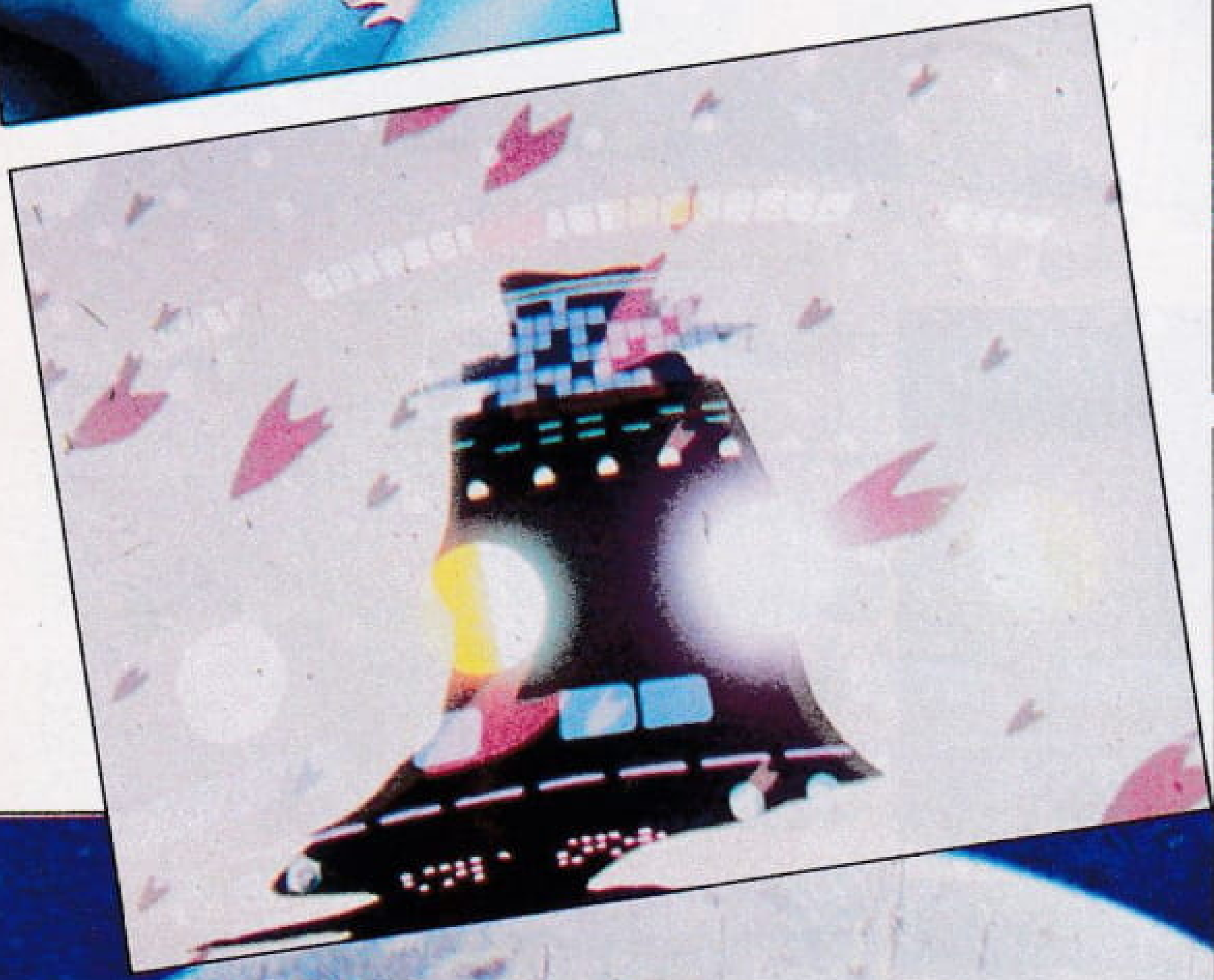


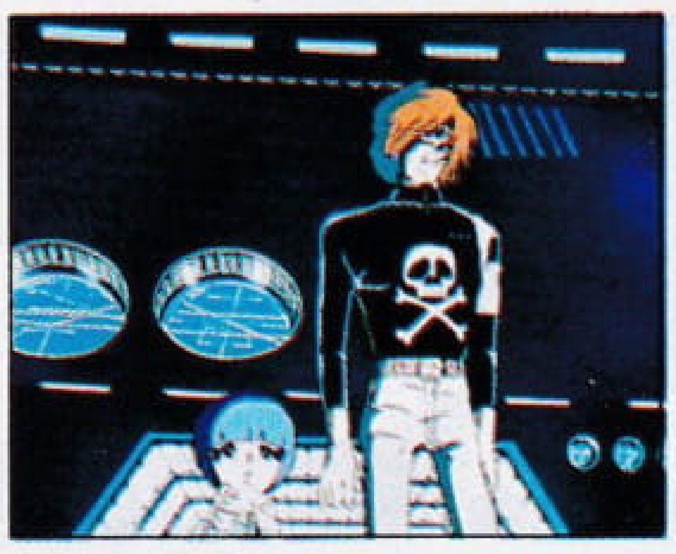






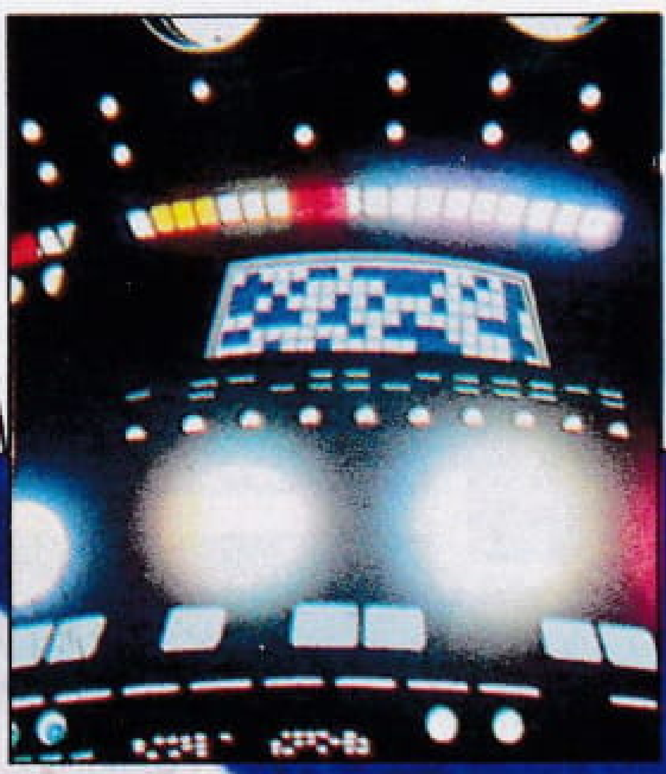




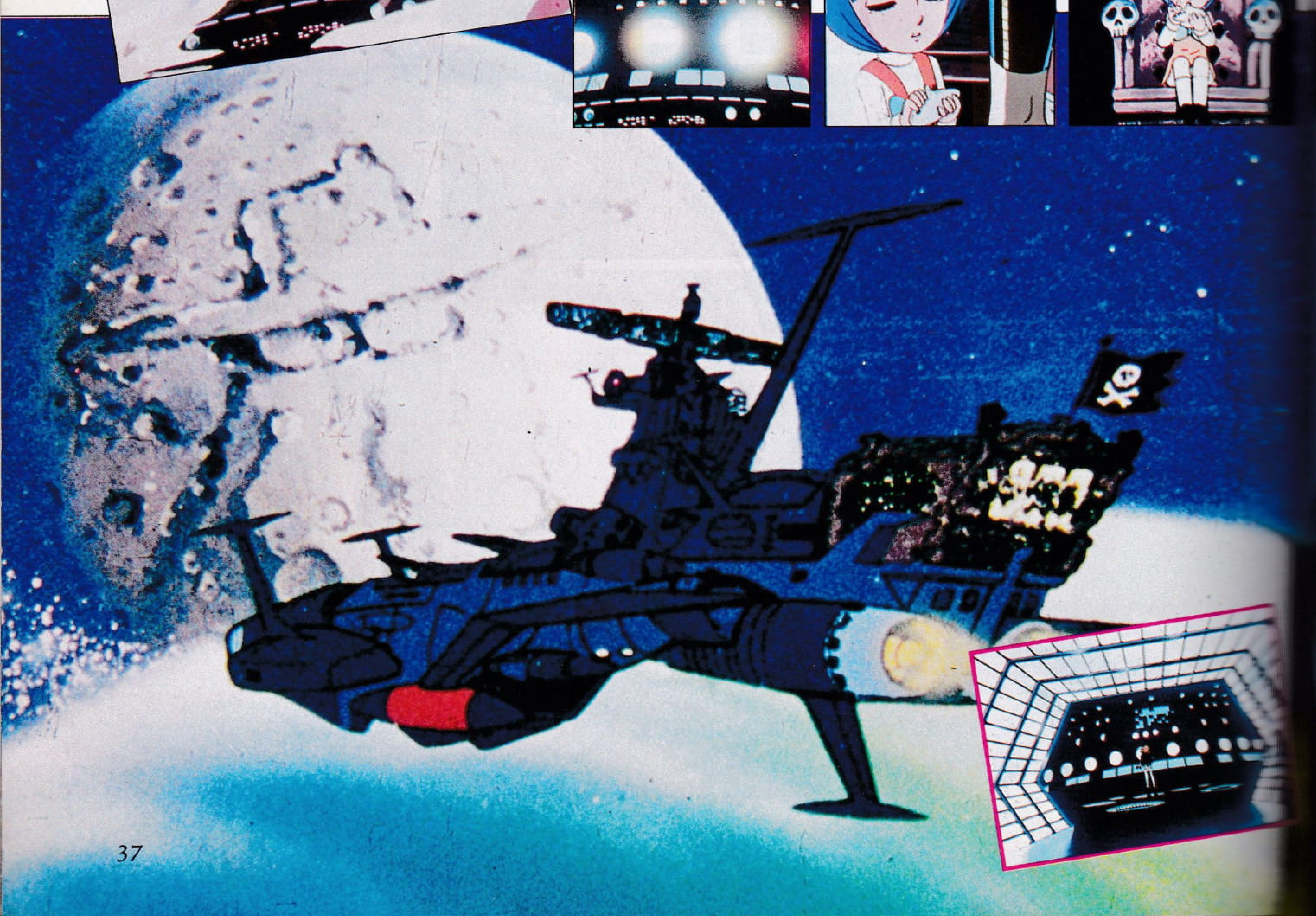














決戦前夜

俺は自分の死場所を探し求めているだけだ





[illegible]を信じて生きているのだろう。ラフレシアは首相の秘書として地球に送り込んでいたスパイ、波野静香にアルカディア号と、ハーロックの秘密を探らせるべく行動を開始させた。切田長官を操り、まんまとアルカディア号乗船に成功した静香は、ハーロックの心に触れようと手段を講じるのだった。

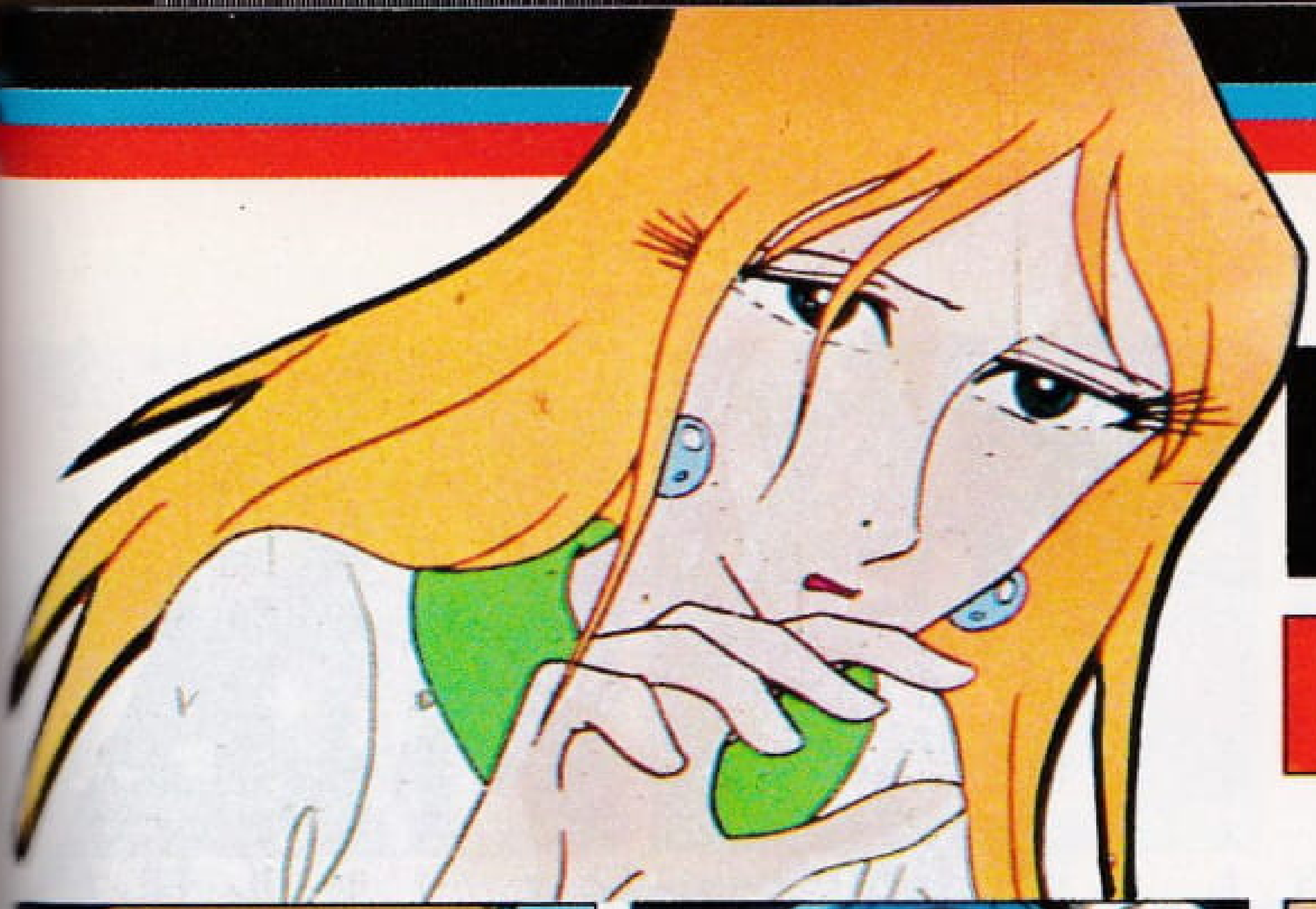
——静香は問う。

「宇宙海賊であるあなたは、どんな信念に基づいてマゾーンと戦っていらっしゃるのですか?」

沈黙の後、ハーロックはそれに答えて語り始めた。

「俺にはどんな考えも、ましてや信念などない。俺はただ……自分の死場所を探し求めているだけだ。——そして、その俺の行手にたまたまマゾーンがいた。ただ、それだけのことだ。願わくばマゾーンとの戦いが、俺の死場所にふさわしくあれ!」

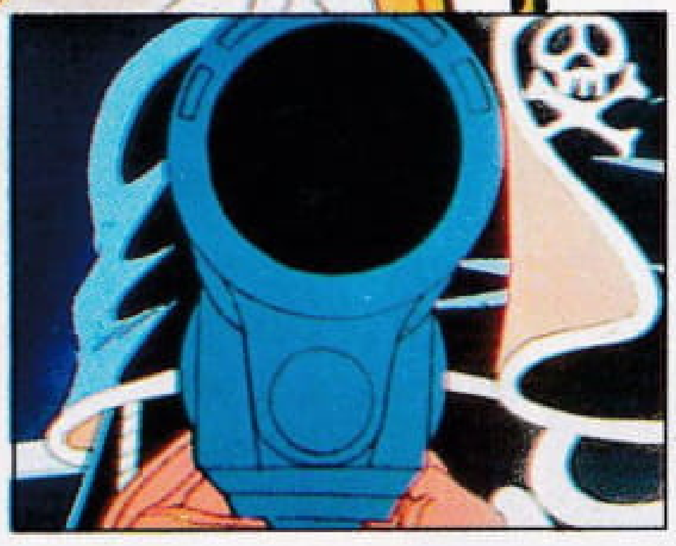


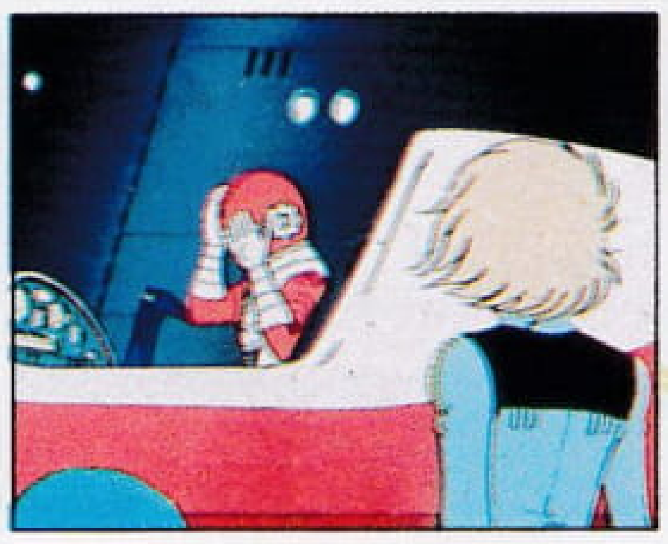


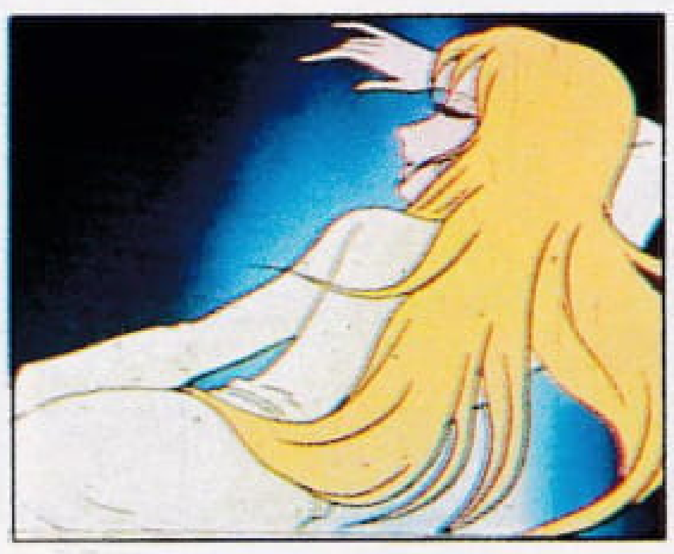
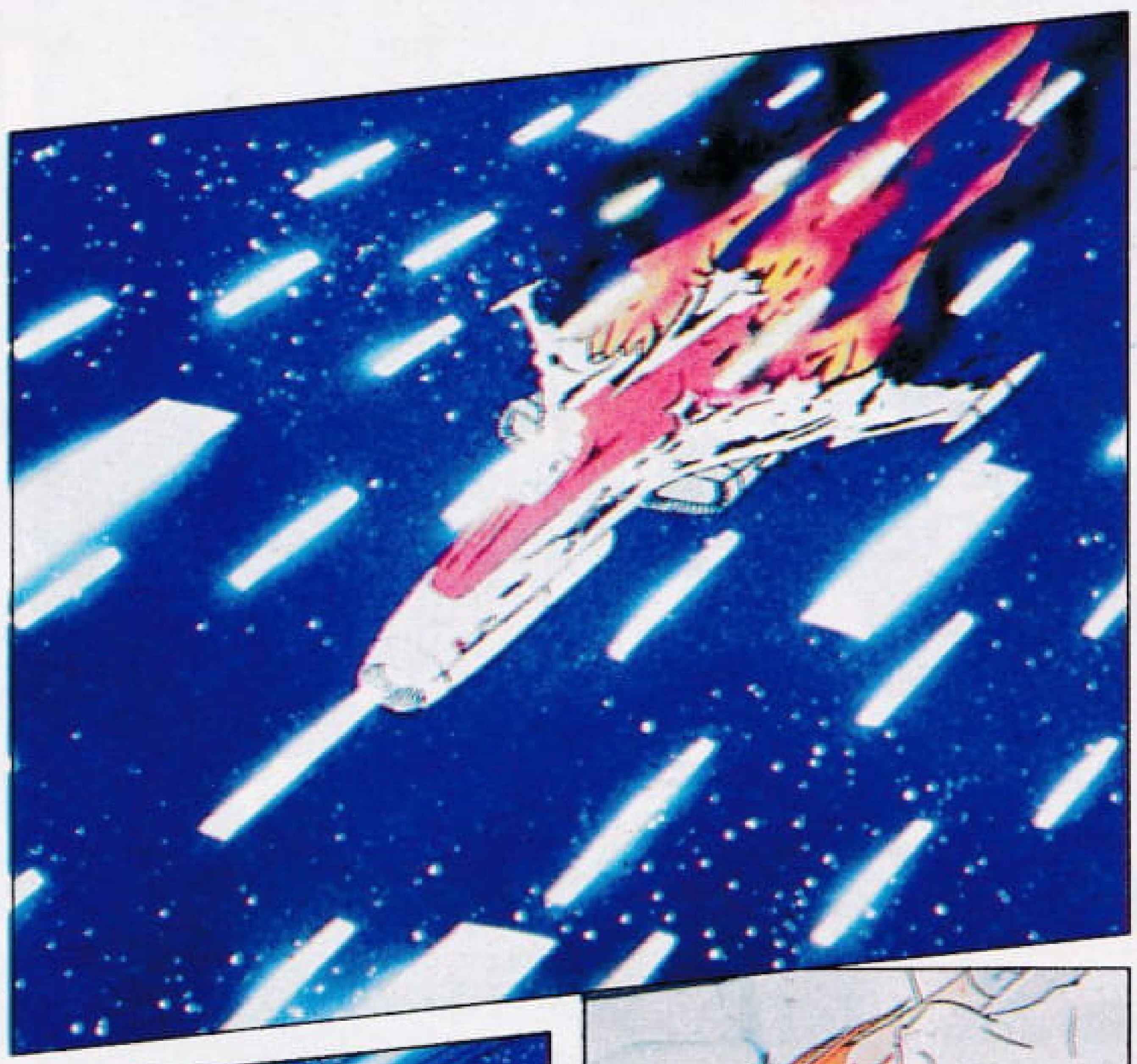
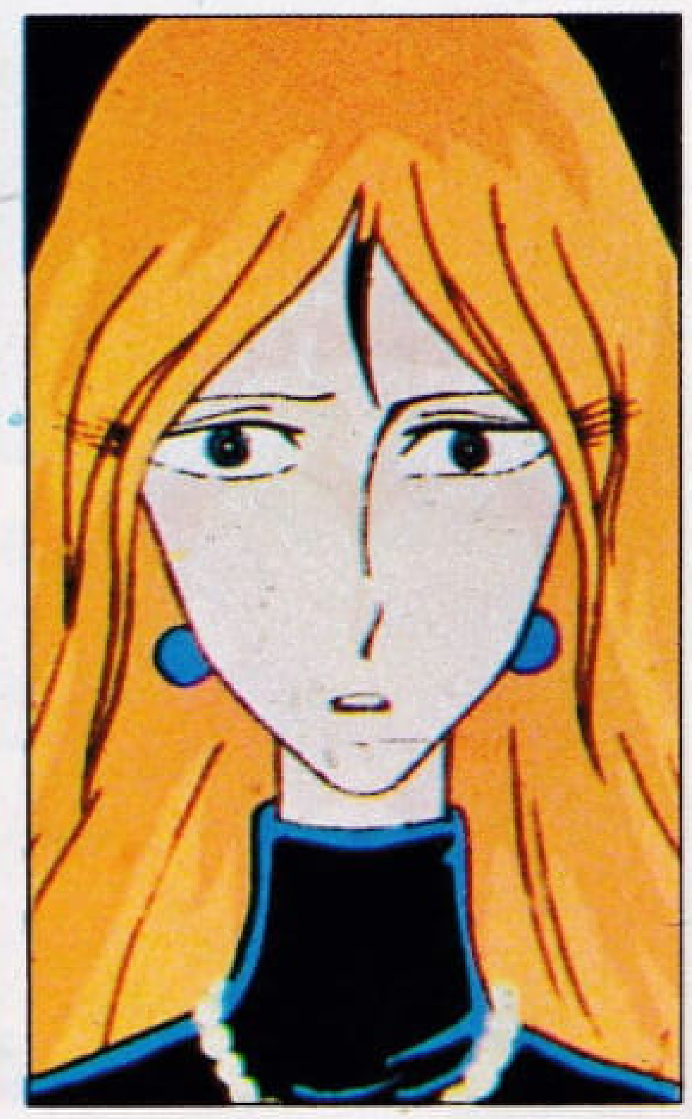
第37話

涙と別れ

宇宙は寒いぞ……

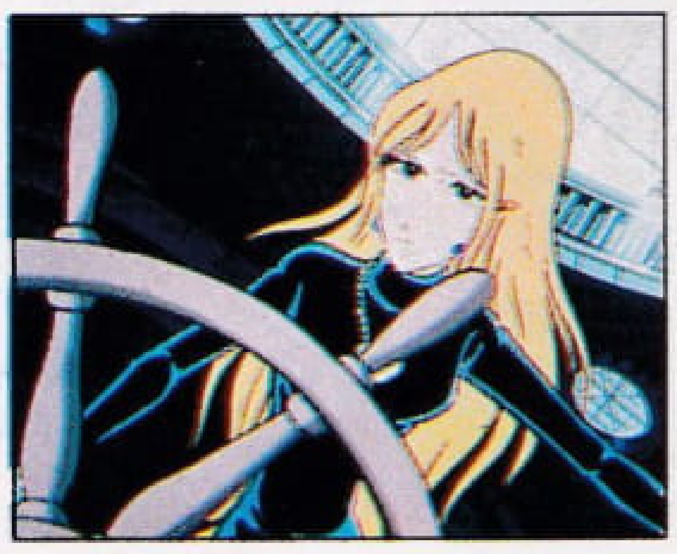


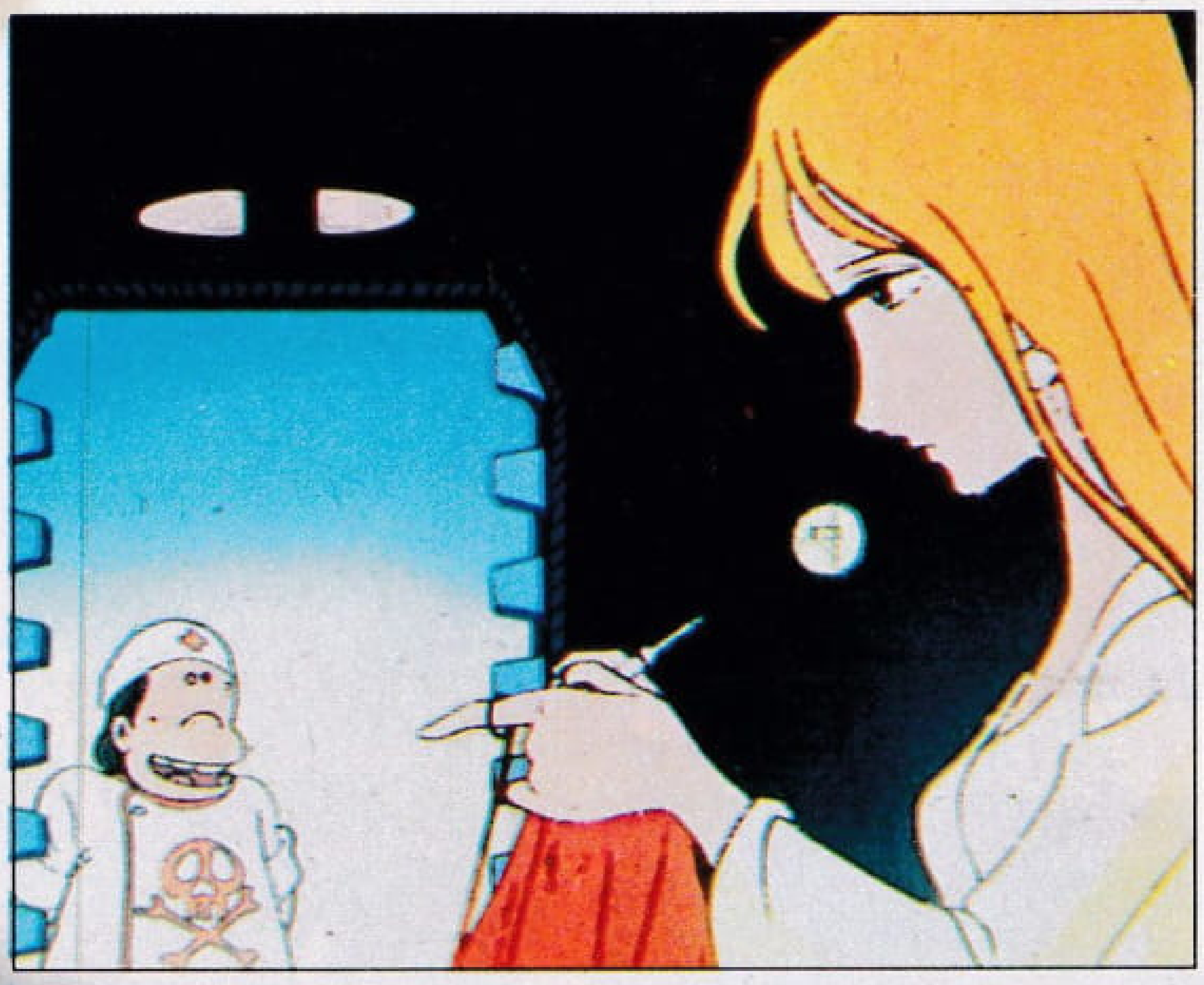
波野静香の正体を見破られている事を悟ったラフレシアの態度は非情なものであった。女王から見捨てられた静香は、理性を完全に失ってしまう。

彼女は一人、黙々と赤いセーターを編み続ける。どうせ死ぬのなら愛する人に殺されたい……その想いはあまりにも哀しい。静香の体は青い炎となって宇宙空間に吸い込まれて消えた。

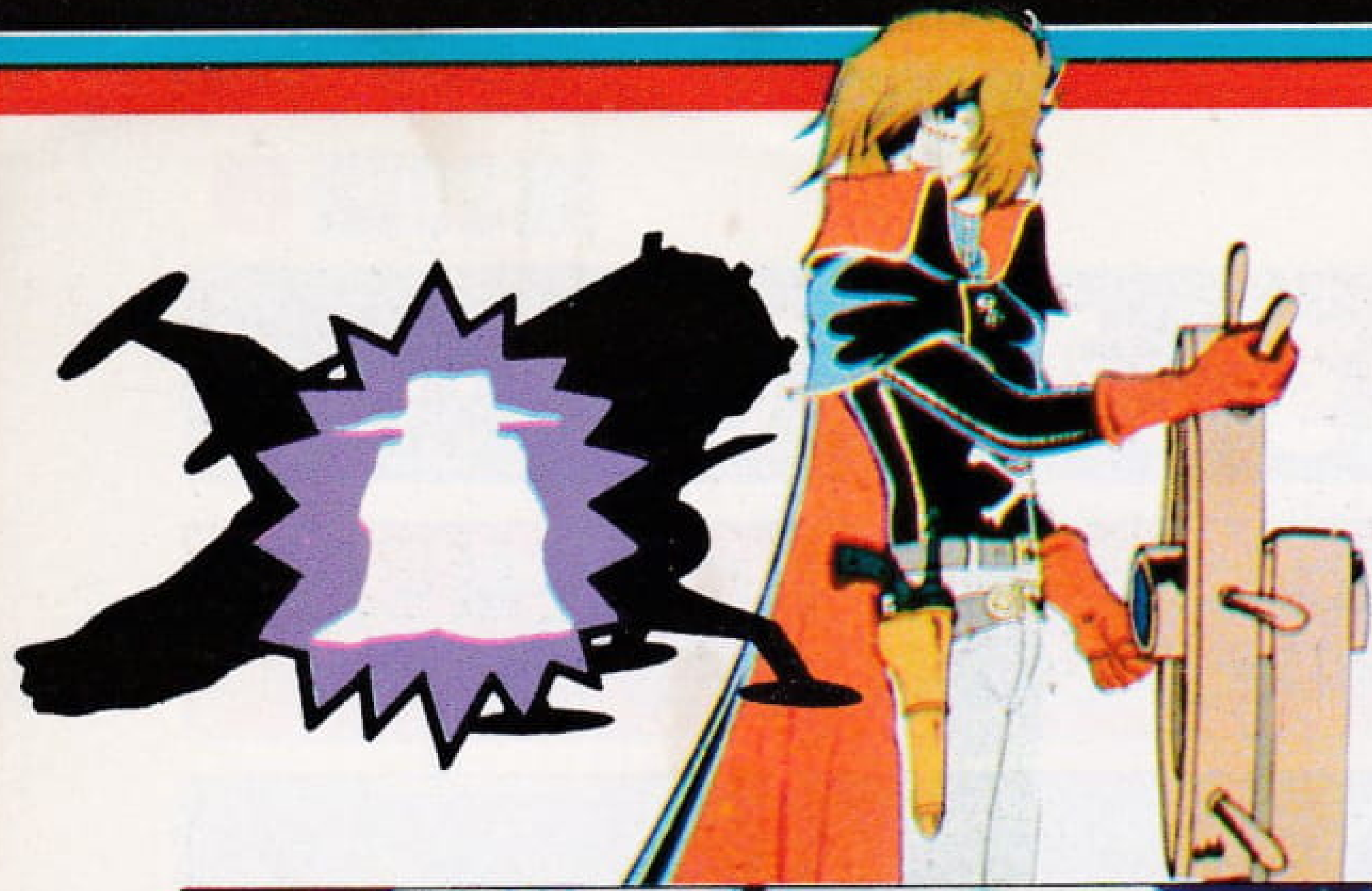


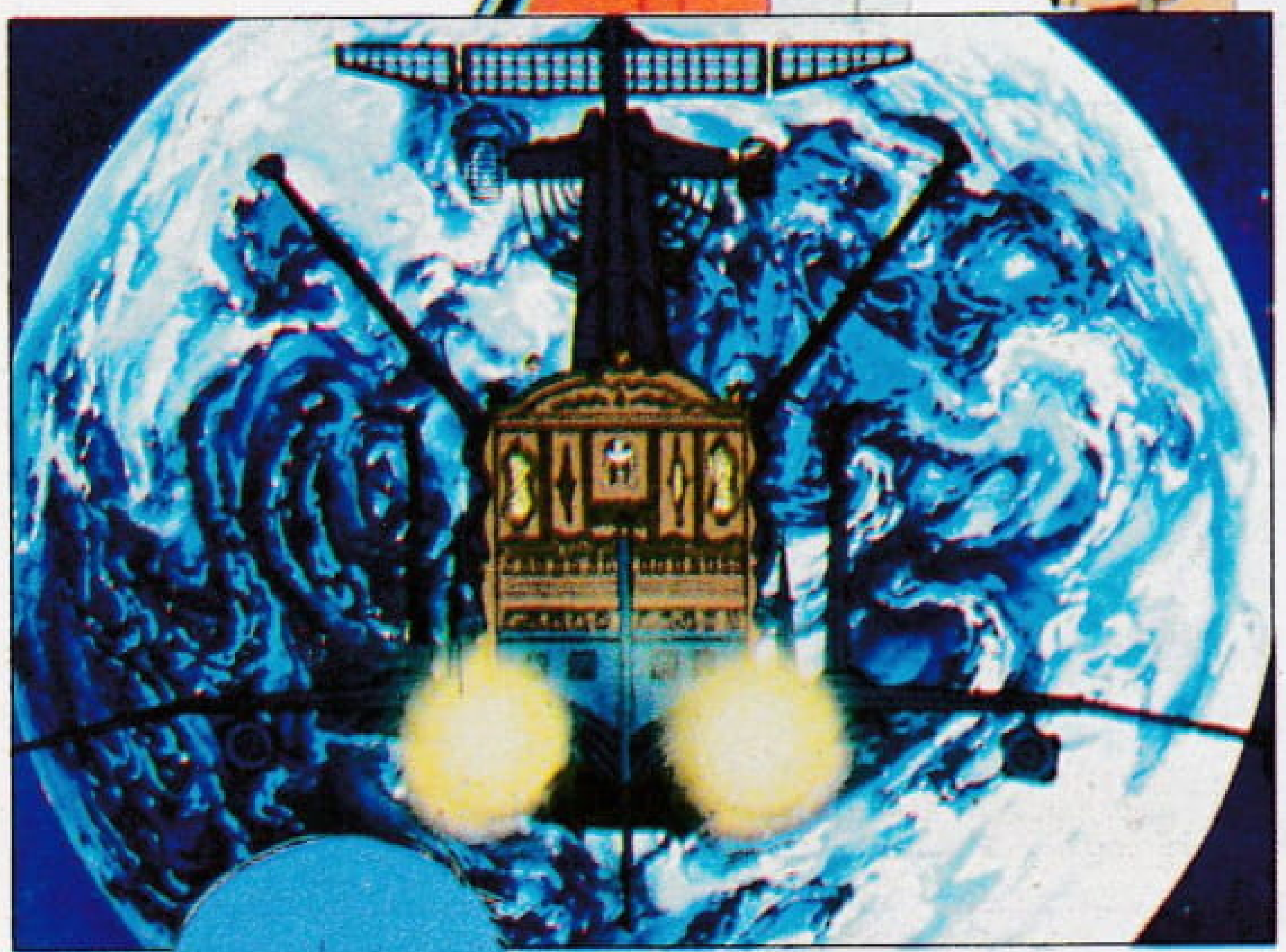


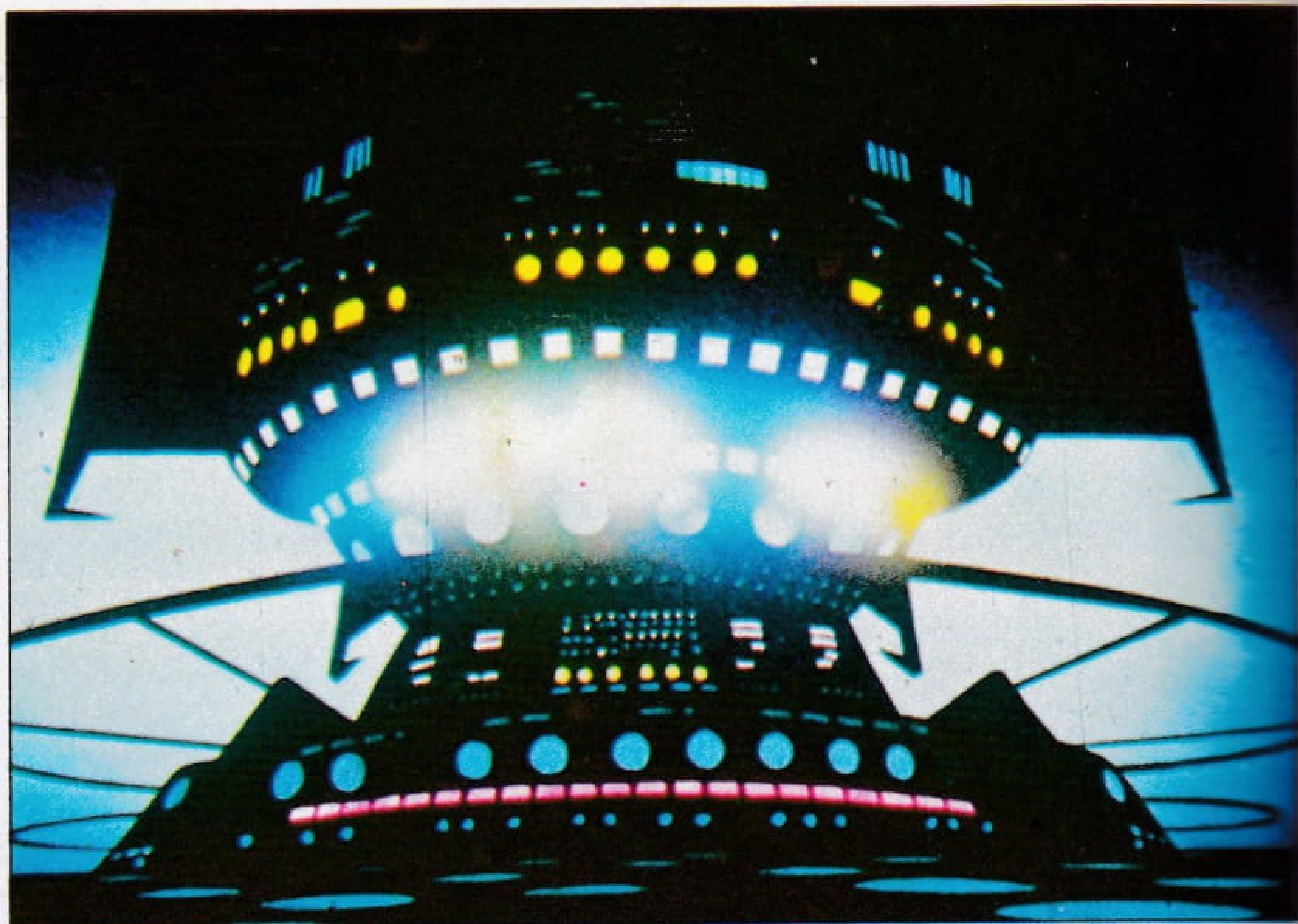



お父さん生きているのね！









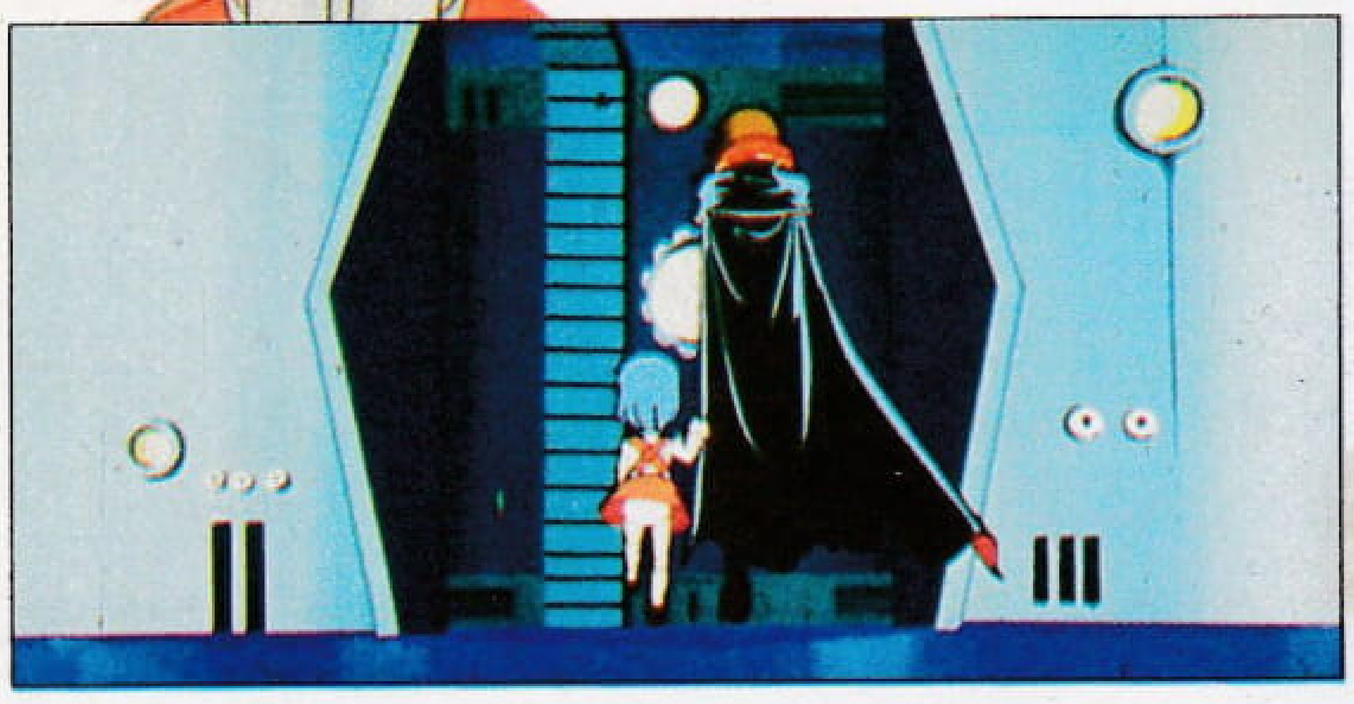


「ああ、お父さんだわ！お父さんは生きているのね！ 出てきて、お父さん！お父さん！」

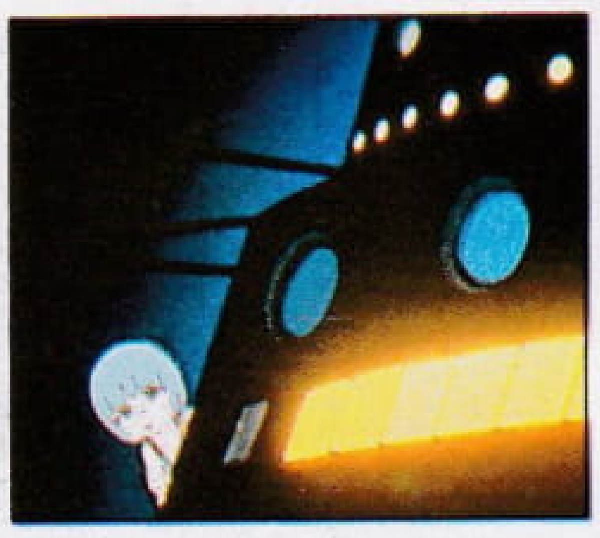
あまりにも悲しい父と娘の対面であり、別れであった。中枢コンピューターの頭脳。アルカディア号という体。姿、形はもはや人間ではなかったけれども、まゆは、その全身に父のぬくもりと、やさしさと、悲しさをはっきりと感じたのである。――さらば！ まゆ。



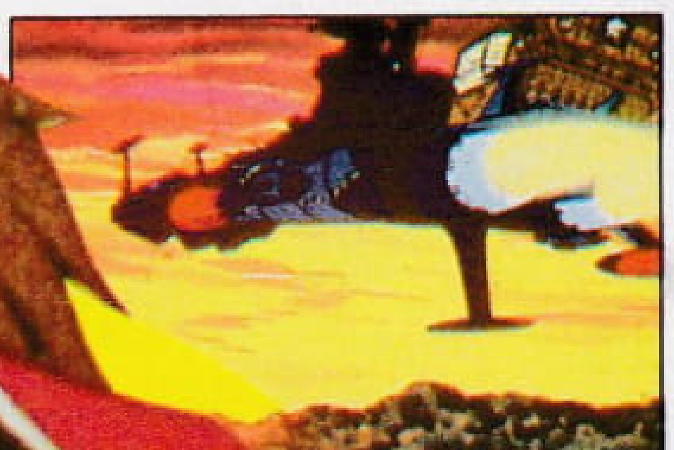


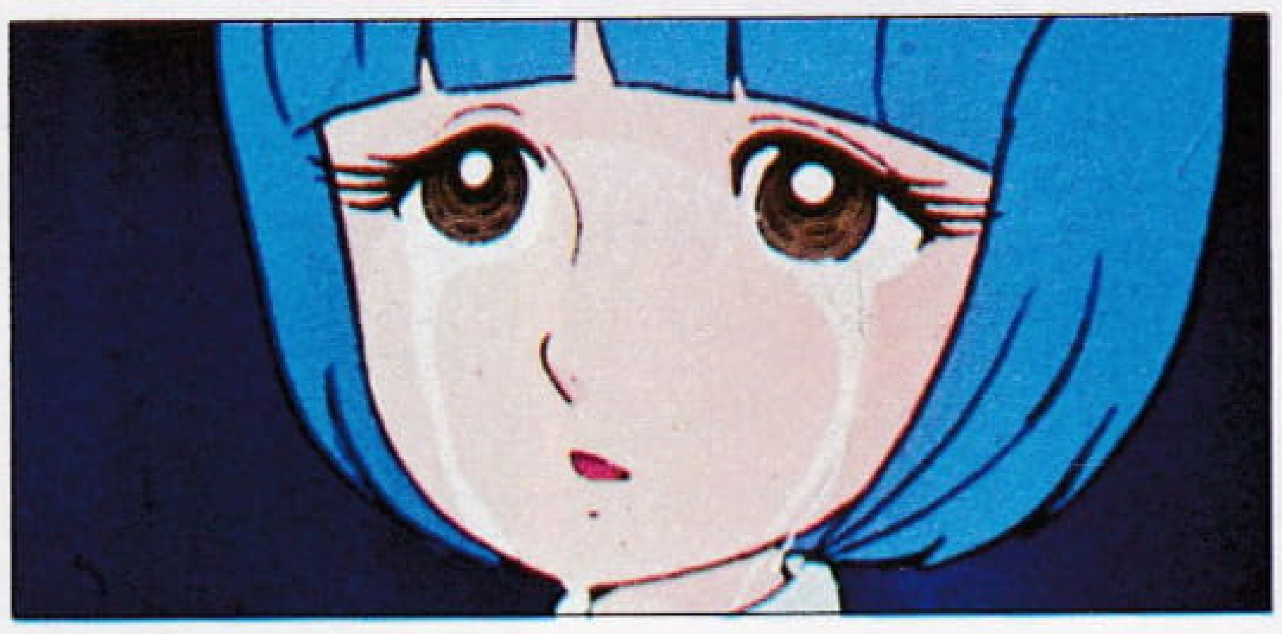




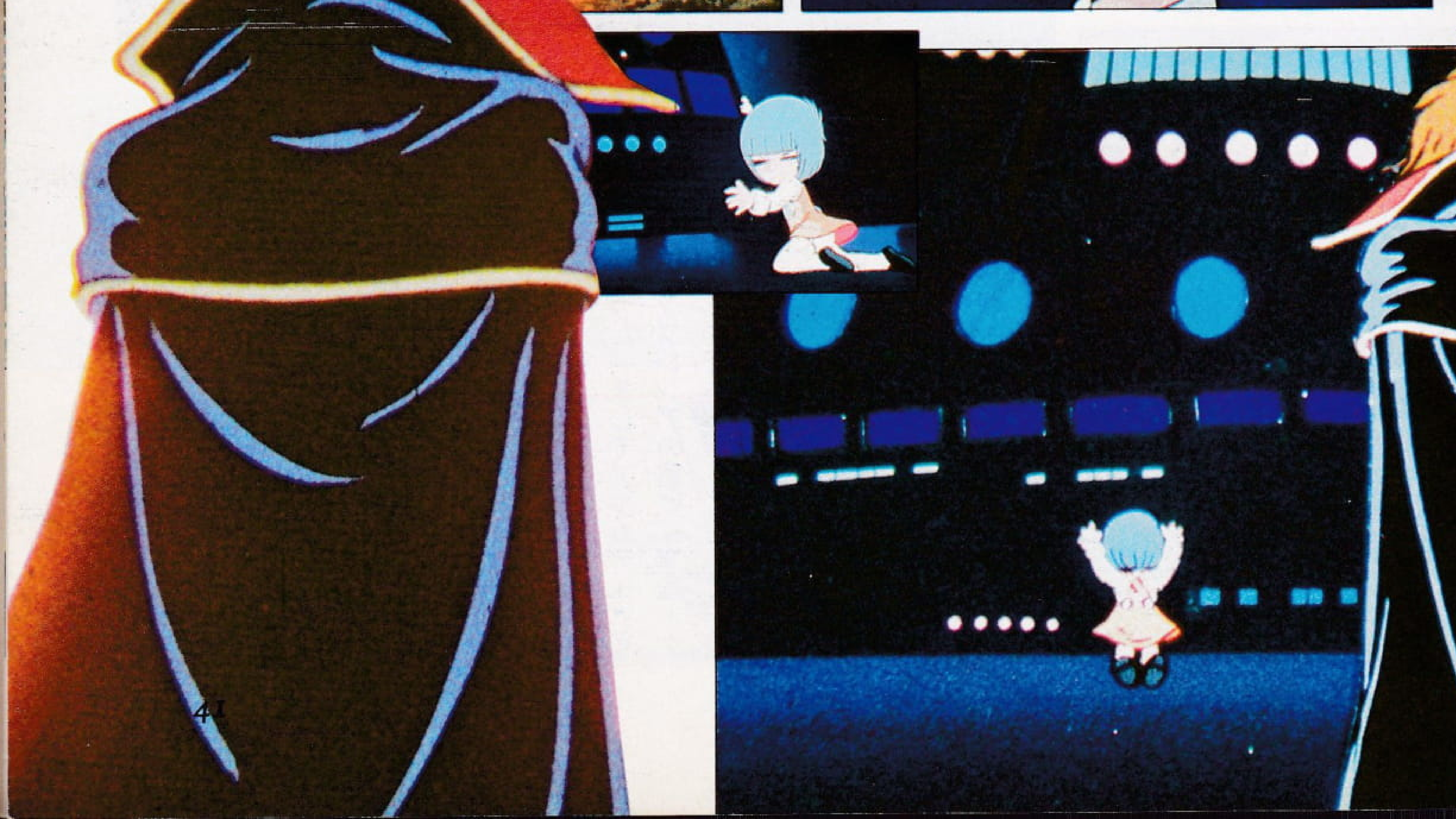






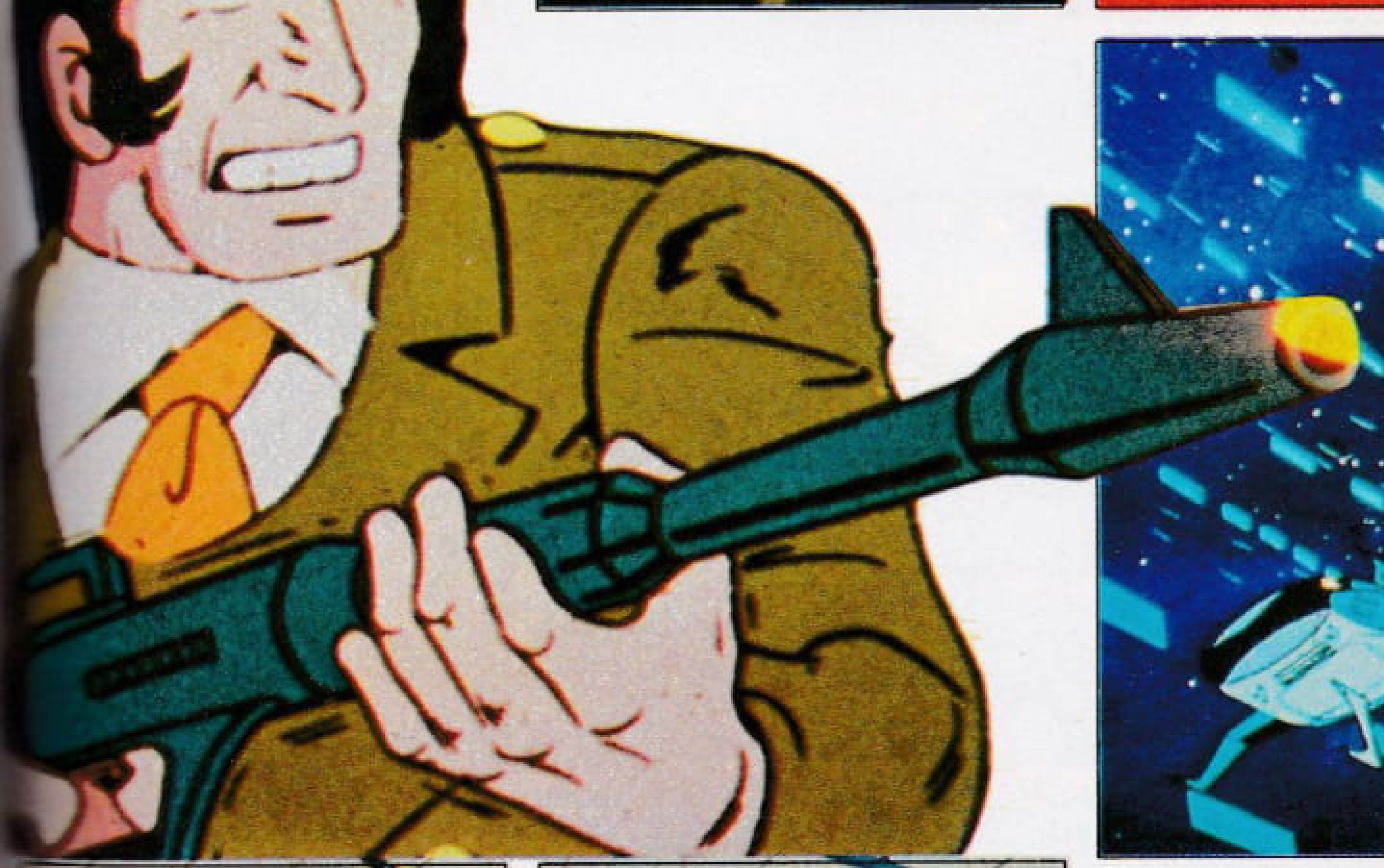


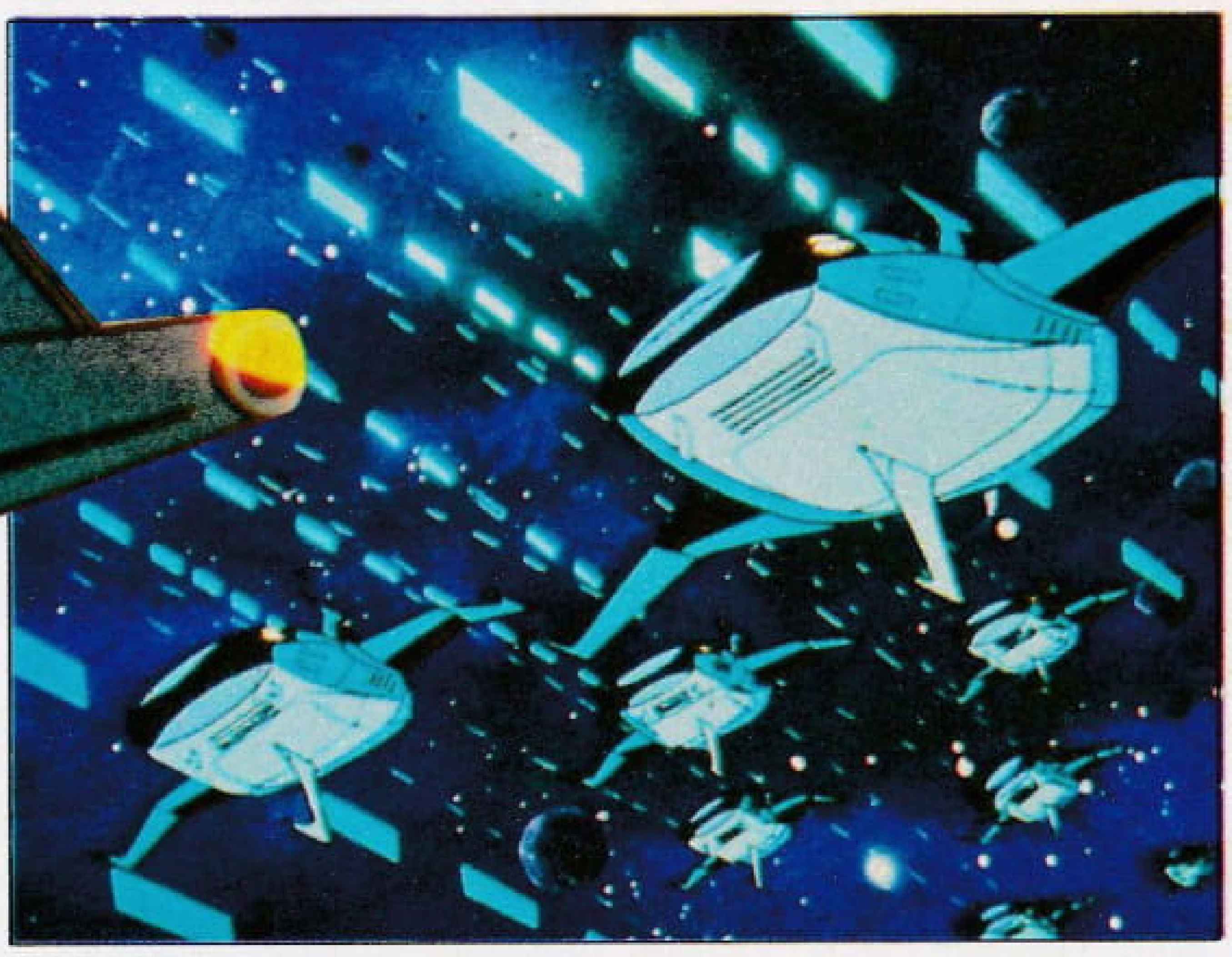


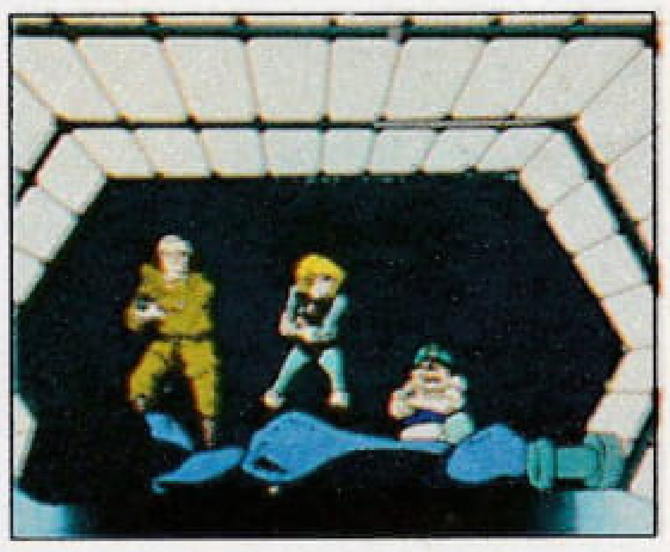


長官死す、そして……

ハーロック、私はお前が憎い！私の夢を破った男が！マゾーンの未来を邪魔した男が憎い！

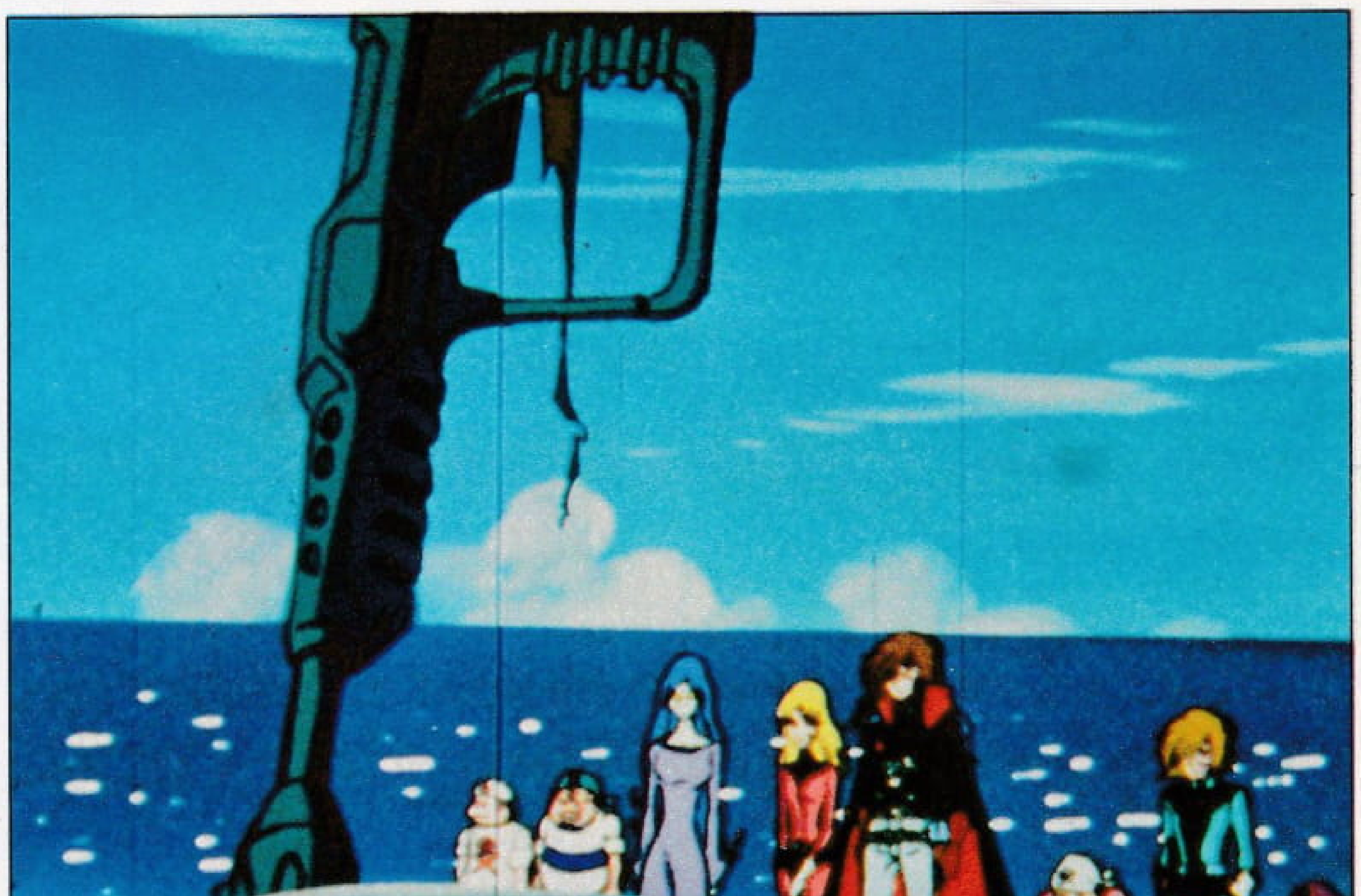
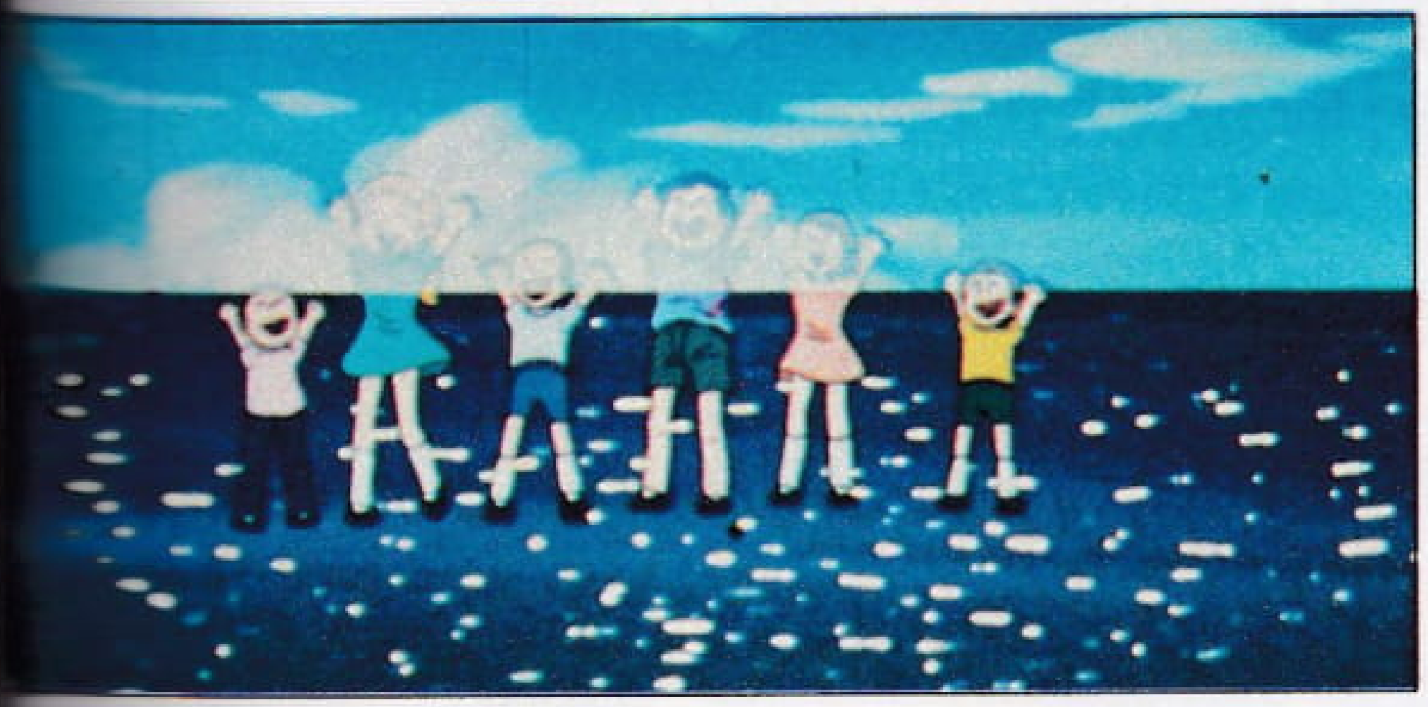


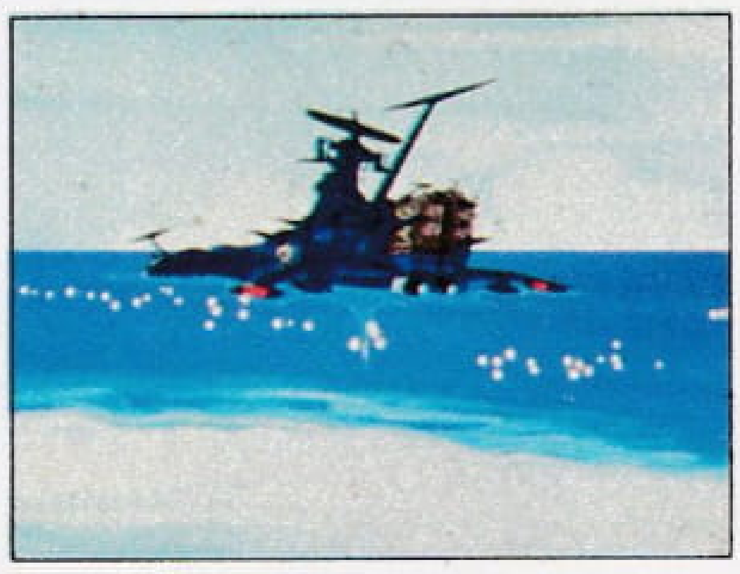








まゆに別れを告げたキャプテンハーロックと40人の海賊は、新たに傷ついた切田長官を塔乗者に加え、一気に雌雄を決するべく突き進んだ。アルカディア号は、外に無敵を誇るマゾーンの前衛艦隊、内に百戦錬磨の白兵戦部隊を迎えて、かつてない最大の危機に直面する。だがそんな時、突然の木星重力の大変動によって、前衛艦隊の猛威から見事に脱出。しかし白兵戦部隊からアルカディア号を救うのには、切田長官の尊い犠牲があった。そしてアルカディア号はついに女王ラフレシアの居城、旗艦ドクラスと遭遇したのである。

地球の未来を守ろうとする宇宙の無法者と、地球への集団移住を目的とするマゾーンの女王が、幾度となない激戦を重ね、くぐりぬけてついにここに対峙した。使命のために、目的のために一歩も退けぬ、命を楯にしようと決意した二人であった。マゾーンの亡霊が、ハーロックに襲いかかる！



宿命の対決

勝った方があの星を……



第42話

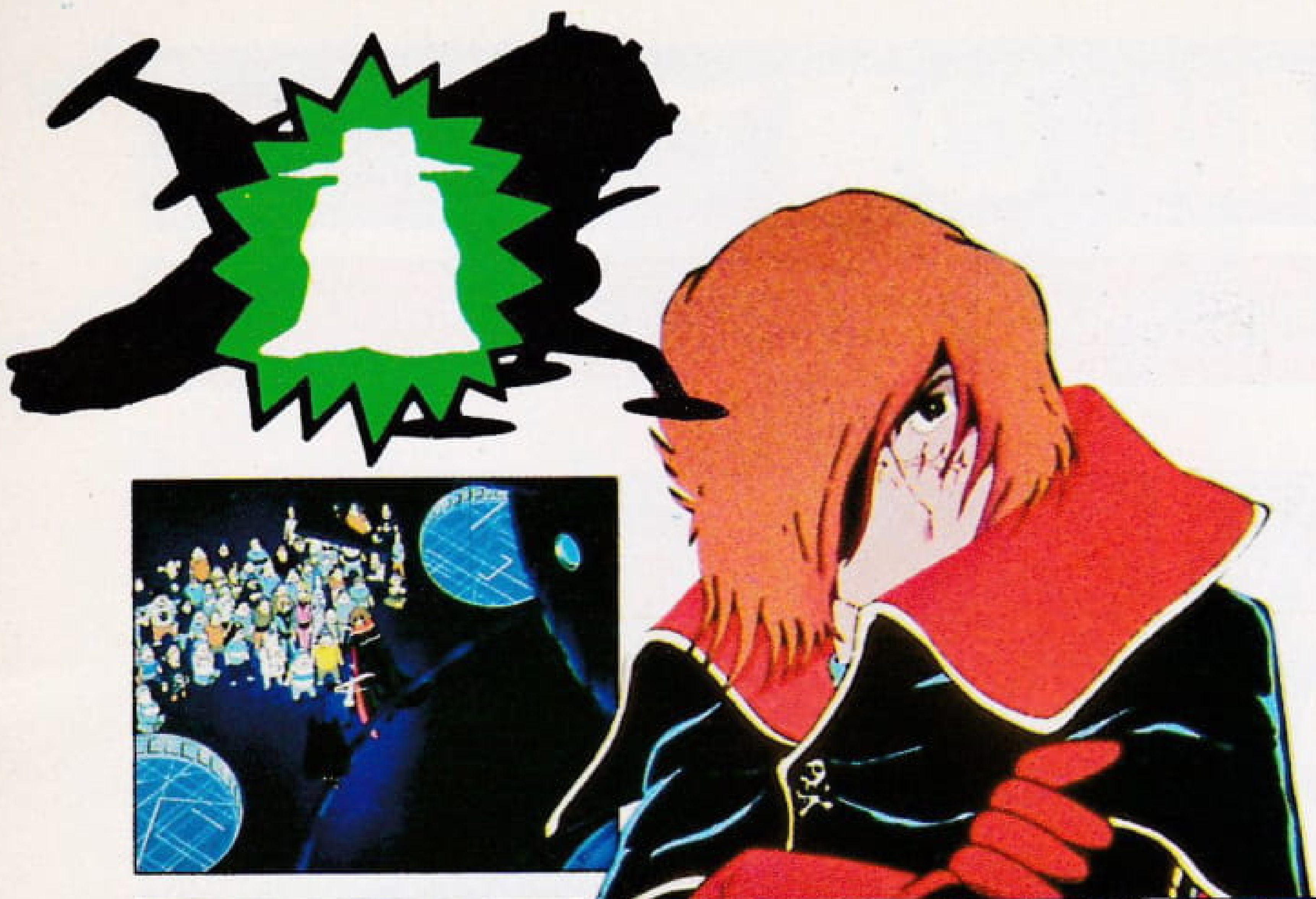
ックの決闘が開始された。人類にとっても

マゾーンにとっても、史上最大の運命を背負った一戦だった。――地球は闘いを冷静に見守るように、2人に光を投げかけている。

激しい剣の応酬の末、ハーロックの剣先が女王の服を切り裂き、剣をはねとばした。そして、なんとラフレシアの斬られた胸の傷からは、赤い血がにじみ出ていたのだ！植物の高等生命体であるマゾーンの体から何故赤い血が？　敗北を認めたラフレシアは謎の言葉を残した。

「わたしは…去る……」と。

マゾーンの大キャラバン隊は、旗艦ドクラスを先頭に大きくUターンをはじめ、それを見送る、傷つき果てたアルカディア号は故郷、地球へと艦首を向けた。――ハーロックは決心した。これからが本当に地球を若い力で建てなおす時だと。だが……。







戦いの果てに

私は去る……どういう意味だ!?

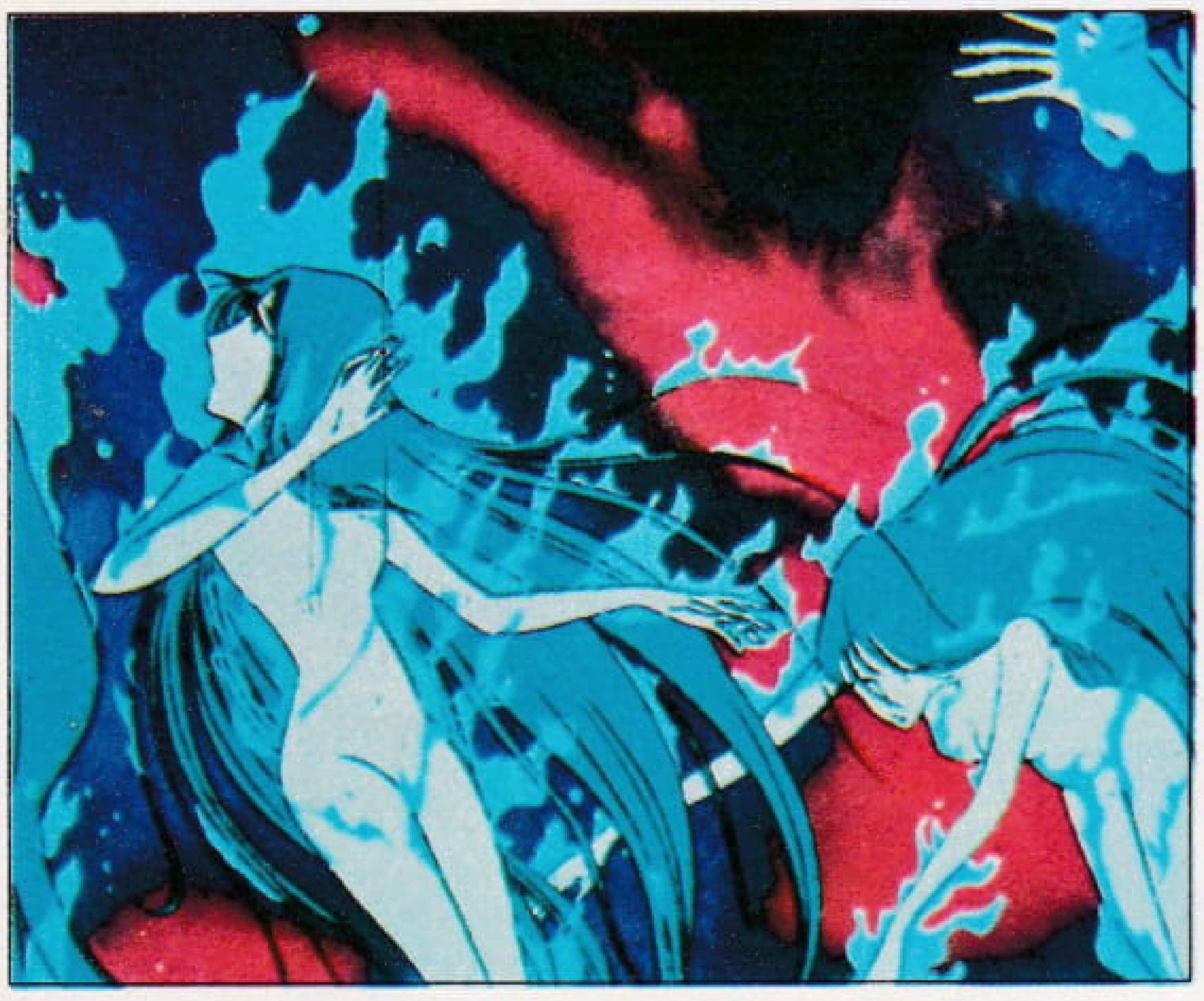


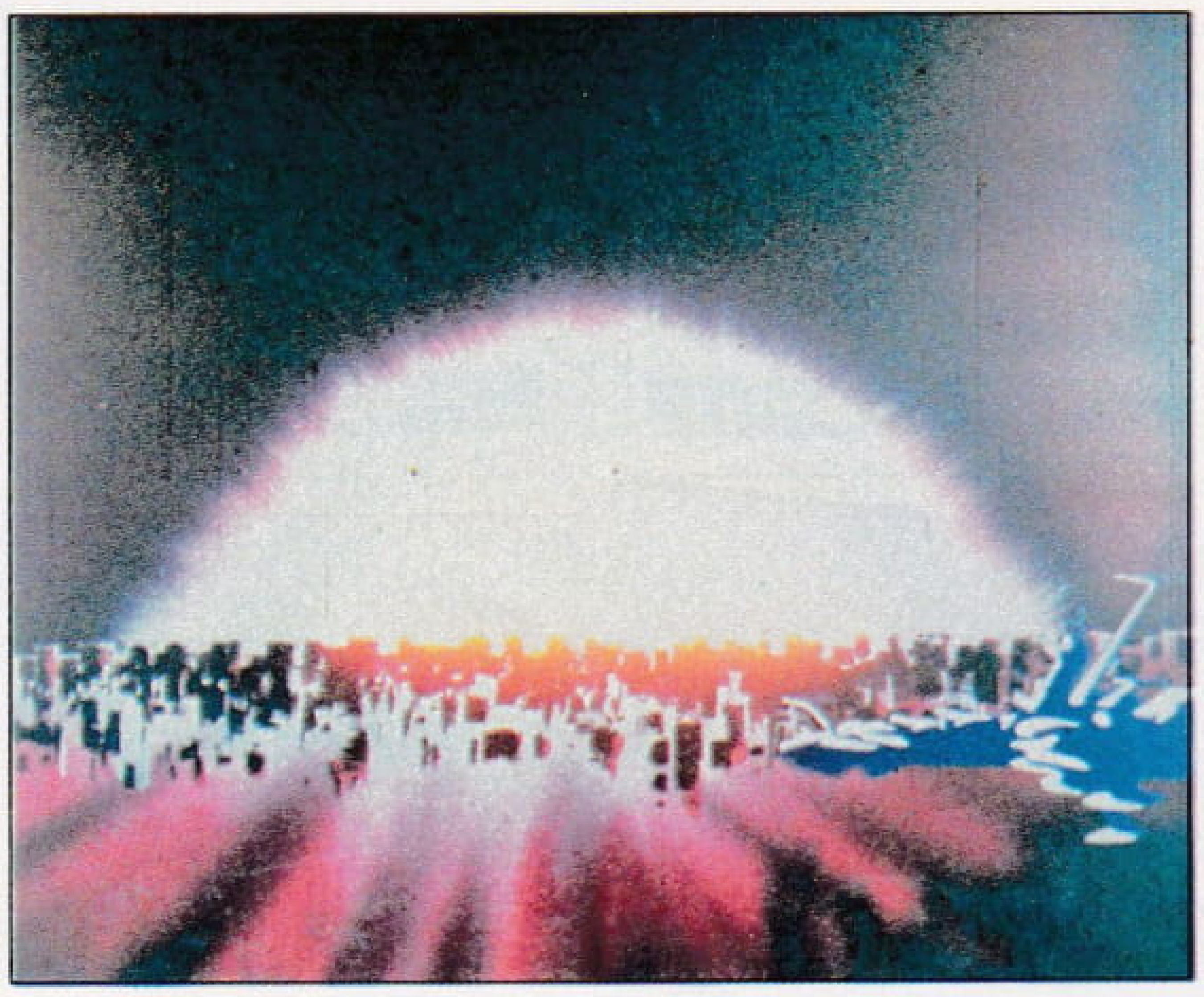
ーベルは、はやらんよ。」

マゾーンが去った今、むしろハーロック達は地球連邦政府にとって只邪魔なだけの存在であった。40人の海賊達は、全てZナンバーがつけられ、地球での市民権は与えられなかった。自分達が命を賭けてやった大地に住む事ができない……一体何のための戦いだったのか？　正達は憤りを抑える事はできなかった。

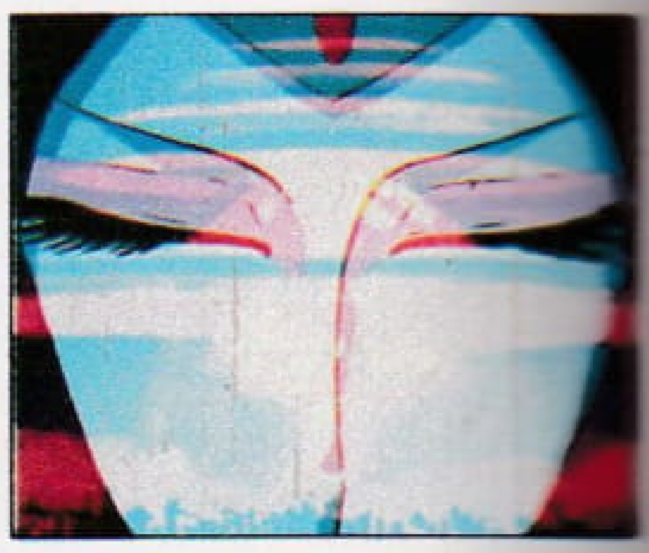
そんな時突然、地球に潜入していた全世界のマゾーンが一斉に決起した。――四方に七色の虹を発し出すペナント。ハーロックは女王の最後の言葉の意味をようやく理解した。私は去る。しかし、地球にはまだ潜入部隊がいる……その意味だったのだ。ハーロックは、アルカディア号の全ての砲をペナントに向けてエネルギーブレットを発射した。世界各地のマゾーンはエネルギーを失い、全ては終わりを告げた。























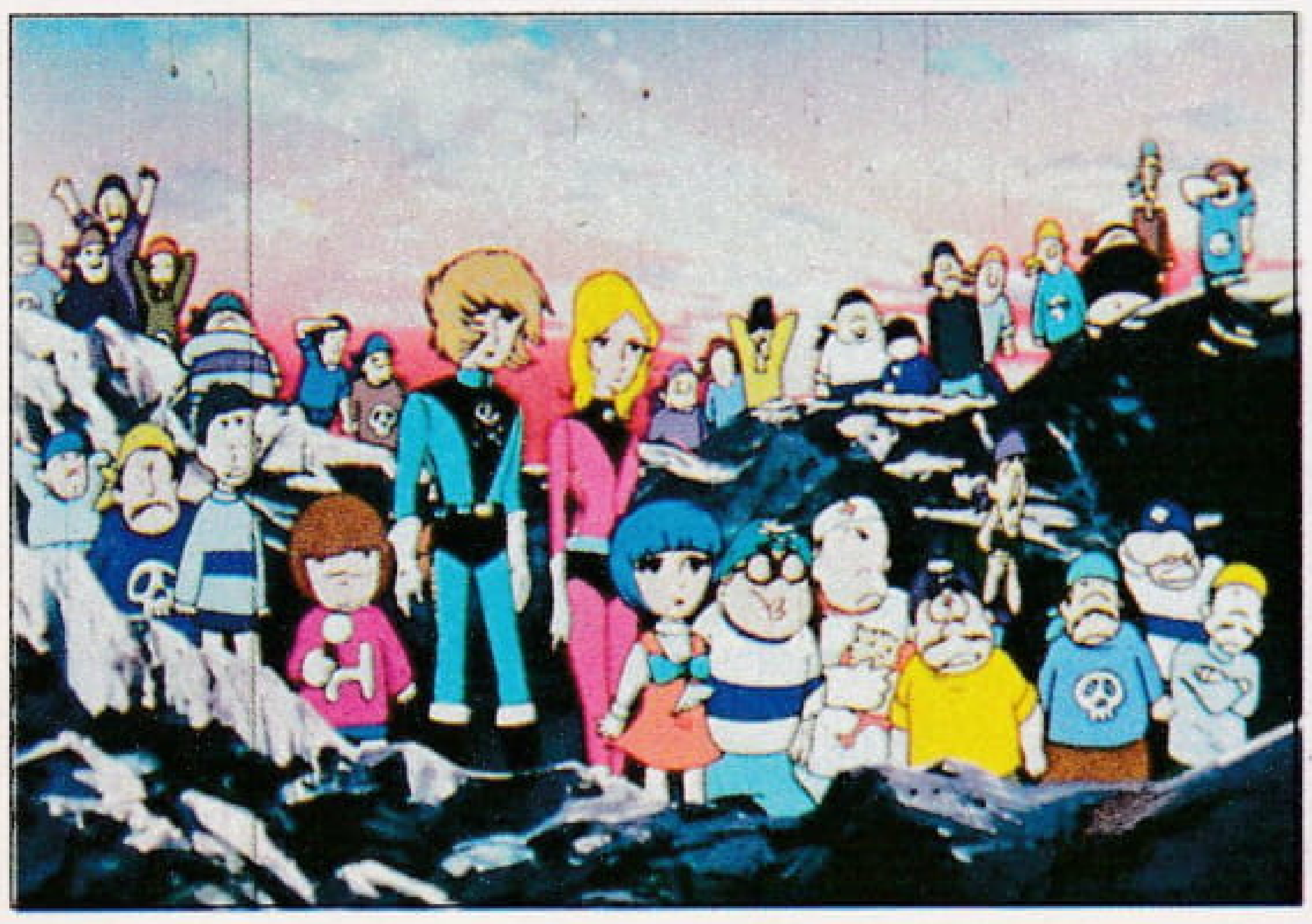


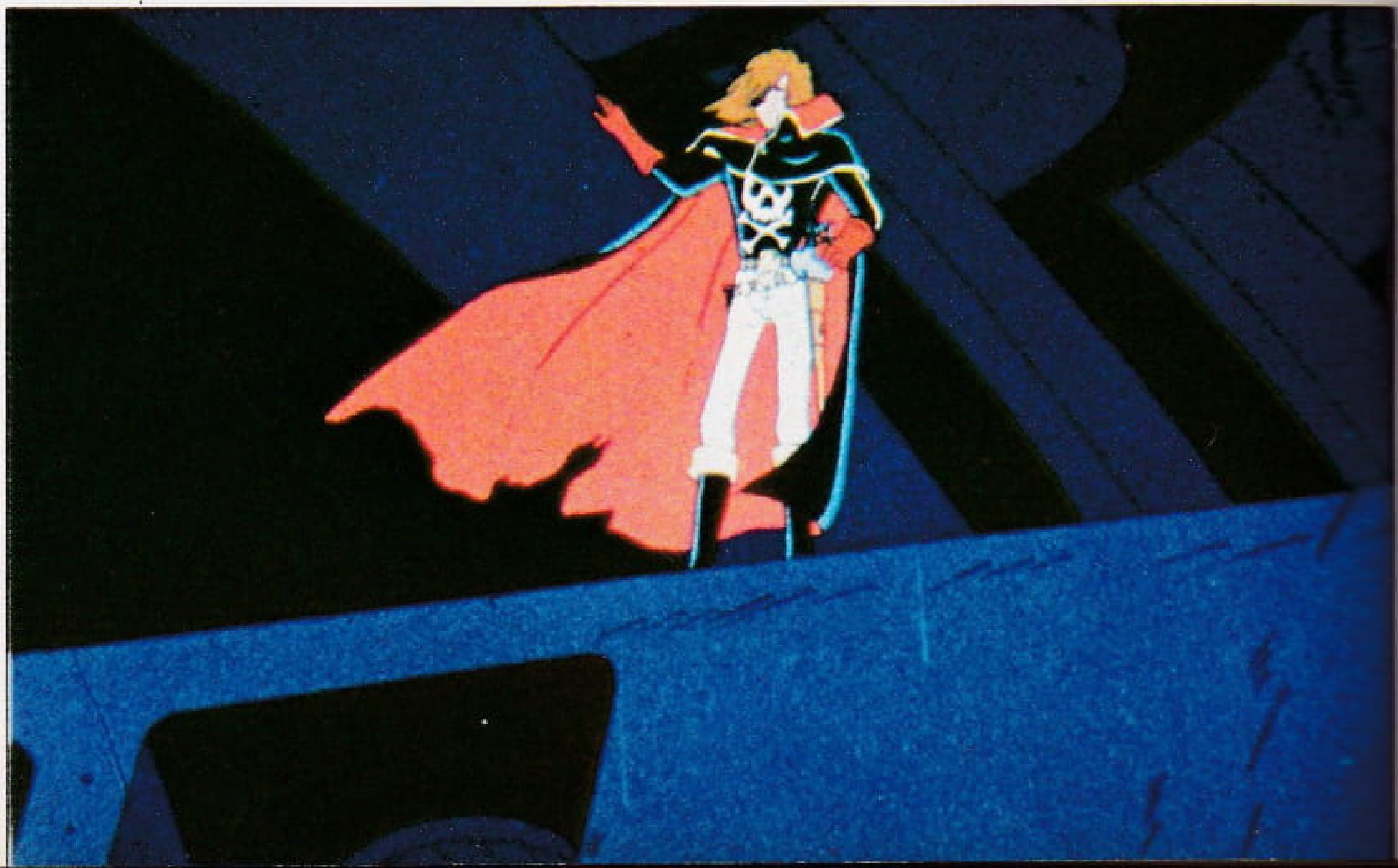












EPILOGUE

さらば宇宙の無法者

仲間達を後にしてアルカディア号は、上昇を始めた。まゆはその姿が見えなくなるまで、いつまでもいつまでも見送っていた。

「さよなら、ハーロック。さよなら、お父さん……」

台羽正の、有紀螢の、まゆの、そしてマゾーン大キャラバンの次なる出発はここから始まる。そこにはまた新なるドラマが展開される事になるだろうがこの物語はここで終る。——時に西暦2979年。かくして宇宙の無法者キャプテンハーロックは、わが友とともに宇宙の彼方へと消えて行ったのである。























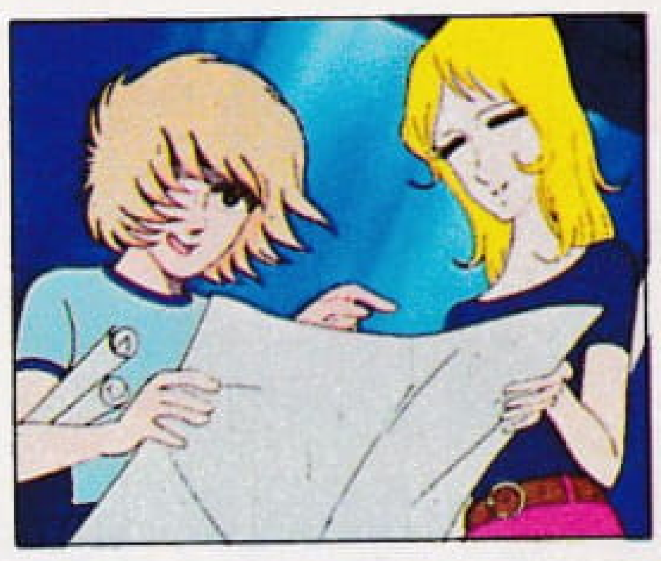


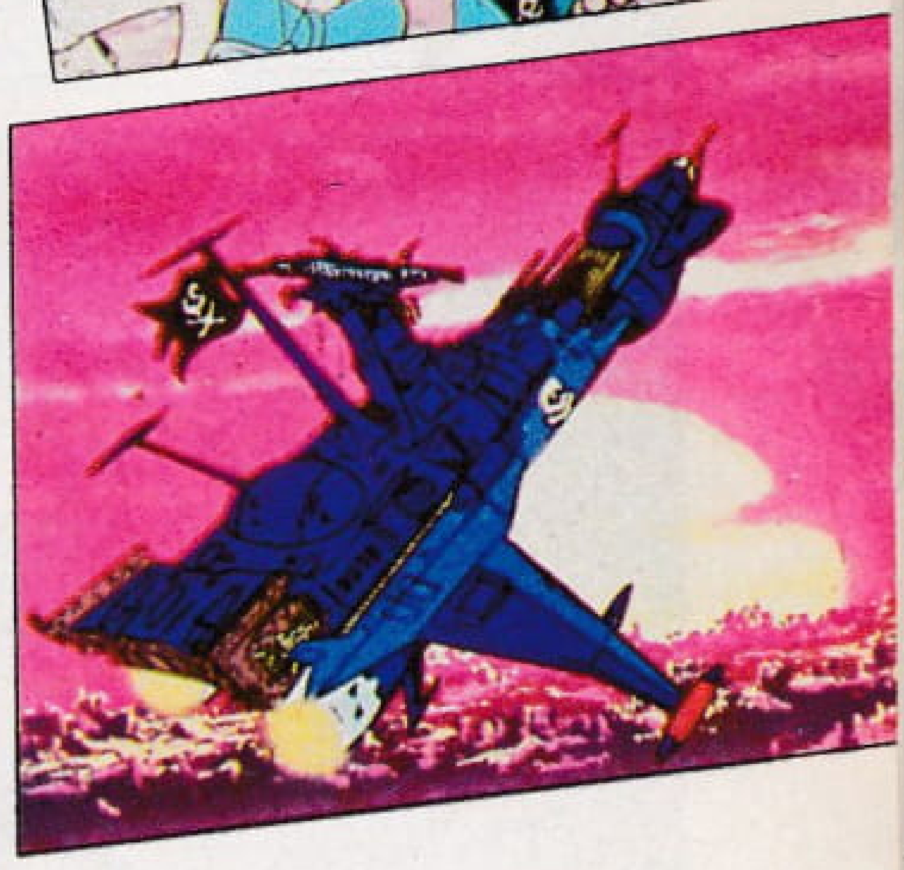






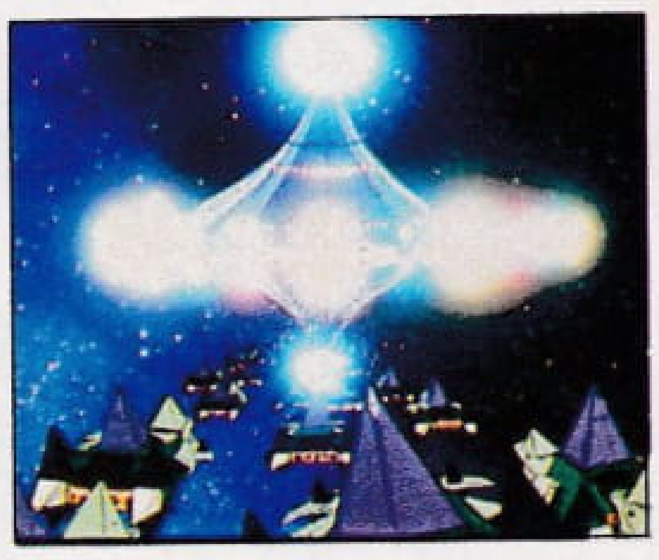








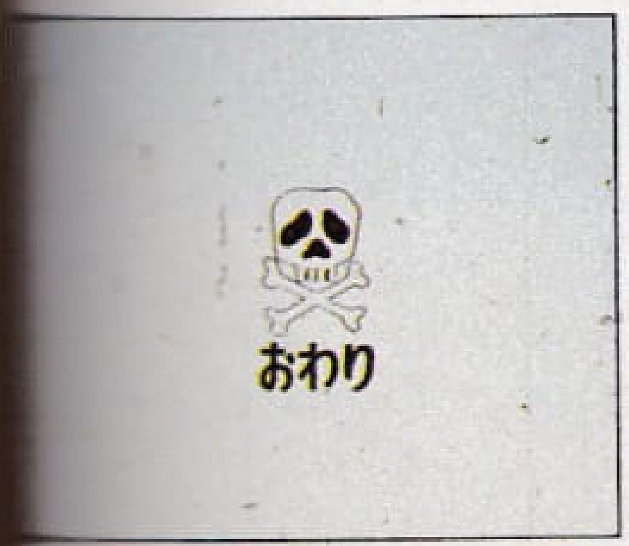








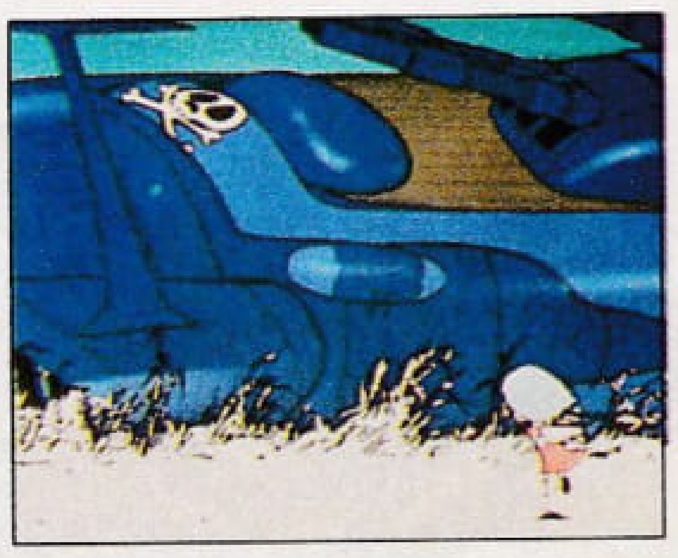
ENDING











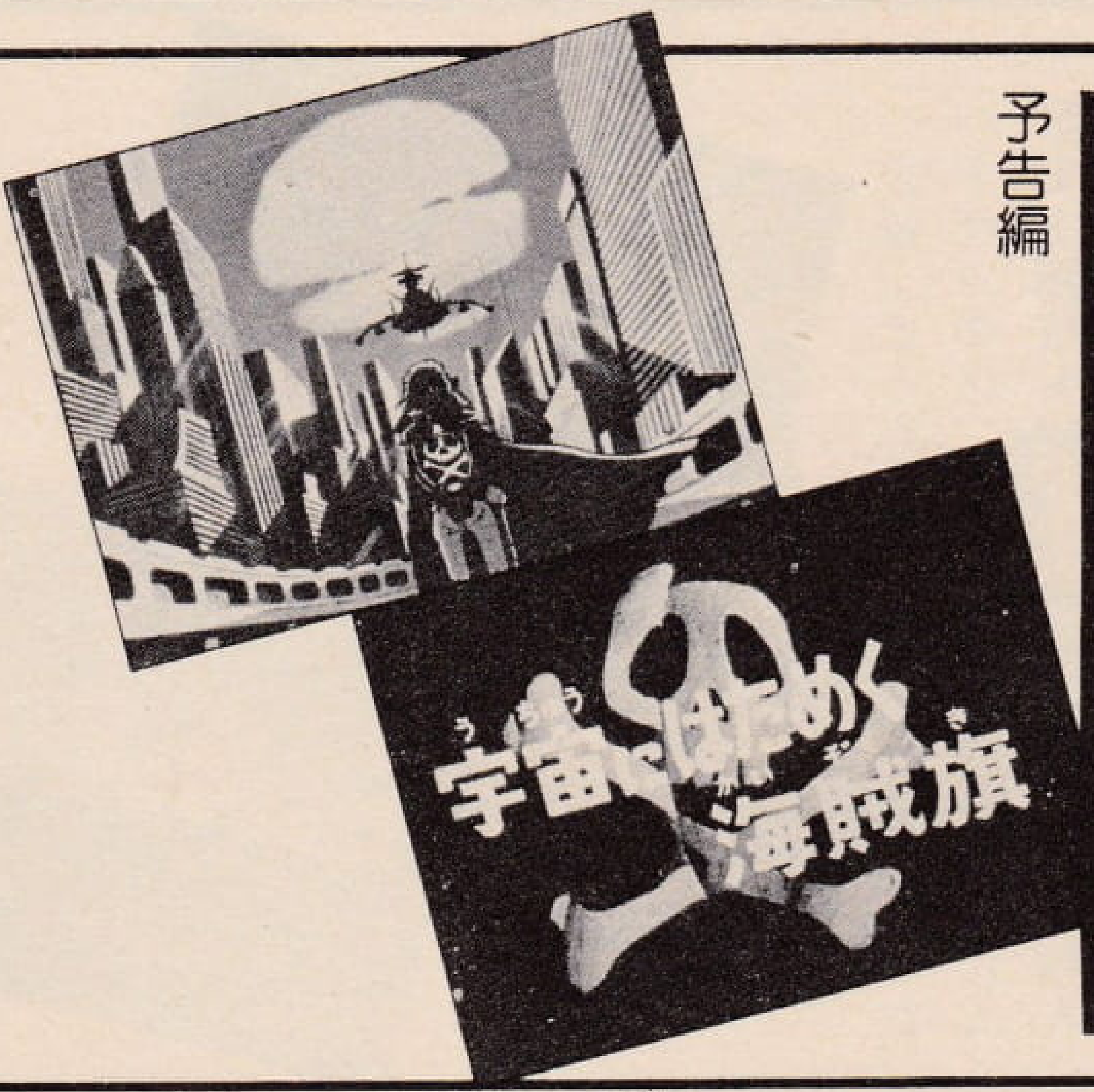
CAPTAIN HERLOCK

全42話ストーリー＋予告編

第1話 「宇宙にはためく海賊旗」

西暦2977年
この時代地球は平和であった。だが、人類の未来に危機を感じ、宇宙の海へ乗り出していった男がいる。その名をキャプテン・ハーロックと人は呼ぶ。

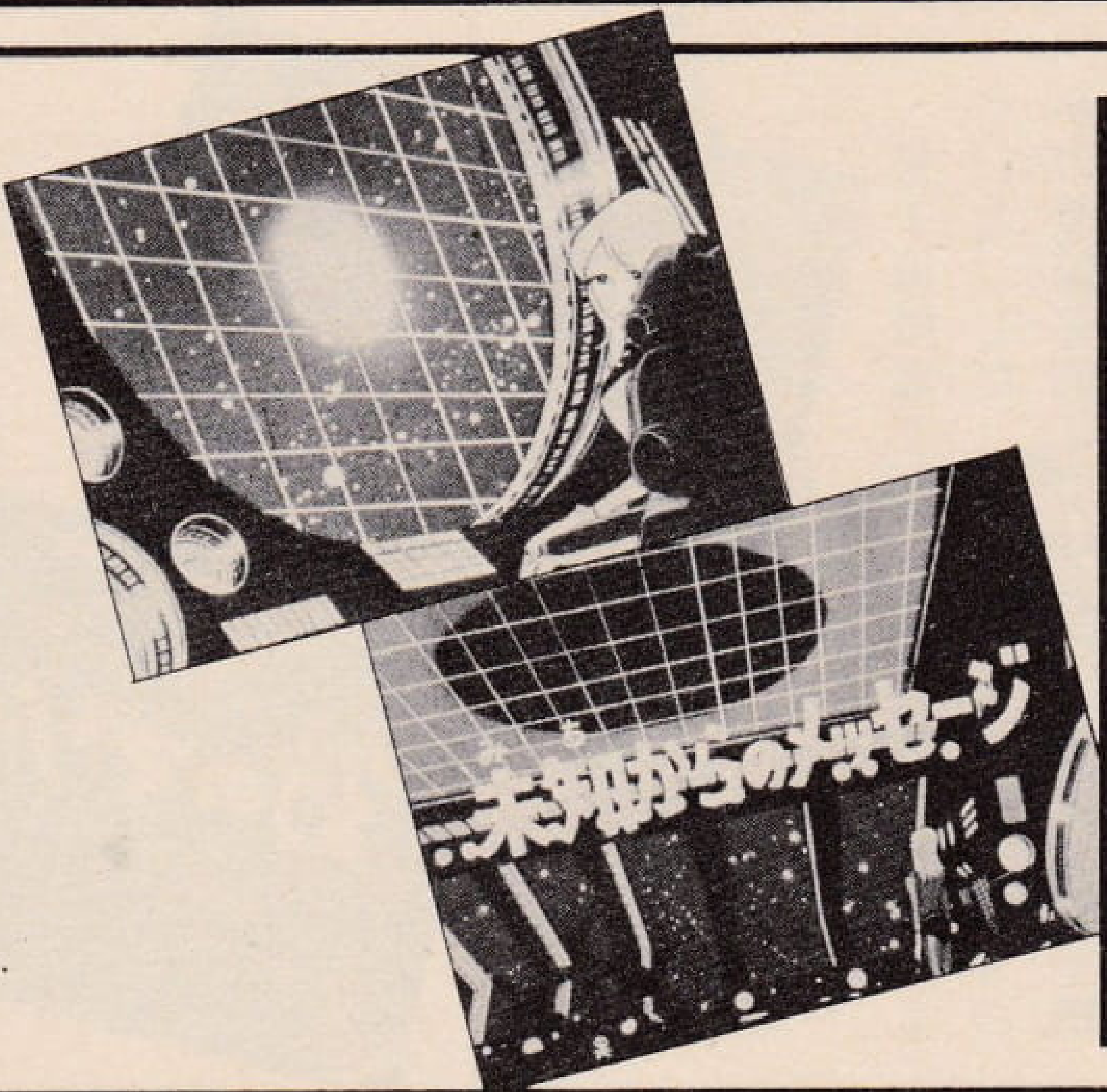
予告編



地球政府に反抗して海賊旗を翻したハーロックは、輸送船を襲い略奪の日々を送っていた。しかし彼は、年に1度かならず地球へ降りてくる。親友の娘まゆの誕生日に。連邦軍の切田長官は、この日、待ちぶせして、ハーロックをつかまえた。心配するまゆをなだめたハーロックは、処刑場へ。人々が見守る中、銃口が彼に向けられた。その時、アルカディア号が夕日の中から姿を現わし、ハーロックを助け宇宙へ向った。

第2話 「未知からのメッセージ」

刻々と地球に近づく謎の物体。だが、地球政府は迫りくる恐怖に全く無関心でいた。そして今、ハーロックの目の前で、その物体は舞い降りようとしている。だらけきった地球へ——。



第7宇宙船団が、マゾーンの攻撃を受け全滅した。ハーロックの仕業と信じる切田長官は、まゆに手紙を書かせ、ハーロックを罠にかけようとする。それを拒否したまゆは、礼拝堂の床磨きを命ぜられ、谷まで、わき水を汲みに行った所を野犬に狙われるが、ハーロックに助けられる。切田長官に、オカリナを、屋根に上げられたまゆは、取ろうとして、屋根に登るが、その時、黒い球体が大地に突き刺さり、爆風で飛ばされるが、奇跡的に助かる。

第3話 「紙のように燃える女」

はるか未知の宇宙から飛んできた黒い球体。その謎の正体を調べていた台羽博士はマゾーンに消された。地球人に紛れ込んでいるマゾーンとは——。



台羽親子の回りに、黒いカゲが付きまとっていた。台羽博士は、中央研究庁で、消された。父の死体の前で殺されかけた正を、ハーロックが助けた。次の日正は、中央空港で、アルカディア号の内部を案内されている時、マゾーンの武装偵察隊を発見し、宇宙へ飛び出した。正は、アルカディア号があまり気に入らない様子だった。そんな正にハーロックは言う。「真の男ならこの艦に乗れ、そして自由の旗の下で俺たちと共に戦え」と……。

第4話
「自由の旗の下に!」

地球の危機をとらえたクスコ教授もまた、マゾーンに消された。ただ一人残った正は、ハーロックとともに、マゾーンに立ち向かおうとするが、地球防衛軍につかまってしまった。

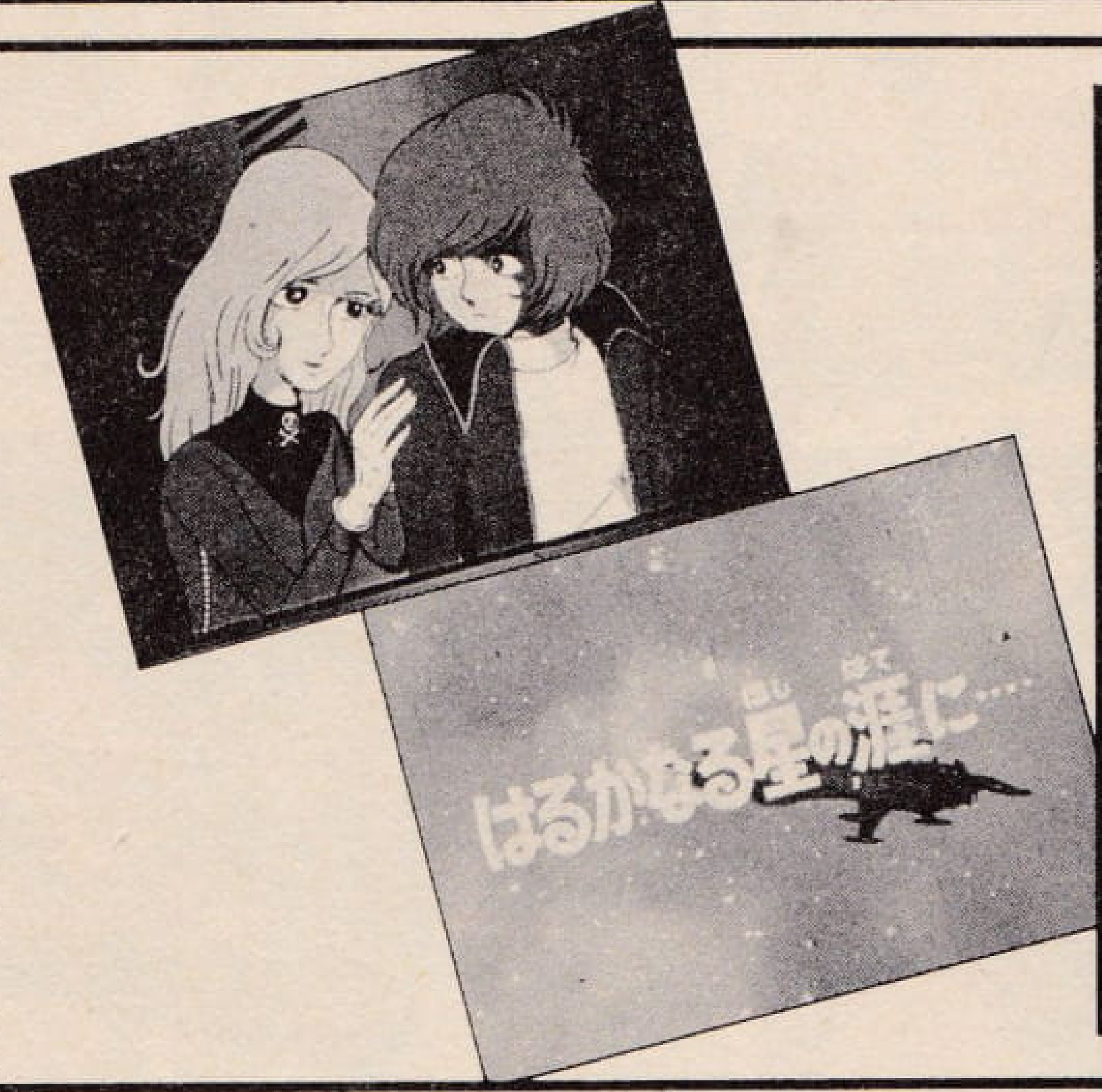
予告編



アルカディア号を降りた正は、クスコ教授と再会した。しかし、切田長官に反逆罪で捕まり、監獄へ入れられてしまう。ハーロックを暗殺しろと言う首相。そんな人々に絶望する正は、連行途中で逃げ出す。マゾーンと連邦軍からのがれながら、正は、アルカディア号に乗ることを決意する。正を迎えに来たアルカディア号とハーロックに、正は誓う、「自分の信ずるもののために戦う」と。アルカディア号は、正を乗せ、無限の宇宙へ船出した。

第5話
「はるかなる星の涯に……」

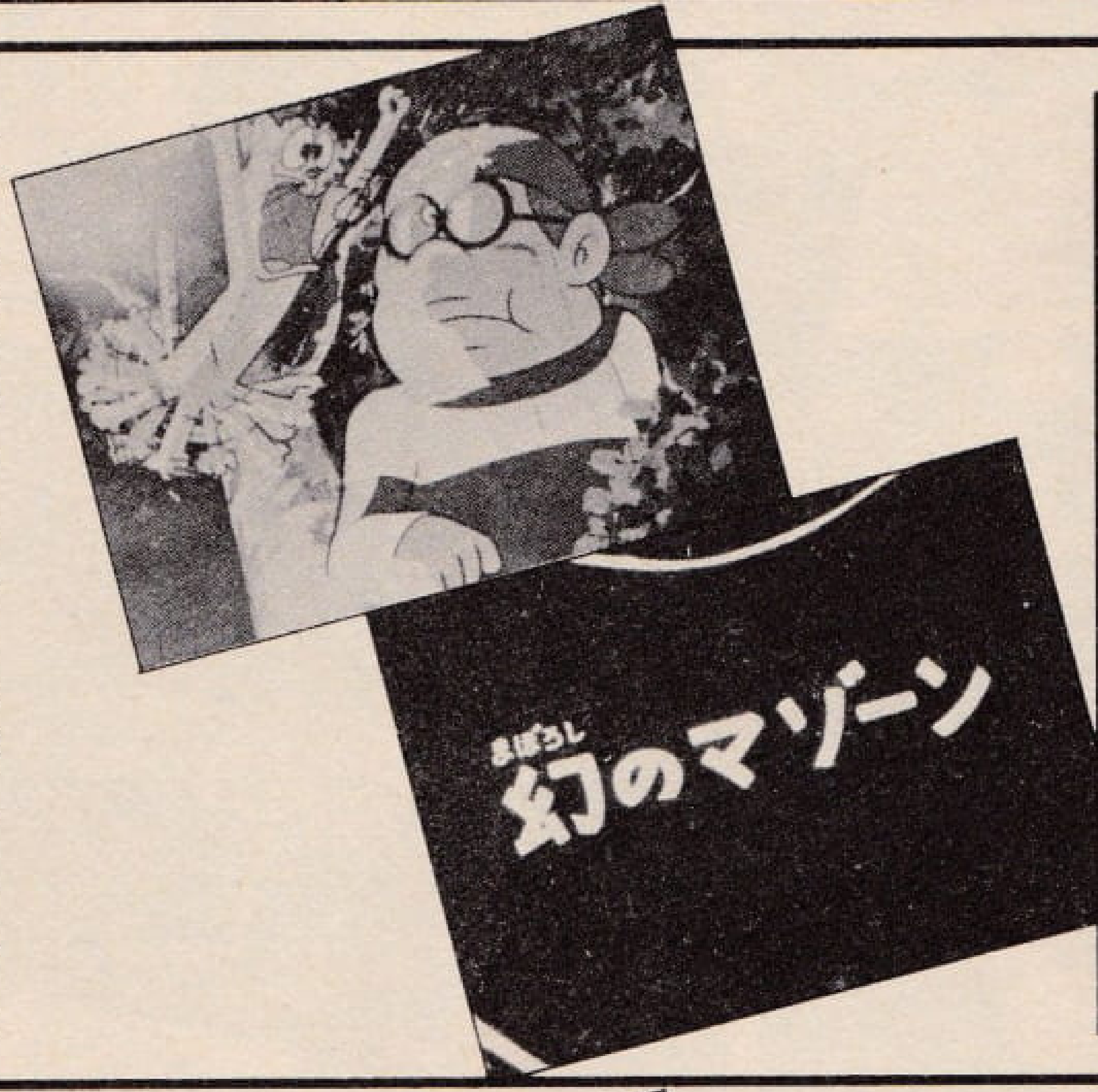
正が乗り出した宇宙は、あまりにも無限だった。宇宙病による幻覚に苦しむ正。その時、マゾーンの攻撃が!ハーロックとともに戦う正の長い旅が、今はじまる。



正は、ぐうたらな船員に不満を感じた。ハーロックは、運搬船を攻撃した際に人形を1個持ち帰ったが、その人形は殺人人形で、口から銃口をのぞかせハーロックを狙うが、失敗し爆破される。正の幻覚が悪化し船室にとじこめられている時、アルカディア号は、マゾーンの攻撃を受ける。船員の戦いぶりを見た正は、正気に戻る。マゾーンを撃破したハーロックは、マゾーン戦士を1名捕らえるが、所属部隊と名前を名のると自爆してしまう。

第6話
「幻のマゾーン」

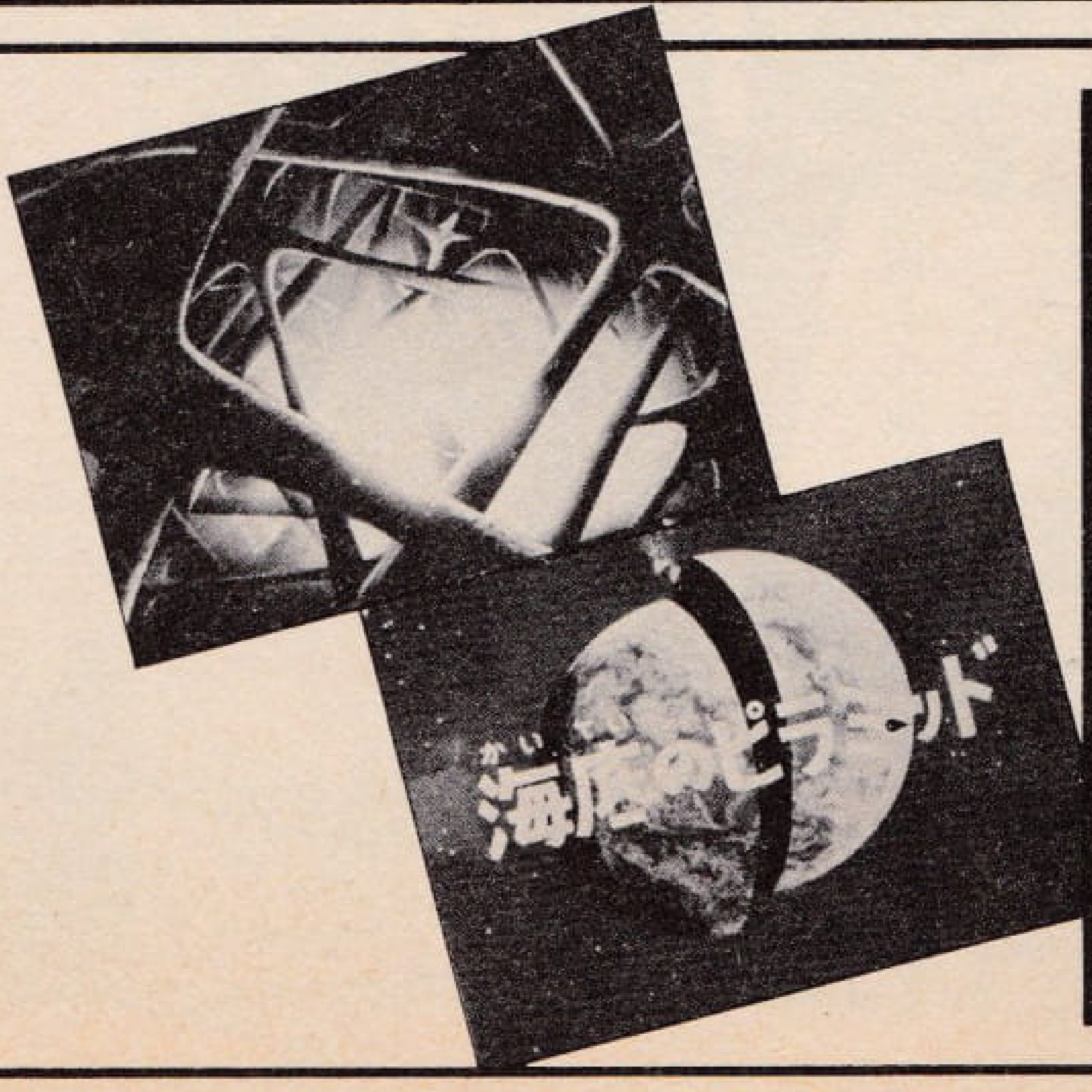
戦いの日々の中、ひとときの休息を求め海賊島に向かうアルカディア号。だが、人工の海面に突如出現した巨大な要塞。そして、マゾーンの女王・ラフレシアの姿が……。



第1海賊島で、正たちは楽しくすごしていた。ただ一人ハーロックは、何ものかの視線を感じていた。まゆからの手紙を読んでいる時、ハーロックは、黒い影を見た。逃げる影を追ったハーロック達は、海面に出現した要塞の上に、ラフレシアの姿を見た。正の撃った銃で、要塞は爆発を起こした。誘爆する海賊島から脱出しようとするアルカディア号。だが、マゾーンの罠で、ゲートが開かない。エネルギーブレッドで破壊し間一髪、脱出した。

第7話
「海底のピラミッド」

地球がずれて見える。原因を探るべく、アルカディア号は、魔のバミューダ海域へ。暗黒の海底に、謎のピラミッド。その奥に眠る美女が、ハーロックを引き寄せる。



バミューダー海域の海底ピラミッドの眠れる王女をそのままのこし戻ったハーロックを、非難し、一人海底に潜る正。その正に海草が襲う。ハーロックは、海草を調べ、同じ物が都市にあることをつきとめた。都市部のマゾーンを次々に暗殺していくハーロック達、まゆの学校の舎監もマゾーンだった。切田長官は、まゆと共にハーロックを殺そうと総攻撃してきた。地下室にとじ込められたハーロック達だったが、アルカディア号に助けられた。

第8話 「女王の宇宙艦隊」

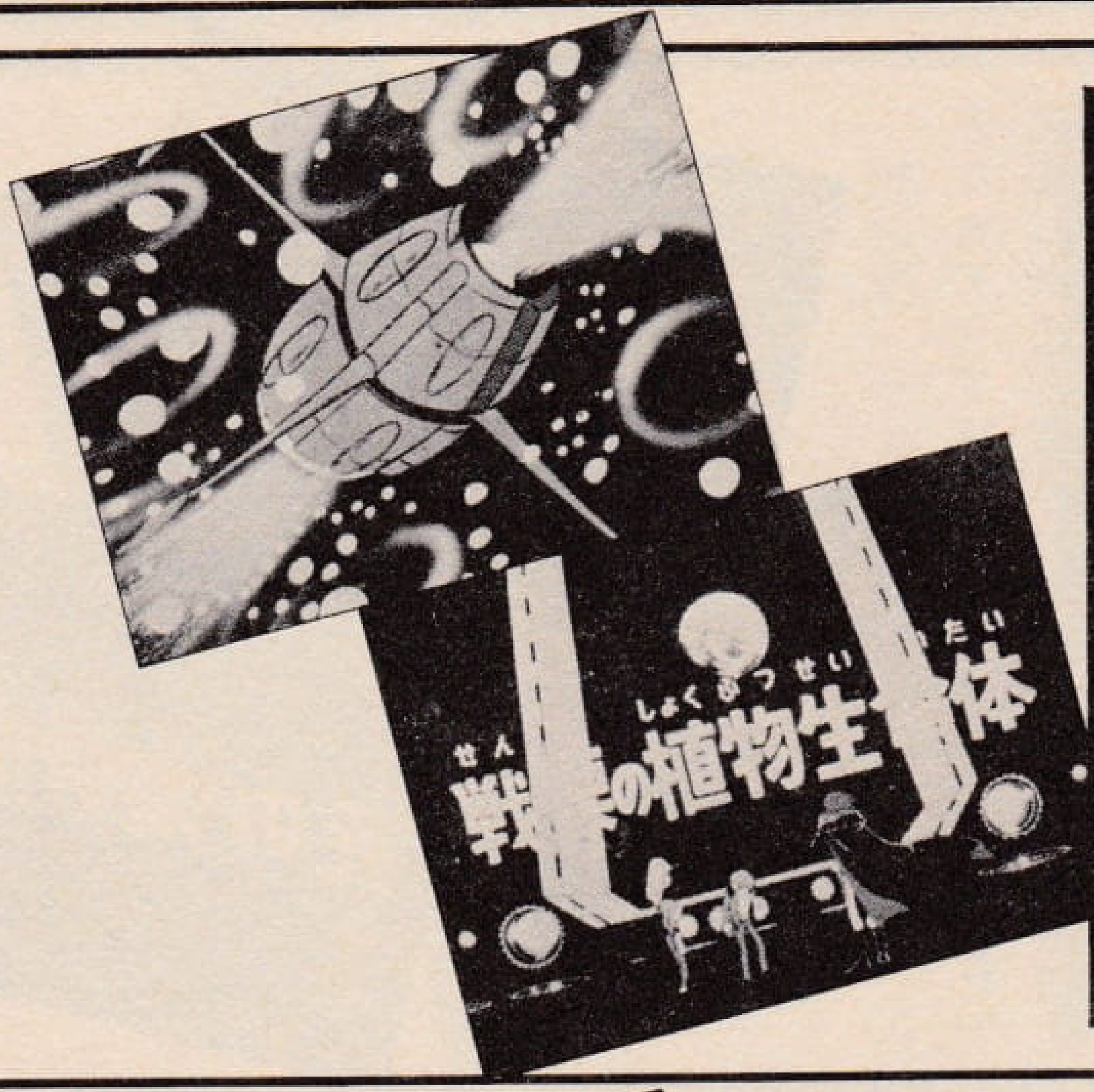
ハーロックはマゾーンの将校をとらえた。正の非難を背に、マゾーンを逃がすハーロック。そして追う正。その時、マゾーンの大艦隊が姿を現わした。



再び宇宙へ乗り出したアルカディア号は、マゾーンの高官を捕らえた。しかし何故か逃がすハーロック。正は、マゾーンを追い撃破した。だが正のボレットも破片を受け故障してしまった。苦しむ正。アルカディア号に助けられた正は、記憶喪失にかかってしまった。その時、マゾーンの攻撃を受けたアルカディア号は、これを撃ち破った。その戦闘の中、正は、記憶を取り戻した。

第9話 「戦慄の植物生命体」

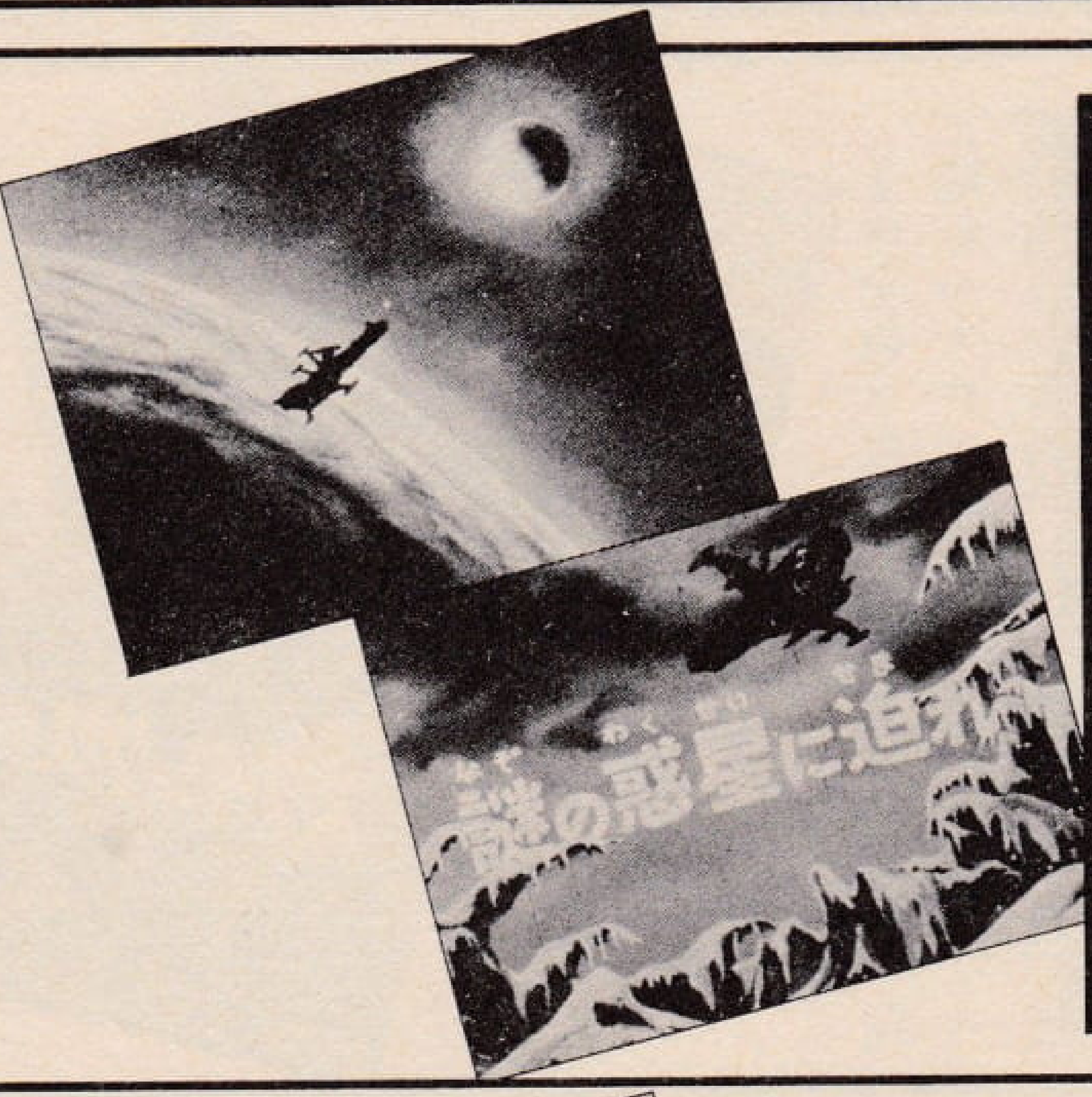
古代遺跡周辺の植物群に、マゾーンの謎を解くカギが隠されていた。南米の大樹海に下り立ったハーロックと台羽正に、戦慄の植物生命体が襲いかかる！



正たちは、マゾーンの防害に会いながらも連邦博物館から火炎土器を持ち帰った。ハーロックは、中枢大コンピューターを駆使し解読するが、拒否反応を起こしショートした。ハーロックは、アルカディア号を南米の大樹海へ向けた。地上へ降りたハーロックと正は、目覚めたマゾーンに取り囲まれた。必死に反撃したが、二人共地面に叩きつけられ、銃を向けられた時、スポット降雪器の雪が降って来た。マゾーンは、木に還り、二人は助かった。

第10話 「謎の惑星に迫れ」

マゾーンの基地が金星に隠されている。ハーロックは、その基地を探るため金星に向かった。次第に解明されていくマゾーンの謎。



大樹海を攻撃する正を、なだめ、再び宇宙へ出たアルカディア号は、マゾーン母艦と遭遇した。戦闘中、正は、マゾーンの戦士ローラに0・3秒の遅れを取り、敗けた。アルカディア号は、ラムで母艦を破壊した。その破片に付着していた泥から金星に基地がある。ハーロックは金星に向かった。今、ハーロックとラフレシア、マゾーンと正の宿命的とも言われる新たな戦いが展開しようとしていた。時に西暦2979年5月30日のことであった。

第11話 「ローラが金色に輝く時」

アルカディア号の捕虜となって、台羽正に接近するマゾーンの美少女ローラ。ローラの体が金色に輝くたびに、台羽正は恐るべき罠にはまりこんでいく。

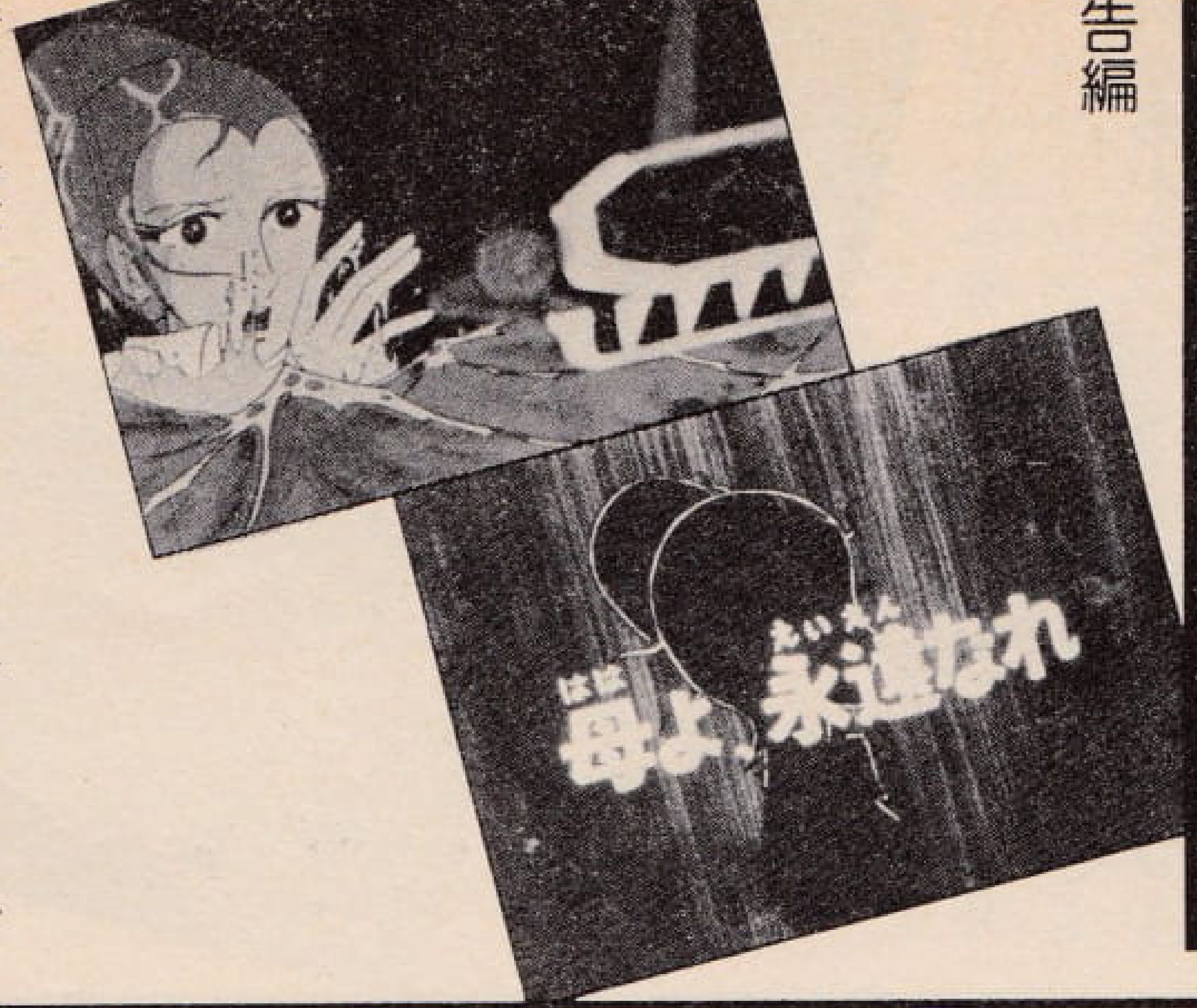


金星に向うアルカディア号は、隕石にぶつかり破損したマゾーン機を見つけた。全員燃えつきている中、只一人ローラだけが生きていた。ローラを預けられた正は、ローラの催眠術にかけられ、ローラが、死んだはずの母の姿に見えて来た。正が術中にはまりこんでる間にアルカディア号は、金星の大気圏に突入した時、正は、ローラをボレット1号で金星へ逃がしてしまった。アルカディア号の知っていることすべてを話して。

第12話 「母よ、永遠なれ」

人の心をもて遊ぶマゾーン、その秘密を探るためアルカディア号は金星に着陸した。その時、再び台羽正の前に母の幻影が——。

予告編



特別訓練室にとじこもる正をよそに、アルカディア号は、化石大陸の中に昔のマゾーン基地を発見した。基地内から資料を持ち出し、発進した時、マゾーンの母艦ピラミッダが、姿を現わした。戦闘中、正は、ローラを見つけ追う。だが再び、正の前に、海でおぼれている母の姿が、写った。とまどう正の頭にハーロックの言葉が響いた「これで三度目だぞ」。正は、母の幻を乗りこえ、ローラをしとめた。

第13話 「死の海の魔城」

謎の信号をキャッチしたアルカディア号は、サルガッソ海に向かった。突如出現した幽霊戦艦。死の海の底深く、はるかな過去の世界を支配する魔女アマンとは——。



死の海、サルガッソ海へと導びかれたアルカディア号は、そこで一千年も昔の武蔵、伊号潜艦等と戦いそれらの亡霊を撃退する。この幽霊船の謎を追って、異様なドーム——一年を一日として深い眠りに閉ざされた魔女アマンの世界——に侵入したハーロック達にも、アマンの甘美な睡魔が襲う。次々と倒れる乗員達。「友よ！」ハーロックの叫びに無人のアルカディア号が動く。危機を脱したハーロックは、アマンとその魔城を破壊するのだった。

第14話 「スフィンクスの墓標」

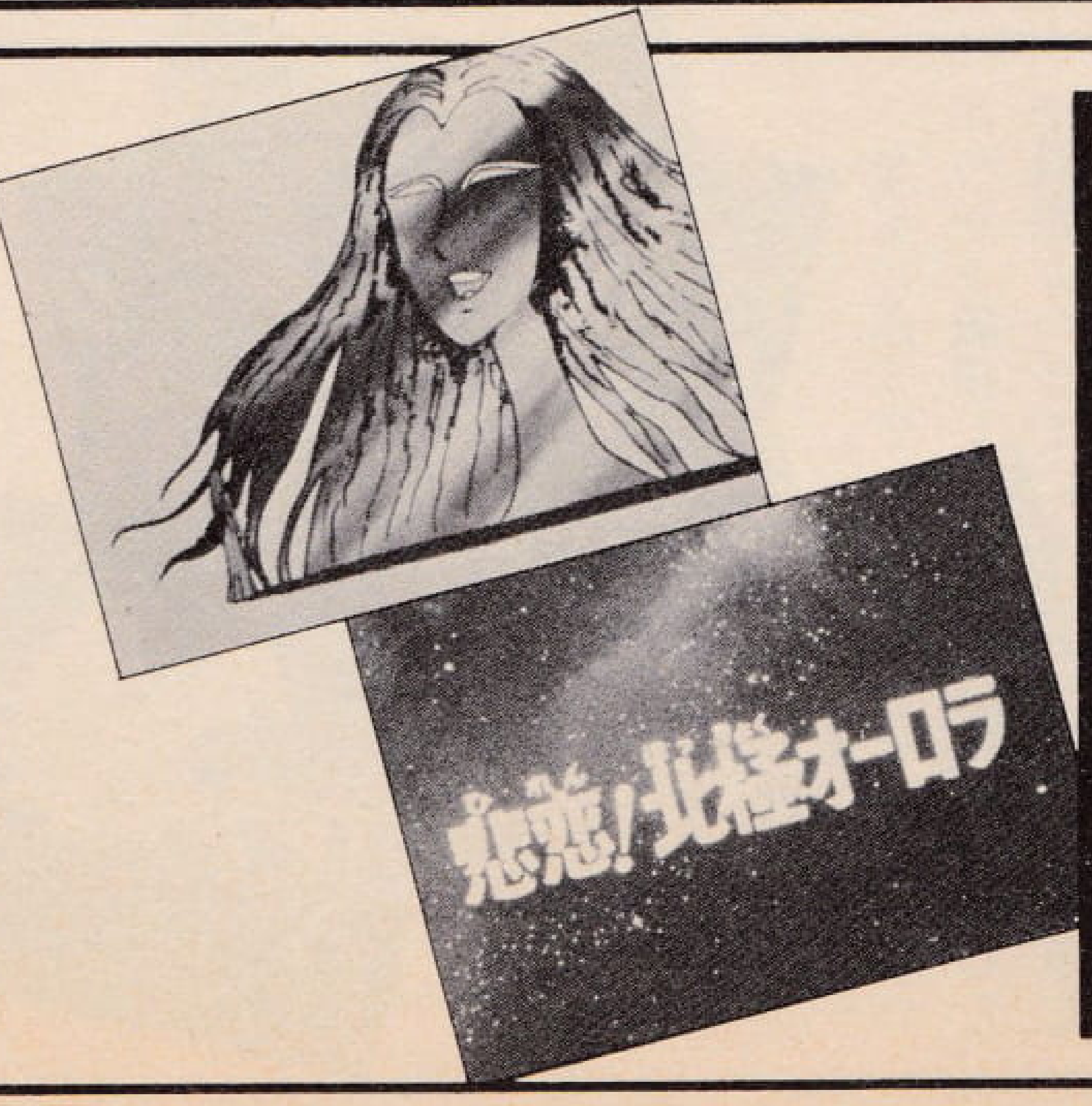
まゆを誘拐した切田長官は、エジプトの砂漠にひとりハーロックを誘い出した。灼熱の地獄にまちうける必殺の罠。



まゆを救うため、切田長官の砂漠の罠に挑むハーロック。一方、スフィンクスで待ちうける長官はサソリに刺され、逆にハーロックに助けられる。が、五千年前の遺跡—孤児となった長官のたった一人の妹の墓標の立つスフィンクスはマゾーンの要塞だった。長官は、マゾーンの超兵器でアルカディア号を死霊の谷深くうずめる。と、誰の操縦もなく脱出するアルカディア号。要塞は破壊され、ハーロックとまゆは救出される。

第15話 「悲恋！ 北極オーロラ」

吹きすさぶブリザードの中で、愛と憎しみにゆれ動く7色のオーロラ。そこには、ひたすらハーロックを待ちつづけたマゾーン・スノーラの姿が……。

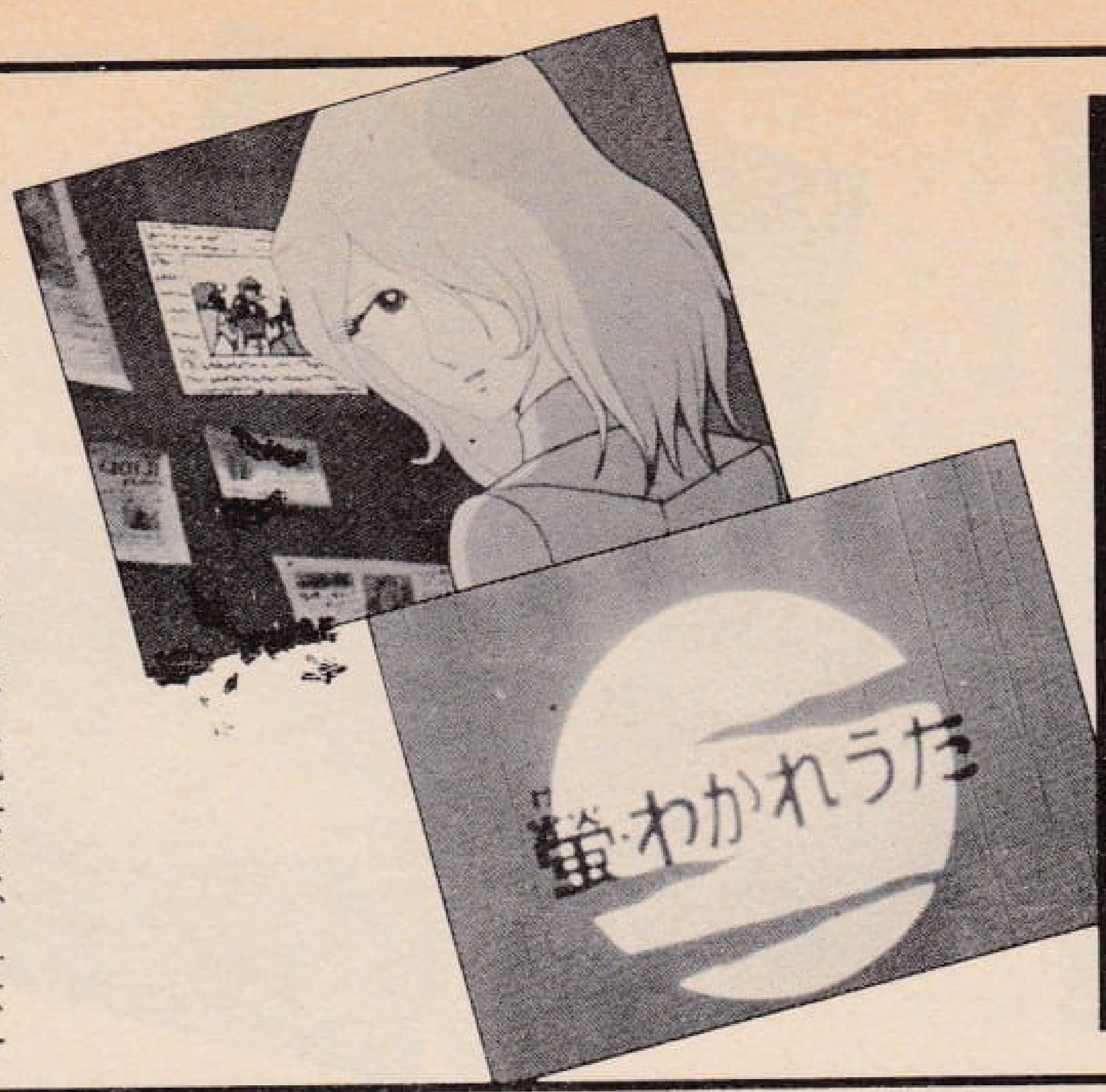


特異なオーロラ現象に疑問を持ったハーロックは、ボレットで北極を探査する内、人工ブリザードに襲われ、スノーラのとりことなる。その一方で人工オーロラによってクレバス深く閉じこめられるアルカディア号。ハーロックを抹殺すべく出撃した警備隊もオーロラ光線で全滅する。危機に立つハーロックを救ったのはミーメだった。アルカディア号も脱出に成功し、オーロラ宮殿を粉砕する。十年間待つうちにいつしかハーロックに魅せられたスノーラの運命だった。

第16話

「螢・わかれうた」

有紀螢の父を裏切り、螢のもとを去って行ったかつての恋人。そして今、その悲しい恋が、復讐のわかれうたの中で、悲劇の結末をむかえる。

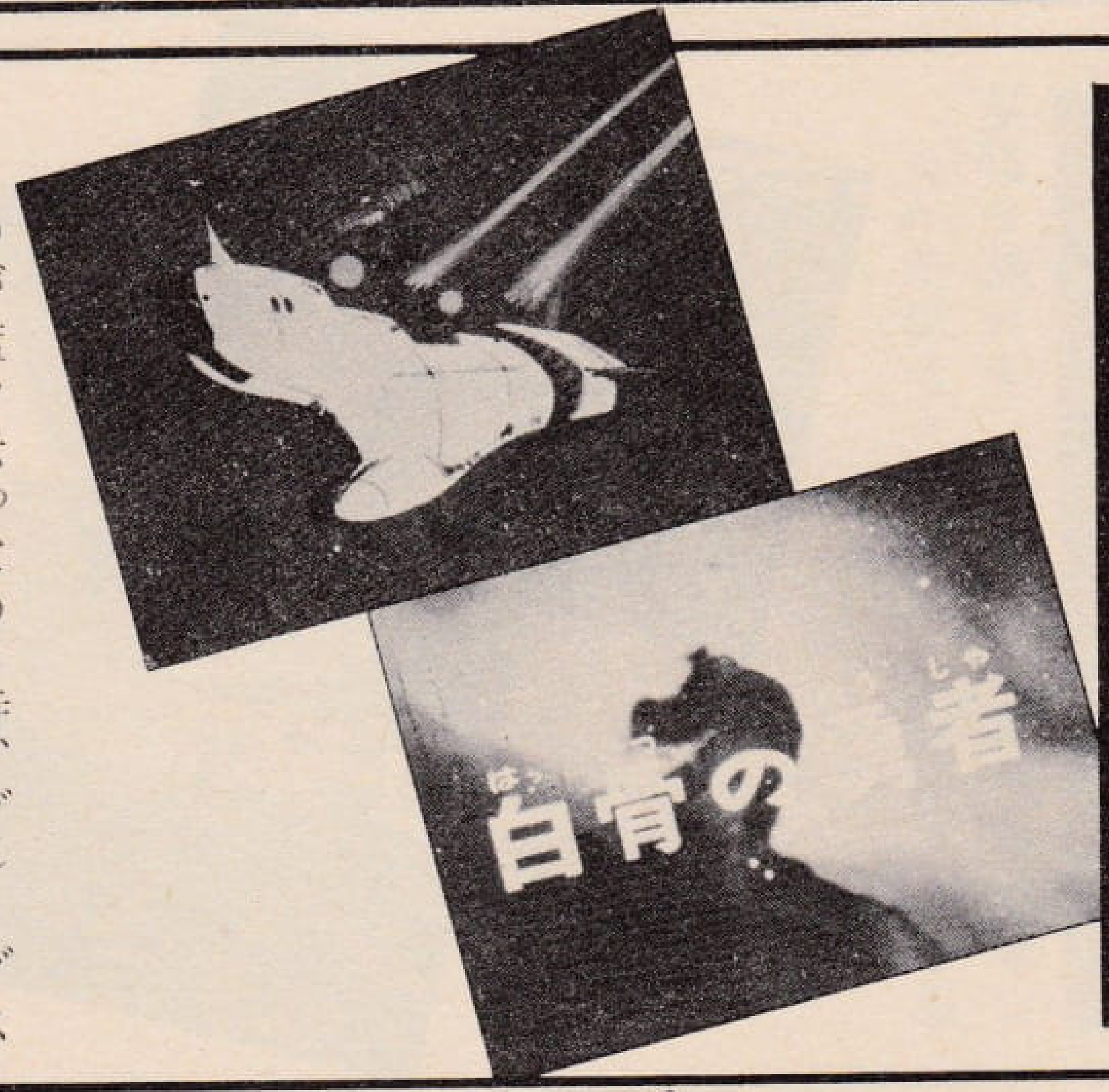


両親の墓まいりに来た有紀螢は、亡父の研究を非難し去って行った助手片桐一也に出会う。彼は、科学と螢への愛ゆえに研究を再開したと言う。螢は、かって彼女を救ったハーロックと別れ、協力をこう一也と彼の妹サキの手で、シュミレーターに送りこまれる。が、それはアルカディア号の秘密をさぐるためだった。マゾーンの手先となった恋人を、螢は撃つ。母の形見の三味線で別れじょんがら節を弾く螢のそばには、マゾーン・サキを倒したハーロックがいた。

第17話

「白骨の勇者」

マゾーンの犠牲となった幽霊船の中で、舵をはなさず立ちつくす白骨の艦長。彼こそは、魔地機関長が憎みつづけてきたかつての上官だった。

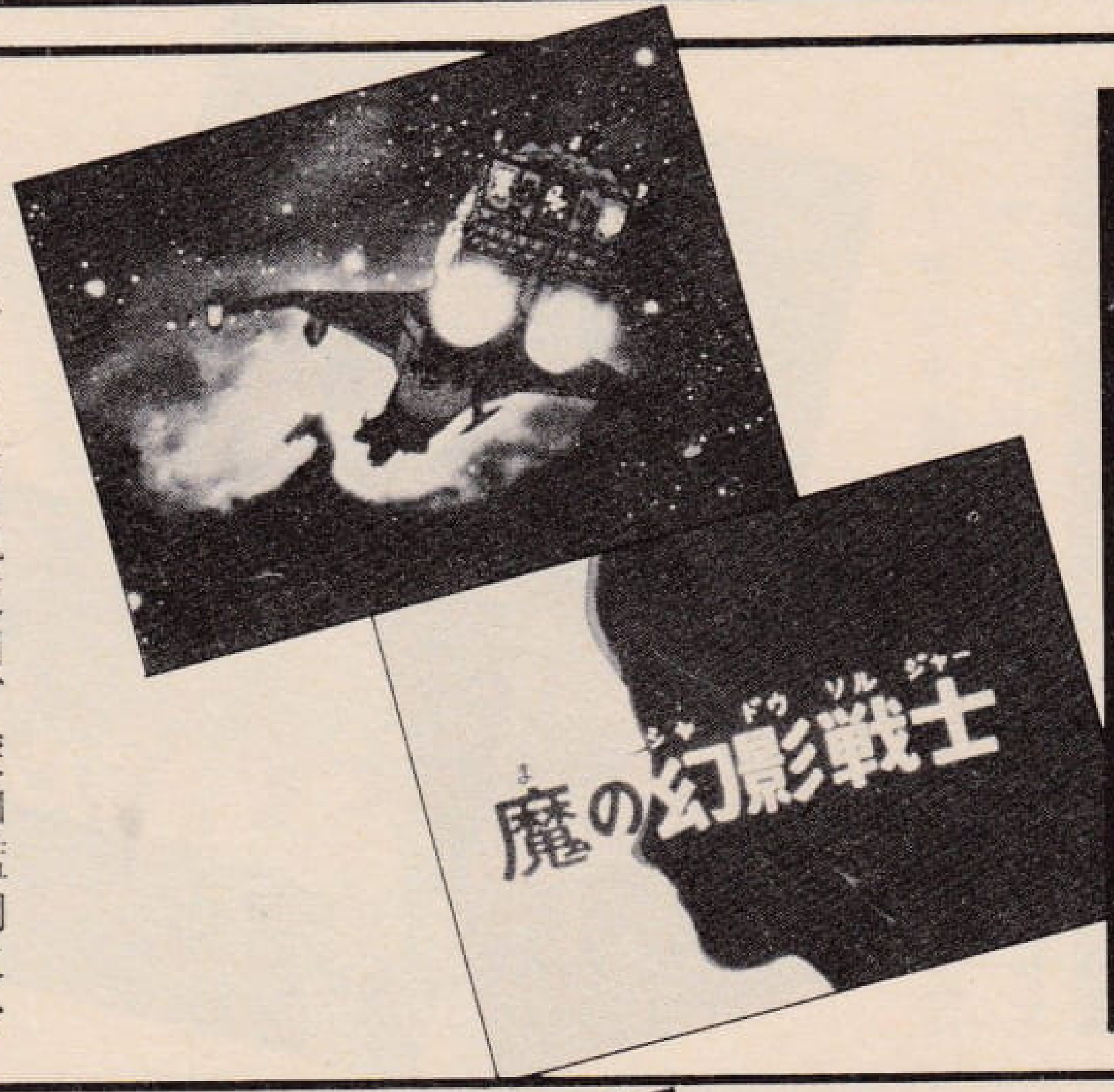


まゆが艦を去ったある時、ブレーブス号艦長の山中から救いを求める手紙が流れてきた。魔地機関長は彼の部下だった頃のことを話し出す。魔地の妻は亜希という行き倒れの女性で、2人の間にはミドリという女の子が生まれていた。しかしマゾーンであった亜希は山中に殺され、ミドリはマゾーンにさらわれてしまった。我が子を探す為アルカディア号に乗った魔地だったのだが、発見したのは屍となってブレーブス号を操る山中の姿だった。

第18話

「魔の幻影戦士」

アルカディア号の艦内に突如出現した幻影のマゾーン戦士。その時、魔地機関長は見た。そのマゾーン戦士たちの中に生き別れたわが子の姿を。

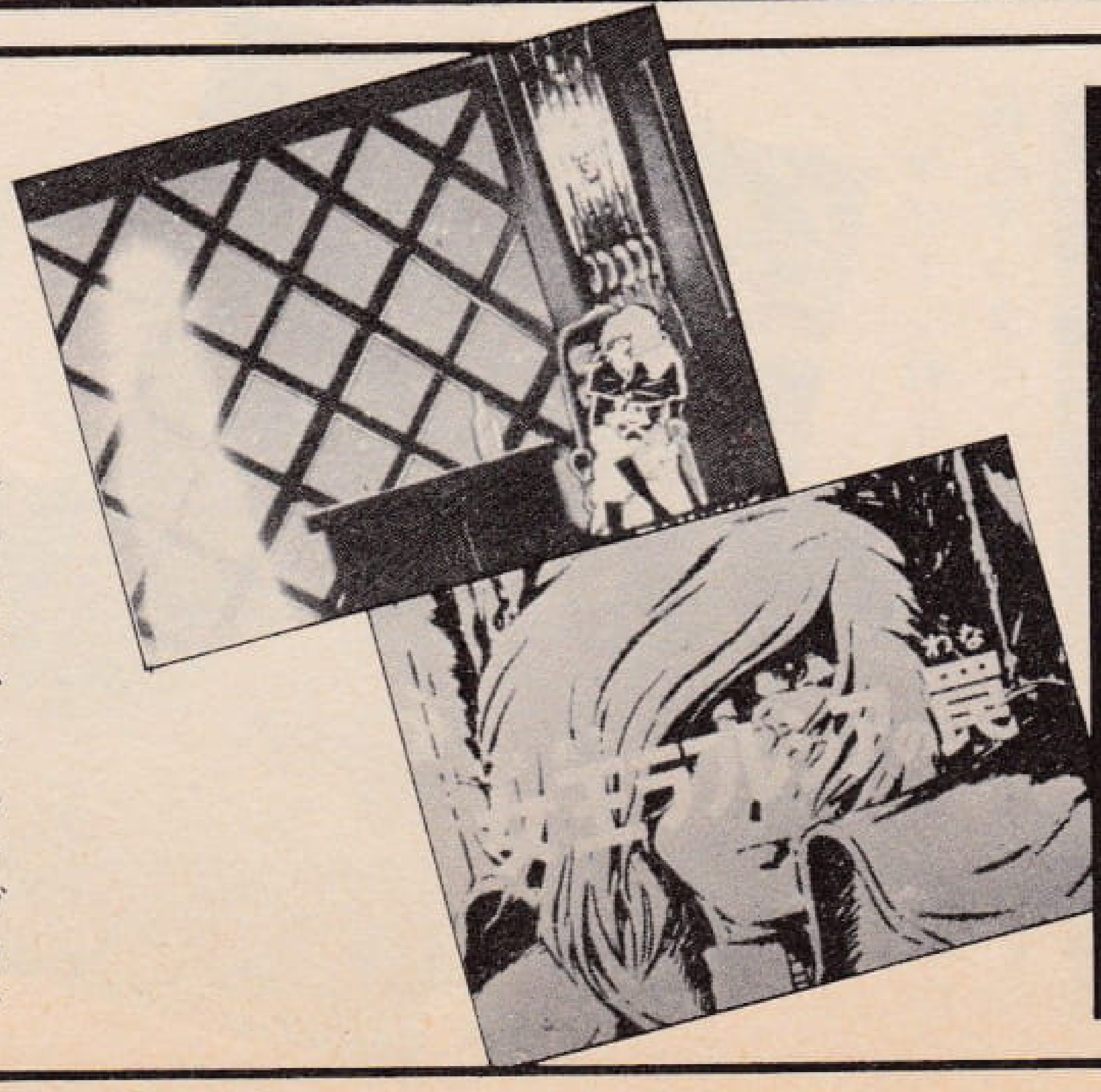


プレヤデス星団軌道内、突如艦内にマゾーンの幻影戦士が現われた。その中の実体の一人パトラスを魔地は娘のミドリだと主張、だが無情にもミドリの銃口はハーロックをとらえた。ミドリを追う魔地は林立する植物群の中でマゾーンの誕生を見る。冷笑するミドリ魔地はミドリに利用されたことを知る。アルカディア号に戻った魔地は主砲発射のスイッチをためらいなく引いた。ミドリの乗った巨大戦艦は宇宙の塵と消えた。

第19話

「女王ラフレシアの罠」

アルカディア号は、マゾーンの最大基地をたたきつぶさんものと馬の首星雲に向かった。しかし、その7色に輝く宇宙空間は、恐るべき磁場の墓場だった。



ラフレシアの命を受け、アルカディア号42人目の乗員の存在—思考波を確認したゾネス艦長アキアスは、罠にのり馬の首星雲の強力な磁場の中、前方の新星群の重力圏に引きづり込まれたアルカディア号に、後方から人工彗星をぶつける。デスシャドウ島を機械化、自動変形させ内部にのがれたアルカディア号は、アキアスの巨大空母ゾネスと決戦、これを撃破する。女王ラフレシアは、つぶやく。「播いた種に挑戦されるとは……悲しいこと」!?

第20話

「死滅のジュラ星」

ミーメの母なる惑星・ジュラ。ひとりその故郷の大地に降り立ったミーメは、今、初めてジュラ星を滅ぼした憎むべき犯人の正体を知った。

予告編

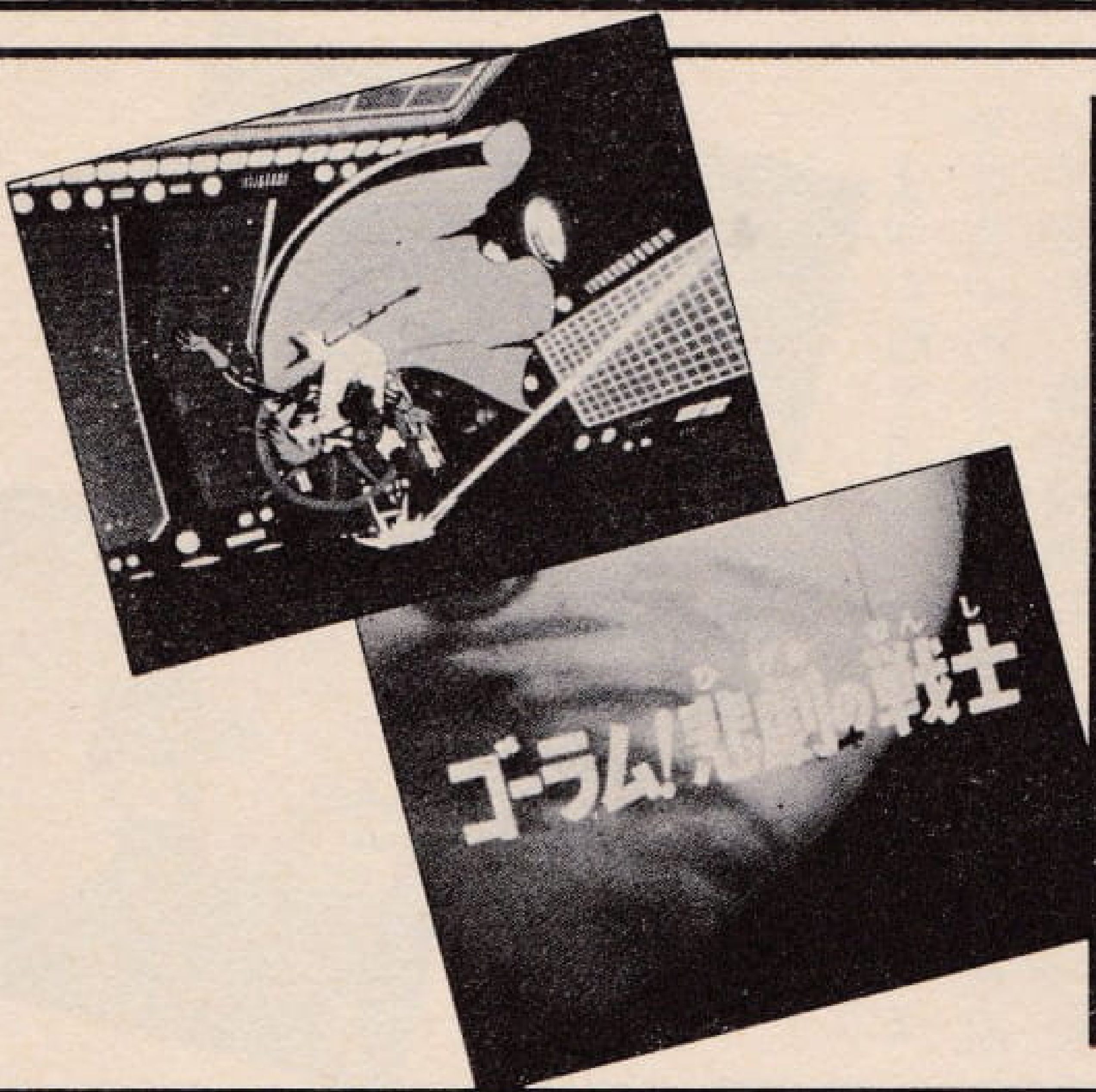


アンタレスの付近にきたアルカディア号は、核戦争で滅亡したはずのミーメの故郷ジュラ星に、再び草花が芽吹いているのを発見し接近、着陸した。そこで彼らが見たものは、人によって違って見える謎の花と、巨大植物群だったが、ミーメには、忘れられないかつての友フーレとの悲劇の再会が待っていた。フーレこそジュラ星を滅ぼしたマゾーンの潜入工作員・ジョジベルの仮の姿だったのだ。ミーメの怒りと哀しみが光となって体から放たれ、ジョジベルは炎に包まれて消えた。

第21話

「ゴーラム! 悲劇の戦士」

マゾーンに征服された悲劇の惑星・トカーガの戦士。彼は今、たったひとりで壮絶な復讐劇の幕を切って落とした。

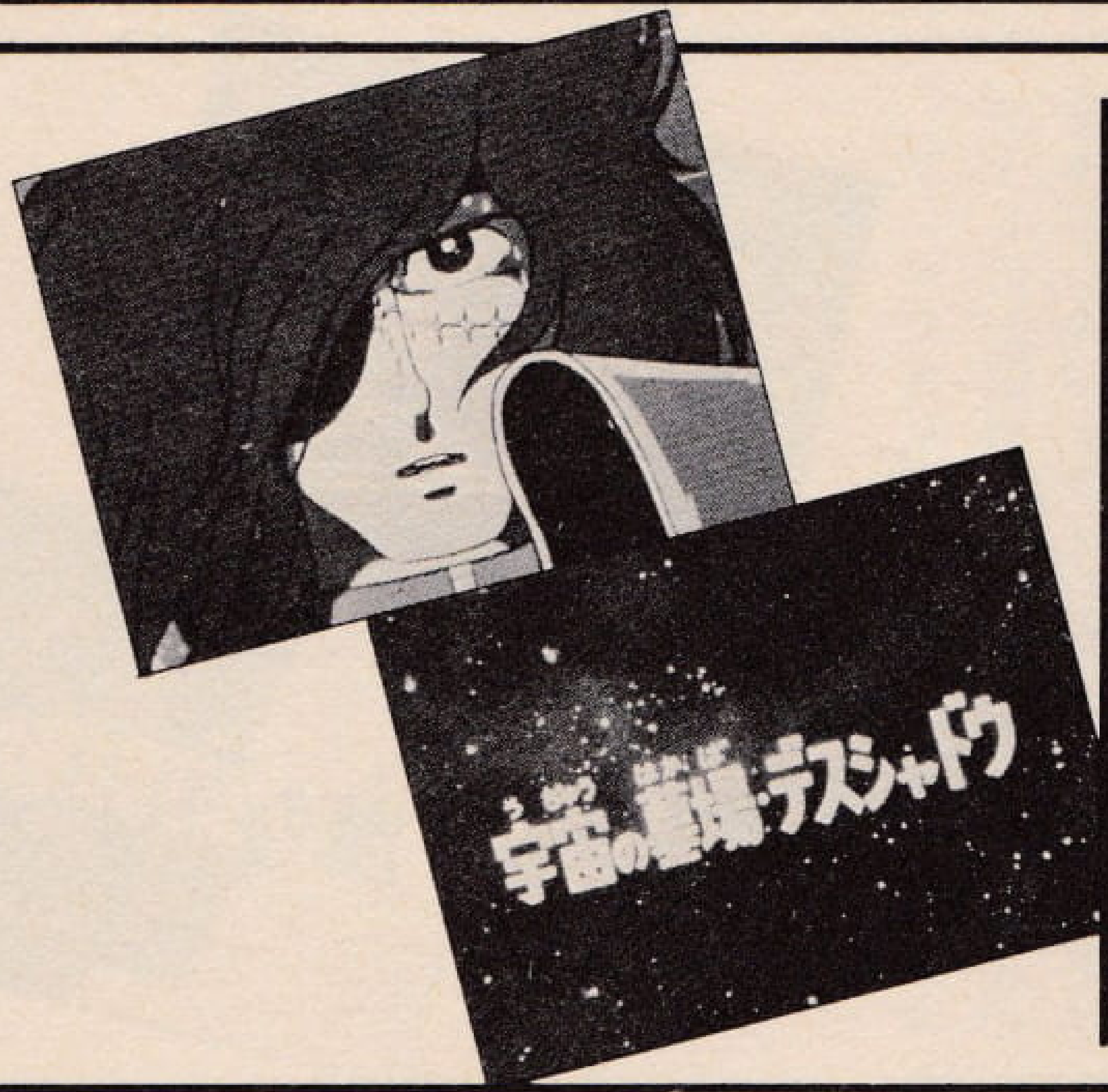


ジュラ星からの帰り、木星近くの小惑星群を航行中、マゾーンの惑星群攻撃にあった。その隕石群の破片にまじって謎の小型艦が接舷していた。台羽たちの必死の攻防戦の末、ひとりを捕虜にした。それはマゾーンではなく、マゾーンによって滅ぼされたトカーガ星人ゾルだった。自由のために生き、そして戦うハーロックを真の友としたゾルは、ハーロックの手にマゾーン中央艦隊の記憶器を残して、接近する巨大戦艦に単身向かっていった。

第22話

「宇宙の墓場・デスシャドウ」

マゾーン中央艦隊をキャッチしたハーロックたちは、これを向かえ撃つべく決死の旅に出た。だが、その途中には恐るべき暗黒の罠が待ちうけていた。

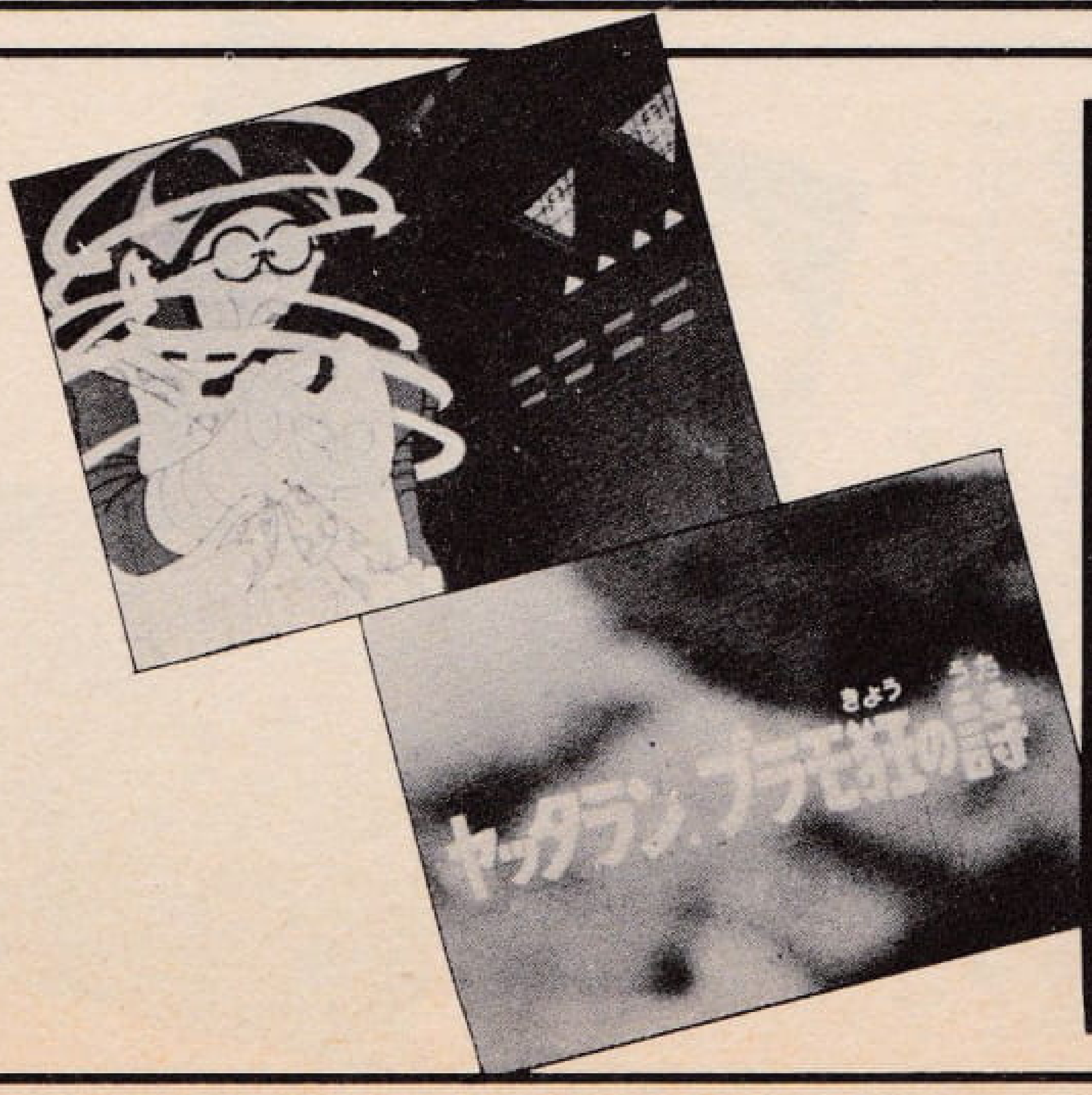


ハーロック達は、コスモグラフ記憶器で、マゾーン中央艦隊の恐るべき全容を知る。新たな決意と共に、ペナントの誘導波を追って、中央艦隊を目ざす途中、全てのエネルギーがマイナスに働く反物質重力星デスシャドウに囚われ、なす術もないアルカディア号を、マゾーンの反動高速艇隊が急襲する。砲撃のショックと同時に、作動する中枢大コンピューター。艦はひとりでに動き窮地を脱したアルカディア号の反撃に、艦隊は全滅する。

第23話

「ヤッタラン・プラモ狂の詩」

マゾーンの捕虜となったヤッタラン。その彼に、なぜかマゾーンは、プラモ造りの勝負を挑む。プラモ・アルカディア号に取り組むヤッタラン。



マゾーン戦斗機群がアルカディア号に接近ヤッタラン副長はアルカディア号のプラモ制作中にせかされやむなく出撃、だがマゾーンを捕えようとしたヤッタランは逆に捕えられてしまった。独房のヤッタランにエルザはアルカディア号の秘密を知るためにプラモの部品を持って近づくがそれも遅かった。ヤッタランを助けに来た台羽にうたれる。ヤッタランは青白く燃える炎の中に過ぎ去った初恋の思い出を見ていた。

第24話 「純愛流れ星」

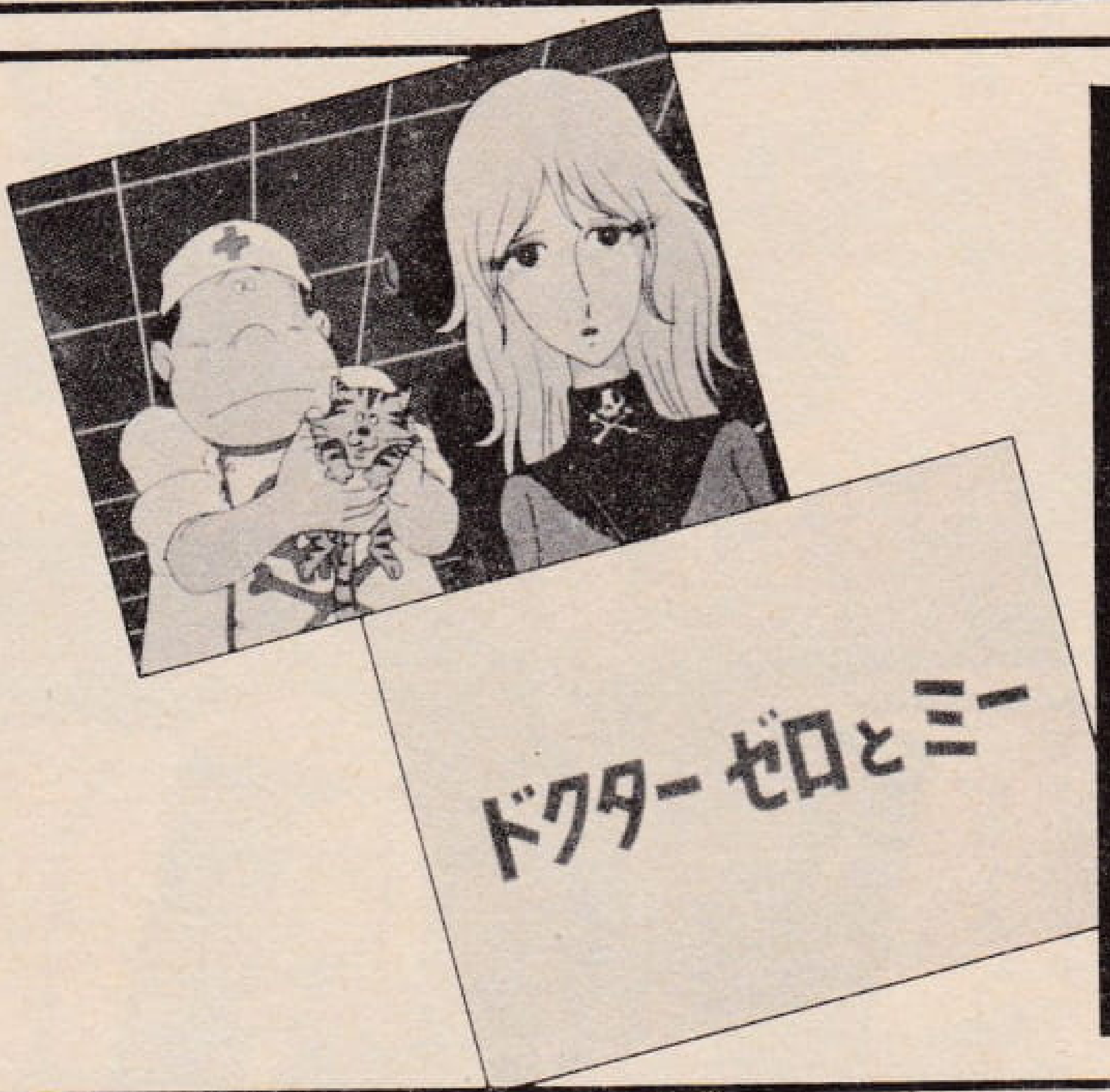
ハーロックは、マゾーン艦隊から脱出した若いカップルをかくまった。だが、鉄の規律を貫こうとするラフレシアは、必殺の掟を差し向けてきた。



アルカディア号は、マゾーン大艦隊の前衛部隊と遭遇し戦闘を開始するが、脱走事件が起こりマゾーンはこつ然と姿を消す。宇宙の長旅に、内部から乱れが生じたのだ。脱走兵—トカーガの戦士ゾルの息子ゾルバとマゾーンルシアを収納し、ラフレシアの引き渡し要求を拒んだアルカディア号は、マゾーン大艦隊に囲まれ、苦境に立つ。ゾルバとルシアは小型艇で、敵艦隊を引きつけて、ハーロック達を救い、流れ星となって宇宙に消えていく。

第25話 「ドクター・ゼロとミー」

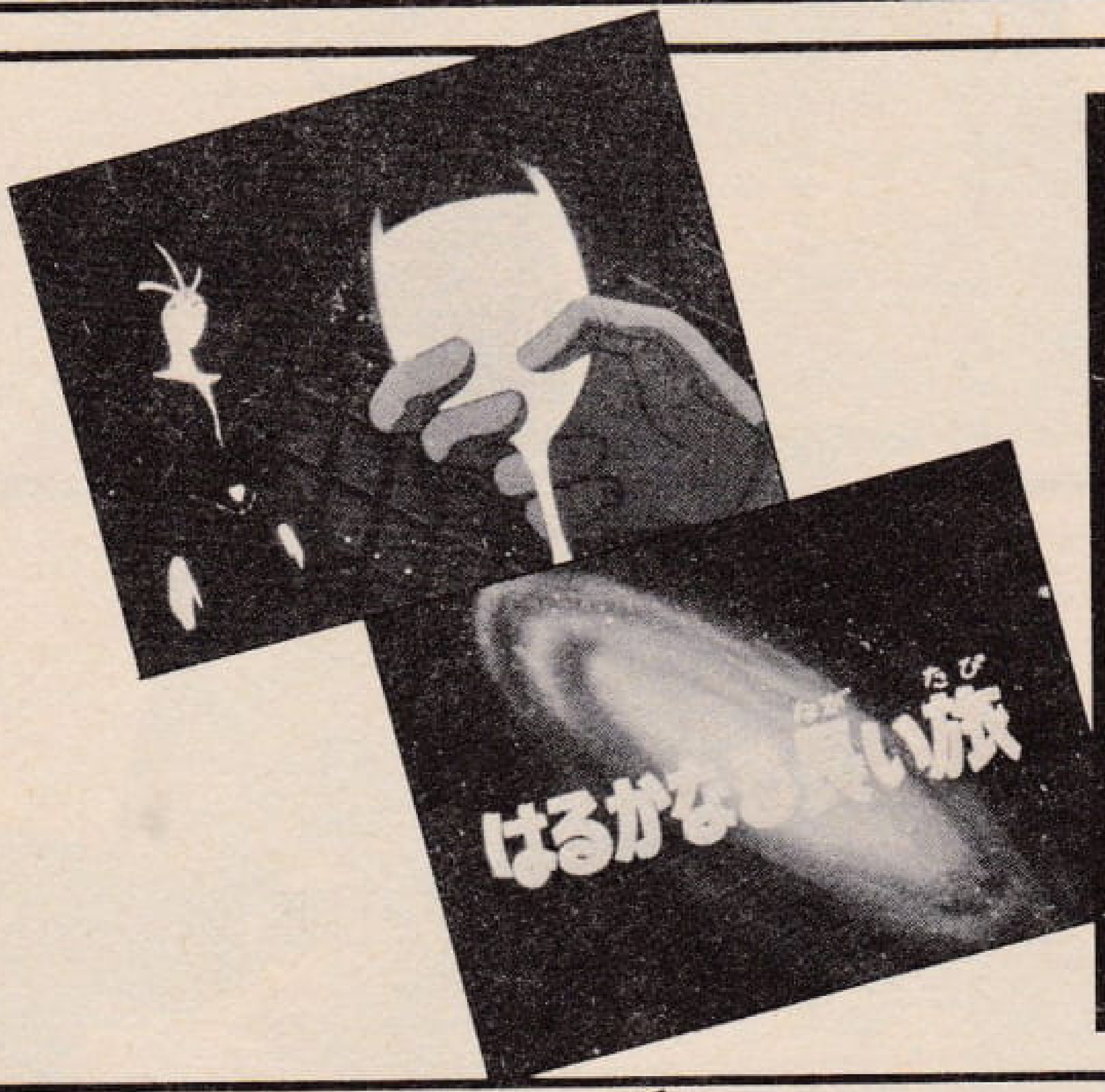
ドクターゼロと猫のミーの間には、心ほのかな愛情が通い合っていた。しかし今、マゾーン中央艦隊との決死の戦いを前にして、その愛するミーに別れを告げるのだった。



アルカディア号は三つ星彗星の強力な磁気嵐のため絶体絶命のピンチに陥る。だがそんな中にも、マゾーンの戦闘機部隊の攻撃が続く。ラフレシアの親子の情を利用した卑怯な作戦に怒りを感じていたドクターゼロは、スペースウルフに乗り込んで突撃した。ネコのミーも勿論一緒である。——この戦闘によって明らかになったのは、マゾーンは種族の大移動を試みているという恐るべき事実であった。

第26話 「はるかなる長い旅」

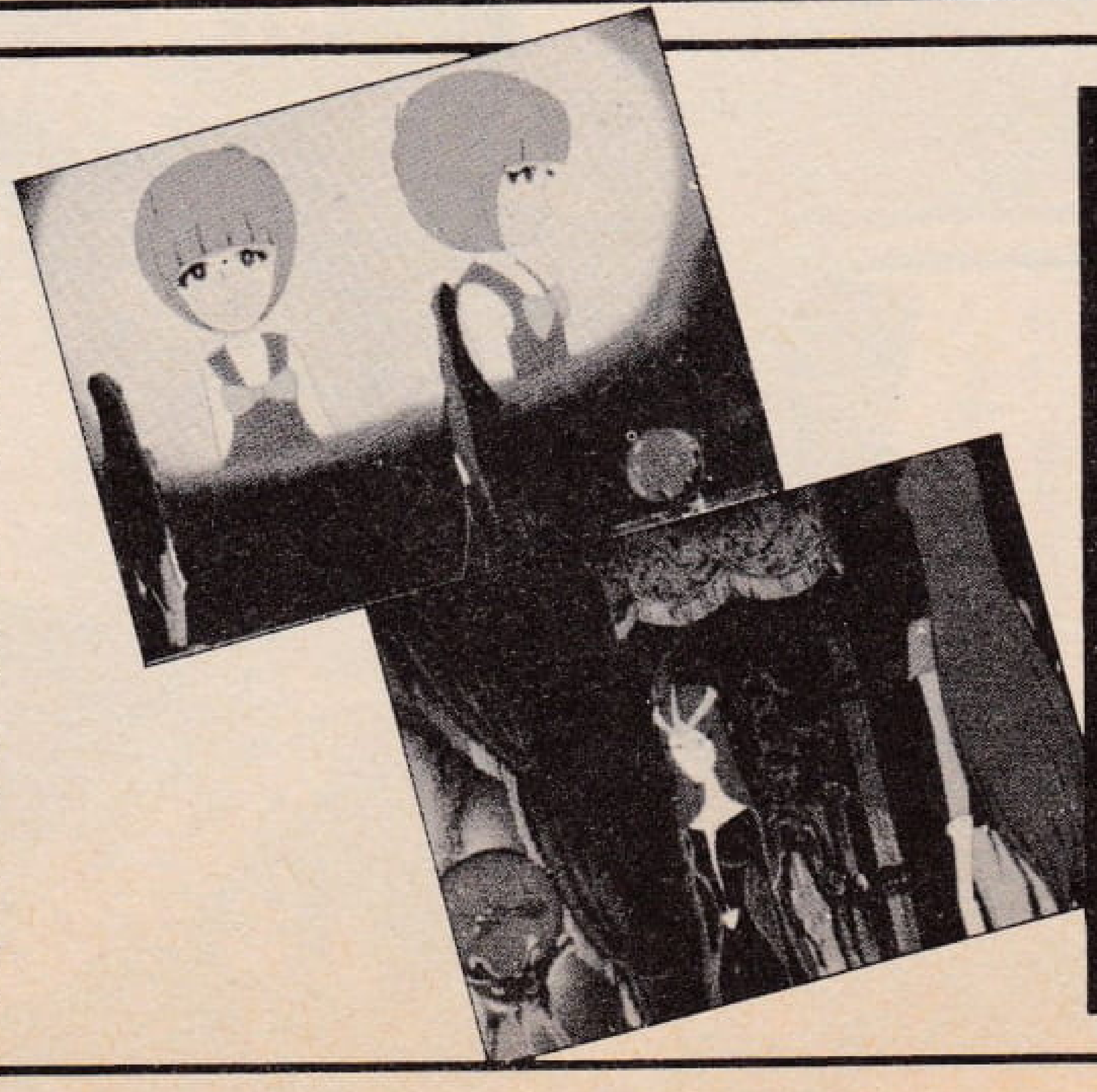
地球をめざして果てしない宇宙の旅を続けるマゾーン大キャラバン隊。その内部では今、女王ラフレシアへの反逆の炎が燃え上がろうとしていた。



マゾーンの同士討ちを目前に見るアルカディア号。今、マゾーンの内部では、戦闘の邪魔となる市民を切り捨てようとする武官達と長旅に疲れた市民達の間に不和が広がりつつあった。司令カサドラは、客船を盾にアルカディア号にせまるが、ラム戦法の前に敗れ去る。女王の左腕、科学者テシウスは、仲間と共に反逆しベータ星に行くが、女王の右腕の司令クレオに葬られる。非情な意志で第二の故郷地球をめざすラフレシアの前に、ハーロックが立ちはだかる。

第27話 「アルカディア号の意志」

ハーロックとの戦いに苦しむ女王ラフレシアは誇りをすて、まゆを誘拐した。マゾーン艦隊との決戦か、まゆの奪回か。ハーロックの決断は!?

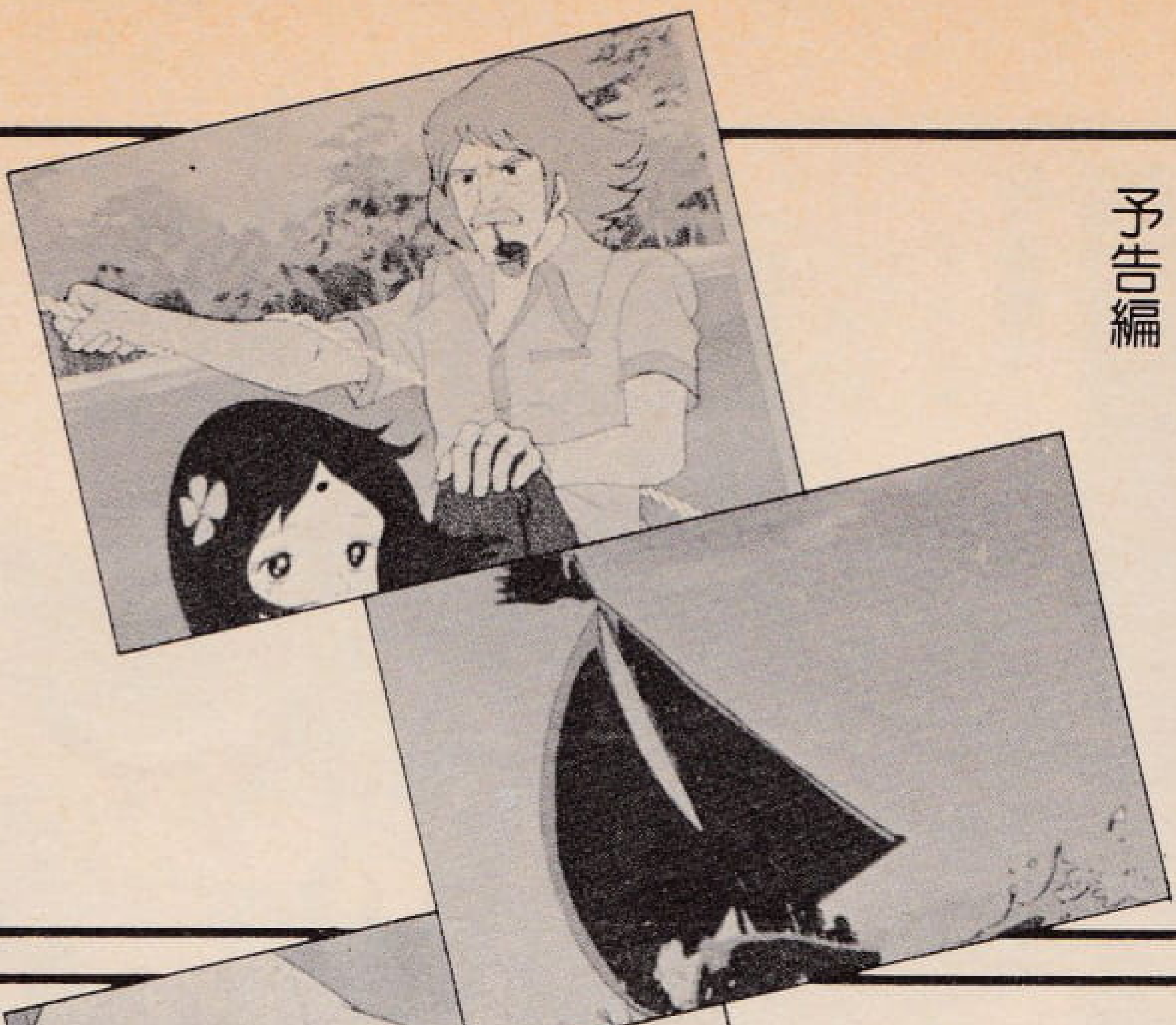


宇宙の無法者であるはずのハーロックは、何故ここまでマゾーン艦隊の行く手をはばむのだろうか? 女王ラフレシアは、ついに〝まゆ〟の存在を知った。司令クレオは、まゆを人質にする事を女王に推める。しかし、ラフレシアは、ハーロックに卑怯者と呼ばれたくない故に、苦悩する。——マゾーンに襲われた切田長官は、今やマゾーンの存在を認め、それに対する行動を開始した。だがとうとうまゆはマゾーンの手におちてしまったのだ。

第28話
「ユリシーズの星雲」

まゆを探し求めて、ユリシーズ星雲の敵陣深くはいり込んだアルカディア号。そこには、マゾーン作戦部隊が必殺の刃をとぎすましていた。

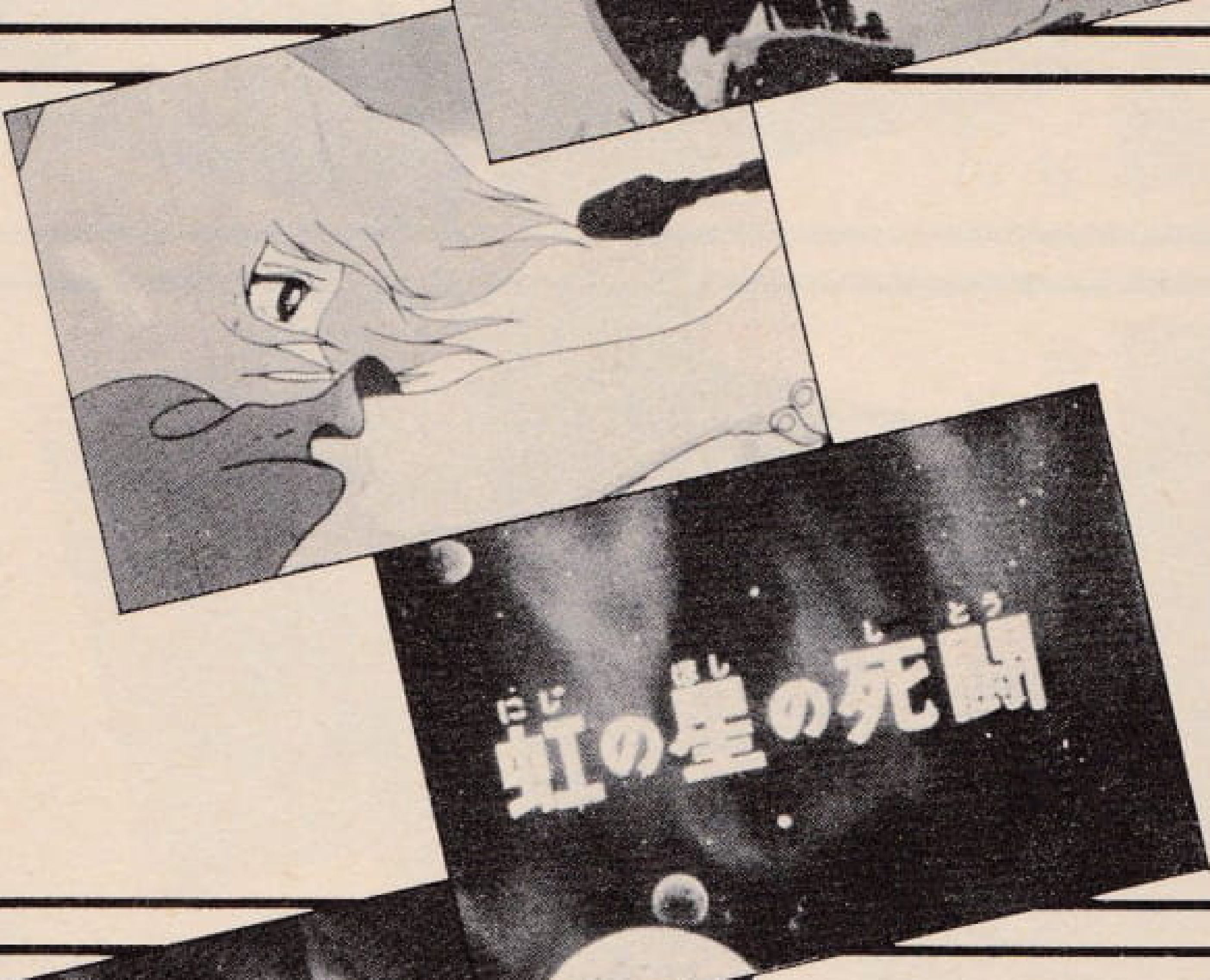
予告編



ユリシーズ星雲の人間の星には、科学を捨て地球から移住したと言うアイン博士達がいた。豊かな自然のなかで休息を取ったハーロック達は、まゆ探索を開始する。マゾーンは、人間の星を守るため、博士が開発した自然を操る装置で地震や嵐を起こし攻撃してくる。からくも危機を脱したハーロック達は、破壊の嵐の中生き残った博士の孫カインと少女ビーナに人間の星の未来を託し、次の目的地へと向う。

第29話
「虹の星の死闘」

ユリシーズ星雲の虹の星には、脱走したマゾーンの市民たちが隠れ住んでいた。台羽正は、彼女たちをマゾーンの追手から救うために、アルカディア号を呼び寄せた。しかし……!?



まゆを捜し求めて、アルカディア号は再びユリシーズ星雲の中を乗り出していく。突然出現したマゾーン戦闘機群。〝もしや、まゆが…〟アルカディア号が導かれてきたその星は、七つの星の一つ「虹の星」だった。罠である事を覚悟して、単身、星に降下していく正。そこには、マゾーン中央艦隊から脱走してきたというシラク達、マゾーンの市民がいた。正は、マゾーンの少女キリカと仲良しになるが、キリカの銃は正に向けられた。

第30話
「わが友わが青春」

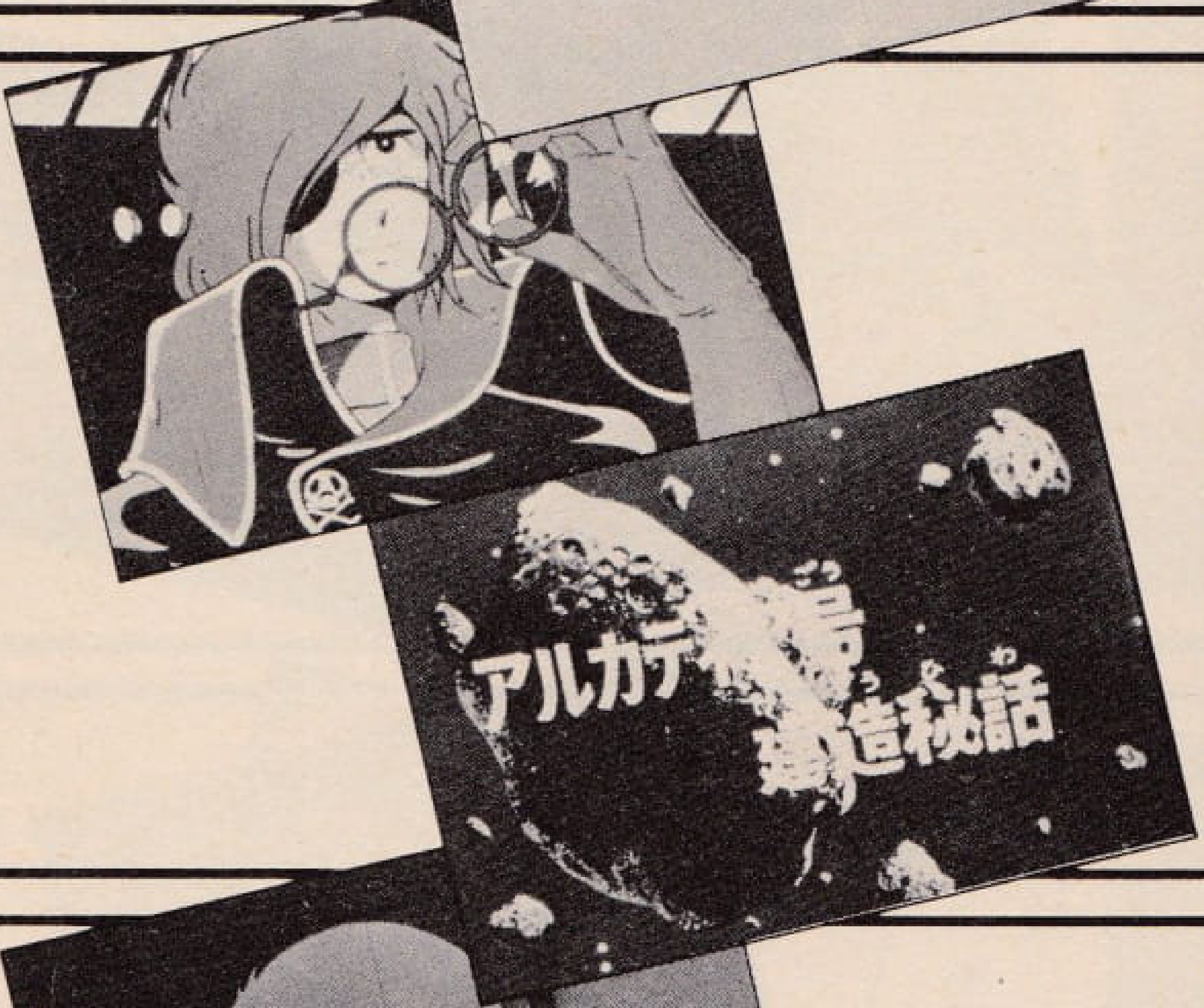
アルカディア号を建造したわが偉大な友。海賊島の中で戦闘の疲れをいやしながら、ハーロックは今、親友・大山トチローの思い出を語りはじめる。



かつて手配中だったハーロックと親友・大山トチローは、ユリシーズの酒場でエメラーダと出会った。通報により捕まってしまったハーロックは縛り首に処せられようとしていた。危うくトチローに助けられるがホラー提督率いる戦艦エベレストに捕われてしまう。そして、政府への批判者が働かせられるバッド鉱山に送られるが、チャンスを掴み、エベレスト爆破に成功する。このことをきっかけにトチローとエメラーダは結ばれたのである。

第31話
「アルカディア号建造秘話」

ハーロックは偉大な友の思い出を語り続ける。アルカディア号建造に最後の命を燃やし尽くした大山トチロー。そして、その恋人・エメラーダの思い出を。



トチロー達にはすでにまゆが生まれており、ハーロックはエネルギー鉱石グラビウム３００６を捜していた。その頃切田長官はトチローの大捜索を開始し、ついにこのヘビーメルダーへ来た。しかしこの星の命ももう長くはない。妖星ガンダの軌道上にあったからである。崩壊しつつあるこの星を人々はトチローの造ったアルカディア号で離脱した。しかしトチローは疲労で息絶え、エメラーダはまゆをハーロックに託して宇宙へと消えていった。

第32話
「星笛が呼ぶ」

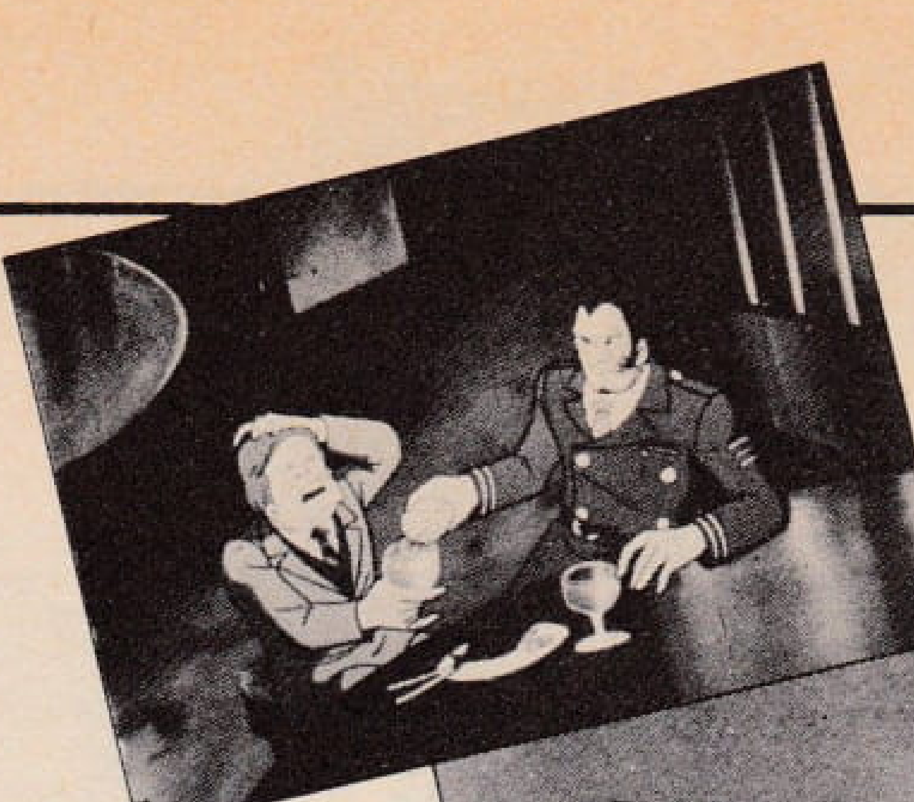
まゆの吹き鳴らすオカリナの音が、アルカディア号を風の星へと誘って行く。それは、悪魔のささやきか!? それとも天使の声か!?

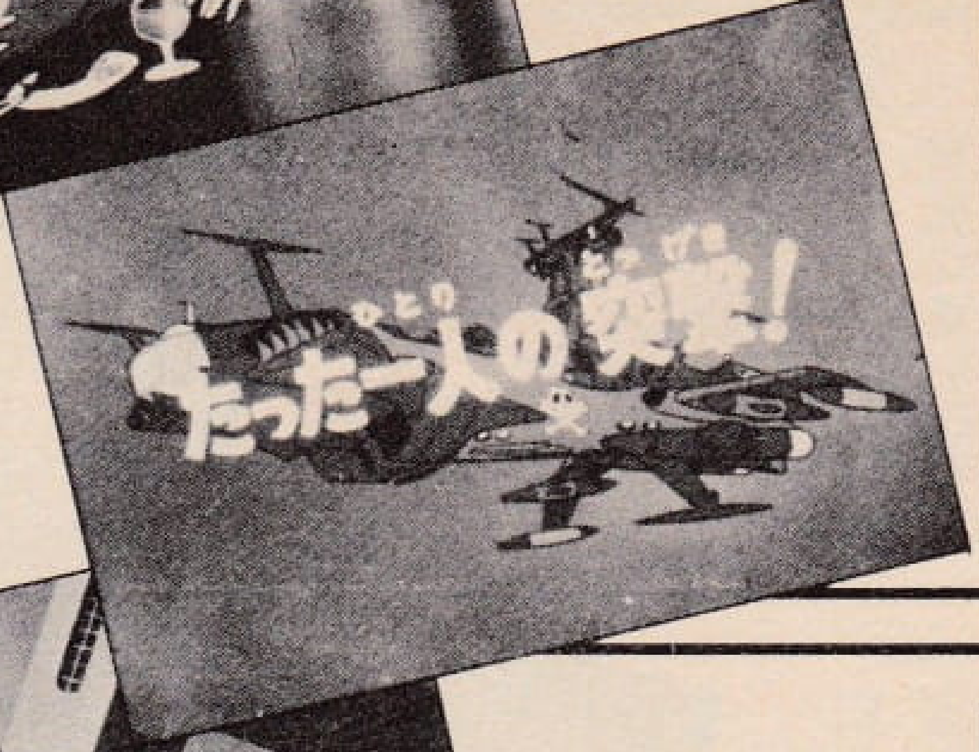


まゆを捜し求めてゆくアルカディア号は、ユリシーズ星雲をさまよっていた。ちょうどその頃、マゾーン先遣部隊が地球に向ったことが知らされ艦内は、地球へひき返すべきか否かで、動揺した。すると風の星からまゆの吹くオカリナの音が聞こえたので乗組員一同喜びあったがじつは、マゾーン艦長ダイネスのワナだった。その仕掛けられた爆発装置を中枢大コンピューターの機転により脱したが、そのやり方にハーロックは怒りを覚えた。

第33話「たった一人の突撃！」

ここにもまた、マゾーンの存在に気づいた1人の男がいた。彼は今、ふやけきった地球人への怒りを胸に、マゾーン艦隊へ単独突撃を敢行するのだった。

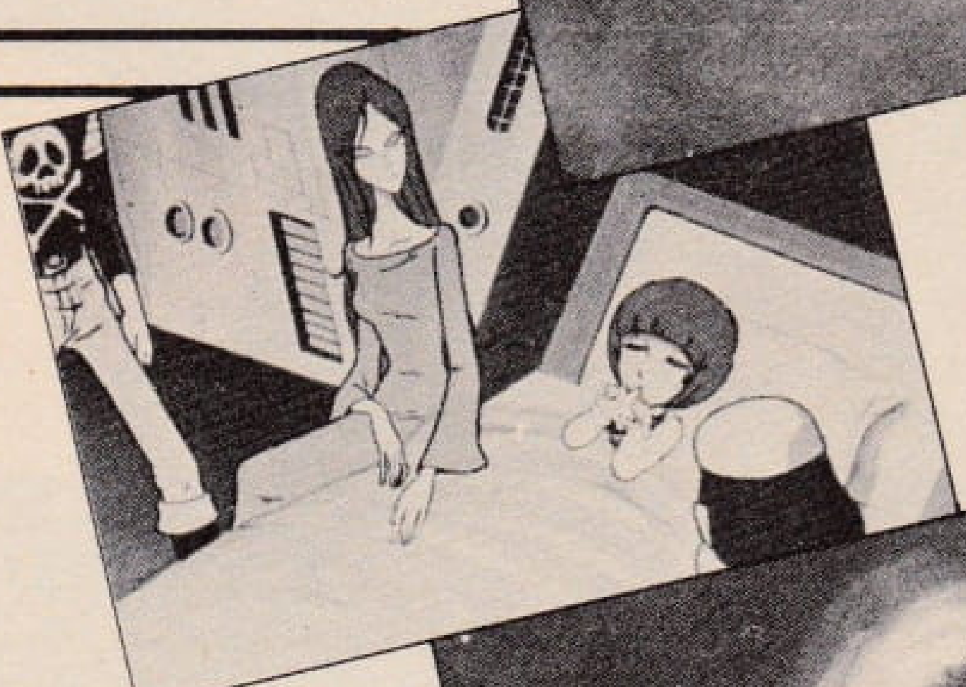


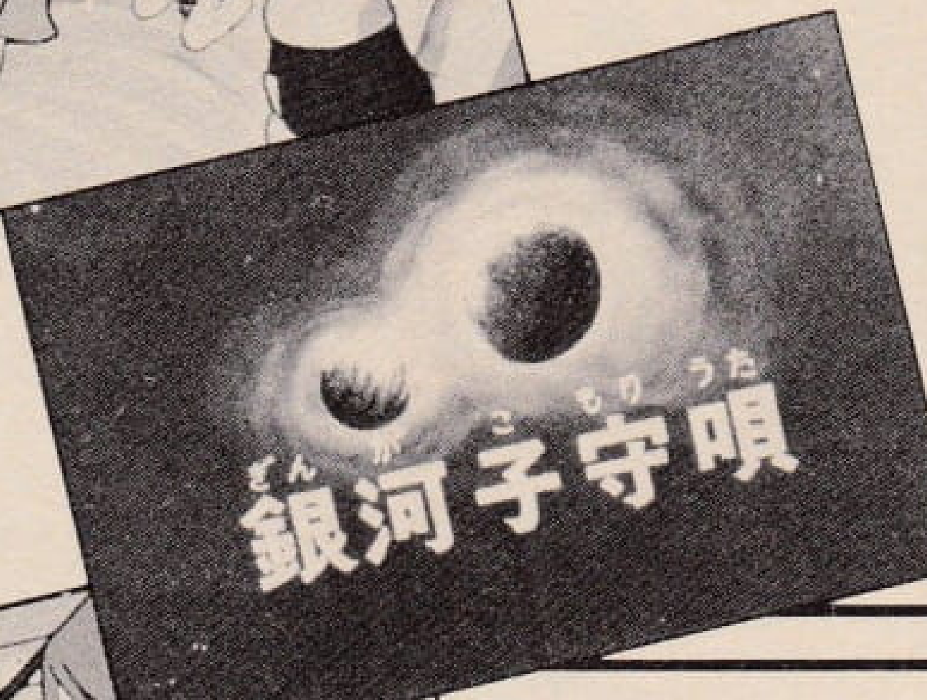


ハーロックはまゆを捜し求め氷の星に向う。その頃マゾーン先遣部隊は太陽系に突入していた。それを知った切田長官は首相のふがい無さに憤然として街中を歩き回る、安バーの中でみかけた男は前の長官、そしてすれ違いがもとで別れてしまったマスさんの昔の恋人、大田原剛三だった。彼はマゾーンの妻を射殺して長官の座をおわれていた。警備隊基地から飛びだした大田原はマスさんの誤解もとけ、迫るマゾーン戦艦群に単身突っ込んでいく。

第34話「銀河子守唄」

まゆは、ユリシーズ星雲のふたごの星に囚われていた。まゆを救うことは、地球を救うことだ。ハーロックは、まゆの救出にその命のすべてをかけた。

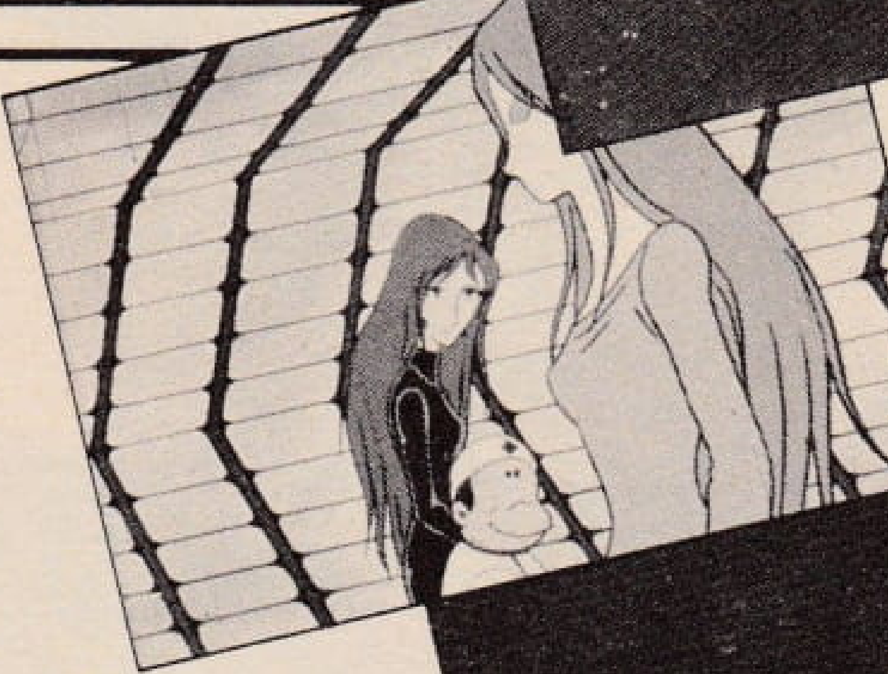




まゆを探索するアルカディア号の前にユリシーズ星雲最後の惑星、双児星が現われた。そこにもやはりラフレシアの配下、ツインシスターという新たな敵がいたがハーロックのまゆを助けたいという強い信念の前には通用しなかった。やっとのことで助けだしたまゆだが人質の恐怖からのがれられずにいた。困ったハーロックは、コンピューター室にまゆをつれていくとコンピューターがまゆをあやすように子守唄を唄いだすのである。

第35話「美しき謎の女」

首相秘書・波野静香。美しき謎の女は、マゾーンのスパイだった。彼女は今、女王ラフレシアの命を受け、ハーロック抹殺をはかって動き出した。





切田長官に、地球征服の話をもちかけてきたマゾーンは、長官の銃口の前に青い炎となって消えた。二人の邂逅をムービーカメラで捕えた首相の秘書、波野静香は、そのフィルムによって侵略者の存在を首相に知らしめ、更には切田長官を反逆罪として死刑にさせるべくしむける事に成功した。死刑執行前夜、静香の手引きによって牢獄を脱走した切田は、全て彼女の筋書きどおりである事も知らず、静香の身を仇敵ハーロックに託するのだった。

第36話「決戦前夜」

波野静香は、アルカディア号の破壊工作活動を開始した。中枢大コンピューター・ハーロックの偉大な友に絶体絶命の危機が迫る。

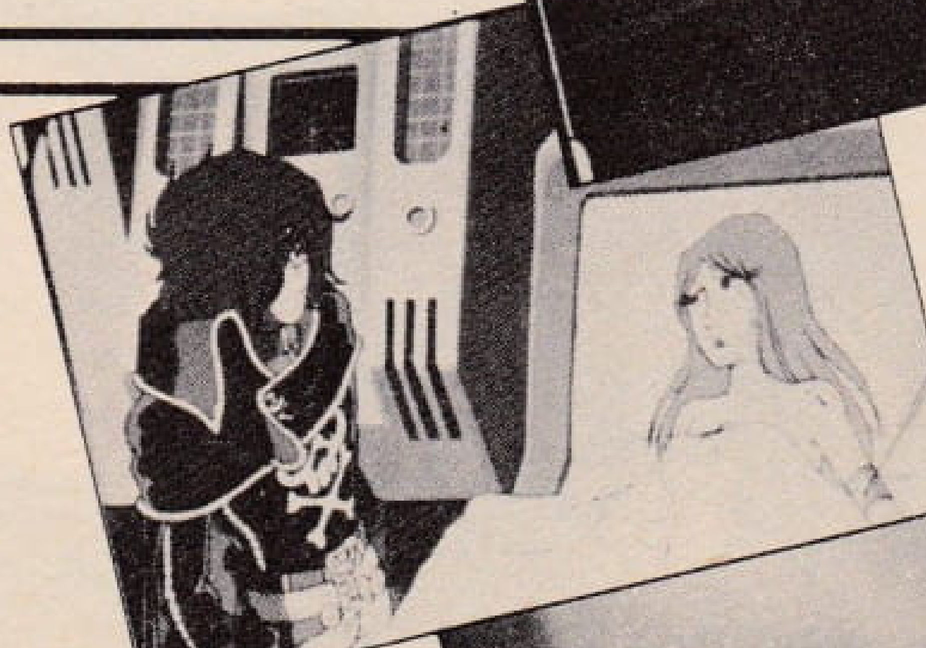




ハーロックは、切田長官の男のたのみで不審な元首相秘書波野静香をアルカディア号に乗せた。事実彼女は、マゾーンの手先でアルカディア号をスパイするためと破壊工作のために乗りこんだのであった。彼女は、女の武器でハーロックから彼の生き方を聞き出し、また主要部分の爆破に成功した。時を同じくしてせまってきたマゾーン先遣隊に対して武器はラムしかなかったが航行不能と思いこんだマゾーンに油断があり撃破できた。

第37話「赤いセーターの涙」

アルカディア号爆破に失敗した波野静香は、ひとり赤いセーターを編みはじめた。それは死を覚悟した女の、悲しい愛の証しだった。





ハーロックに正体を見破られてしまった静香は、そうとは知らずミスを犯し、ラフレシアに見離されてしまう。ハーロックは静香を逃がしてやるが制裁を受ける彼女を見て助けてやる。その後静香はハーロックの為に一枚の真赤なセーターを編み上げるが、コンピューターに爆弾を仕掛けたと嘘をつき、自らハーロックに撃たれて死ぬ。ハーロックは静香を宇宙葬にし切田長官に電報を打つ。—敵を愛してしまったマゾーンの悲しい最期だった。

第38話 「さらば！ まゆ」

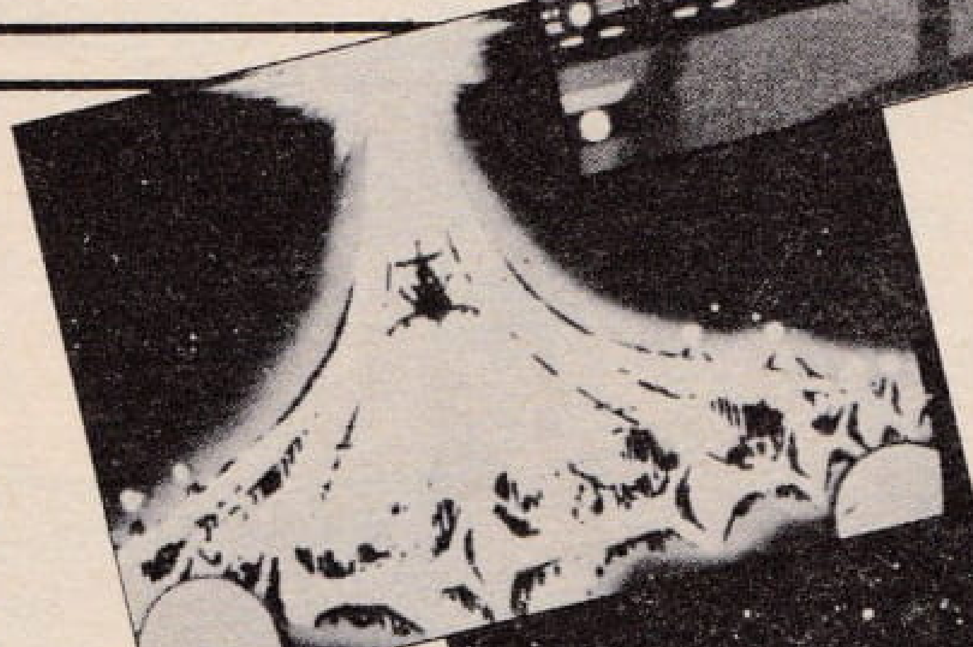
マゾーンとの最後の決戦を前にして、ハーロックは、まゆを中枢コンピューターに対面させた。まゆは見た！ 遠い昔に死んだはずの父の姿を……。




地球間近にせまるマゾーン中央艦隊の第1波、小惑星帯に隠れていた遊軍が出撃して来た。一足先に着いたハーロックは、切田長官の申し出でまゆを託す。地球の空全てをおおうマゾーン遊軍。エジプトの秘密地下壕にまゆを伴った切田は負傷し倒れる。切田を収納したハーロックは、まゆに言う。お前の父は、その脳細胞と魂をコンピューターに残したのだと。まゆに別れを告げ、アルカディア号とハーロックは、マゾーン中央艦隊を目指し発ってゆく。

第39話 「壮絶！ 長官死す」

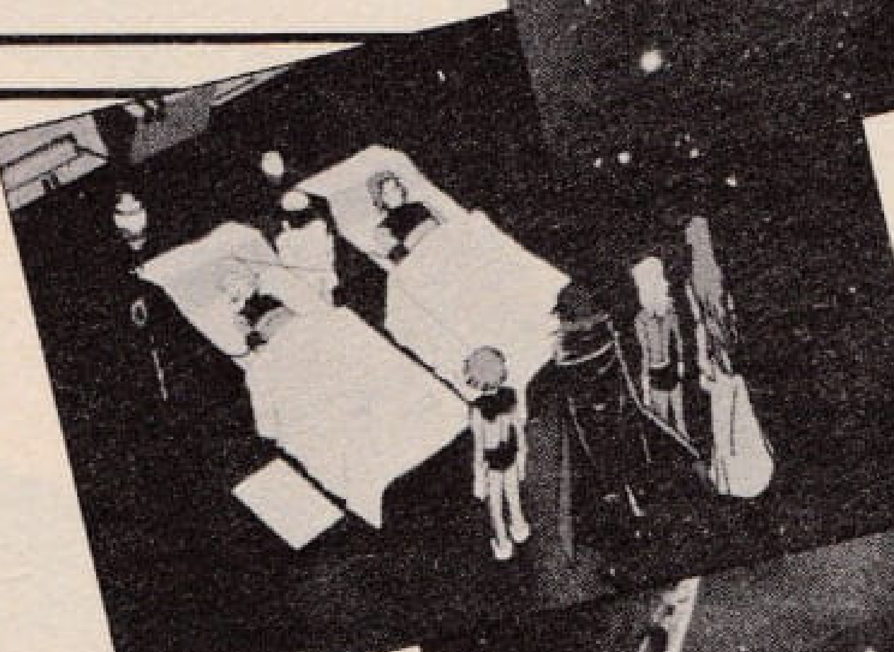
41人の乗組員に襲いかかる2000人のマゾーン白兵戦士。切田長官は覚悟を決めた。今こそハーロックのために死に花を咲かせてやると！




アルカディア号はハーロック達と切田長官を乗せ、マゾーン中央艦隊をめざした。ついに艦隊と遭遇したハーロック達は、壮烈な戦いを始めるが白兵戦に持ちこまれてしまう。ハーロックは艦の生命であるコンピューターの生命ルームを守る役目を切田長官に任せる。多数の負傷者が出たが、木星の重力の大変動でついにマゾーン前衛艦隊を全滅させるに至った。しかし切田長官は力尽きて倒れ、デスシャドウ島の砂丘で永遠の眠りについたのである。

第40話 「その時天使は歌った」

敵と味方にわかれてはいても、同じ命をもつ生き物。ハーロックは、戦闘の犠牲となった、トカーガ族の女の危機を救った。しかし……。




艦の整備を終え、マゾーン本隊と対決すべく発進したアルカディア号は、ゲリラ攻撃や偽装病院船の罠を撃破するが、過って市民船を破損させてしまう。負傷した妊婦のお産を助けるハーロック達。ラフレシアは、全艦に攻撃命令を出すが、市民船団はアルカディア号の盾となり、命令を遂行する者もいない。誕生した赤ん坊は、天使のようだった。アルカディア号には小手先の戦略は通用しないと悟ったラフレシアの旗艦ドクラスが、その全容を現わした。

第41話 「決闘！ 女王対ハーロック」

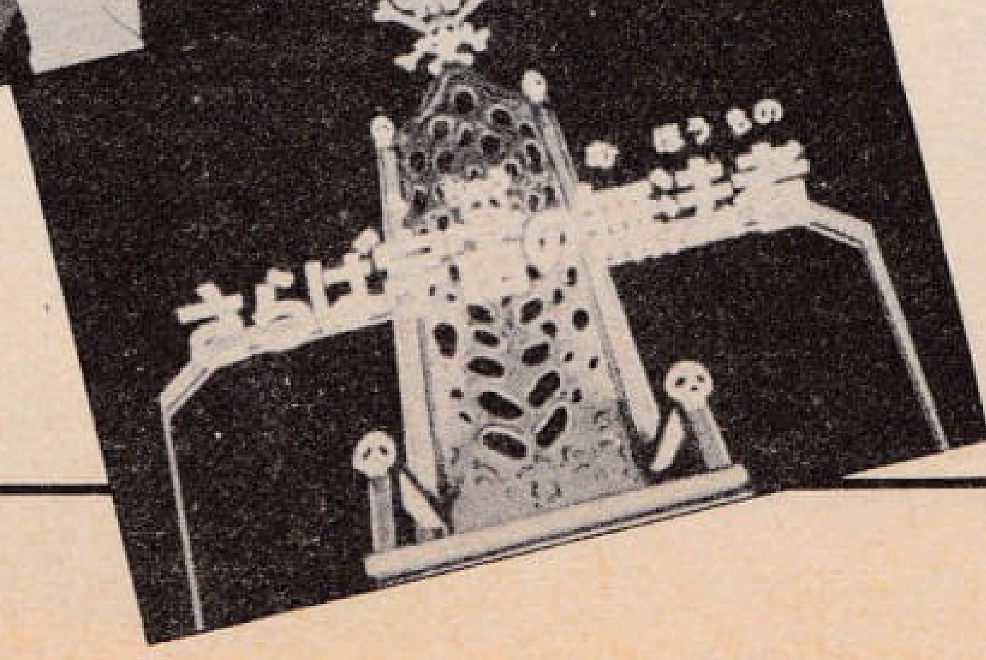
地球への集団移住を果たそうとするマゾーンの女王。そして、その地球を守ろうとする宇宙の無法者。ついに、二人は宿命の対決をむかえた！




アルカディア号は、突撃してくるマゾーン戦艦を破壊しドクラスに遭遇した。艦をヤッタランにまかせたハーロックは、以下全員はボレット2号に乗りドクラス内に突入していった。正・螢たちは無重力室にとらわれてしまう。そのころ、ハーロックとラフレシアは、その命をかけ戦っていた。ハーロックのサーベルがラフレシアの肌を切る。赤い血が肌を流れた。ラフレシアは、「私は去る」。そう言い残し、残存艦を引きつれ、去っていった。

第42話 「さらば宇宙の無法者」

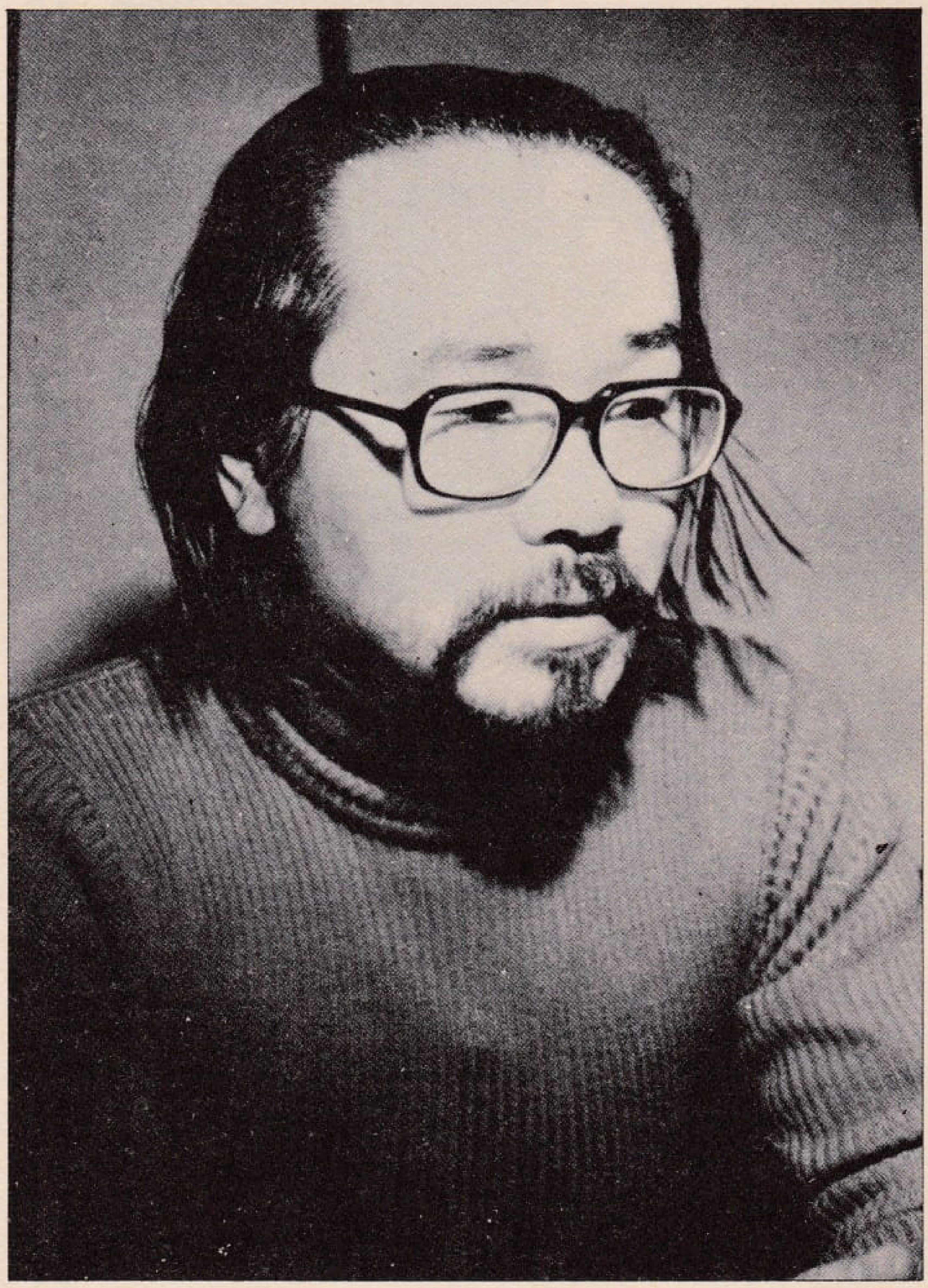
ハーロック、君は再び果てしない宇宙の海へ、さすらいの旅に出るのか。われわれは、常に忘れはしない。雄々しい君の姿を、りりしい君の心を。

地球へ戻ったハーロック達に地球政府は、徹退を命じた。首相にかけ合いに行くハーロックに、冷たい言葉が返って来た。その時、雪が降りペナントが、七色の光を発し始めたと同時に、地球にいるマゾーンが決起した。次々に破壊されるビル群の中で逃げるまゆを助けにアルカディア号は動き出した。ペナントに集中砲火をあびせ破壊した跡には、荒涼たる大地が残った。ハーロックは、全員を降ろし、再び、宇宙の海へ、旅立っていった。

制作スタッフインタビュー





●原作者
松本零士

ハーロックというのは、そもそもアニメの企画の方が先に立った作品なんです。それプラス、内容が青年誌的なものだという辺のからみから、プレイコミックに連載を始めたわけです。そのアニメの企画というのは零時社から出したんですが、時期的にタイミングが悪かったんじゃないですかね。あとテレビ局に信用がなかったんだとも思います。中にはとてもていねいに見てくれた局もあったんですが、結局はポシャッてしまいました。東映で制作されることになったのは、それからずいぶんたってのことでした。だけどそれだってスムーズにいったわけではないんですよ。やはり内容面でちょっとひっかかりましてね。

テレビの方は全部見ました。原作にない人物、事件は、りん・たろう氏と上原正三氏のコンビが考えられたんだと思います。実は最初そこら辺のことでもめたんですが、とにかくおまかせしたんだからと、あまり口出しはしませんでした。

ただ、ハーロックが私の描くハーロックから少し離れたという感じはありますね。それから、エメラルダスの名前が〃エメラーダ〃に変わったというのは、こちらの版権の問題です。

トチローというのは最初〃おいどん〃とゴチャゴチャだったんですよ。メガネを丸くしたり四角くしているうちになんとなくできちゃったんですね。

ハーロックについては、中学生の時、自然発生的にできたキャラクターなんです。その頃は眼帯も傷もなかったです。それが私の作品の中では名前と顔だけ同じで、いろいろなかっこうで、いろいろな時代に出てきているわけです。初期の頃のハーロックからそれを追ってみるとおもしろいですよ。まあ、そんなこんなで現在のハーロックがあるわけです。出身地をハイリゲンシュタットにした理由というのも、とにかく昔からそうなってたんです。だからもう、いやおうなしにそこじゃないといかんわけです。

「宇宙海賊キャプテンハーロック」というあのタイトルロゴは、私が自分で書いたんですよ。

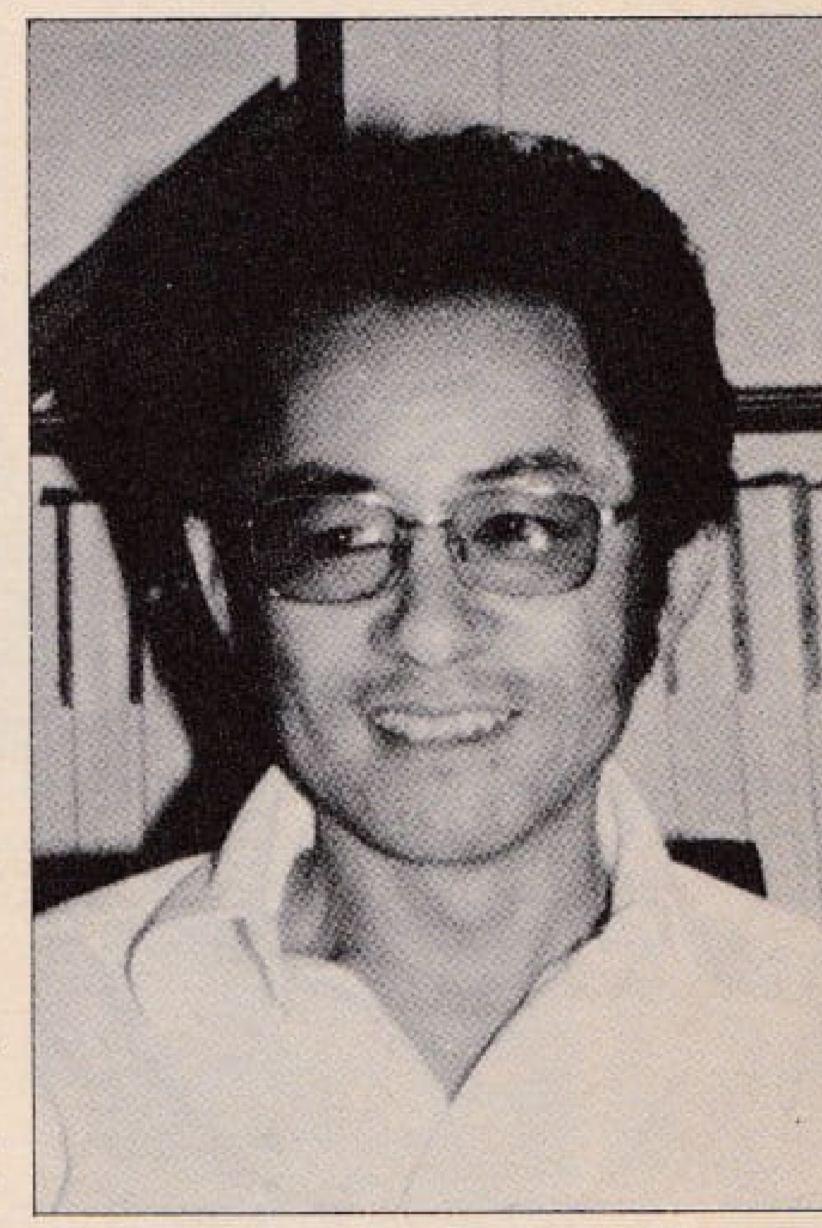
アルカディア号とトチローの結びつきってものは〃友だち〃っていう以外はあまり考えてないですね。トチロー自身についていうと〃時間切れ〃ということがありますがね。テーマは、あまり四角四面なことは考えていませんが、「人間と生き方」ってとこでしょうか。

とにかくハーロックとのつき合いはもう?年になりますが私にとって彼は〃生涯の友〃このひとことにつきるんです。

●企画

田宮武（東映動画）

「キャプテンハーロック」は、私にとっては忘れられない作品です。そもそもの初まりは、りん・たろう氏との出会いからで、「ジェッターマルス」、「グランプリの鷹」と2作品続けてやってきて、スタッフ一同の気持ちがかなり高揚していた時に、そのままスライドして、「キャプテンハーロック」に入りました。客観的にみてもすばらしい出来だったと思います。ひとえにチーフディレクターの力と、それをとりまくスタッフが、よく演出の意図を理解してくれた結果だと思っています。



ハーロックの生き様に関していえば、ふつうの人じゃあんな気ままには生きていけないよね。制約や組織の中で生きているから、あこがれのようなものがあるわけ。まあ、ハーロック自身でいえば意外とストイックに生きている面もあるんだろうけれどもね。〝自由のために戦う〟ということは彼なりに自らを律している面もあるんだろうね。

第1話ができた時には興奮しましたね。オンエアする前に10回もみました。何回観てもあきないんですよ。

「螢・わかれうた」というのは、シナリオをみた時、自分で演出したいと思ったくらい気に入りましたね。

静香のシリーズはいろいろと反響があったんですけれども「赤いセーターの涙」でミスがありまして、最後にハーロックがいう「宇宙は寒いぞ」というセリフが落ちてしまったんですね。

●脚本

上原正三

「宇宙海賊キャプテンハーロック」の原作を読んだとき、一年間テレビシリーズ化するには何かが不足していると思った。主人公・ハーロックは、腐り切った地球を見捨てた無法者だ。そのおたずね者がマゾーンから地球を守るために命を賭けて戦う。なぜか？ シリーズ化には視聴者が感情移入できる要素が必要だと思った。つまり、ハーロックが地球にこだわる具体的なカタチが欲しかった。第1話「宇宙にはためく海賊旗」に、まゆと切田長官を原作にないキャラクターとして登場させたのはそんな理由からだ。まゆは大山トチローの忘れ形見であるが、同時に母なる大地・地球そのものであり、地球の未来だ……そのまゆを守るためにハーロックは戦う、という風にした。切田長官も、おたずね者のハーロックの立場をより明確にするために設定した。



「アルカディア号建造秘話」（第31話）でトチローと妻・エメラーダが登場する。結局、天才科学者トチローはアルカディア号完成後に病死してしまうが、彼の魂はアルカディア号の中枢コンピューターに宿り、アルカディア号は神秘的な性能をもつにいたる。

最終回でハーロックは地球を去っていくが、彼はひとりぼっちではない。親友大山トチローの魂と一緒なのだ。おそらく、死に場所を求めての旅立ちではなかったか？ 私はそう思う。

●脚本

山崎晴哉（はるや）



いる。そういう男として、私はハーロックをとらえています。

原作をTVにするにあたっては2つの要請がありましたね。まず分量的に原作をシナリオ化していくだけでは間にあわないという事と、ムーディな原作を、ド

者」などは印象に残りますね。アルカディア号の乗員達を一人一人描いていくという試みの一環の話なんですけれども、私はその中で魔地の上官だった山中艦長を描きたかったのです。反体制的なハーロックと体制側の山中艦長という立場の

キャプテンハーロックという男は、とにかく摑みにくいことは確かに摑みにく

な生死をみてきた訳です。人間にかぎらず、星の生や死までをもね。ただそういったものを見てきた男だけれども決して悟りを開いた訳ではない。悟りを開いたらあれ程の行動力は出てきませんからね。体の中にはいつも熱い血が煮えたぎって

ては、原作の精神　松本さんの創ったあの〝俺の旗の下に…〟という詩をいつも念頭において書いていきましたので特に原作のイメージからかけ離れるという事はなかったと思います。

魔地機関長の過去を描いた「白骨の勇

白骨で立っていた山中艦長がガラガラと崩れるところなどは、映像的にふくらませてもらって非常によかったと思います。

ハーロックは私にとって一大エポックとなった作品で、非常に大きな意味をもっています。

●キャラクター・デザイン 作画監督
小松原一男（ＯＨプロ）



「ハーロック」は、キャラクターを作るうえで、できるだけ原作に忠実に、という事をかなり強く要求された作品でしたね。動きにしてもハーロックは「静」と「動」の両方を兼ね備えたイメージで、今までに私が手掛けてきた作品とは全く異なるんです。――ハーロック自体としていえば、椅子に坐っているだけでも絵になるといったようなキャラで、ごまかしがきかないんです。アクションだと多少デッサンが狂っていてもゴマカシがきくところが必ずでてくるんですけれども、ハーロックは止まっているからすぐにボロがでて、技術のない面がよくわかってしまう。とても神経を使いました。

例えばそれは、表情とか動きの中でどういうふうにキャラクターの個性を出すかということにつながっていくわけで、歩き一つとってみても、ハーロックが歩くのと他のキャラが歩くのとでは当然違っているわけなんです。

そういった神経というものが、常にアニメーターには必要だと思いますね。そうでないと、全く絵面だけのキャラクターというだけで芝居になっていかない。

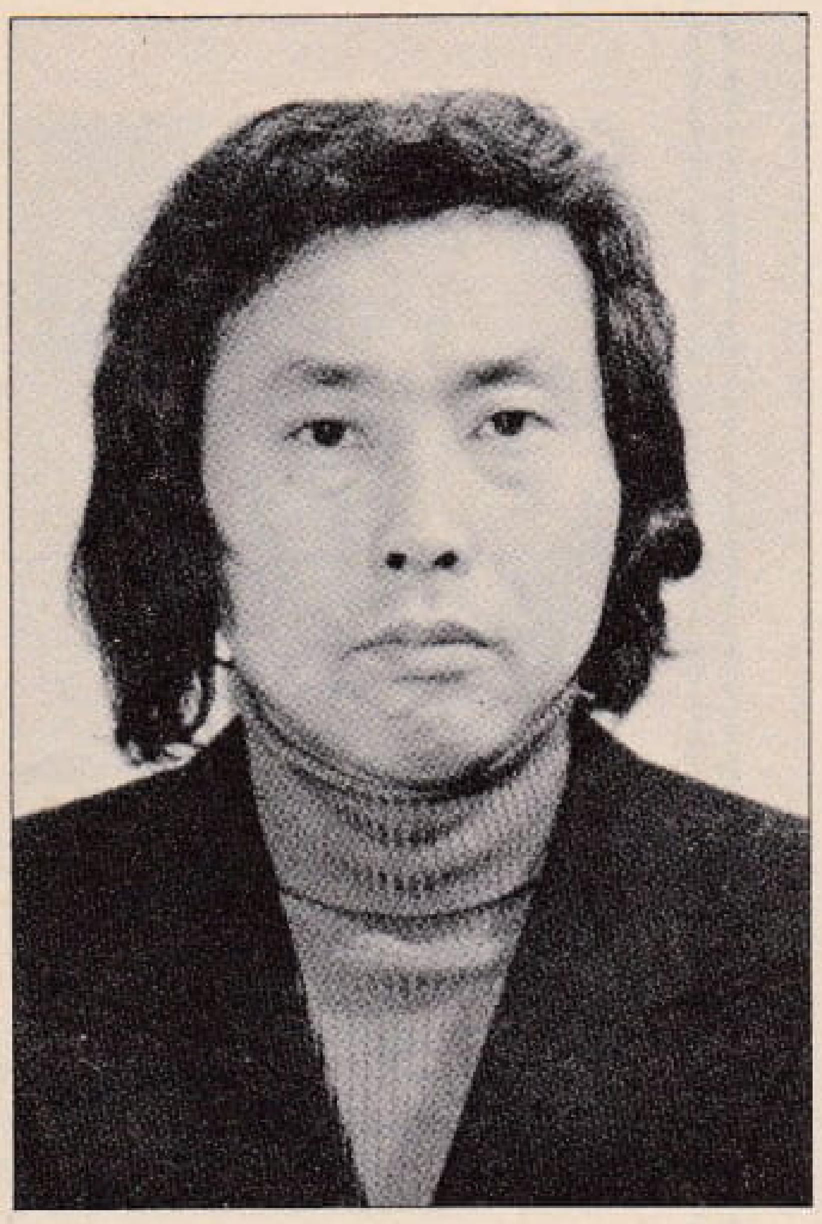
――内面的なものを出すのが本当のフィルム作りだと思うし、そういう意味では、ハーロックは動作が少ないから難しいですね。

メカについていえば、あんな500m以上のどでかい物を動かすには、やはり相当の神経を使うんです。線は混み入っているしね。

●作画監督
菊池城二（東映動画）

ハーロックで印象に残っていることは、とにかく大変だったという事ですね。でも、それだけにまたとても楽しい仕事でした。

ハーロックというキャラクターは、非



常に男臭い人物で、とても魅力があると思います。私はああいったキャラが大好きなんですよ。小松原さんがデザインしたハーロックは、やさしさを感じさせるんですけれども、こちらでは、どちらかというと男らしさを強調したハーロックを描いていったつもりです。

まゆちゃんは、小松原さんのオリジナル・キャラなんですけれども、とてもかわいらしいですね。私にも娘がいるんですけれども、とにかくまゆちゃんはできる限り可愛らしく描くことをこころがけました。

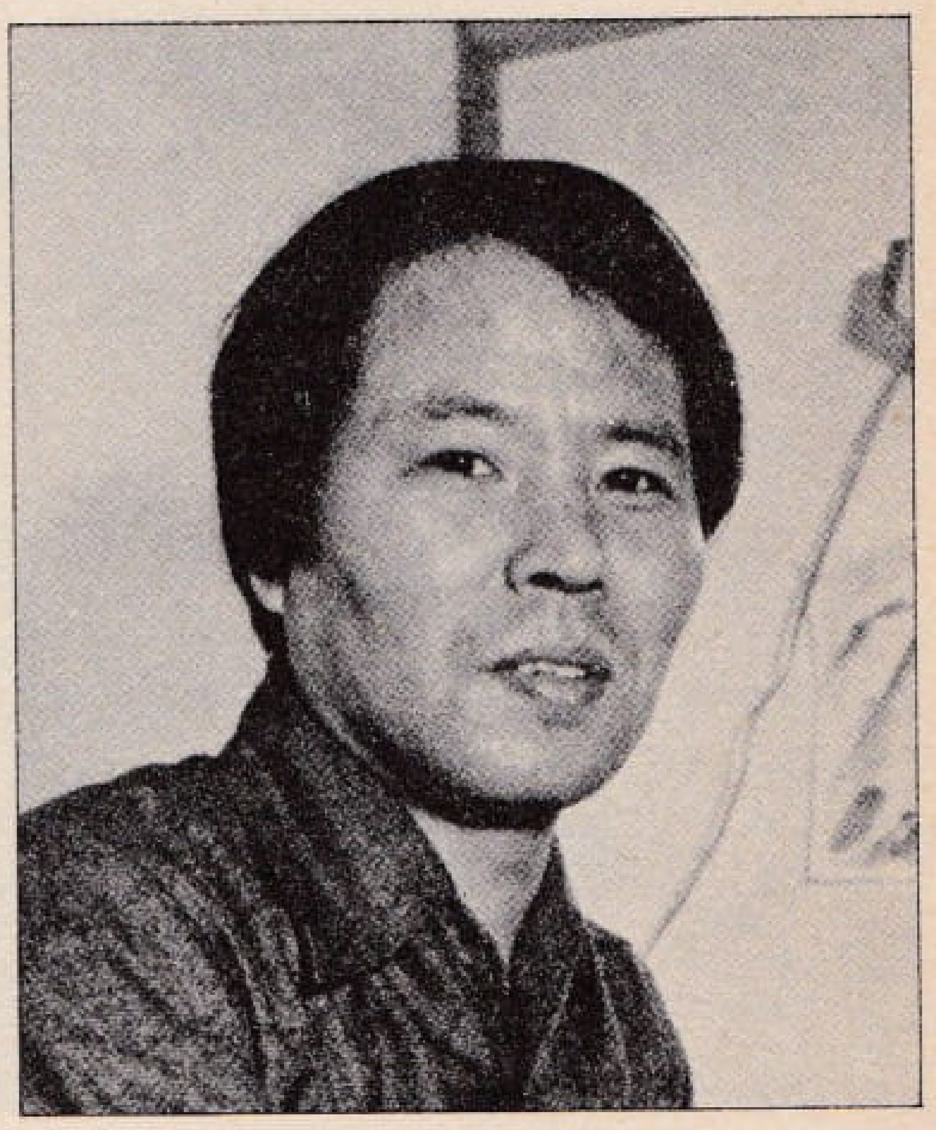
敵などにしてもマゾーンなどのようにみんな女性の姿なんていうのは異色ですね。マゾーンが死んで燃えていくところの作画にはとても苦労しました。

とにかく次々に本数をこなしていかなくてはならないので、スケジュールの関係上あまり細かく描けなかったところは非常に残念です。41話の「女王対ハーロック」などは特に印象に残っています。心残りのところもありますが、楽しくやれました。

私は今までに手がけてきた作品の中で、『宇宙海賊キャプテンハーロック』が一番気に入っています。

●美術設定
椋尾篁（たかむら）（ムクオスタジオ）

一応美術というか、設定を作る段階では、演出家と打ち合わせをするわけですが、ハーロックの美術設定をやっていく最初の話をりんさんとした時に、実在感



というか、現実感のある世界を創り出そうということは、いっていたんです。原作の場合には、すごくファンタジックにというか、なんか、オブラートで包んだみたいな世界にしてありますからね。やっぱりそのままでは、アニメーションの物語は創っていけないというか、動かしていかれない面があるんです。

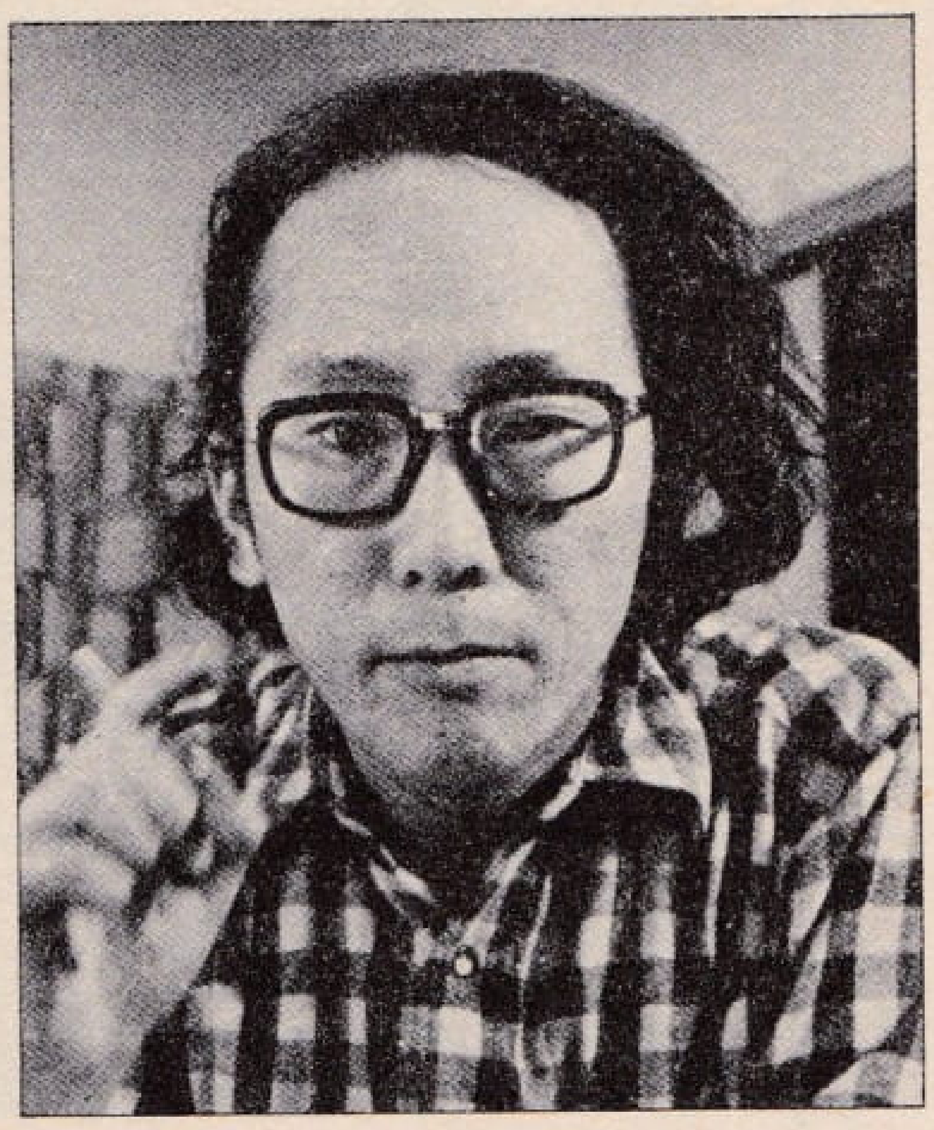
ハーロックの美術で注意したことは、切れ味のよい画面にして、映像のシャープさを追求していこうという事でした。画面の中にある種の緊張感みたいなものを作り出していくというのは、スタッフのみんなと話しあっていましたね。

僕にとってハーロックという作品の占める位置は、イメージの掴み方というものに対して、えらい勉強をさせてもらったという事ですね。

参考資料は、他から集めてきたものも含めて、スタジオにある本、全てです。

●美術
窪田忠雄（ムクオスタジオ）

美術で苦労したところというのは、やはり、イメージをどの程度まで引き出せるのかという事ですね。画面のイメージだとか、それにあった色だとかを背景の



人に伝えるのが非常に大事なんですね。というのは、いろいろと何人かの手を渡っていくので、最初のイメージと出来上ったものに大分距離があるんですね。そういう事で、どの程度まともに出きあがっていくのかというのには気をつかいますね。

あまりよくは覚えていないんですけれども、りん・たろうさんと接した仕事は印象に残っていますね。第1話とか、第13話とかね。宇宙空間の色は、初めは少し明るかったんだけれども、実際に観ていくうちに、少しづつ暗くしていきました。夕焼けとか、夕陽なども度々出てくるんで、そのイメージを変えていくというか、その画面にあわせた描き方をしていきましたね。他の作品の美術と最も違っていた点は、何といってもかなり黒と、それを生かす明るい色を思いきって使っていたという事ですね。

●美術
秦秀信（東映動画）

僕は、「キャプテンハーロック」の製作の間、8ヶ月間韓国で仕事をしていましたから、東京と韓国との2ヶ所でやっていたんです。そこで一番の根本となった



▶秦氏が描いた背景

のは、韓国の絵を、東京の絵に合わせるということですね。東京で製作する場合には、お互いに絵をセレクトできますが韓国でやると単独のものになるんですよ。それから韓国の背景マンのテクニックもやはり問題になるわけですね。

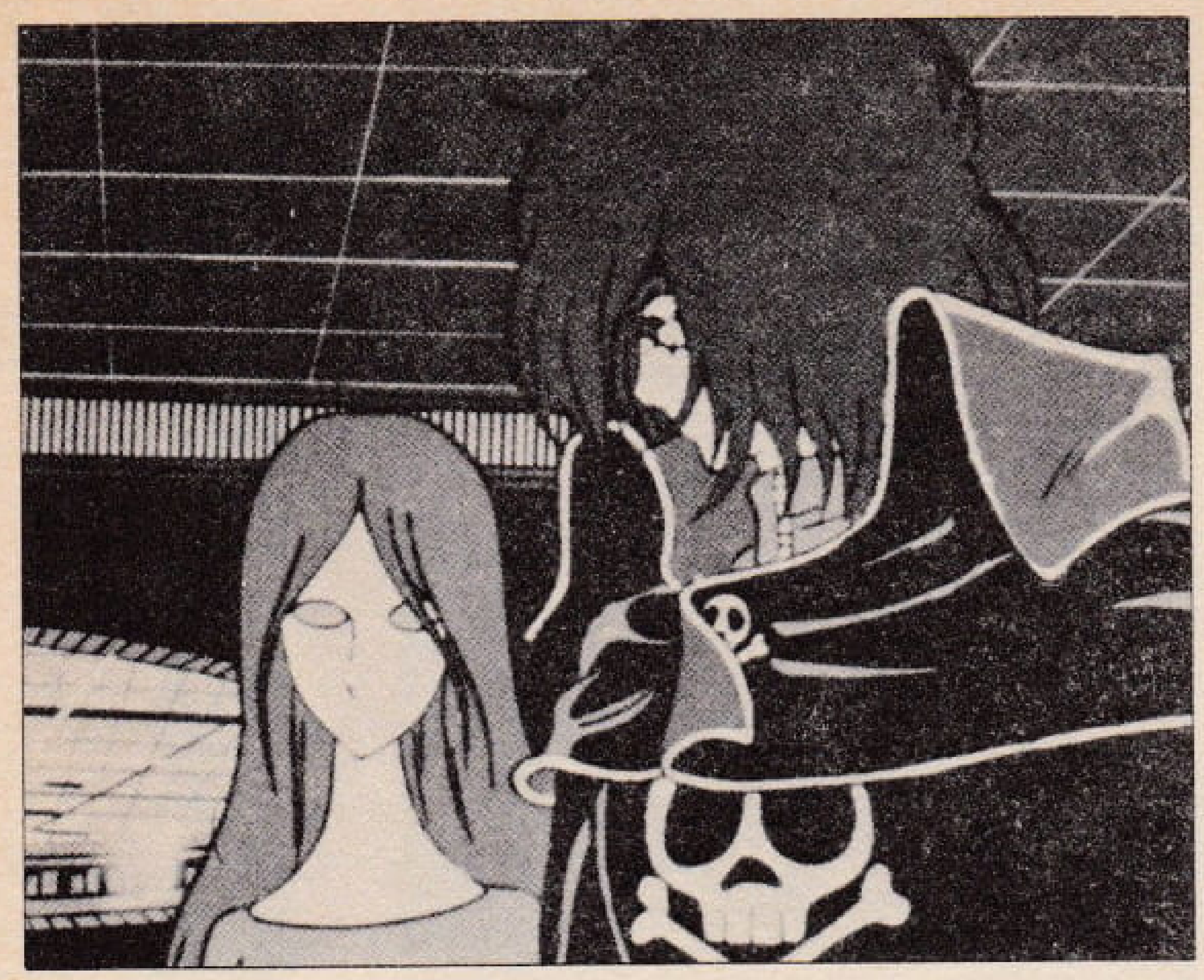
ハーロックで大変だったのは、とにかく松本零士調のイメージを、いかに生かすかという事でしたね。なにしろ、普通の作品とは逆に、黒を基準にやっていたんですから。

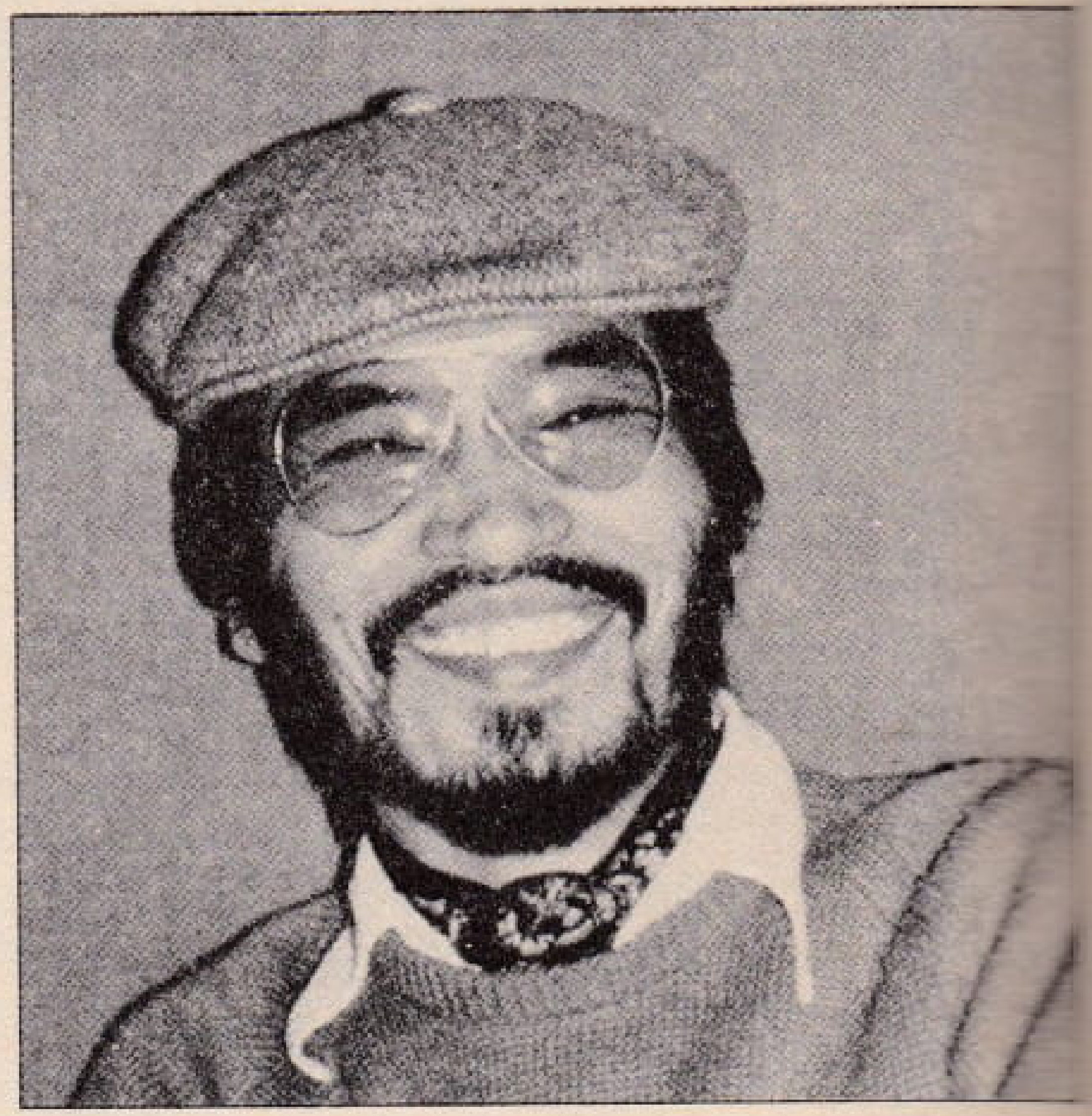
印象に残った作品というと、「螢・わかれうた」の中で、しゃみせんをひいている時に、海ぎわで廃船を舞台の背景にしたような絵があるんですけれども、そういうのを思い出しますね。

椋尾さんからの特別の注文はありませんでしたね。そのシーン、そのシーンを脚本によってどんどんやっていましたから。美術設定も両方で進めていったんです。

●演出

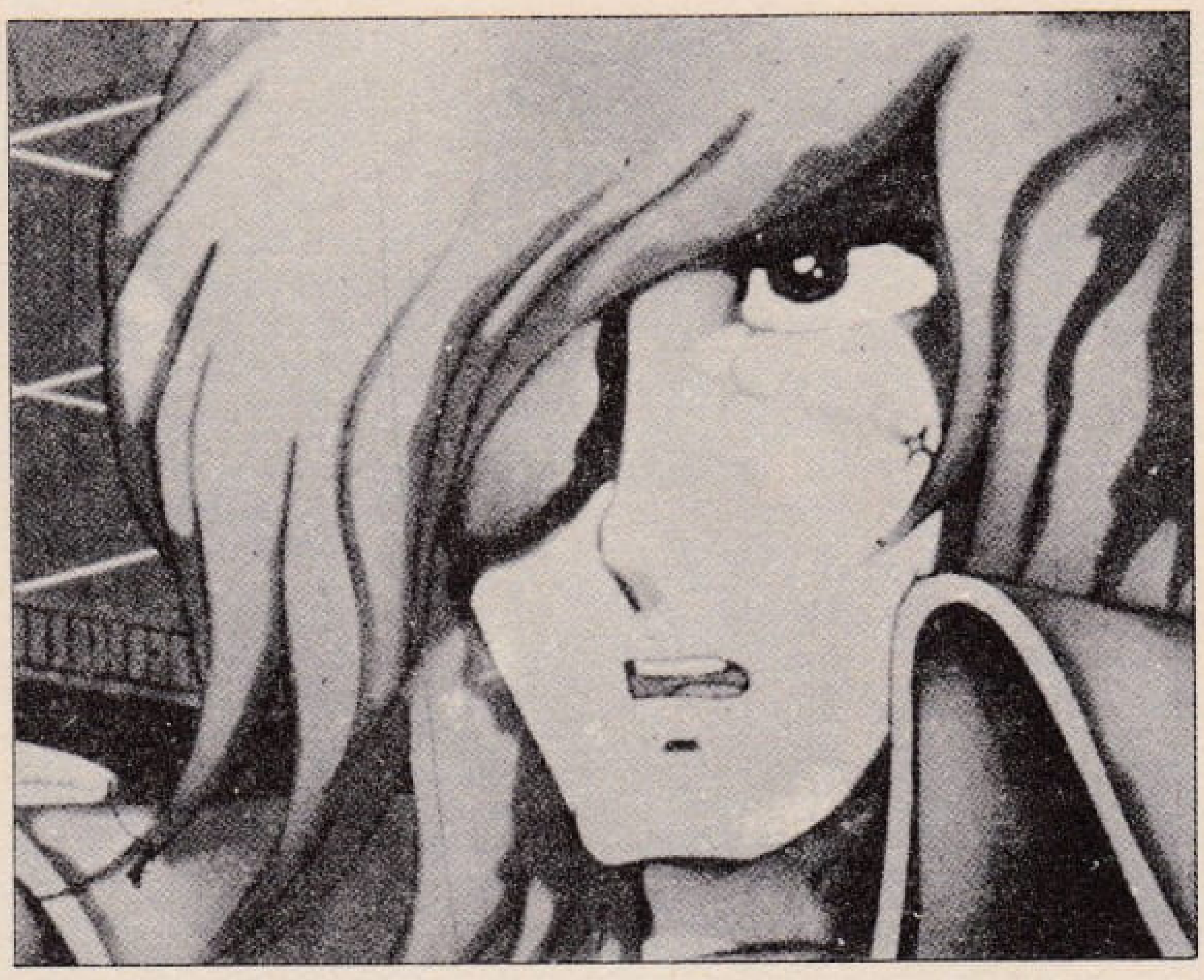
りん・たろう





僕は、この仕事を手掛ける事になって初めて原作を読む機会を得たんですけれども、ぱらぱらとみたらこれが実におもしろそうだったんですね。松本さんのハーロックというのに僕は自分の幼児体験に触れるものをふっと感じたんです。というのは、表現の仕方が悪いとは思うんだけれども、誰でも男だったら――漫画を描く人間だったら一度は描く――描いてみたいキャラクターなんですよ。西部劇のスタイルに海賊スタイル、その上黒いマントを着て……なんていうところに触発された面もありますね。

それまでに僕は「佐武と市」、「ムーミン」などの作品を手掛けてきたわけなんですけれども、まあテレビアニメーションというものは一般に幼児対象というむきがやはり強いんですよね。それで今回、もう少し高い年齢層を狙おうという事で、まあ、ハーロックは青春ものじゃないんだけれども、何かそういう作る人間が同時代的で、わりあい素直に、かつストレートに表現できるわけなんです。という事は楽といえば楽なんだけれども、逆にいうと、アニメーションでそれをどこまで表現できるのか？　という大きな一つの壁もまたあったわけです。



テーマは男の生きざまというとちょっと大ゲサかなあ。ハーロックの年齢は、たぶん松本さんにいわせると、20何才とかいうんだろうけれども、僕らは自分達の年齢……30才から40才に近い位のそういう感じでやっているんです。――つまり40代の男と、若い20代の男の価値感の違いを、ハーロックと台羽正という二人の間で語れたらなあと思いましてね。生きるという事にはそれほどの望みはなく、生きるんであれば自分の死に場所を求めて生きるという逆説の中で生きるハーロックと、何がなんでも、これから生きていく台羽正との、二人の男のタイプの違いは、本当はもっと作品の中に出したかったですね。

まあ、かっこよく生きたいんだけれどもかっこよくいかない部分というか、こういう何ともいえない男の切なさというものを誰しもが皆んなもっているんだろうね。そういう連中が集まって、この一つの作品の中で、眠らされている部分がくすぐられたというか、以外に視点が定まりやすくなっていったんです。

ハーロックというのは、つまり松本さんの残像なんでしょうね。誰でもポジティブな面と、ネガティブな面をもっていて、あれはネガティブな部分だと思いますね。松本さんの本当の姿というのは、四畳半シリーズのものだと思うんです。

――山中艦長、大田原長官などは松本さんの世界ではないでしょうね。僕は、あの世界わからなくはないんだけれども僕の世界かどうかもわからないです。僕自身がもっと素直になってみると、もっとみっともなく、かっこ悪くなる。そのかっこ悪さというのは、ハーロックの中でも時々出しているんだけれどもね。ハーロックというのは非常にかっこいいんだけれども、本当はかっこ悪いところもあるわけでね。つまり、ハーロックは自分より先に、自分の友人にかっこよく死なれてしまった。ところが自分では死にようがない。これがいつもアルカディア号の一番中心にいるわけですね。マゾーンにやられそうになって最後に「友よ！」って叫ぶ時にあれは誰もいないところで





やっているんだね。――つまり、やっぱり弱みね。アキレス腱みたいな……。だからまあその辺が僕なんかは、逆にいうとピッタリくるところがあるんだけれどもね。自分の中では二律背反していて、山中艦長みたいにかっこよく生きたいなんて思うけれども、あのかっこよさを自分で認めてしまうとダメッていうかね。そういう意味では山中艦長や、あの辺というのは、ハーロックなんかとはまた少し違った男というのを描いたわけですね。

　そういうものは、もっともっと色々な形で出てくればおもしろいんだけれども、多少その辺で話を整理して、乗組員の連中にドラマを絞っていったら、と今思ってても残念ですね。

　たぶんあのアルカディア号に乗っている連中というのは、非常に明るい連中らいれば、ハーロックみたいに暗さをひきずっている者もあれば、台羽正みたいに親父の復讐のためだけに乗っている者もあるんです。みんなあそこに乗っている連中は、ノアの方舟のようなアルカディア号に、やむを得ず故郷を捨てなければならなかったか、あるいは追われるようにしてか、――まあそういう連中が乗っているんだと思うわけです。だから、そういう意味ではみんな過去があるはずだし、まあその過去を全員―40人と1匹と1羽をみんな掘り下げたかったですね。

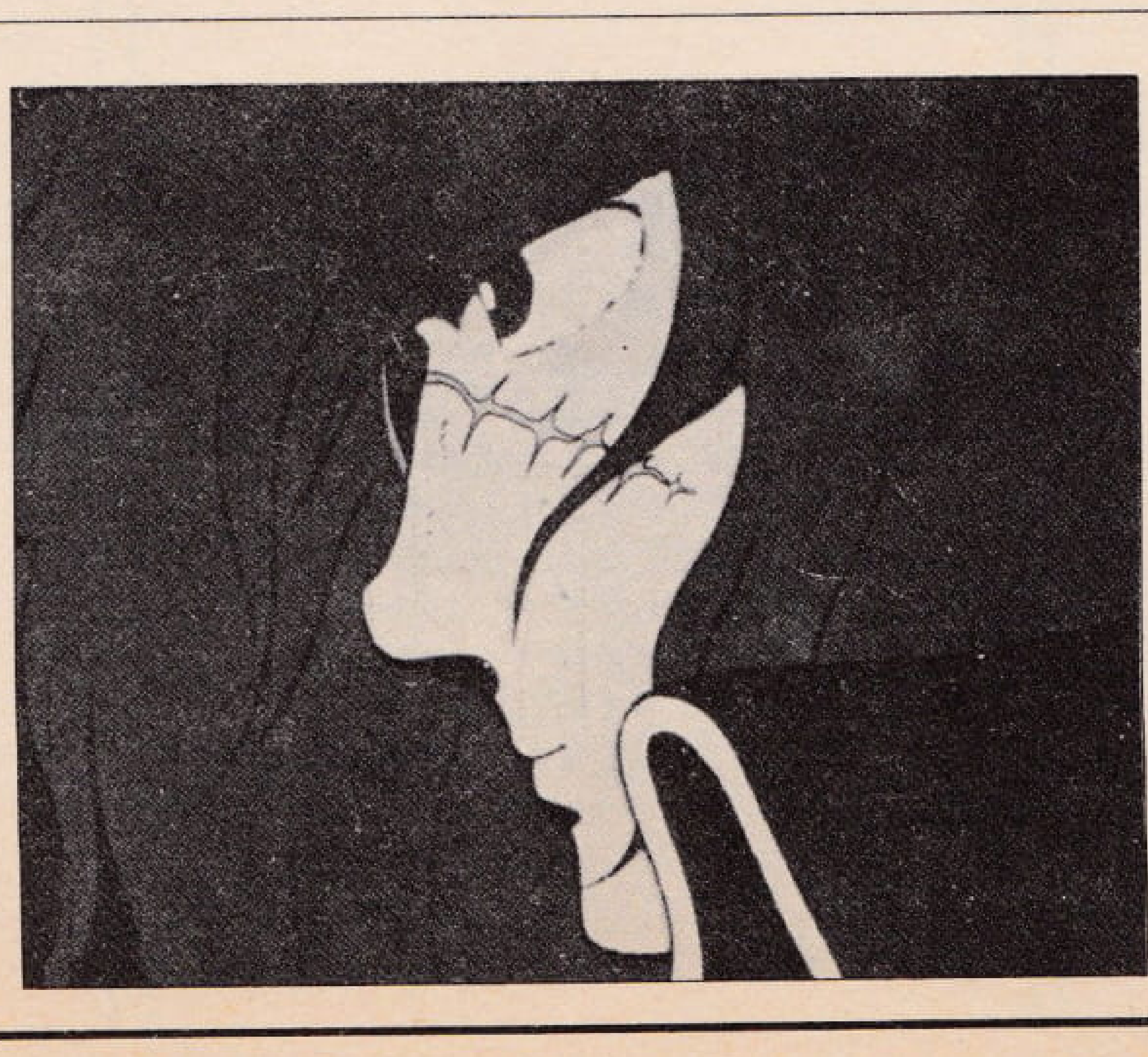
　まゆというキャラクターを出す事では松本さんとはかなりもめましたね。あれは、ハーロックが命を諸けて守る〝母なる大地〟の具体化した象徴で、別に少女でも少年でも子犬でも、何でもよかったんです。

　ハーロックにしても、切田にしても、ラフレシアにしても、物の考え方や信念をもっていることは皆んな同じなんです。それぞれの立場の相違から、彼らは対立せざるをえないわけですね。

　まあ、原作というものは、今も未完なわけでしょ。でも、映画というものは、―ハーロックに関していえば―42本という数の中で完結しなければならないわけ。

　それで僕は、最終回のイメージに、勝手にモビーディックを想像したんです。最後はアルカディア号で、ハーロックははりつけになって死んでいくであろうとね。ところが殺してもらってはこまるということでね。まあそれはハッピーエンドでなくても何でもいいんですが、四苦八苦する中で、我々は最終回をああいう形にもっていったんだけれども、まあ人によってはパート2があるようにみえるなんてもいいますね。

　映画は、ハーロックが去っていく前のカットで実は終わっているんですね。太宰治の引用についての解釈は、観た人におまかせします。深い意味は全くないんだけれども、僕自身の中では、あれが出



ないと終わらないという思いがあったのです。毎回脚本と打ちあわせをするときに、最後に俺はメッセージを入れたいから、そのメッセージは実はこういう内容だから、後はそれに合わせた話を作ってくれといっておいたわけです。

　ハーロックの最後は、結局どこかでノタレ死にでしょうね。ミーメも彼にくっついて、アルカディア号と共にガイコツになってくるんじゃないかな。

美術背景

アニメーションにおける、美術の示める位置は、年々高まっていく一方である。その中でも、特に独得の世界を切り開いて精彩を放つ椋尾美術の力は偉大である。"キャプテンハーロック"の背景の一部をここに紹介しよう。



●アルカディア号後部にある艦長室から望んだ青い地球。

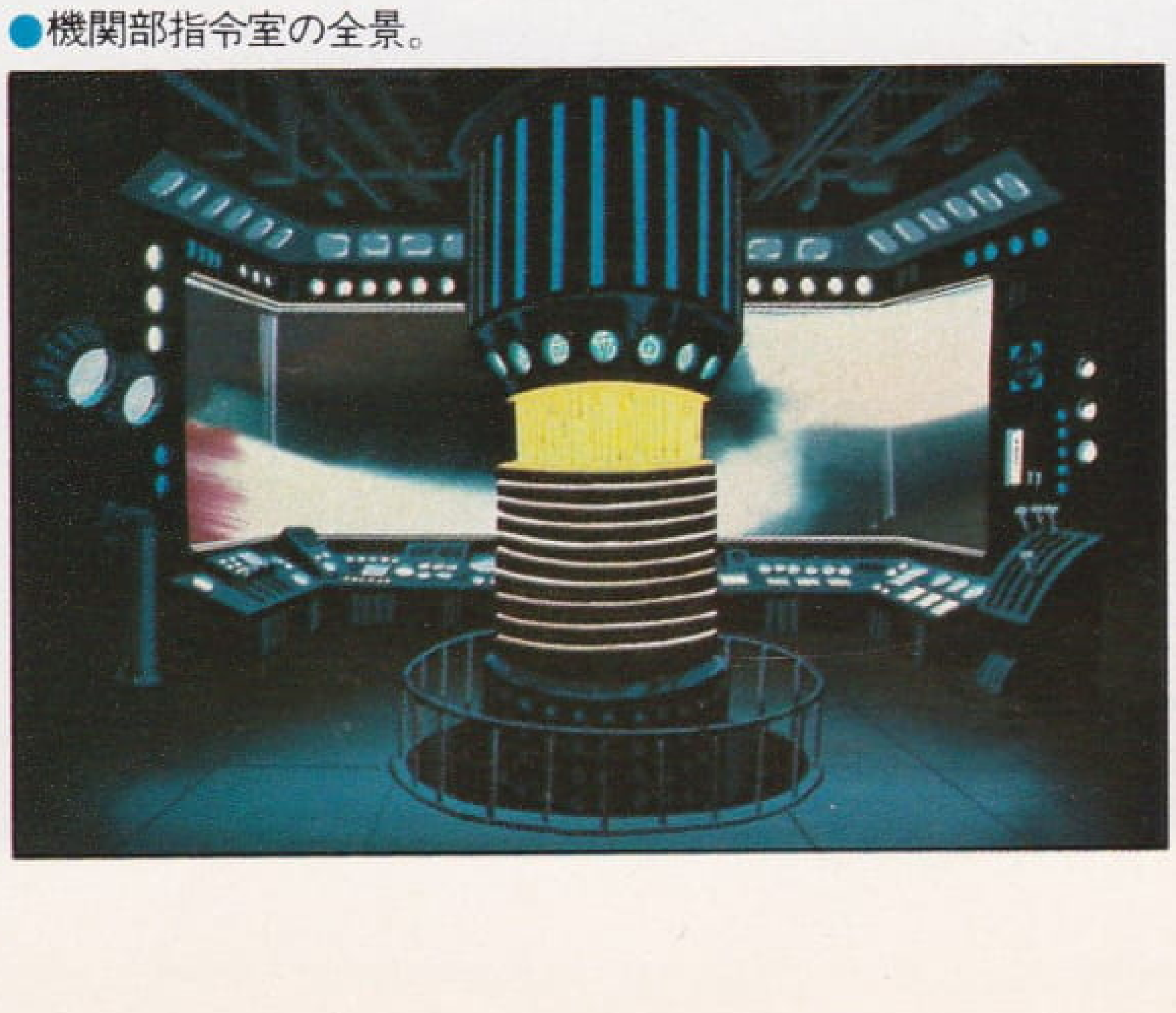
1 アルカディア号



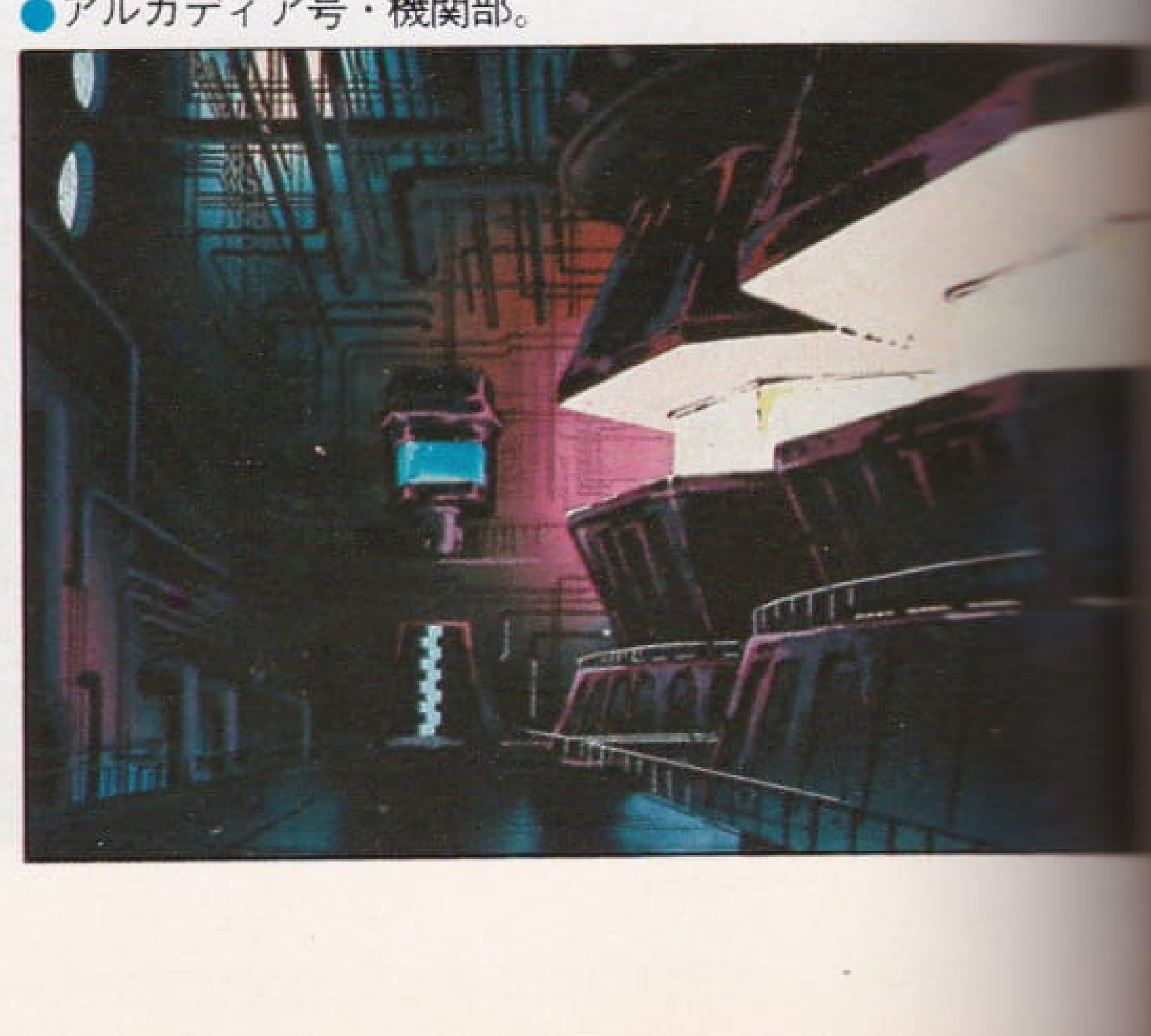
●機関部、魔地機関長・指令室の1コーナー。

背景ボード

キャプテンハーロックの美術は、〈設定→背景ボード→背景〉の順で進められる。背景ボードは、設定に色の指定を加え、直接背景の見本となる。



●機関部指令室の全景。

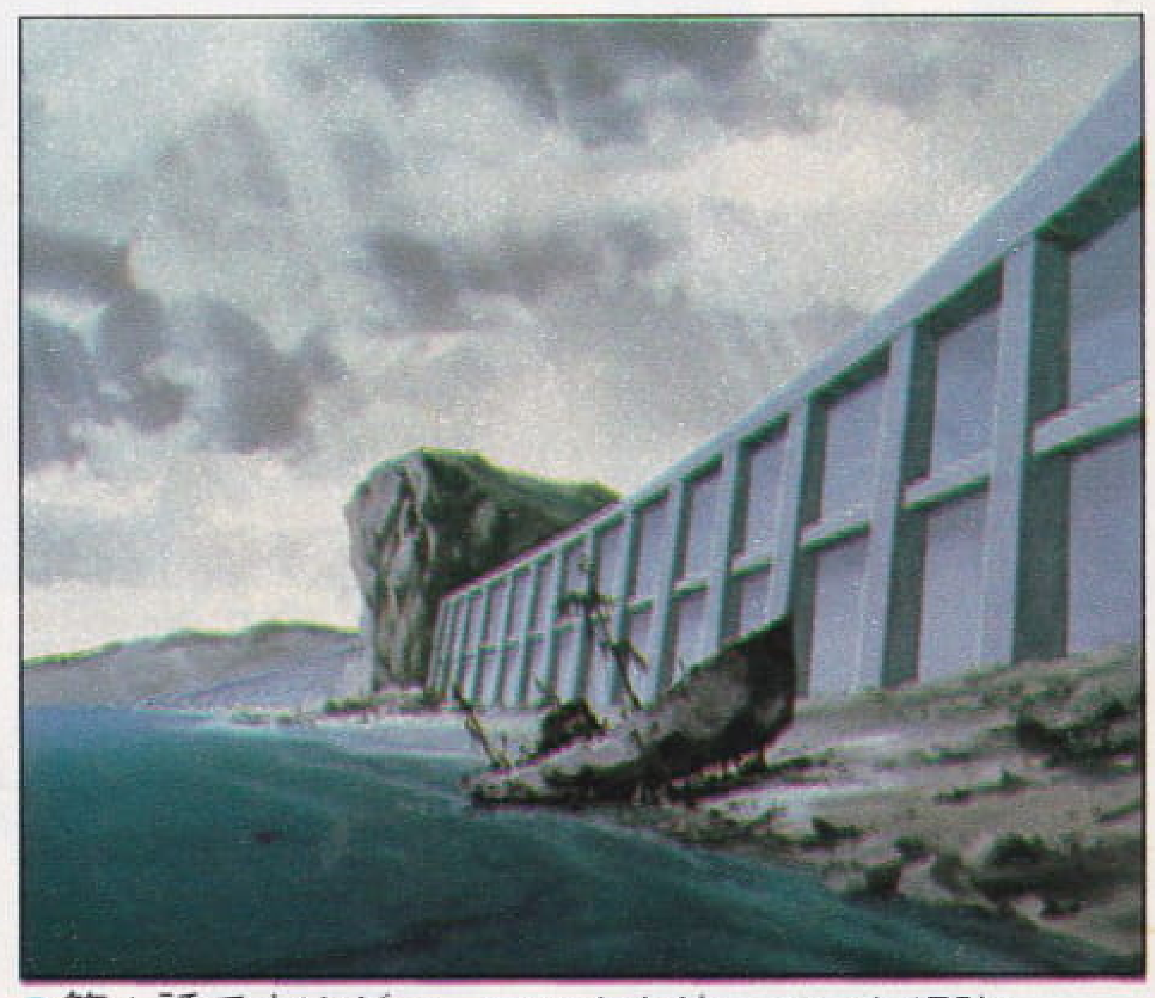


●アルカディア号・機関部。

2 地球





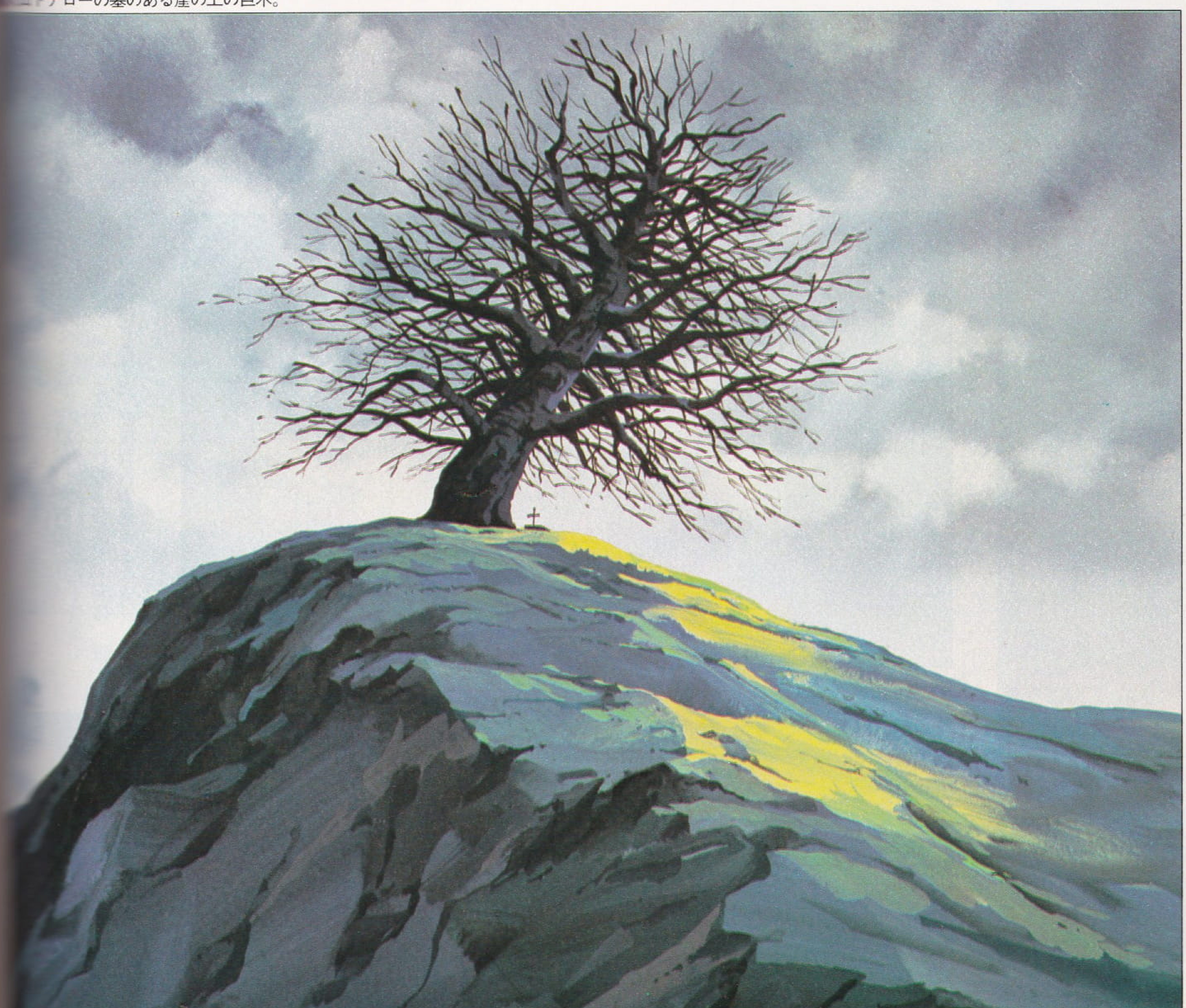


の色を用いた重々しい夕暮れ。

●地球にある大山トチローの仮の墓。

●第1話でまゆがハーロックを待っていた堤防

山トチローの墓のある崖の上の巨木。





●西歴2977年の未来都市。

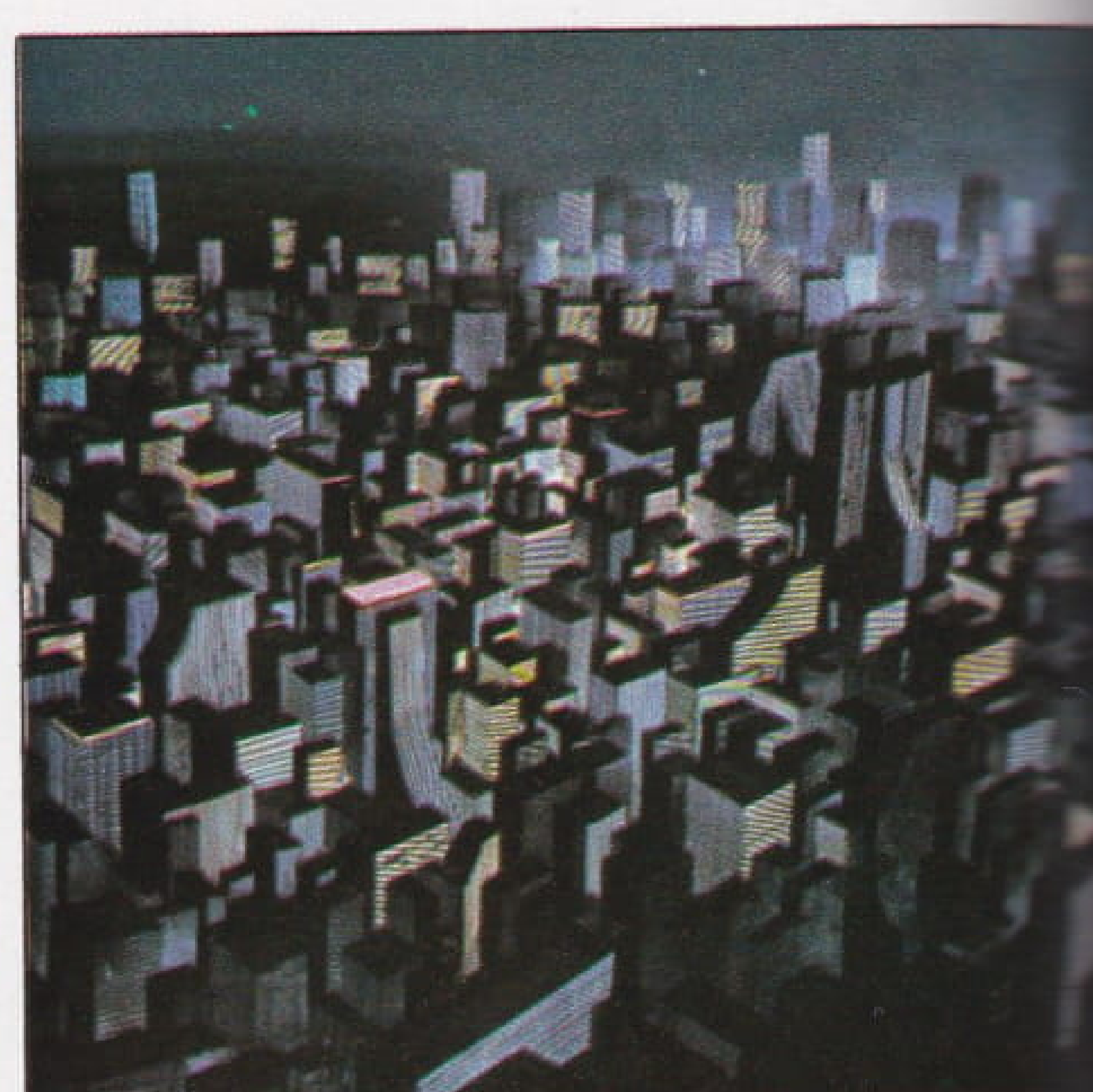
キャプテンハーロックの世界は、広大な宇宙の海と、高層ビルの立ち並ぶ未来都市と、不変の自然を背景(バック)に展開される。

どの背景一つをとってみても、椋尾氏ならではの個性に溢れている。特にこの都市——高層ビルの描写がそうだ。かつて、『ジエッターマルス』で、2015年の都市を描いていたムクオスタジオは、この作品でその描写法を更に進展させた。

特に遠景はすばらしく、ムダな線をはぶいたマッチ箱のようなビルが林立する様は、正に華麗の一語につきる。

夜景の美しさは、次作品『銀河鉄道999』へと発展していく。

全体にブルー系の色が基調となっていて、冷めきった空気が独得な清潔感を与えてくれるのも特徴の一つである。

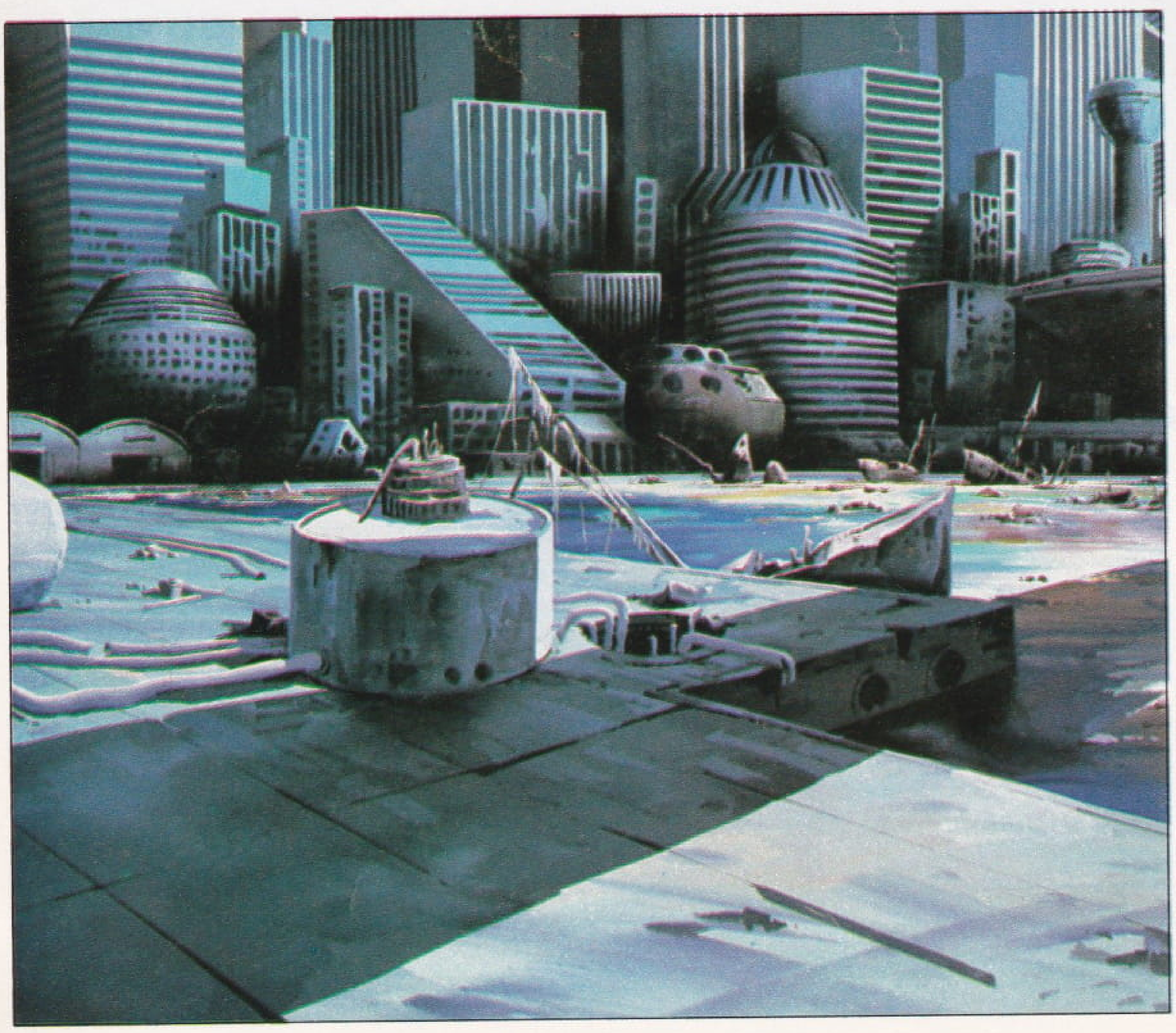


●超高層ビル街の夜景。

くアルカディア号」16話「愛・わかれうた」のラスト。そして、最終回のメッセージの入るシーン…等々。ハーロックには印象的な夕焼けのシーンが多い。

——夕焼け一つをとってみても、作中の人物の心理を反映して、様々な濃度や彩度を駆使して描かれる背景は、演出の意図を見事に表現していた。

自然描写の美術は、全体的に"郷愁"のイメージである。

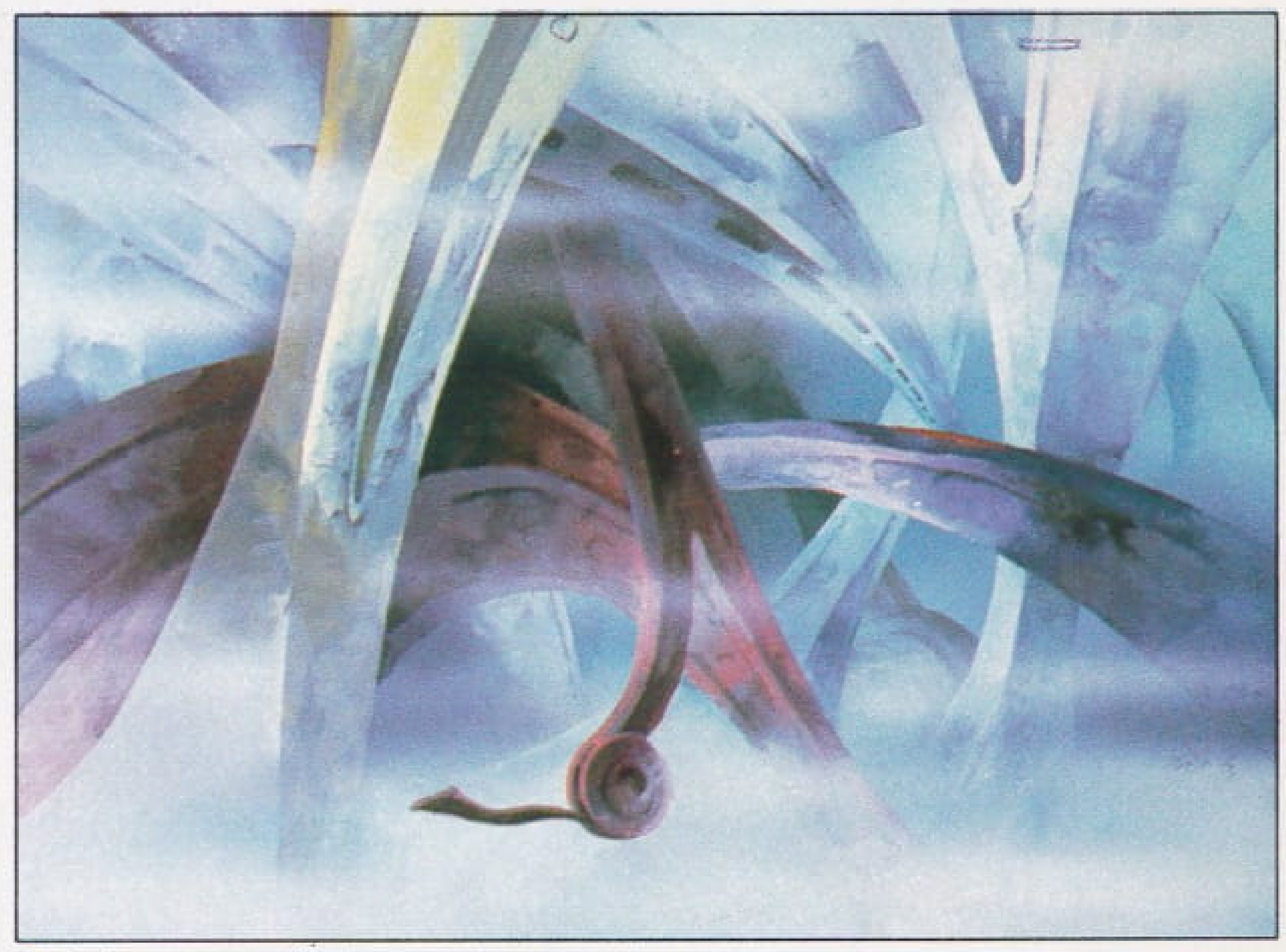


●朽ち果てた都市の一画。





●北極のオーロラ



●魔女アマンの海底ドームの中。

3 マゾーン



●マゾーンの龍宮城〝死の海の魔城〟



●マゾーンのペナント。《ここは全能なるわれらマゾーンの第２のふるさとなり》という文字が刻まれている。

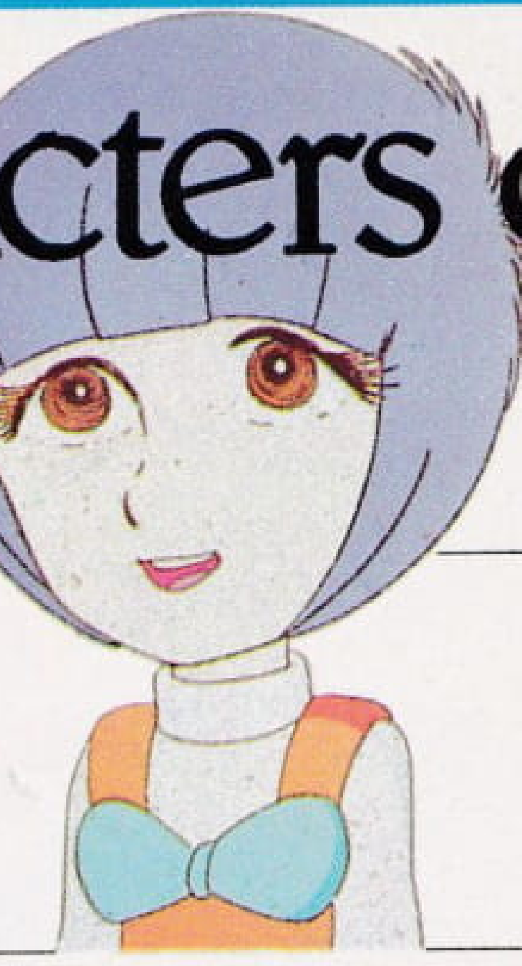
マゾーンの美術設定の特徴は、何といっても、いささか非人間的であるという事だろう。表面的な思考や言語のパターンが似かよっているとはいえ、本質的に生命形体が地球人と全く異なるマゾーンである。美的、造形的感覚にも当然ずれるところが出てくる。

その感覚のきわめつけが、物語の冒頭に出てくる黒い球体――マゾーンのペナントである。これは、松本氏の原作にあるイメージだが、実際にこのような物が、空から降ってきて、大都市のド真ん中にあるという光景は、異様などという表現を越えてあまりあるものがあった。

基本的には、松本零士感覚を押さえた、地球・ハーロック側の造形のパロディのようなデザインのものが多かった中で、13話「死の海の魔城」や、15話「悲恋！北極オーロラ」などのマゾーンに関する美術の中では、〝人間でない感覚〟という事を意識して設定したと思われるユニークなものが見られた。



The Beautiful Characters of Captain Herlock



夢・花・美・涙



…の中でも希望をすてない少女・まゆ

まゆ——
「来ないで…来ないで……来たらきっと殺されるわ。だからこないで、ハーロック」　（第1話）
「お願い！　連れていって、私を宇宙へ連れていって……」　（第2話）
「オカリナを吹けば、きっと来てくれると思っていたの、だから吹き続けたわ」

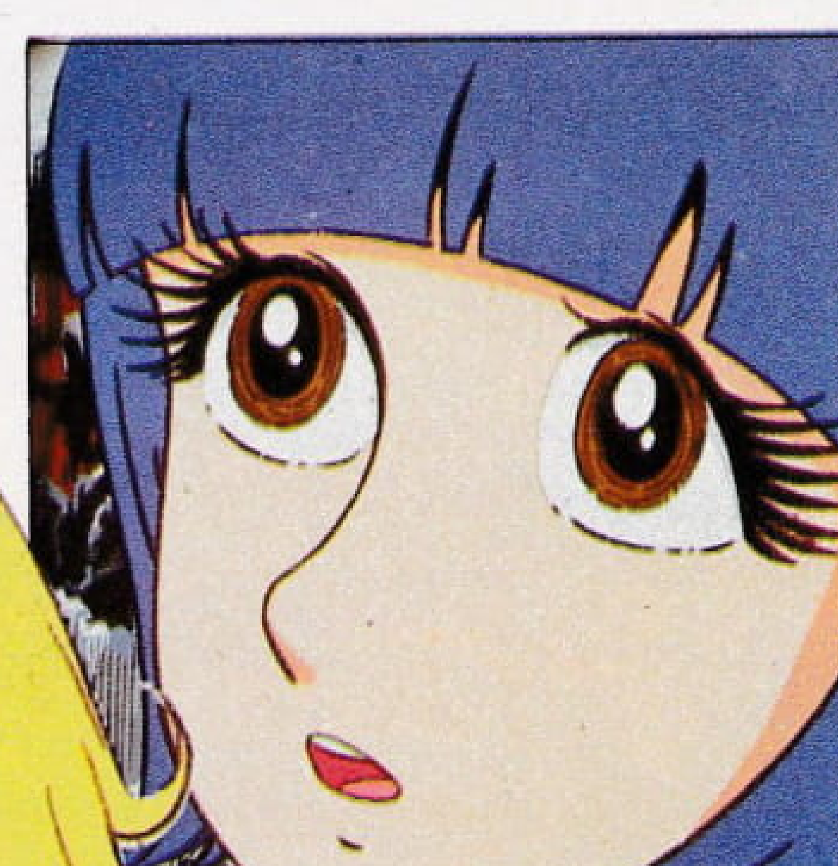


●花や小鳥を愛する少女・まゆ



…星ジュラの最後の女性・ミーメ

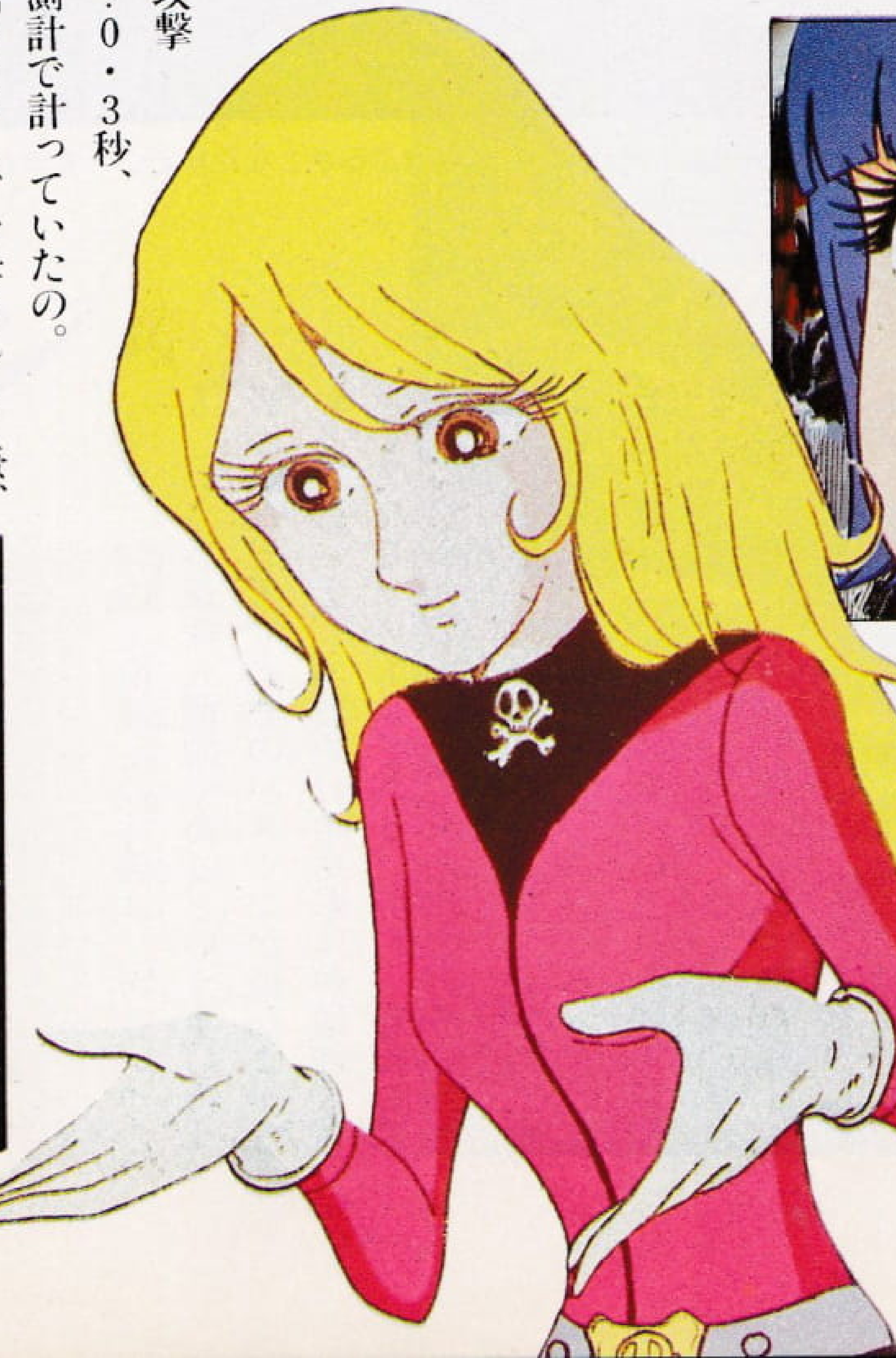
螢——
「…相手より攻撃が遅れたわ……0・3秒、私、光電波観測計で計っていたの。（第10話）、「お父さん、お母さん……螢、きました。」　（第16話）
「私たちの戦いって、いったい何だったんでしょう。」　（第42話）



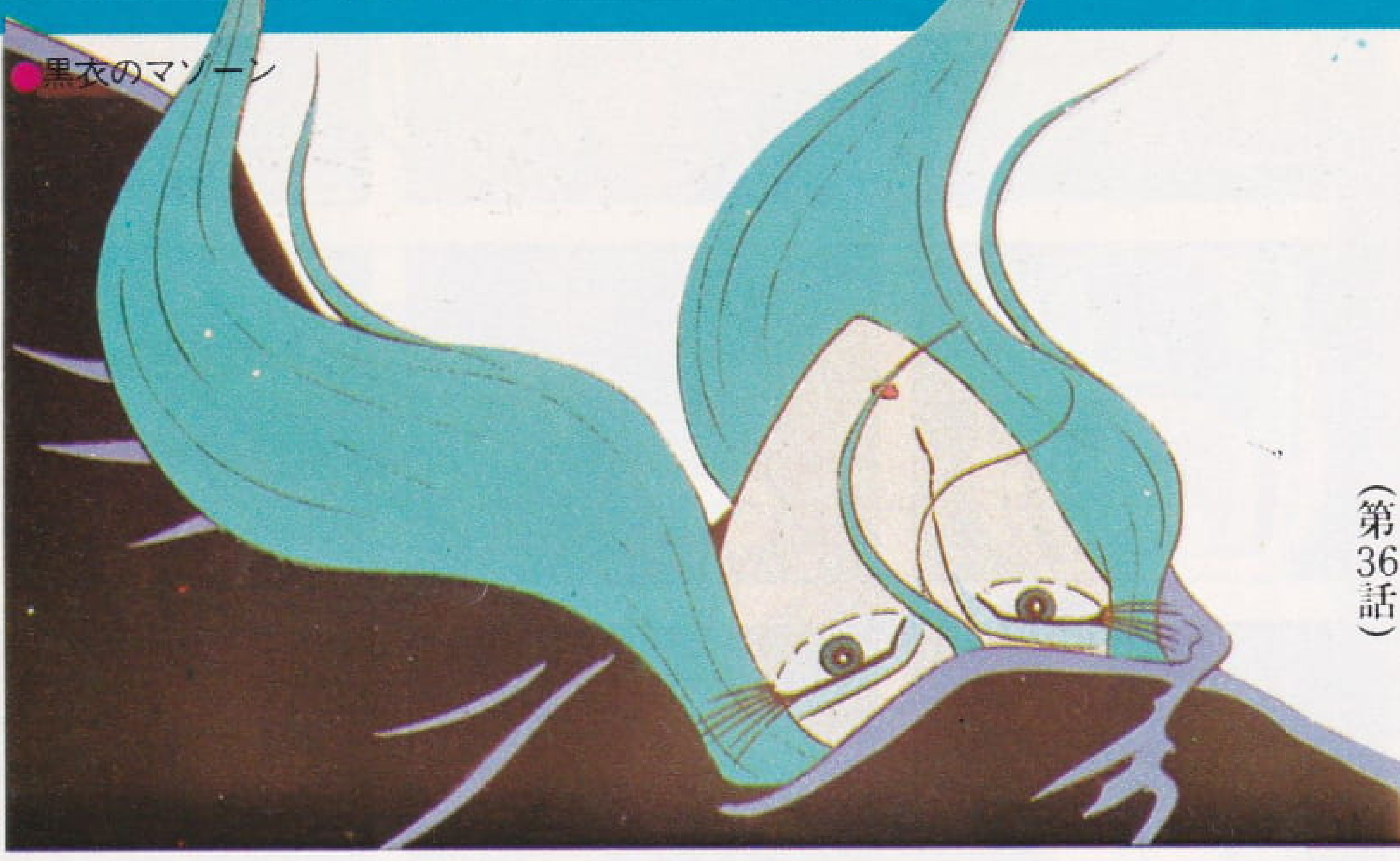
●母なる大地が育んだ少女まゆ

…ルカディア号の有紀螢

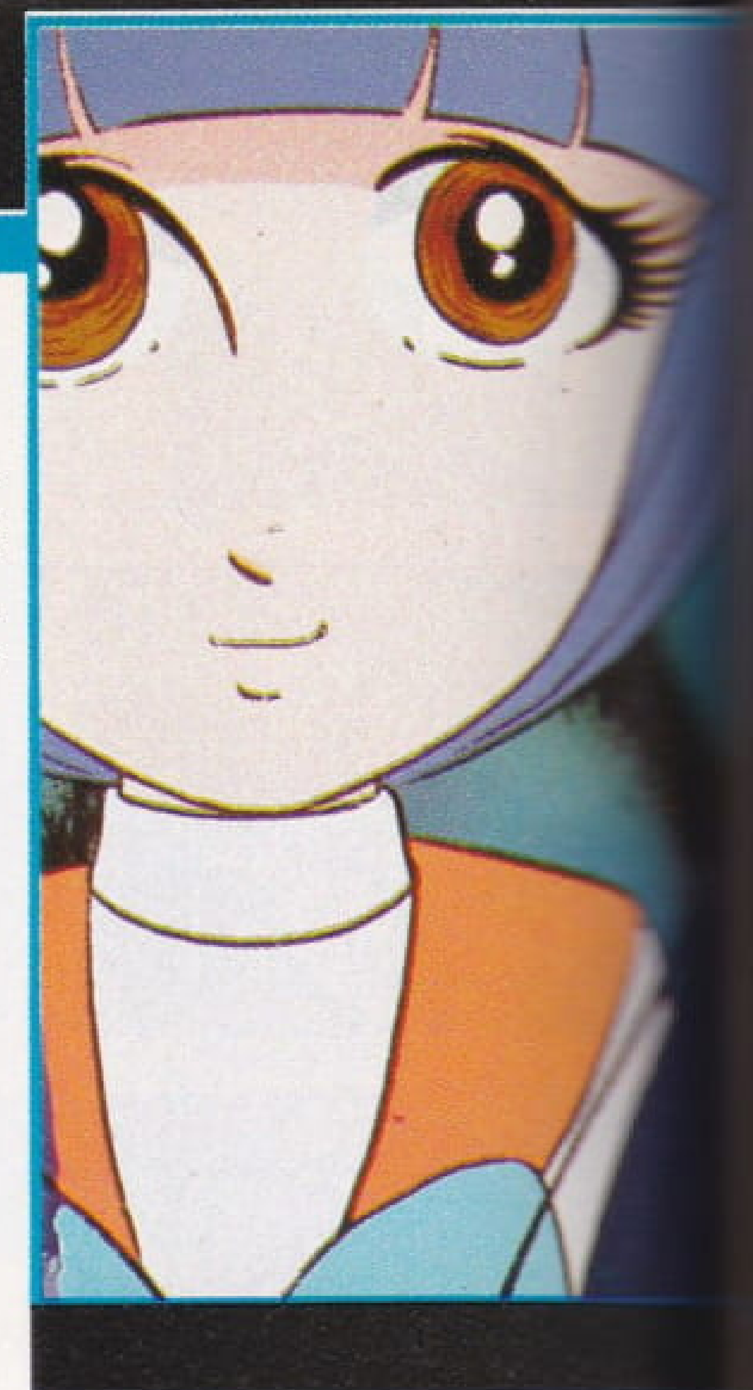




●清純な美少女・有紀螢



●黒衣のマゾーン

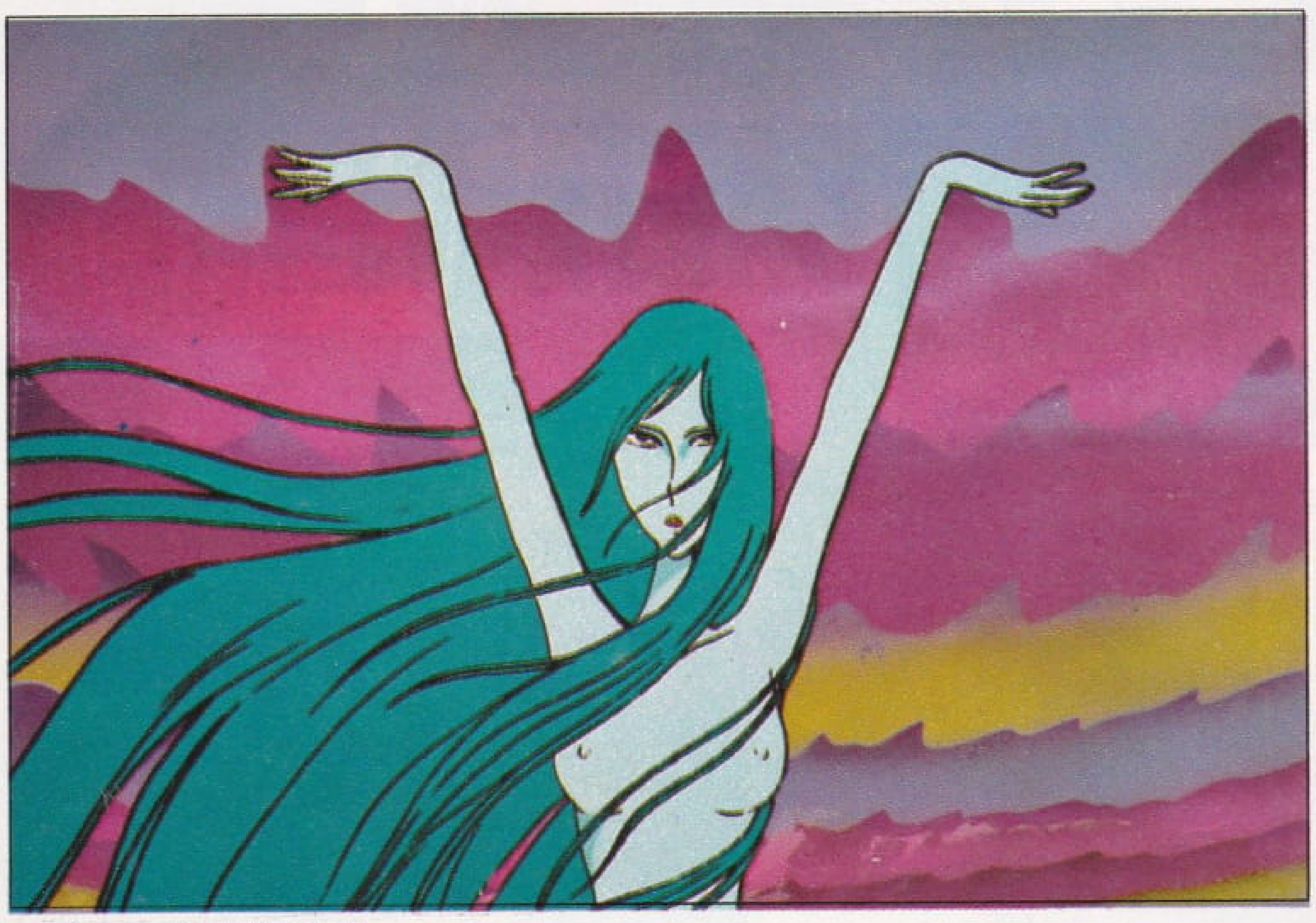


波野静香——

「先程は、はしたない真似をしまして申し訳ございませんでした。

でも決して浮わついた気持ではありません……私は……首相官邸で初めてあなたをお見かけしたときから、ひそかに……」

（第36話）



●マゾーン地球潜入部隊。



●謎の女・波野静香



●白い雪状から生まれたマゾーン兵士。

ラフレシア——

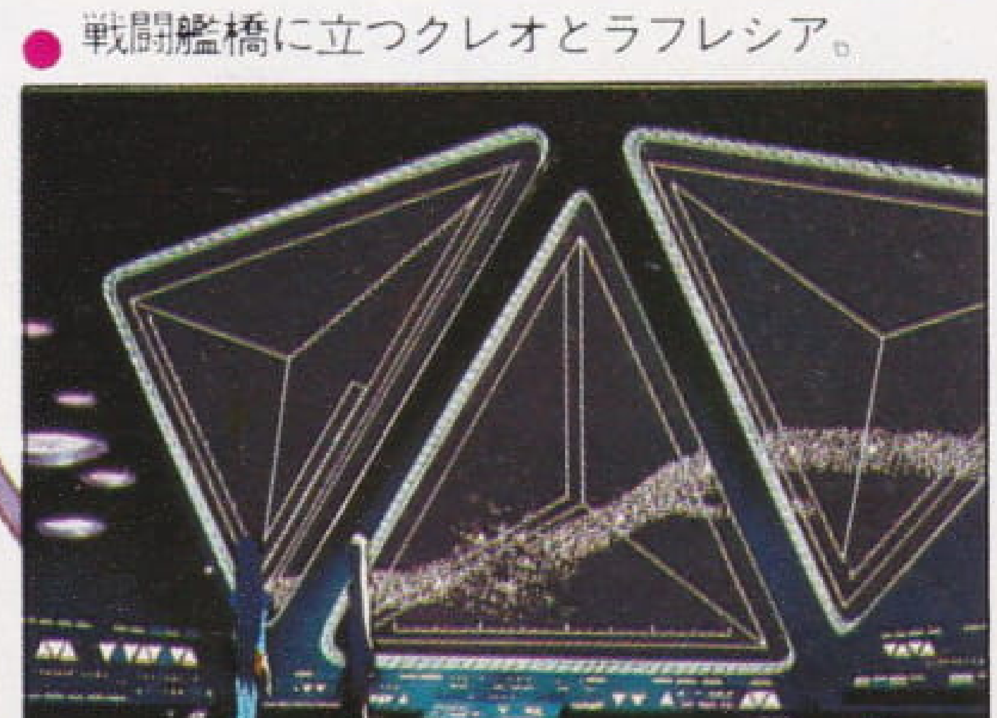
「ハーロック……それほど死にたいのなら、よし、死に場所を提供しよう。（中略）そなたのいうように確かに私は死ぬわけにはいかぬのだ。」

（第36話）

●女王ラフレシア（後期）



●戦闘艦橋に立つクレオとラフレシア。



●女王とその右腕、武官クレオ





●女王ラフレシア（前期）

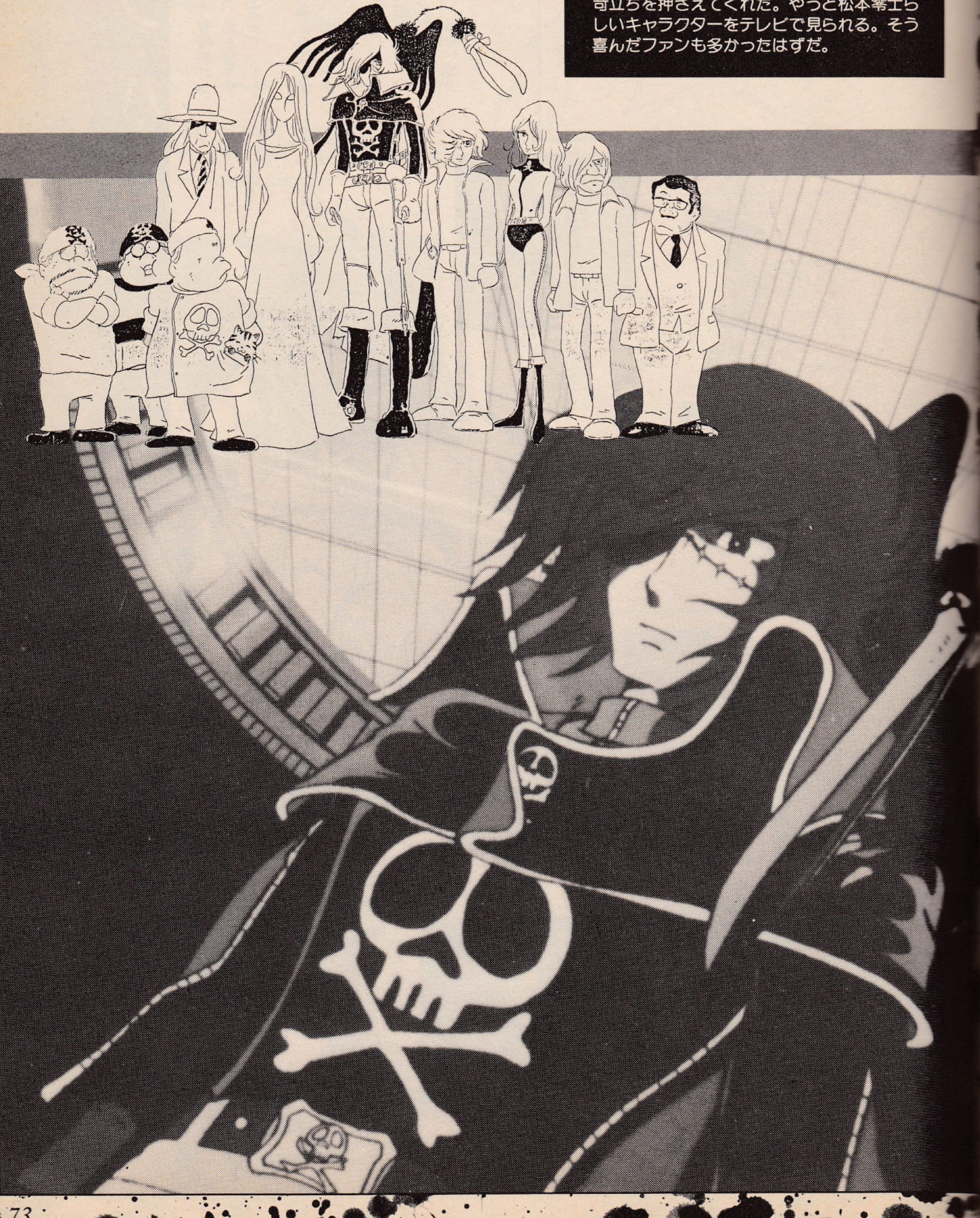

CAPTAIN HERLOCK
42

設定資料

人物＋美術

ハーロック以前に松本零士氏のタッチしたＴＶアニメは「宇宙戦艦ヤマト」「惑星ロボ・ダンガードＡ」と２本作られている。しかしいずれの作品も松本氏は単に設定を提供しただけであって、それらは彼の世界とは離れたものになっていた。

この「宇宙海賊キャプテンハーロック」は、まずキャラクター設定の段階においてそんな苛立ちを押さえてくれた。やっと松本零士らしいキャラクターをテレビで見られる。そう喜んだファンも多かったはずだ。



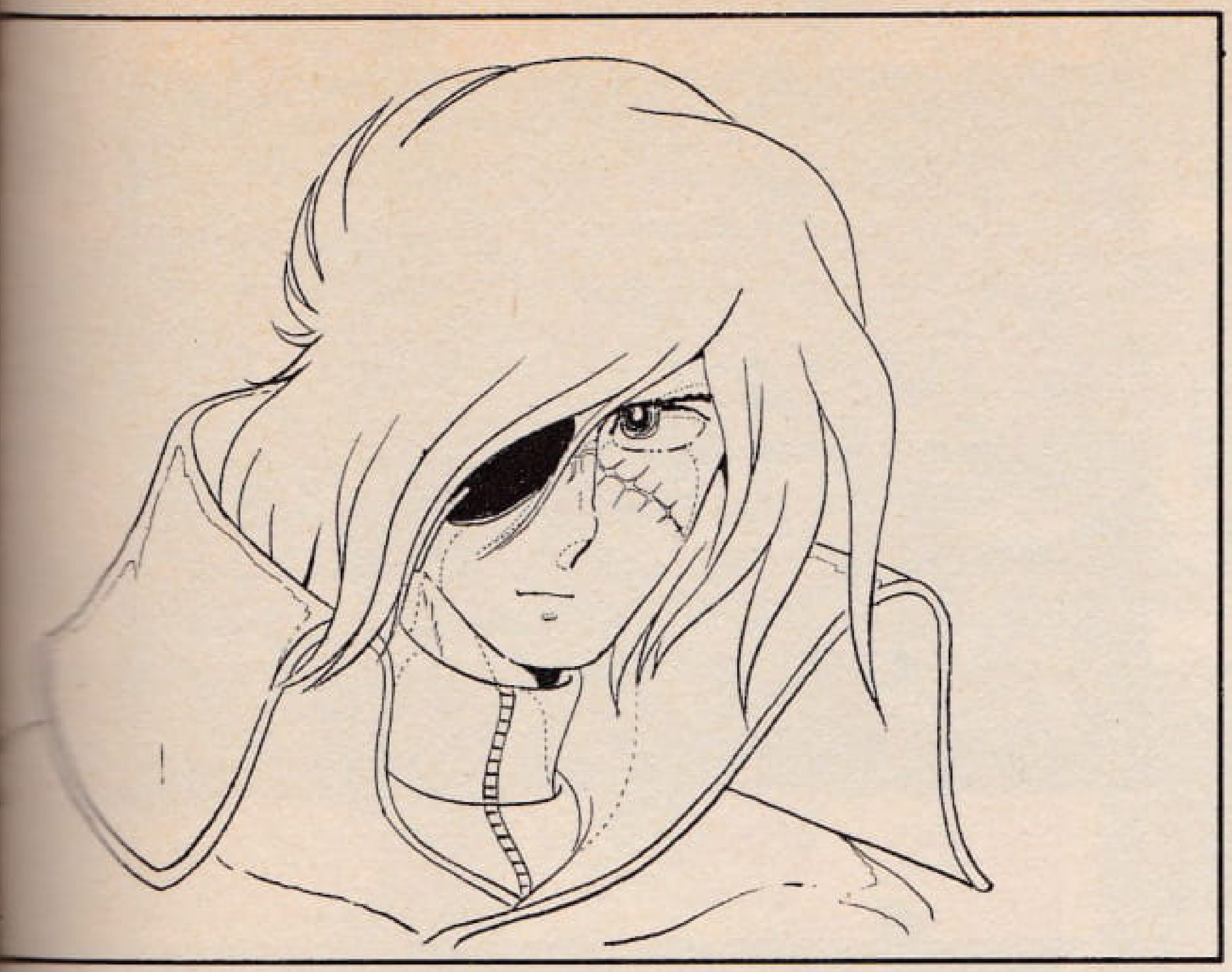
ハーロックと41人の海賊たち

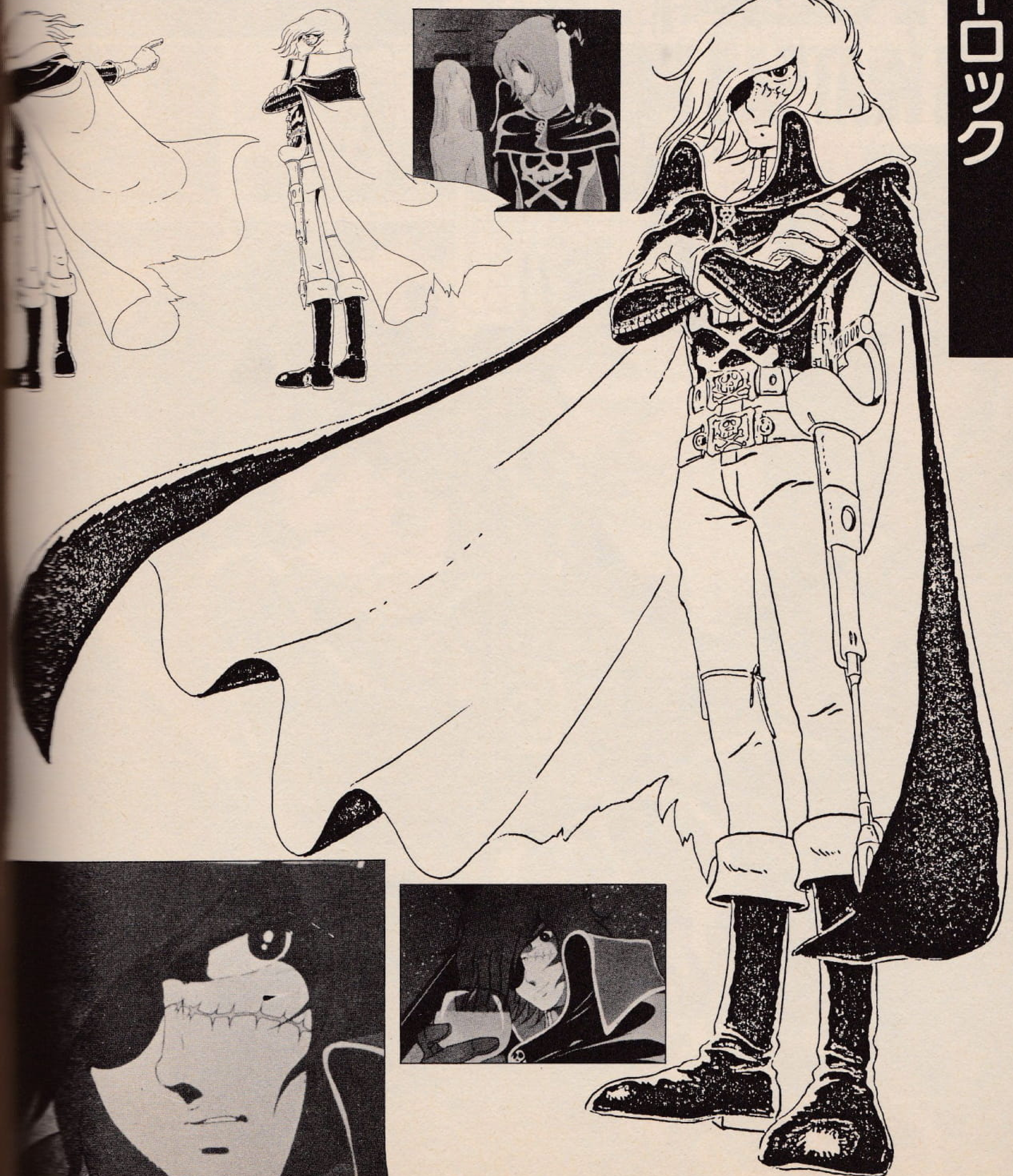
キャプテン・ハーロック

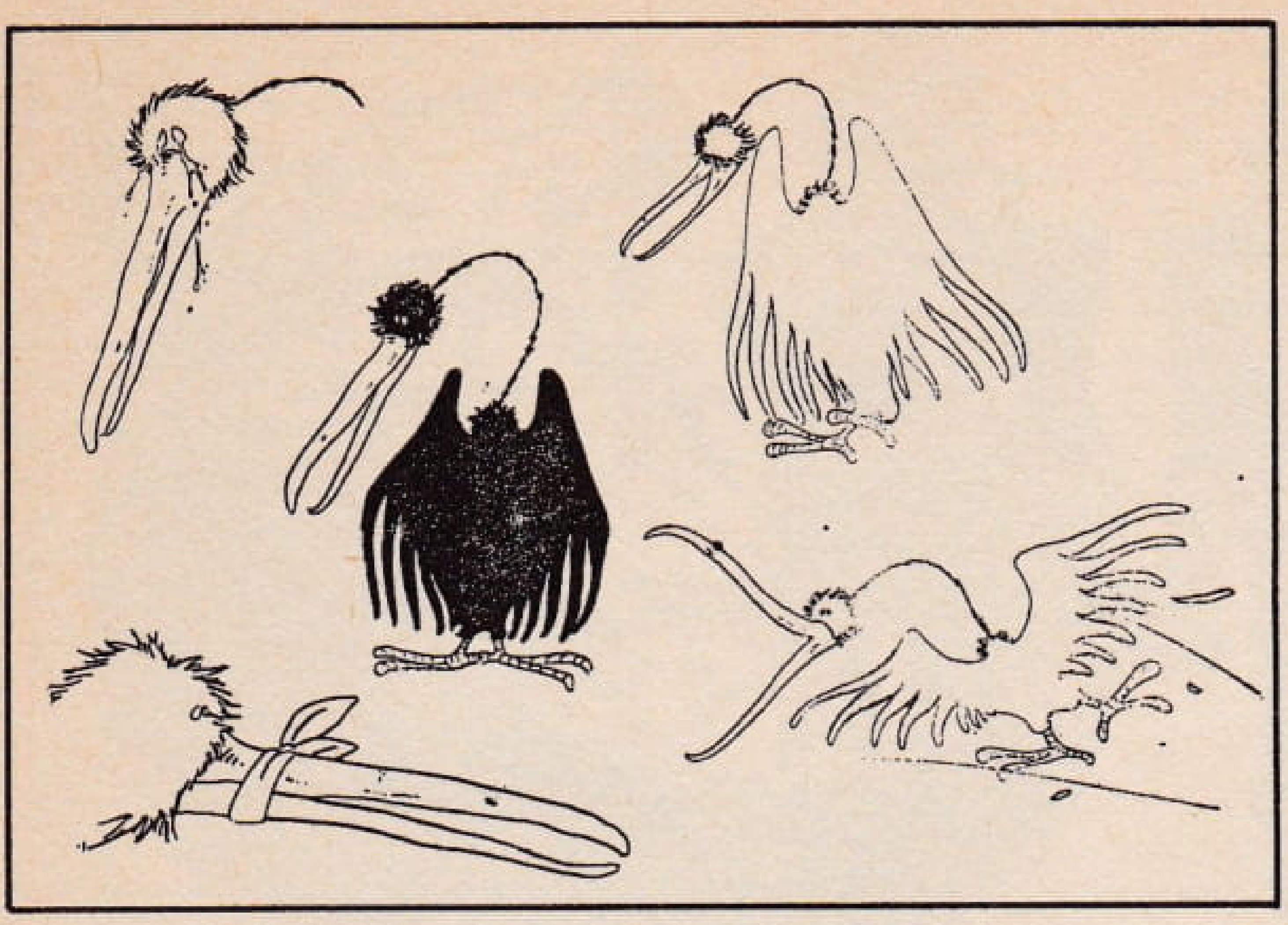
ハーロックの先祖は海賊騎士、冒険家だったという。そう言われてみれば、船を駆り宇宙を渡り歩く彼に、そんな血が流れていたとしても不思議はない。

だらけきった地球に絶望し、夢と希望を求めてさすらう。信念を貫き通し、どんな小さな約束でも必ず守り、何が起ころうとも希望を捨てない。自由を愛し、友を愛す。

今までのテレビアニメの主人公とちがい、陰を感じさせるアウトロータイプである。とにかく謎につつまれた男で、わからない部分が多いからこそ、ハーロックはファンにとって夢なのである。

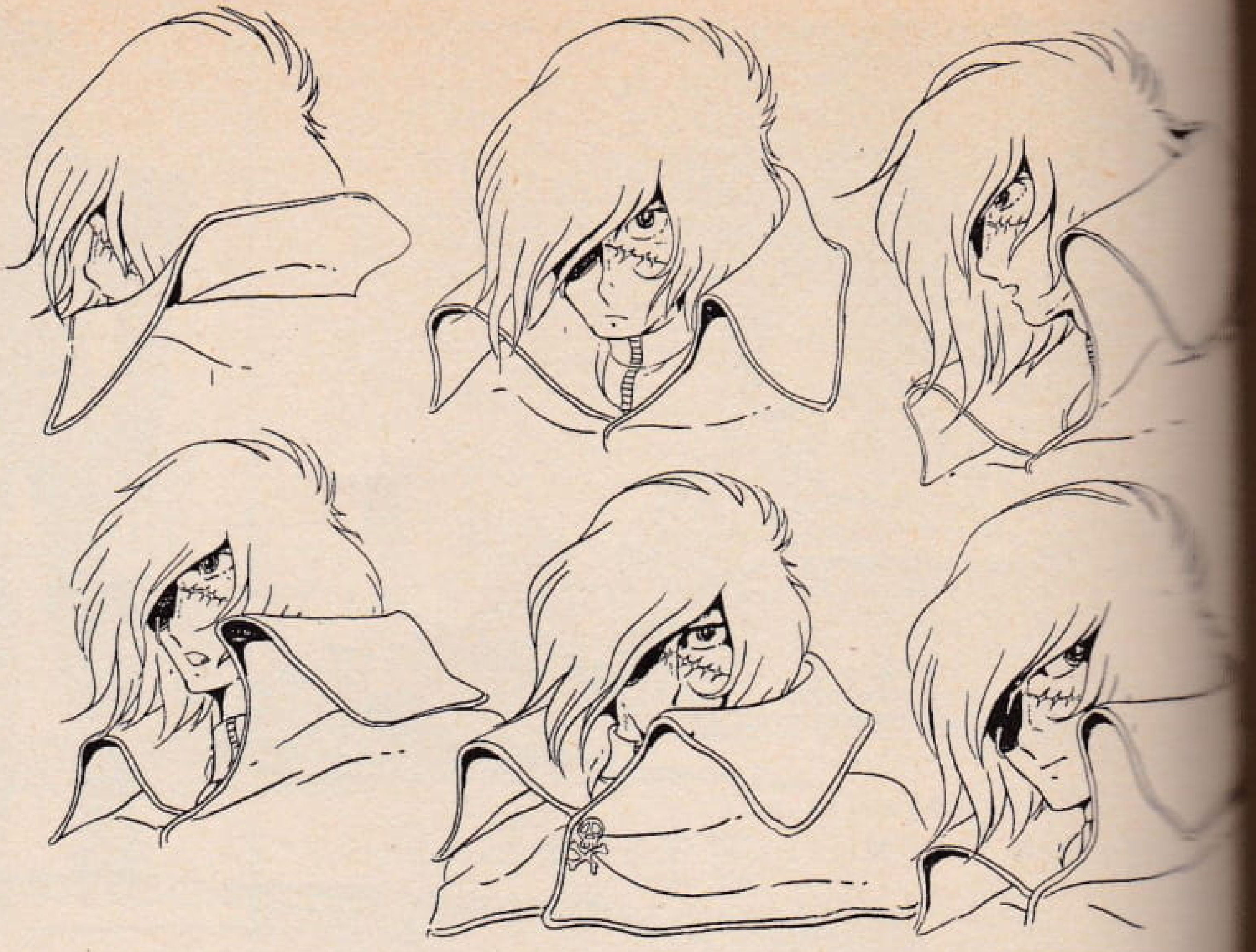


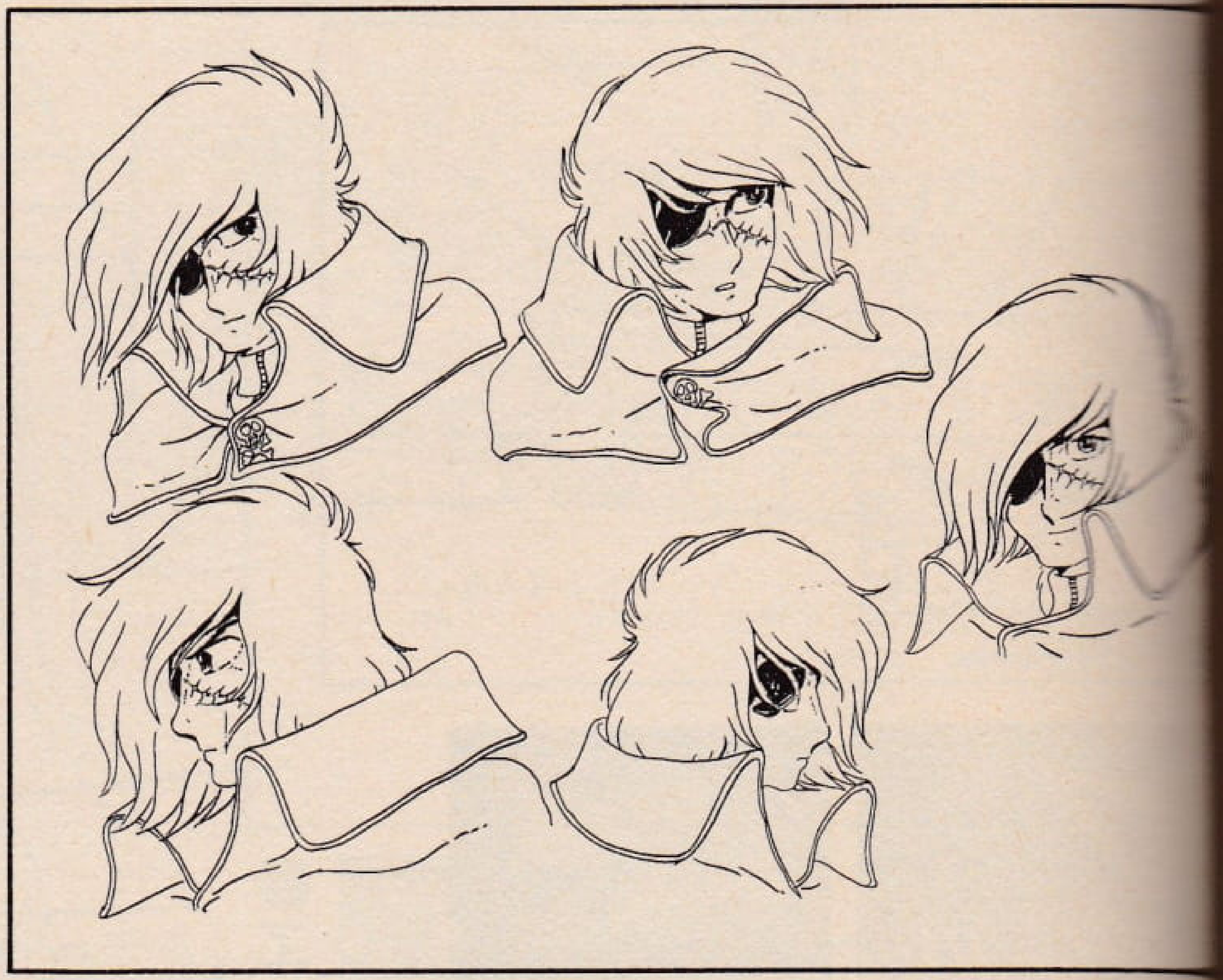


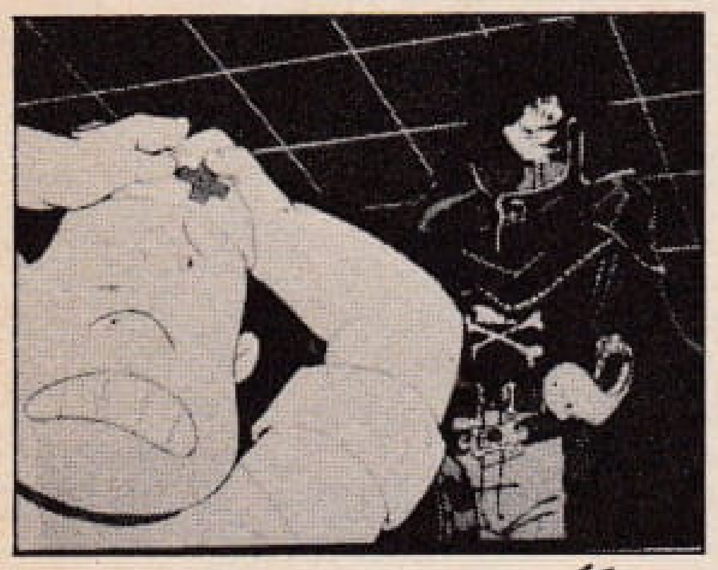


●トリさん

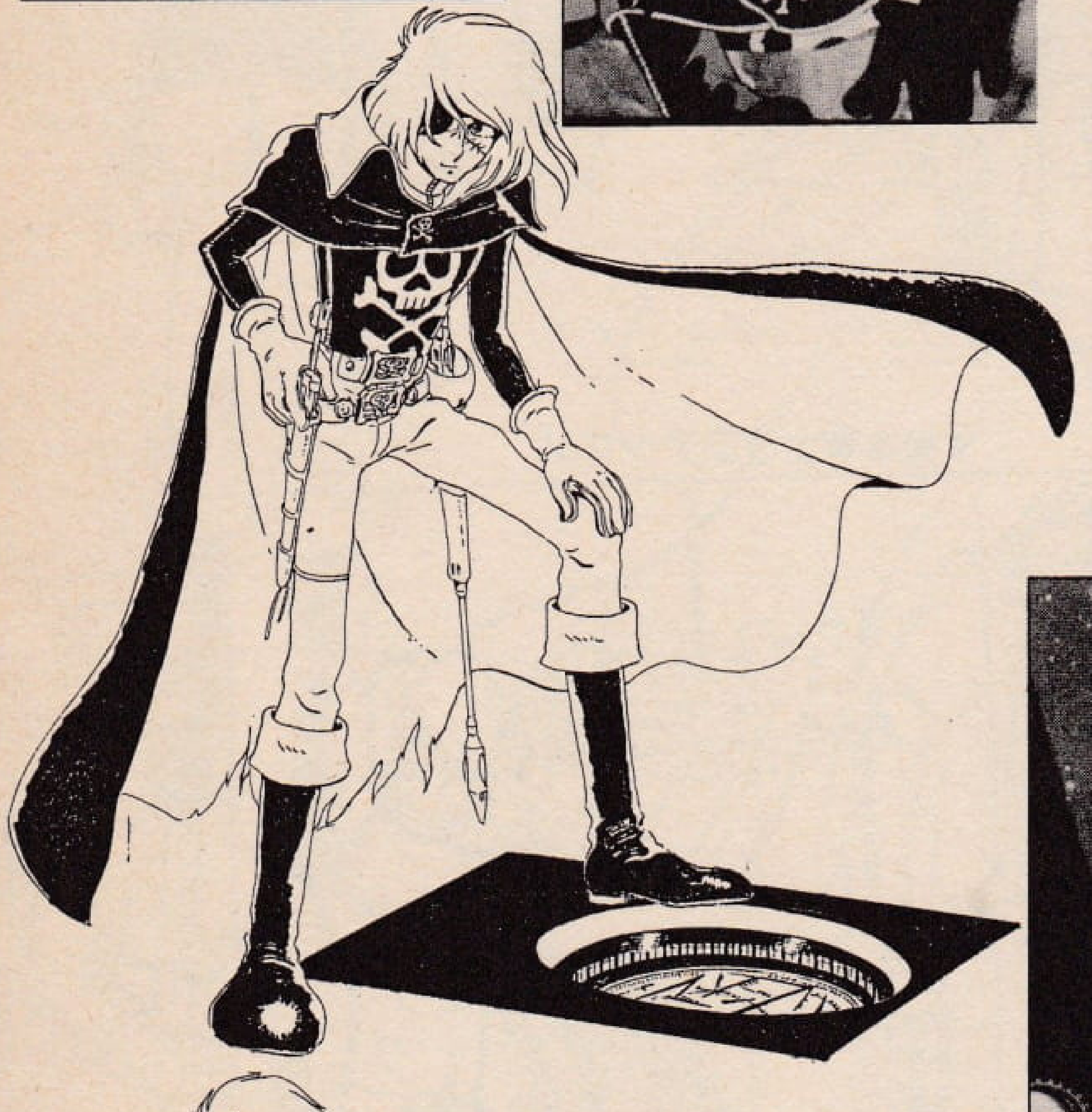
もともとはトチローが主人だったが、彼亡きあとはハーロックと一緒にアルカディア号に乗っている。鳴き声は最初大竹宏氏がやっていたが、途中から効果音に変わった。

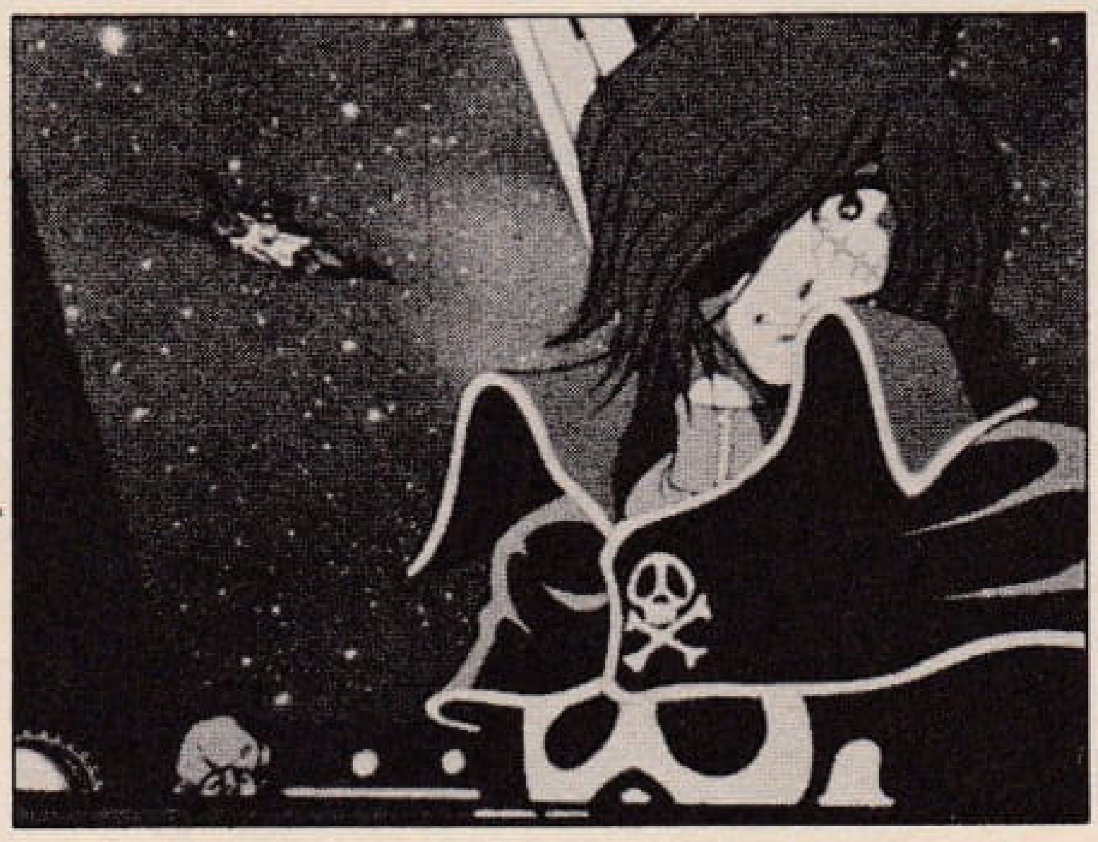




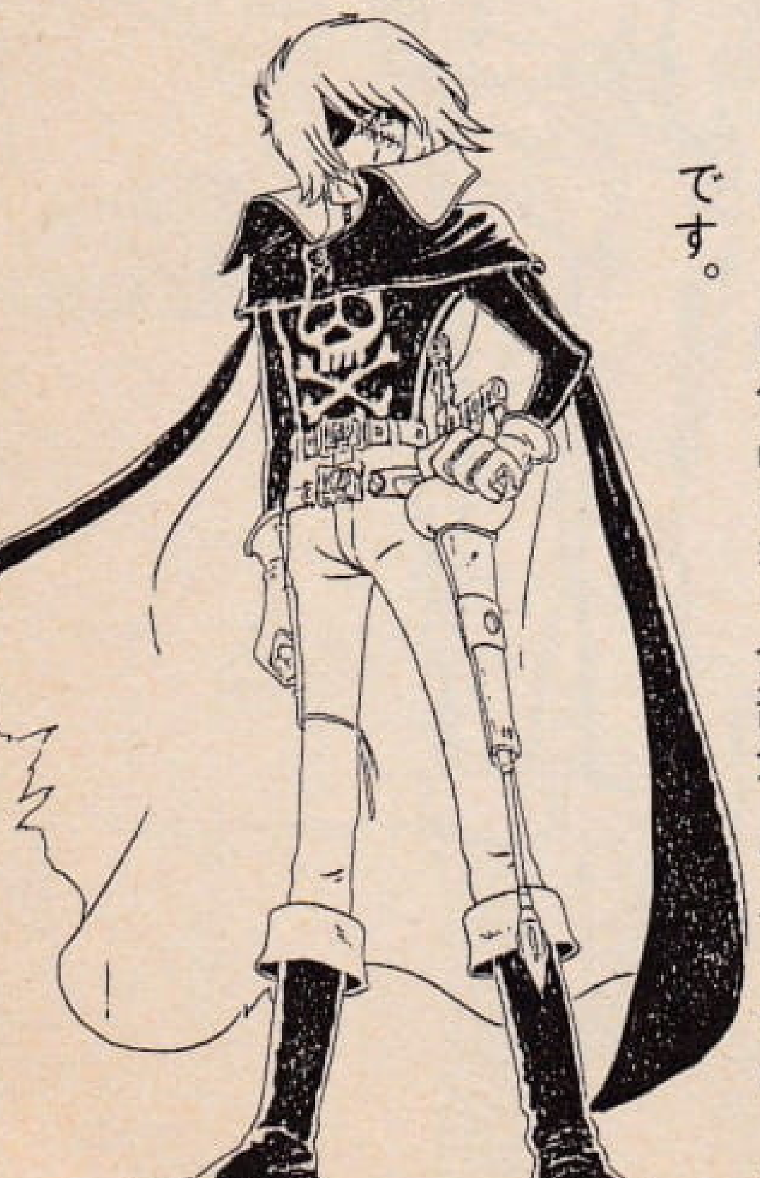








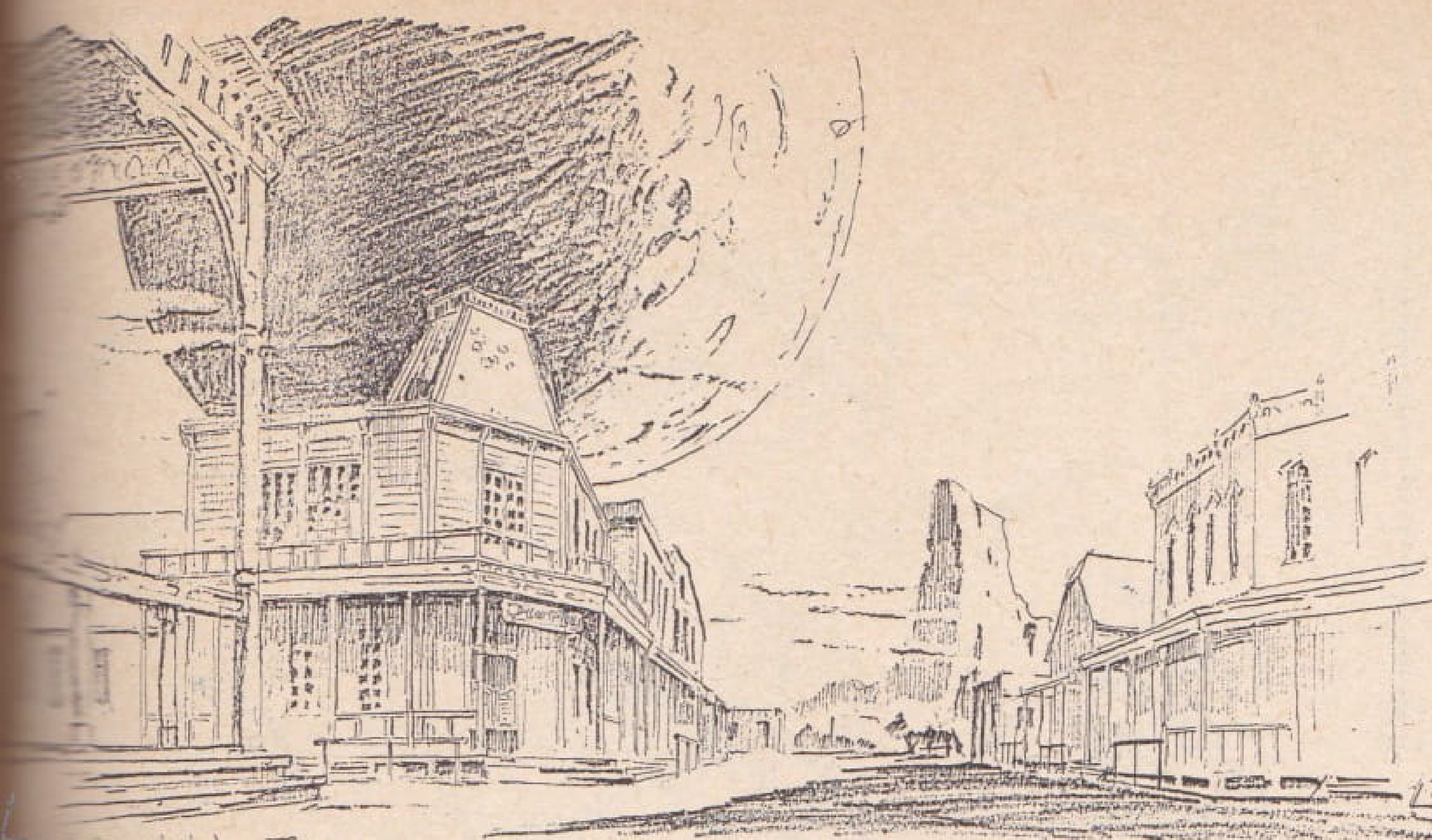


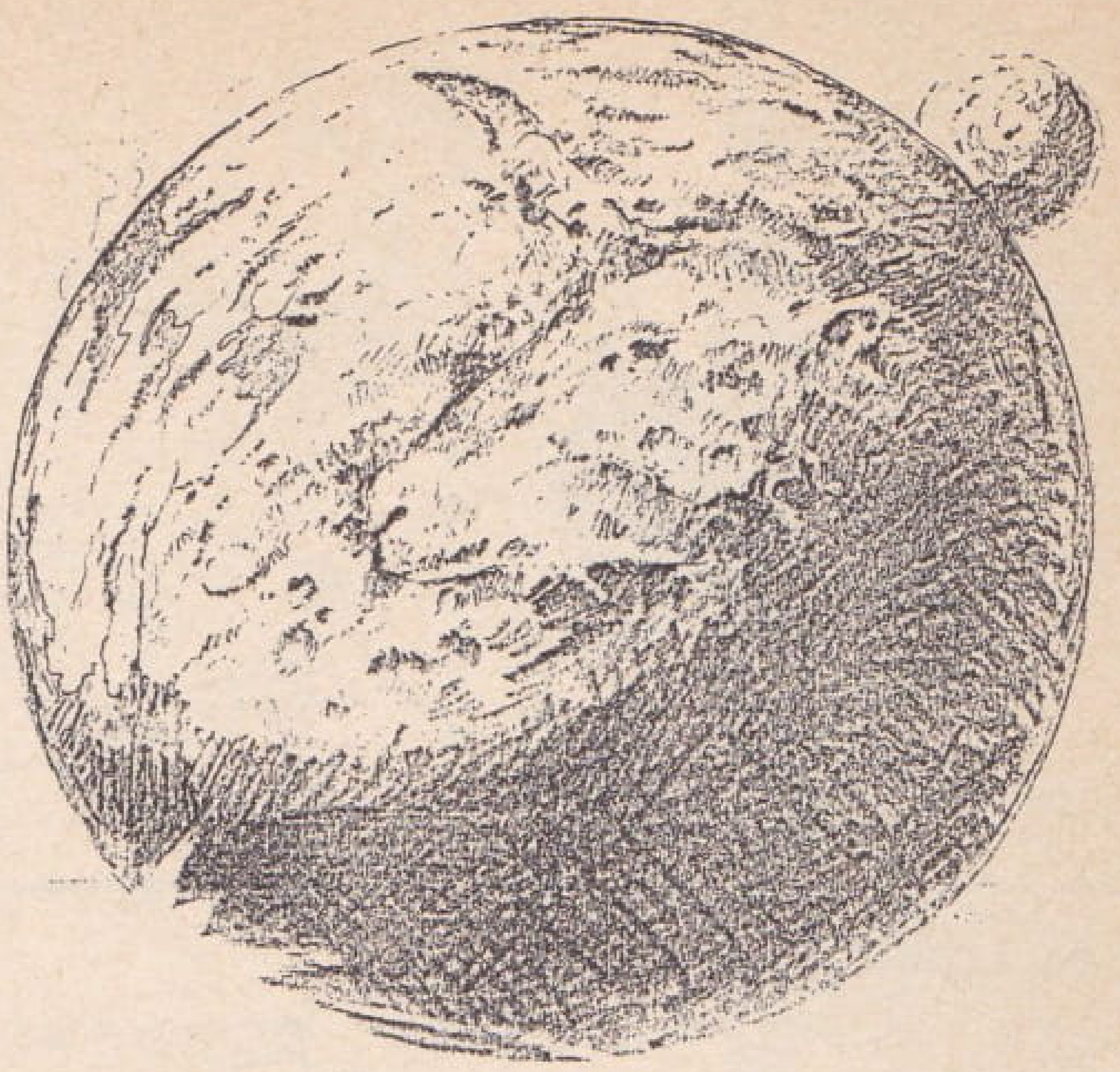


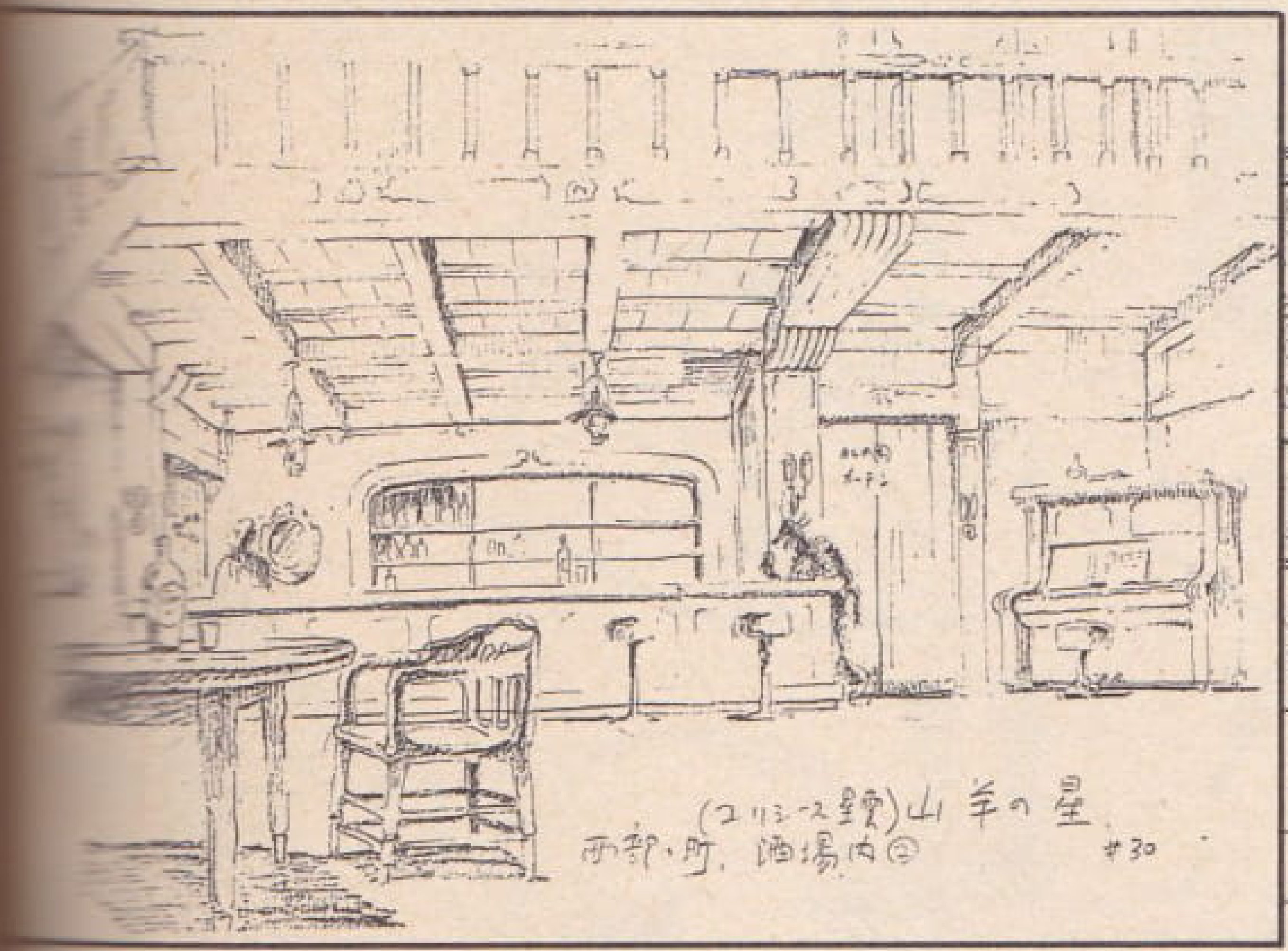
せんか?これはぼくの極端な異説ですけどね(笑)。地球に対して批判的で、批判しながらも深く愛している。あたたかい目と批判的な目の両方で物を見ている。そんなところが実に大きな人間という感じがします。また彼は〝自由〟ということをたいせつにしていますが、ぼく自身もそれにはとても共感できるんです。それにただ強いだけで正義を押し切るのではない。悲哀感のようなものがあり、屈折している。普通だったら脇役的な人間ですよね。それをあえて主人公にもってきたっていうのは、テレビアニメの進歩とも言えるんじゃないかな。ぼくとしても役作りは今までで一番苦労しました。他の役に比べて感情移入がとても大きいんです。男の悲哀とか強さを、いろいろな場面、セリフで重層的に表現しなければならないでしょ。声やしゃべり方にしても、今までの主人公のようにハデに叫んだりせず、押さえに押さえてやったんです。ハーロックって全く欠点の見当らない男ですね。あえてあげるなら海賊であるってことかな?

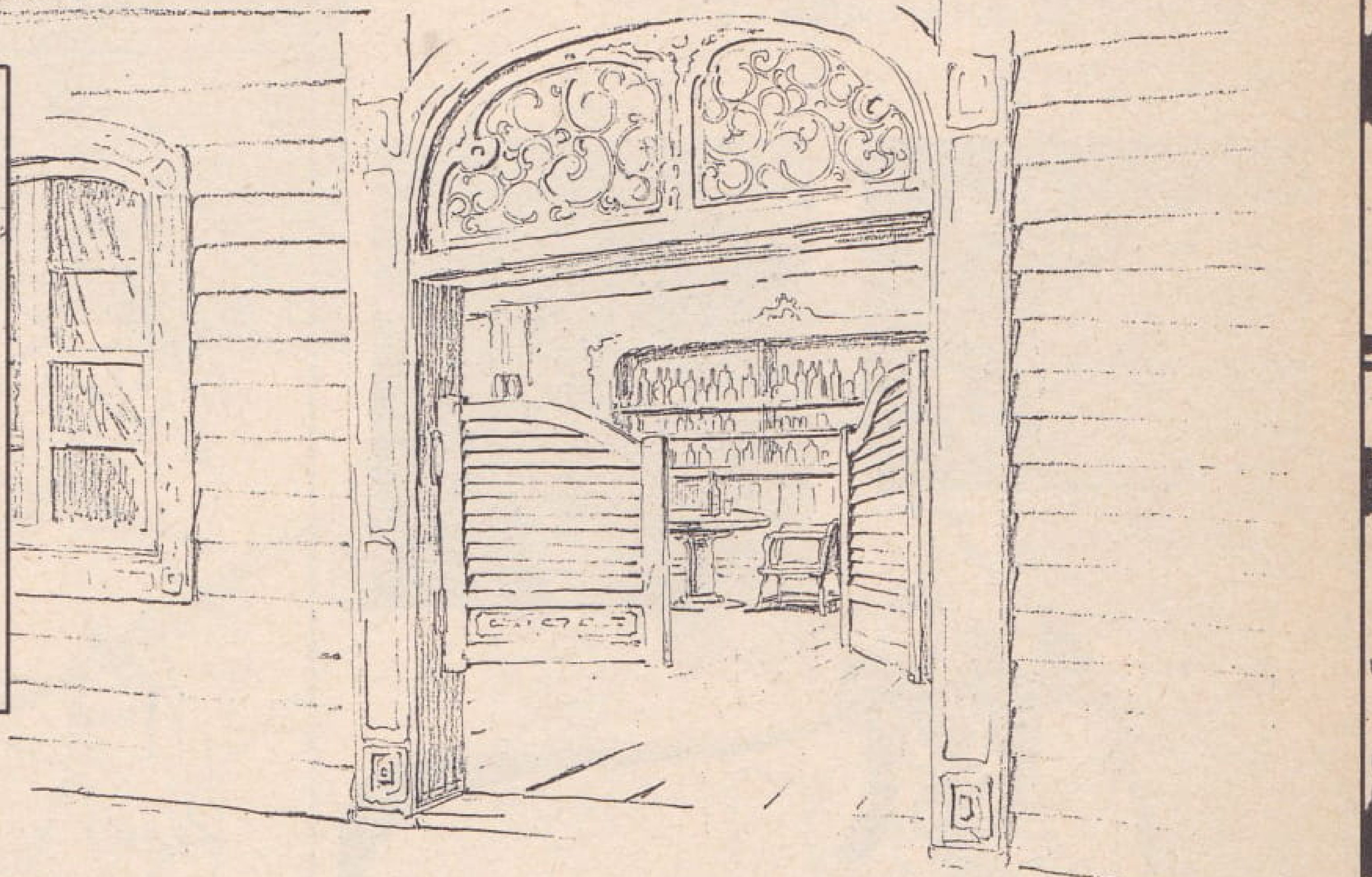
原作のファンの方には固定したハーロックのイメージがあるので、やると決まった時はその期待に答えられるかどうか本当に不安でした。でもファンの方もだんだん肯定して下さるようになってきて、これでよかったのかな?と思っています。

二回病気で休んだことが心残りですね。すばらしい作品だから全部通してやりたかったです。

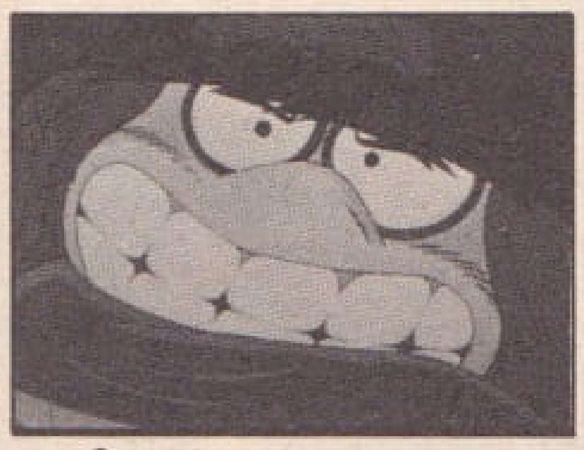


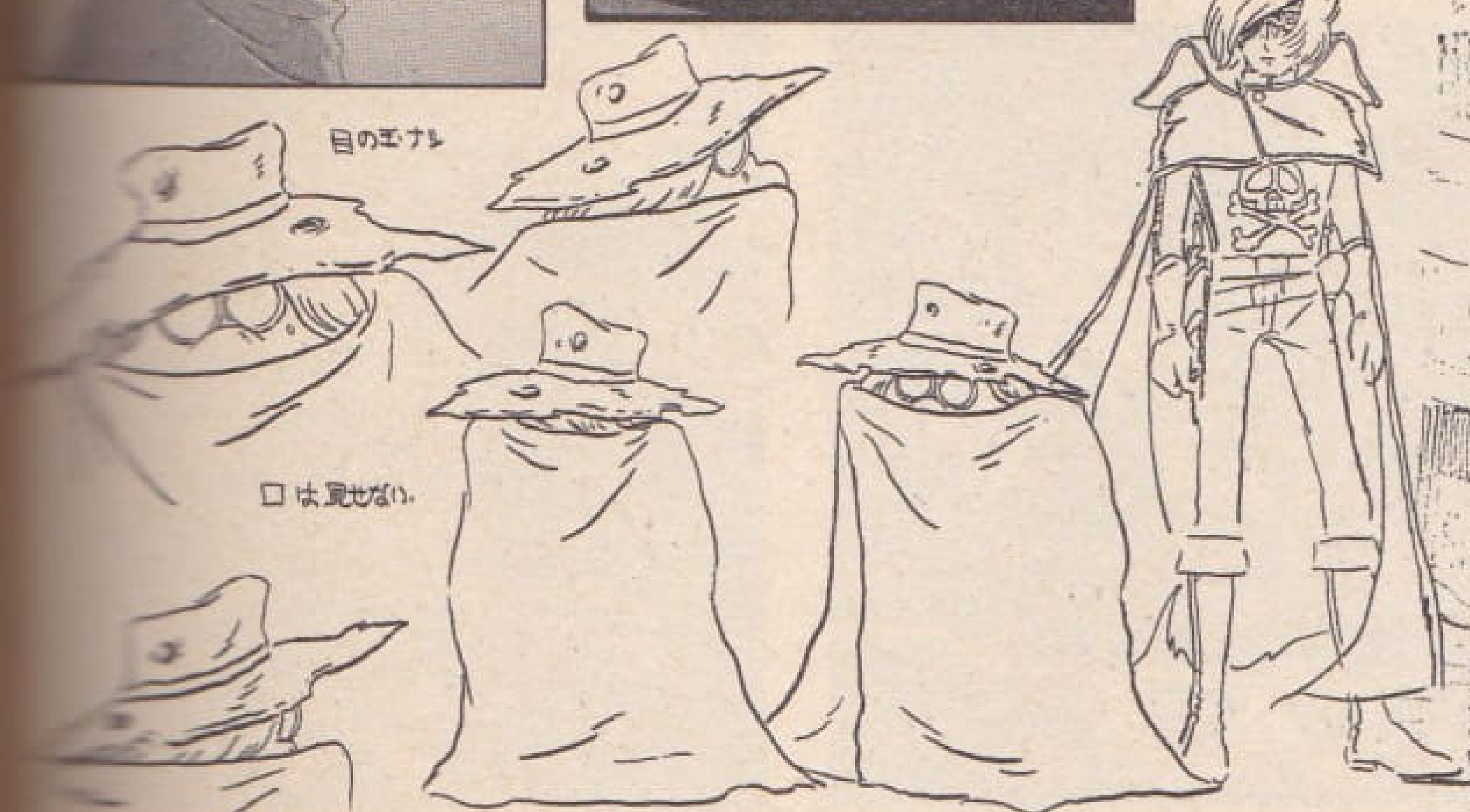




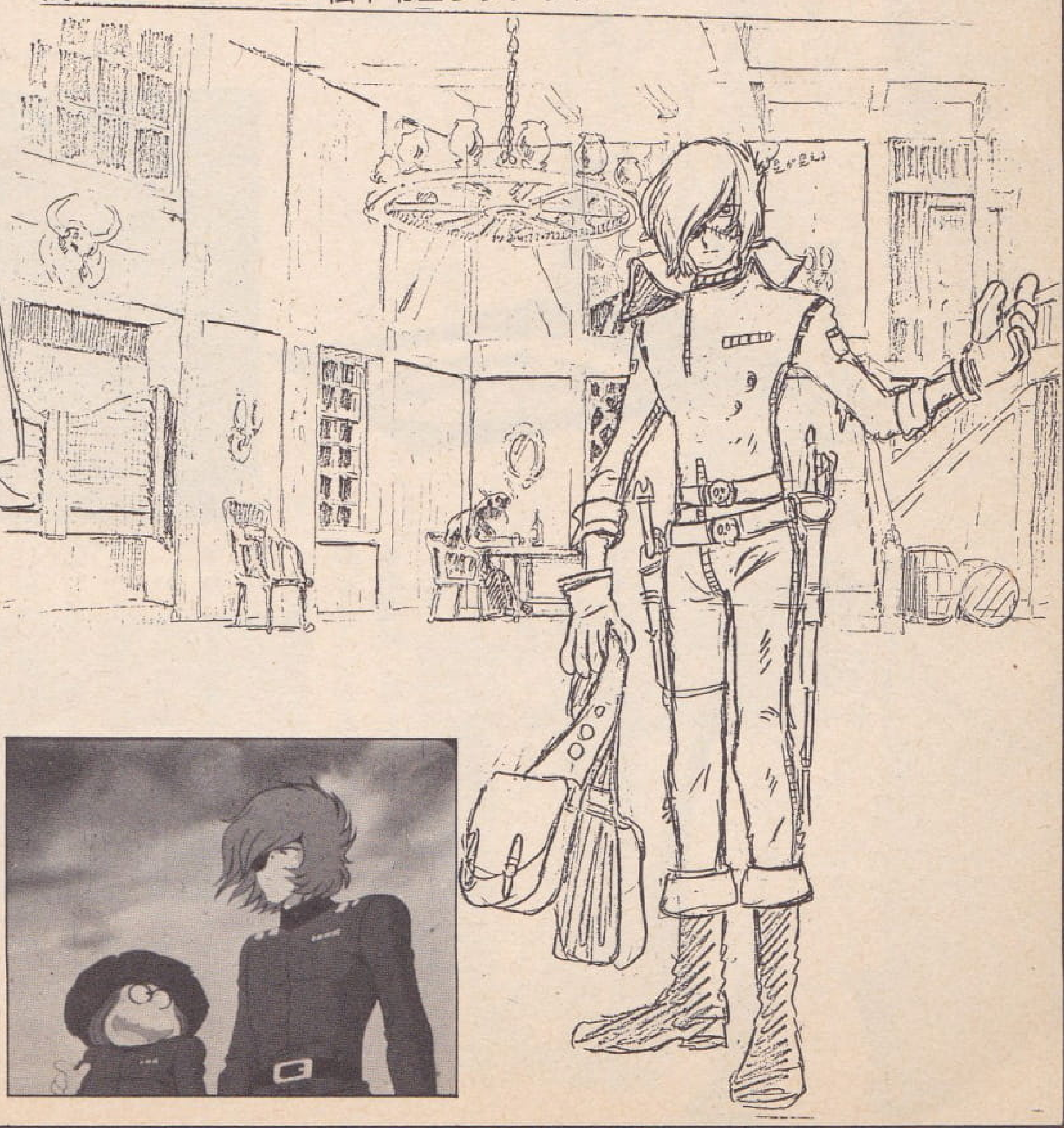








▼松本零士ラフデッサン



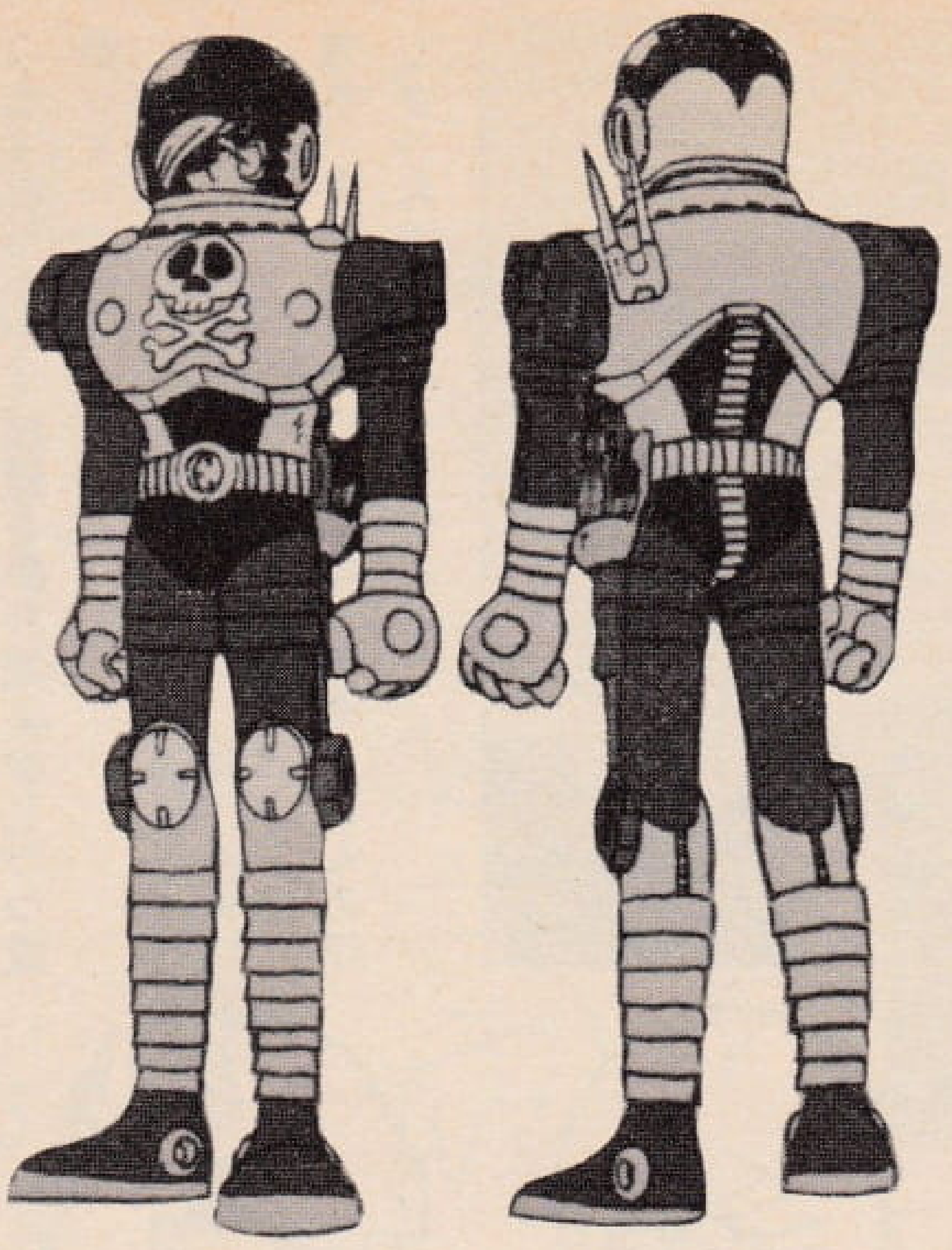
大山トチロー

ハーロックの無二の親友。ロケット工学における天才的な科学者で、アルカディア号、海賊島の建造者。ハーロックとともにだらけきった地球に絶望し、夢と希望を求めて宇宙をさすらっていた時、エメラーダに会い、結婚。アルカディア号完成のあと、疲労により息絶える。が、魂と頭脳は中枢大コンピューターとなり今も生きている。まゆの父。

■声・山田俊司■

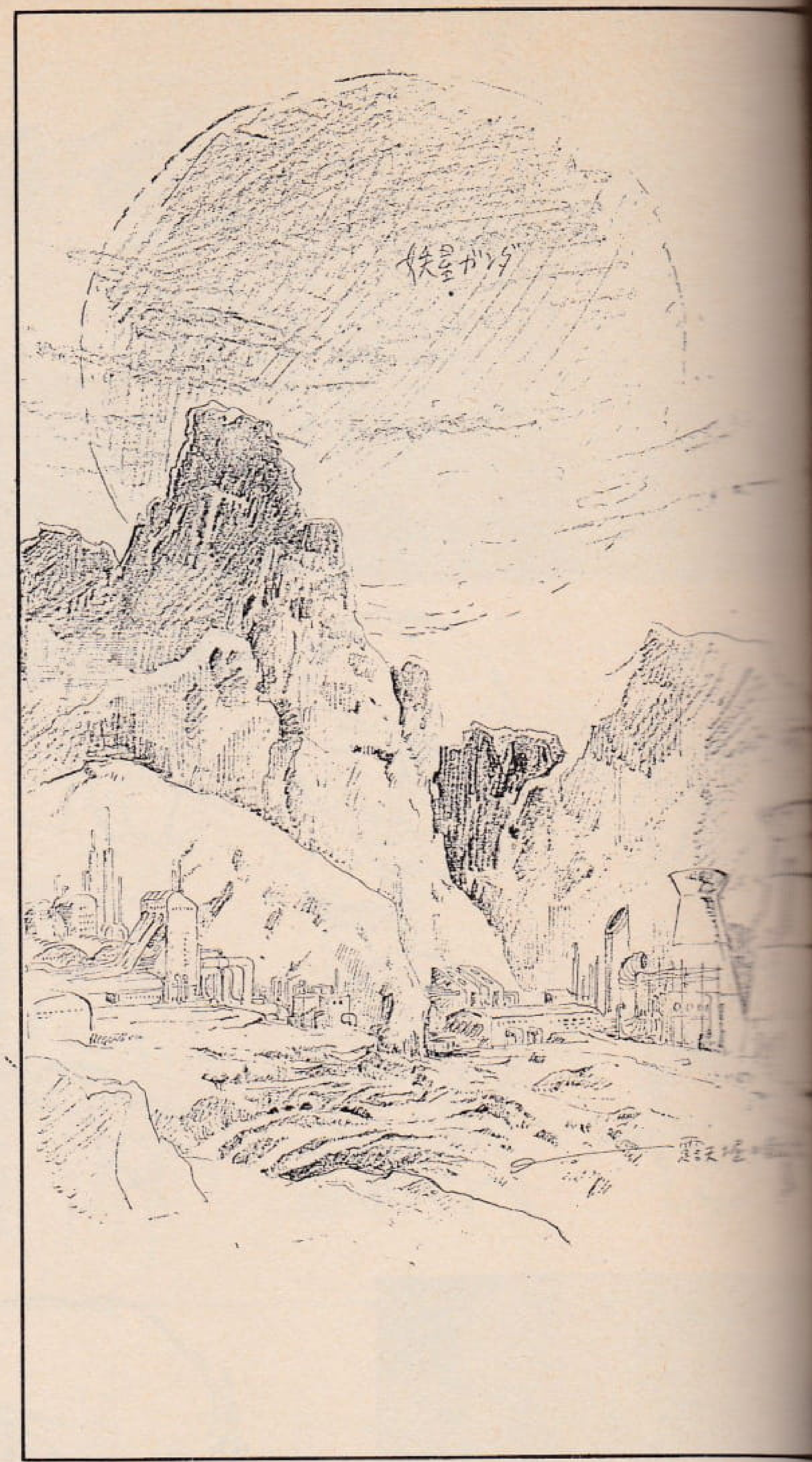
ハーロックの過去を明確にするために出てきた人物ですよね。まじめで頭はいいけど、子どもっぽくてかわいい感じの男だと思いました。そんなところはヘンに作ったりせずに演じたつもりですが、ああいう顔で内面的には2枚目であるってところがかなりむずかしかったです。

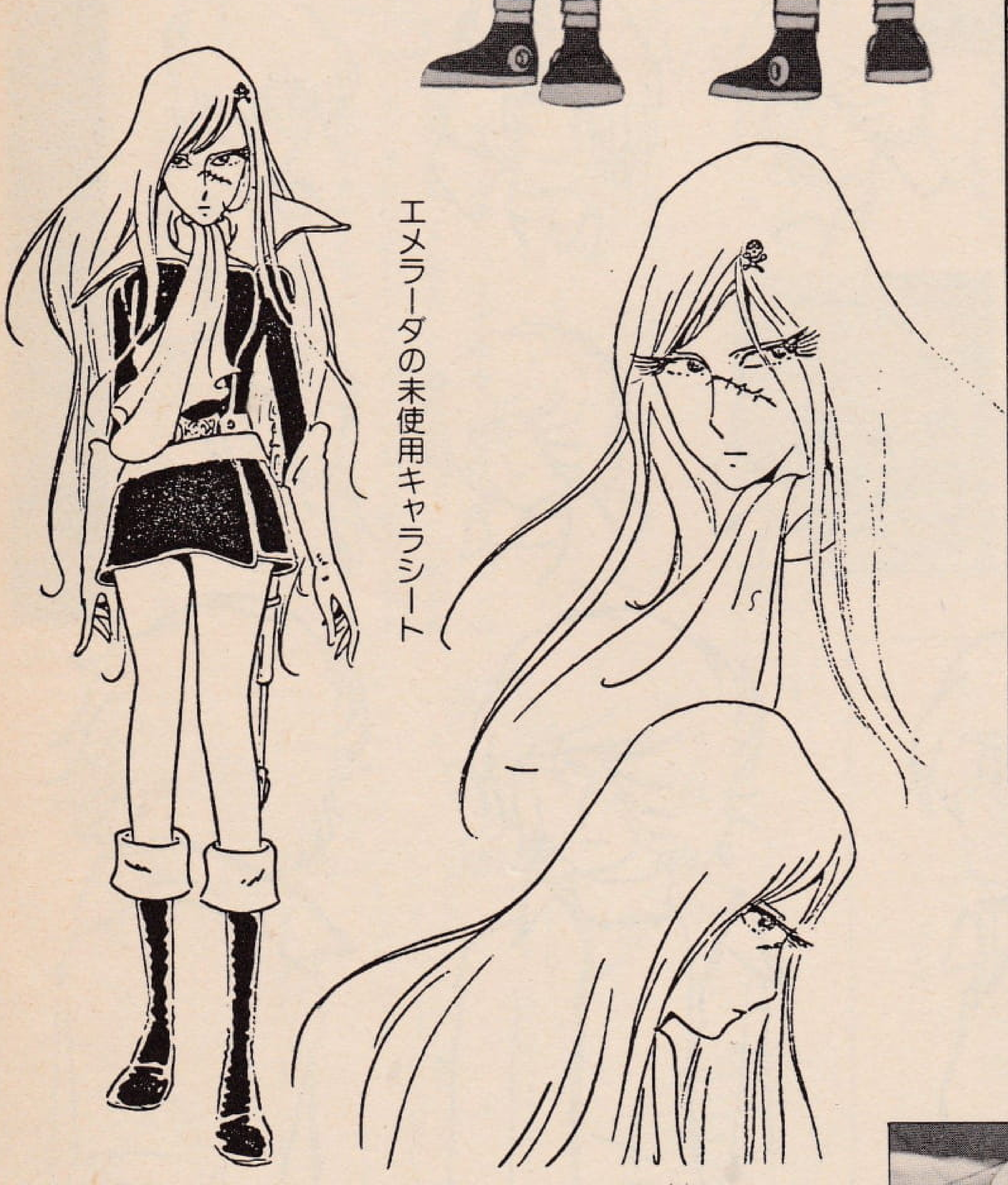
まゆを眠らせるために子守唄を歌うシーンがありましたが、地元の中国地方の方も聞く



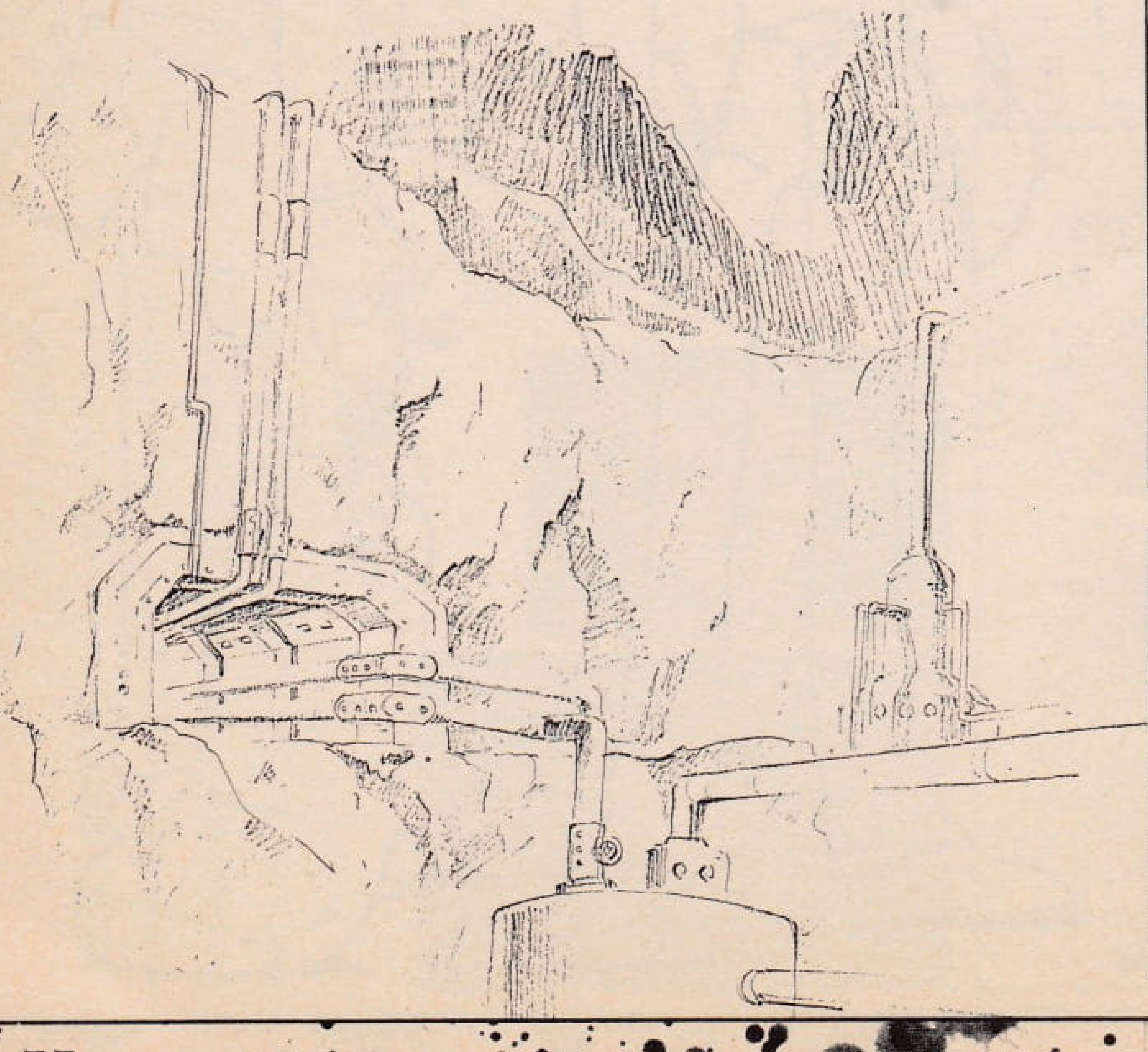
■代役・徳丸完■

井上真樹夫さんが突如病気になられたというので、制作会社の方からやってくれないかと呼ばれ、急遽ピンチヒッターとなったわけです。井上さんのイメージをこわさず、しかもぼく自身のハーロックを出さなくちゃいけないということで苦労しました。ハーロックの表面は冷たいが中はあたたかいという点をポイントとしたつもりです。



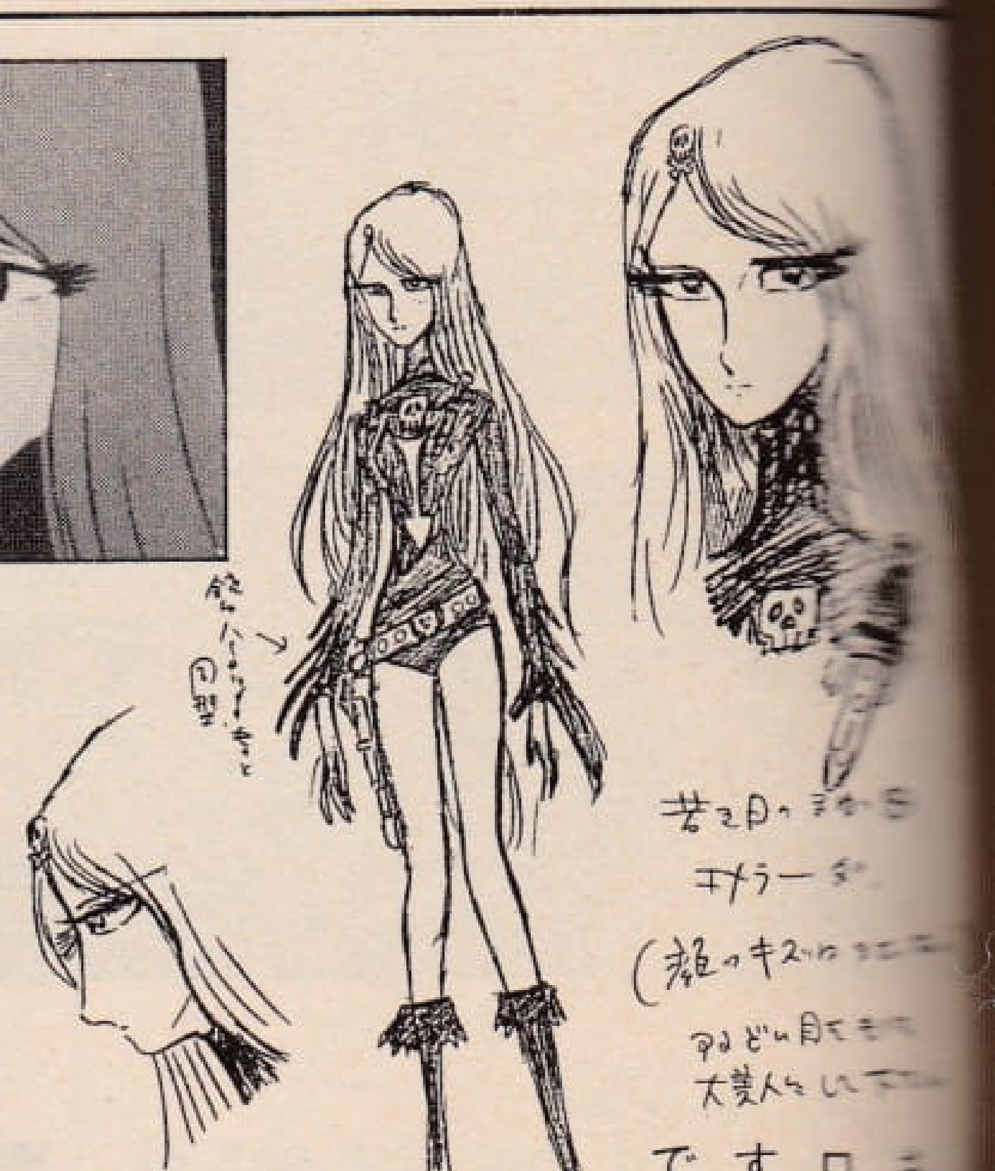


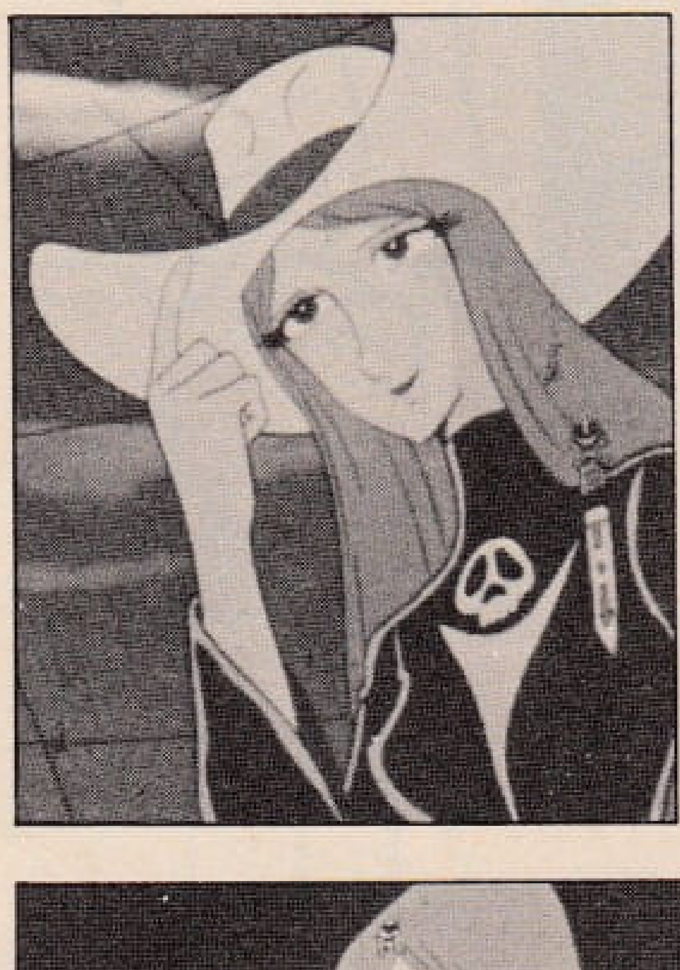
エメラーダの未使用キャラシート



●エメラーダ









ロックに力を借りる。その後トチローと結婚するが、彼の死後行方不明となる。版権問題で"エメラルダス"が"エメラーダ"に。

■声・吉田理保子■

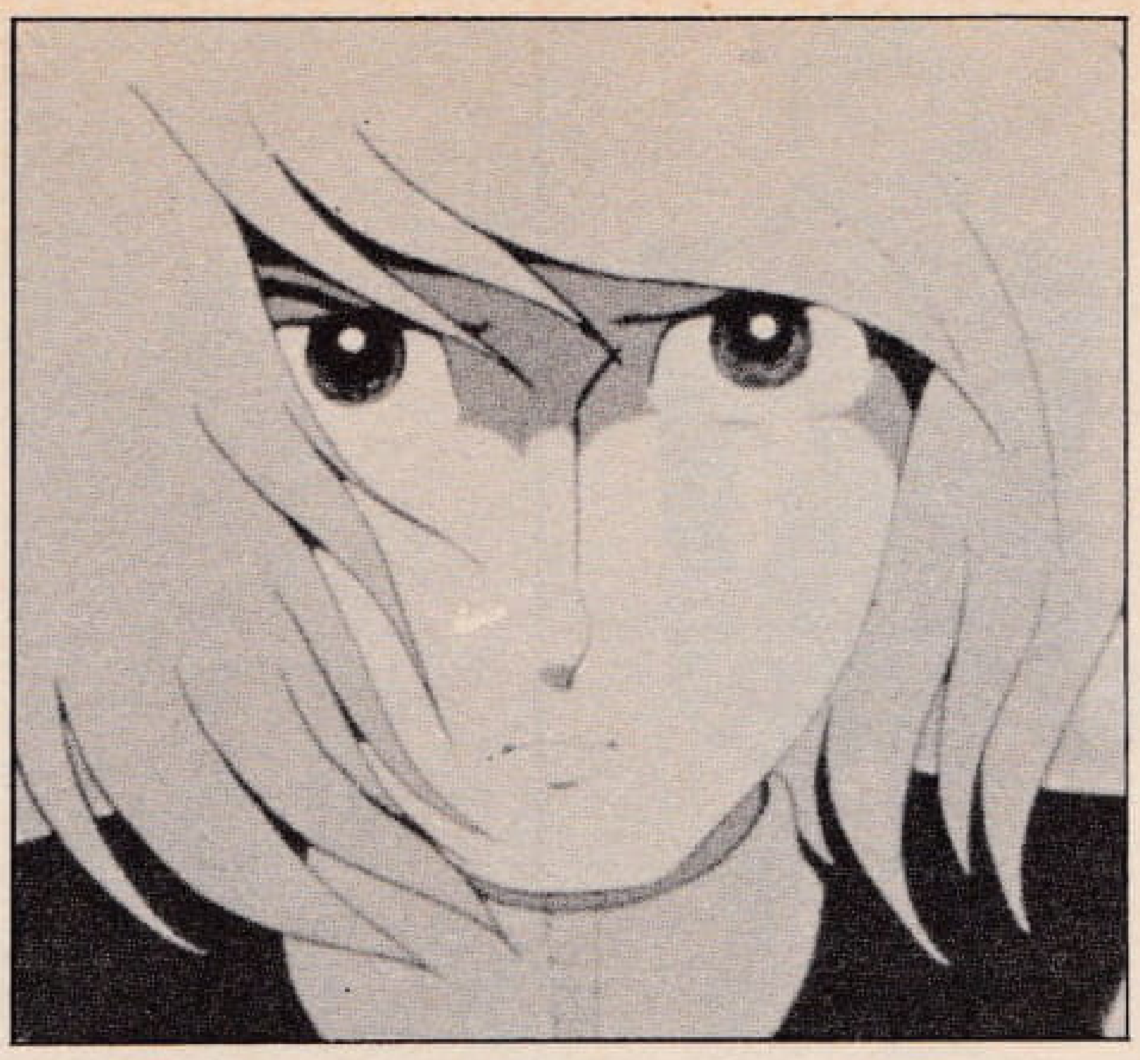
すごく強い生き方をしている女性。ひとことで言って"いい女"。トチローに全てを賭けるっていうあたり、ひとつの目的をもった人間って感じでしょ。私自身好きな生き方なんです。ちょうどこんな役をやりたいと思っていた時なのでうれしかったです。

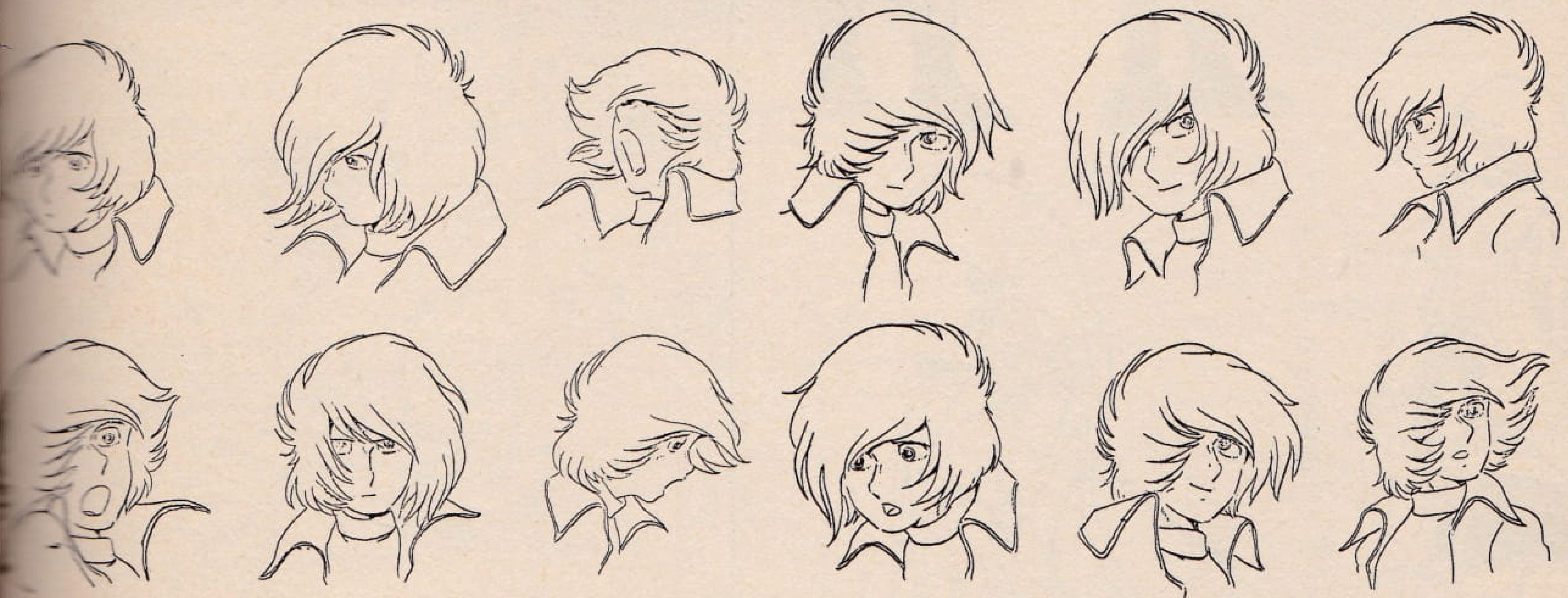
台羽正

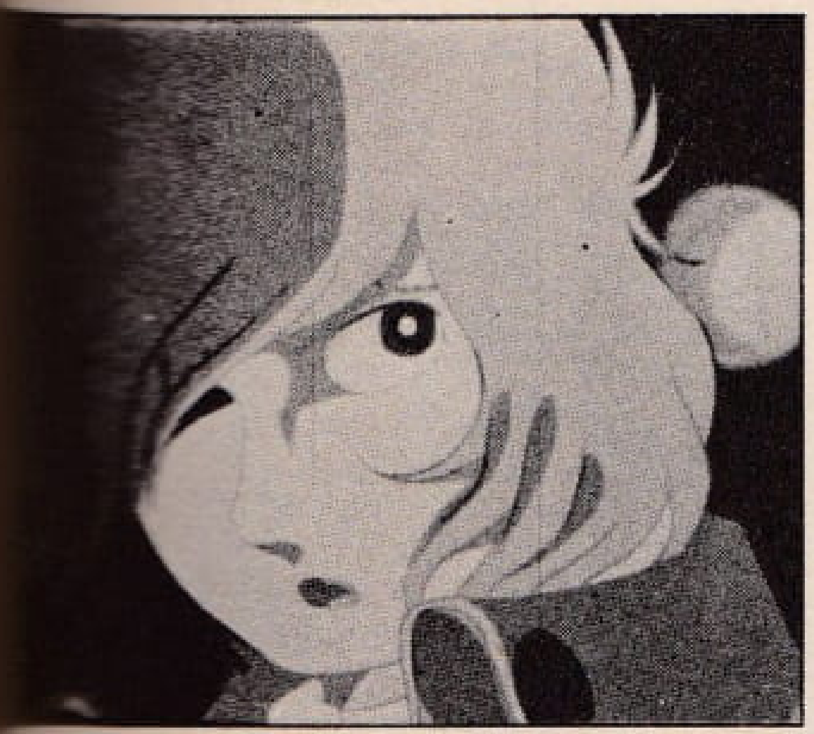
父をマゾーンに殺された恨み、母を死においやった無責任な人たちへの怒り、堕落した地球人への憤りなどが重なり、アルカディア号でハーロックとともに戦う決心をする。マゾーンに抱く激しい憎しみ、復讐心は、直情的な性格に拍車をかけ、時として裏目に出ることもあったが、試練を乗り越え少しづつ成長していった。

彼こそ〝ハーロックとはタイプのちがうハーロック〟になれる人物ではないだろうか。後半、もう少しその成長ぶりを描き込んでほしかったキャラクターである。

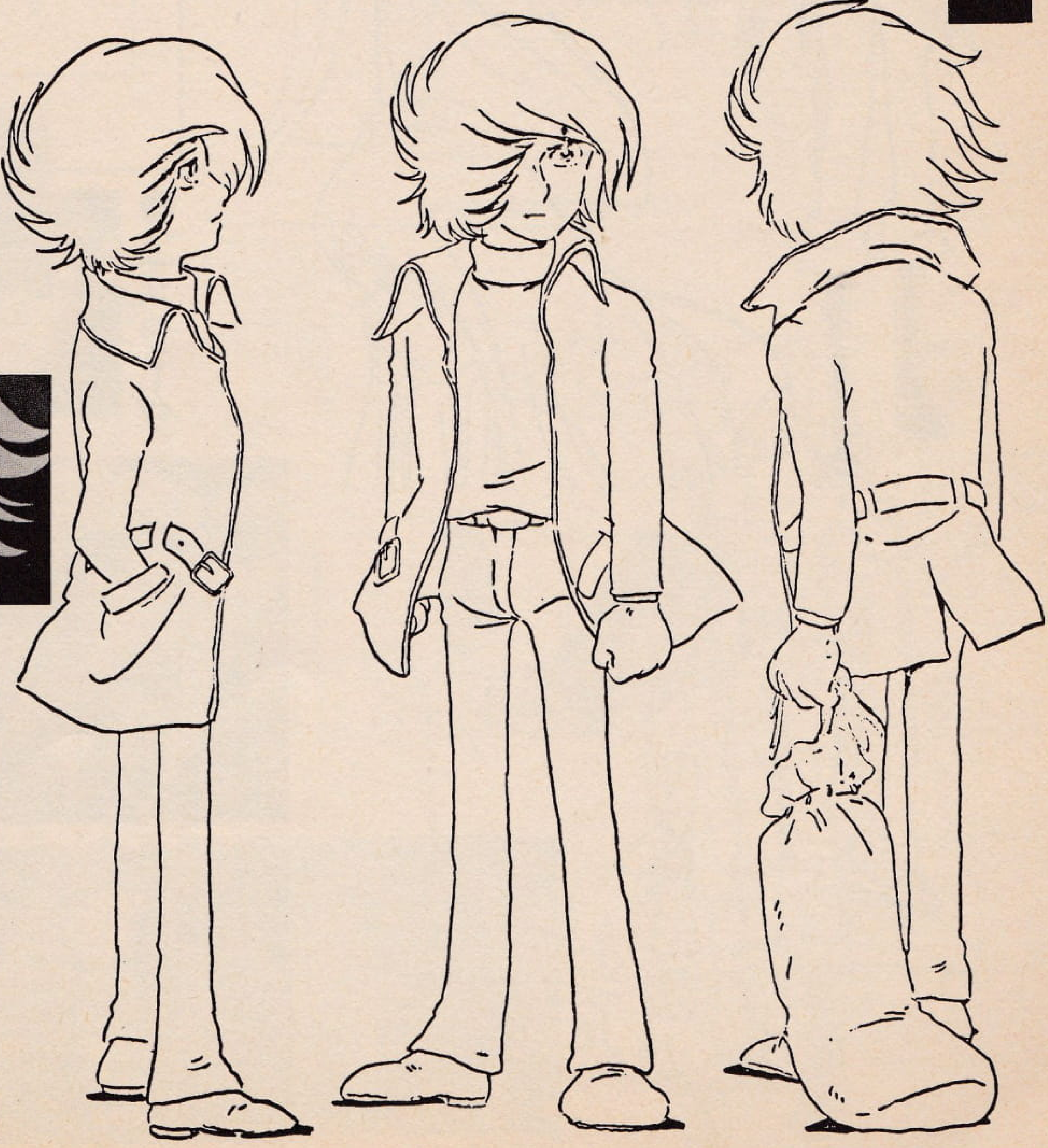






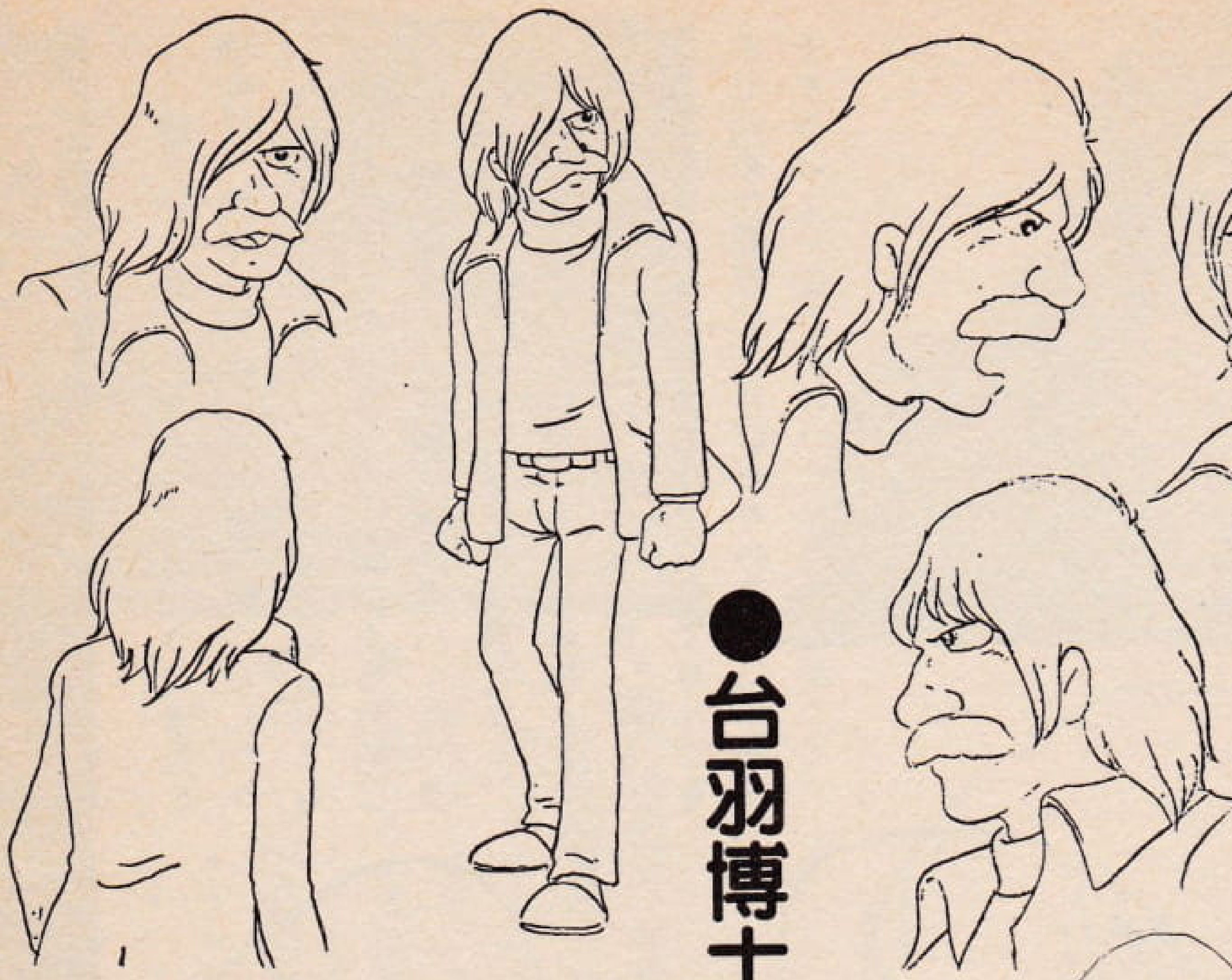


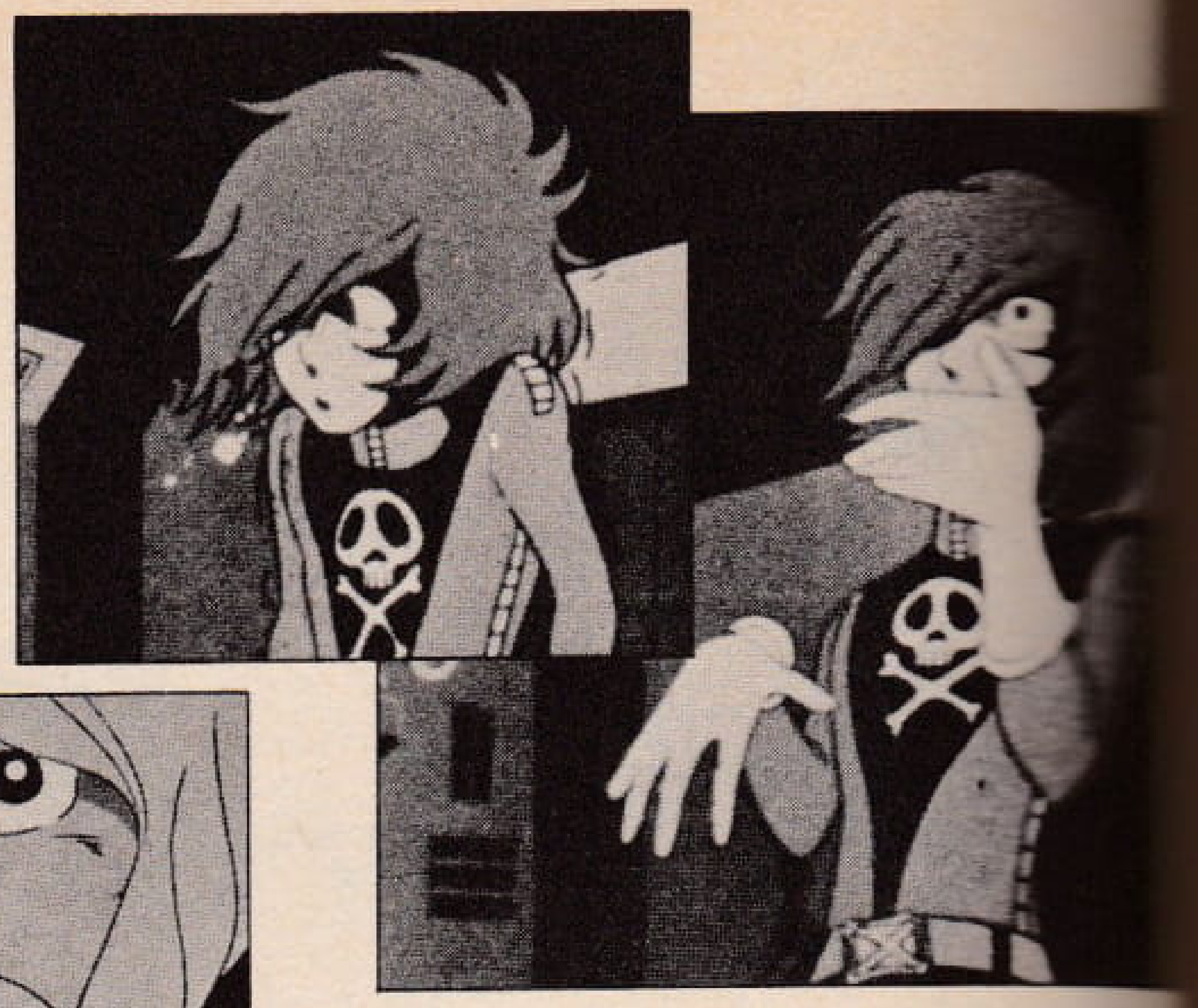




■声・神谷明■

台羽正っていうのはひとりの男になるまえの完成途上の青年というイメージをもってやりました。ひとりの完成された男、ハーロックを目標に彼からなにかを学び成長していく、そんなところが演じていておもしろかったし、ポイントだとも思いました。ただ原作が好きなぼくとしては、テレビのマゾーンに対してストレートに自分の憎しみをぶつける台羽のイメージというものが原作と少し異っていたのが残念でしたね。彼のそんな行動を見ているとぼくだったらもっと内に秘めるだろうなって思いながらやってました。でもそうい[illegible]





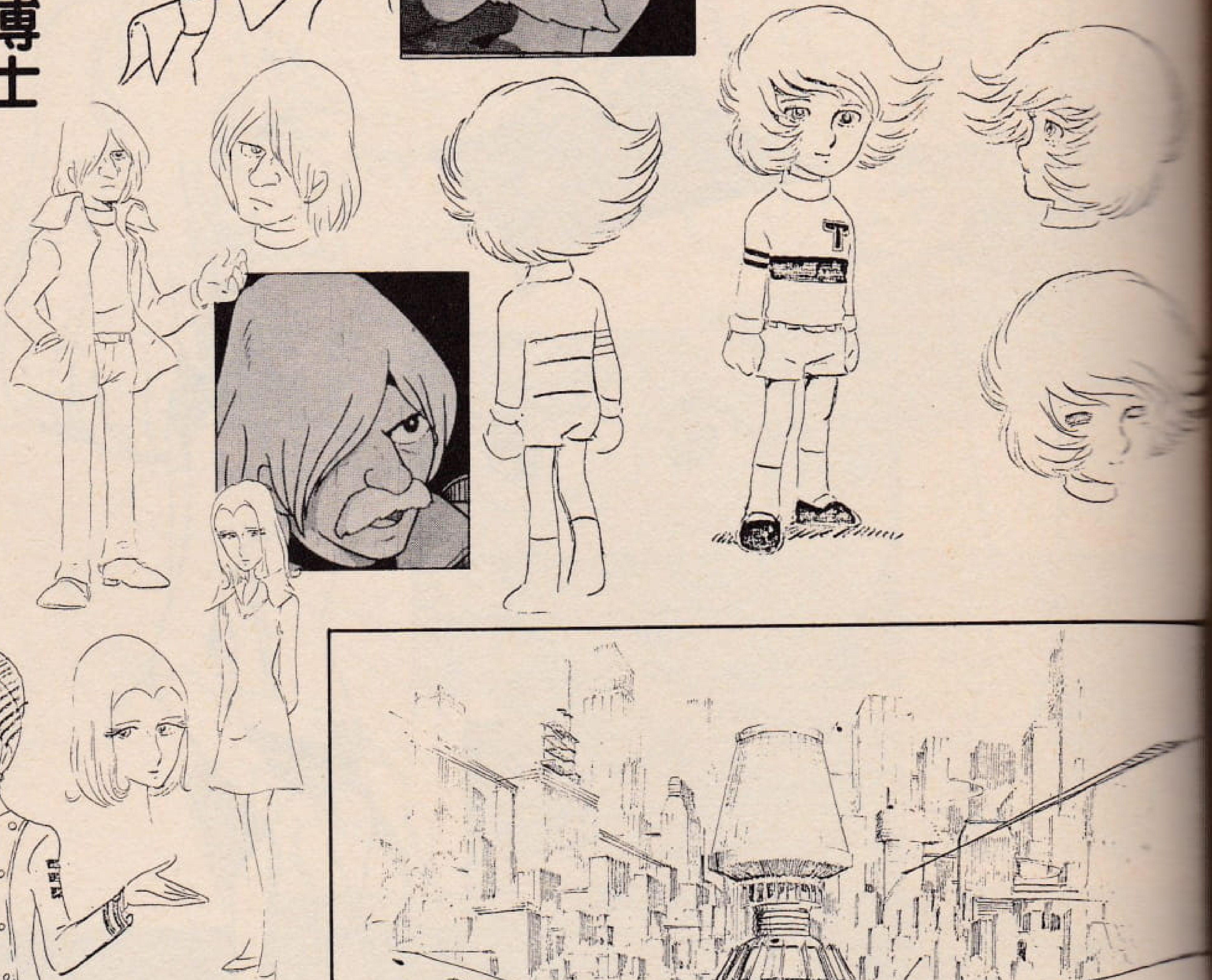


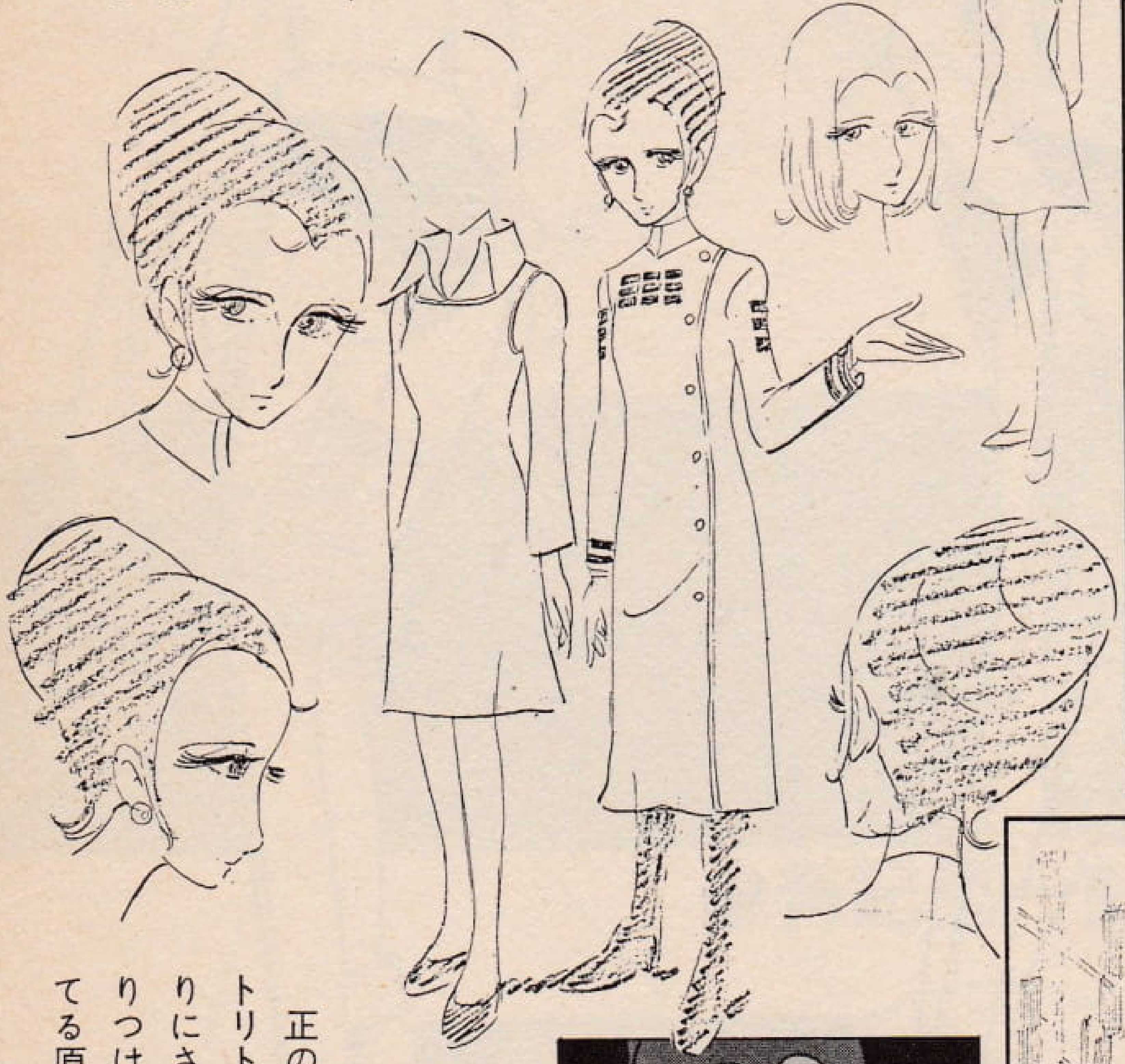
●台羽博士

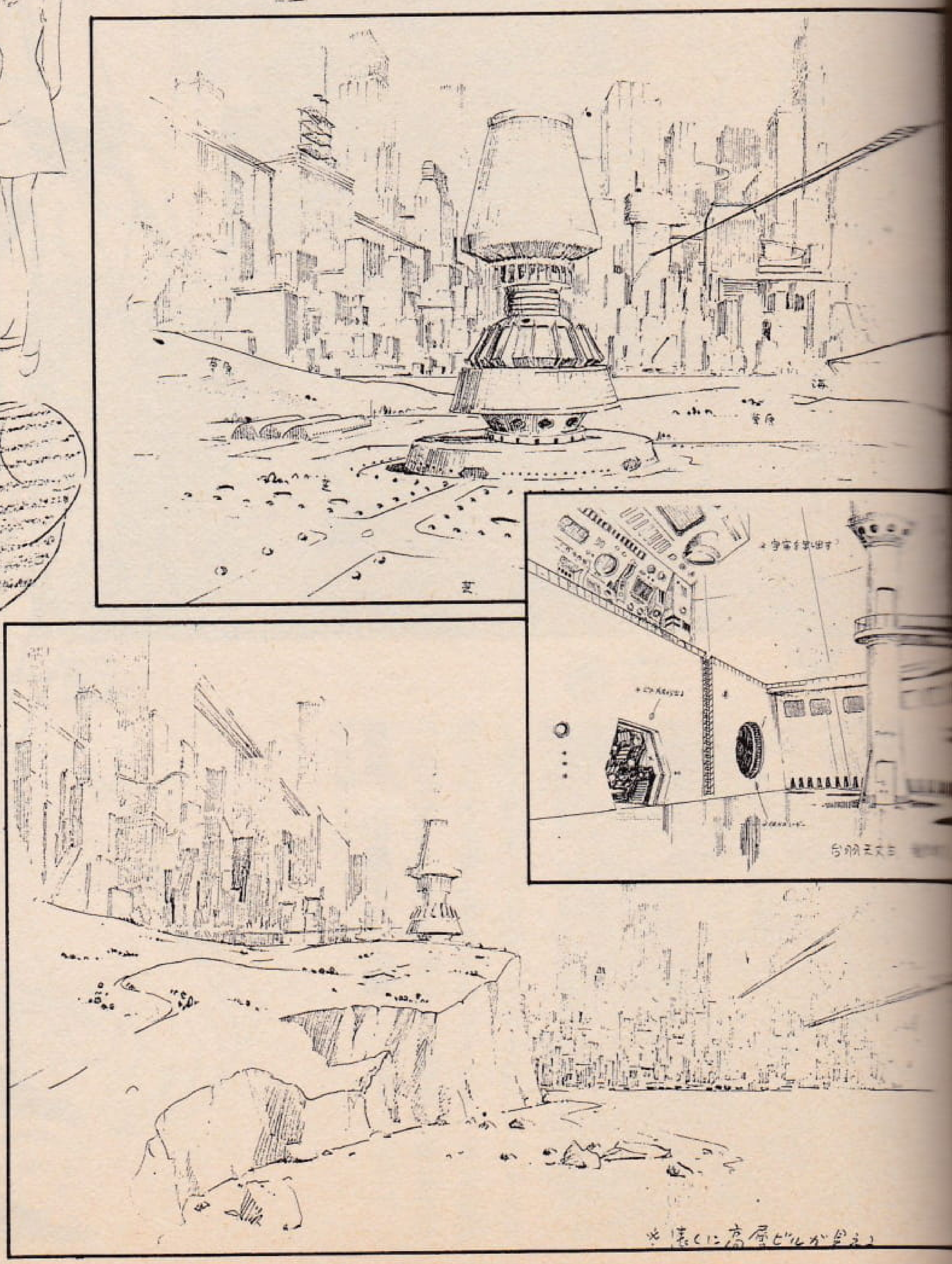
台羽正の父。天文学者。一早くマゾーンの存在に気づき警告したためマゾーンに殺される。それは正がアルカディア号に乗り込むための引き金となった。少ししか出ないがこの話の一番根本的な人物ともいえる。

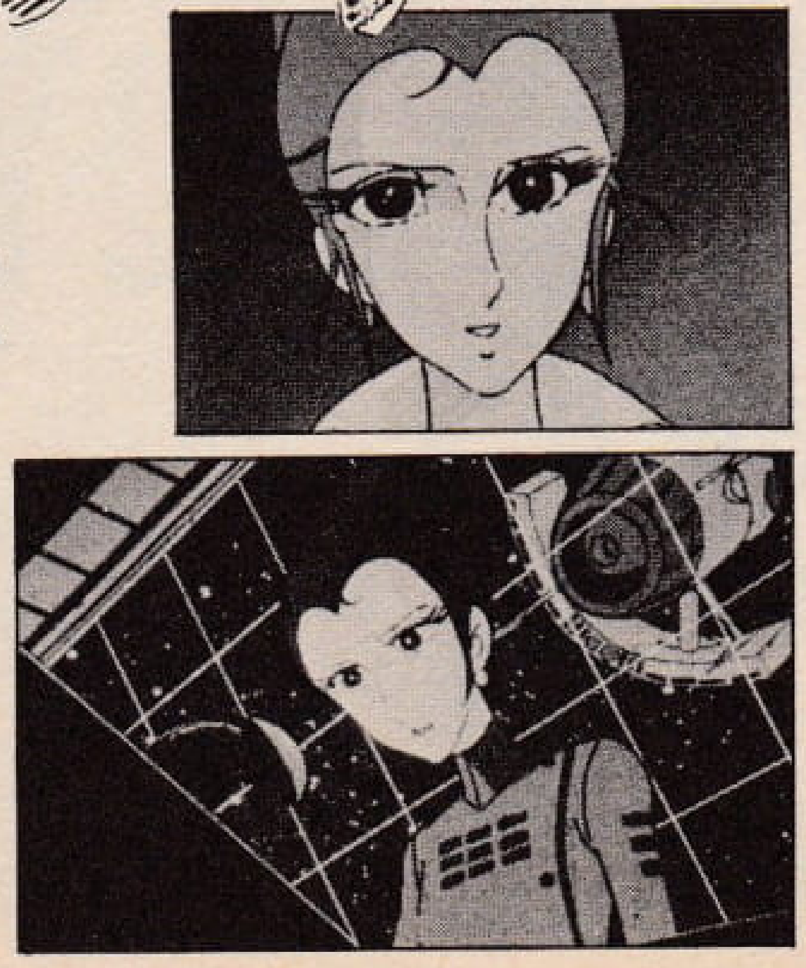
■声・北川国彦■

この物語の中では地球のある悲劇的なものをしょってる人でしょうね。本当のことを見ていて、受け止めている人物ですよ。だからまじめな科学者という感じで演じました。









●弘子

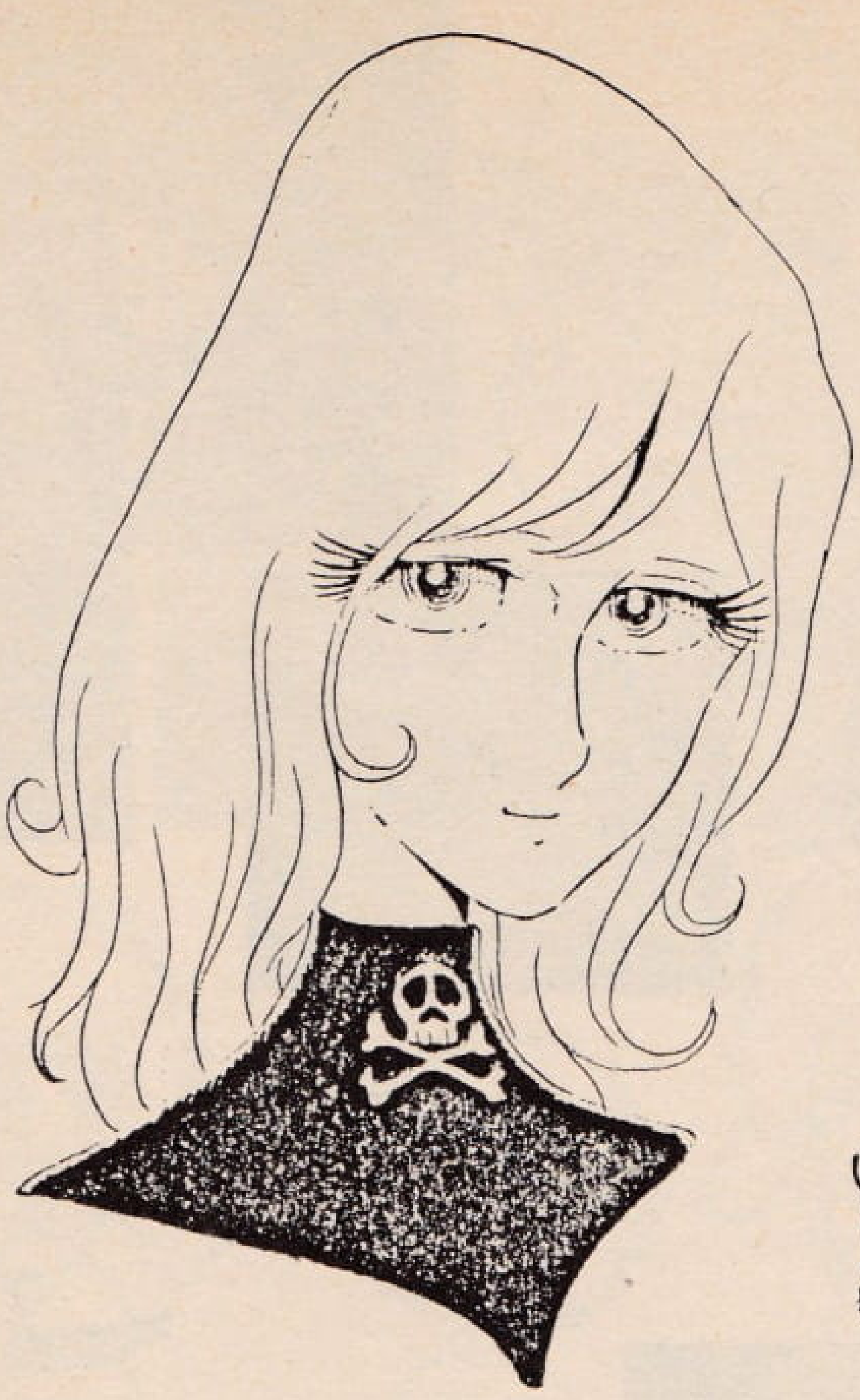
正の母。惑星の大気研究家だったが、衛星トリトンでの研究所爆発の時、所員に置き去りにされ死亡。死んだあともその責任をなすりつけられる。それもまた正を宇宙へかりたてる原因となった。

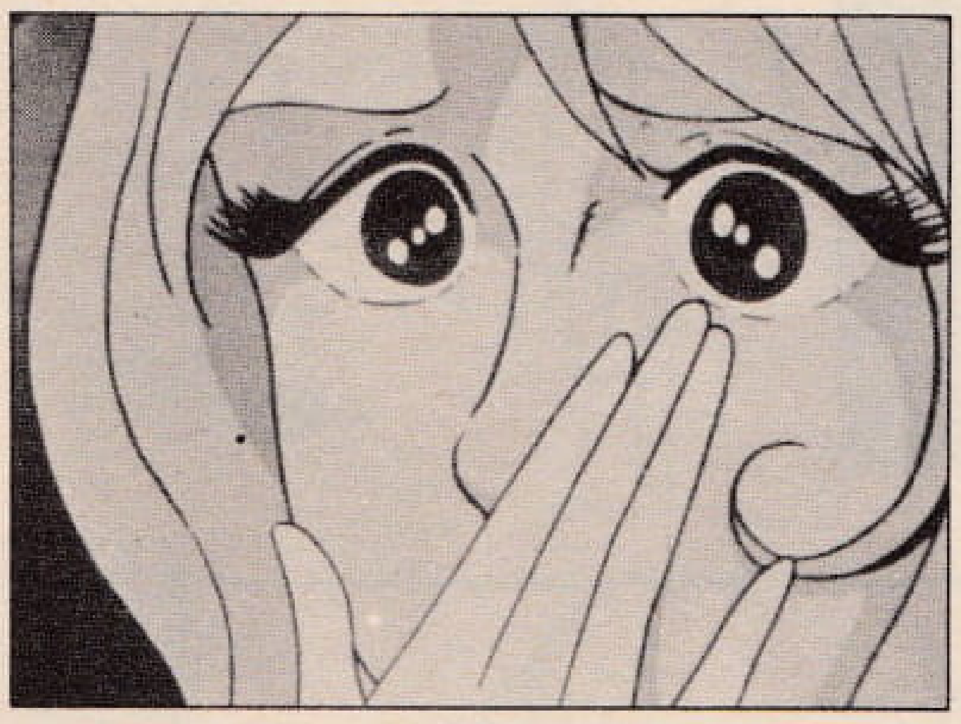
有紀螢

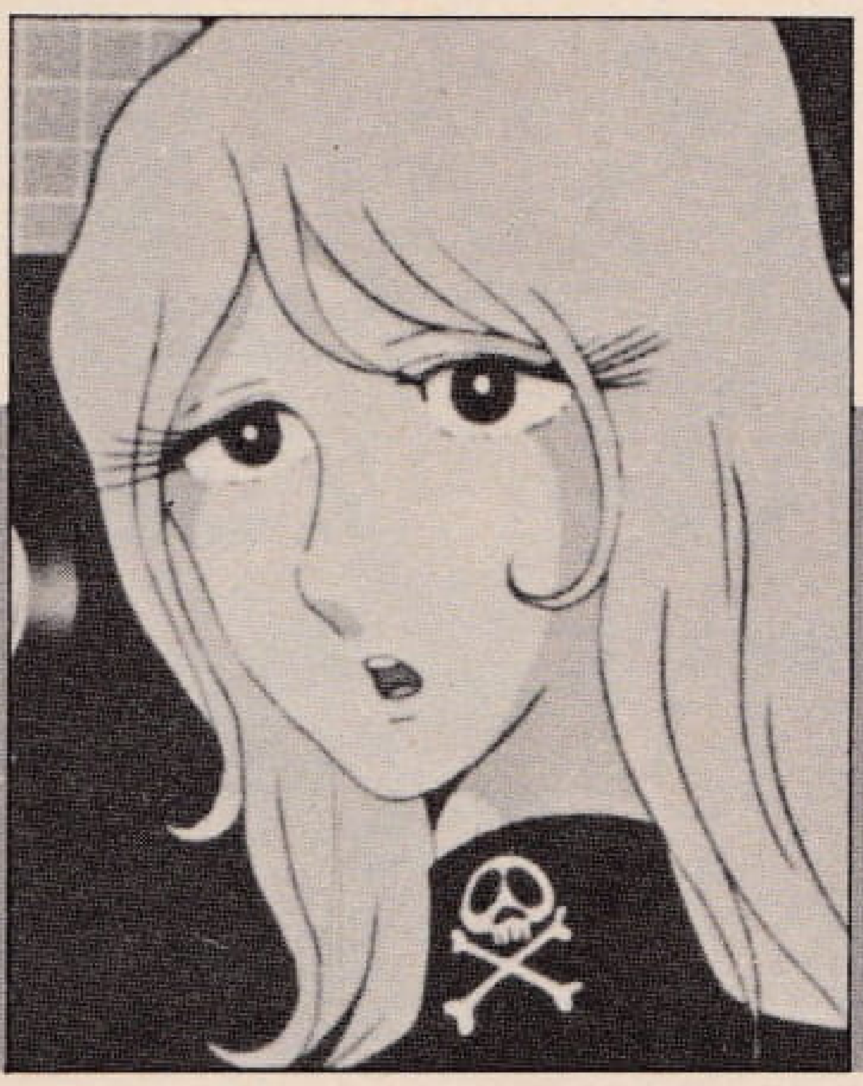
16歳という若さだが、ハーロックの優秀な補佐役。両親の死後、婚約者に裏切られたり、父を侮辱した男を傷つけたため逮捕されるなど暗い過去をもつ。ちょっと陰のある性格はそのためと思える。逮捕の護送中ハーロックに救出され、アルカディア号の一員となる。

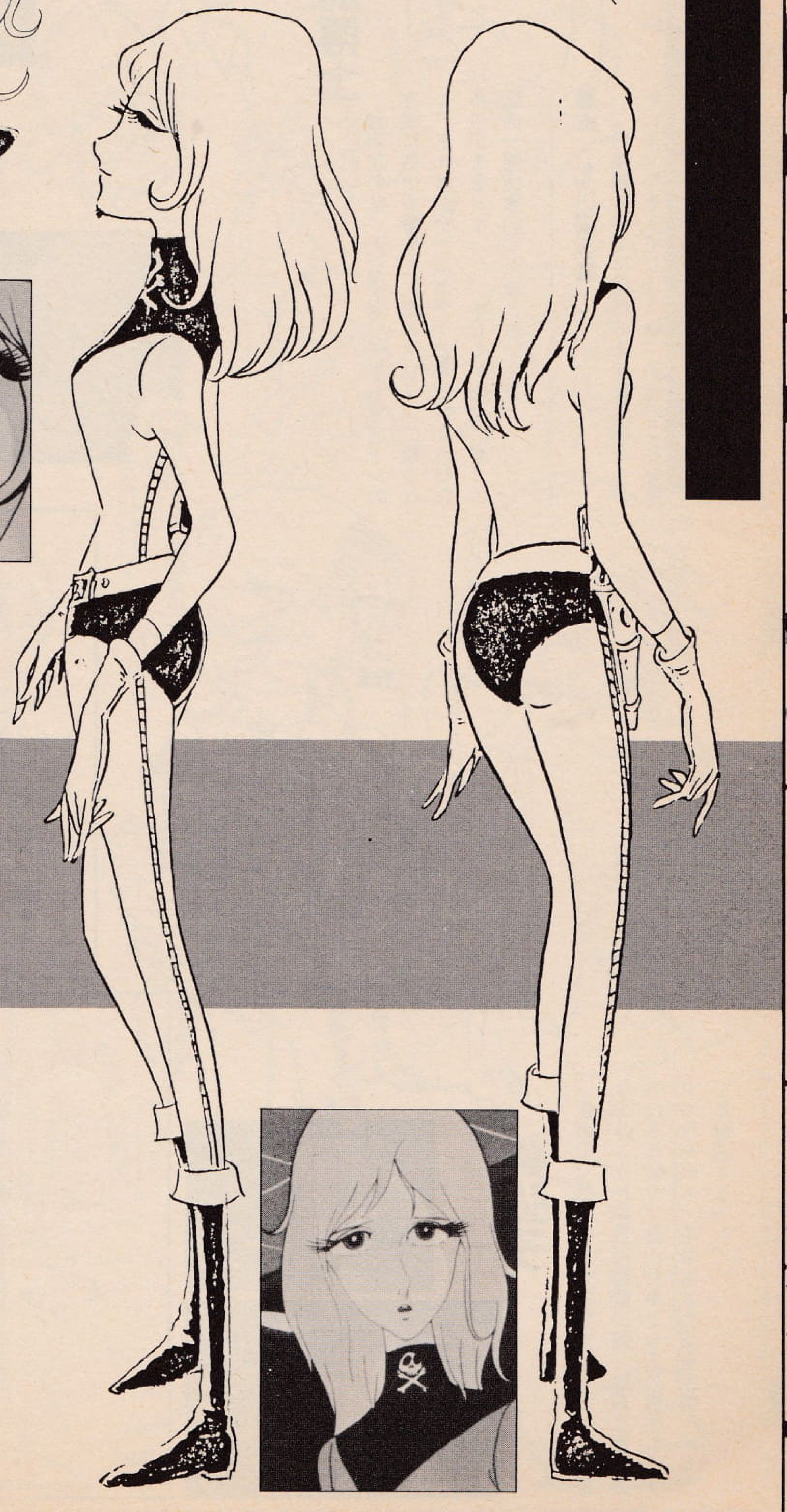
毎回出ているわりには、あと一歩描き足りないような気がした。〝少女らしさ〟がもう少し出てもよかったのでは？11話でローラをとじ込めた部屋にいりびたりの台羽にヤキモキするシーンなどかわいかったのだが……。







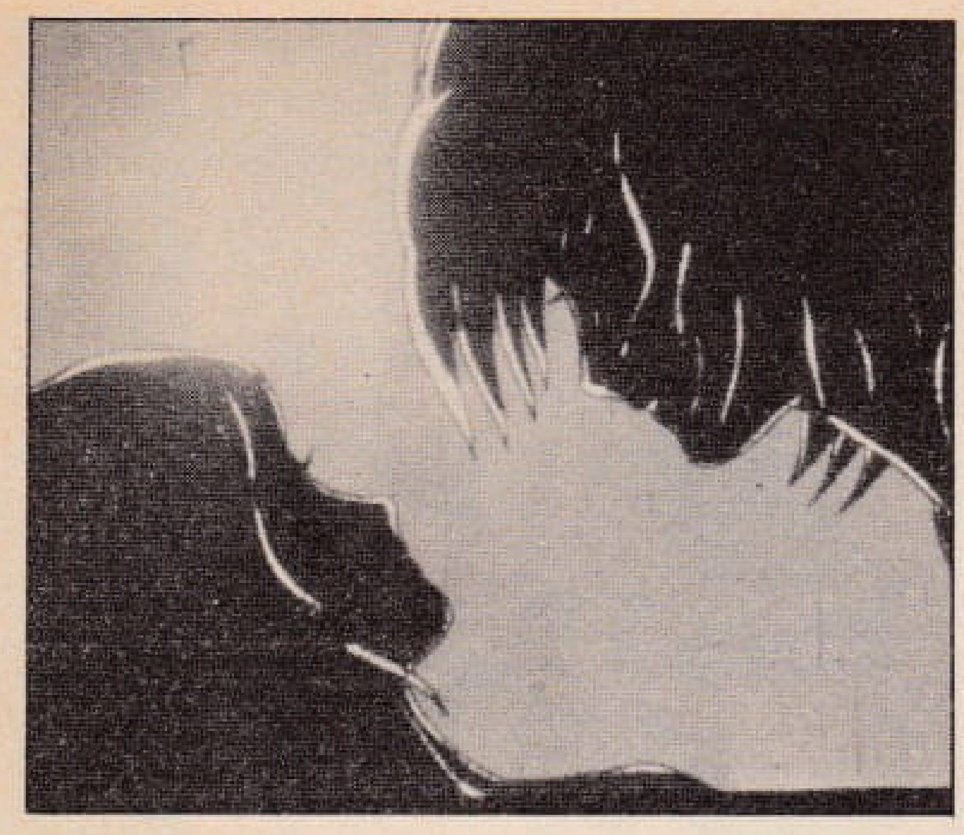




■声・川島千代子■

強く生きてるようにみえるけど、実は女の弱さみたいなものをモロにもっている女性だと思いました。「螢・わかれうた」はそんな面の集約じゃないかしら。翳りのある女の子という点を一番頭においてたのですがそればかりが出てしまい、16歳というハツラツとした若さみたいなものが出せなかったです。

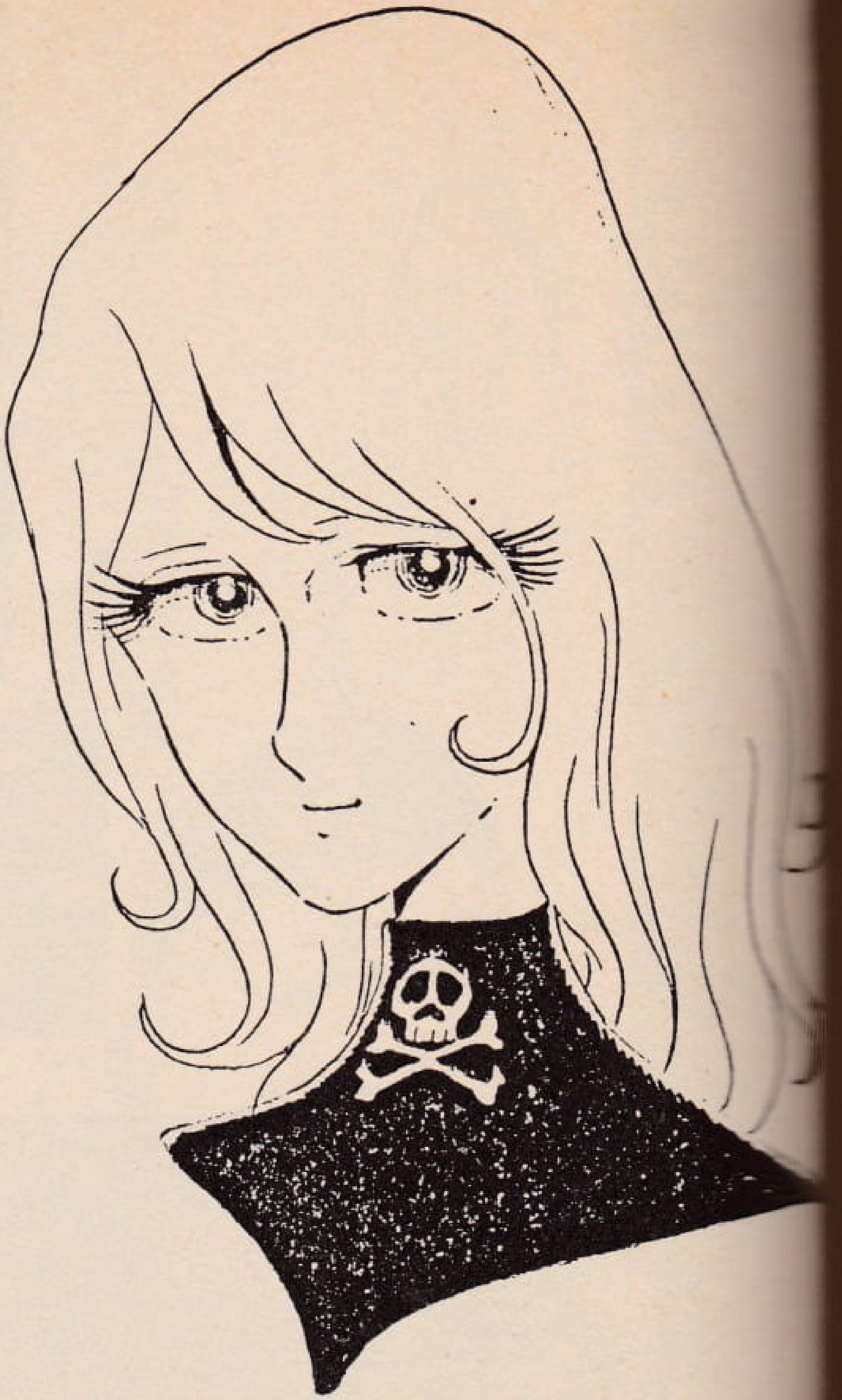
〝物語の花〟的存在という役は私の場合多いのですが、活躍場面も少なく、セリフも機械的なものだけになってしまい、その中で性格を出すというのはとてもむずかしいんです。有紀螢もやはりそうで、とても心残りの多いキャラクターです。できればもう一度やって[illegible]





●片桐一也

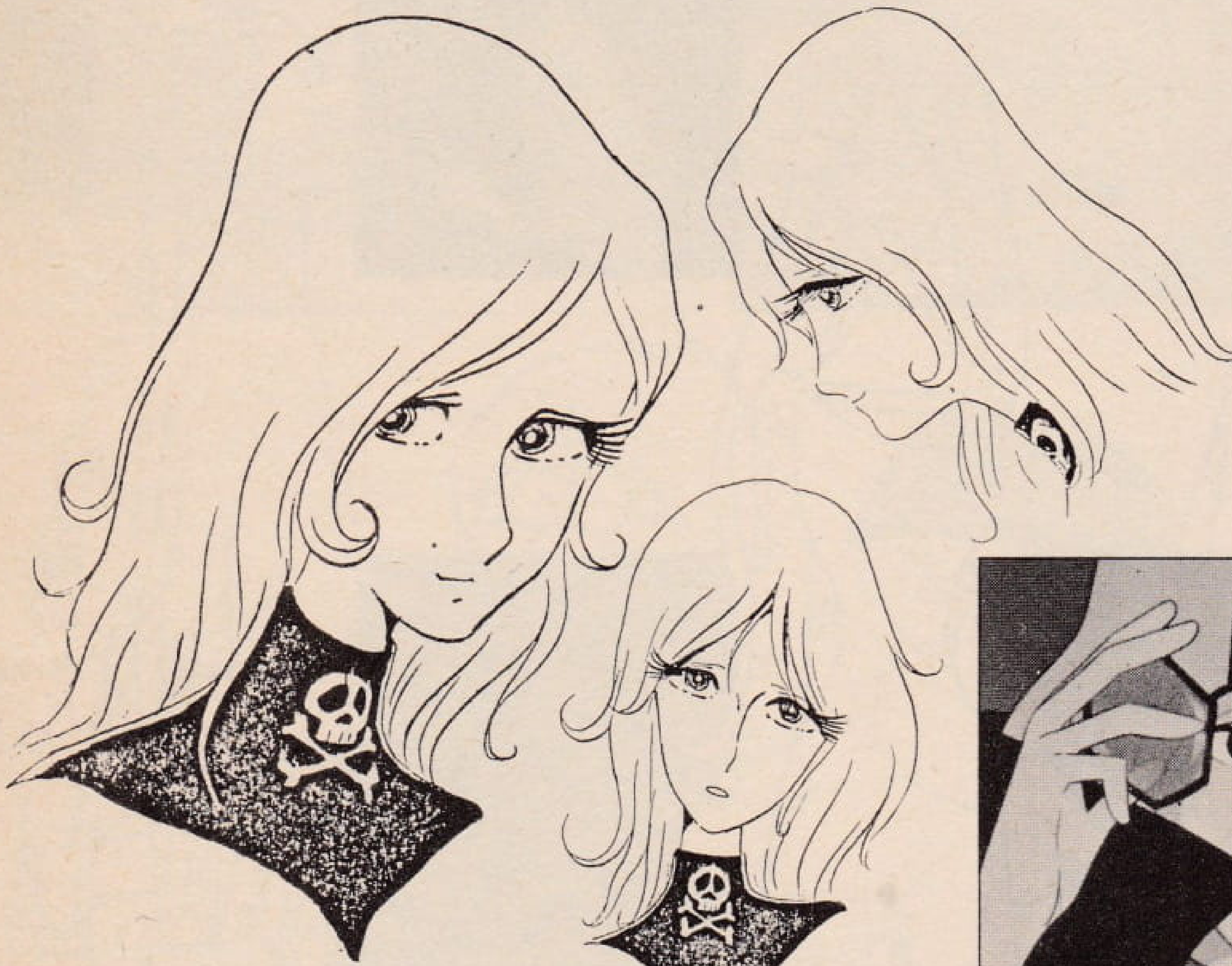


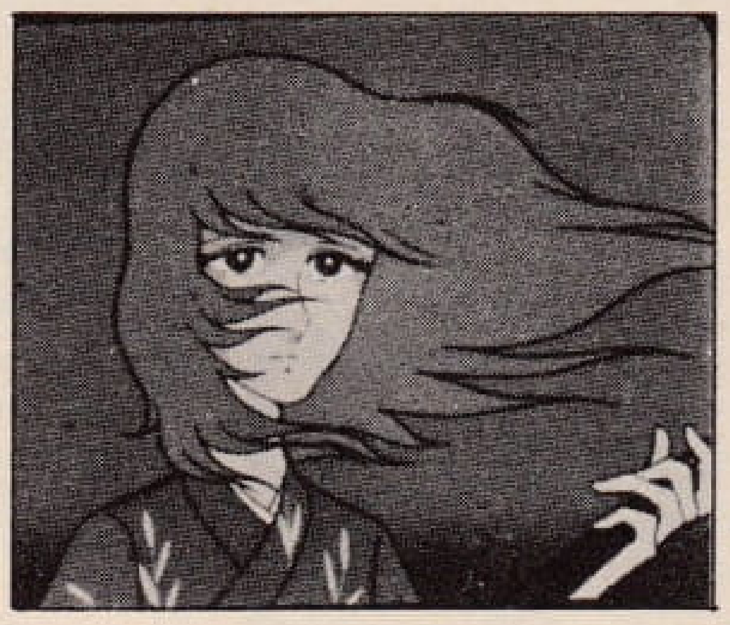


螢の婚約者。有紀博士の一番弟子であったが、宇宙開発庁のポストにつくため博士を殺し、後切田とマゾーンの二重スパイとしても彼女を苦しめる。このキャラクターによって螢の翳(かげ)りのある性格が一層うち出された。

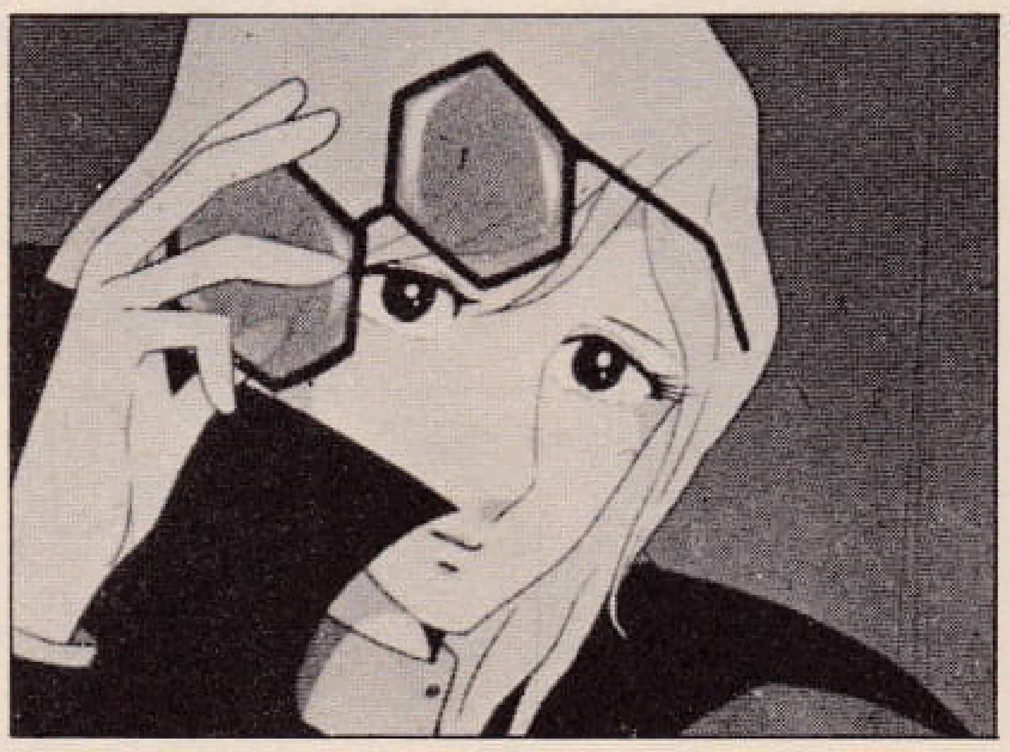
■声・山田俊司■

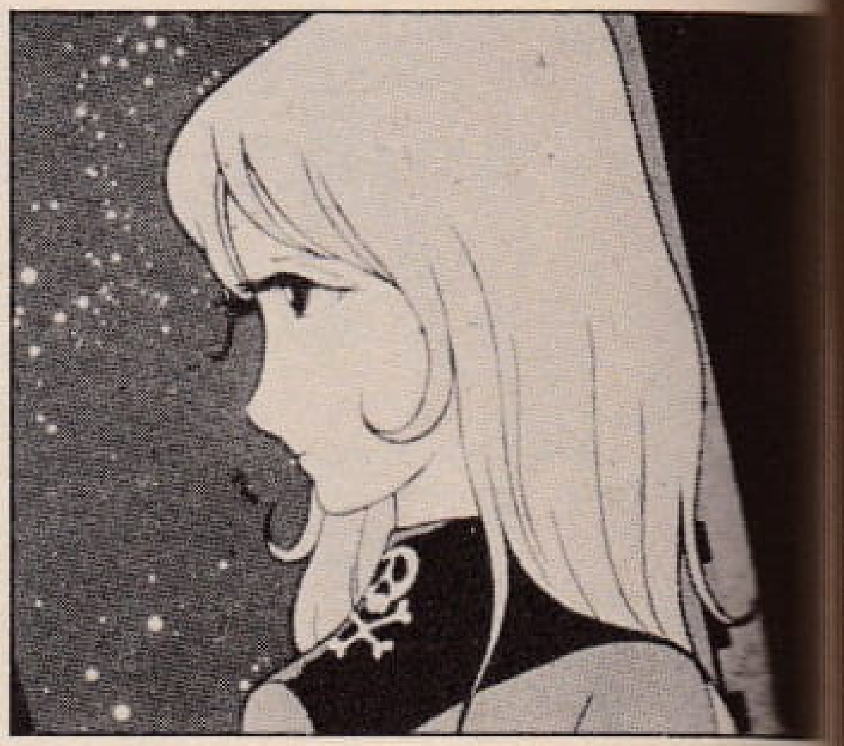
ひとつのドラマの中では必ずといっていいほど、こんなタイプの男が出てくるんですよね。見たとおりの人物として演じました。話絵が実によくできていましたね。

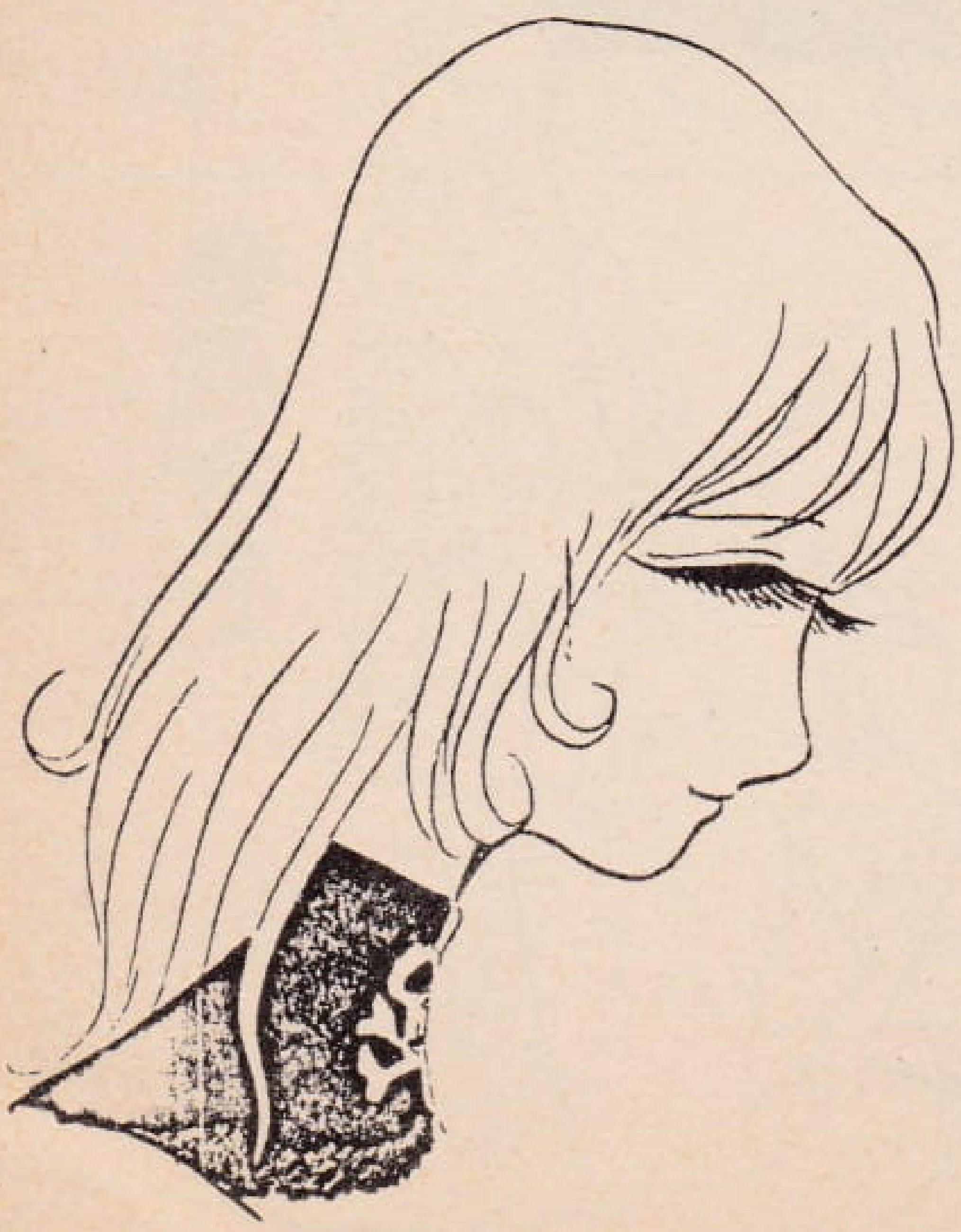














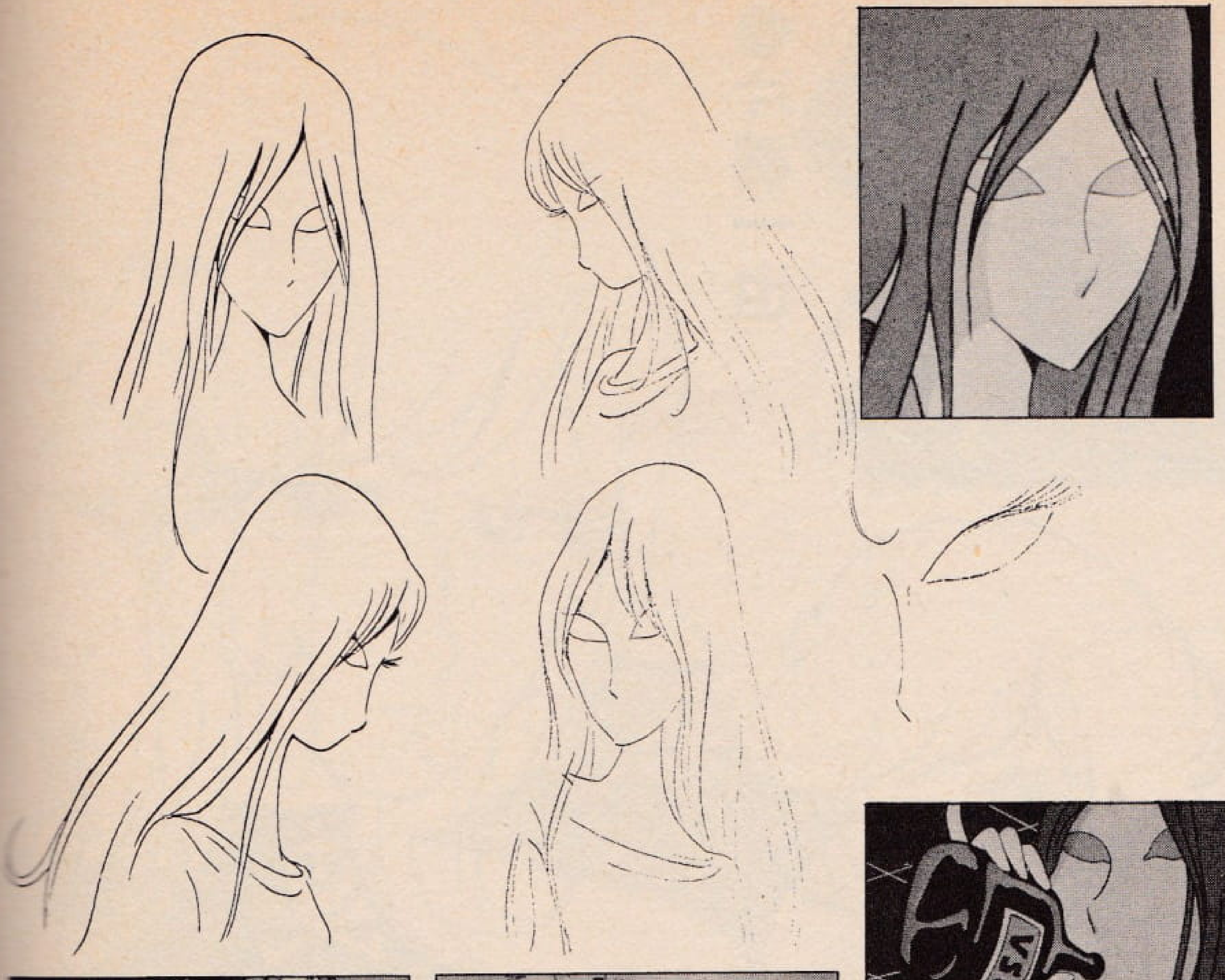
●有紀秀一郎

●文



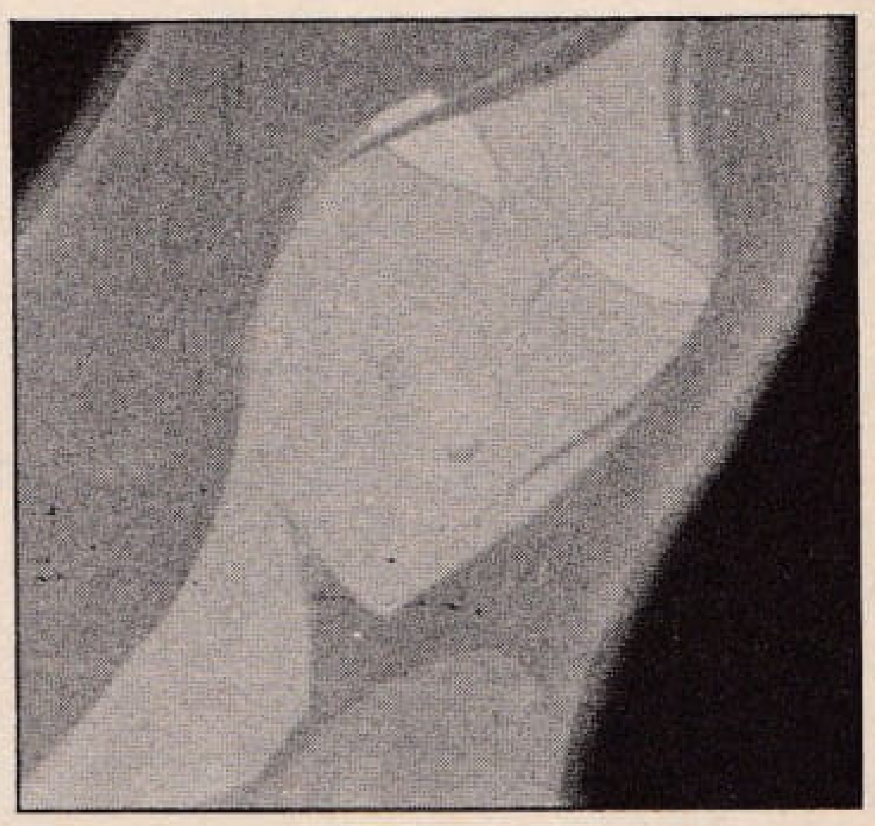
螢の両親。有紀博士(秀一郎)はスペースコロニー計画に夢をかけていたが、その実験中、弟子・一也の陰謀により酸欠で死亡。文もそのあとを追うようにして他界。生前よく三味線を弾いていた。

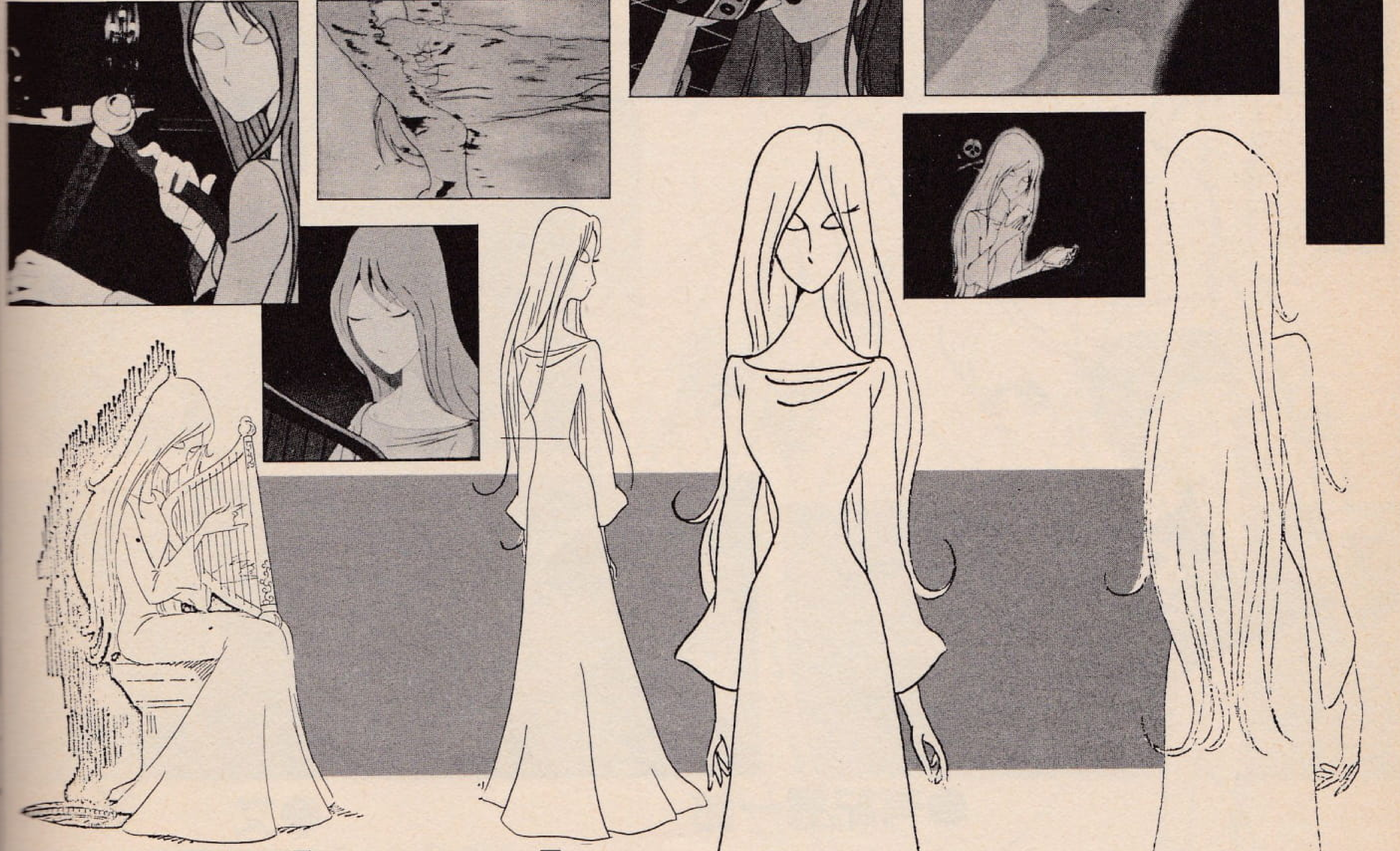
ミーメ



「私はハーロックに命を捧げた女」という言葉通り、いつもハーロックによりそい、見守り、マゾーンとの戦いのあともハーロックと共にアルカディア号に残った。アルコールを主食とするジュラ星人最後の生き残り。彼女の奏でるハープは、その悲しみを歌っているかのようだ。

　つかみどころがなく、それでいて存在感がある。これほど神秘的なムードを漂わせたキャラクターもめずらしい。

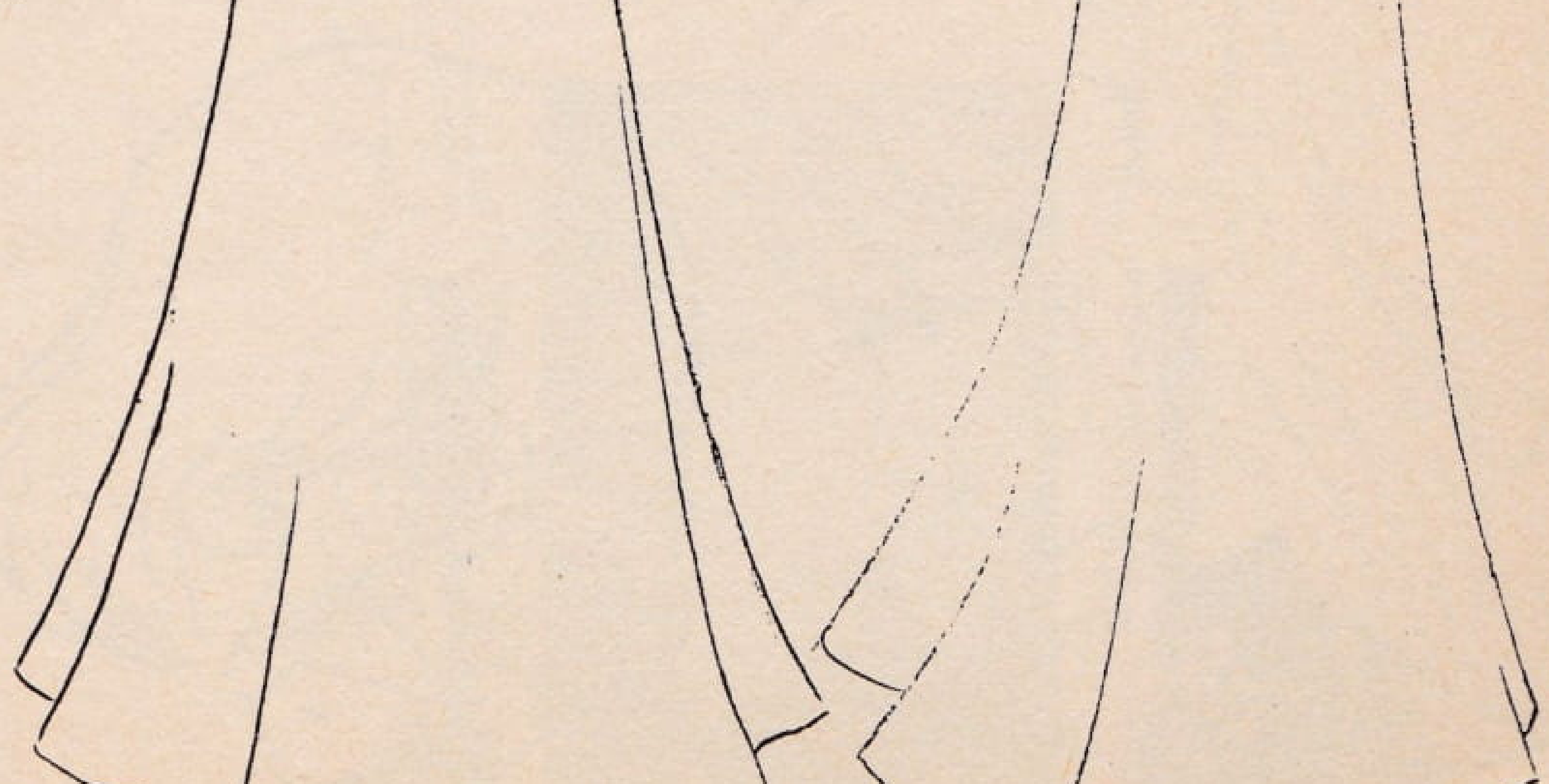




■声・小原乃梨子■

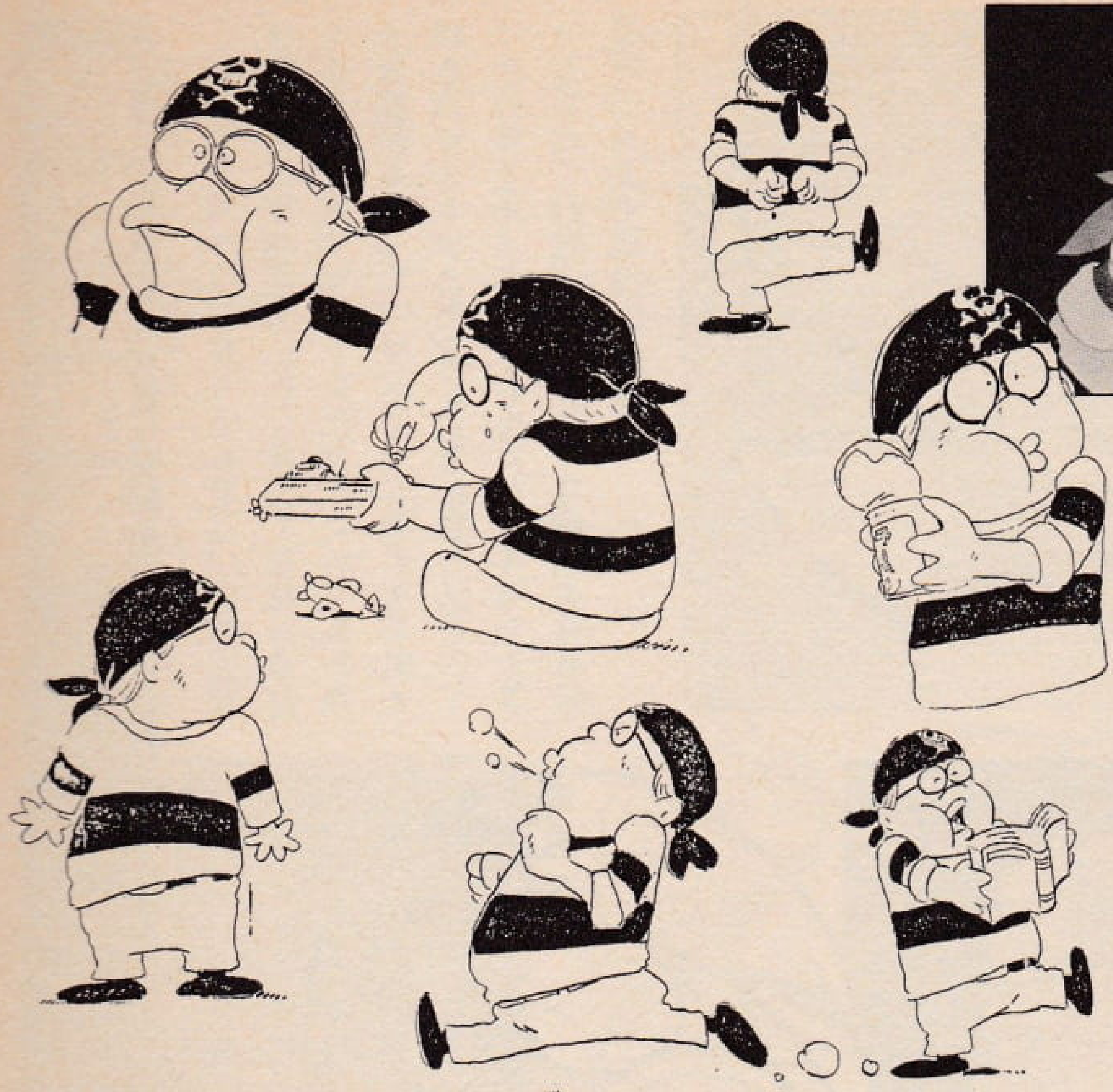
異星人のもつファンタジックなムードをたいせつにしました。あのしゃべり方ですが、カタカナ通りにやるとコンピューターみたいになっちゃうので、お酒を主食としている星の女らしくトロッとして、フワーッと語尾がとけちゃうみたいな感じにしてみたんです。零士先生も気に入って下さったようでホッとしました。ただ、異星人といっても言ってることは普通の人間と同じでしょ。だからその辺のかみ合わせがむずかしかったです。それと顔、形からいってもわからない部分の多い、とらえにくいキャラクターでした。

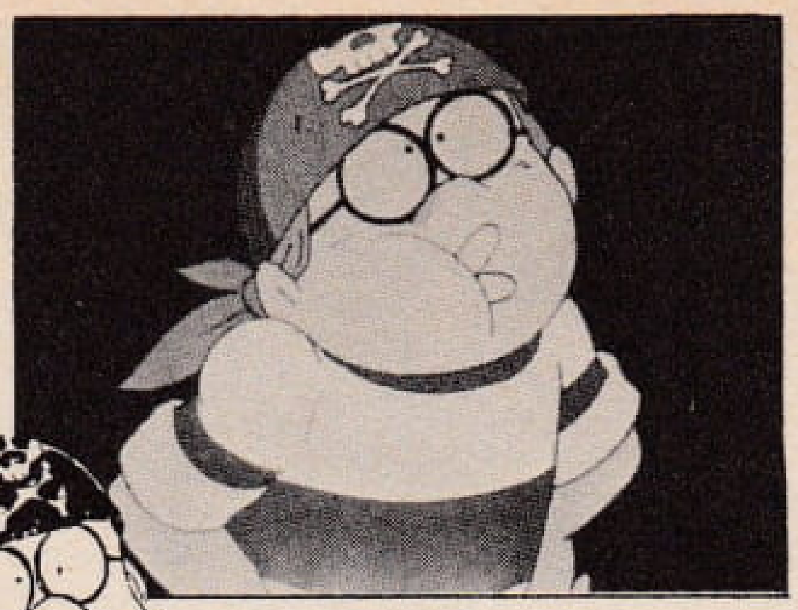
　命をかけてハーロックを愛する女といっても、その愛はもう人種（?）を超えちゃってたんじゃないかしら…。



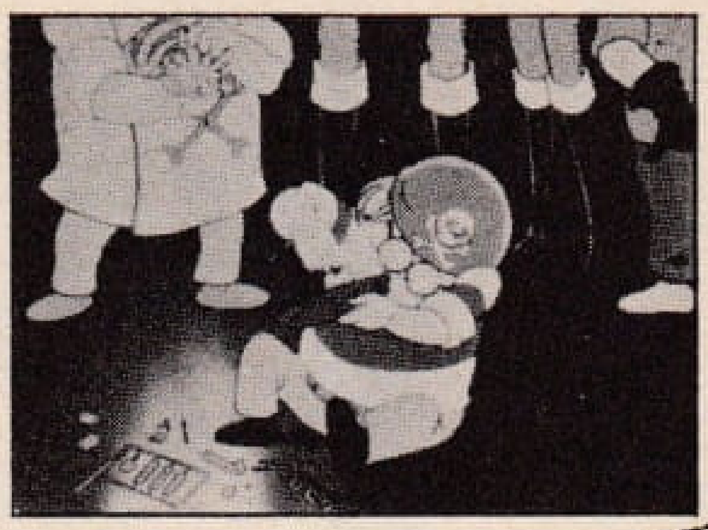
ヤッタラン

アルカディア号の副長。「わが友をのぞいては、副長ほどアルカディア号の構造に精通しているものはいない。」とはハーロックの弁。戦闘においてもハーロックのよき片腕である。「プラモこそ技術の粋にして、最高の芸術品や」と言わしめるほどのプラモ狂。プラモを作りはじめると戦闘中でも手を離さないことがしばしばある。このあたりの設定には松本零士氏自身が生かされているのではないだろうか。



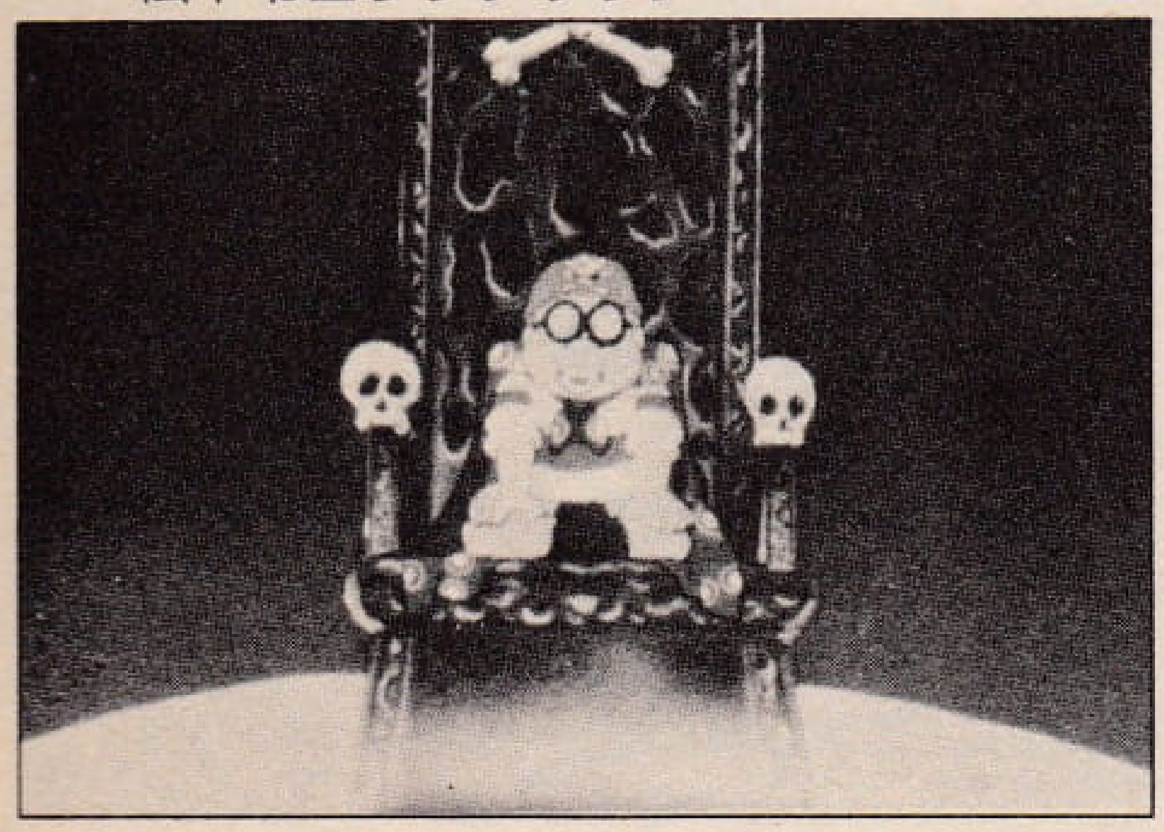


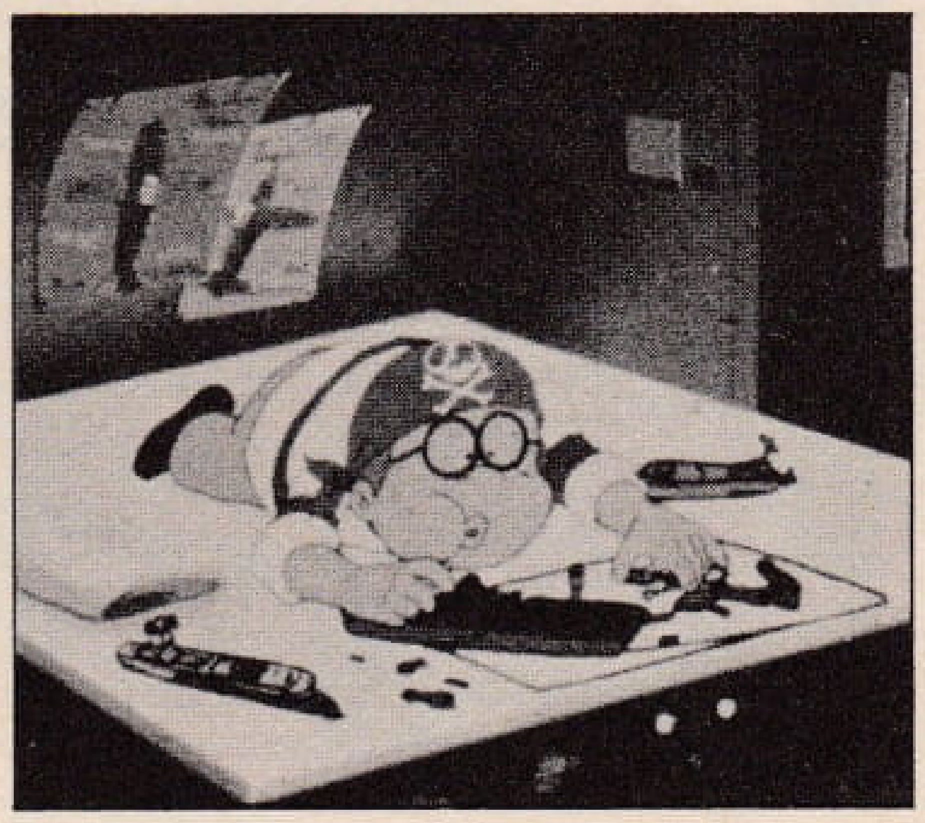






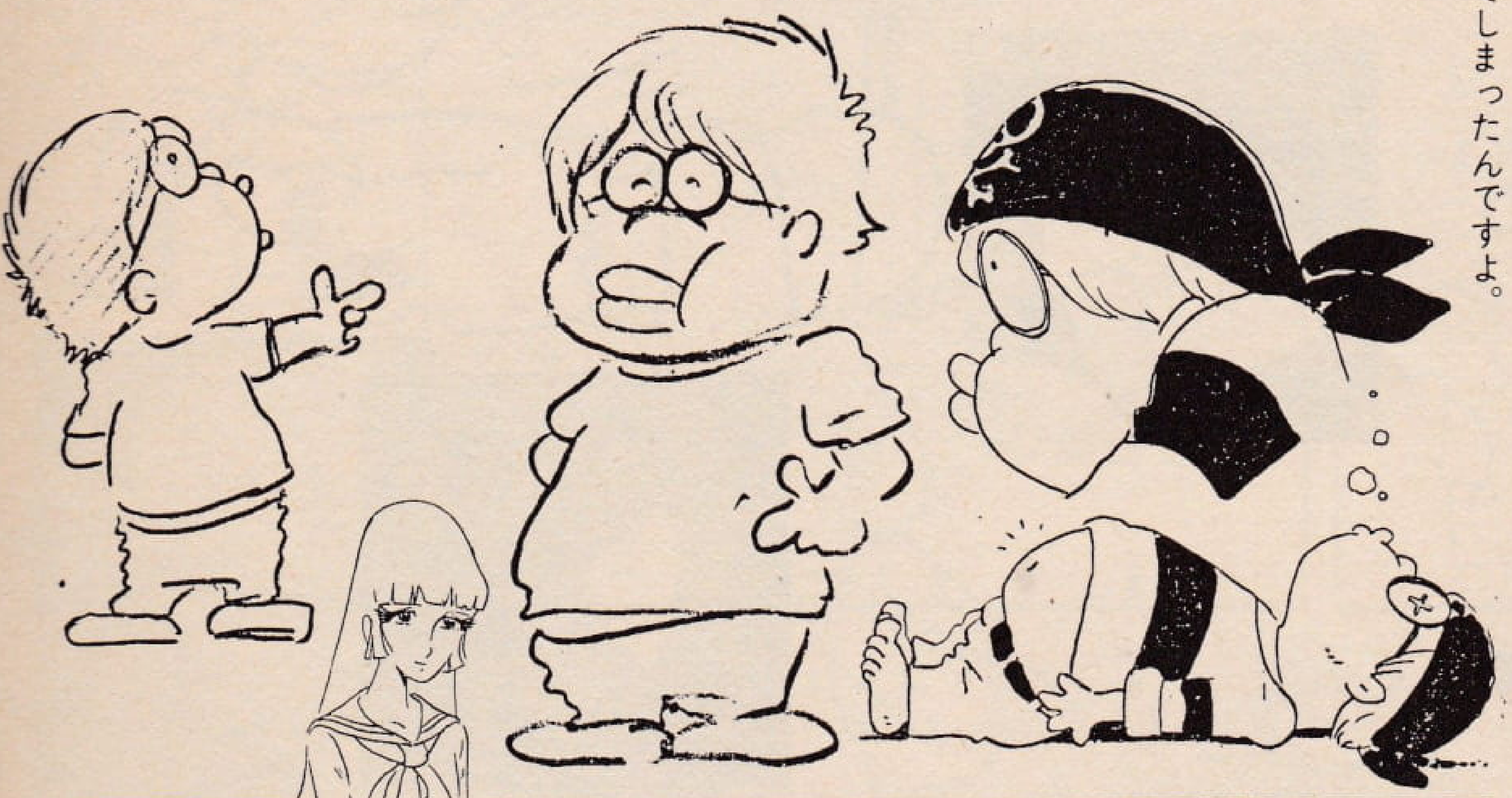
▼松本零士ラフデッサン





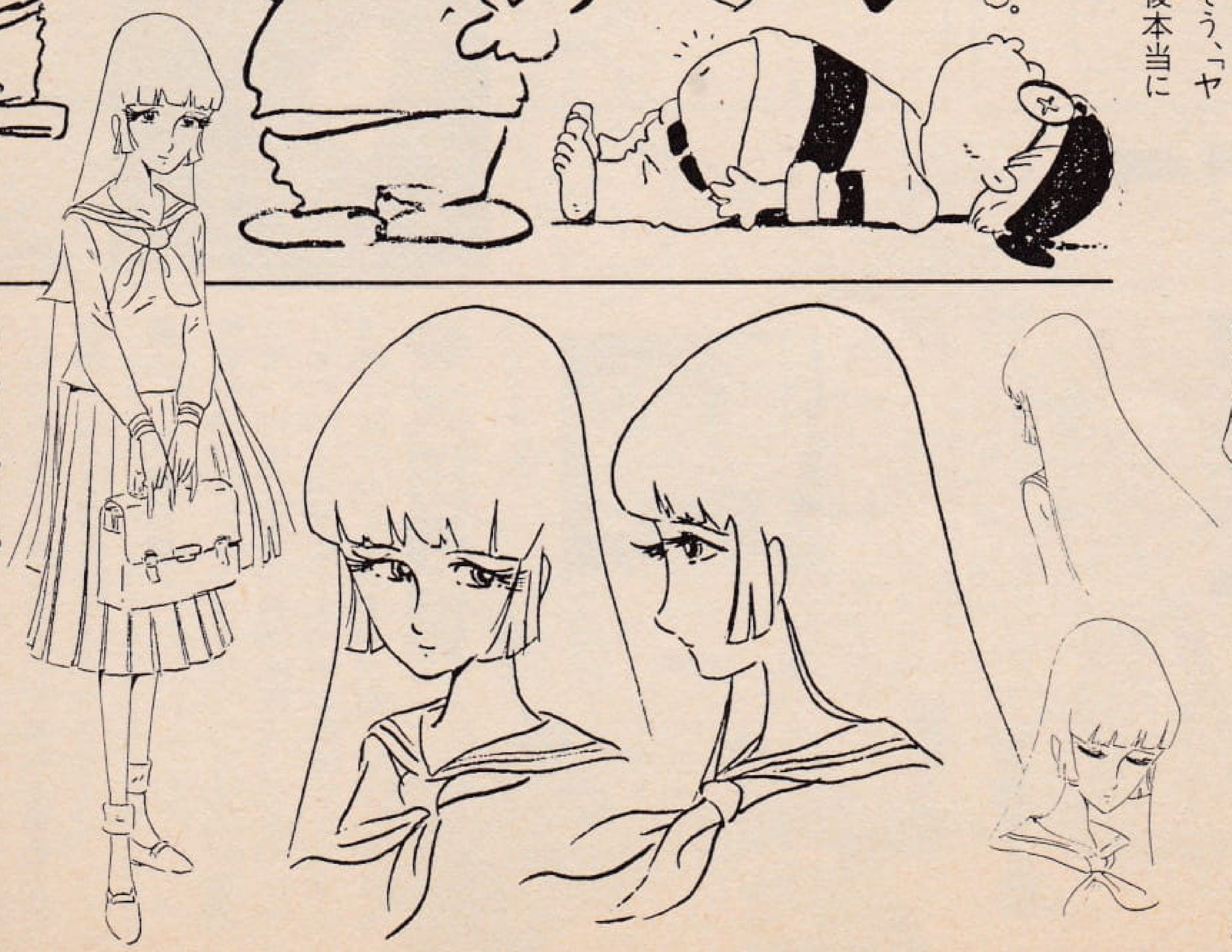
■声・大竹宏■

機械工学という分野であれだけひいでているにもかかわらず、なぜか普通の社会からはみ出してしまった男なんですよね。もうちょっと顔がよければ、その方面で成功していたかな？（笑）プラモ狂ってとこには幼さを感じますね。そんなとこ親しみが持てるんですよ。声は最初高めに出していたんですが、松本先生の意見でちょっと下げ、だけどまた少しずつ上げていったんです、気づかれないように（笑）。結局は「それでいいんですよ」と先生も認めて下さいました。そうそう、「ヤッタラン・プラモ狂の詩」では、最後本当に泣いてしまったんですよ。

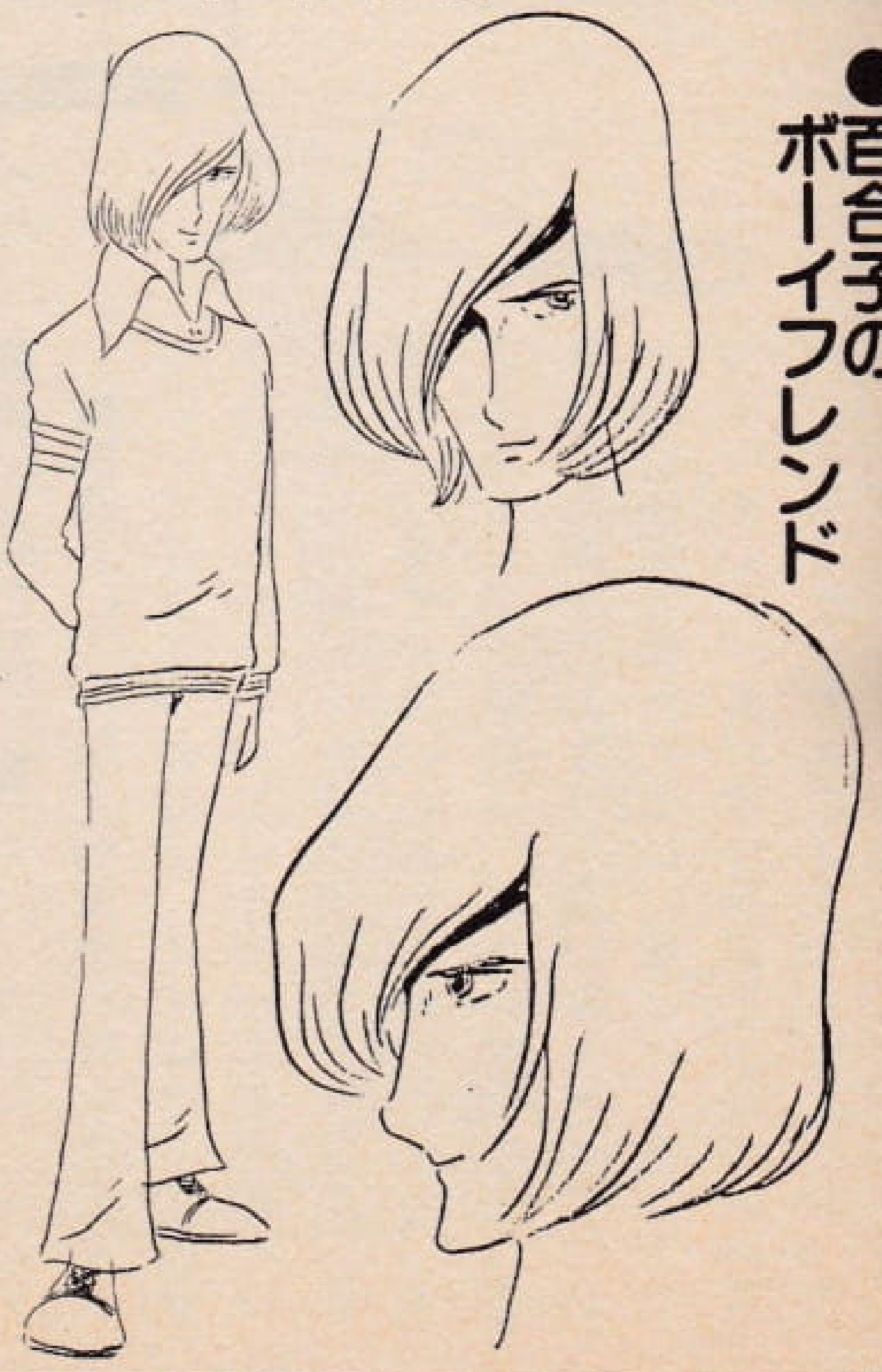


●百合子

ヤッタランの初恋の人。

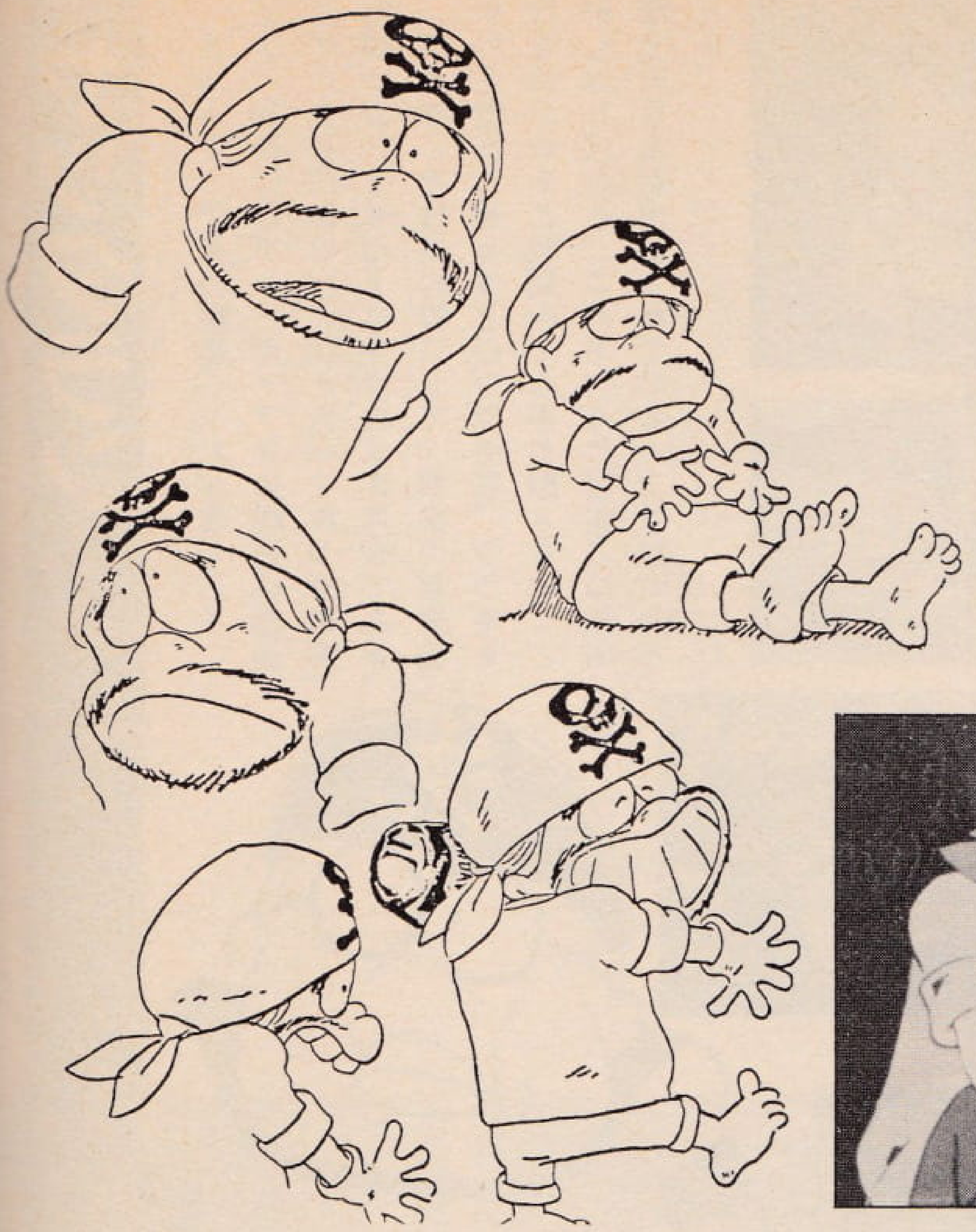


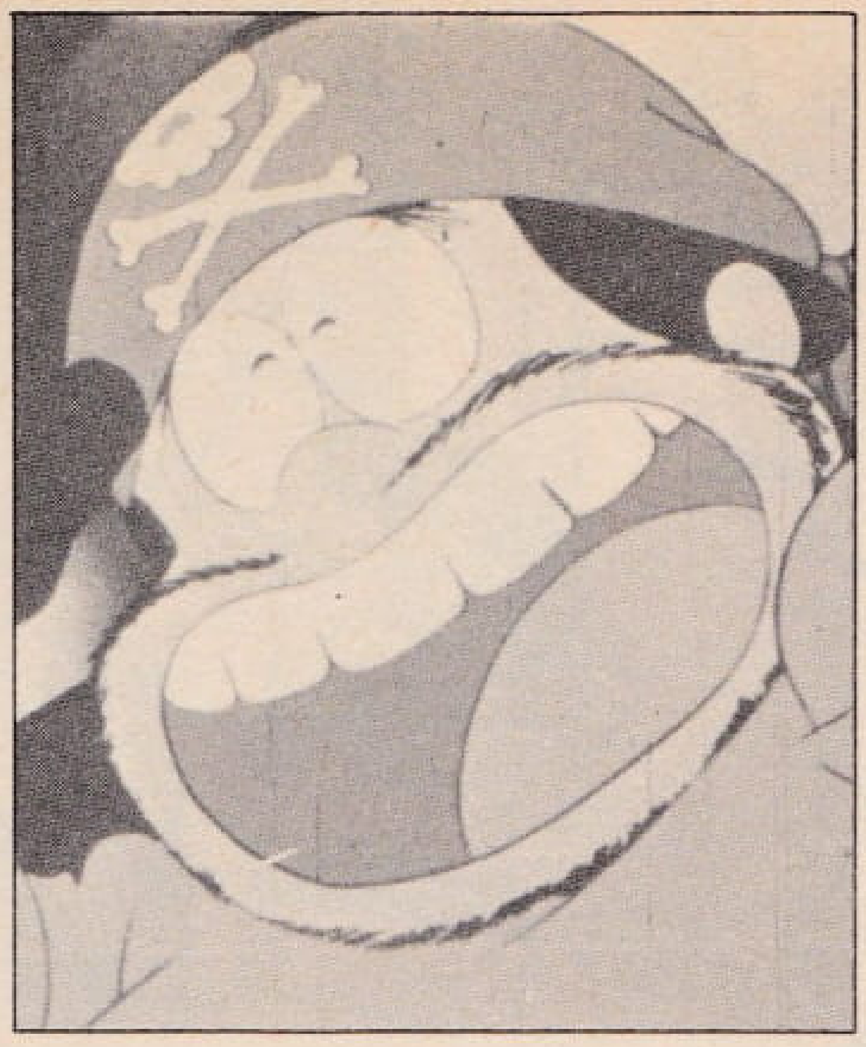
●百合子のボーイフレンド

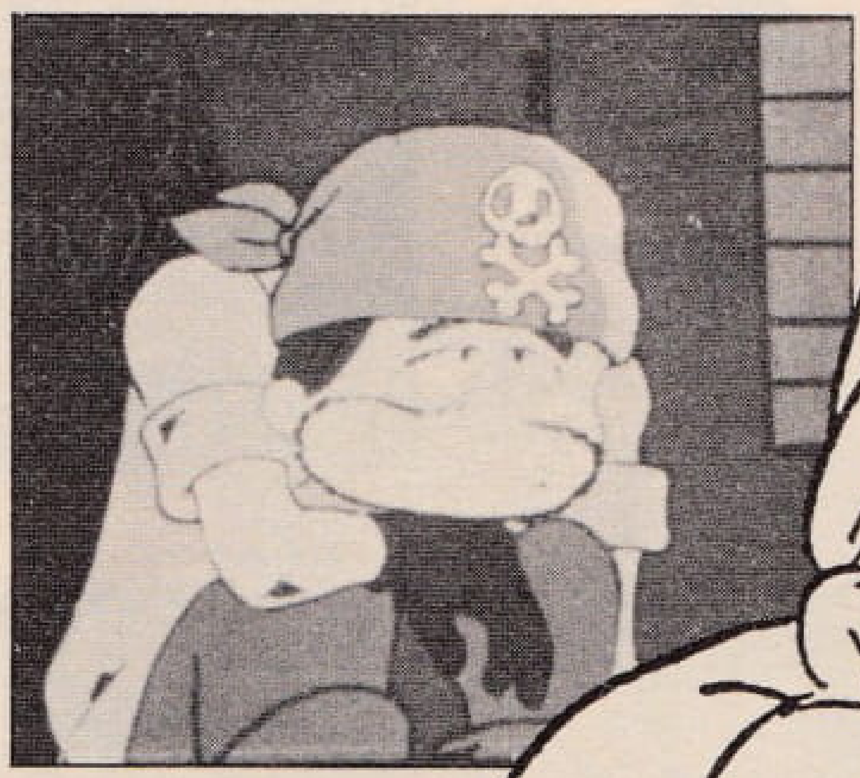


魔地機関長

アルカディア号に乗り込む前は、地球連邦宇宙海軍に所属していた。結婚し幸福な家庭を築くが、妻がマゾーンだったためそれは長くは続かなかった。マゾーンに連れ去られた娘を探そうとアルカディア号に乗り込む。
原作でもあまり描かれていないキャラクターだけに、17話、18話のような物語も作りやすかったのだろう。

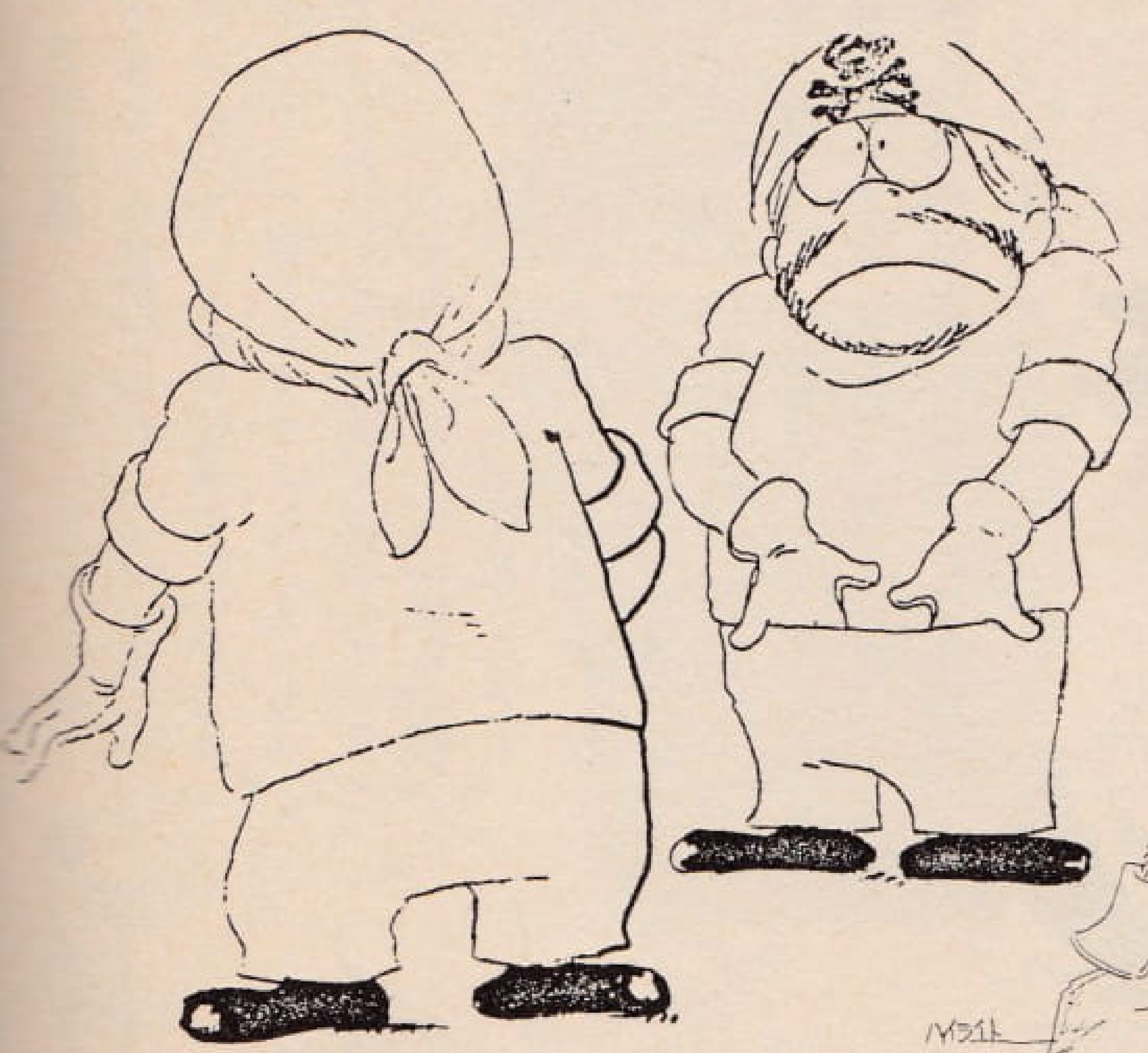






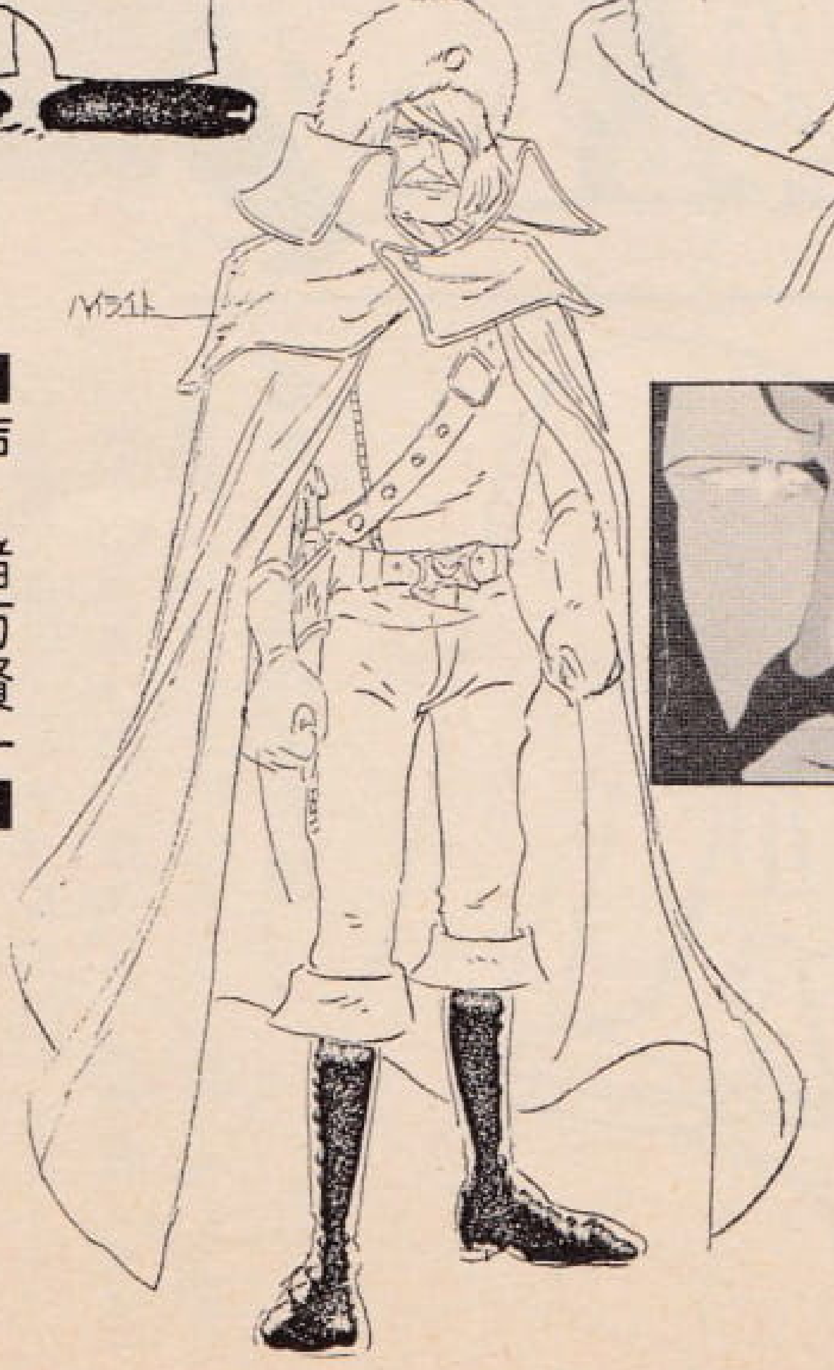


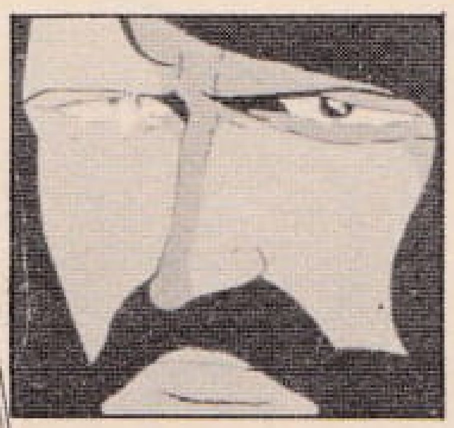












●山中艦長

地球連邦宇宙海軍時代の魔地の上司。唯一の欠点がゆうずうのきかなさというほどのハーロックも認めるつわもの。制作者側の思想精神がはっきりと出たキャラクター。

■声・加藤修■

とてもさびしい人だと思いましたね。白骨になってまで艦を守るなんてところには、ハーロックと共通したヒロイズムみたいなものを感じますね。ある意味ではハーロックをもっと大人にしたような人なんじゃないかな。こういう役はのれるんです。とても印象に残ってますよ。

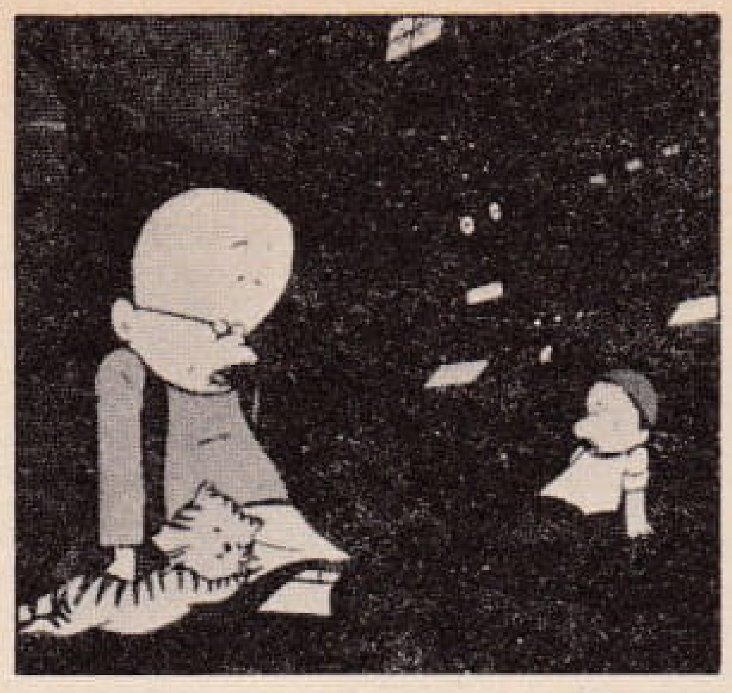
■声・緒方賢一■

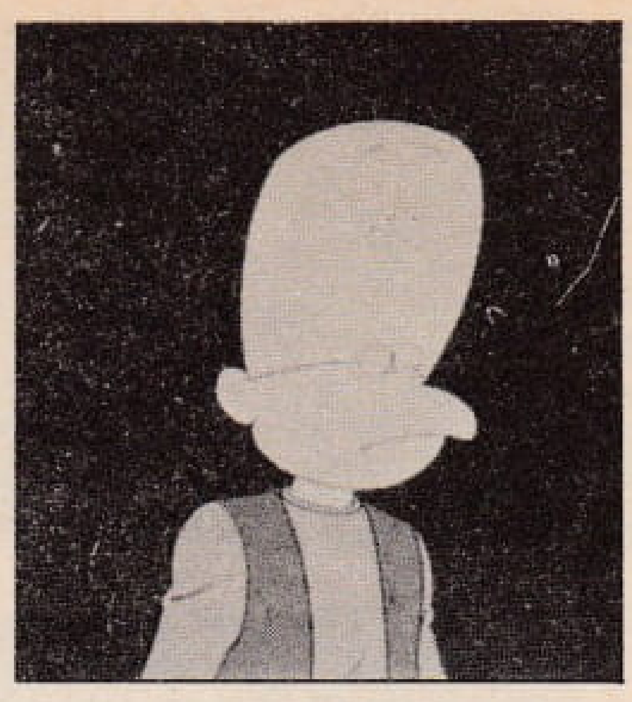
機関長という役柄上機関室に閉じ込もりきりというイメージが強く、その中でしか表現されていなかったっていうのがある意味では不満でしたね。「白骨の勇者」と「魔の幻影戦士」に全てが集約されてしまった感じ。あの2本では彼の純粋さ、ああいった状況に置かれた人間の苦脳なり、喜びなりが、見ている側に痛切に伝わればいいなという気持でやっていました。あの事件以前と以後の心の変化、成長みたいなものをもっと出したかったのですが、たった2話では無理でしたね。

ますおばさん

本名・網島ます。ある漁村の網元の娘だった。なぜアルカディア号に乗り込むことになったのかはさだかではない。艦内ではコック長として腕をふるっている。

しなやかな美女タイプの女性キャラが多い中では特異な存在だが、こういったキャラクターもギャグメーカとして必要なのだ。

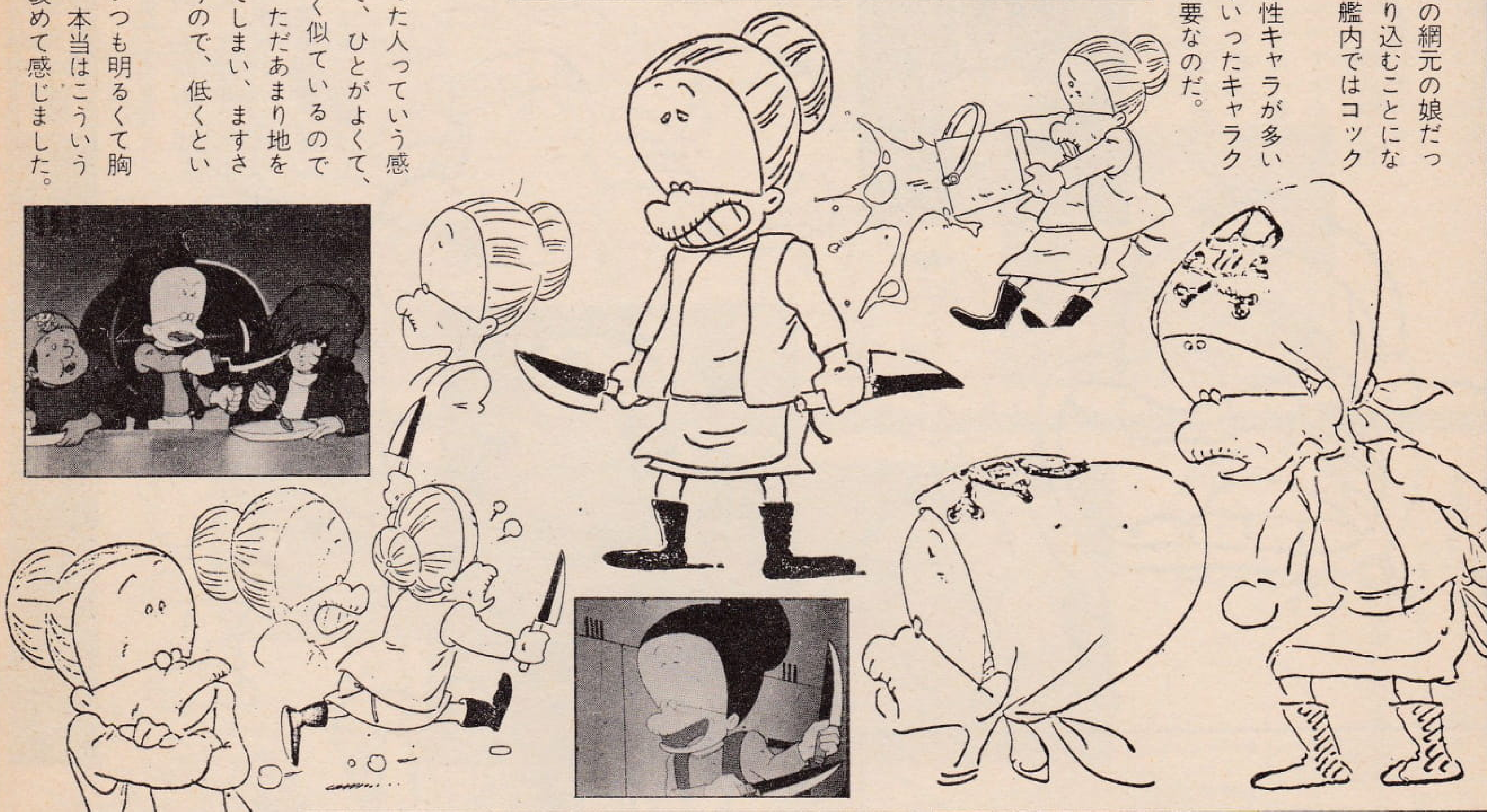


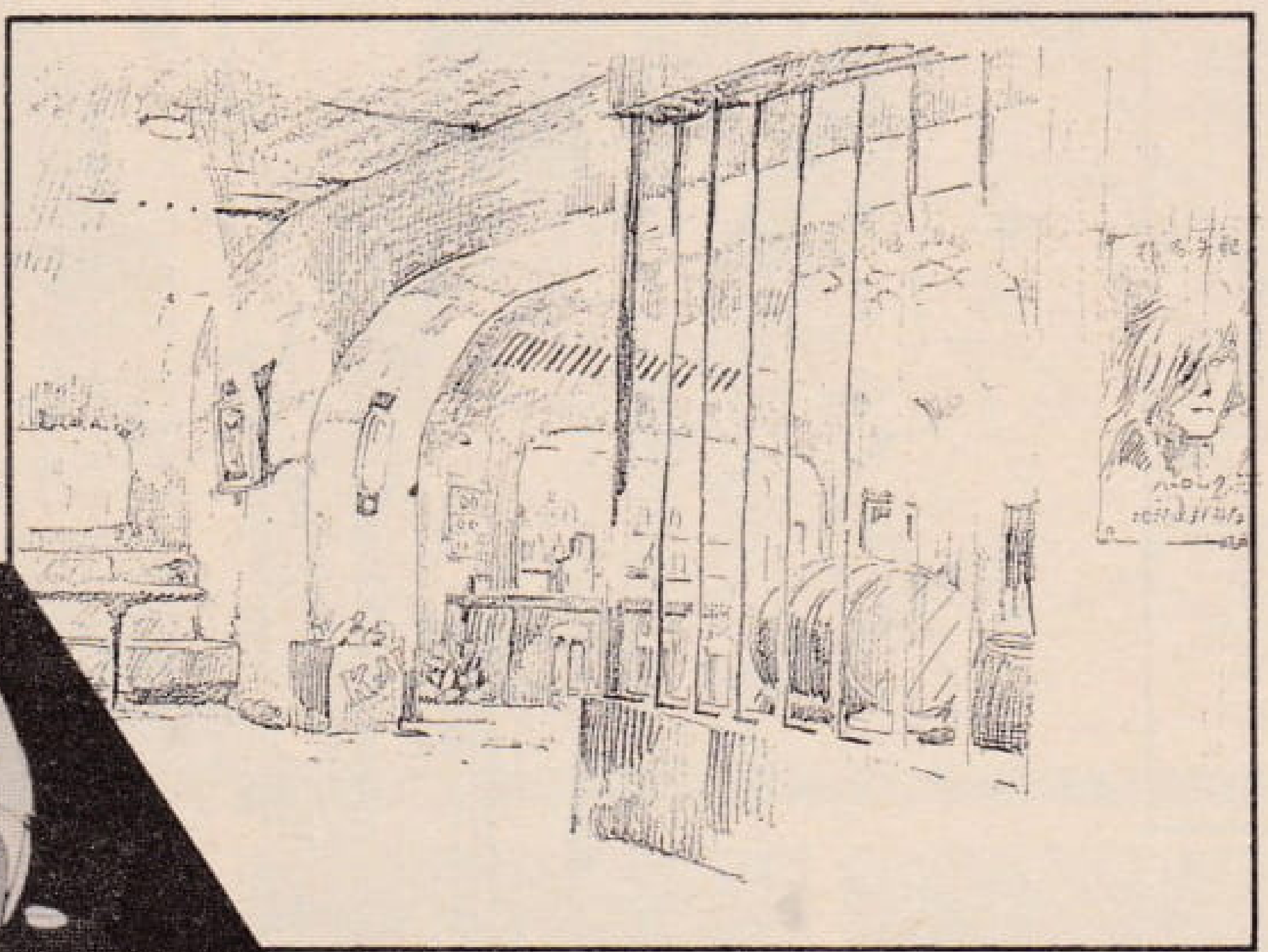


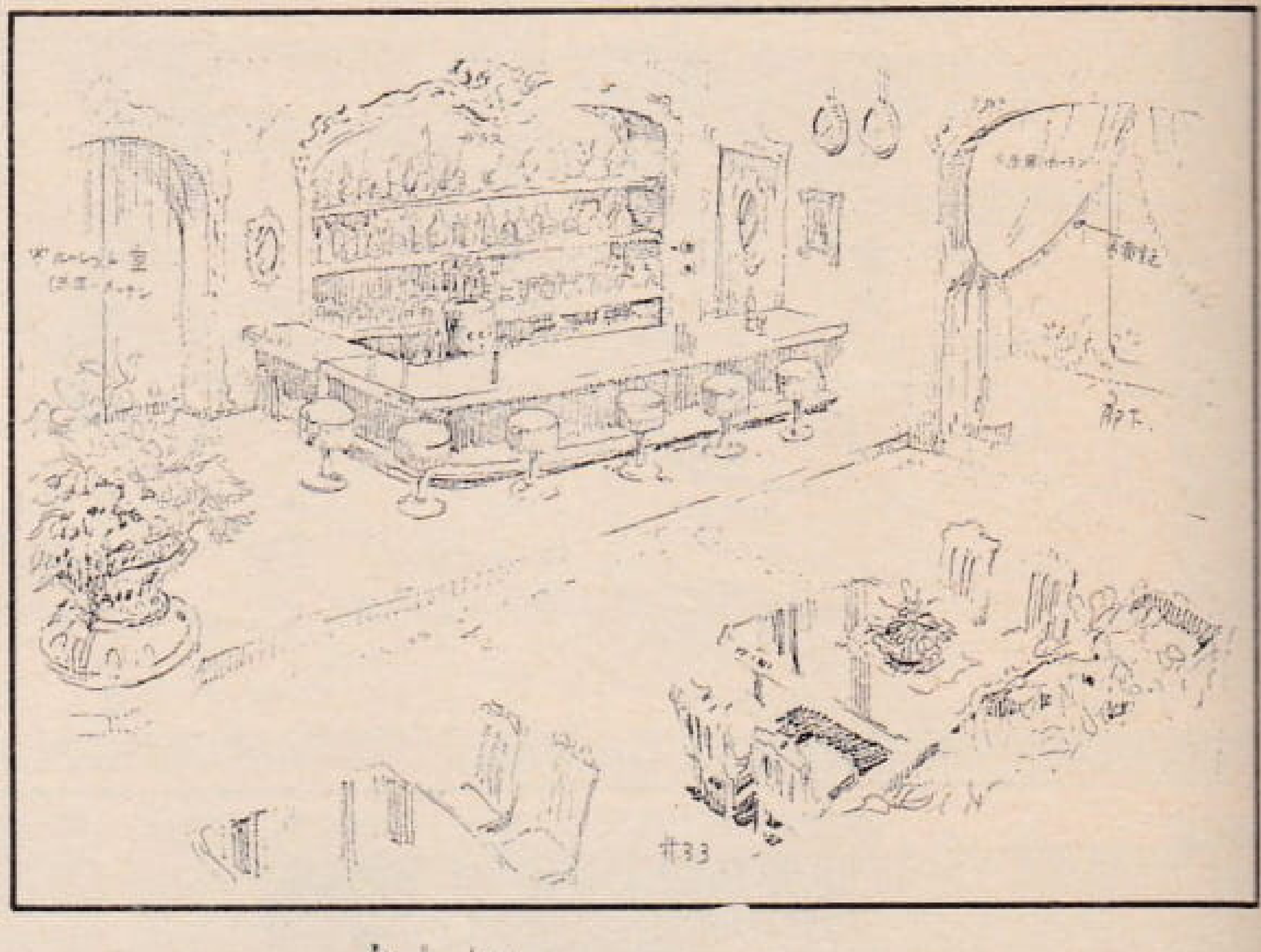
■声・つかせのりこ■

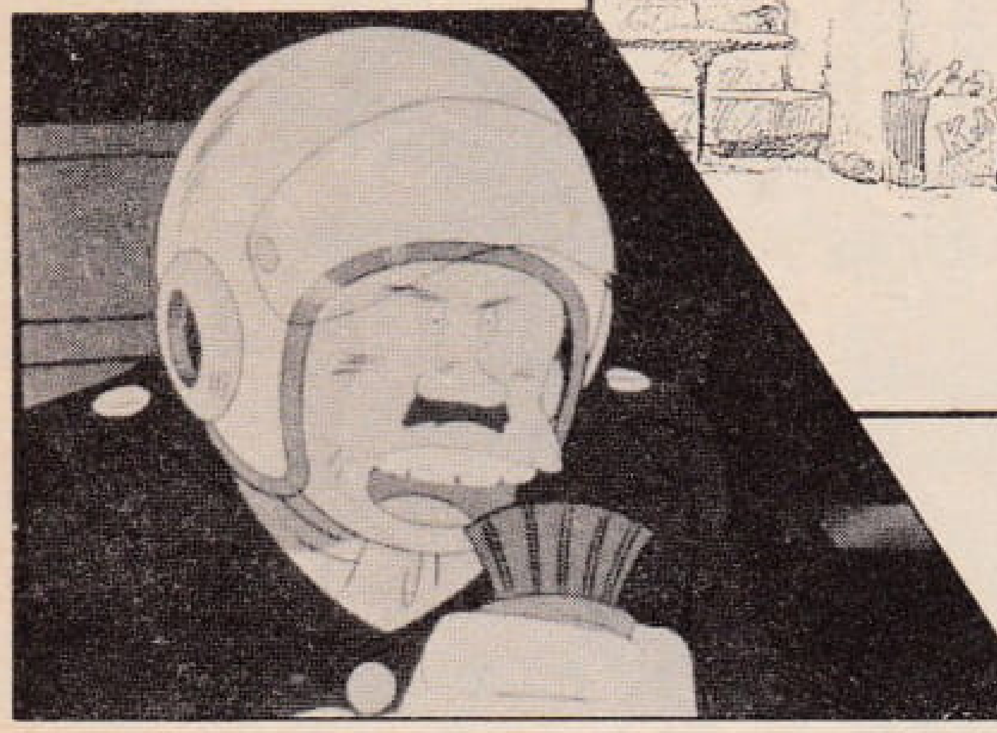
とてもあたたかい血の通った人っていう感じですね。おせっかいやきで、ひとがよくて、うるさいとこなんて私とよく似ているので（笑）演じやすかったです。ただあまり地を出しすぎると声が高くなってしまい、ますさんの年がワッと若返っちゃうので、低くということを注意しました。

大田原さんとの話では、いつも明るくて胸の内を見せないますさんも、本当はこういう人なんだなぁということを改めて感じました。







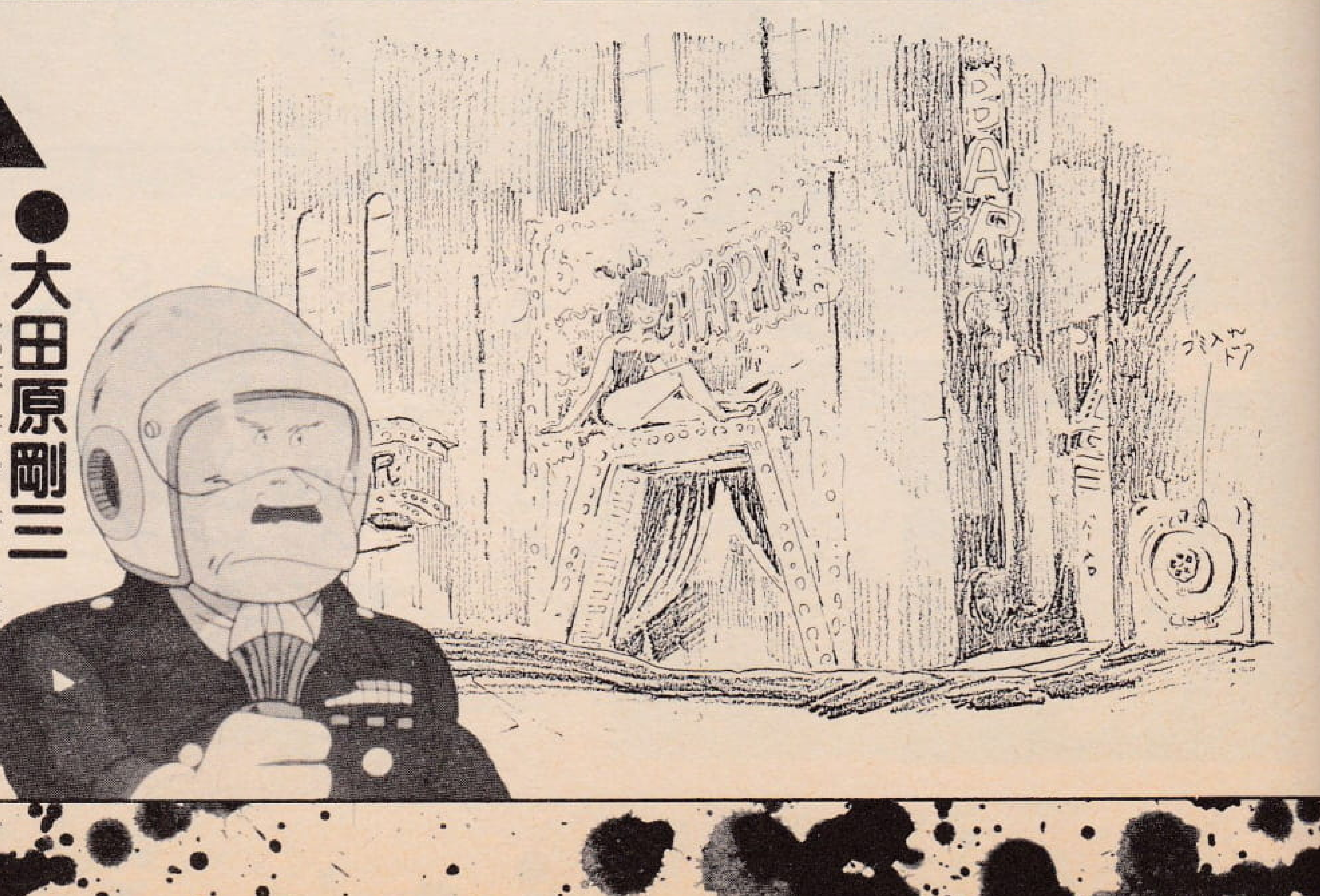


●大田原剛三

ますさんの恋人だったがすれ違いから別れてしまう。その後結婚したが妻はマゾーンだった。それを自らの手で射殺し、そのため警備隊長官の座を追われる。マゾーン中央艦隊に突撃し死亡。〝男〟を見せてくれた。

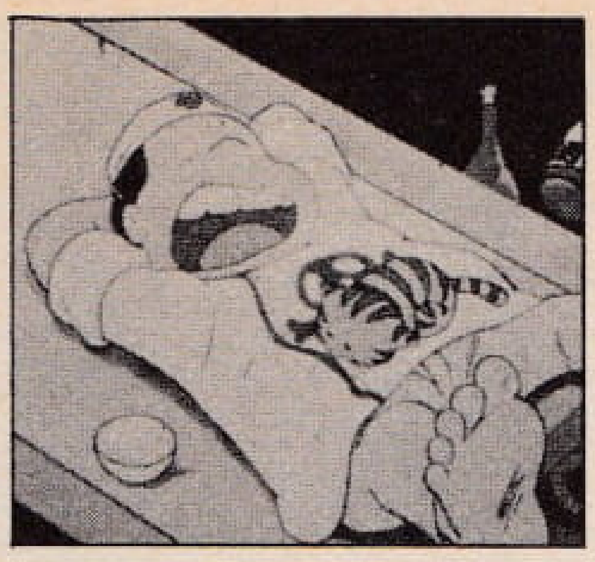
■声・北川国彦■

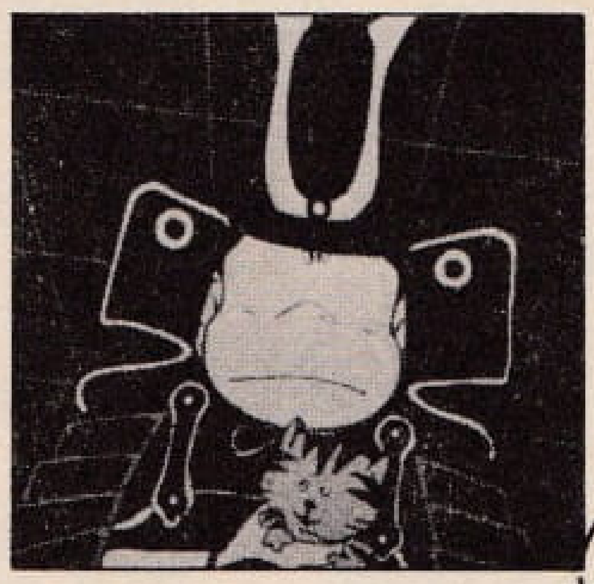
演じていてすごくおもしろかったですよ。ぼくは戦争には行ってないんだけどわかる部分がある。なんか理屈ぬきに感動してしまうんだな。ラストで歌った〝大漁唄い込み〟も一生懸命覚えたりしてね（笑）。

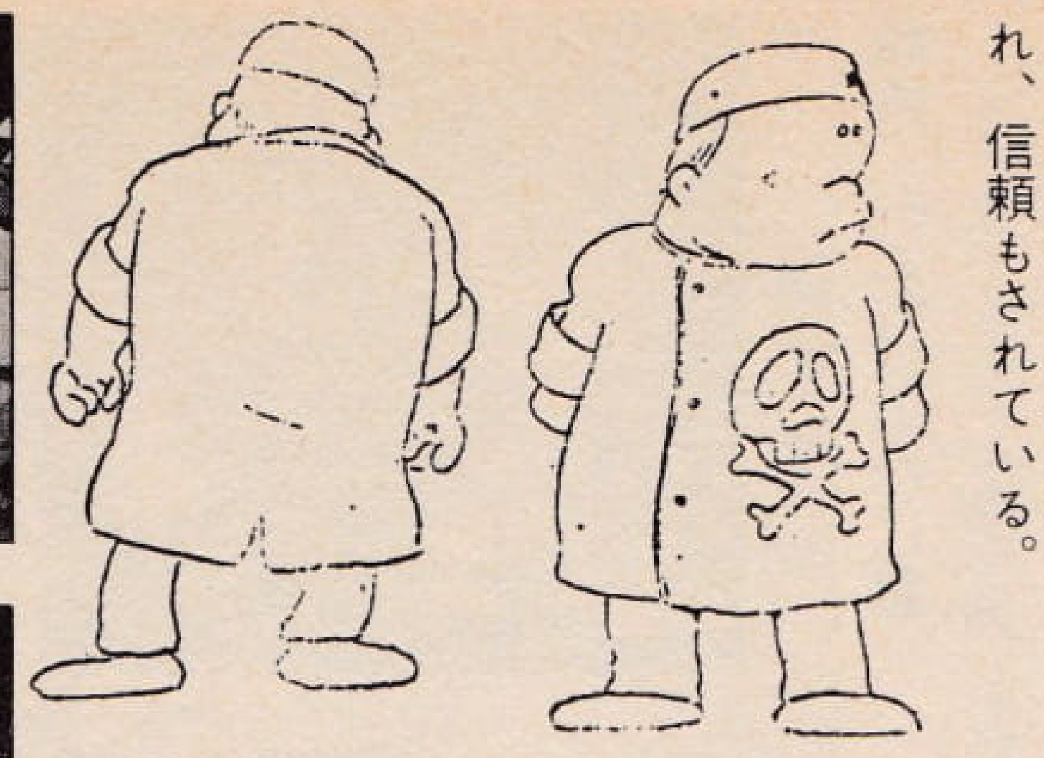


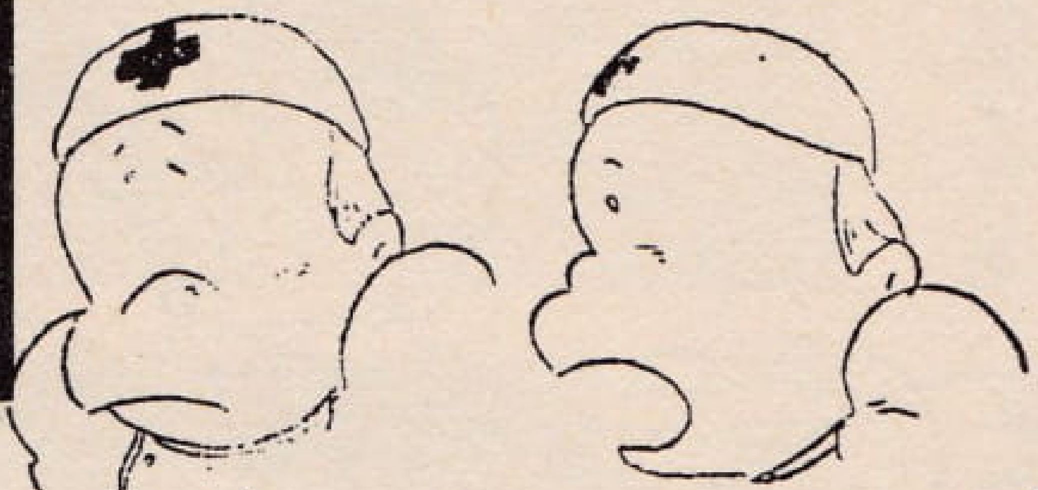
ドクターゼロ

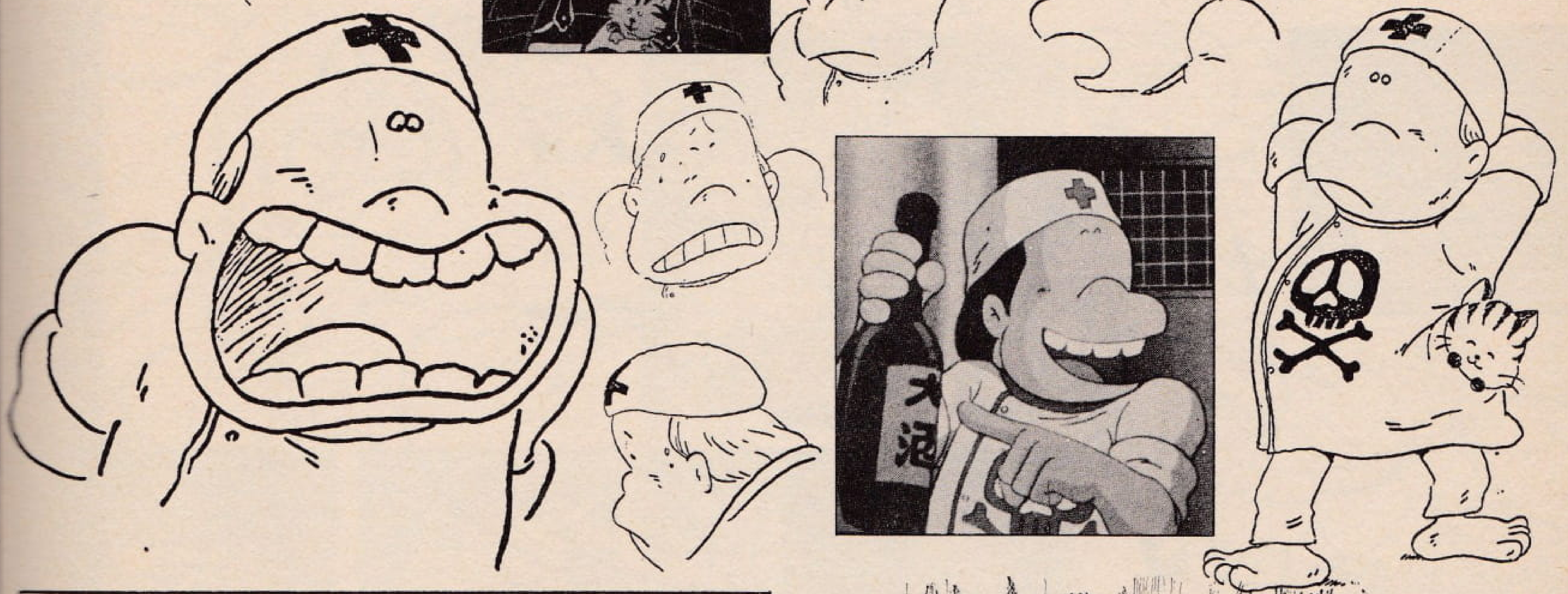
松本零士氏の作品には名を変え姿を変えよく出てくる医者である。出生、その他一切不明。いつもお酒を飲んでいて、何があってもゆったりかまえているが、イザとなった時の診察の腕は確か。医者という職業柄か、常に乗組員たちに気を配っているように見受けられ、信頼もされている。







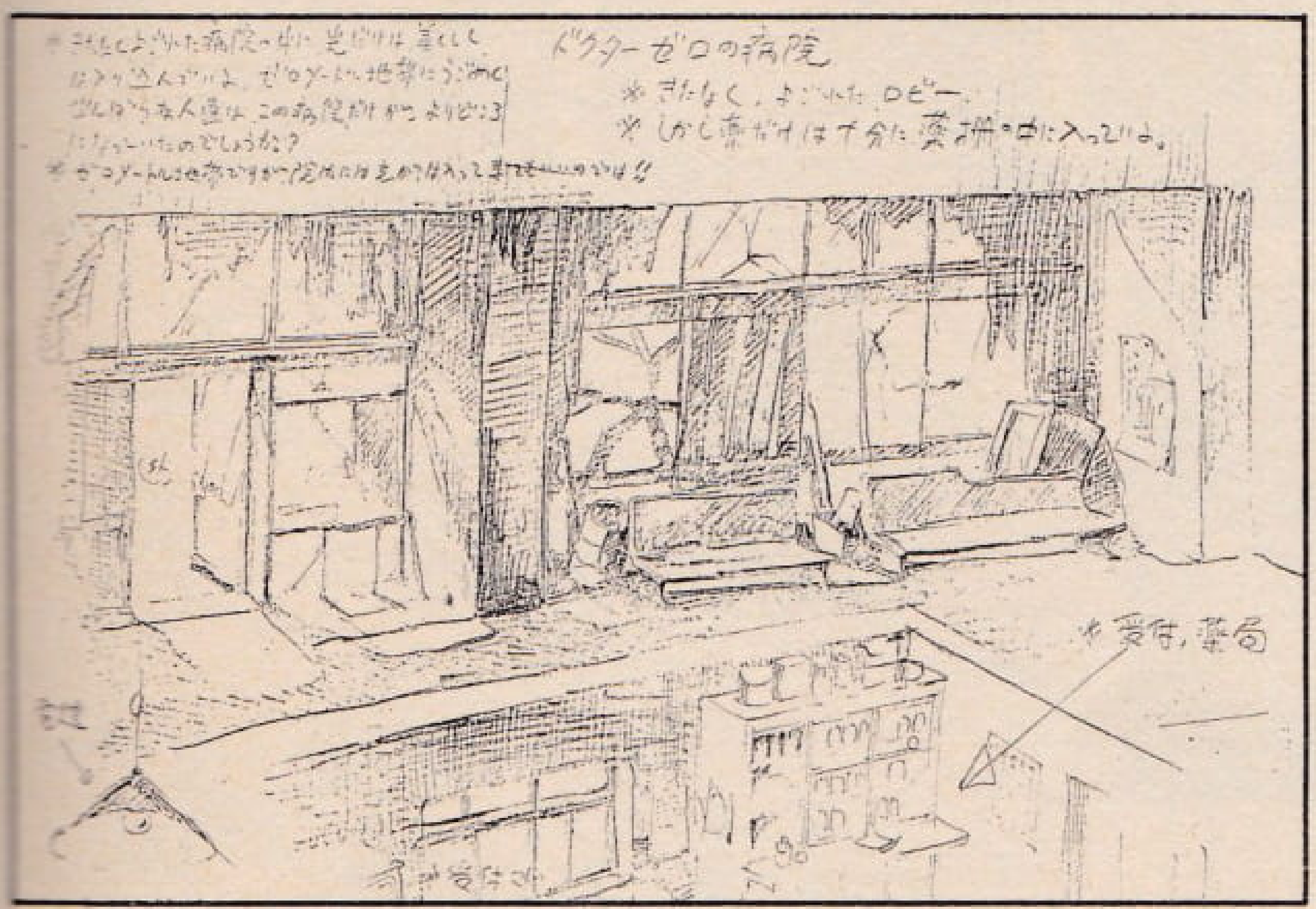


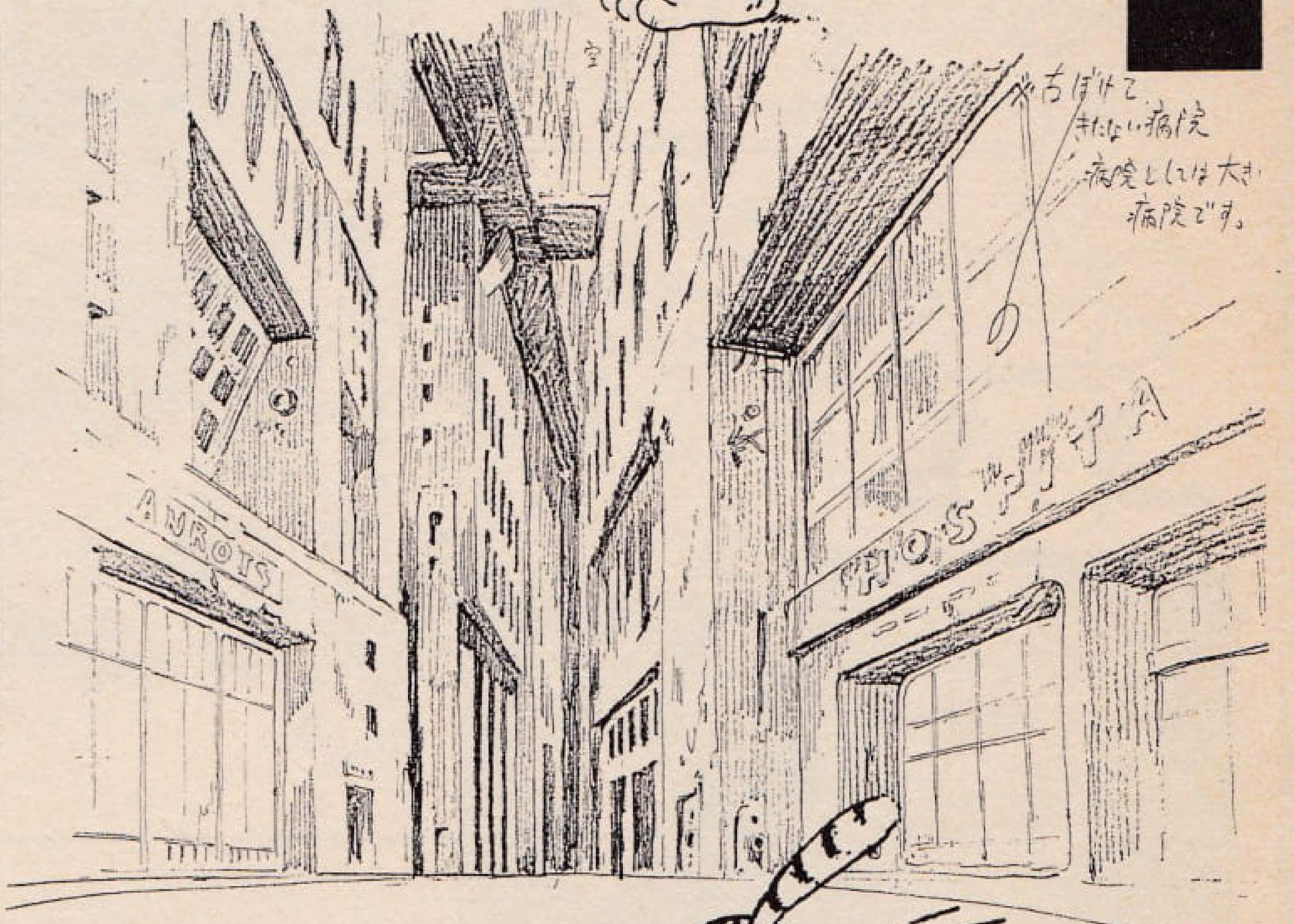


■声・八奈見乗児■

この役はダンガードAの佐渡先生の続きという感じでした。ほんわかしていて、ちょっとぬけた役っていうのは、ぼく自身一番好きでのれるんです。のりすぎちゃってよく脱線する方なので、脇役ということを頭において、番組をこわさない程度に、控え目にやりました。

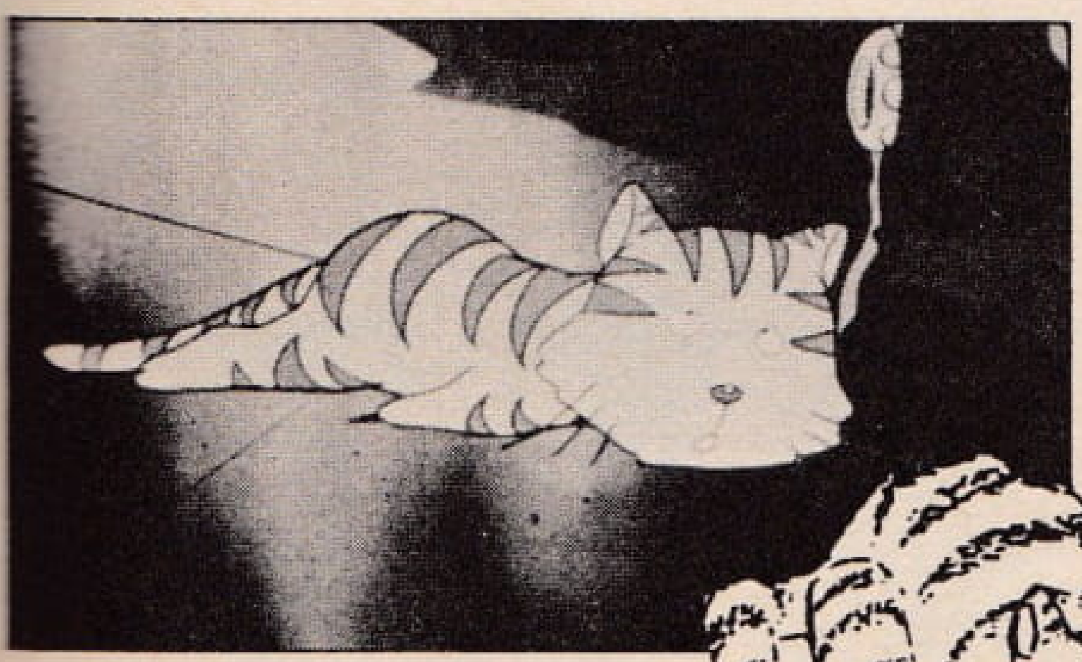
ドクターっていうのは一見頼りにならないようだけど、いざとなるとみんなが頼りにするんですよね。医者的存在感があるんだな。

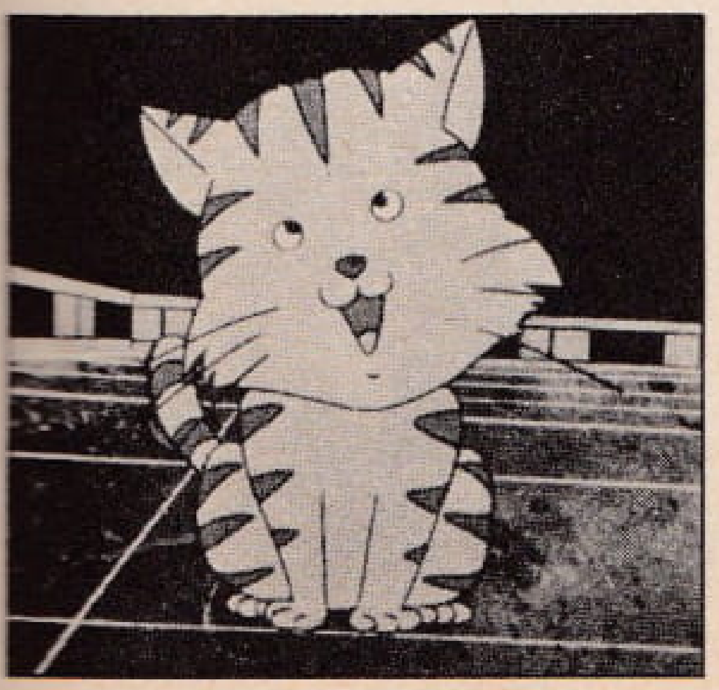


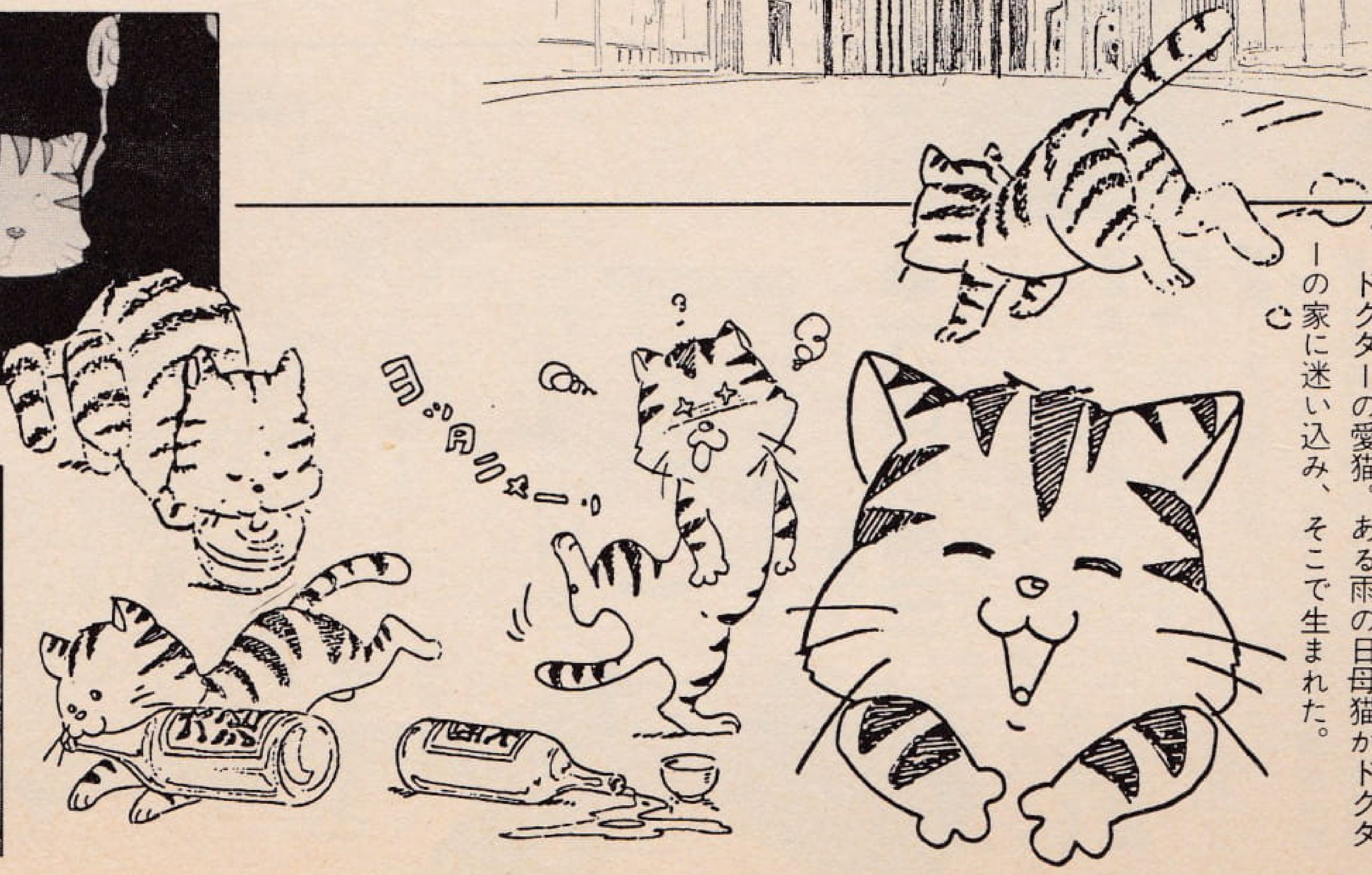


ミーくん

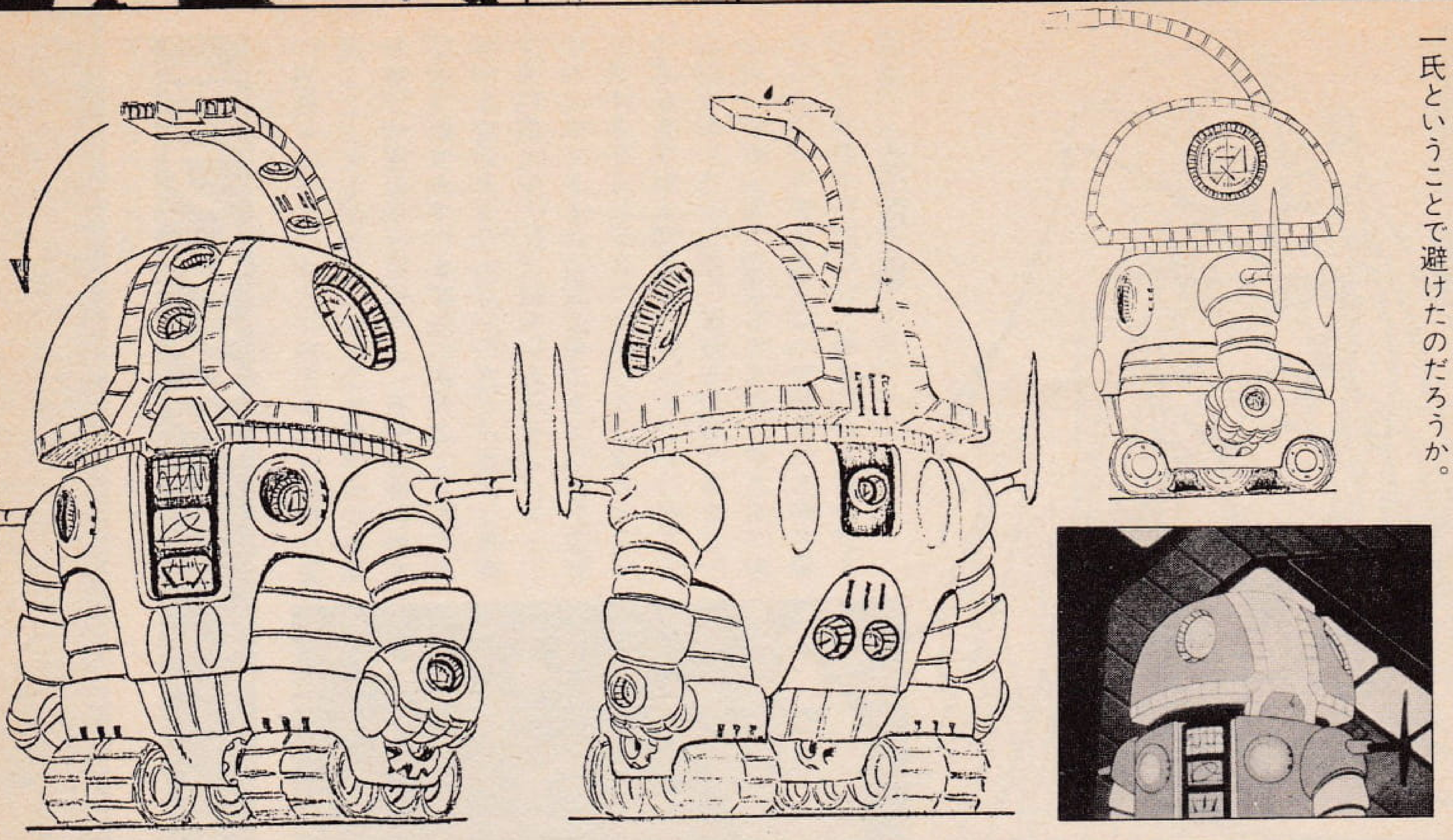
ドクターの愛猫。ある雨の日母猫がドクターの家に迷い込み、そこで生まれた。





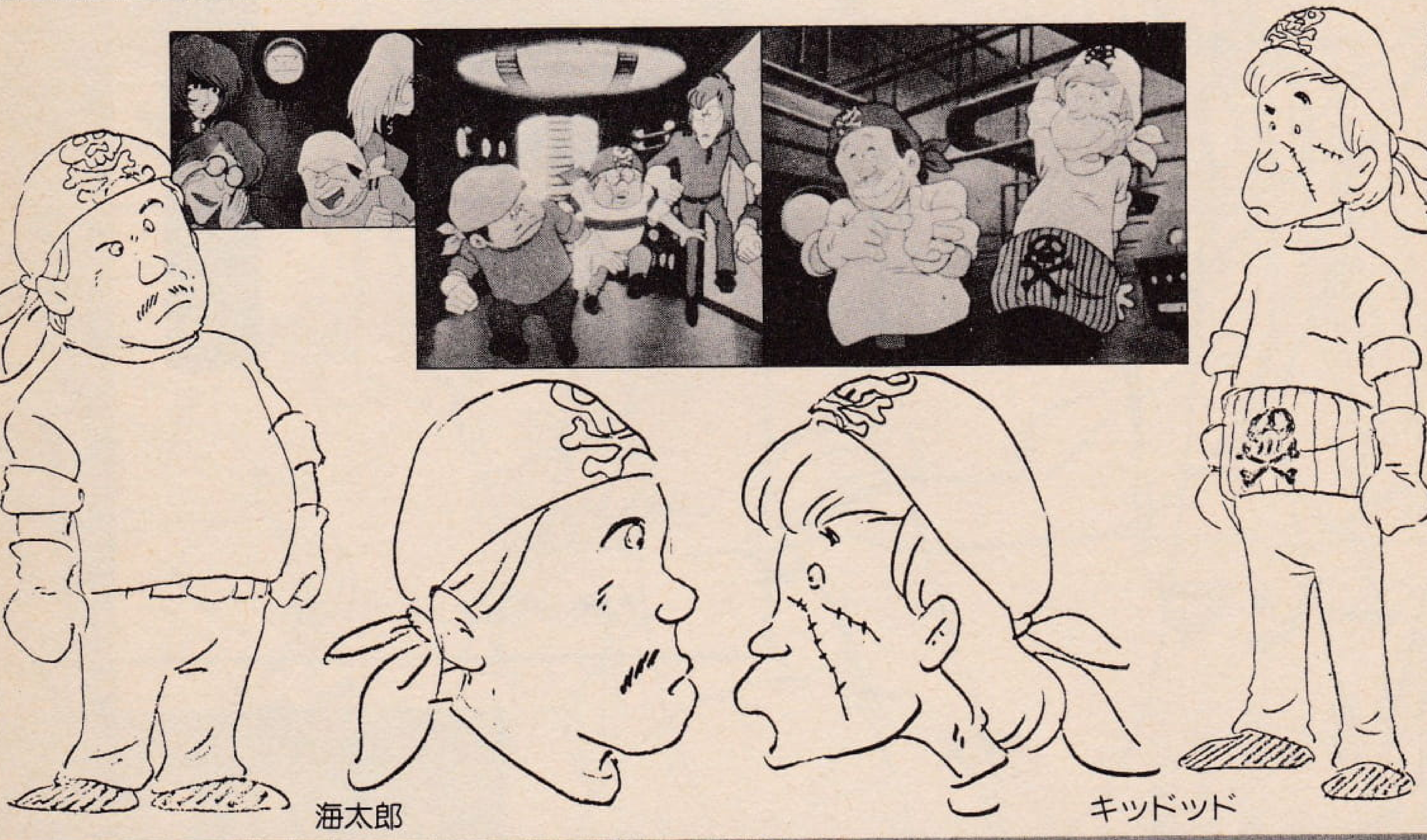


ロベットワーワー



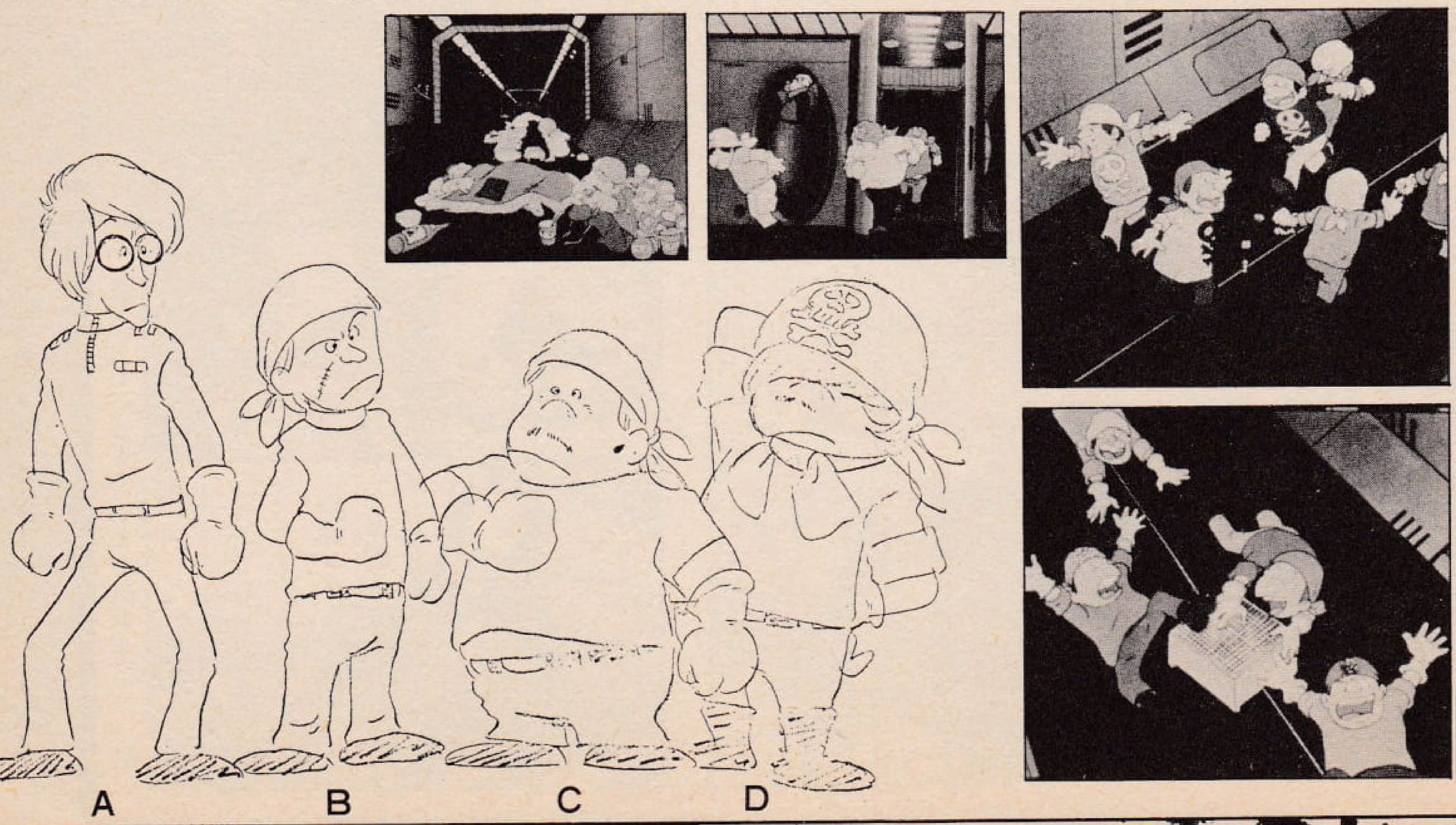
機械の修理改造を行うロボット。人間の言葉がわかり、しゃべることもできる。ほとんど登場しなかったキャラクター(?_)。ヤマトのアナライザーに似ており、声も同じ緒方賢一氏ということで避けたのだろうか。

キッドッドと海太郎



キッドッドは海賊キッドを先祖にもつ男。海太郎と二人でよく将棋をうっている。こういうキャラクターがいるからこそ、アルカディア内は"四畳半"。松本先生だなぁと思わずにはいられない。

アルカディア号乗組員

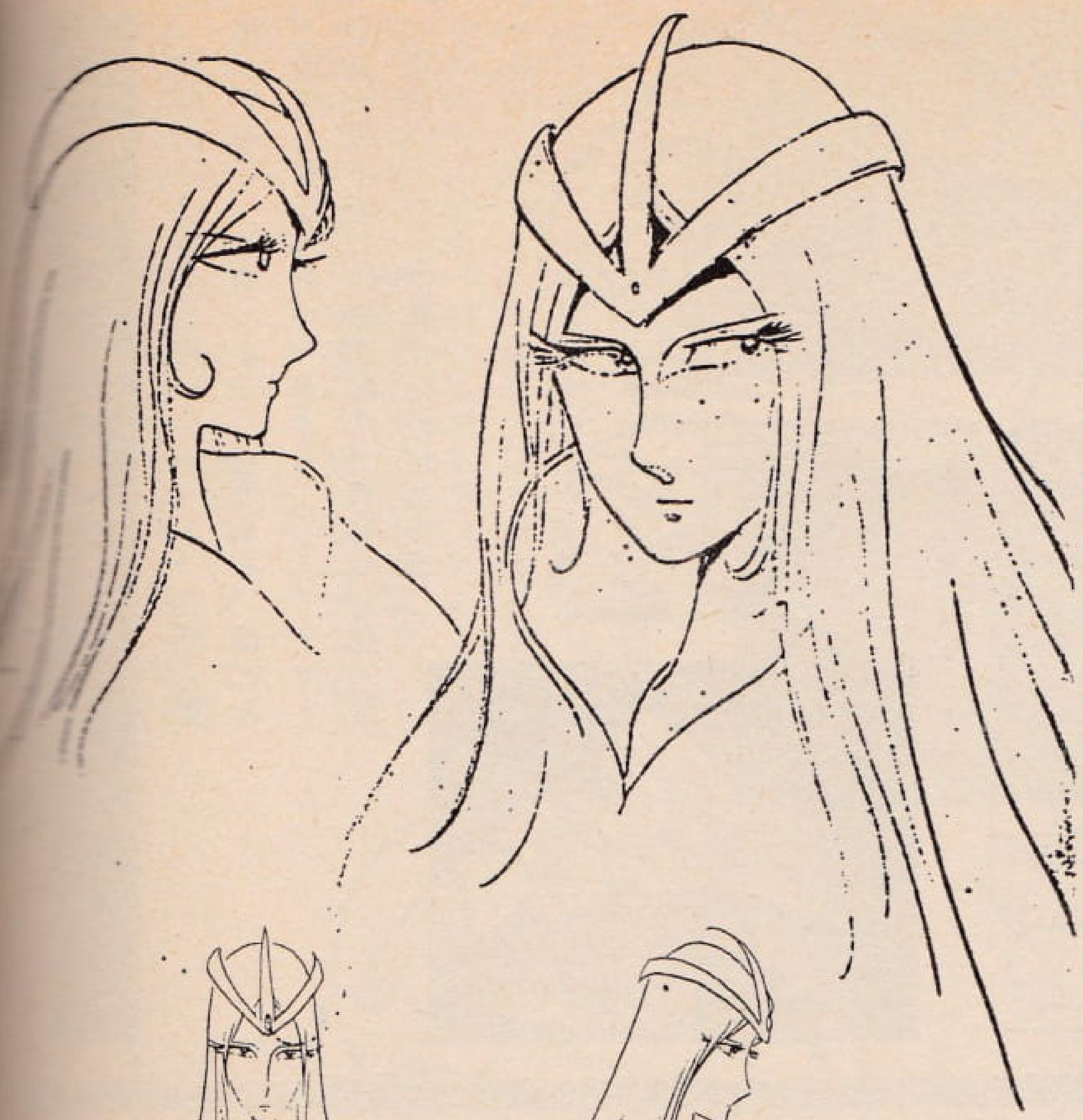


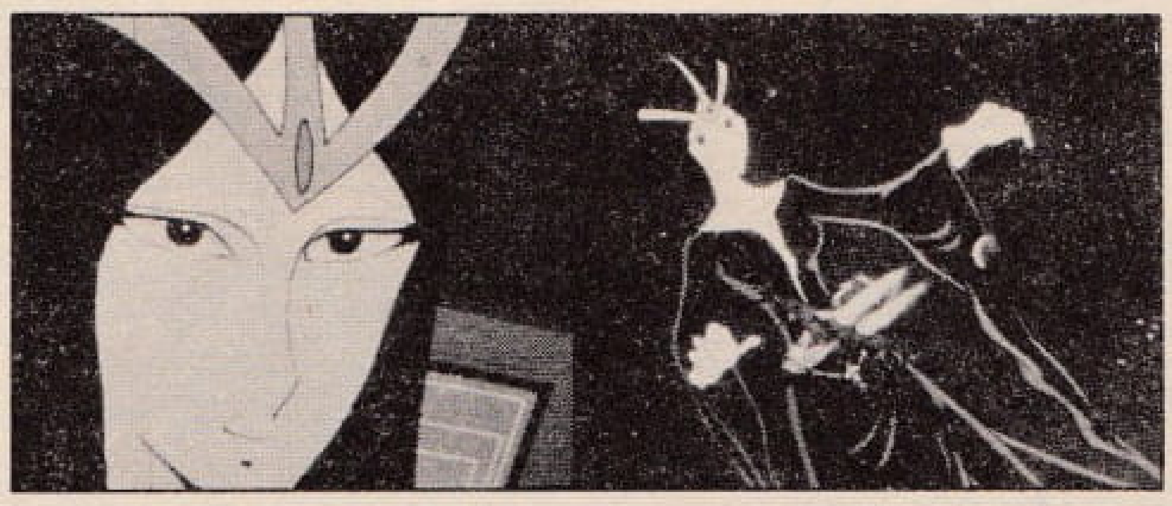
雑然とした艦内をいっそう雑然とさせている人たち。乗組員Aは36話で波野静香に包帯をまいてもらった人。

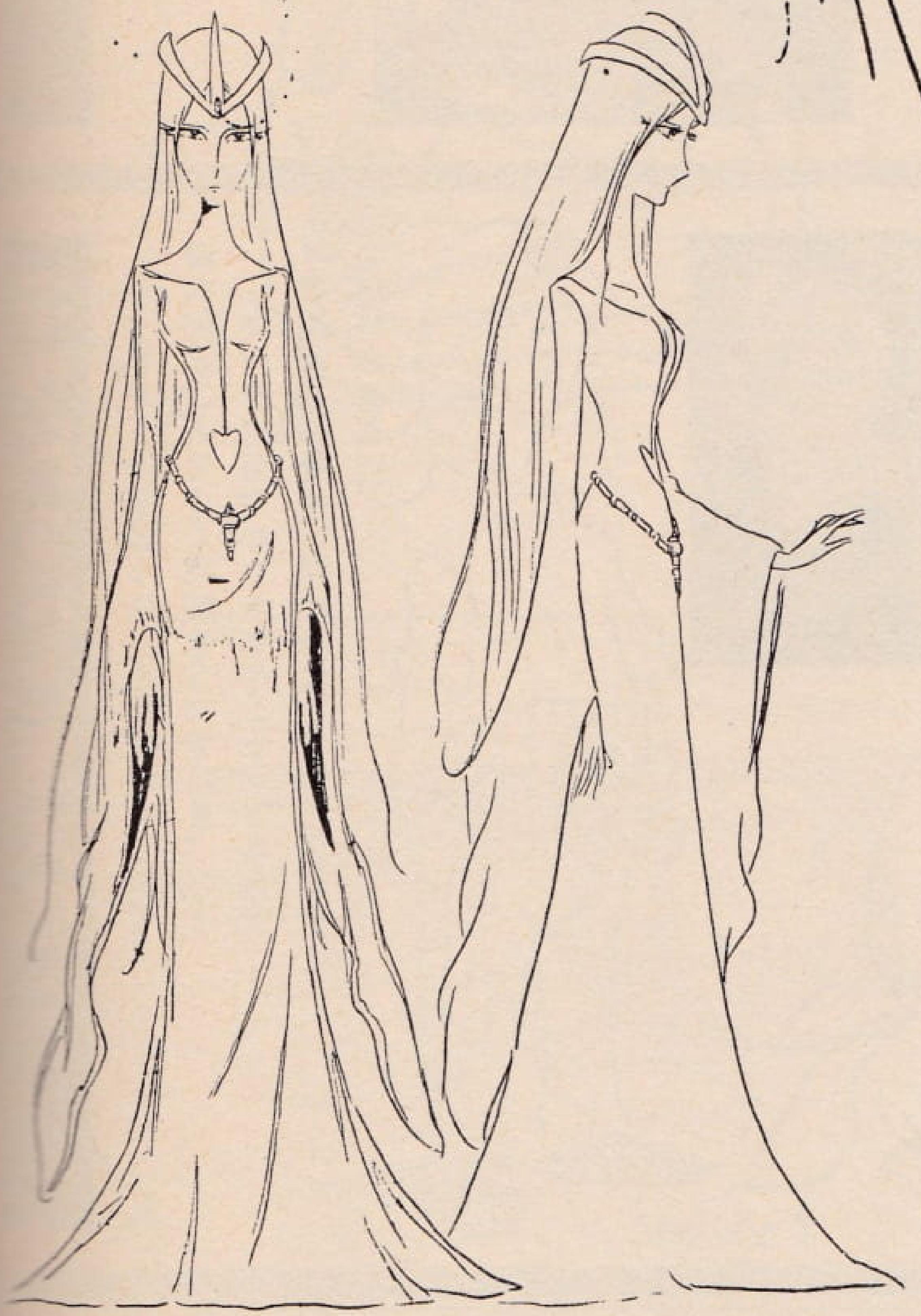
美しき魔性の女たち

ラフレシア

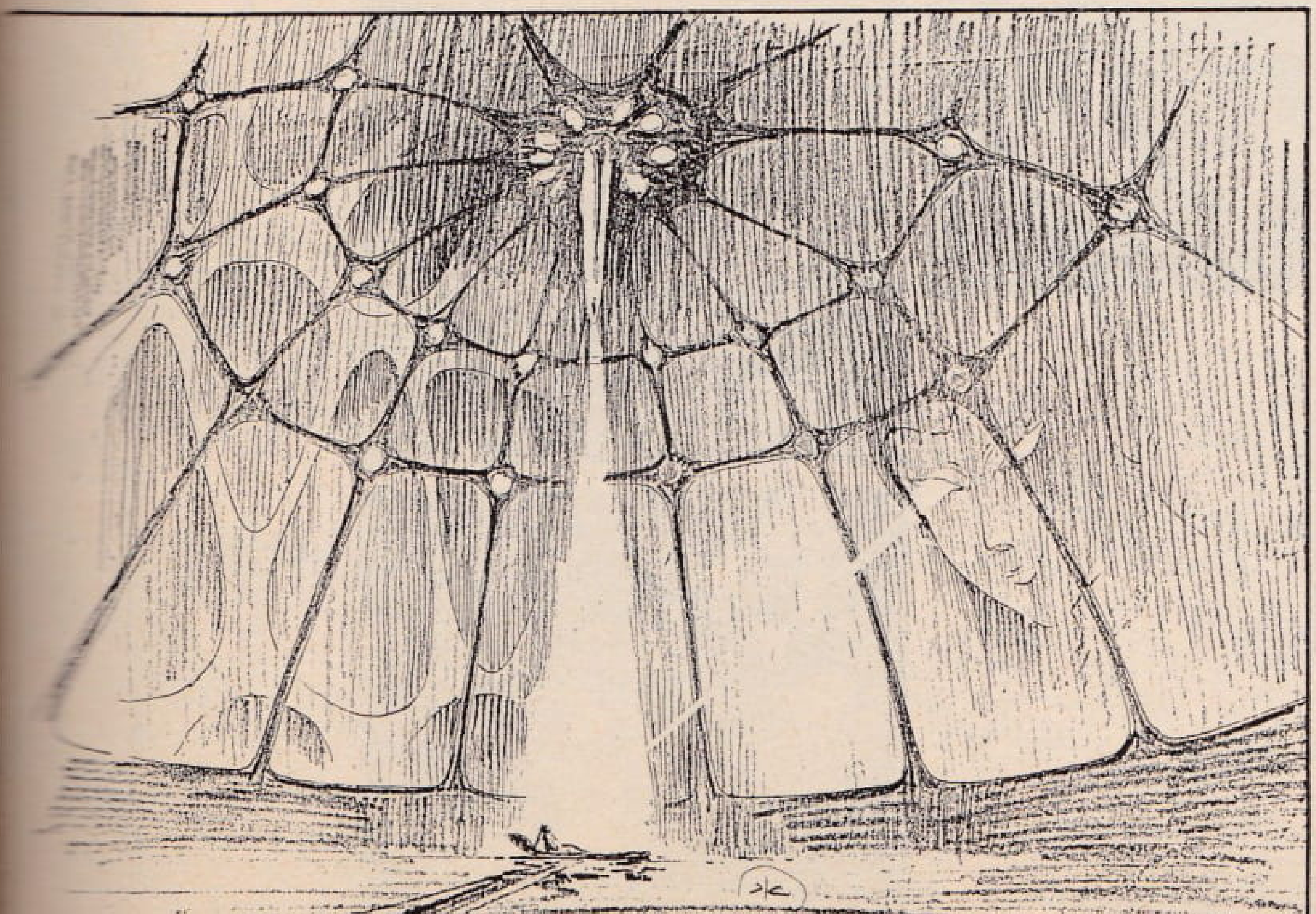
惑星マゾーンの女王。市民を地球へ移住させるため心を鬼にし、血も涙もすて戦いを続ける。女王という立場ゆえ、自分自身のわがままは許されず、まず先に市民のことを考え、行動しなければならないのだ。そういう意味では〝寂しい人〟ではないだろうか。
ハーロックとの決闘で傷つき、〝赤い血〟を流すあたりはかなりショッキングだった。ラフレシアは人間？
敵とはいえ、〝悪〟ではないのである。ハーロックが〝自分の信じるもの〟のために戦っているのなら、彼女は〝一族〟のために戦っているのだから……。ゆえにハーロックよりもラフレシアを支持するファンもいた。

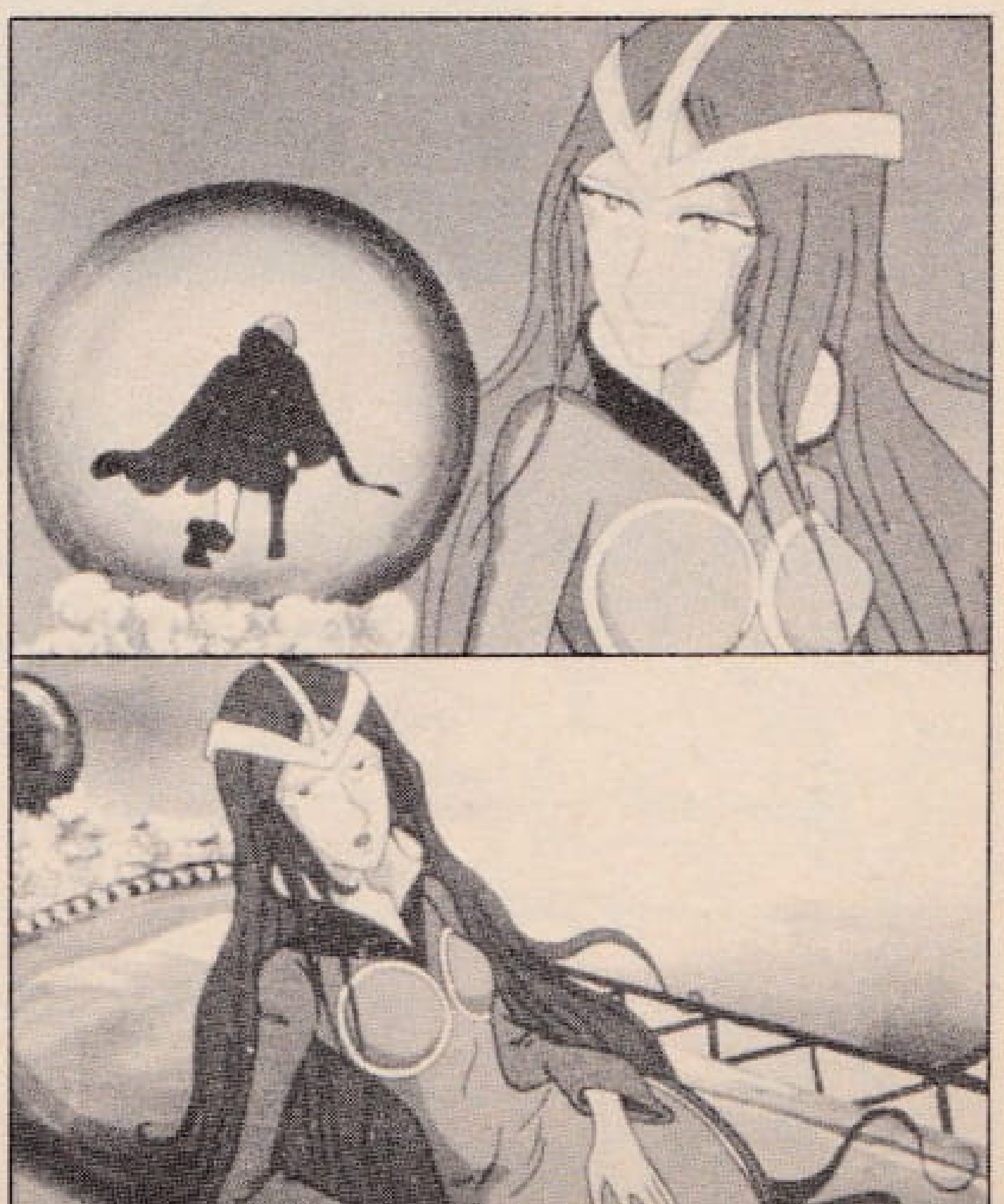












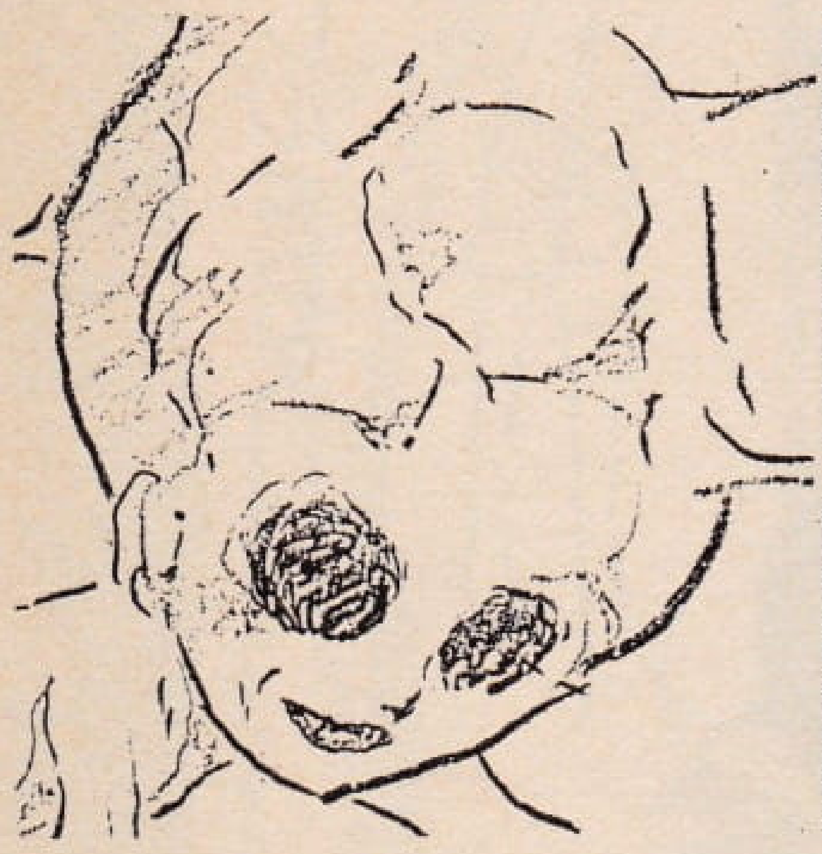


■声・北浜晴子■

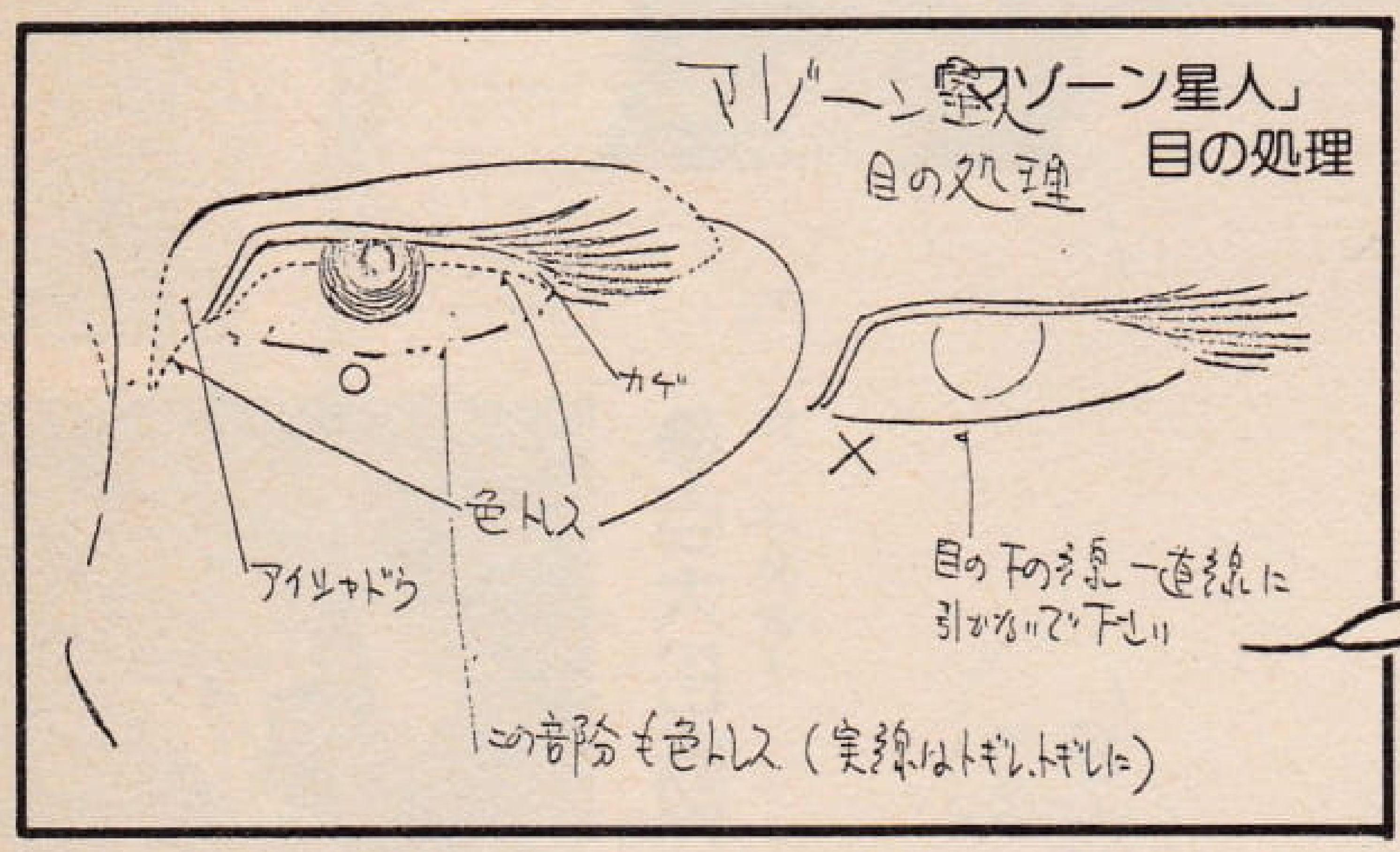
ワルっていう役はひとつのパターンでできちゃうのね。でもラフレシアは単なる悪ではなく、ラフレシアにはラフレシアとしての生き方がある。そこを一番出したかったです。

私自身、彼女が自分の我欲のために悪を及ぼしているんじゃないってところがたいへん気に入ってました。女王としての立場上、市民を守るため、血も涙も、自分さえもすてて戦わねばならなかった…。だからああいった状況におかれなければ、心やさしい、豊かな人物だったんじゃないかしら。ハーロックに対しても、もし立場があぁじゃなかったらきっと彼を尊敬してたと思いますよ。実は〝愛してはいけないのに愛してしまった〟みたいな部分で感じてたんです。

あの赤い血―。あれはハーロックにはそう見えたんだと解釈したの。ちがうかしら？（笑）。それはハーロックがラフレシアに触れ合う部分てものを見つけたんだと…。とにかくたいへん気に入っているキャラクターです。





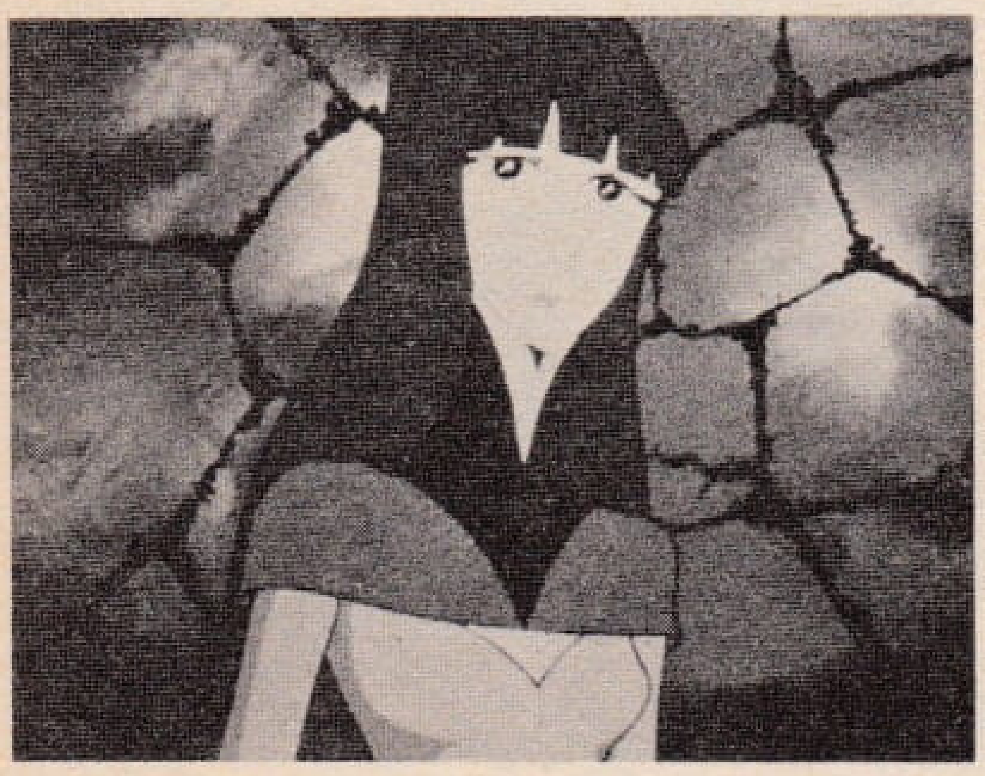


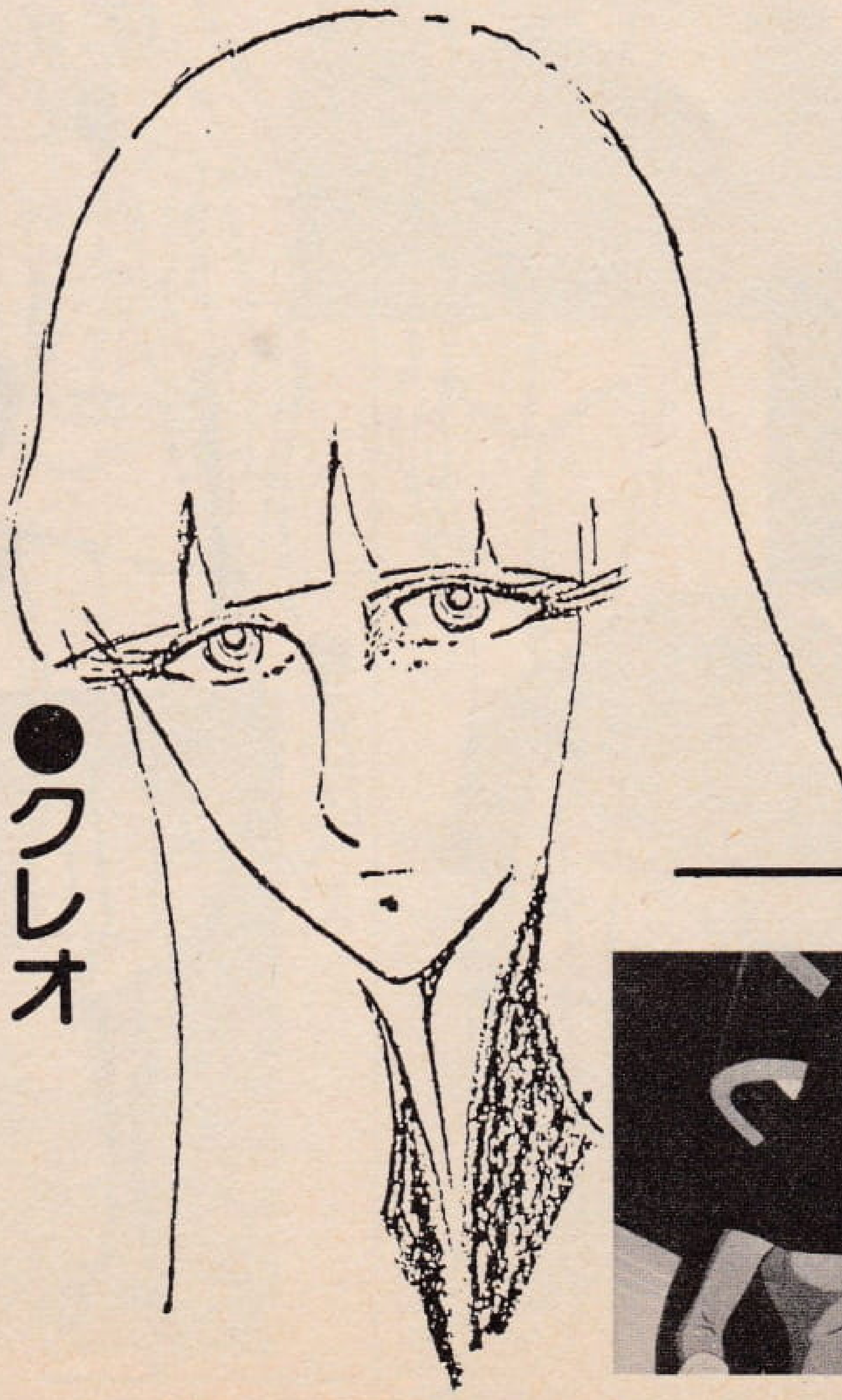
マゾーンとは…

てある。南米、エジプト、東南アジアに文字や遺跡を残しているのが証拠といえ、またその頃から地球に住みついている者も、少数ではあるがいる。彼らは地球を〝第2の故郷〟と呼んでいるのだ。

樹液から生まれ、植物生命体反応をもつ。女性の姿をしているのは、雌雄同体のため男性が不用だからである。死ぬ時は紙のように燃える。

マゾーン惑星が超新星の中にのみこまれて消えてしまったため、女王ラフレシアは彼ら一族を率いて地球へ移住を開始する。途中、多くの惑星を征服し戦力をふやしながら。





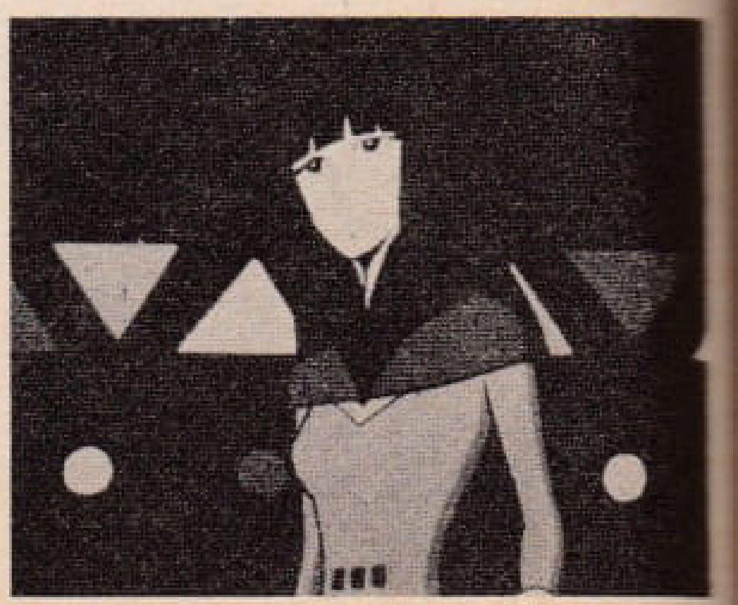
●クレオ

女王ラフレシアの優秀な右腕。時にはラフレシアに意見することもあり、参謀的な役割も持つ。後半になって登場するのだが、これはマゾーンという〝組織〟をより明確にし、ラフレシアの〝女王〟としての位置づけをよりはっきりさせたかったためだろうか。

■声・坪井章子■

最初チラッとやさしさを見せるけど、姿、形まるでクールでね、パキパキッと竹を割ったような動作をするでしょ、なんか宝塚の男役みたいなイメージがある役でしたね。



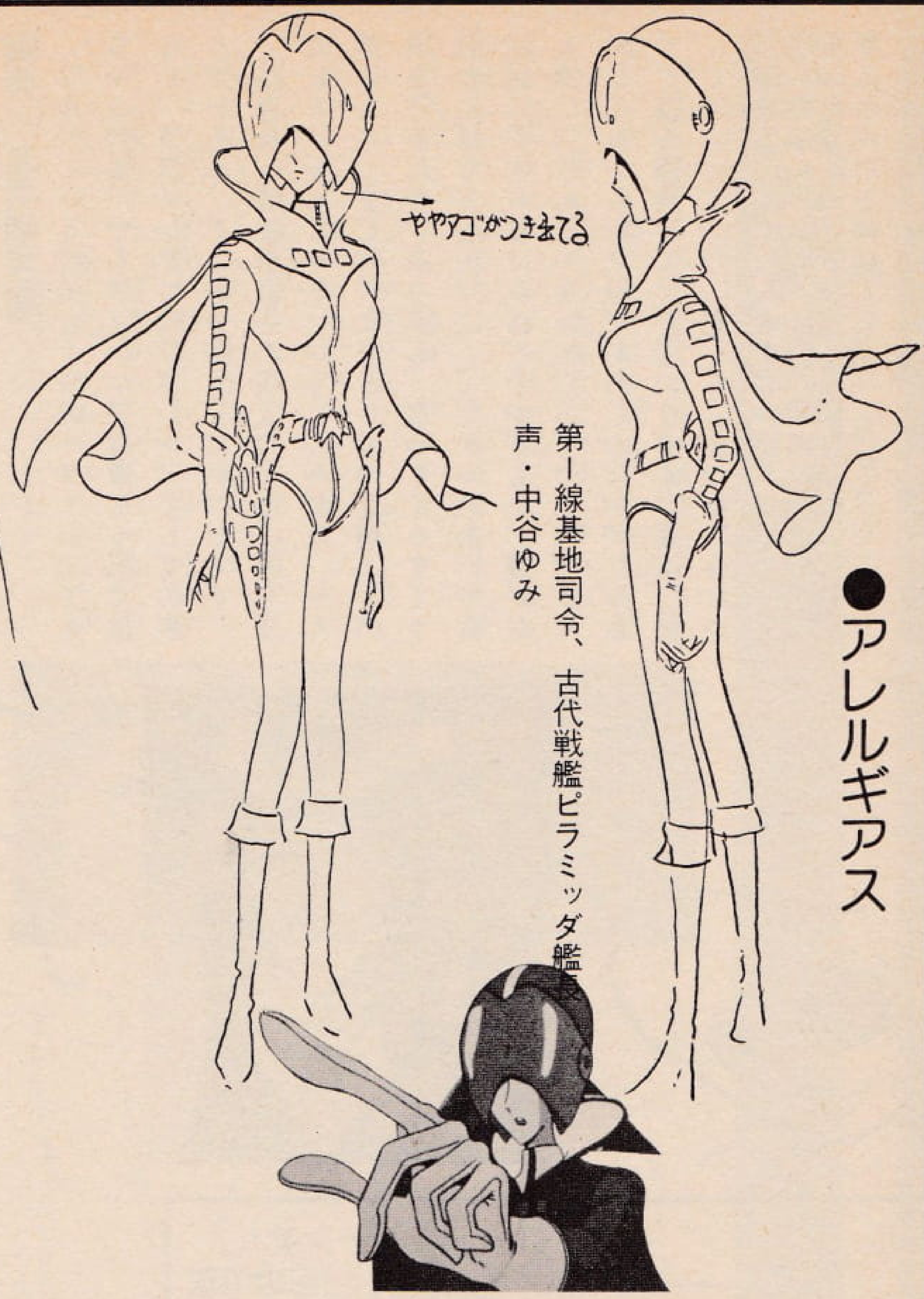


女戦士・マゾーン

●アレルギアス

第1線基地司令、古代戦艦ピラミッダ艦長

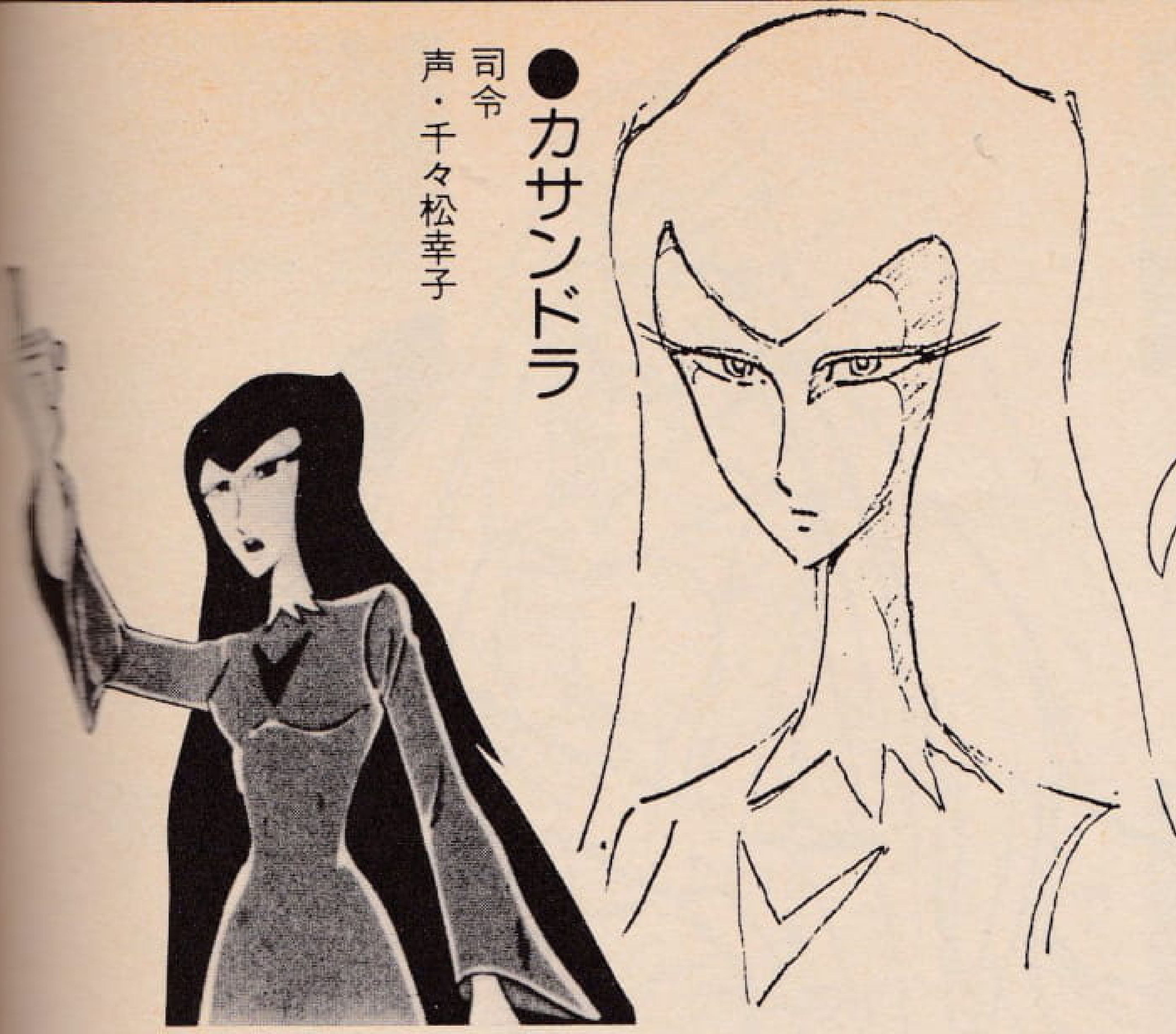
声・中谷ゆみ



●カサンドラ

司令

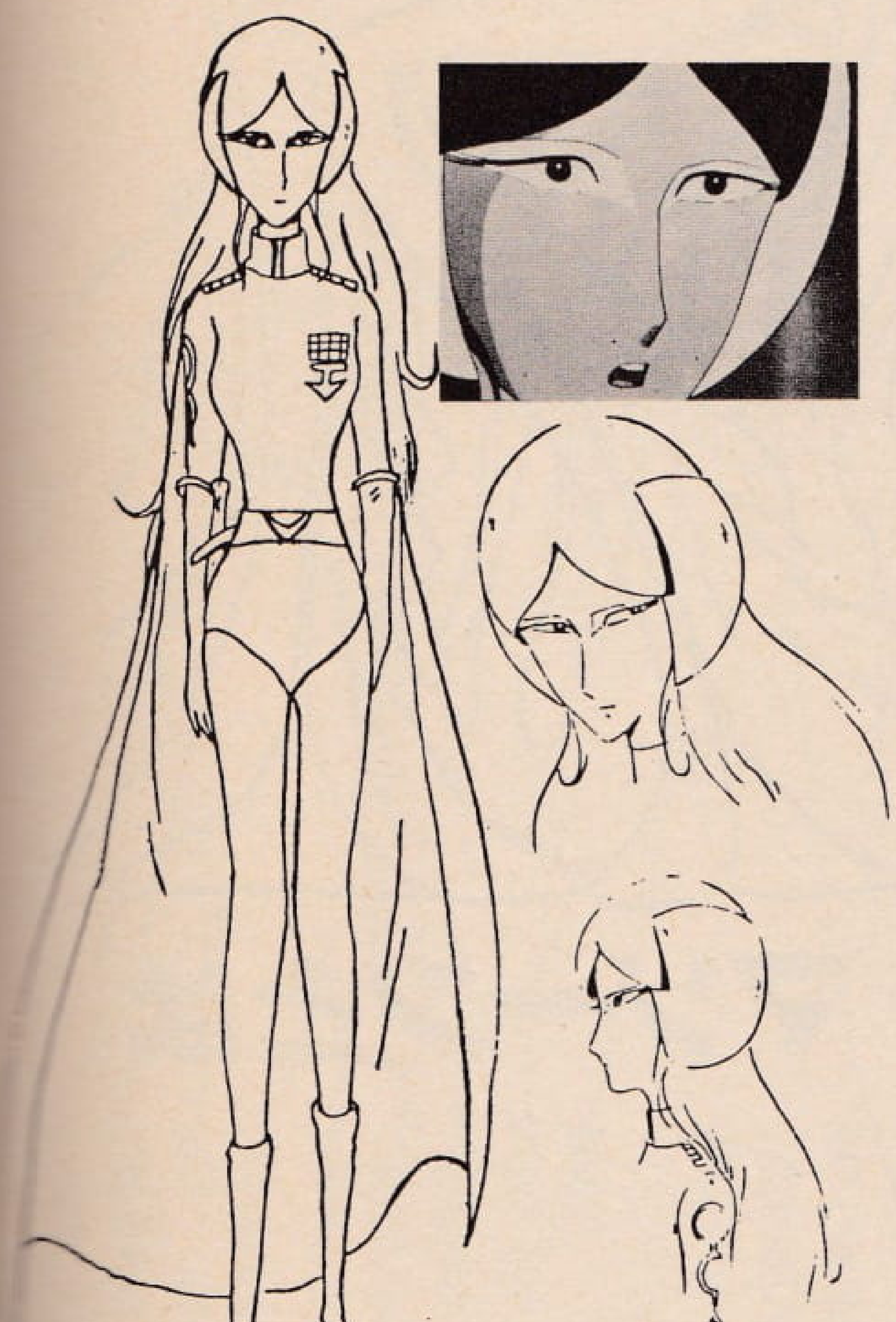
声・千々松幸子



●ヒステリアス

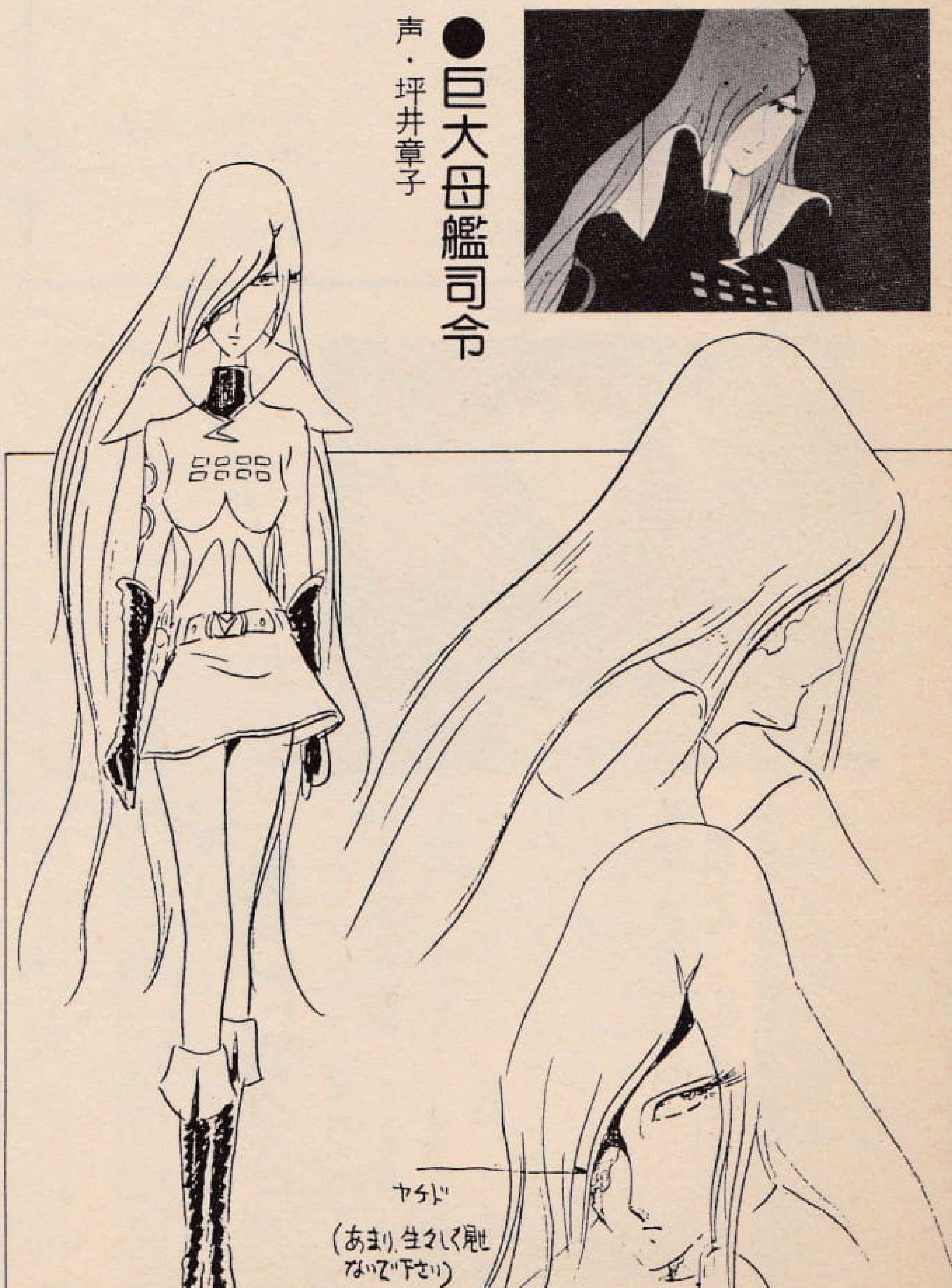
銀河系永久基地団　第7艦隊司令

声・中谷ゆみ



●巨大母艦司令

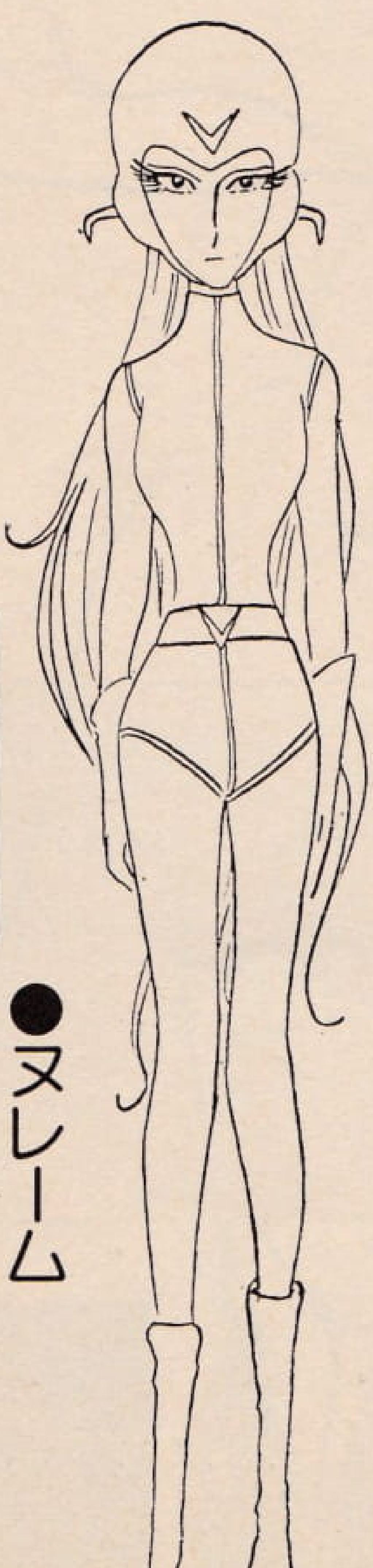
声・坪井章子

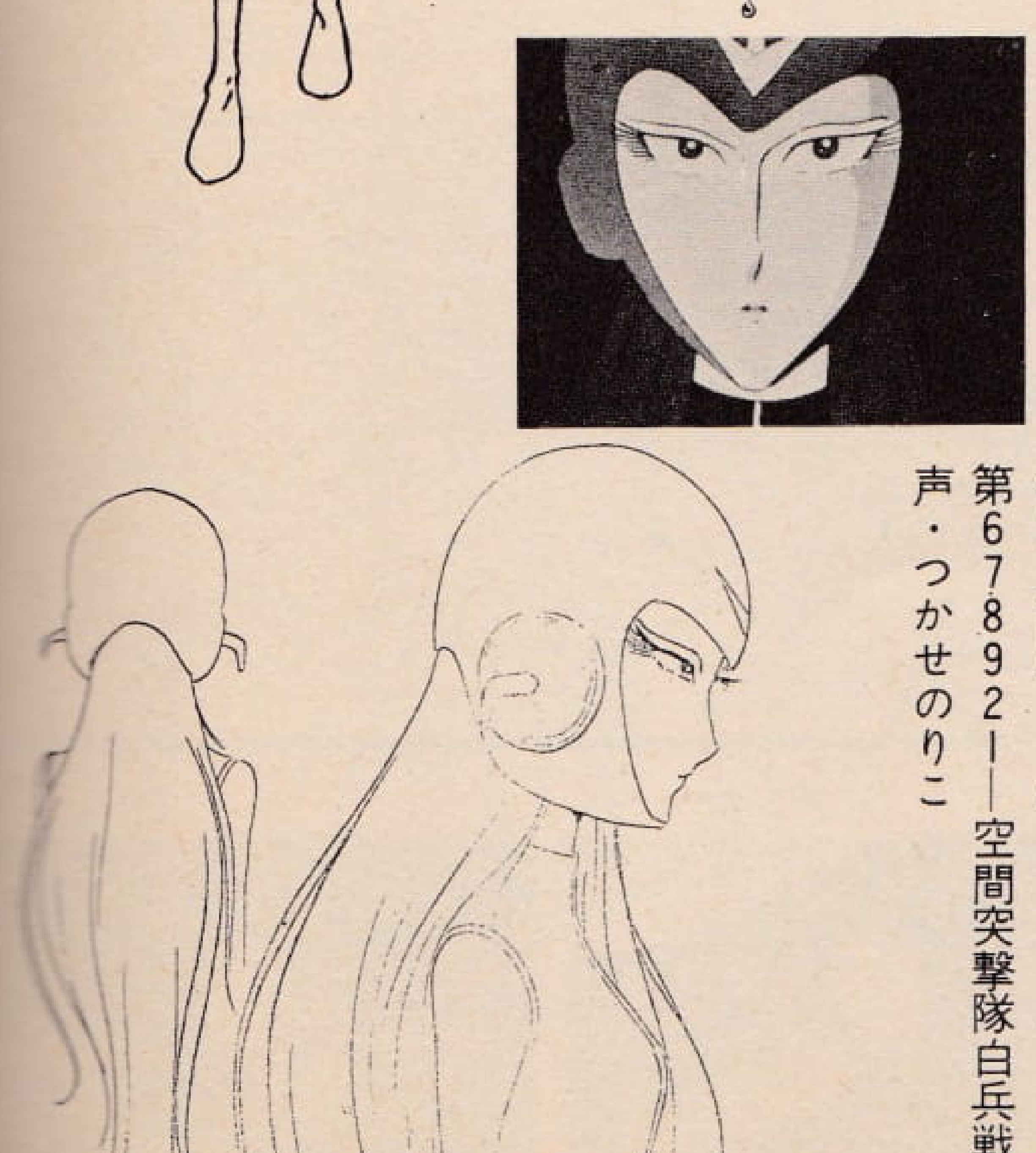


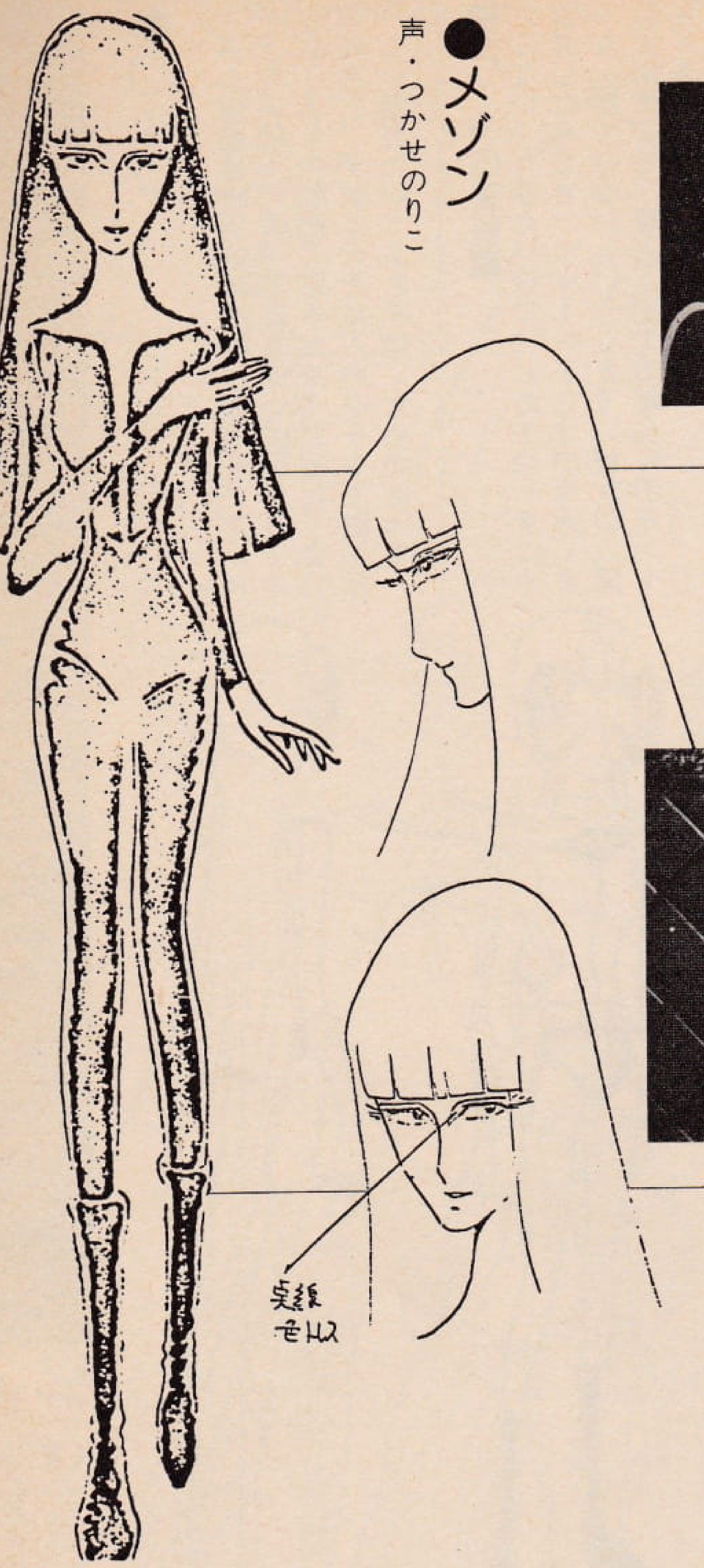
●ヌレーム

第678921―空間突撃隊白兵戦指揮官

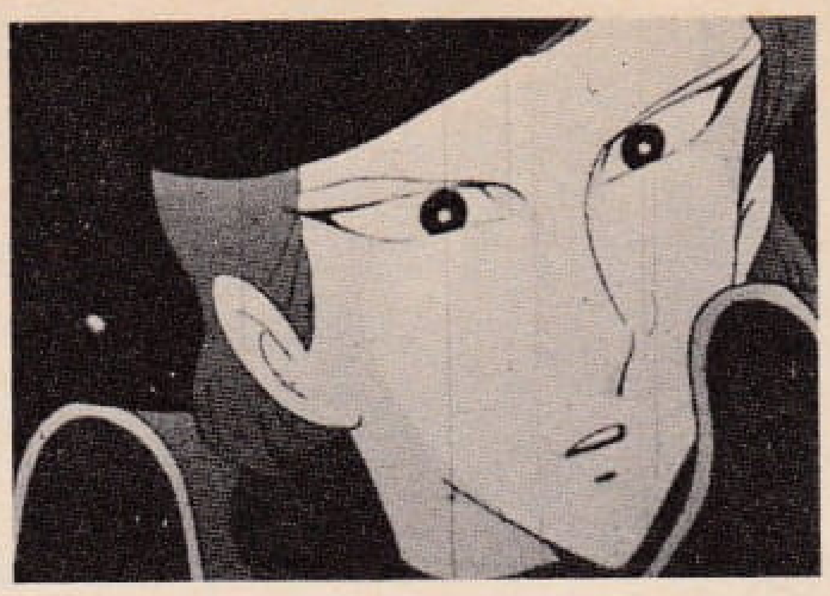
声・つかせのりこ

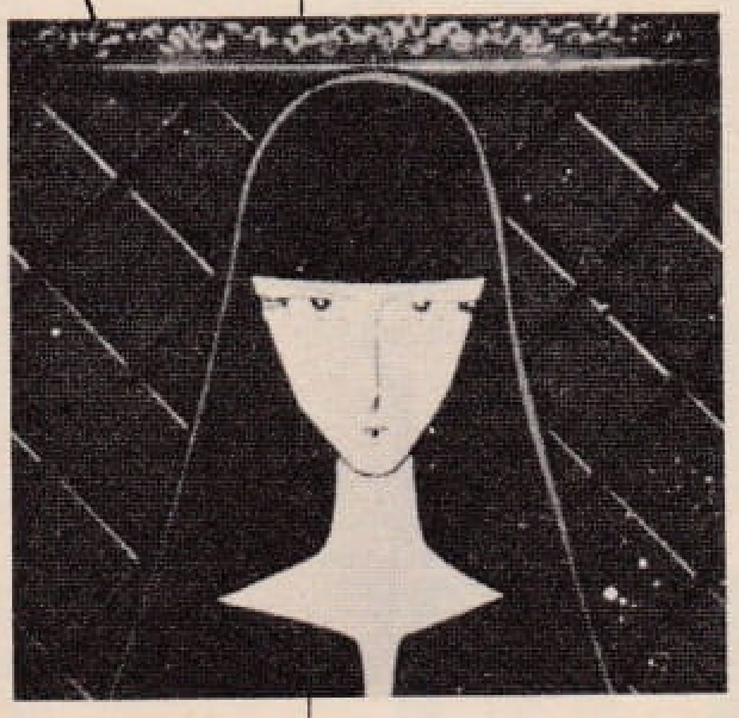




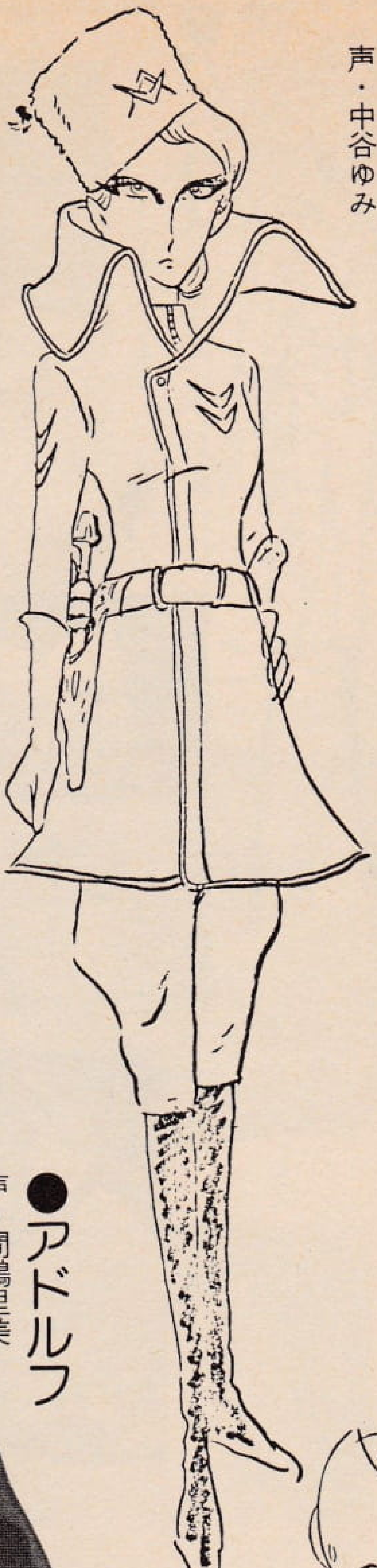


●メゾン
声・つかせのりこ





●警備隊長
声・中谷ゆみ

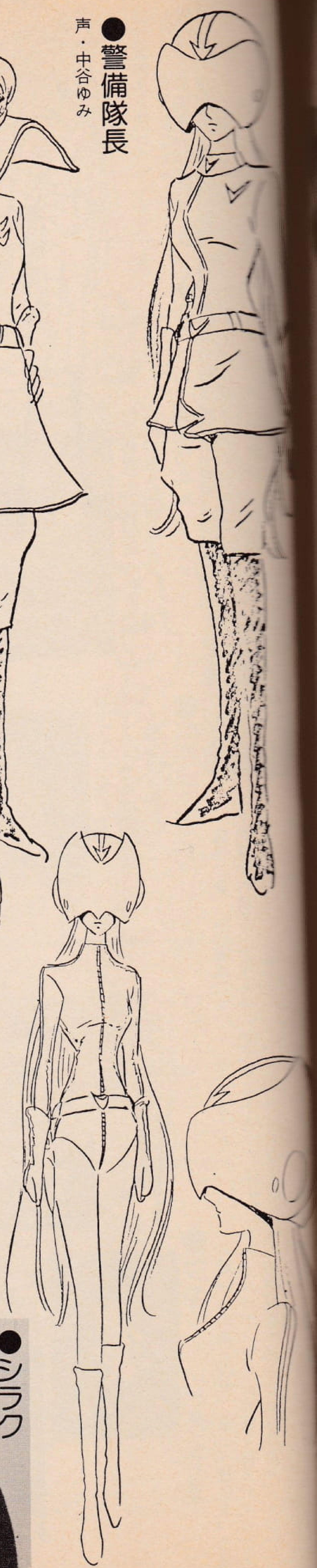


●アドルフ
声・間嶋里美



●ツインシスター
声・小原乃梨子、つかせのりこ





■声・中谷ゆみ■
〝戦士〟といった感じのマゾーンを何役かやらせていただいたんです。どれも冷静で男まさりな役。全く人間ではない、ロボットみたいな感じでしたね。

●アキアス
ゾネス艦長
声・中谷ゆみ



●シラク
声・小山まみ



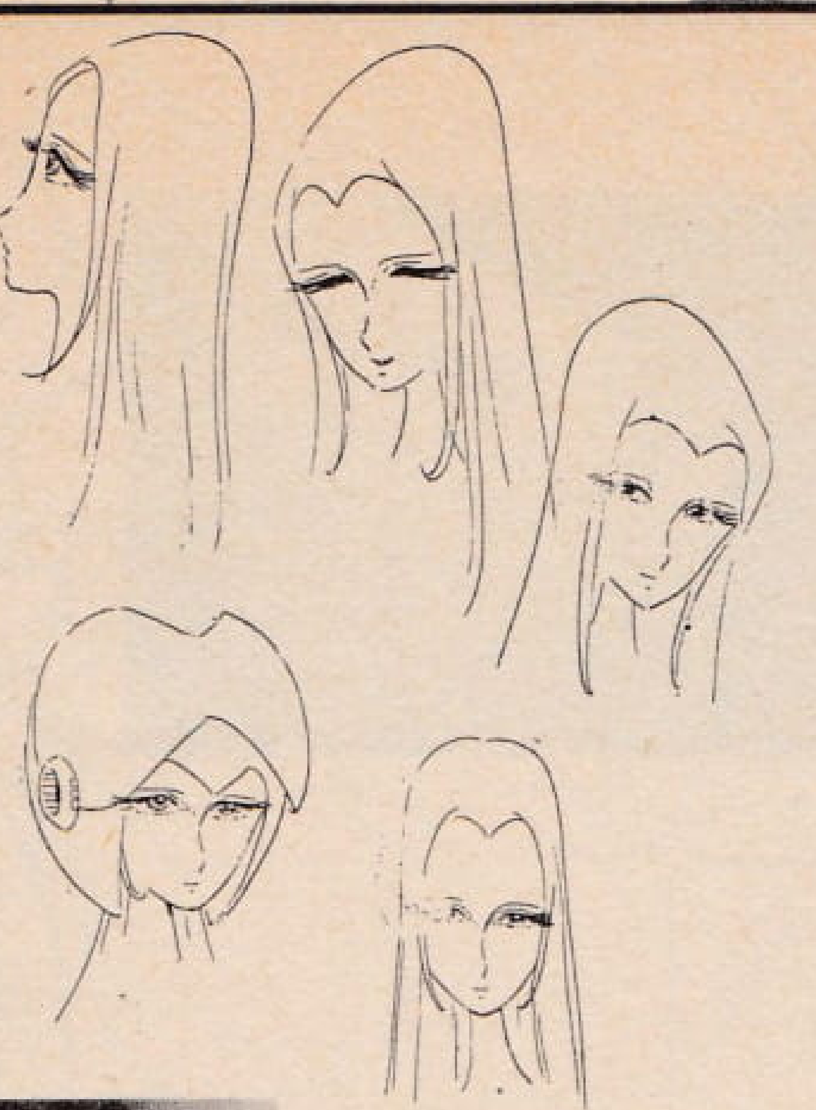
心の弱みにつけこむマゾーン

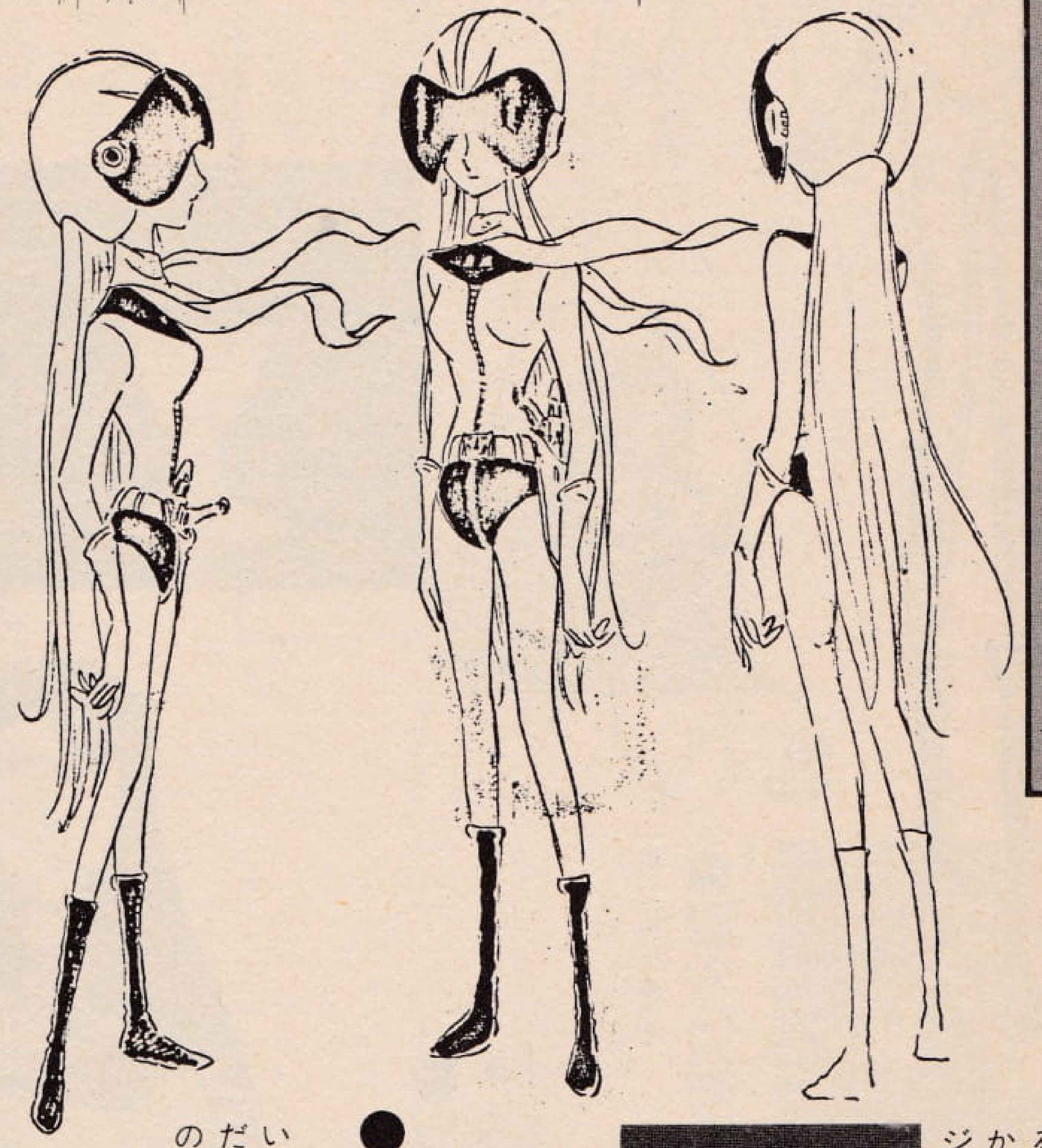
●ローラ

第1線基地特別攻撃宇宙艇隊隊長でアレルギアスの配下。母の幻影を使い台羽からアルカディア号の秘密を聞き出そうとした。台羽の成長と、マゾーンとは人の心をもて遊ぶ恐ろしい敵だということを描くためのキャラ。

■声・小山茉美■

こういった冷たい役ははじめてで、すごく苦労したんです。マゾーンというのはあくまでも人間ではないということで、彼女の人間的な部分より、軍人としての部分にポイントをおきました。





●パトラス（ミドリ）

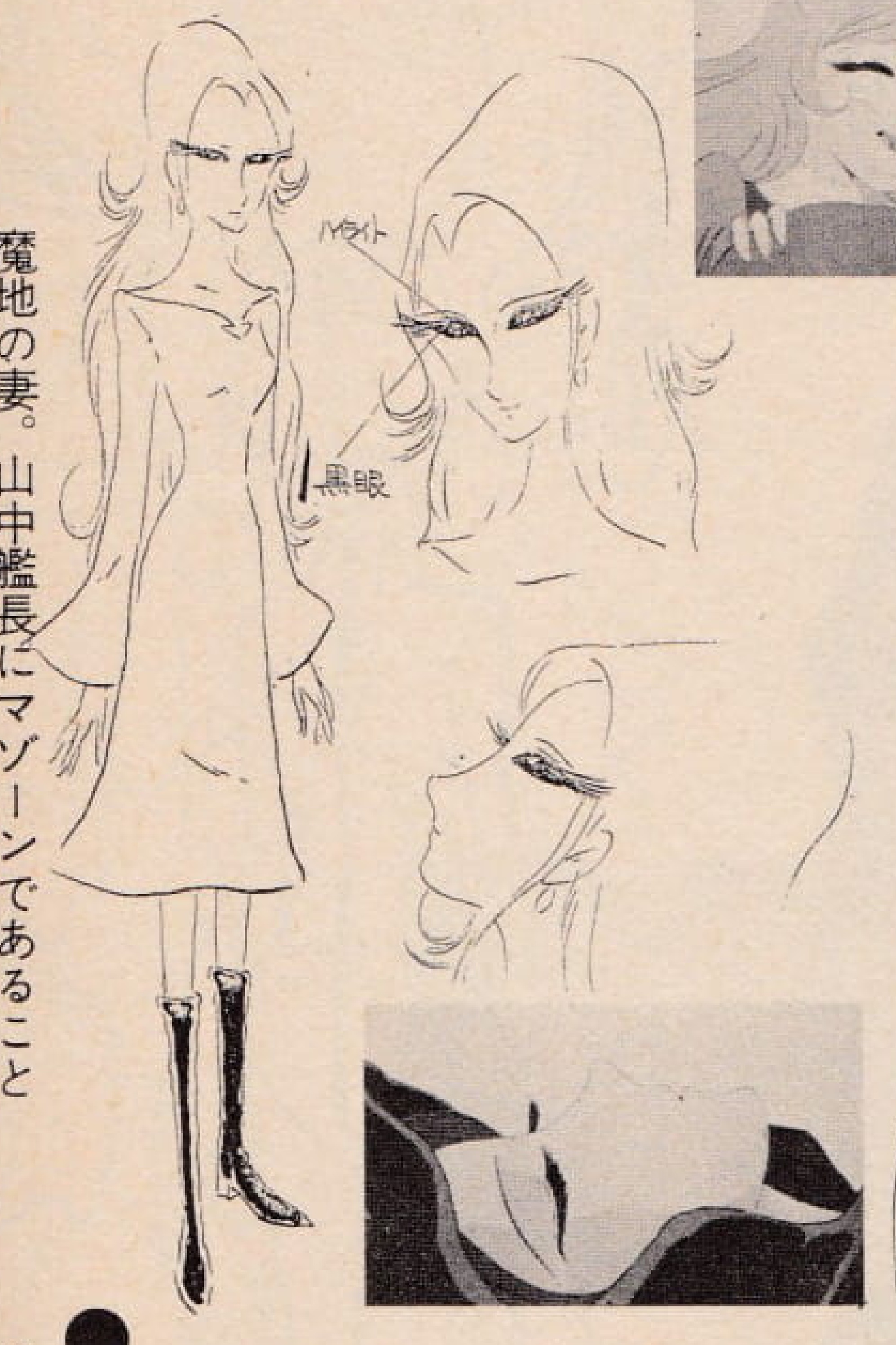
声・麻上洋子

魔地はミドリのことを娘だと信じて疑わなかったが、実は彼女はマゾーンだった。プレヤデス星団基地指揮官パトラスとなりアルカディア号の42人目の乗り組員を探りに来る。最後、魔地自らの手によって殺される。









魔地の妻。山中艦長にマゾーンであることを見抜かれ殺そうとするが、逆にやられる。

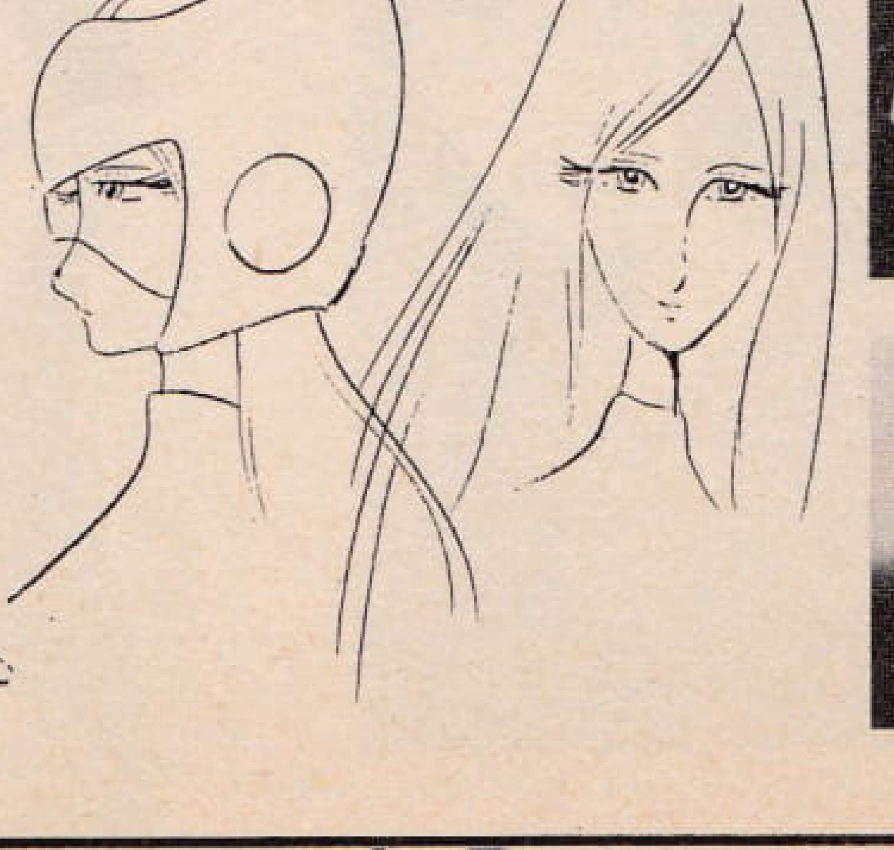
●エルザ

なぜかプラモ狂という、マゾーンには珍しいキャラクター。ヤッタランにプラモの競争だと嘘をつき、アルカディア号を作らせ、その構造を探ろうとする。

声・信沢三恵子







●ジョジベル

声・信沢三恵子

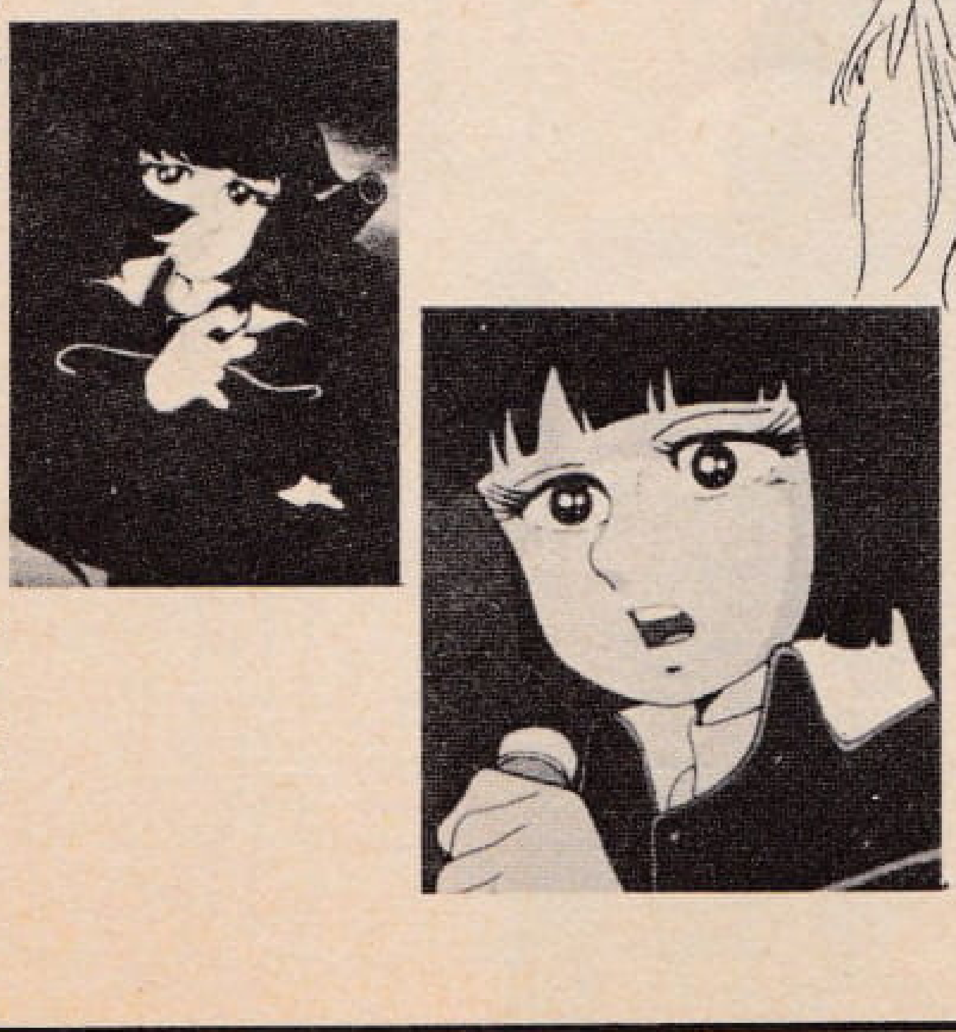
ミーメの親友だったというフーレに似ている。ジュラ星を滅ぼしたのがマゾーンだとわかった時、ミーメはマゾーン司令官としてのジョジベルと戦う。



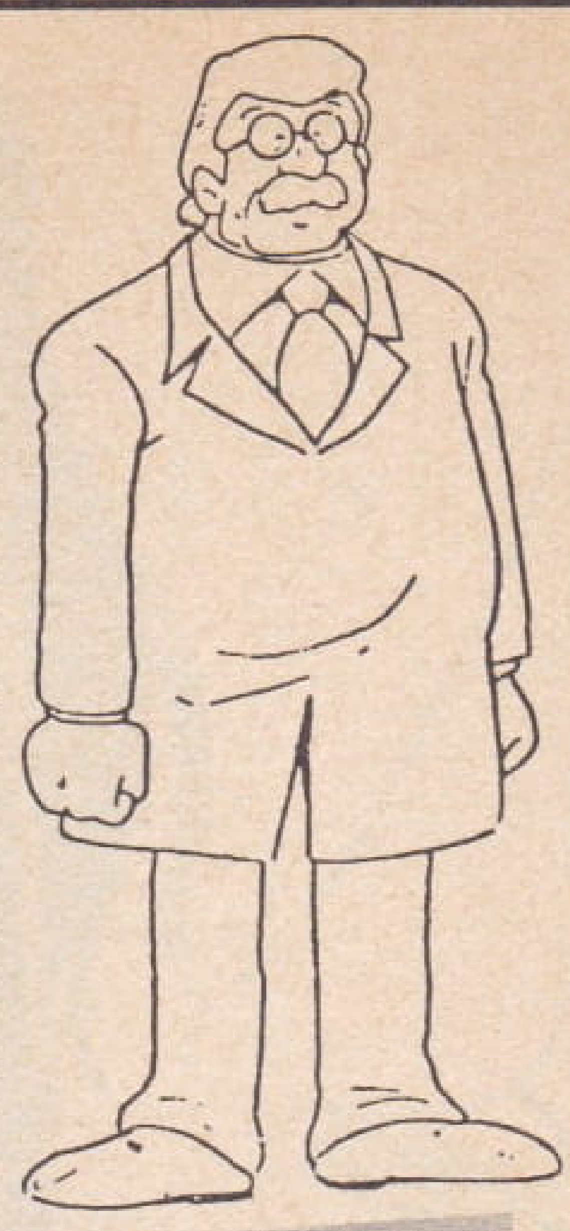
●サキ

声・野村道子

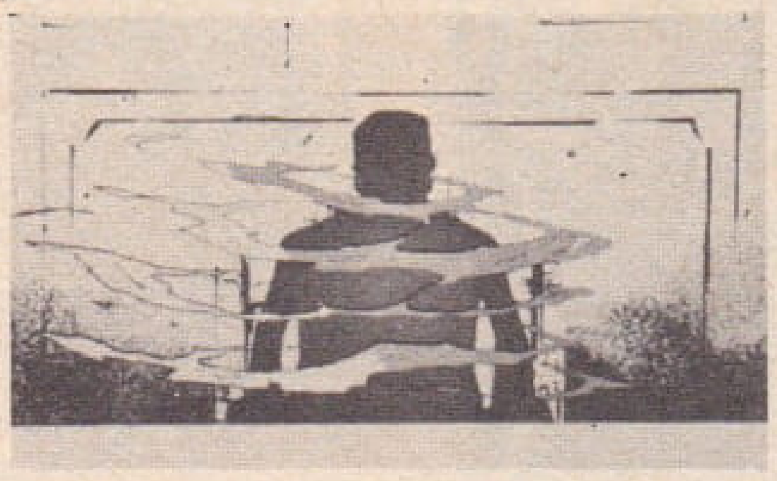
片桐一也の妹と偽り、彼と一緒になって螢からアルカディア号の秘密を聞きだそうとする。不気味さを感じさせる少女マゾーンだった。



こんなところにもマゾーンが!

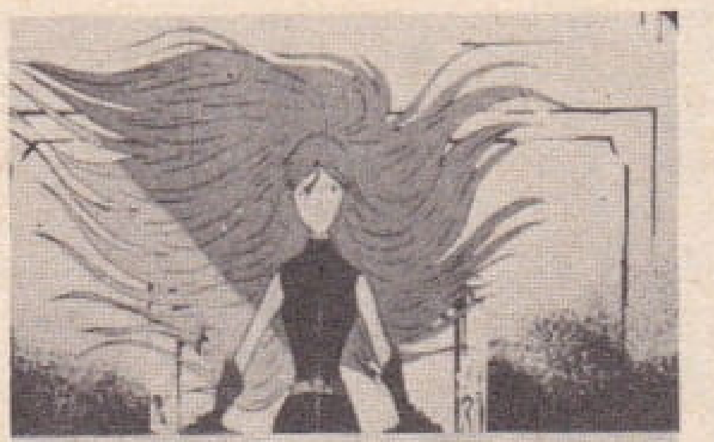






●博物館館長
博物館館長も実はマゾーンだった



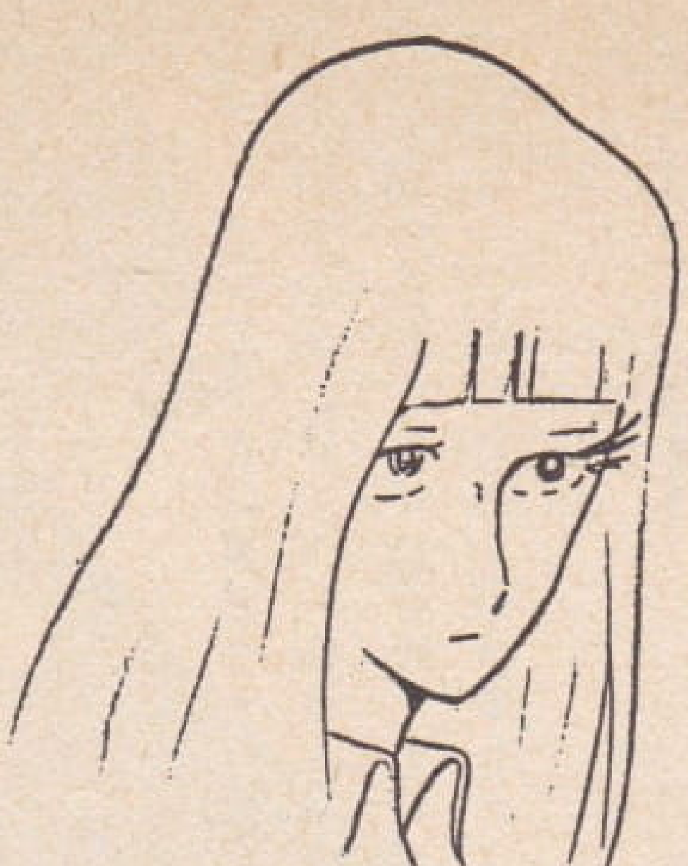


●ミユ 声・つかせのりこ
アイン博士を強迫していた特別工作部隊員



●海底ピラミッドに眠るマゾーン
バミューダ沖の海底ピラミッドに眠っていた



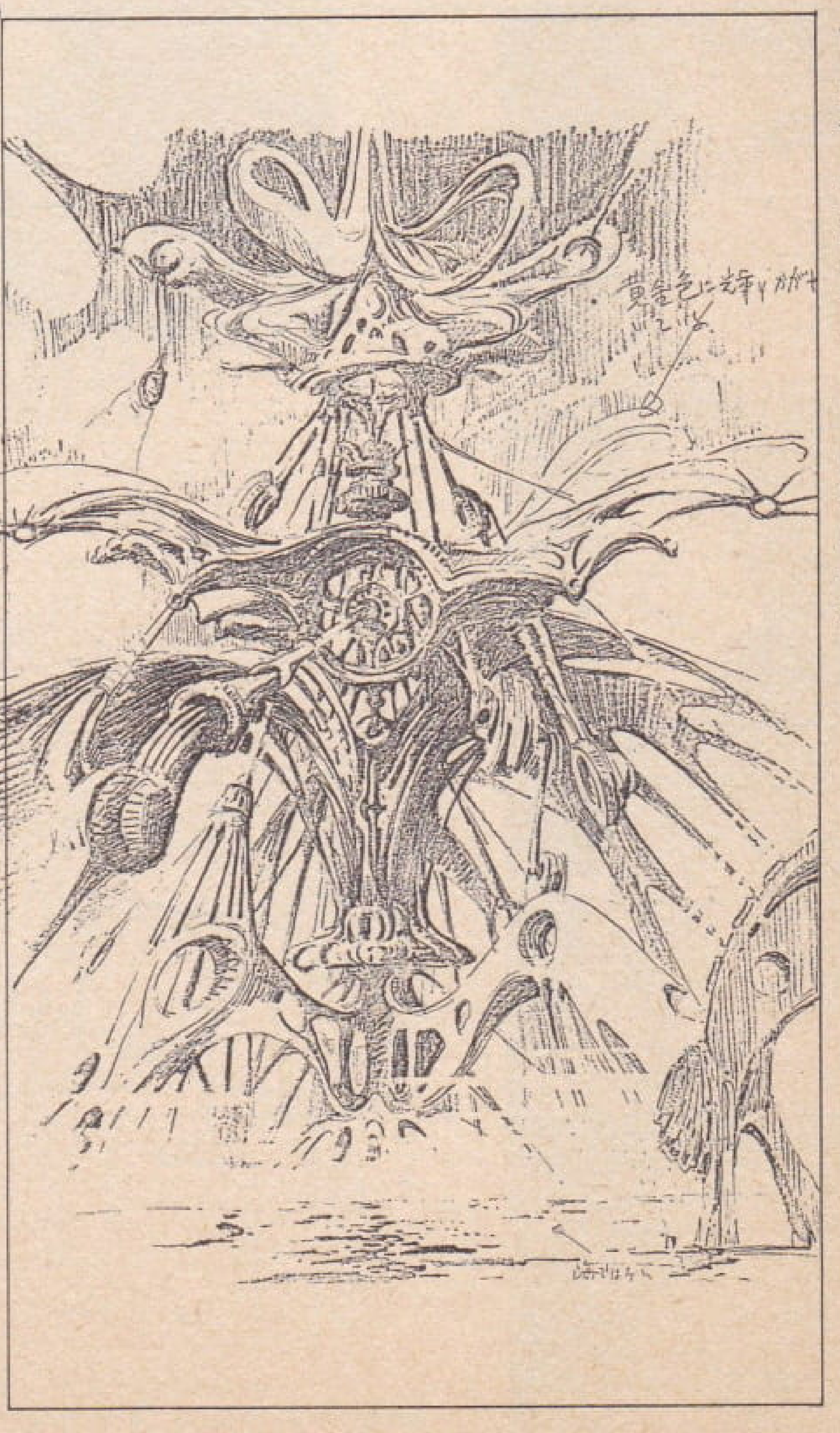




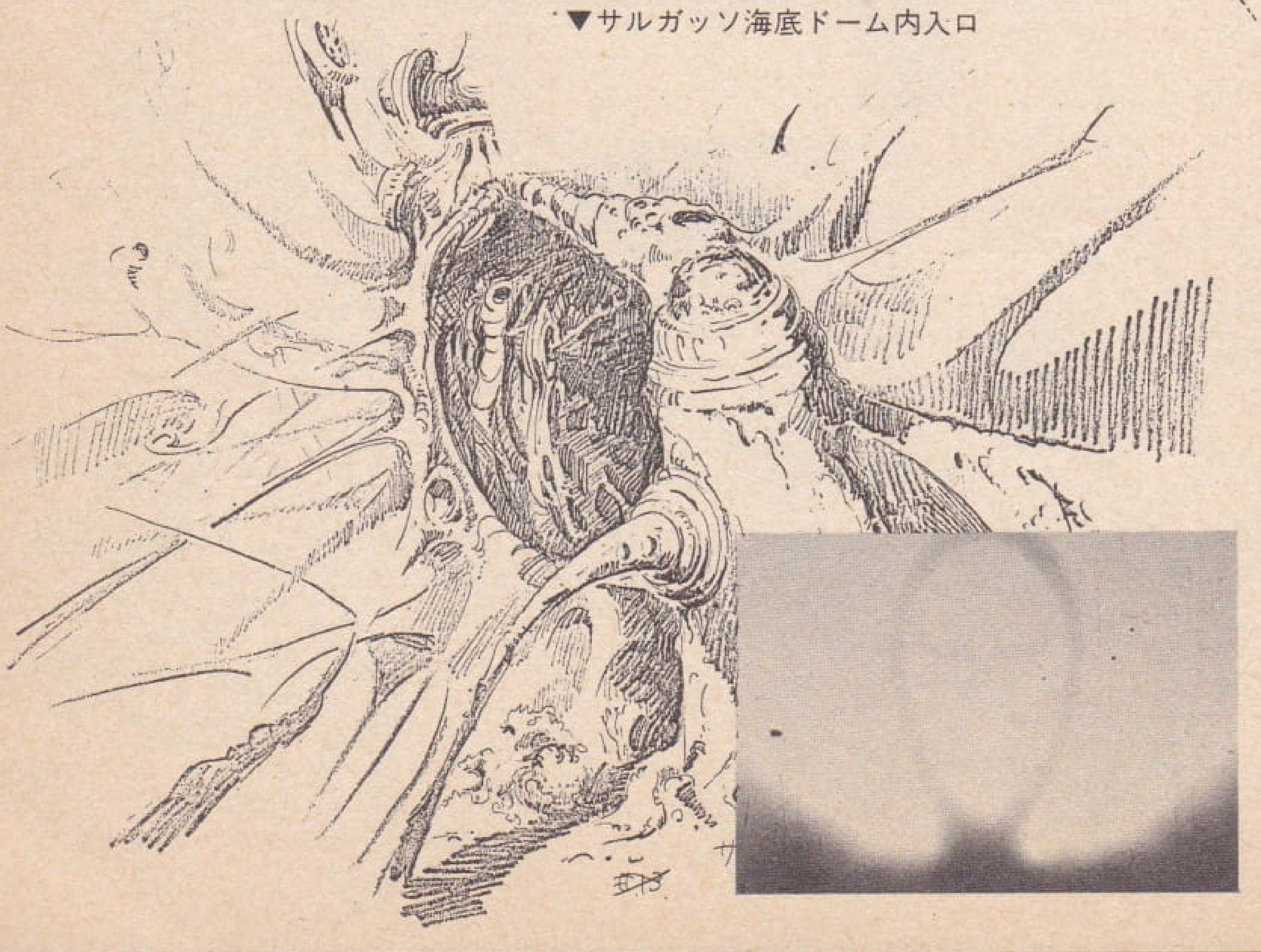
●博物館館長秘書



●樹海のマゾーン
木に擬態していて復活信号で甦る



●魔女アマン 声・坪井章子
サルガッソ海のマゾーンの海底基地にいた



▼サルガッソ海底ドーム内入口

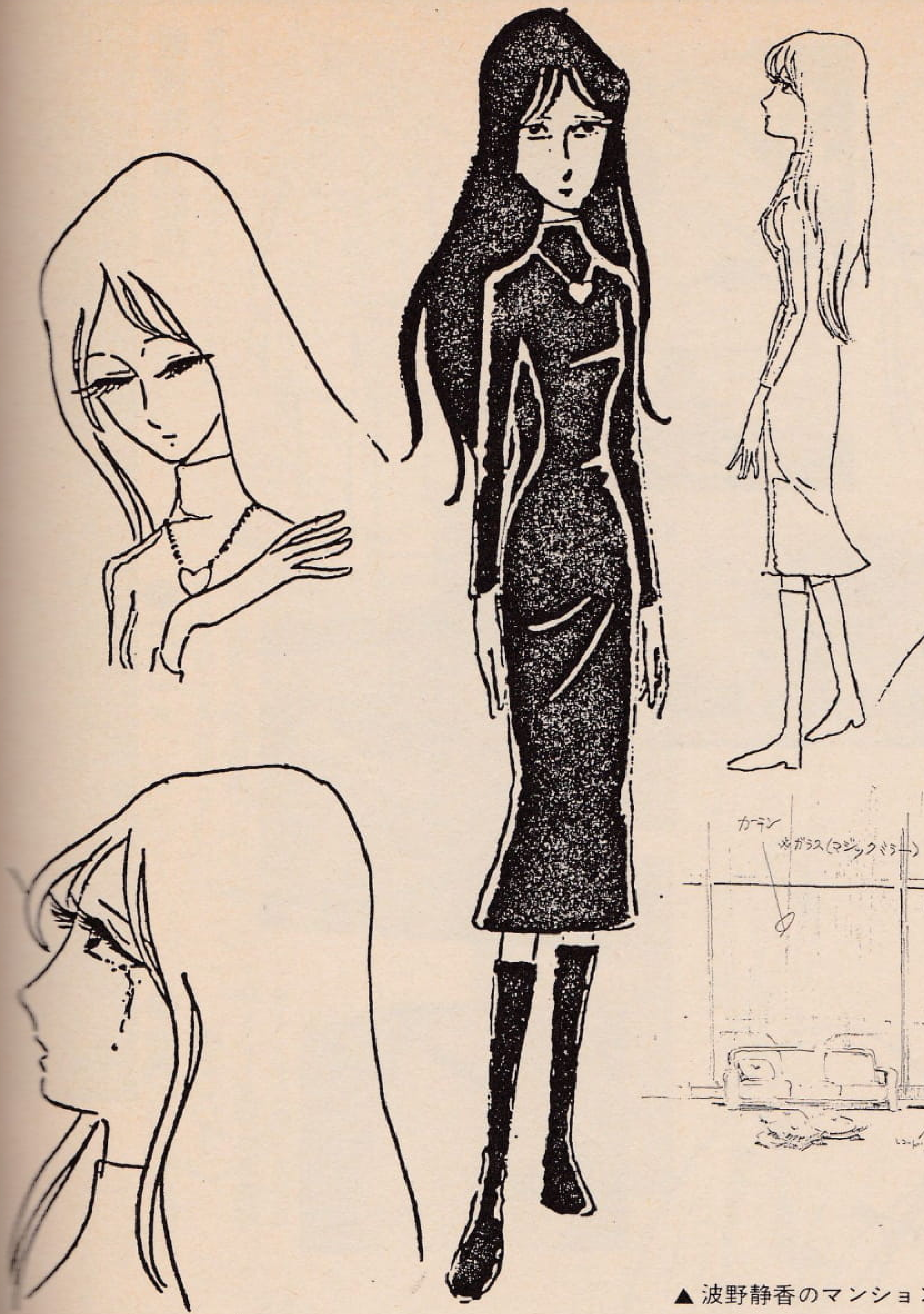
マゾーンにも心がある

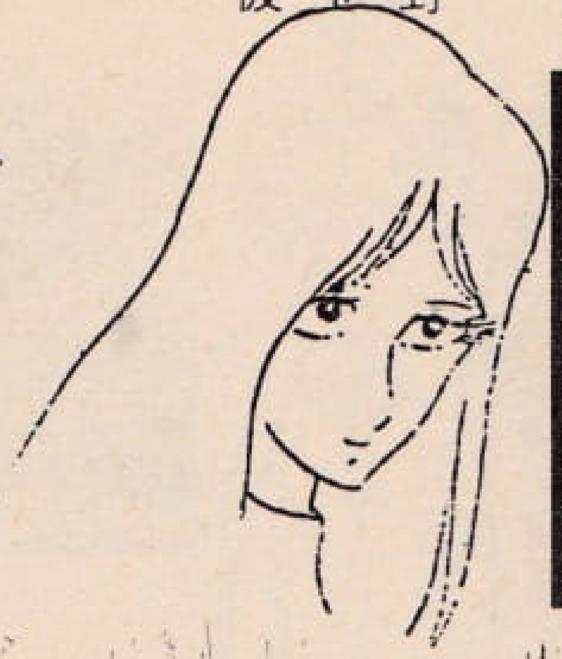
波野静香

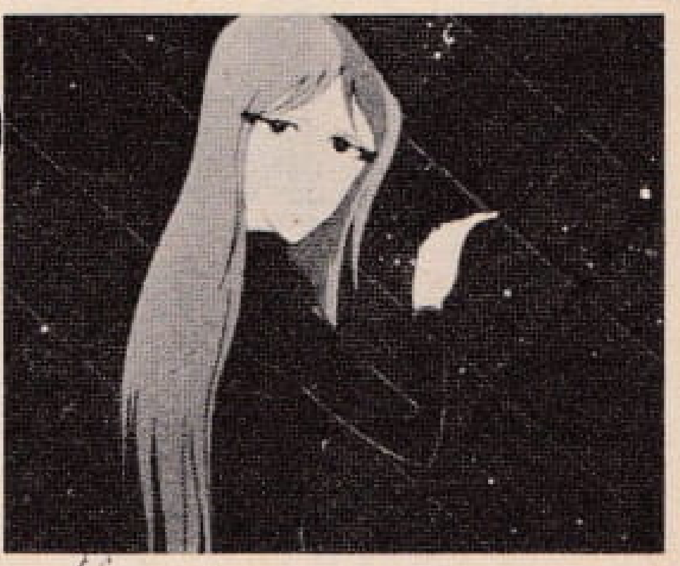
首相秘書。実はマゾーン地球司令。ラフレシアよりアルカディア号の内部爆破を命ぜられ、うまく乗船するが、次第にハーロックにひかれ愛するようになってしまう。実に印象の強いキャラクターである。

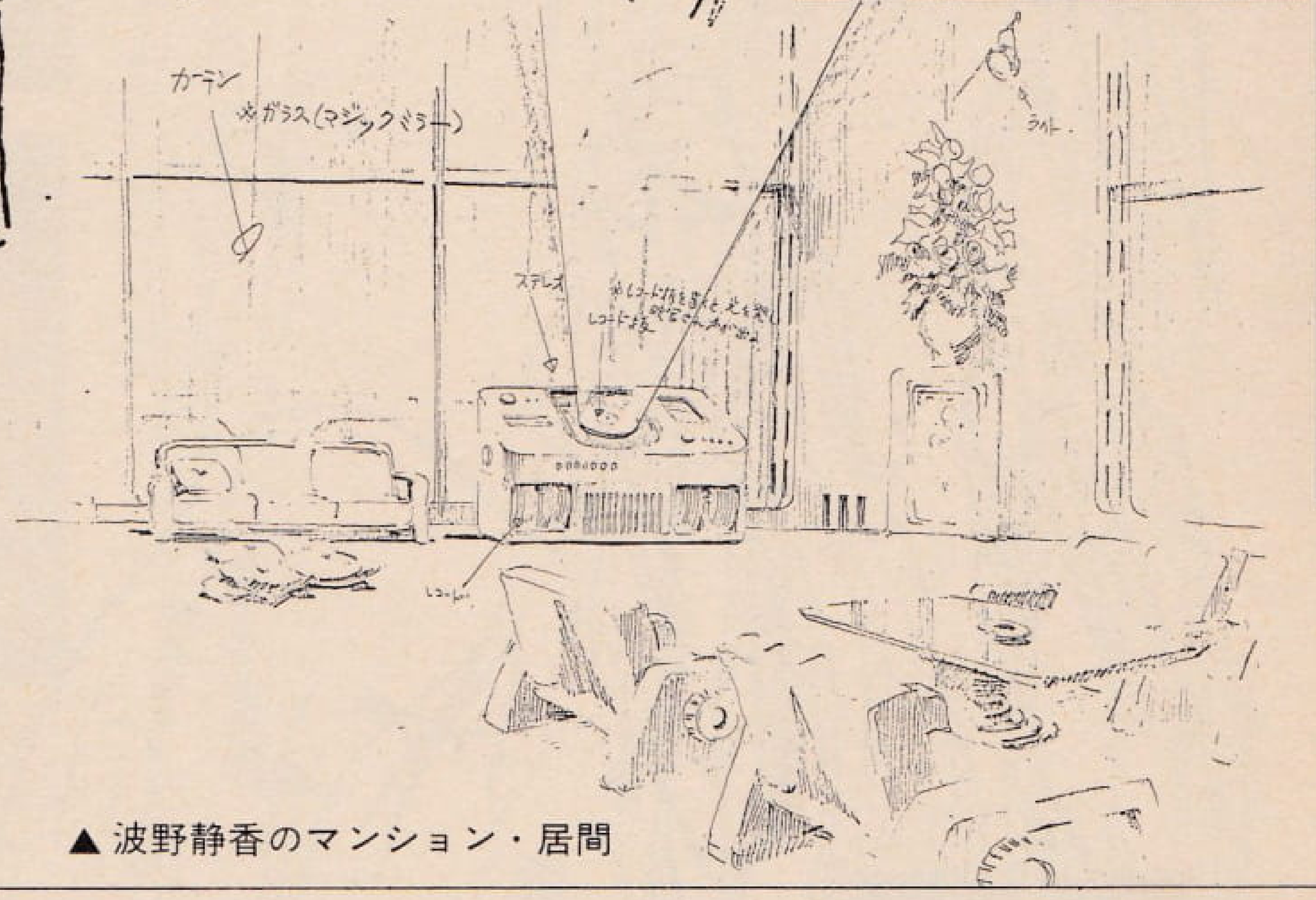
■声・山口奈々■

マゾーンということは意識せず、女・波野静香として演じました。ハーロックへの愛を一目づつ編み込むなんてステキでしたね。彼女の素直な心の表わし方が好きでした。



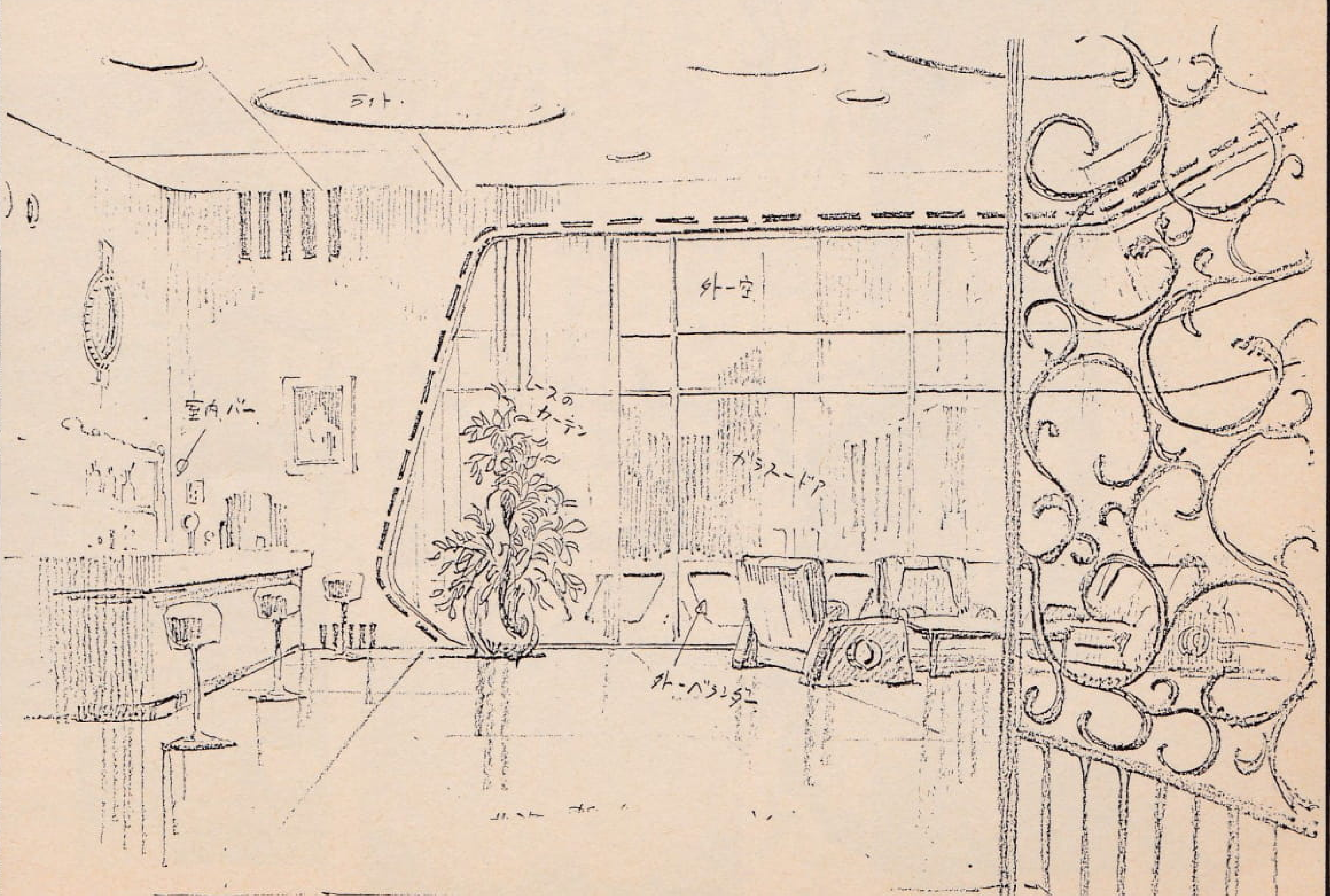




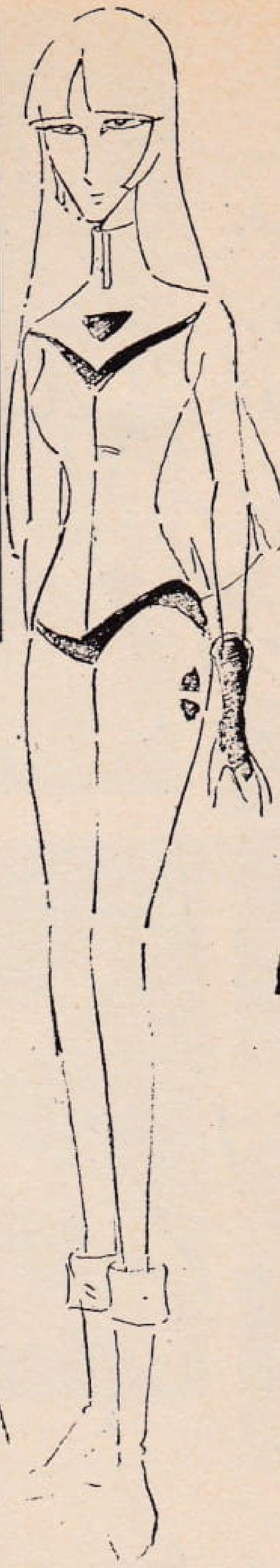


▲波野静香のマンション・居間





静香のマンション・リビングルーム

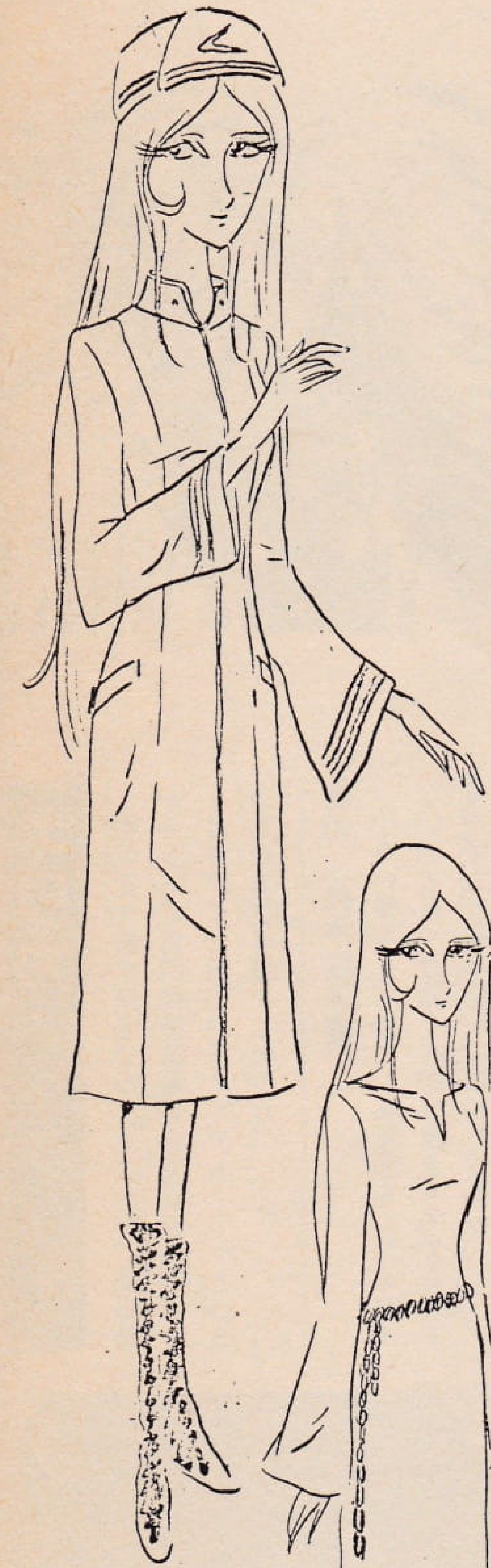
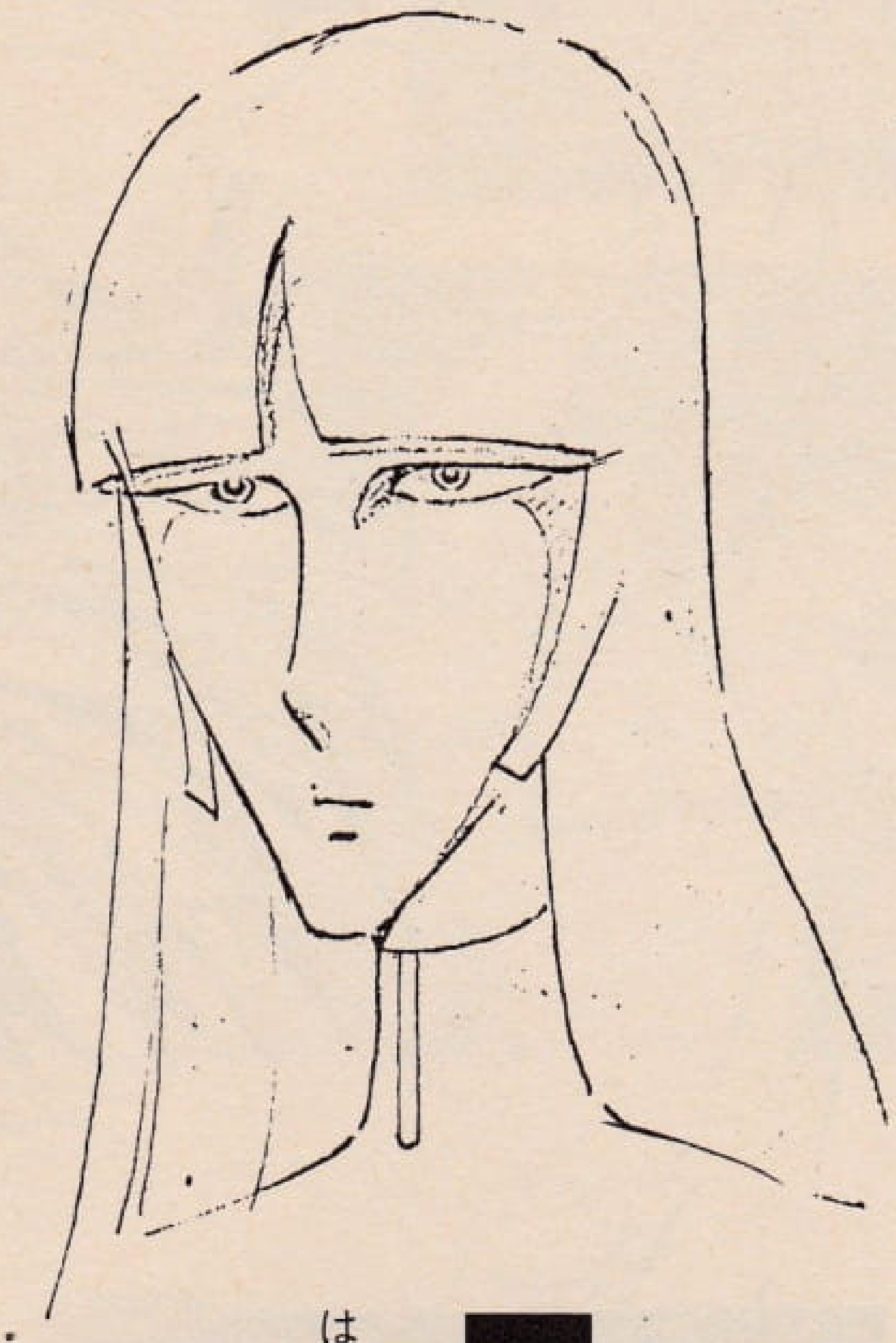



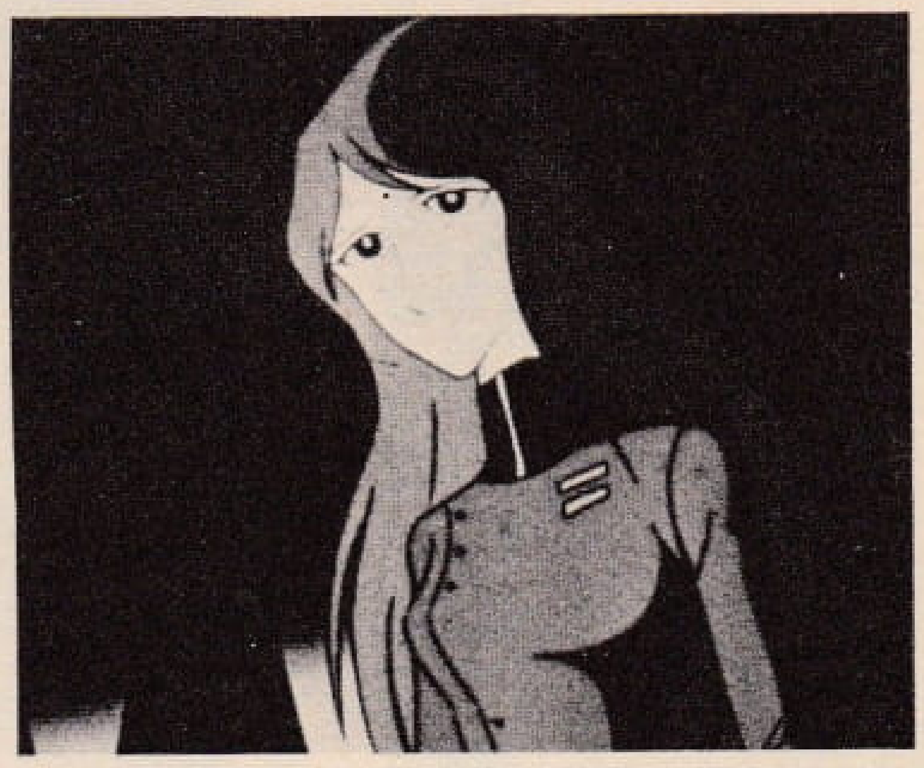
テシウス

科学者であり、文人としての女王の右腕的存在。地球への移民を、市民を犠牲にしてまで進めようとするラフレシアに断固として反対する。しかし……

■声・山口奈々■

科学者という役だったせいか、クールにやったということを覚えていますね。こういう性格もあこがれのひとつなんです。

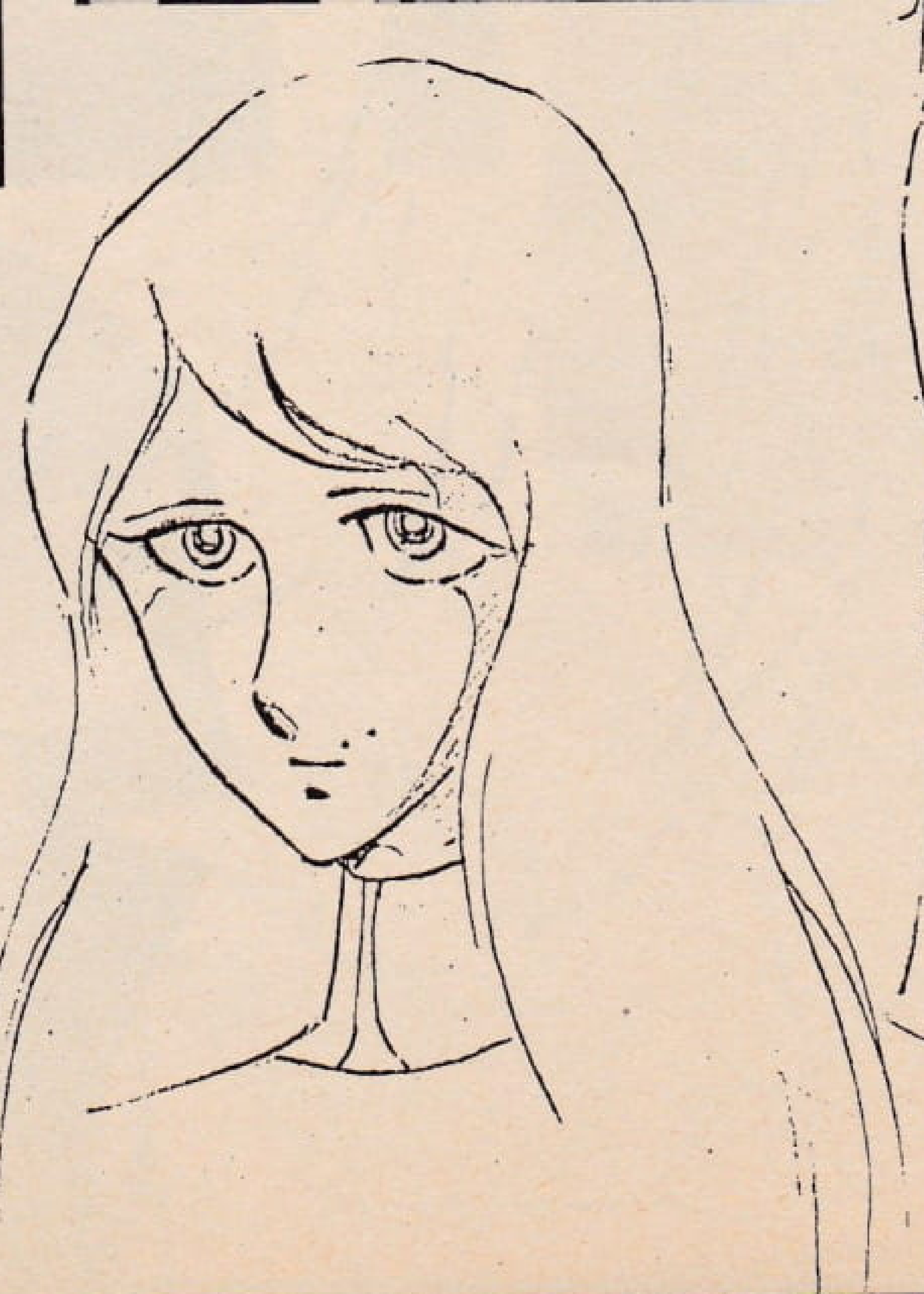



サイネス

科学者

声・間嶋里美

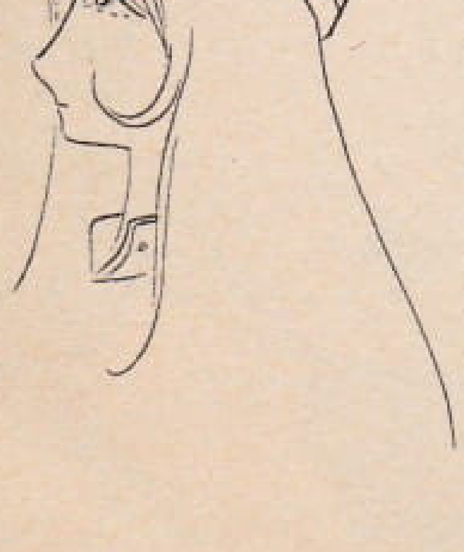




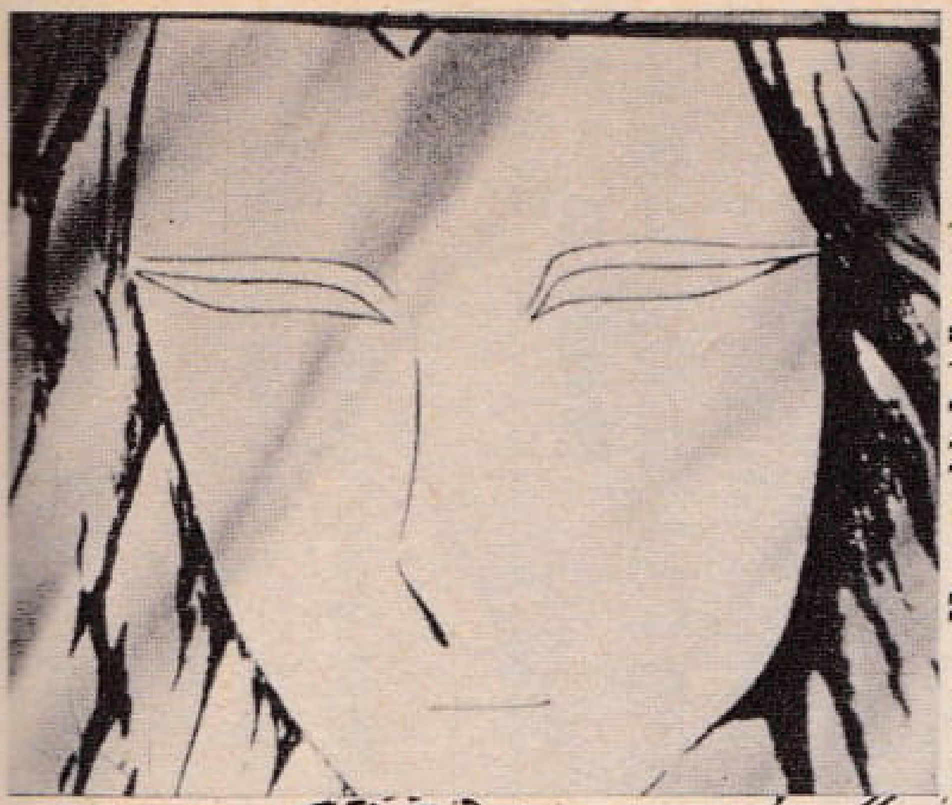
ルシア

マゾーン看護隊。ゾルバの恋人。ゾルバとは病院船中で知り合う。

声・小山茉美





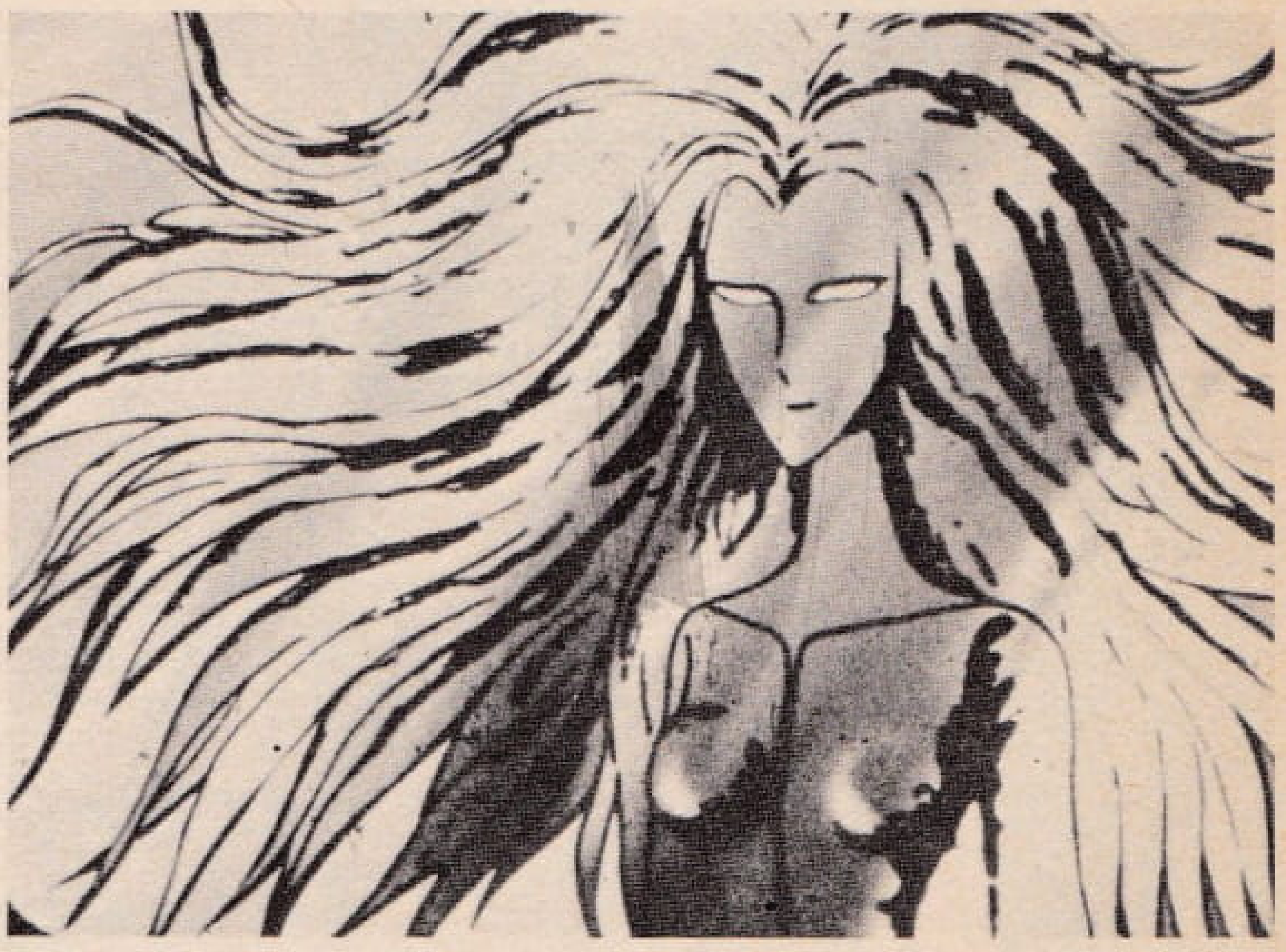


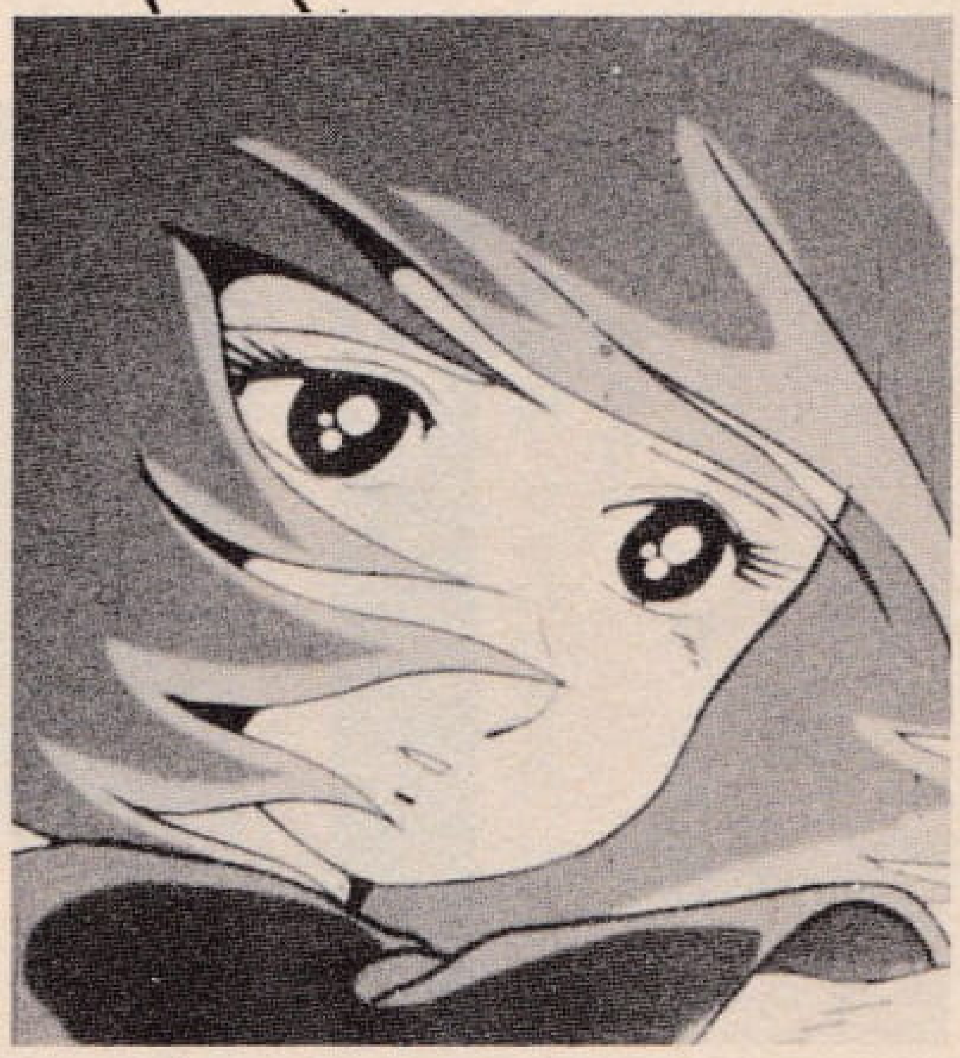
スノーラ

北極のオーロラの柱の中で、ハーロックを殺すために10年も待ち続けていたのだが、知らず知らずのうちに、愛してしまっていたという悲劇の人。

■声・潘恵子■

１人の人を10年間も愛したってことまだないから（笑）、その女の性(サガ)みたいなところがむずかしかったです。人間の二面性みたいなものが含まれててやりがいがありました。



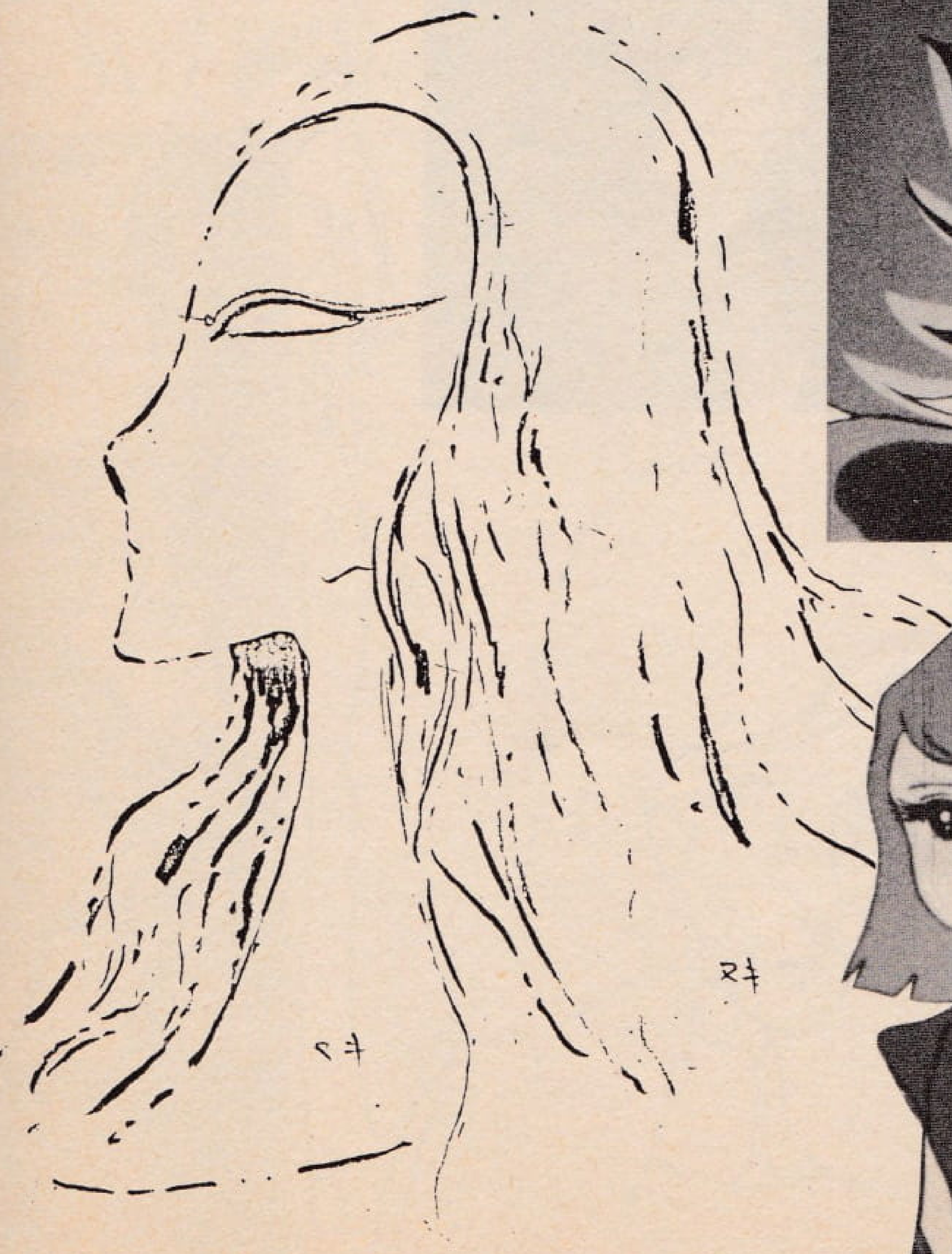


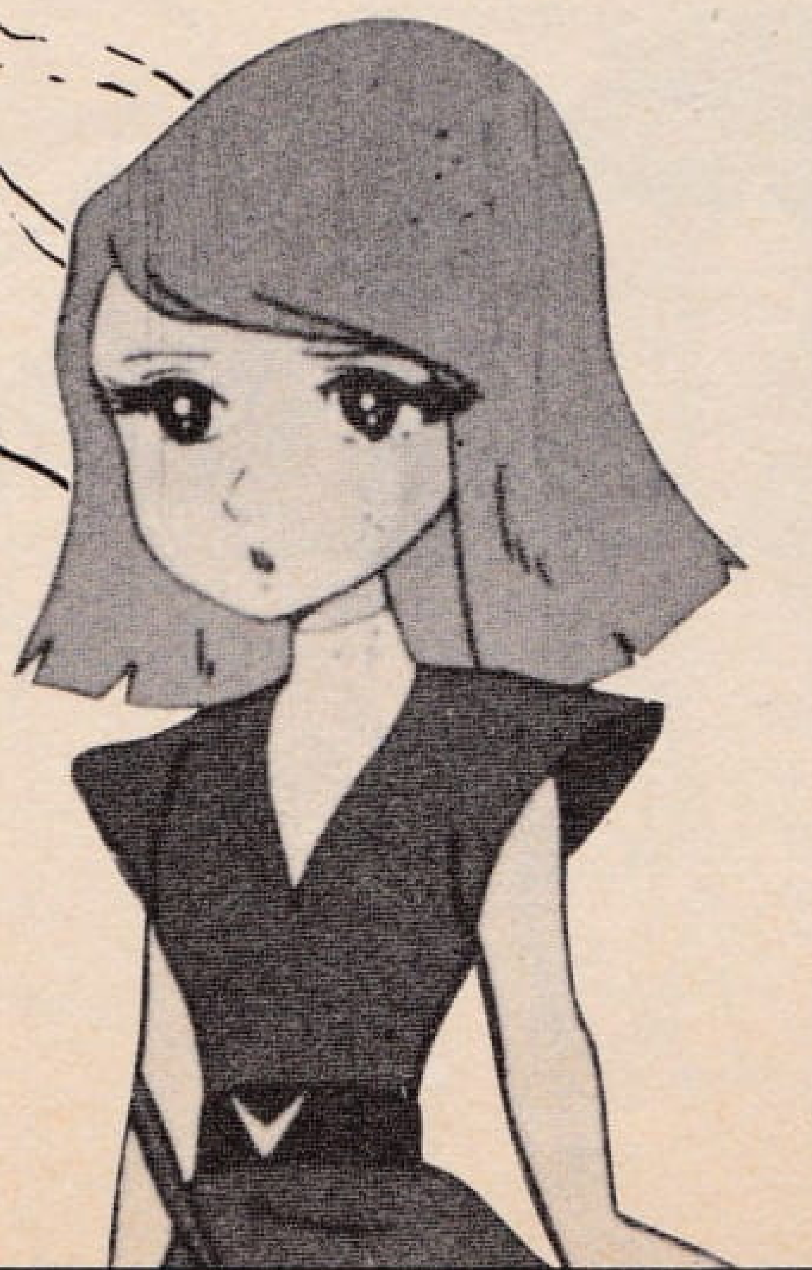
キリカ

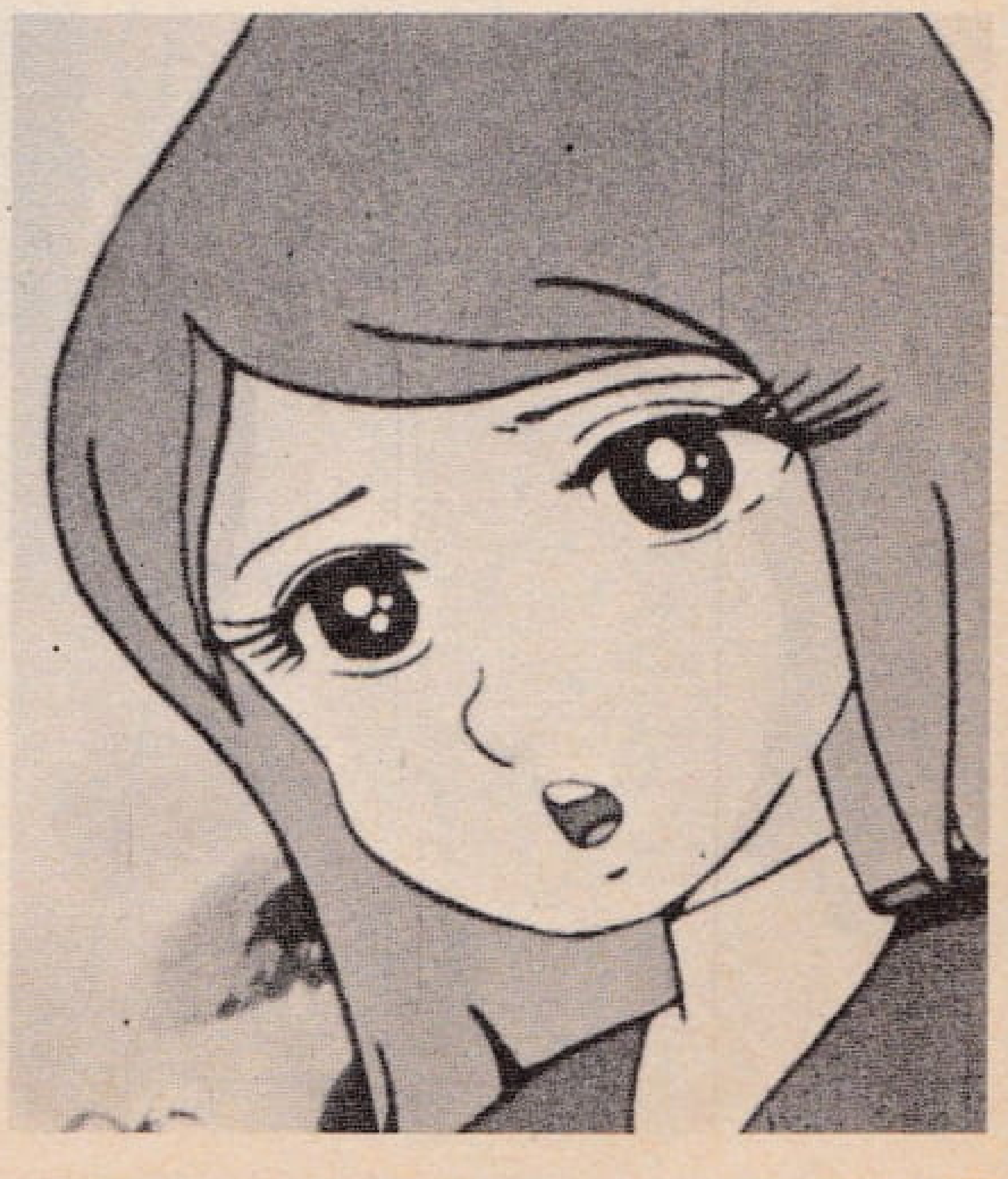
台羽正を殺す罠をしかけたのだが、幼いながらもその台羽に好意をもってしまう。「わたしはマゾーン戦士の子！」「でも……」という小さな叫びは痛々しかった。

■声・鈴木富子■

小さい娘なんだけど、ある恋をしたんじゃないかしら。台羽くんが好意をもってくれてるってことを本能的に感じとってね。







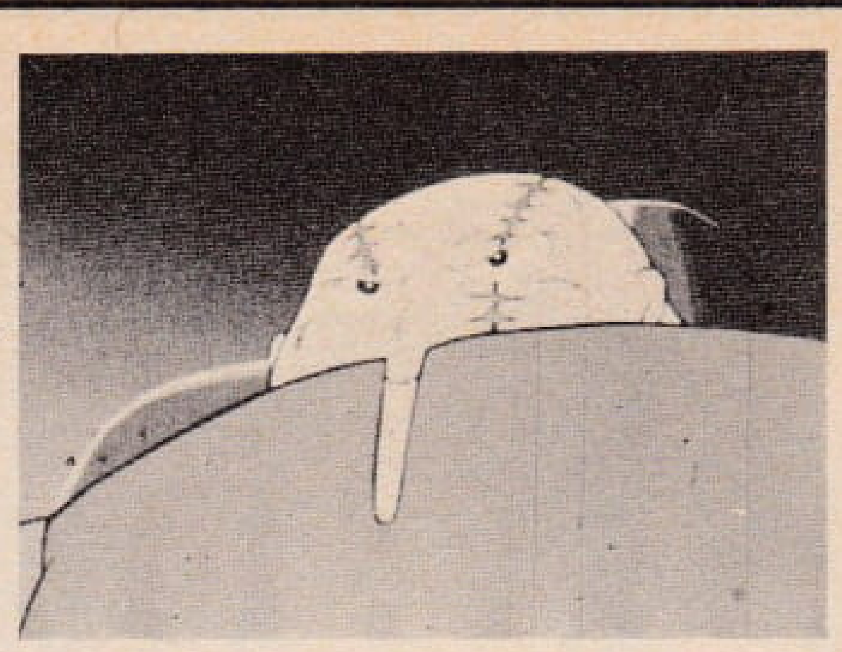
戦いの中には犠牲が……

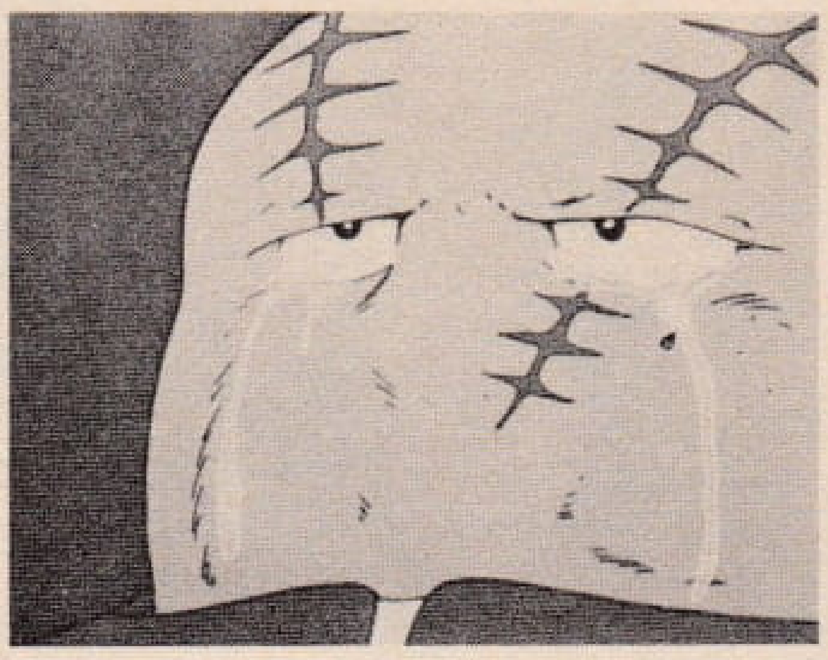
ゾル

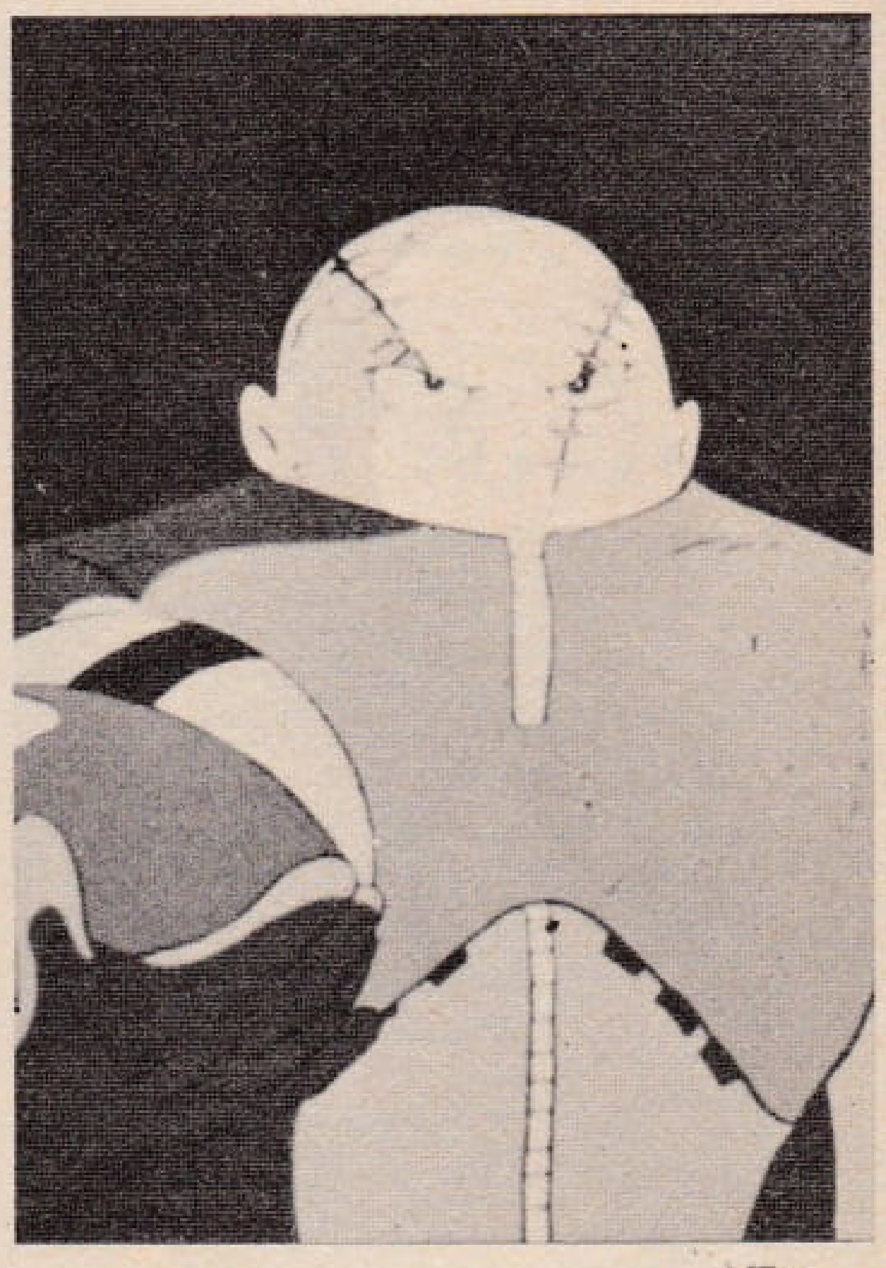
第三星系団トカーガ星人戦闘隊長。自分の星をマゾーンに侵略され、無理矢理手先にさせられてしまう。マゾーン戦艦に突っ込み壮絶な死を遂げる。ゴーラム！

■声・山田俊司■

男らしい役でしたね。誇り高い戦士といった感じが出るよう努力はしてみたんですがどうだったでしょう。







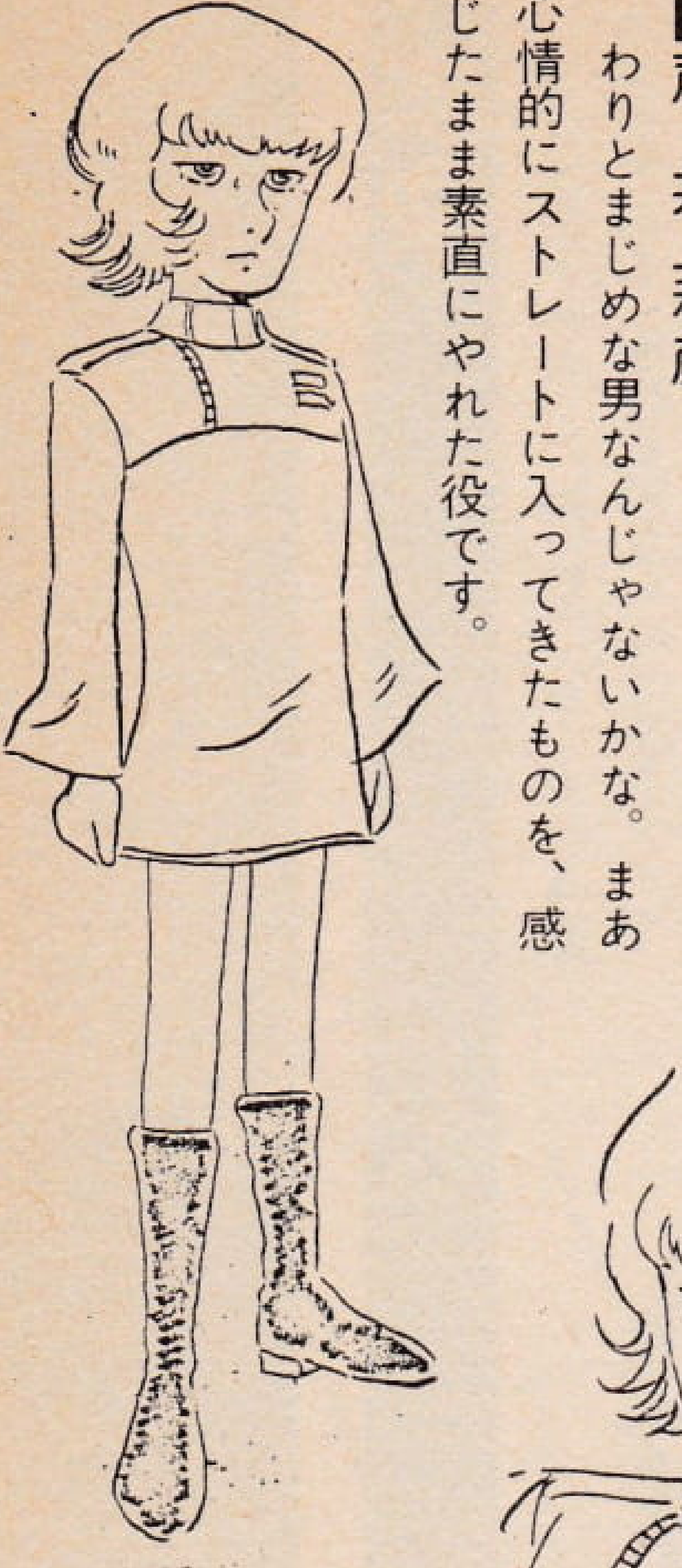
ゾルバ

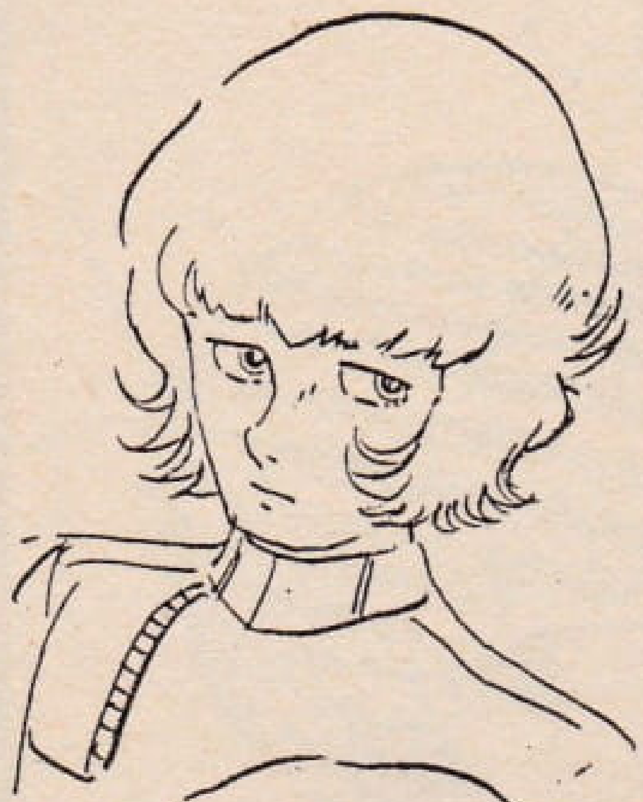
ゾルの息子。マゾーン第52前衛部隊長。父が勇士であったことを誇りに思っている。話の内容上、ゾルとは顔を変えたとのこと。

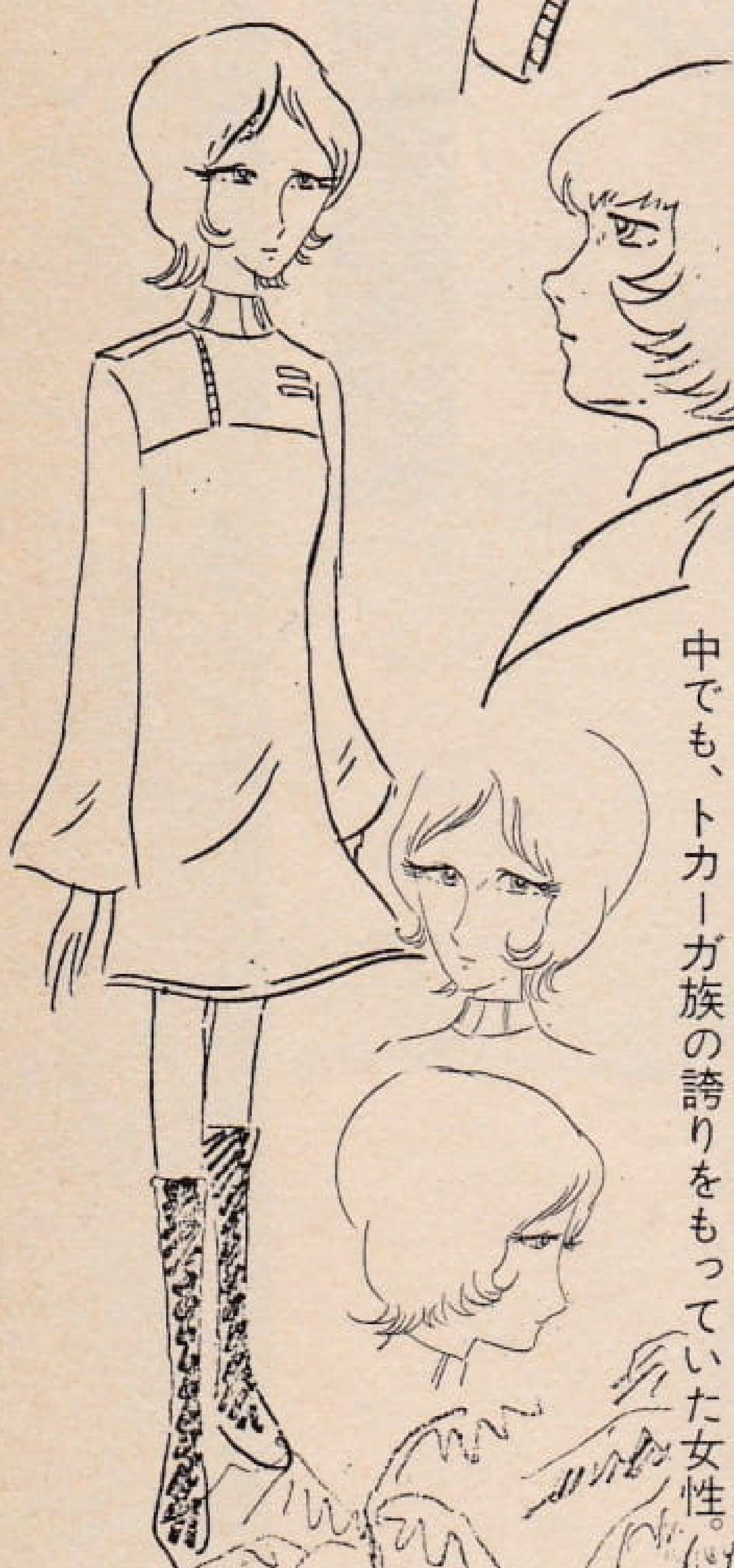
■声・井上和彦

わりとまじめな男なんじゃないかな。まあ心情的にストレートに入ってきたものを、感じたまま素直にやれた役です。





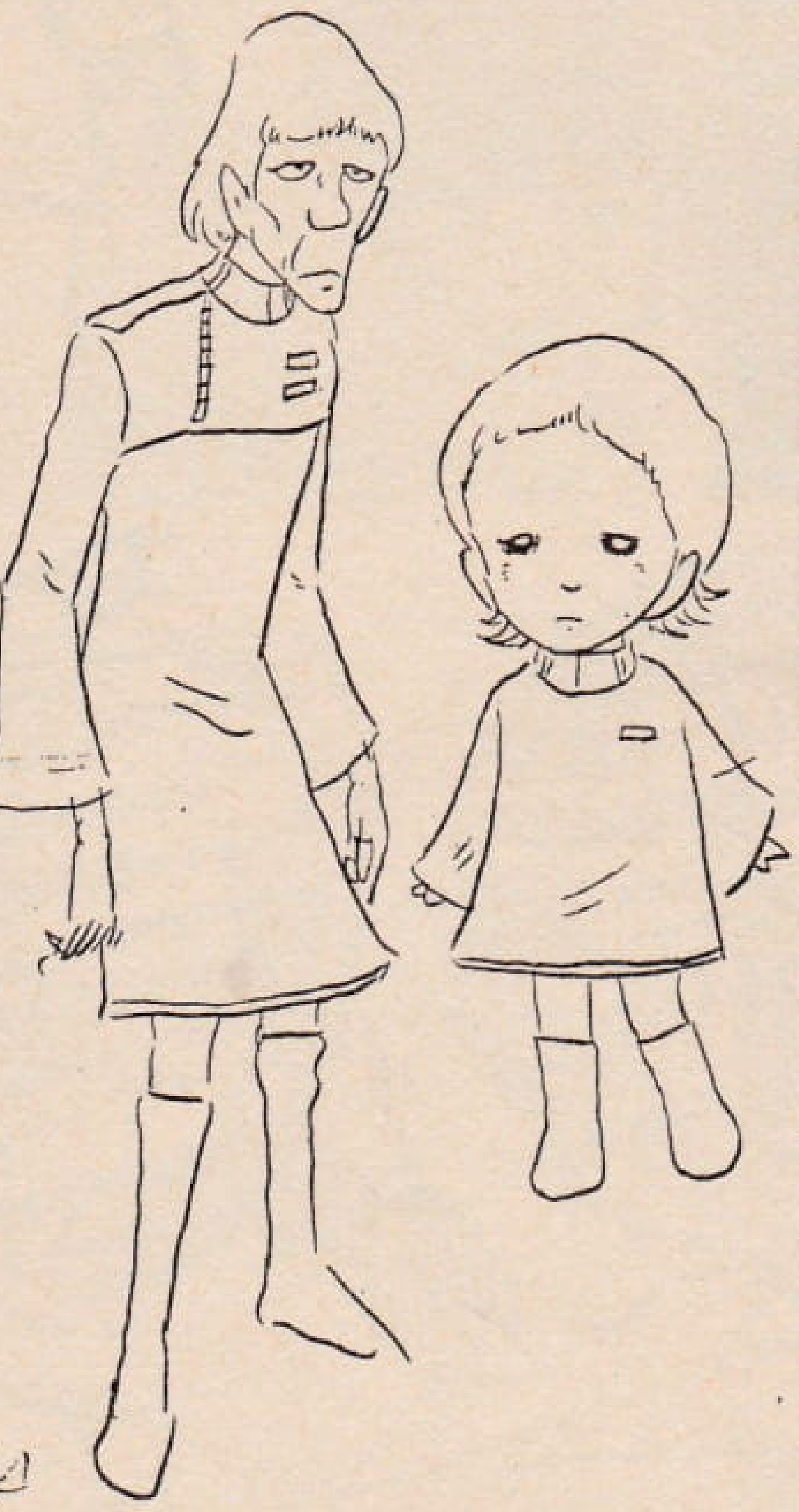




ルマーニ

ゾルバの母。マゾーンに支配される生活の中でも、トカーガ族の誇りをもっていた女性。

トカーガ族市民



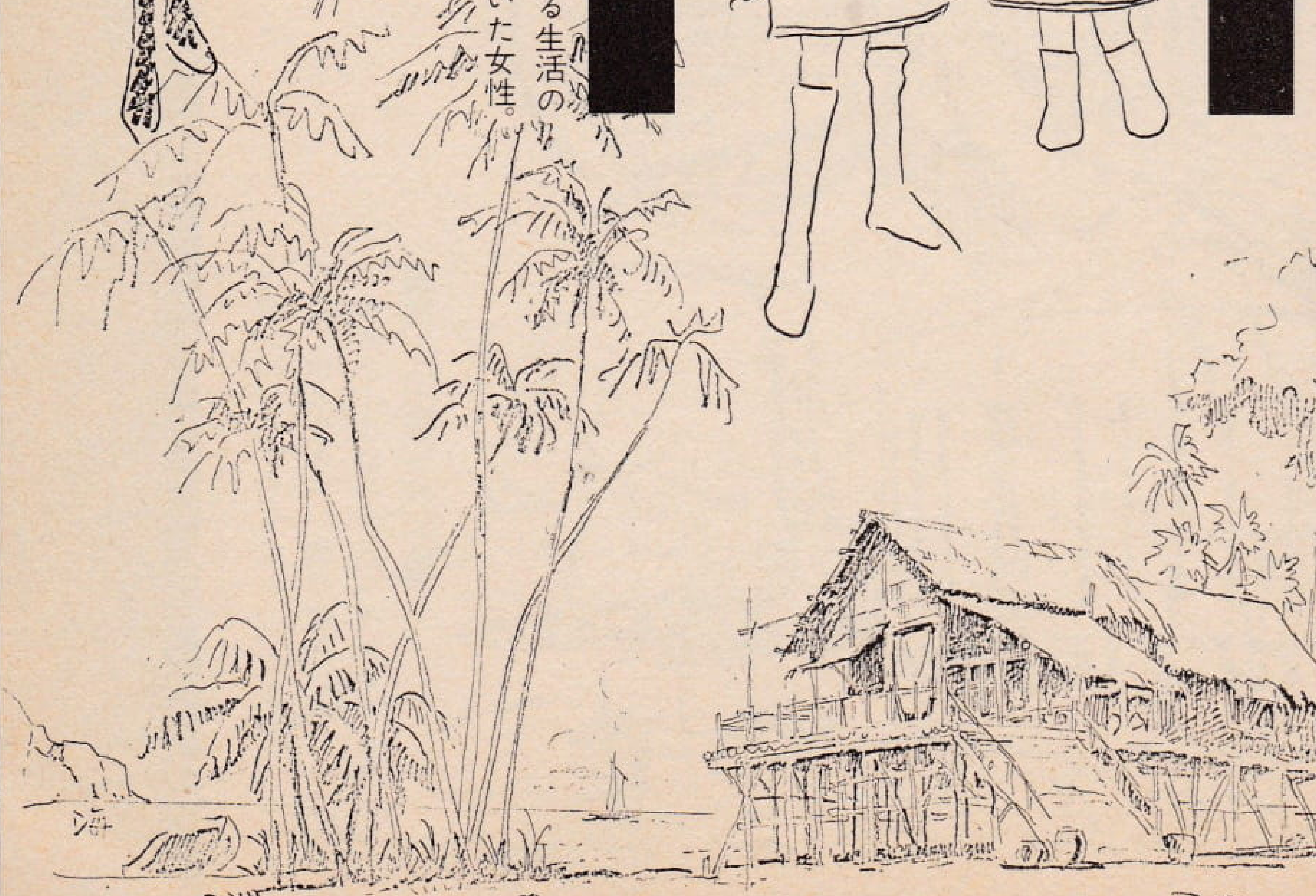




アイン博士

人間の星の長。科学者。マゾーンに強迫され研究を売ってしまう。ハーロックが昔世話になったことがあるらしい。

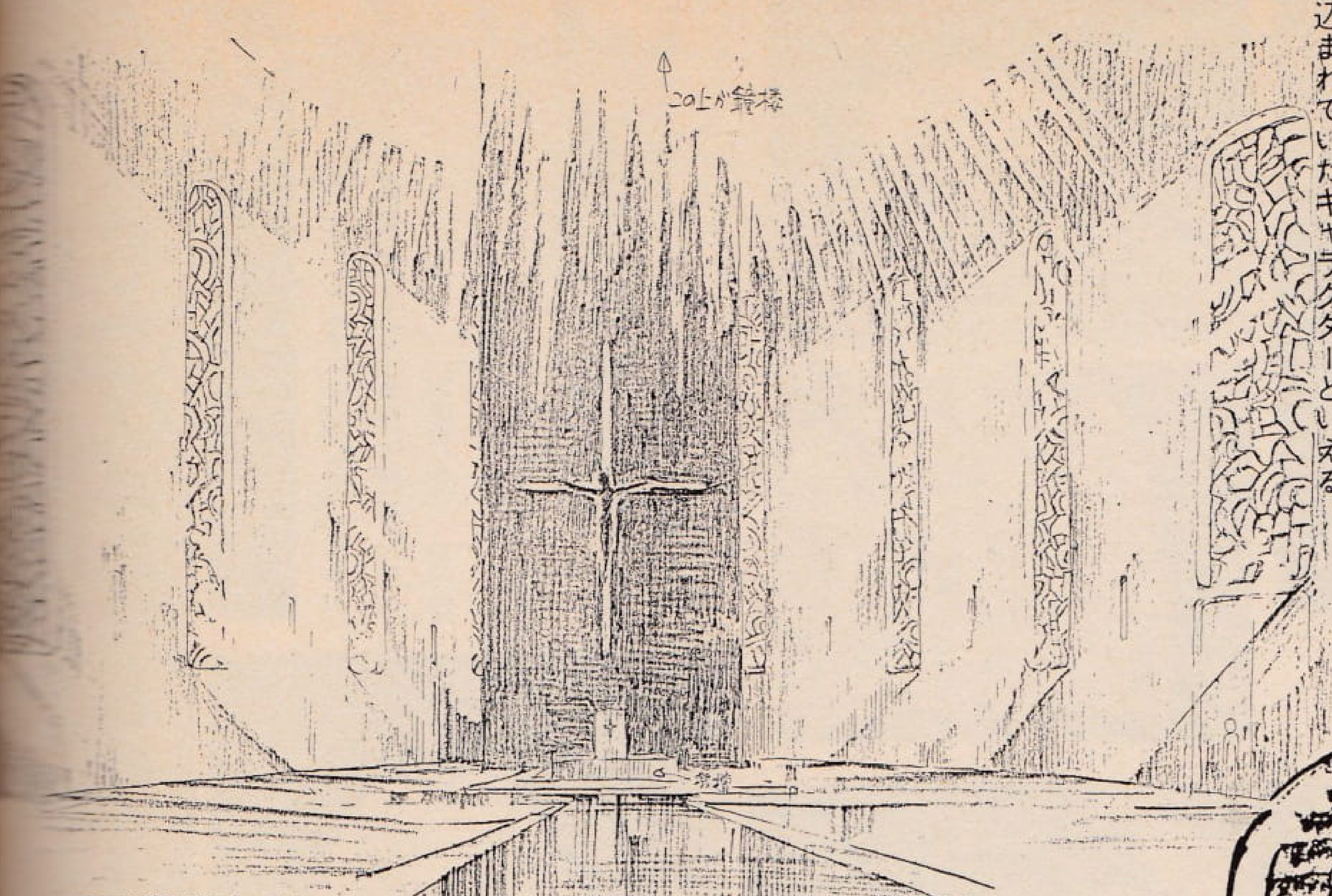
声・北川国彦



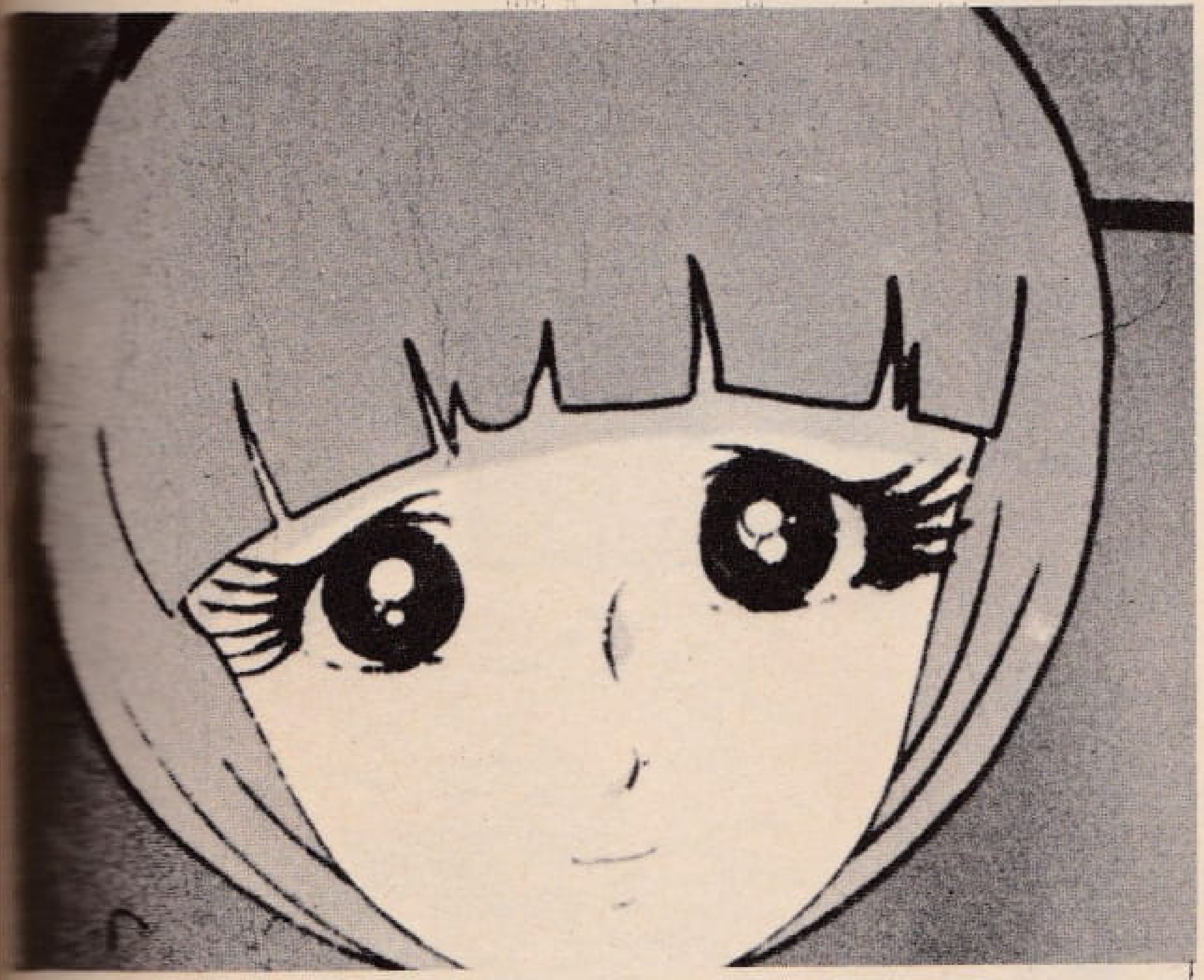
地球の人たち

まゆ

父は大山トチロー、母はエメラーダ。7歳の少女である。原作にはないキャラクターで、ハーロックが地球を守るということを、まゆを守るということに置き換え、よりはっきりとさせるために出てきた。そのためまゆには聖なるもの——天使のような少女というイメージがあった。またこの作品中一番よく描き込まれていたキャラクターといえる。

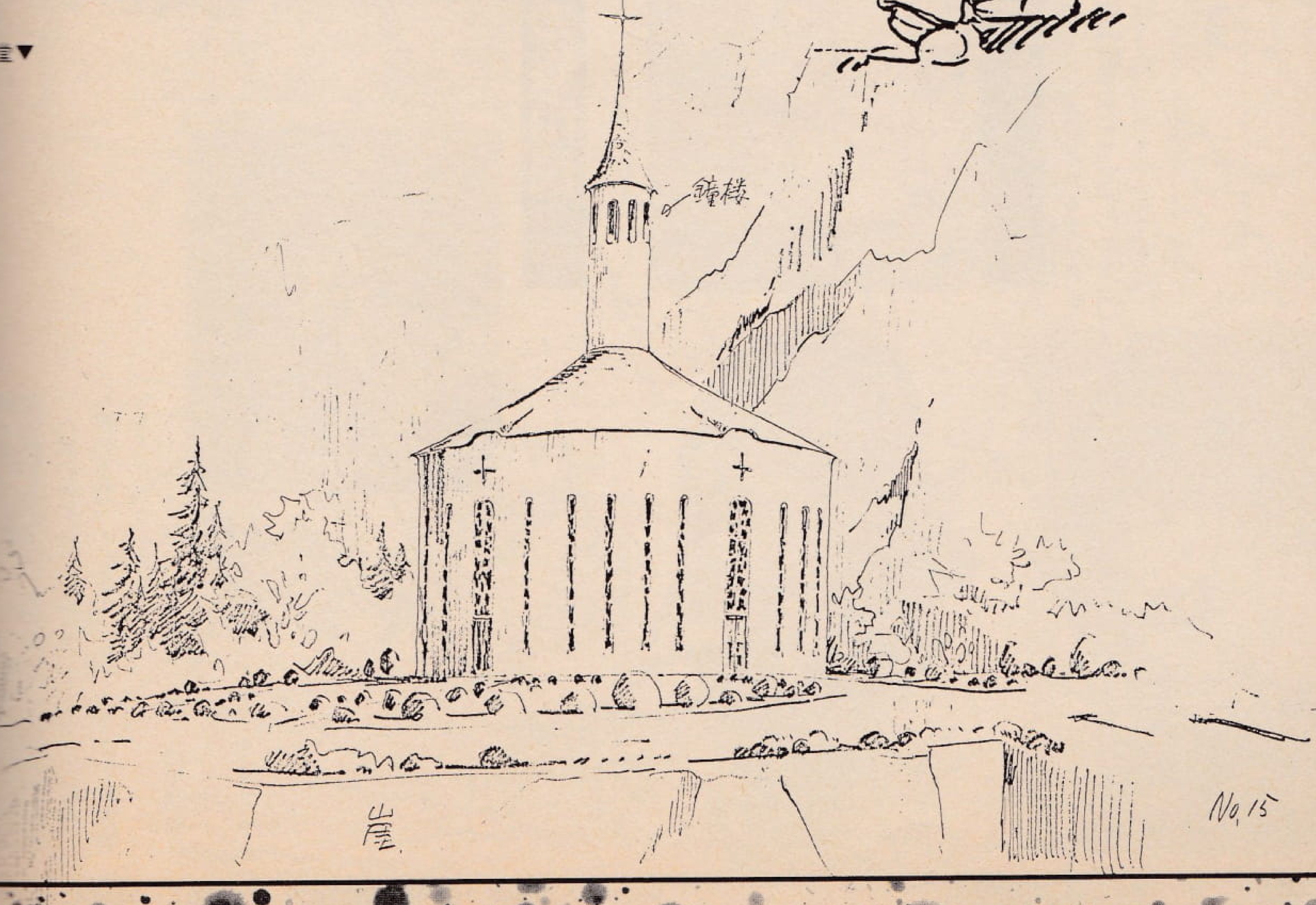


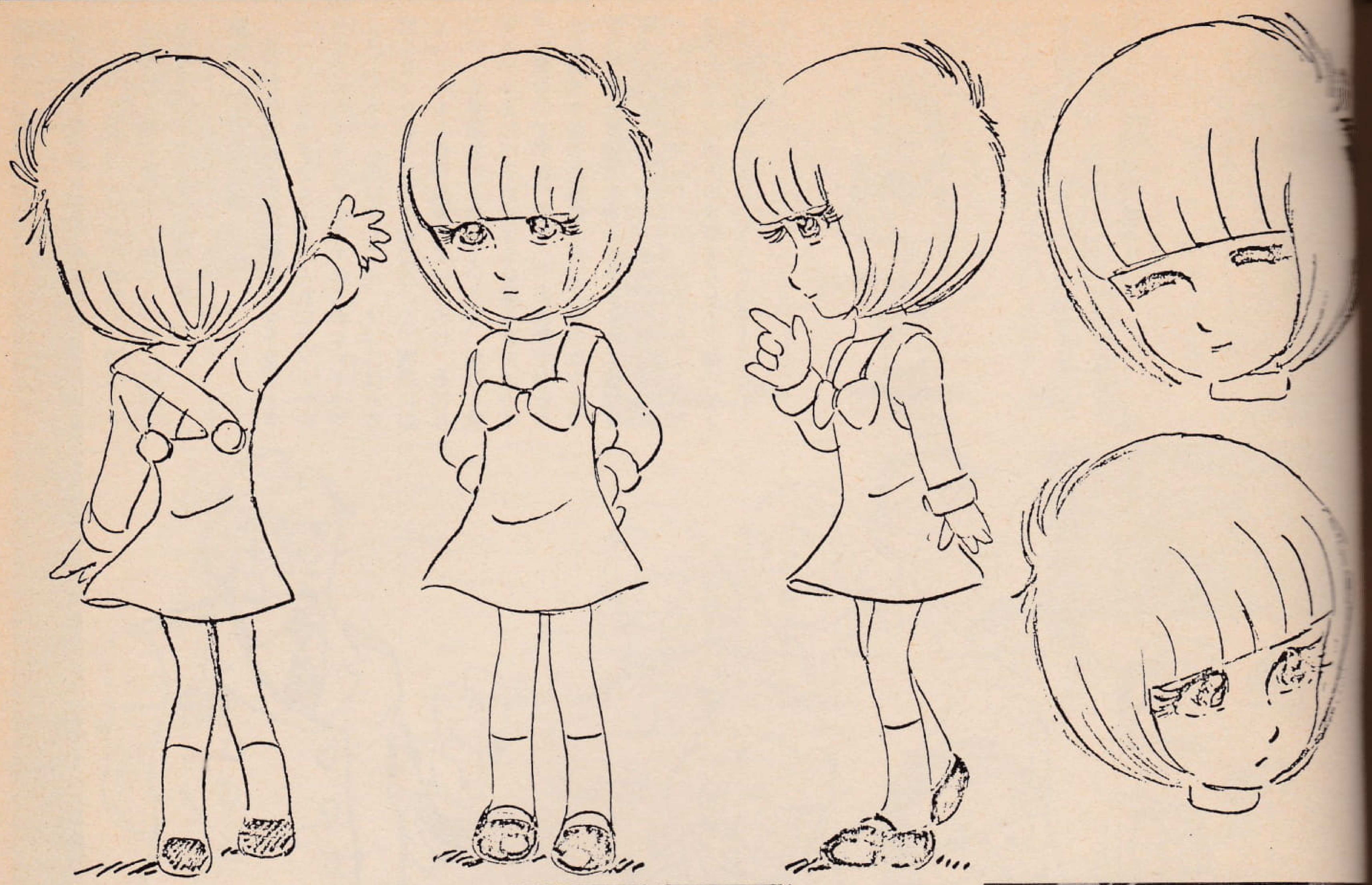
聖ジョバンナ学園　礼拝堂内▲



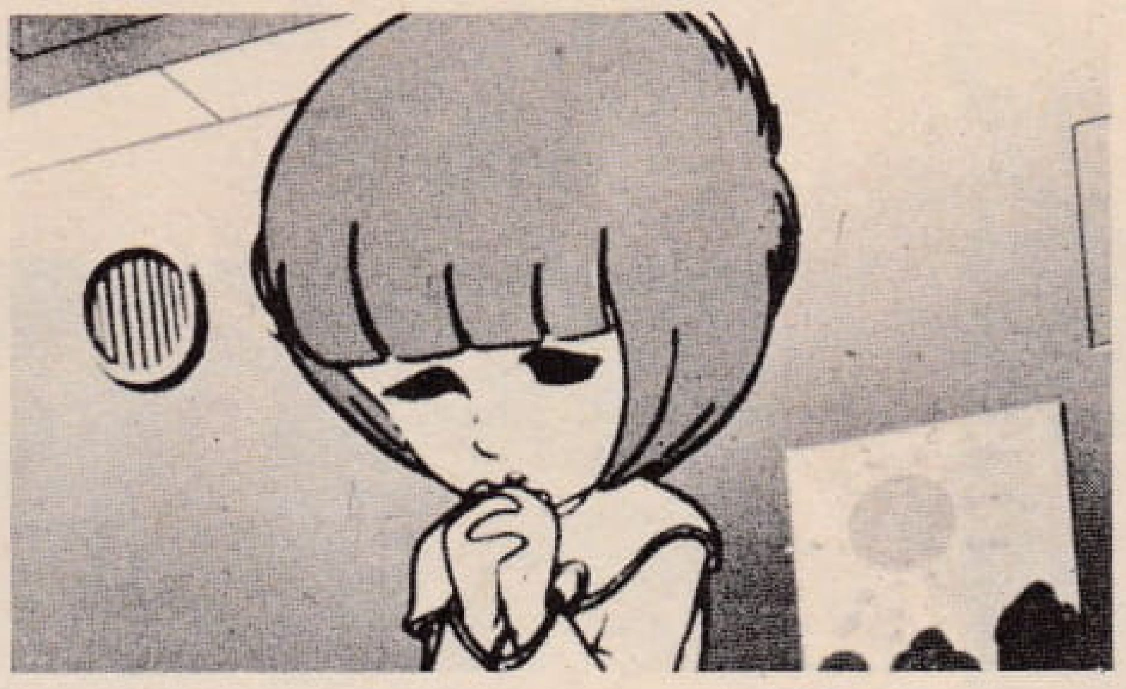


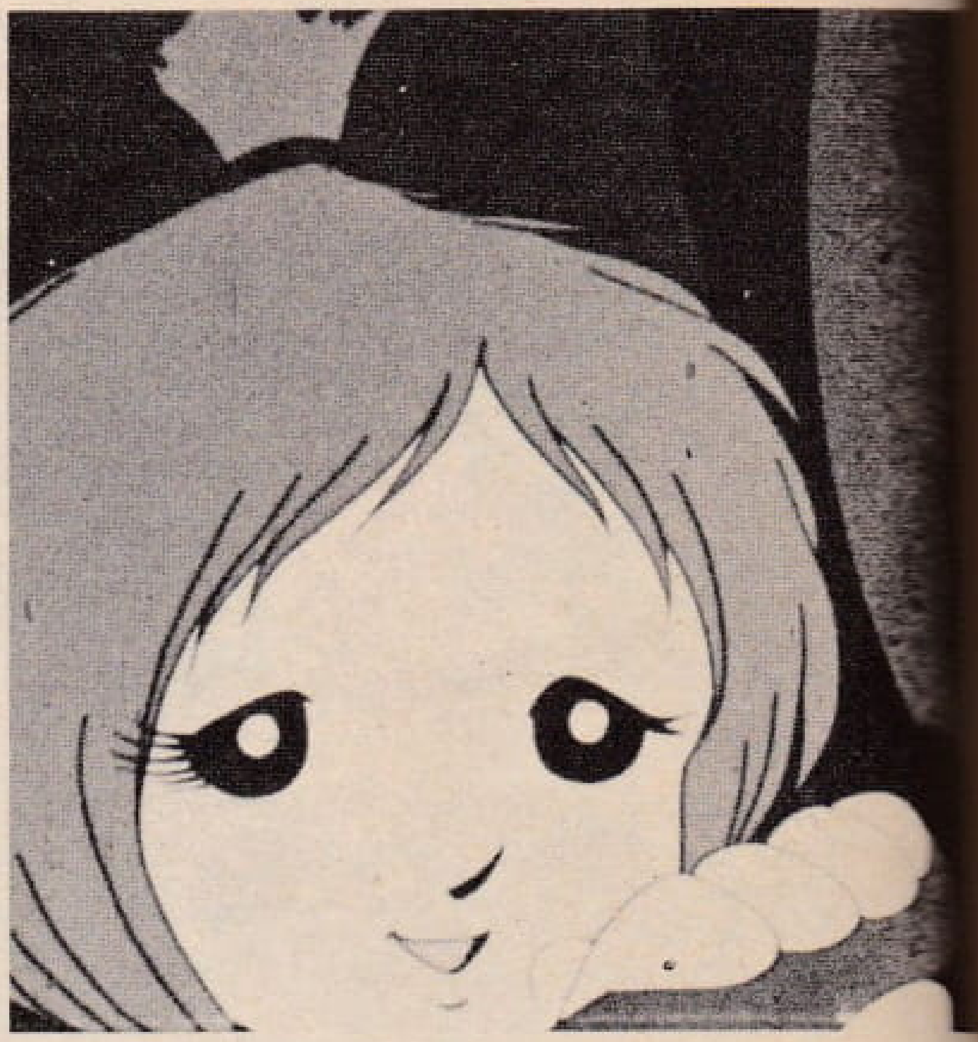
礼拝堂▼

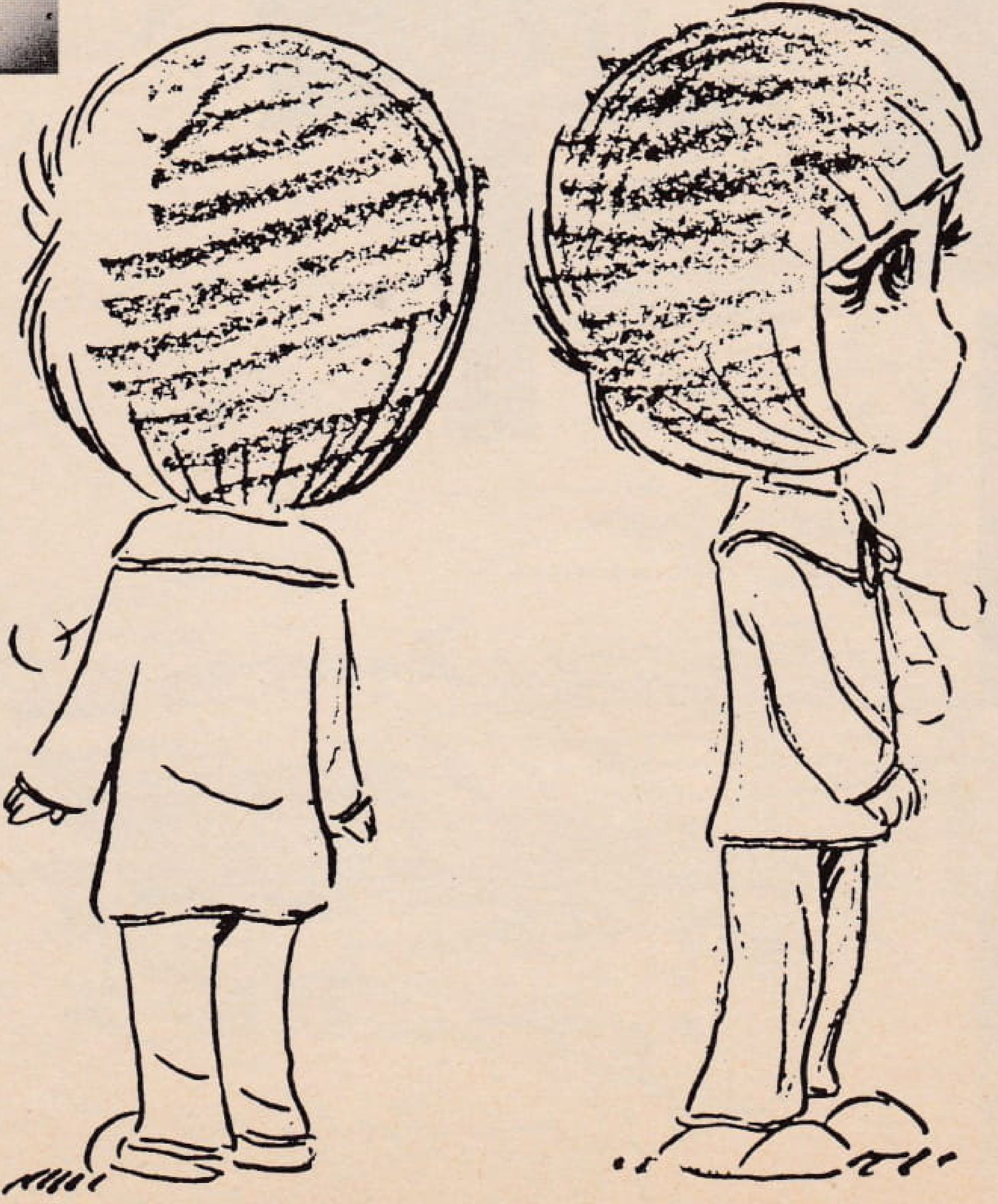


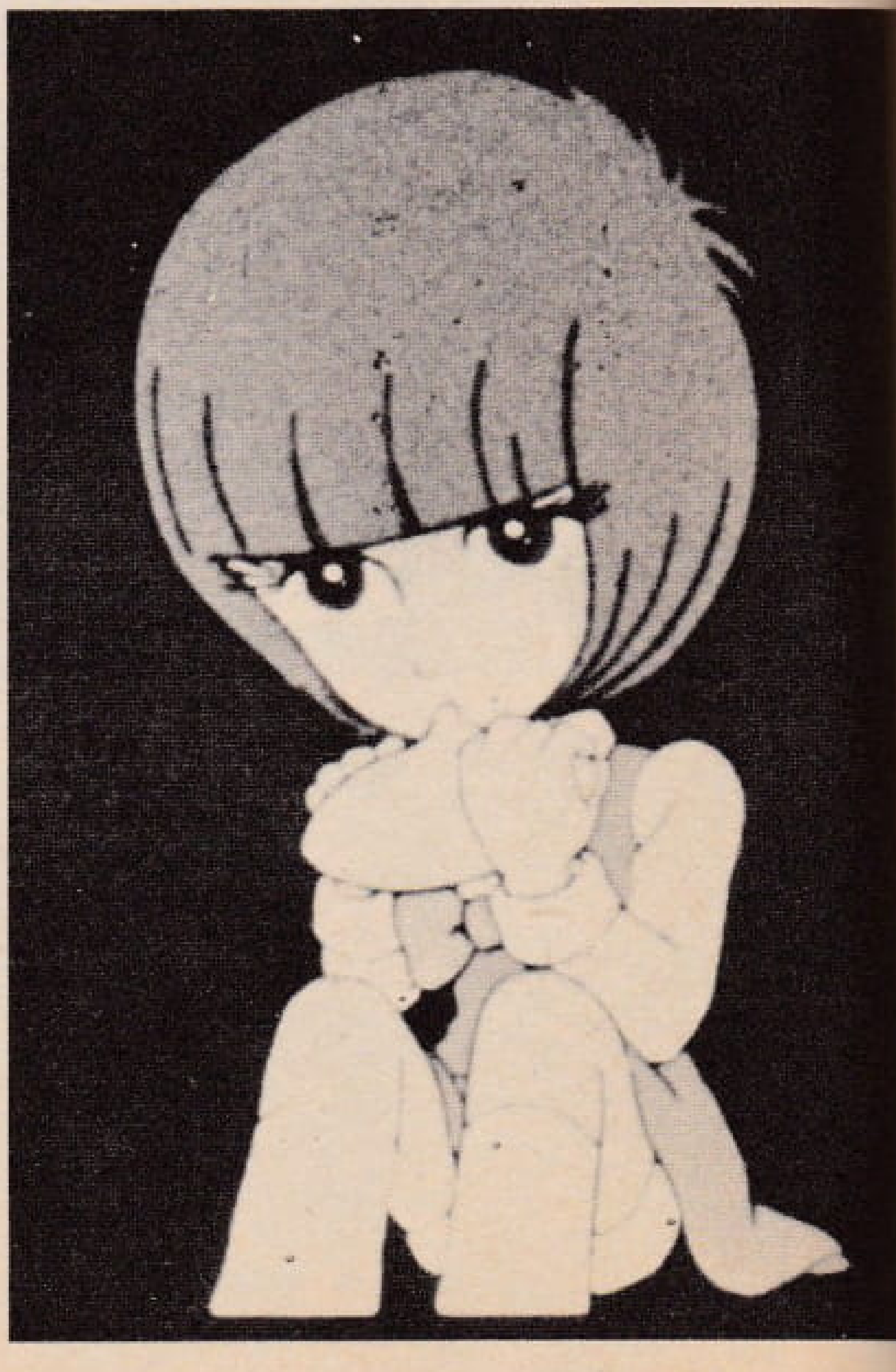












■声・川島千代子■

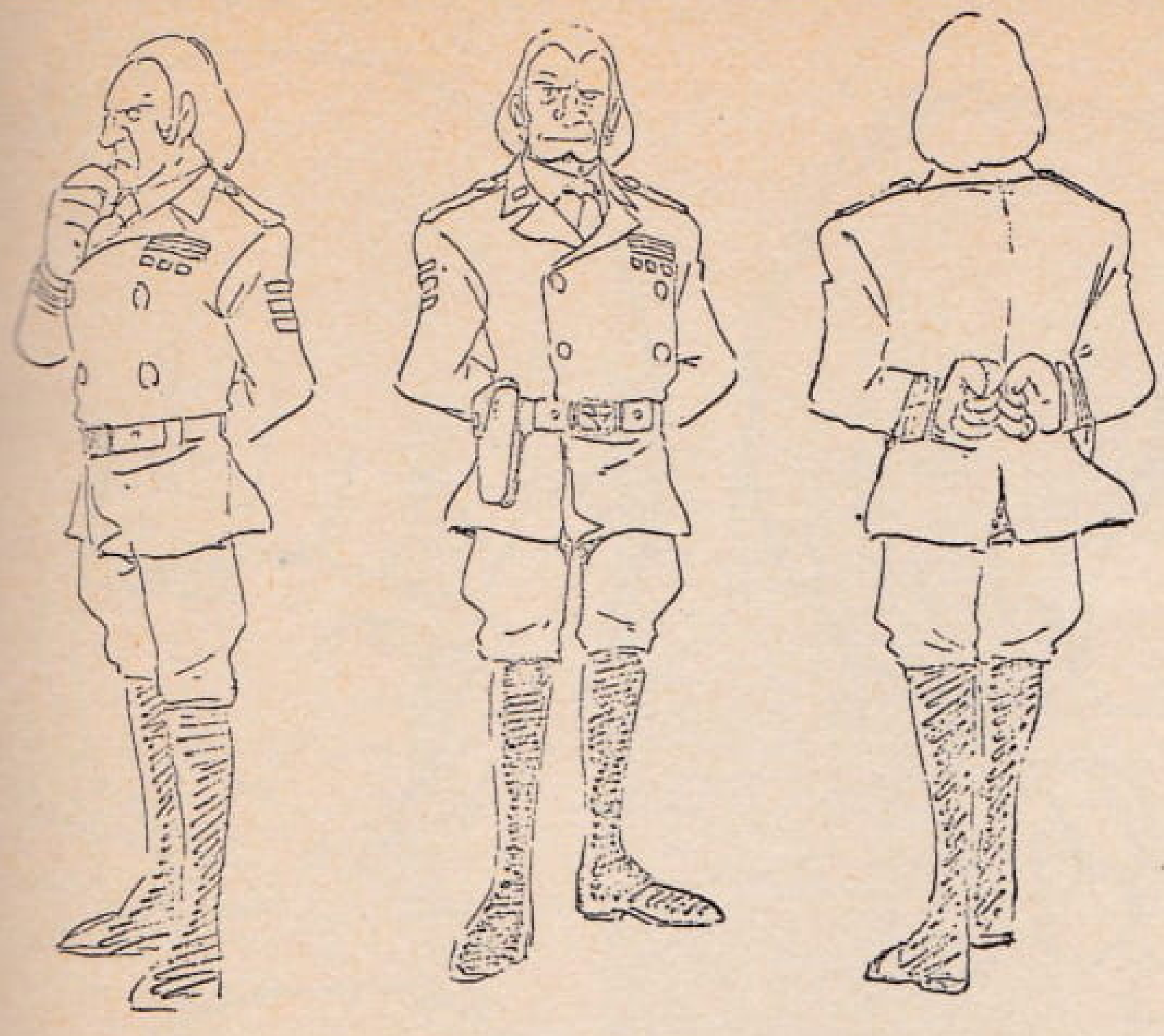
あんな小さな子の役がやれるとは思っていなかったんですが、絵と音楽に助けられて予想外にいいキャラクターになりびっくりしてます。ハーロックが命をかけて守るもの＝地球の代償。つねに俗世界から離れてなきゃいけないってことを頭においてやりました。とにかく印象に残っている役です。

切田長官

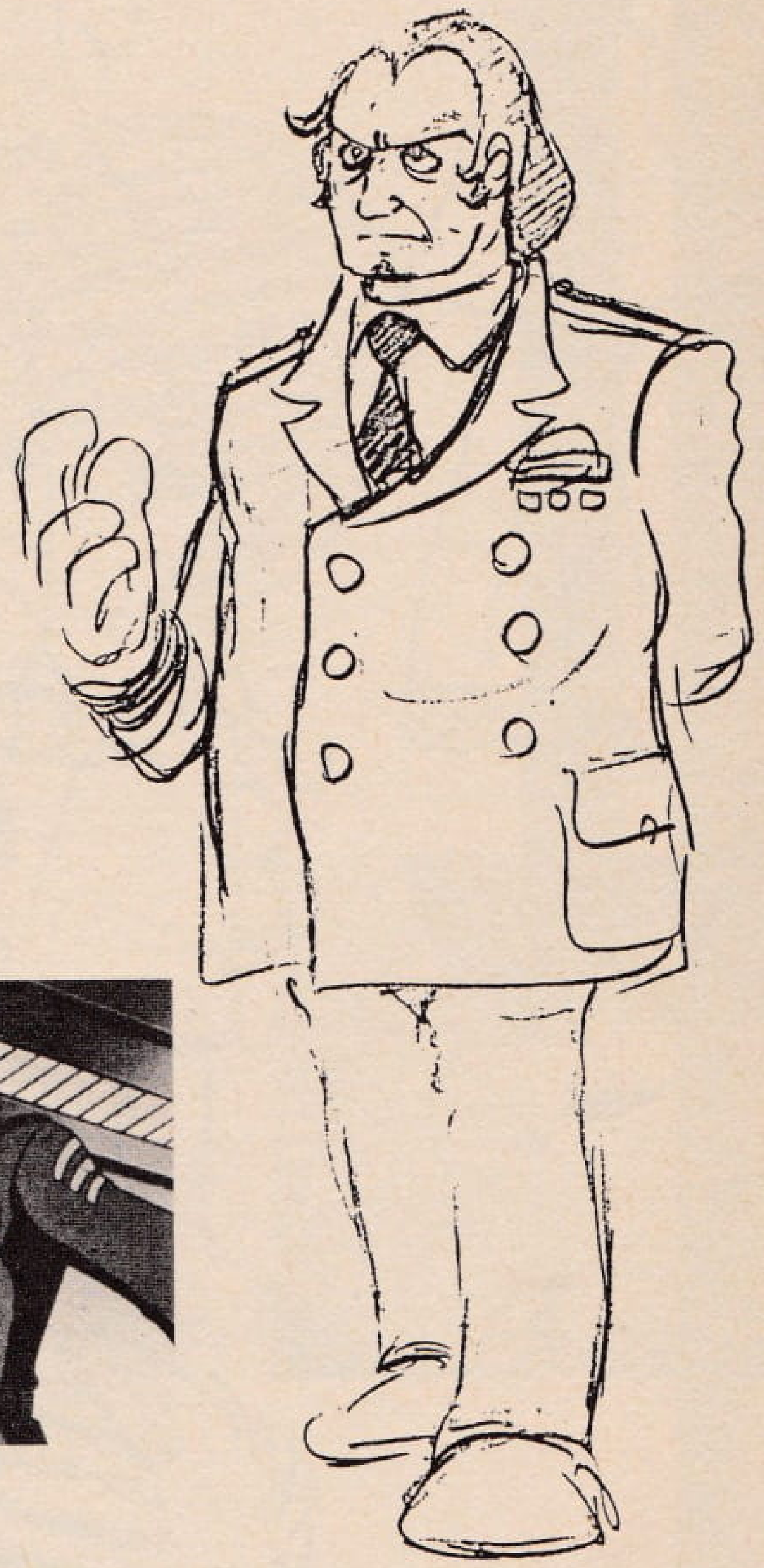
本名・切田満。地球連邦軍長官。随落しきった地球人類の中では、ハーロックに匹敵する信念とバイタリティを持つ男。

■声・柴田秀勝■

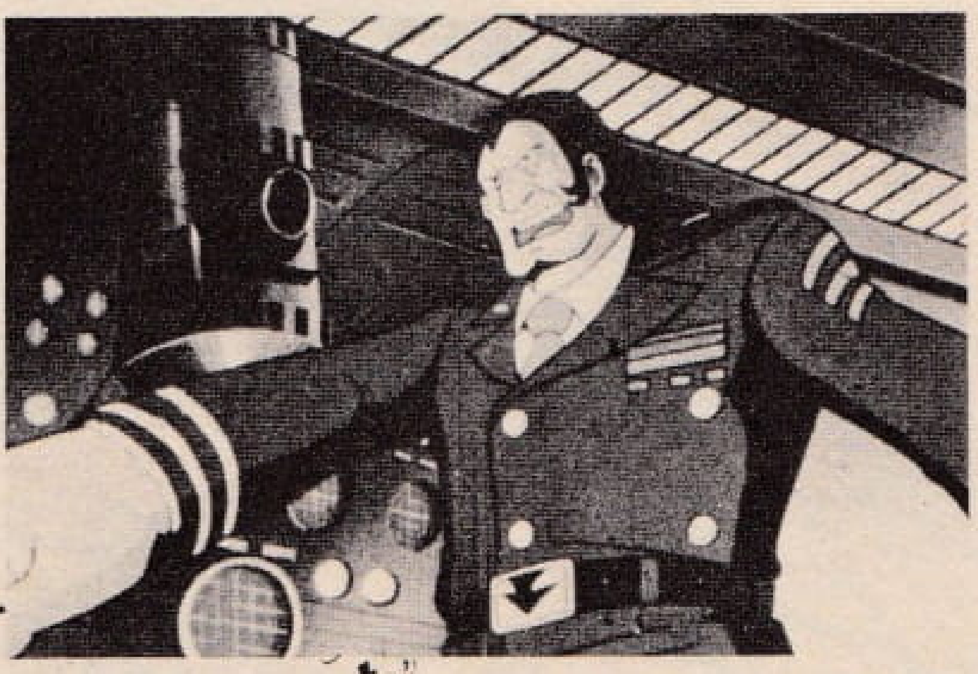
最初に切田長官や地球側の人々を見たときに、ハーロックやミーメ、それにマゾーンの美女たちにくらべてなんて魅力のないキャラクターたちだと思いましてね。フッとほれる感じじゃなかったですね(笑)。で、実際に始まってみると切田長官っていうのは、最初はたいへんな悪者かと思っていたら、地球を愛するがゆえにハーロックを必要なまで追っていた男なのですね。そういった意味でひとつの正義感をもった信念のある男だったわけですし、そんな隠れた男らしさをいかに表現するかが役者としてはおもしろかったですね。だから長官が死んだとき、長官の生き方に感激したファンの方の手紙をもらい、彼の生き様というものが伝わっていたのでうれしかったですね。



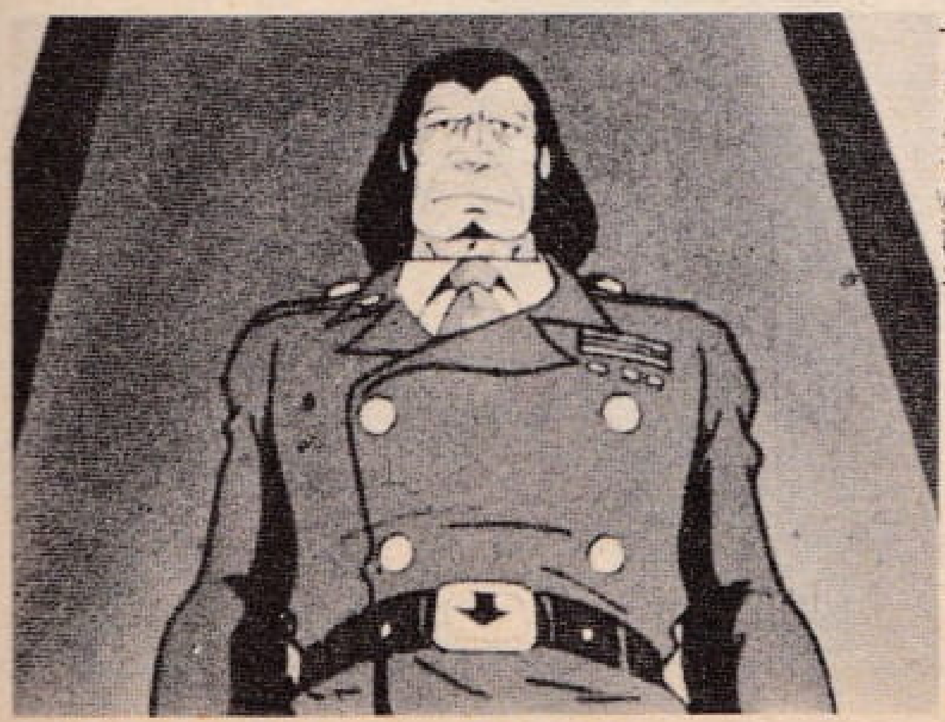














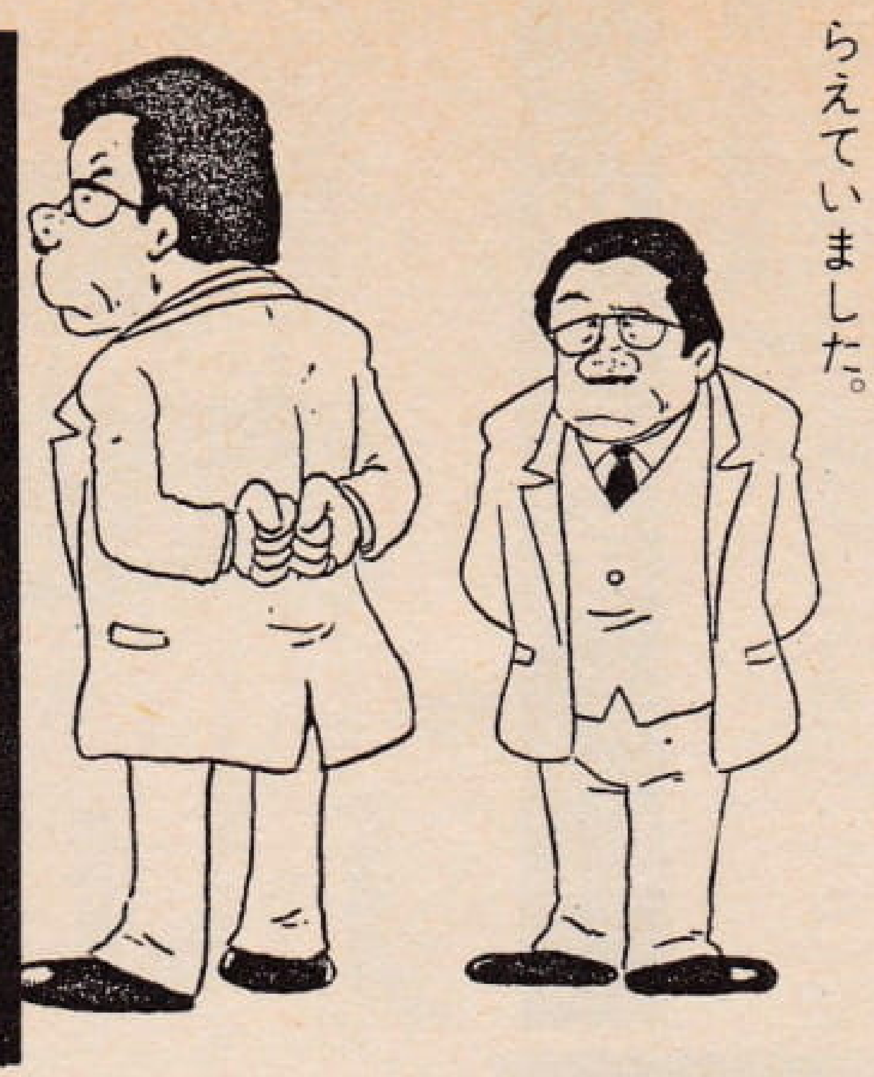
スフィンクス付近

首相

西暦2977年の地球の象徴みたいな人物である。次期選挙に不利なことは一切やらない。ゴルフ、競馬、ドッグレースが趣味。

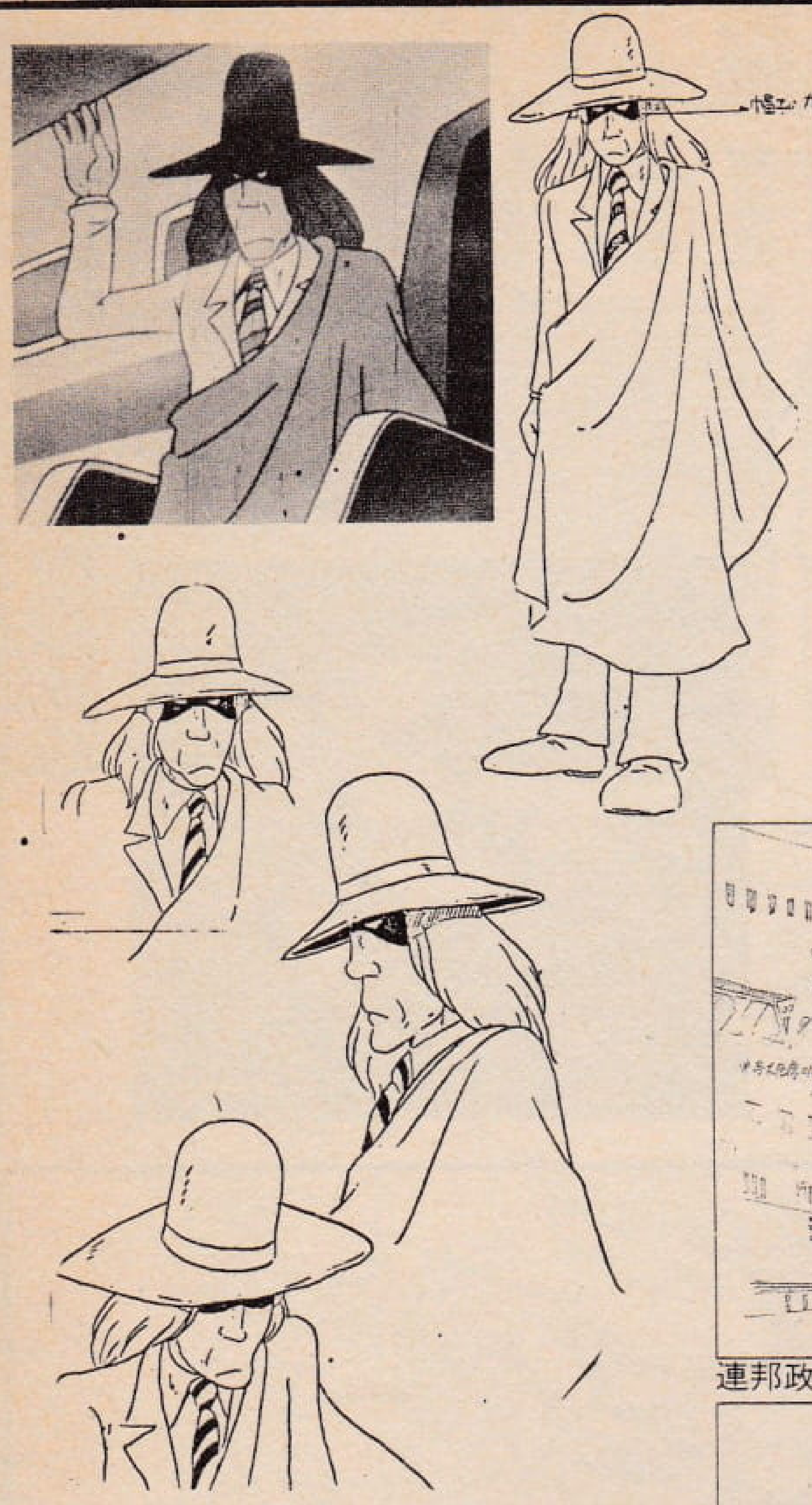
■声・八奈見乗児■

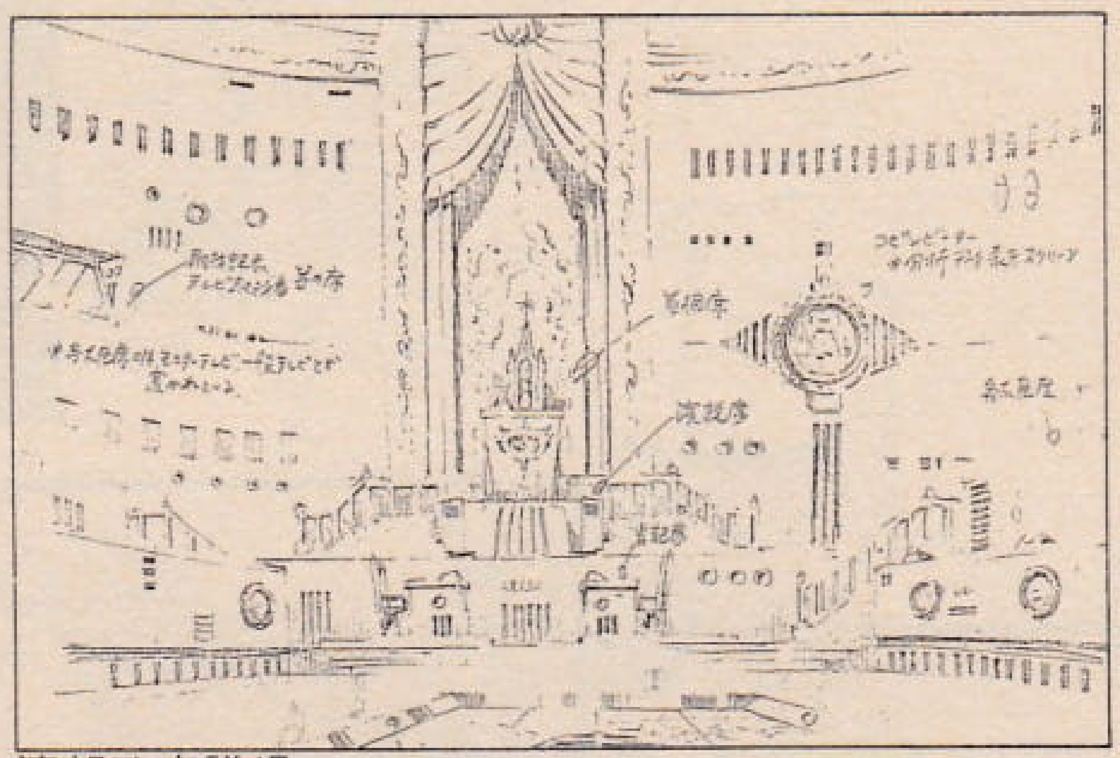
付録のような役でしたから、あまり深く考えませんでした。どなっていればさまになる、ふざけた、喜怒哀楽のはげしい人物としてとらえていました。



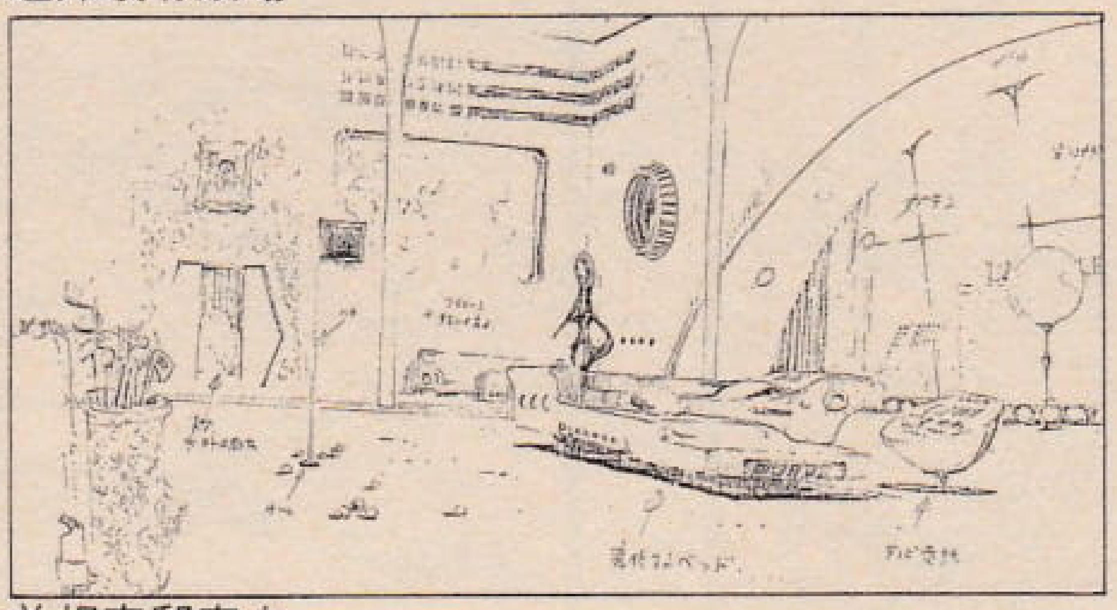
クスコ教授

古代マヤ文字研究家。地球に打ち込まれた黒い球体の文字を解読し、宇宙人の侵略を告げるが、そのためマゾーンに殺される。だらけきった地球をうとんじていた。





連邦政府議場



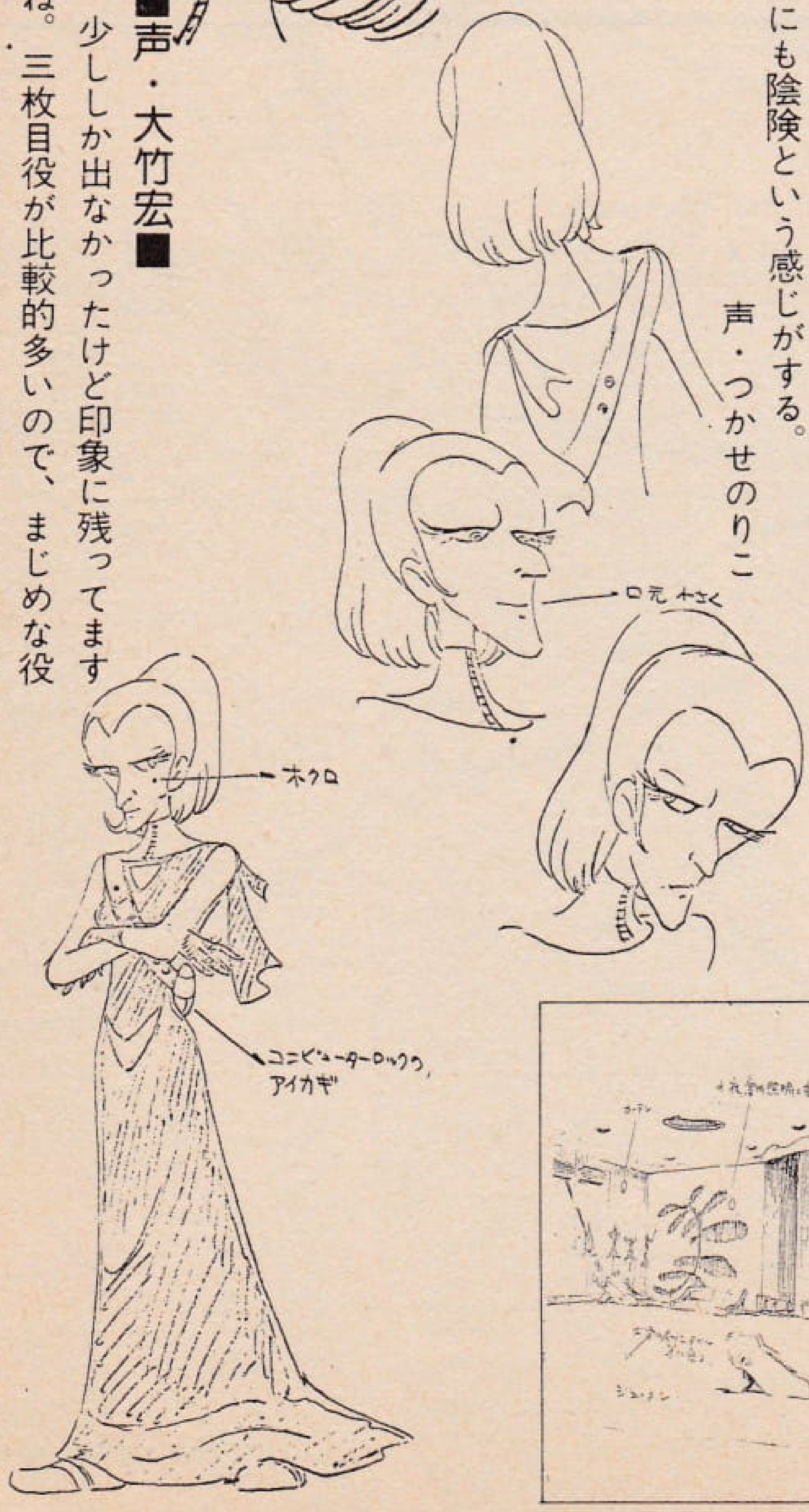
首相官邸寝室





■声・大竹宏■

少ししか出なかったけど印象に残ってますね。三枚目役が比較的多いので、まじめな役がくるとうれしいんです。50歳ぐらいの高い年齢として演じました。



学長

聖ジョバンナ学園の学長。切田長官のいいなりだが、まゆを心配することもある。

声・小原乃梨子

舎監

本名は根民筋子という。名前、容姿からいかにも陰険という感じがする。

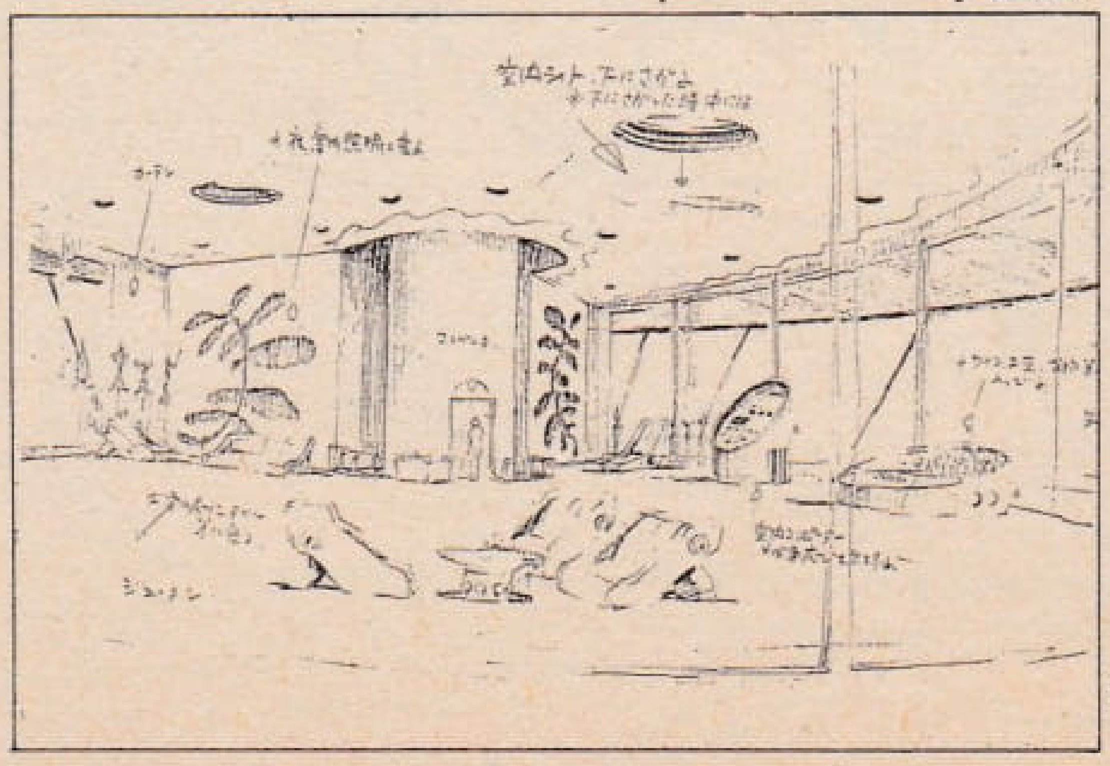
声・つかせのりこ







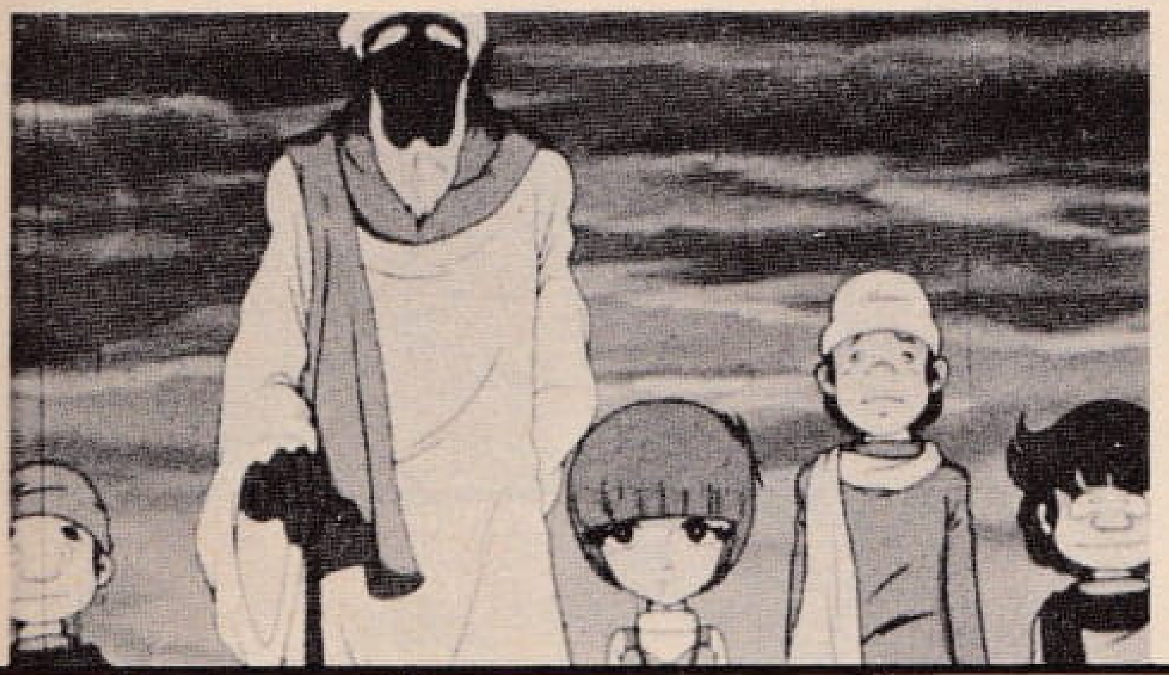
学長室



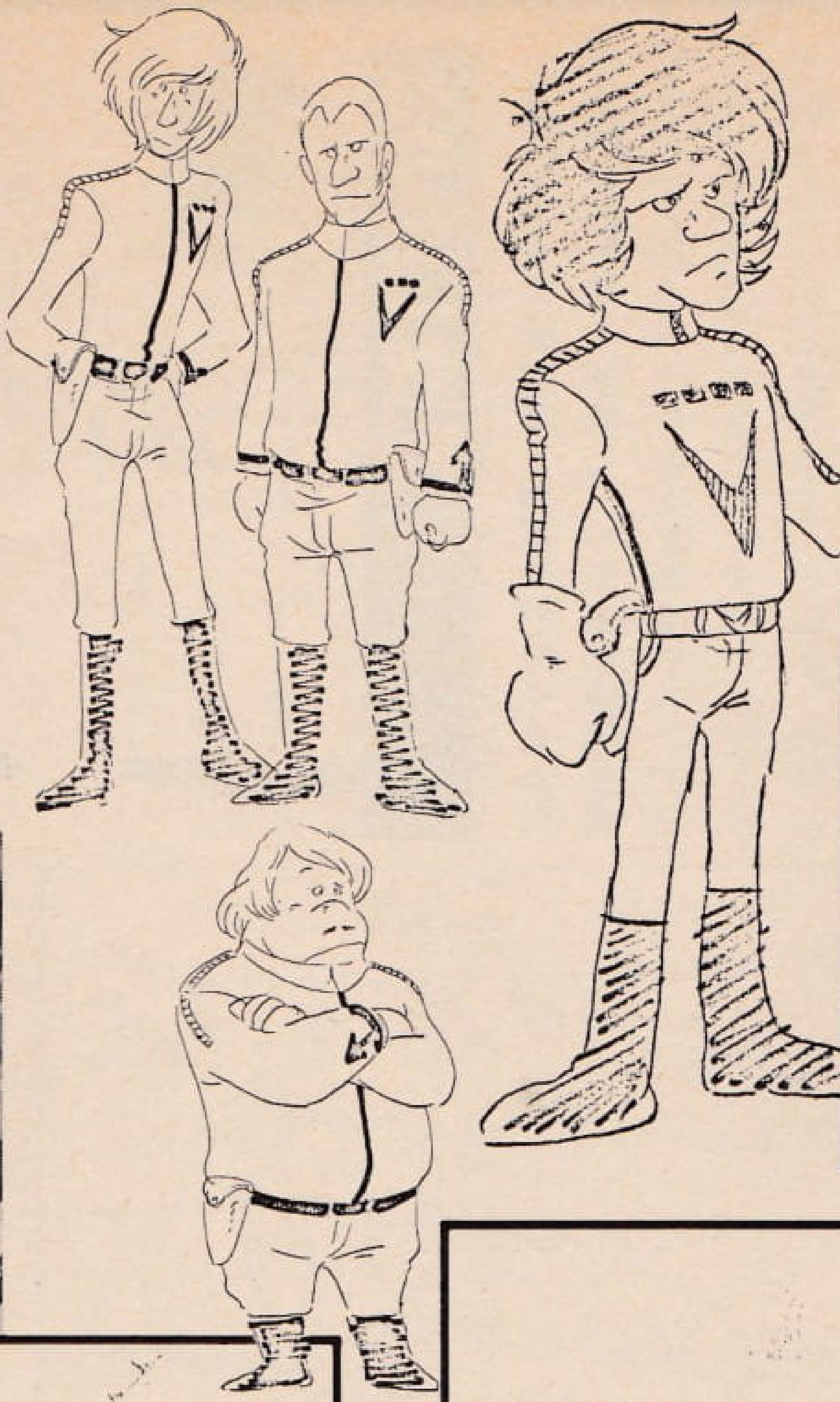
ハッシ長老

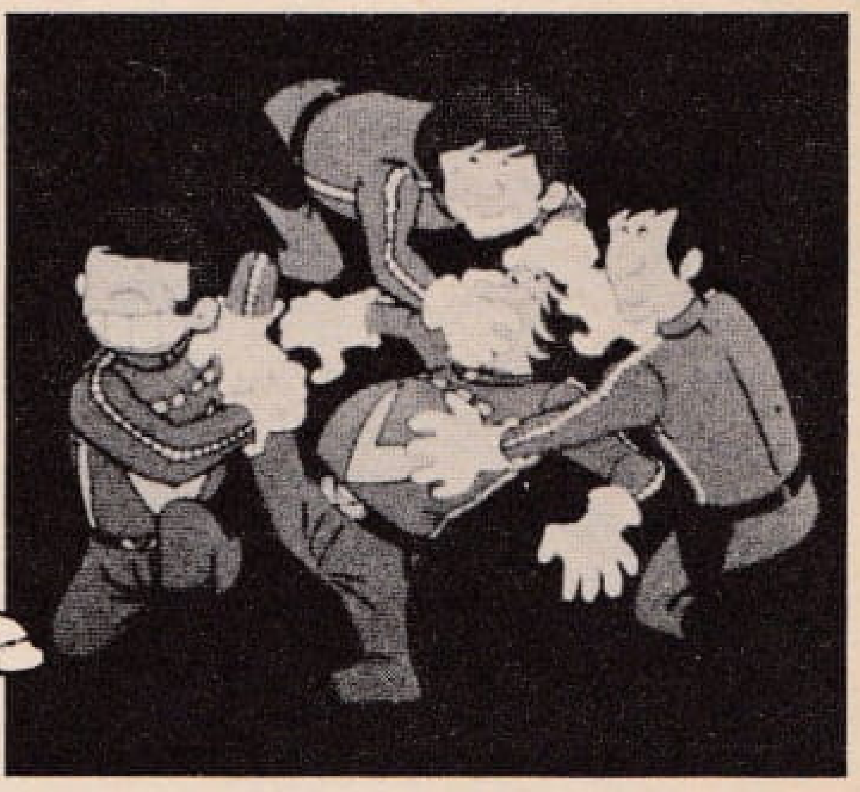
声・緒方賢一
クルナ村でみなし子たちを育てている。切田長官の育ての親。

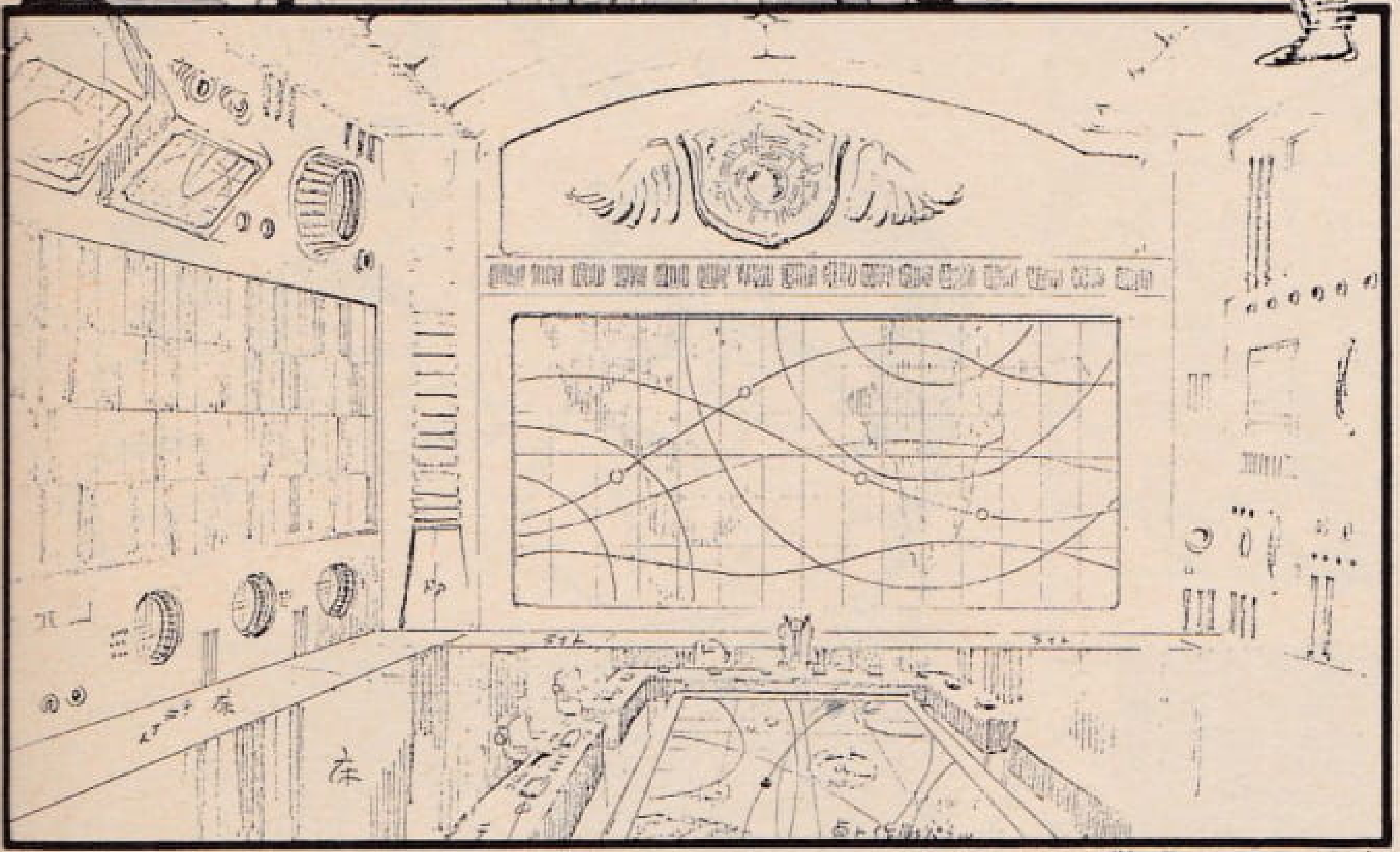




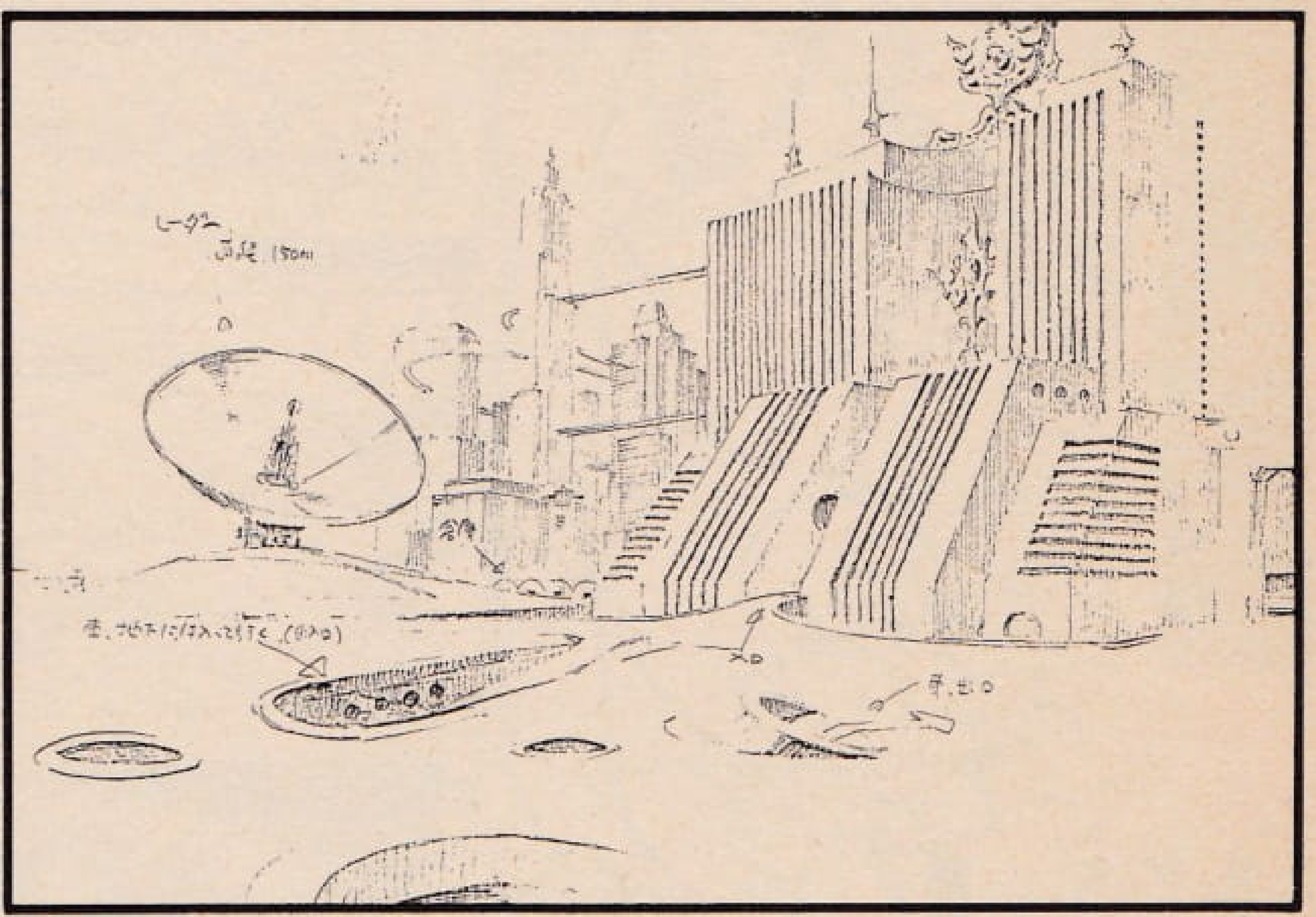
地球警備隊作戦室係官



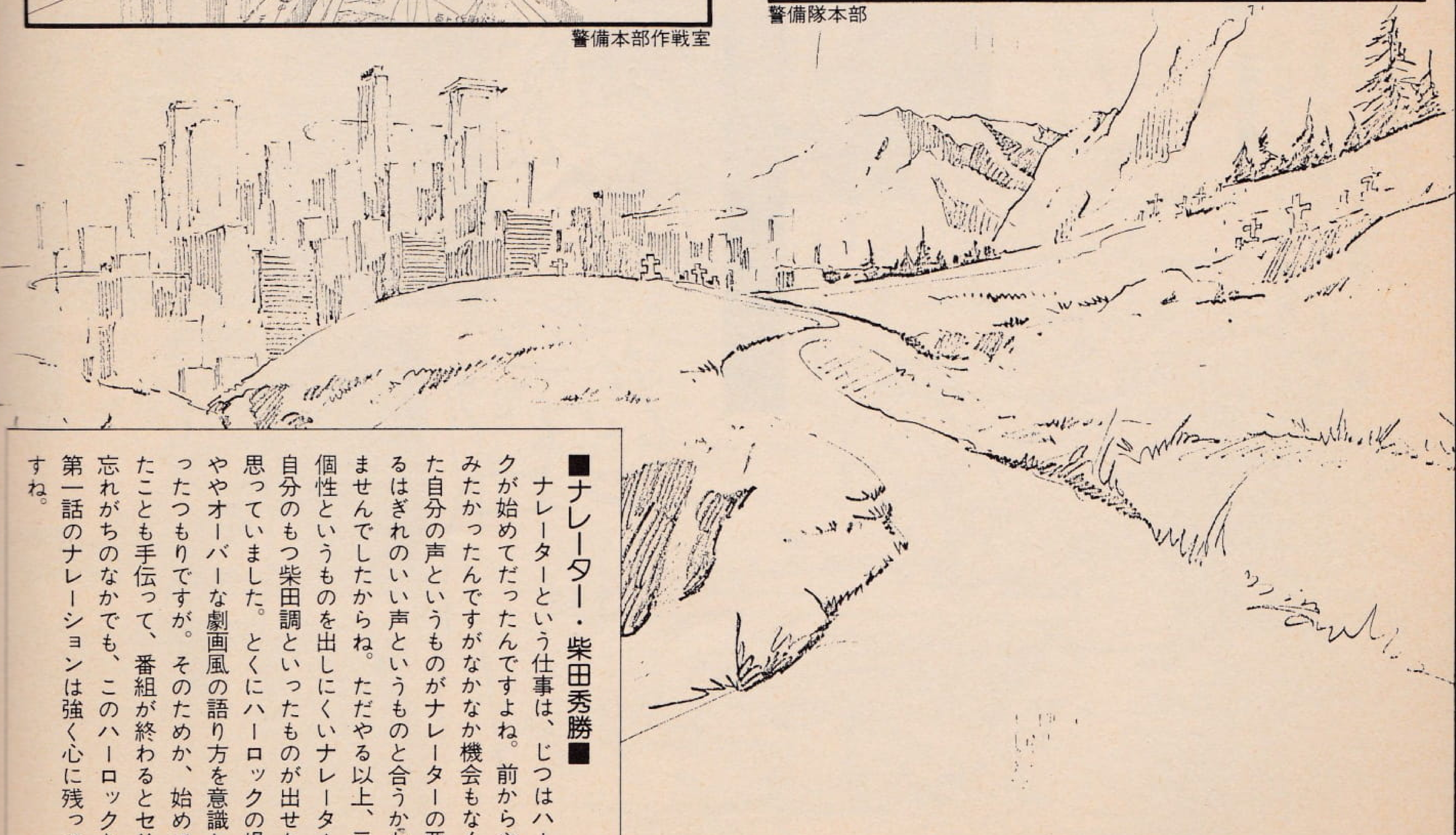




警備本部作戦室



警備隊本部



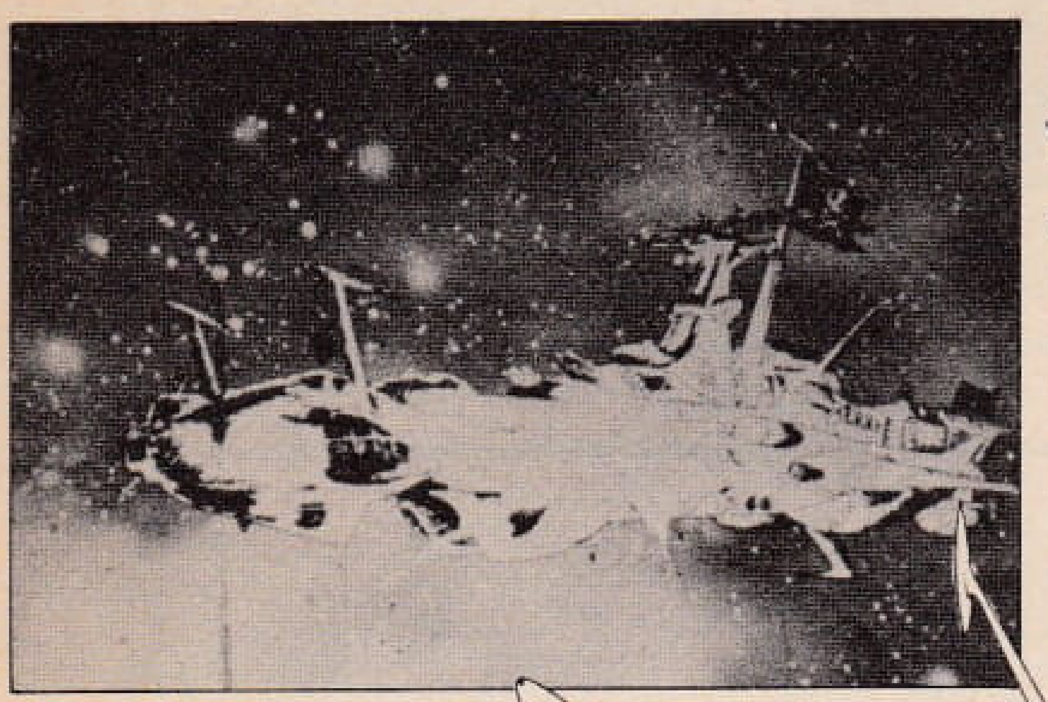
丘の上の基地

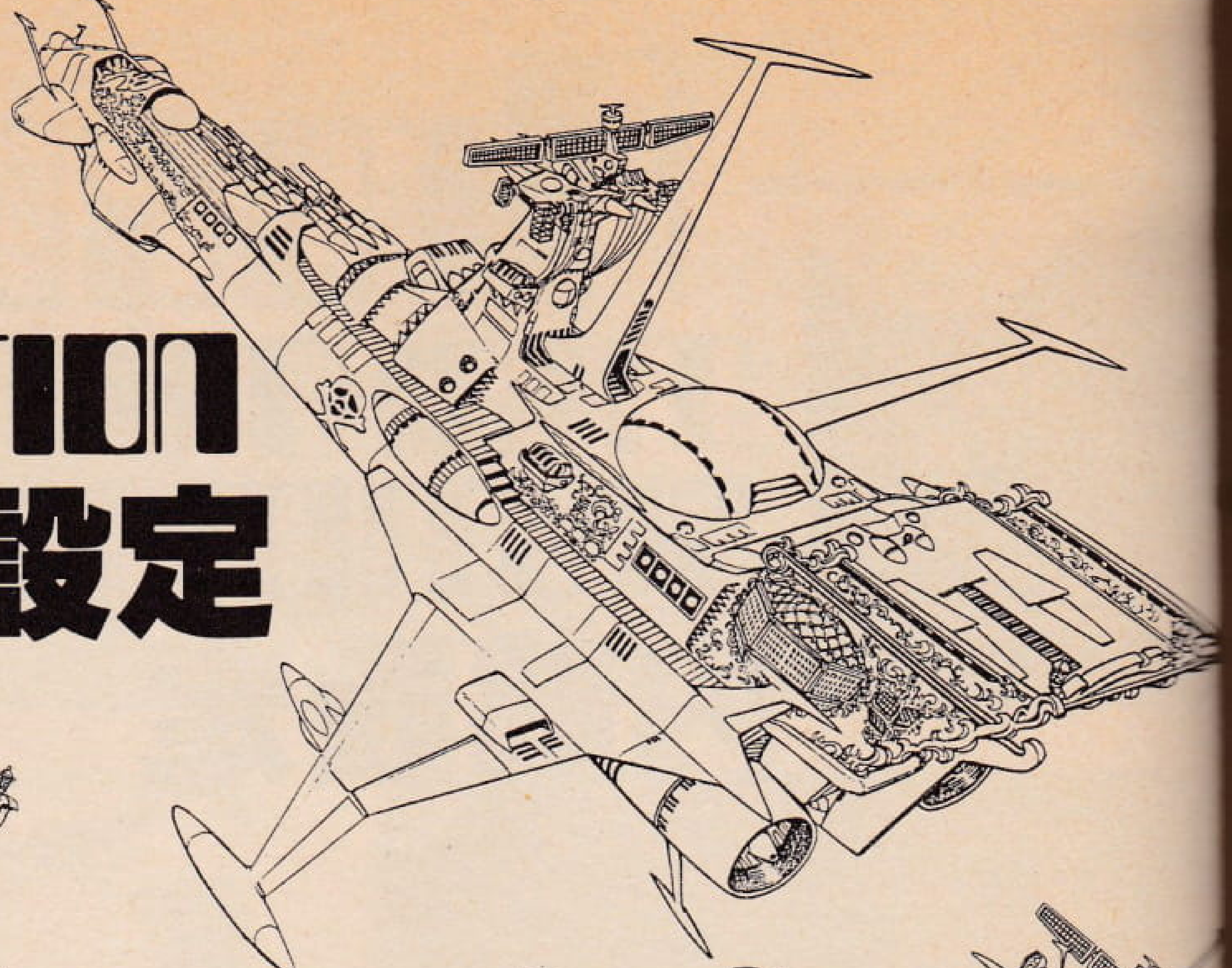
■ナレーター・柴田秀勝■

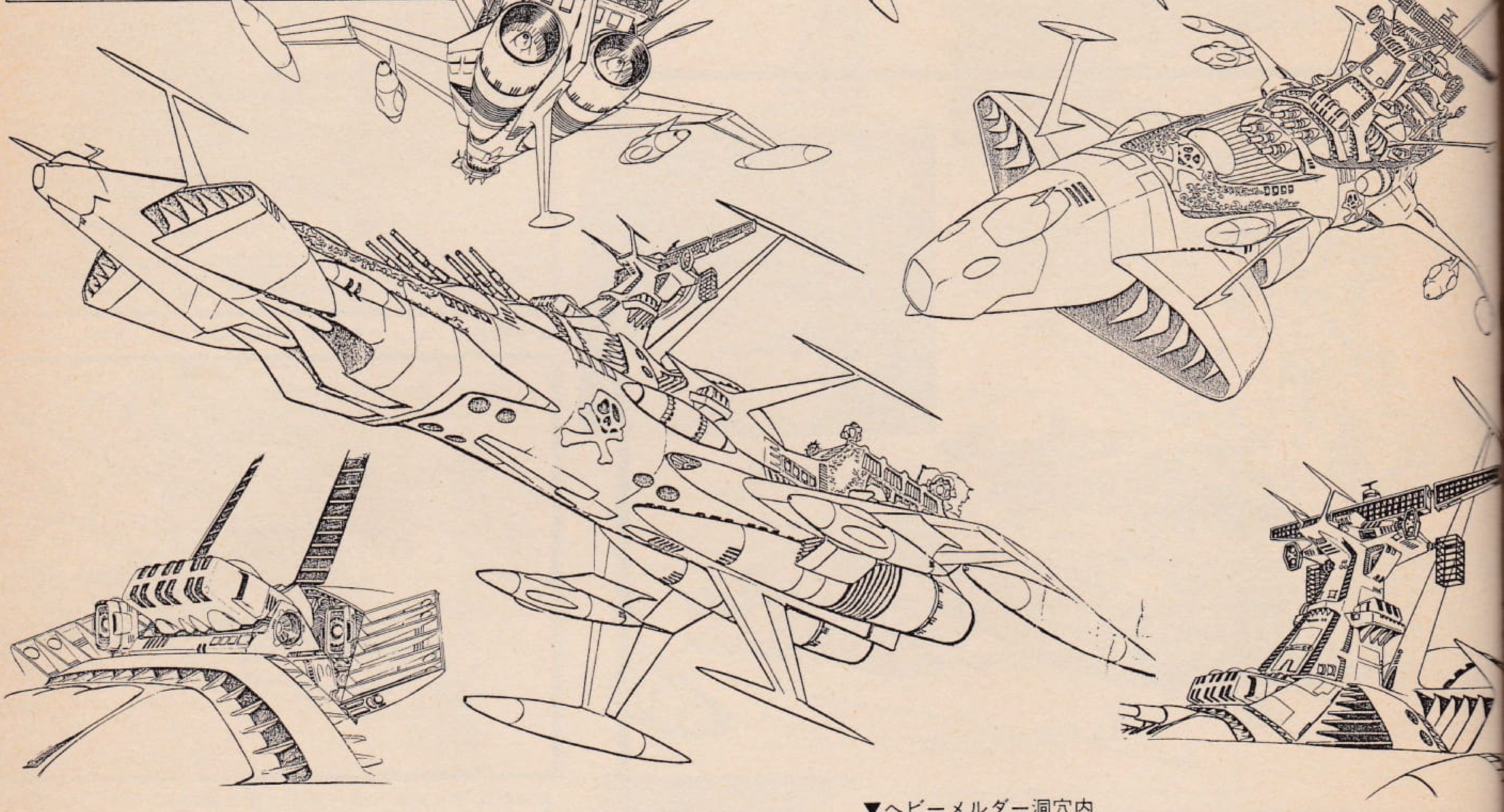
ナレーターという仕事は、じつはハーロックが始めてだったんですよね。前からやってみたかったんですがなかなか機会もなく、また自分の声というものがナレーターの要求するはぎれのいい声というものと合うかわかりませんでしたからね。ただやる以上、元来、個性というものを出しにくいナレーターにも自分のもつ柴田調といったものが出せたらと思っていました。とくにハーロックの場合は、ややオーバーな劇画風の語り方を意識してやったつもりですが。そのためか、始めてだったことも手伝って、番組が終わるとセリフを忘れがちのなかでも、このハーロックとくに第一話のナレーションは強く心に残っていますね。

Arcadia MECHANIC SECTION

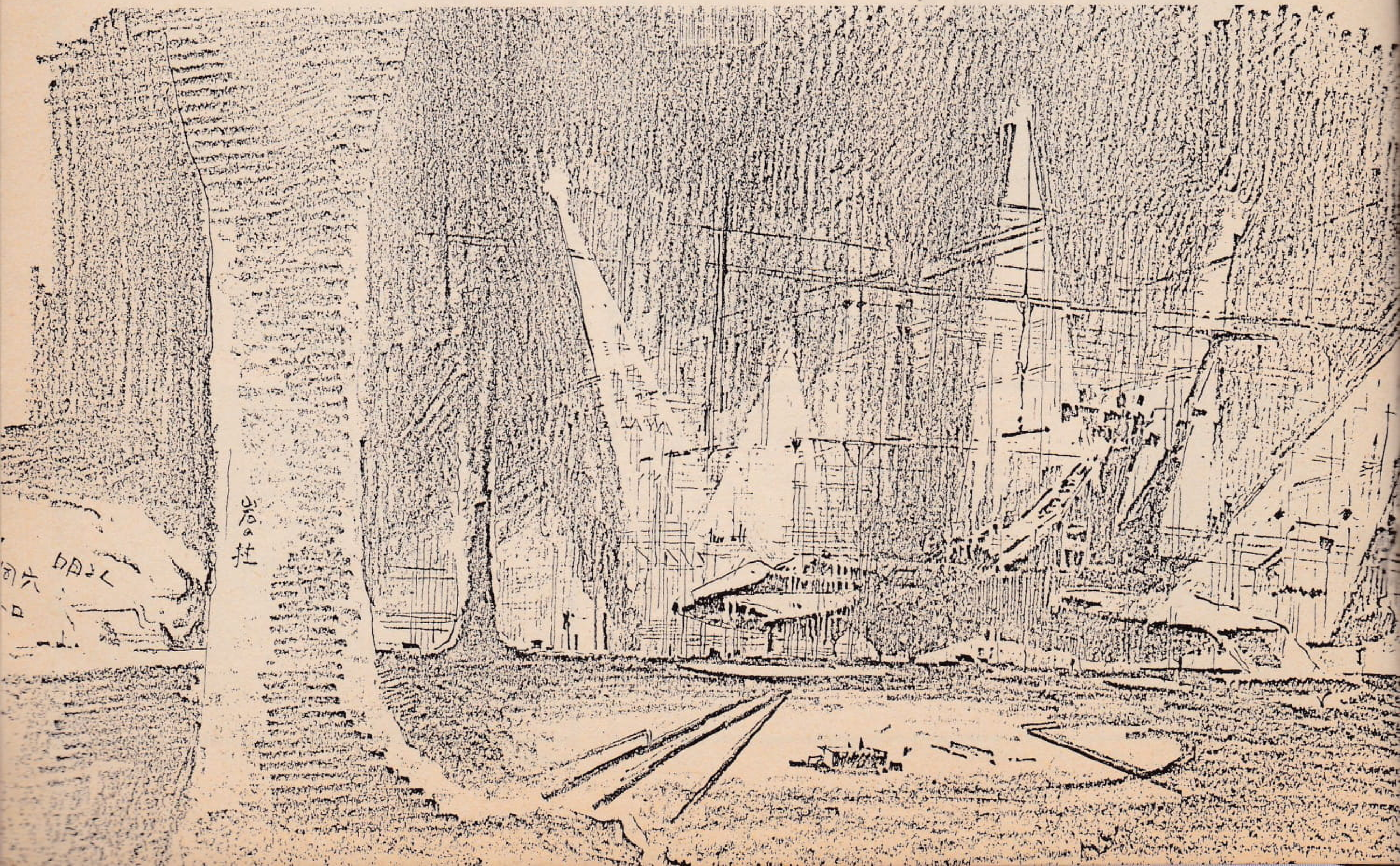
外装設定

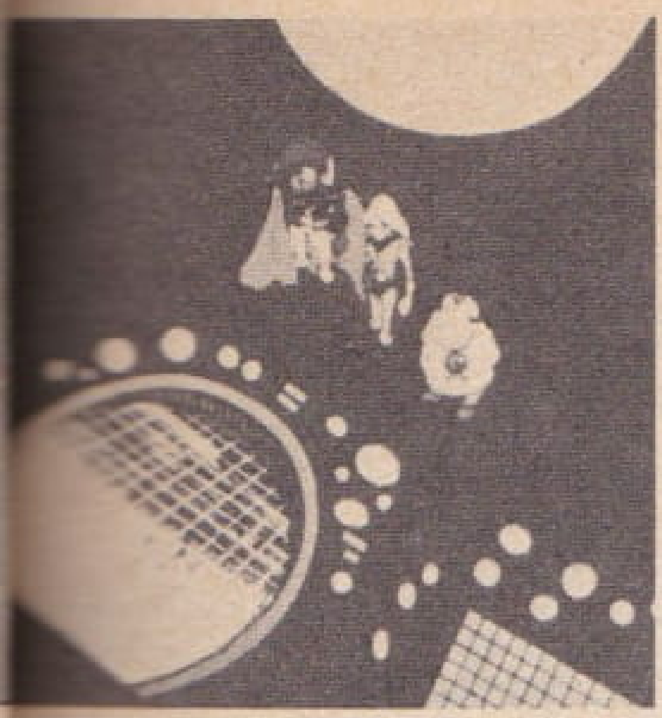




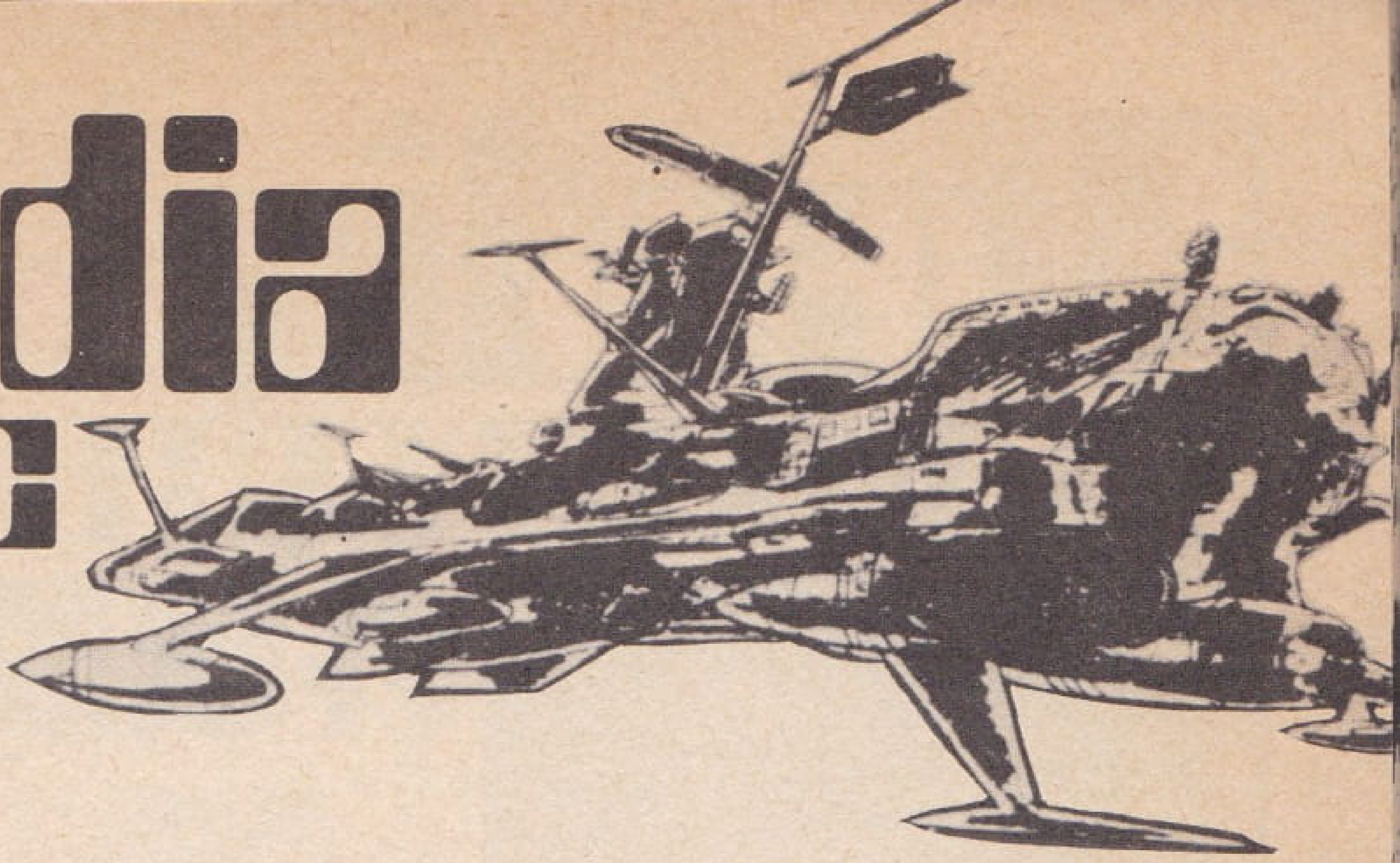


▼ヘビーメルダー洞穴内



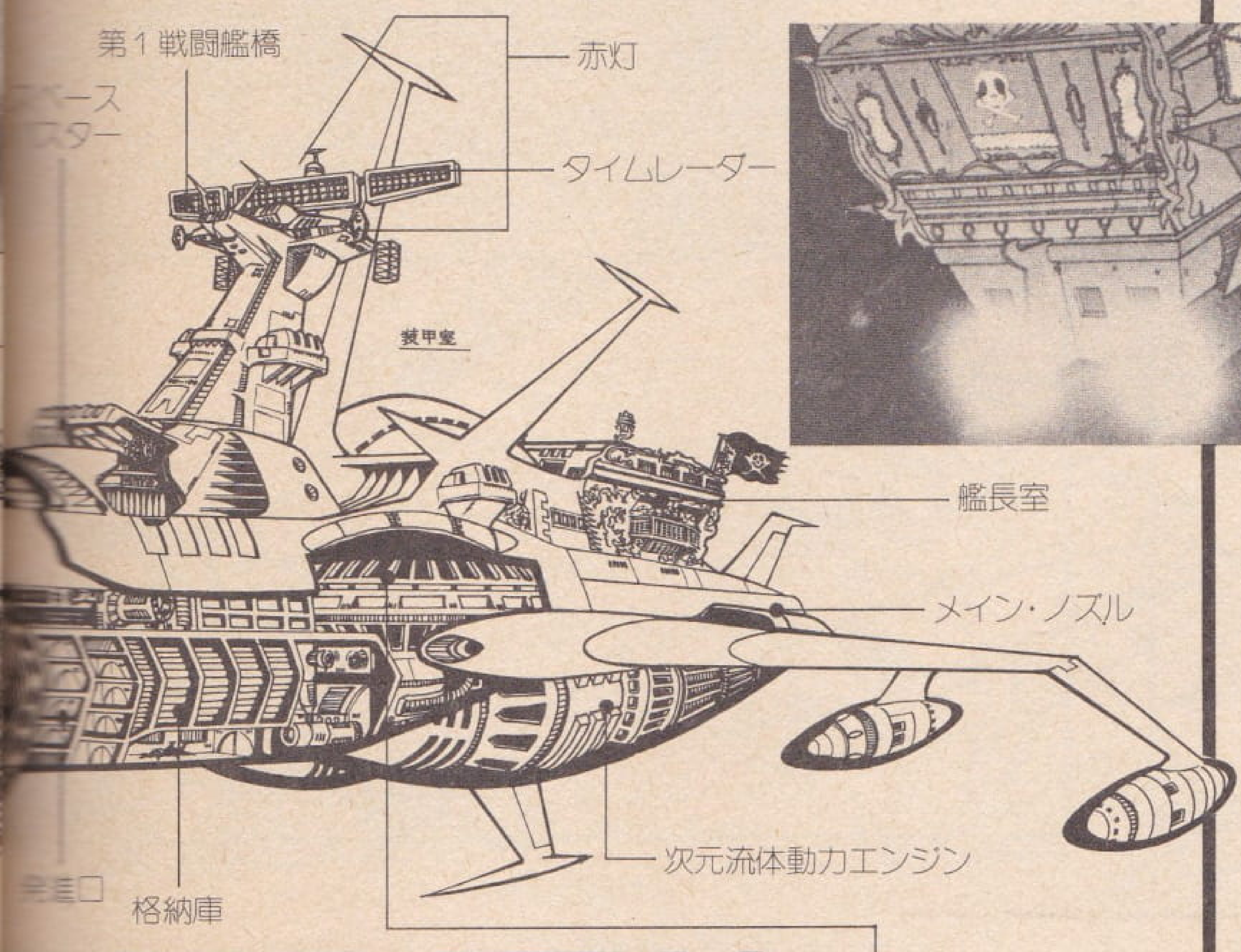


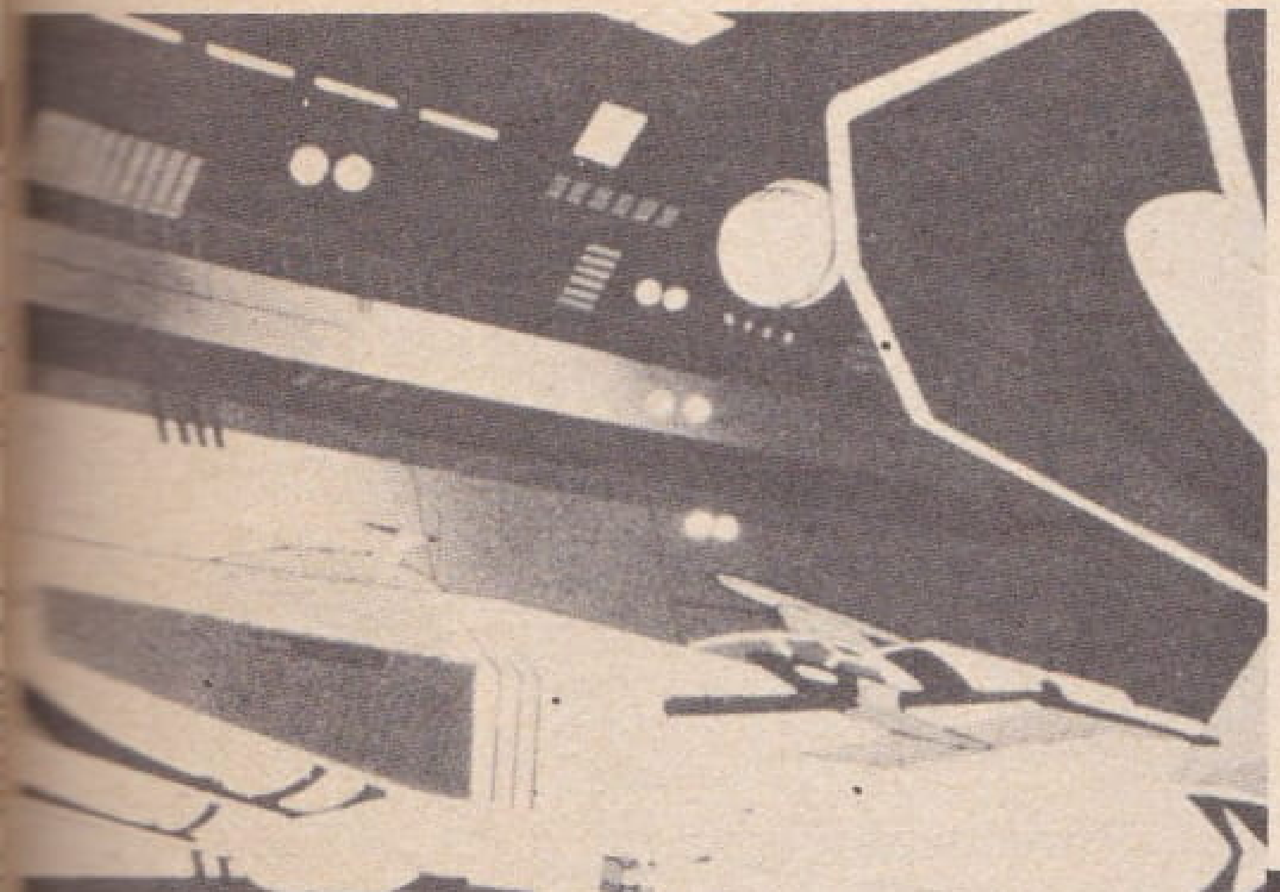
Arcadia MECHANIC SECTION
内部設定

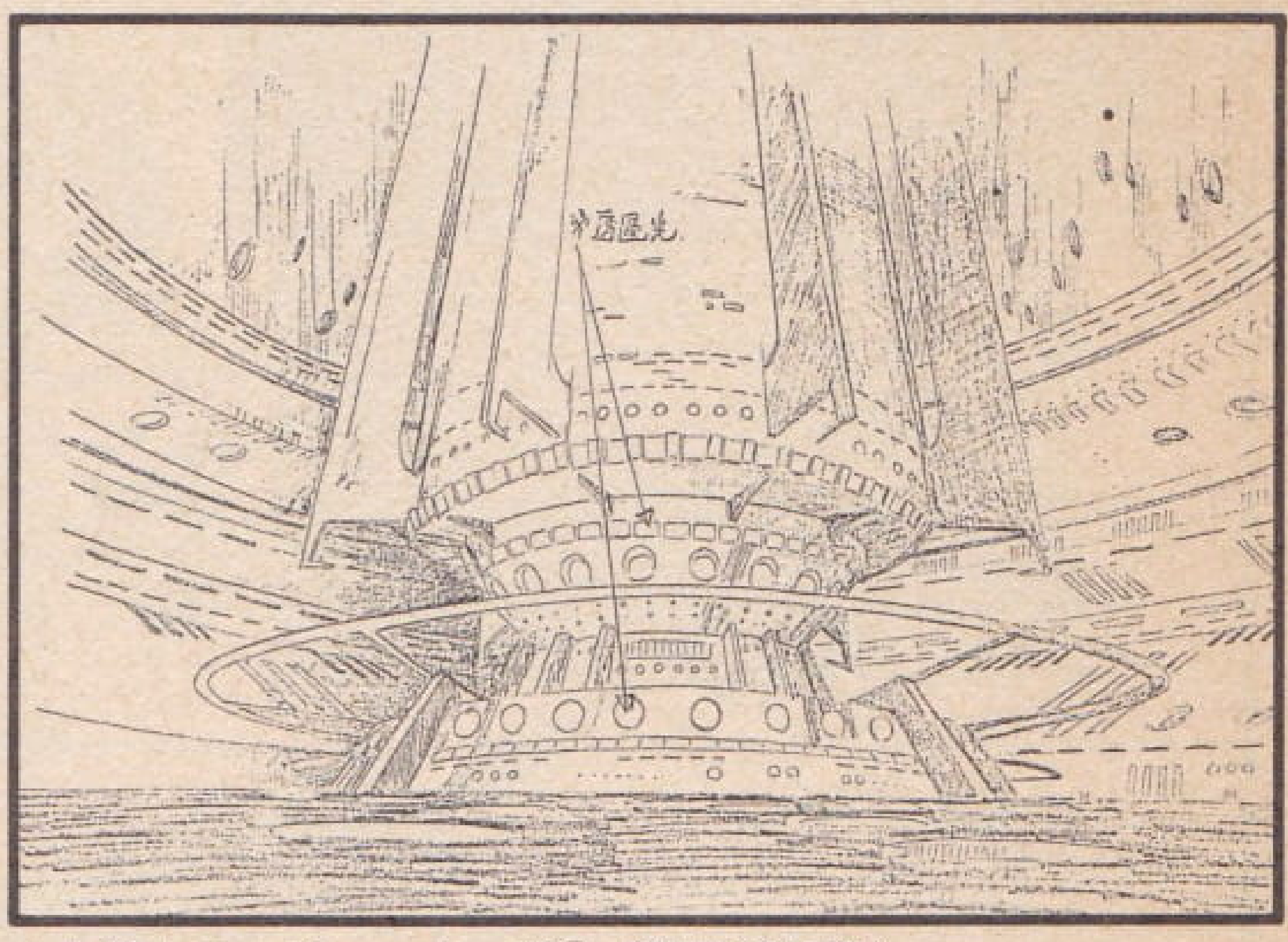


ザイン・スタジオぬえ

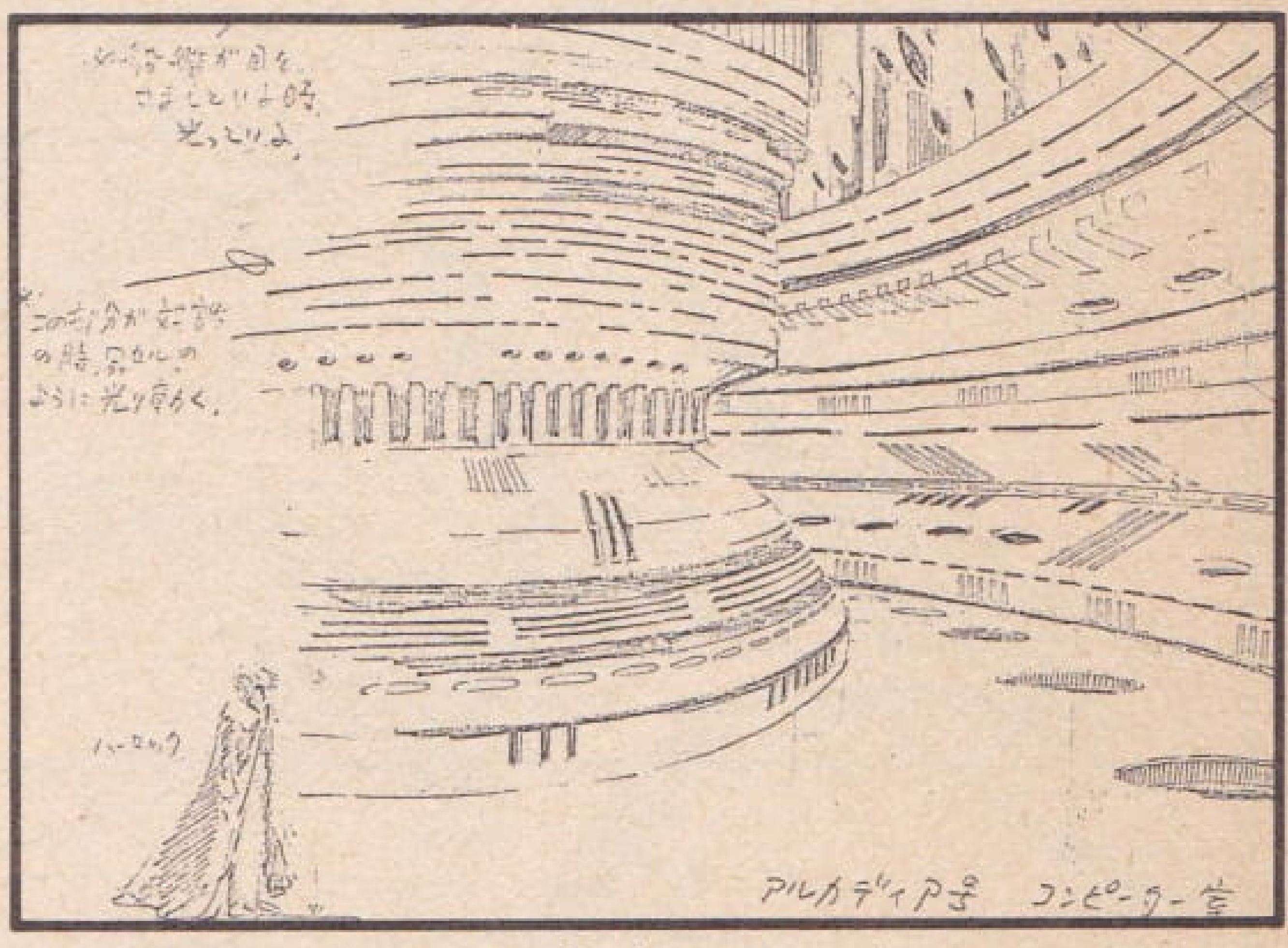
ラスト・金井弘(協力・ARCADIA)



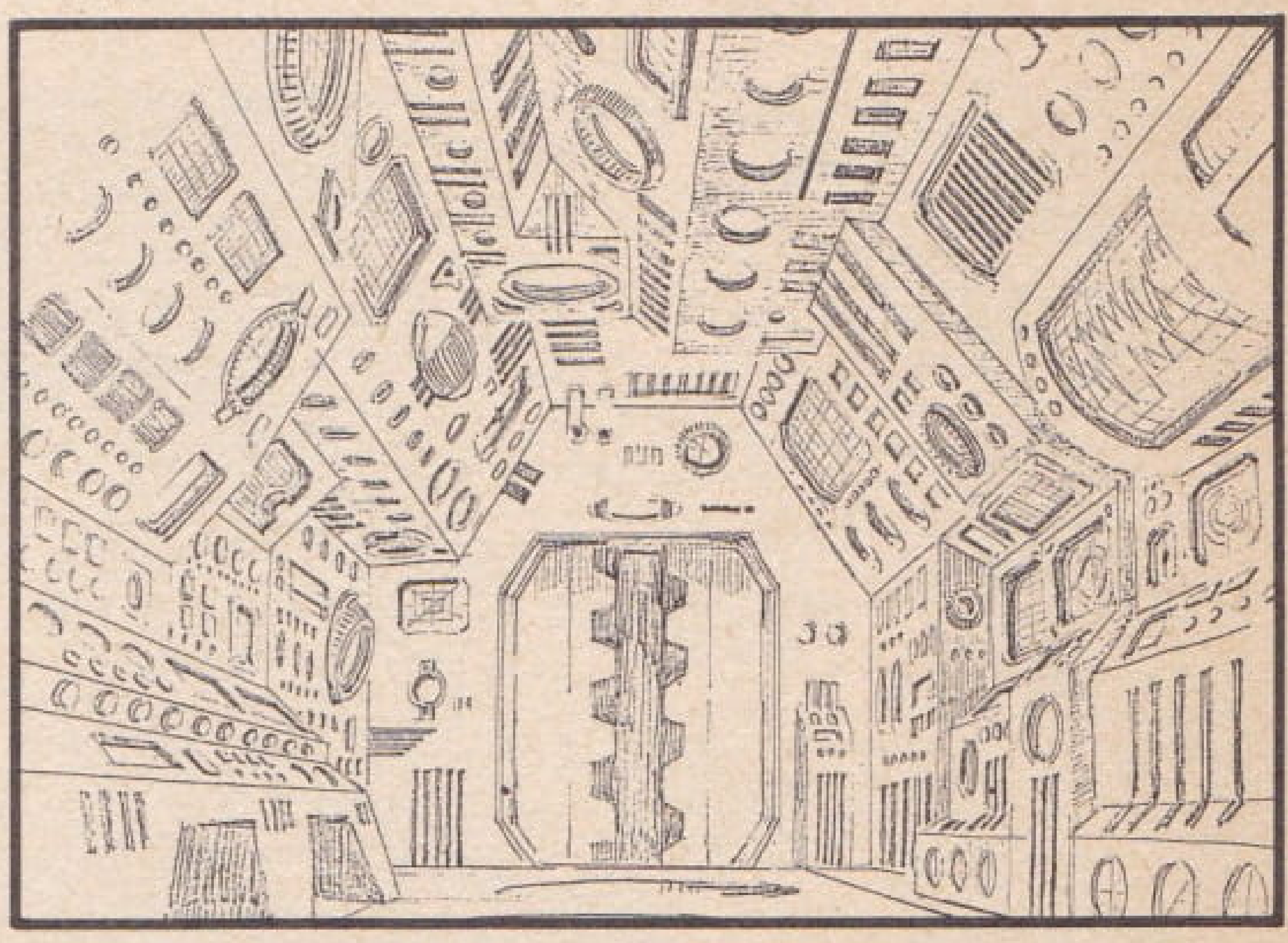




▲中枢大コンピューター室①（第13話以降）



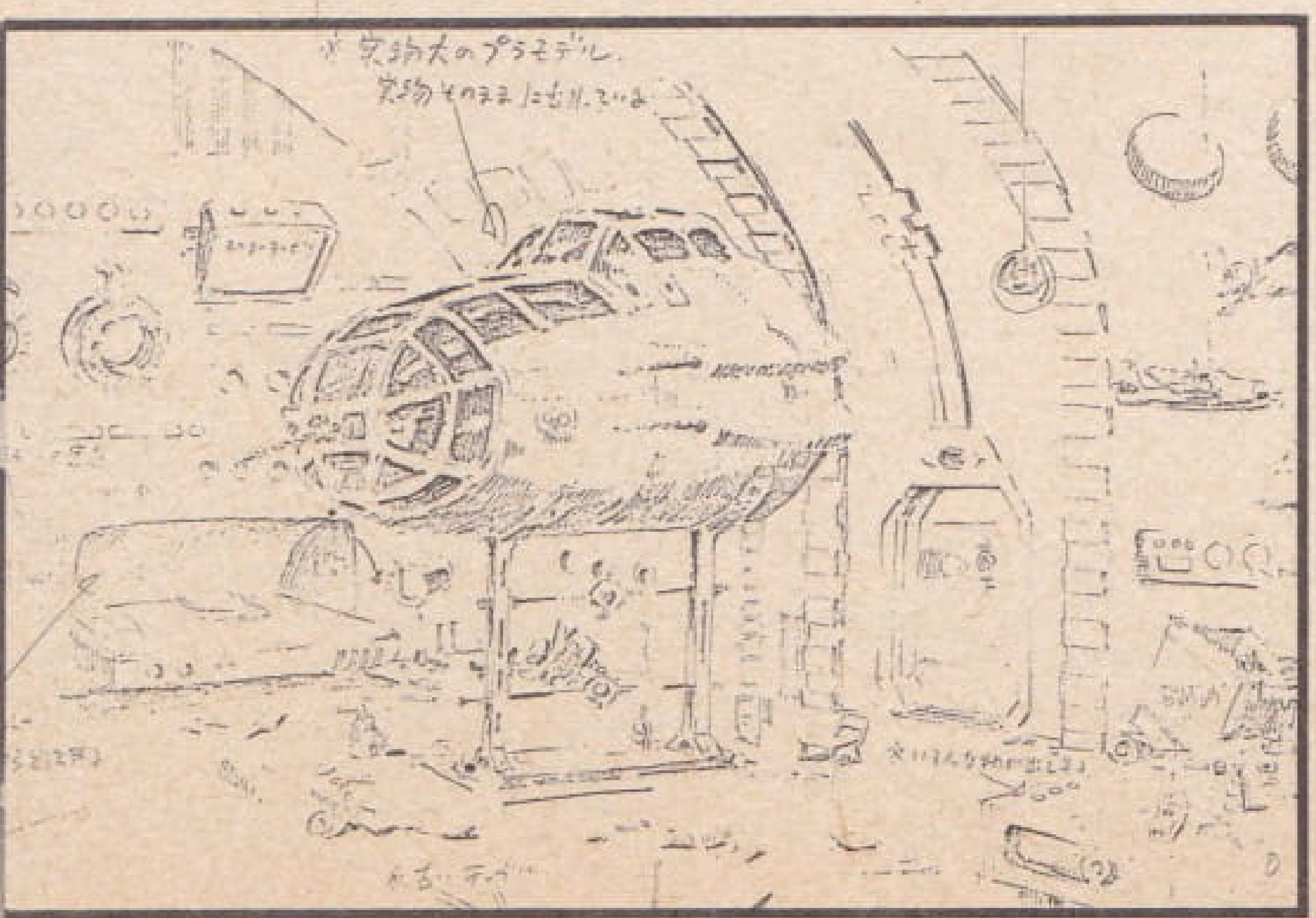
▲中枢大コンピューター室②（第9話のみ）



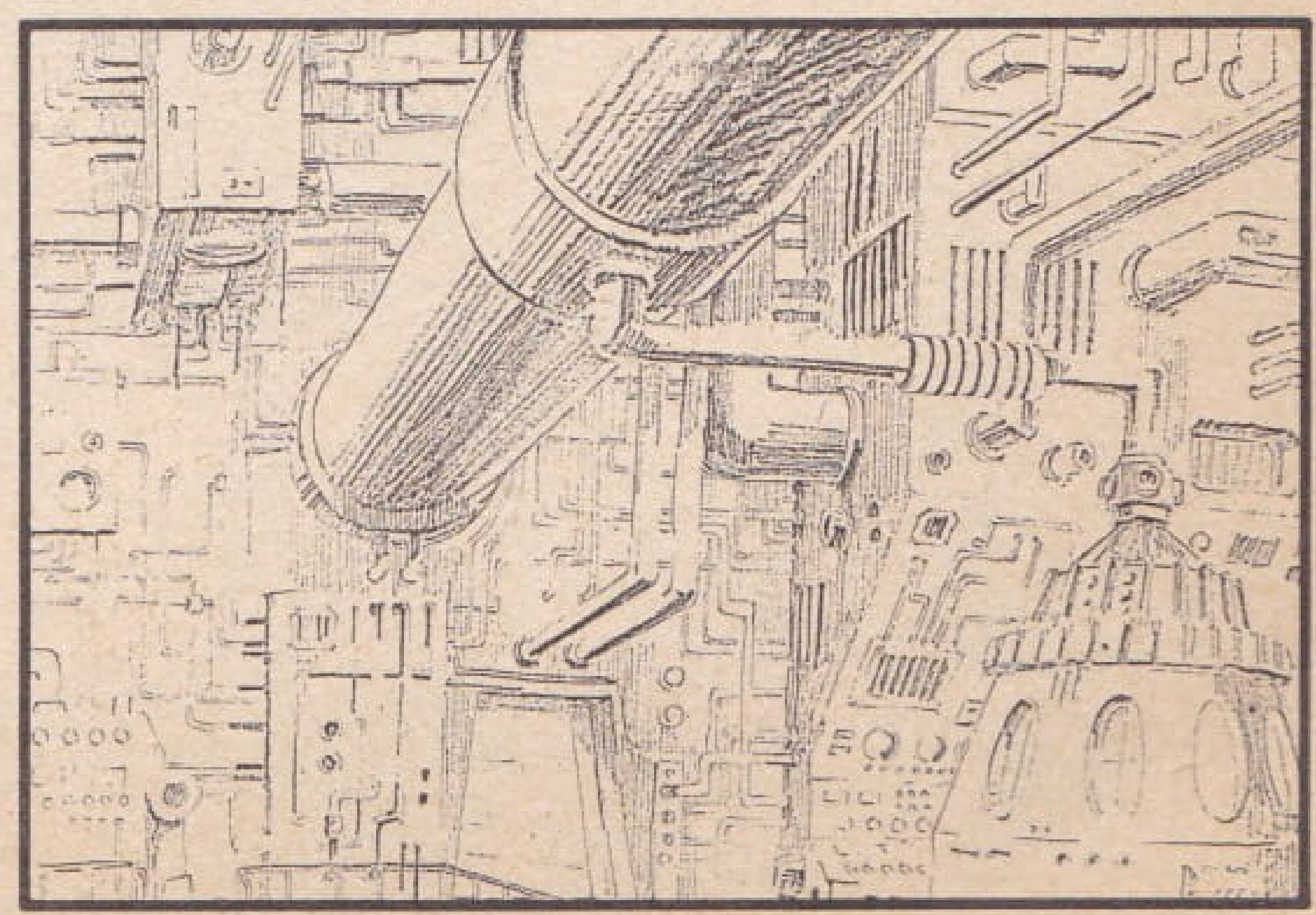
▲コンピューター操作室



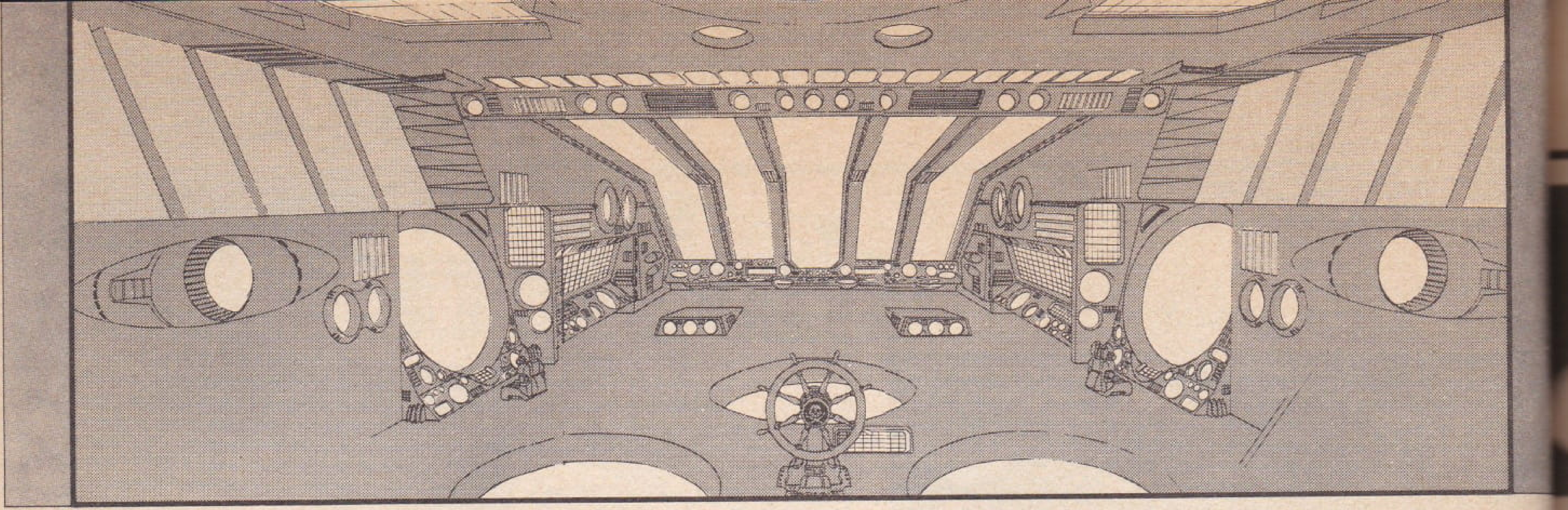




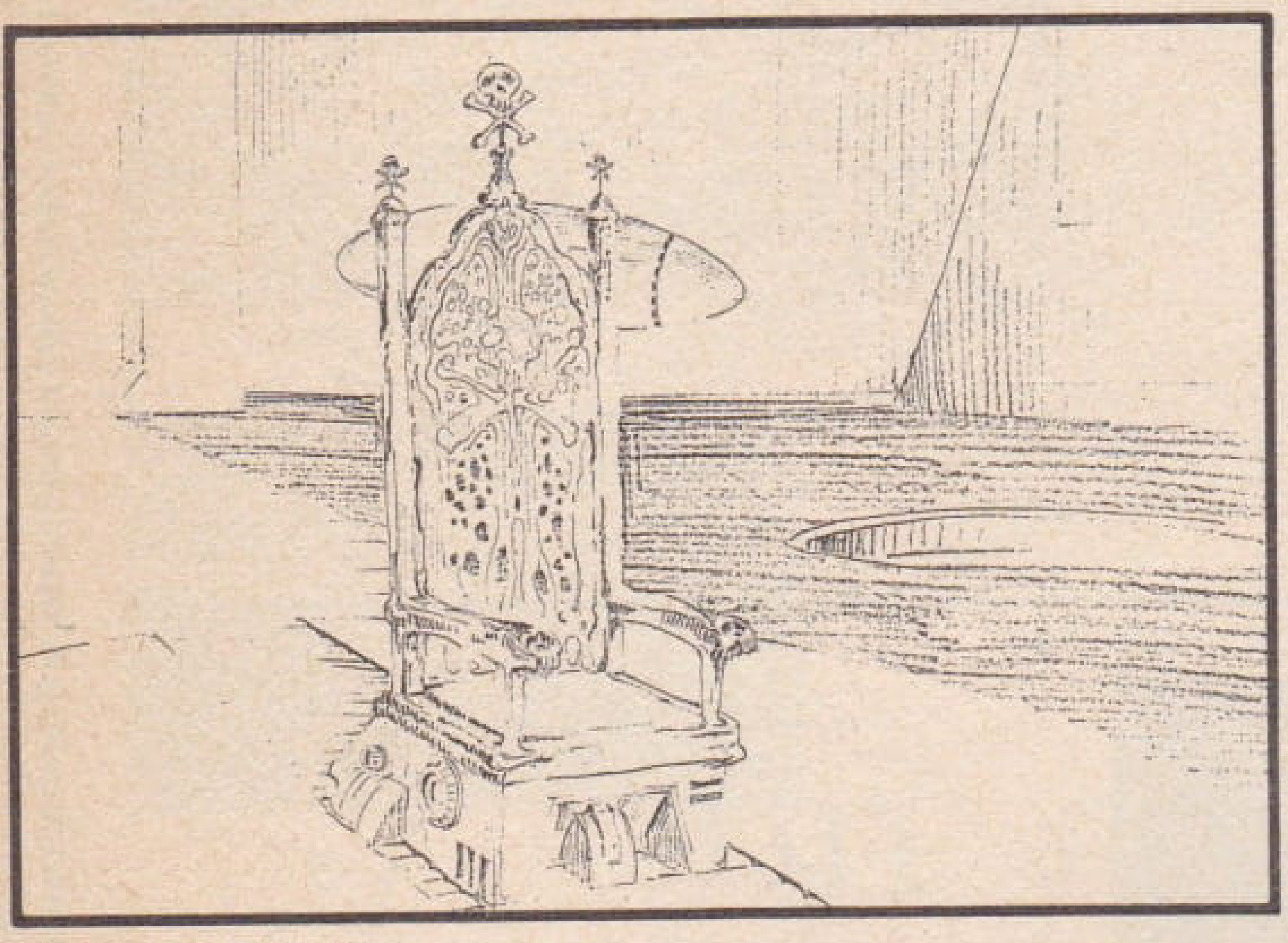
▲ヤッタラン副長室



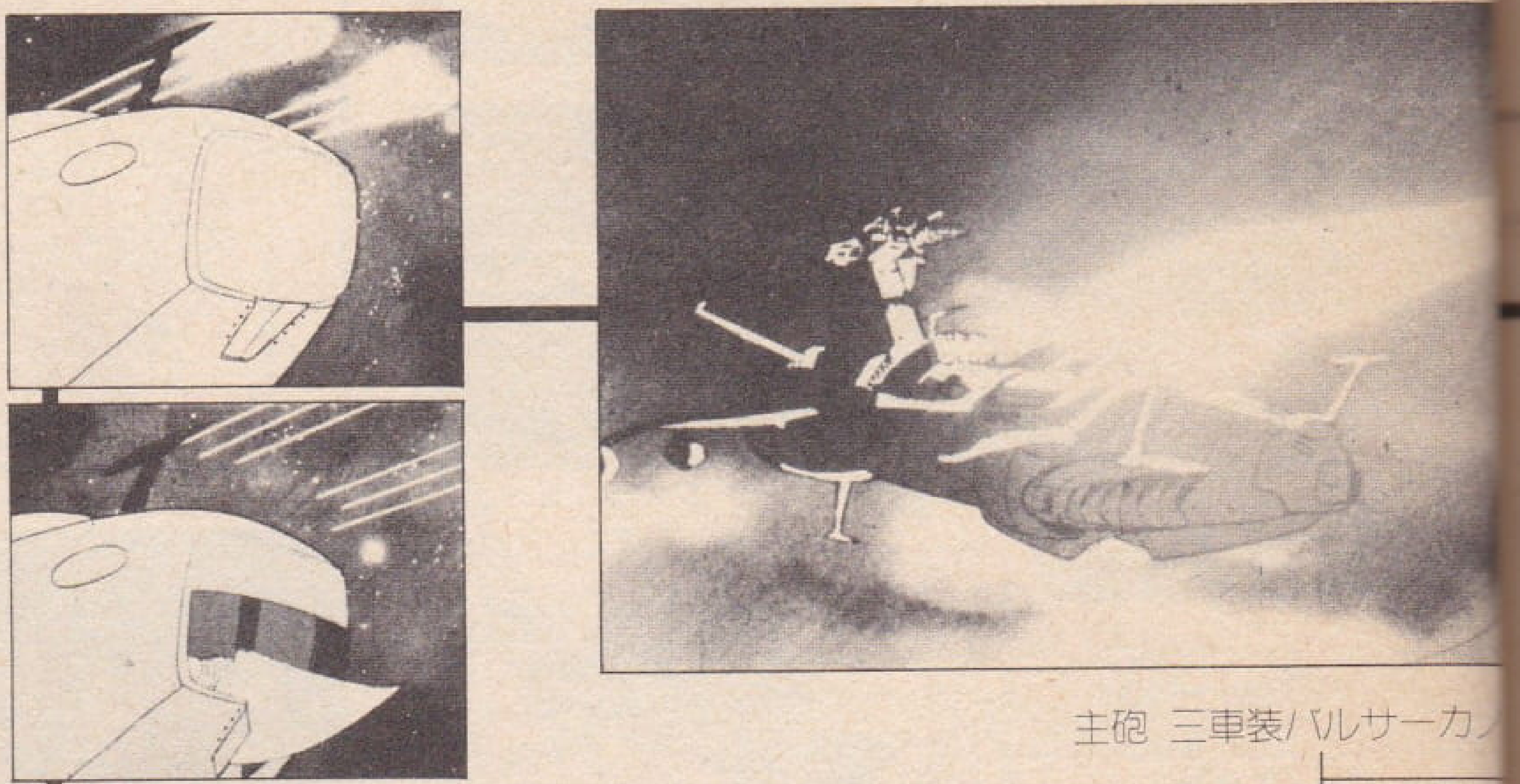
▲機関部コンピューター室

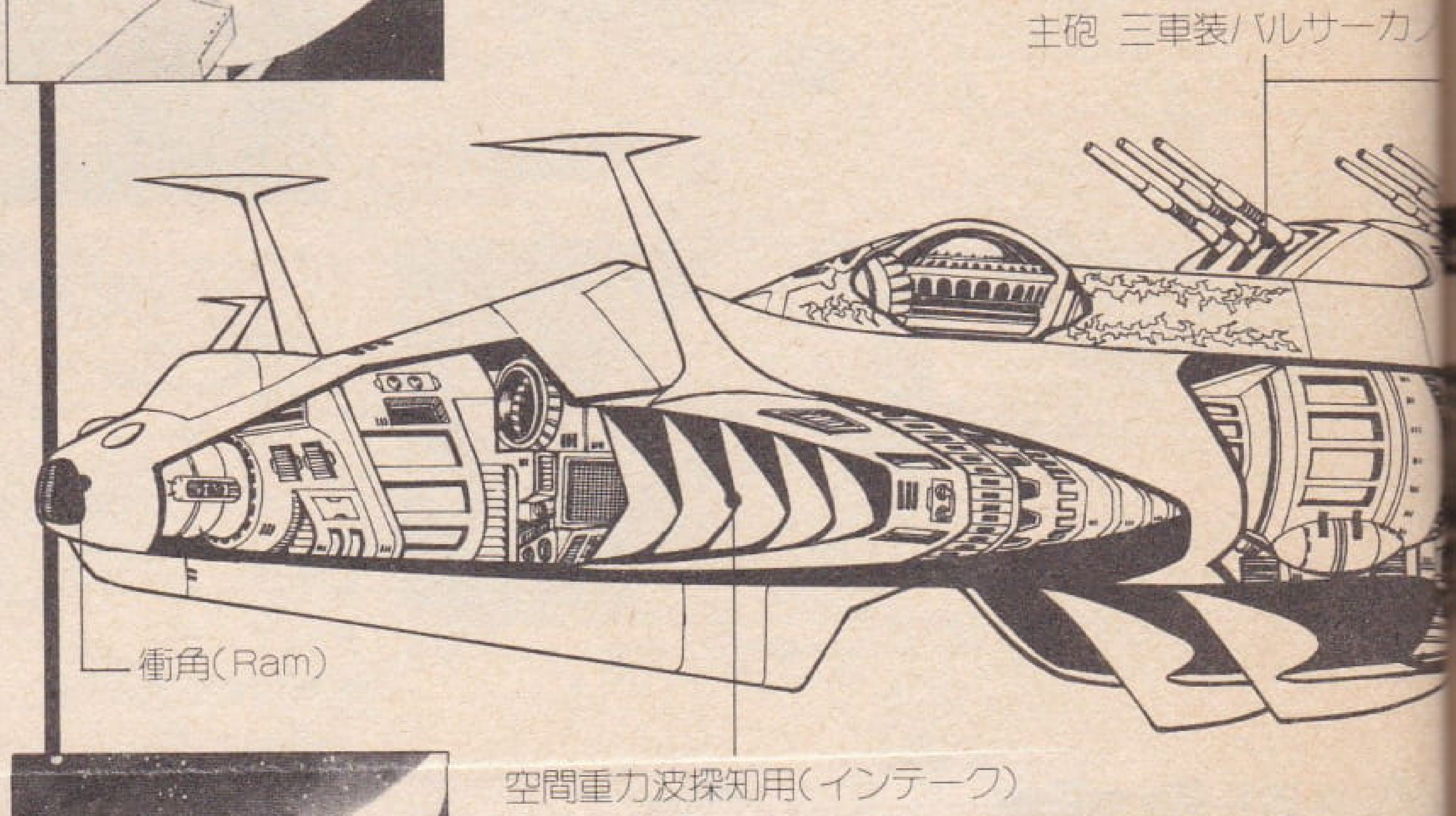


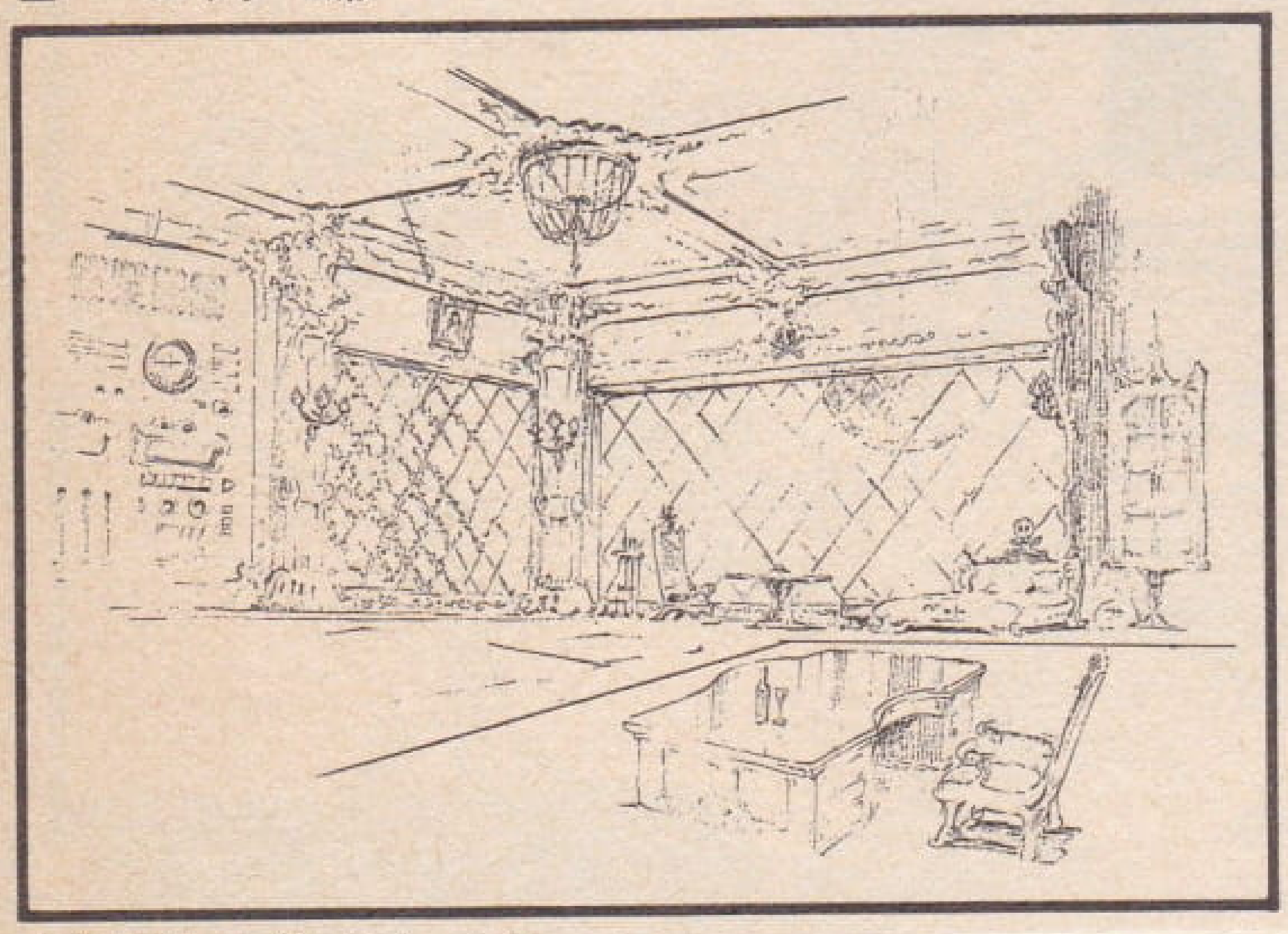
▲アルカディア号・ブリッジ（戦闘艦橋）



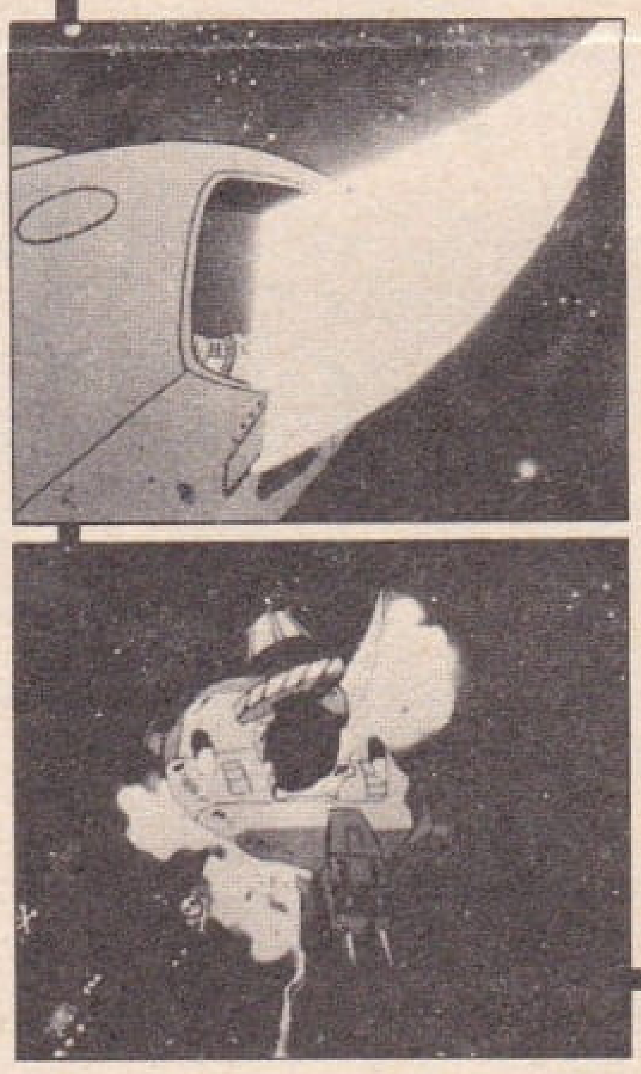
▲ハーロックの席







▲艦長室・プライベートルーム



■アルカディア号解説

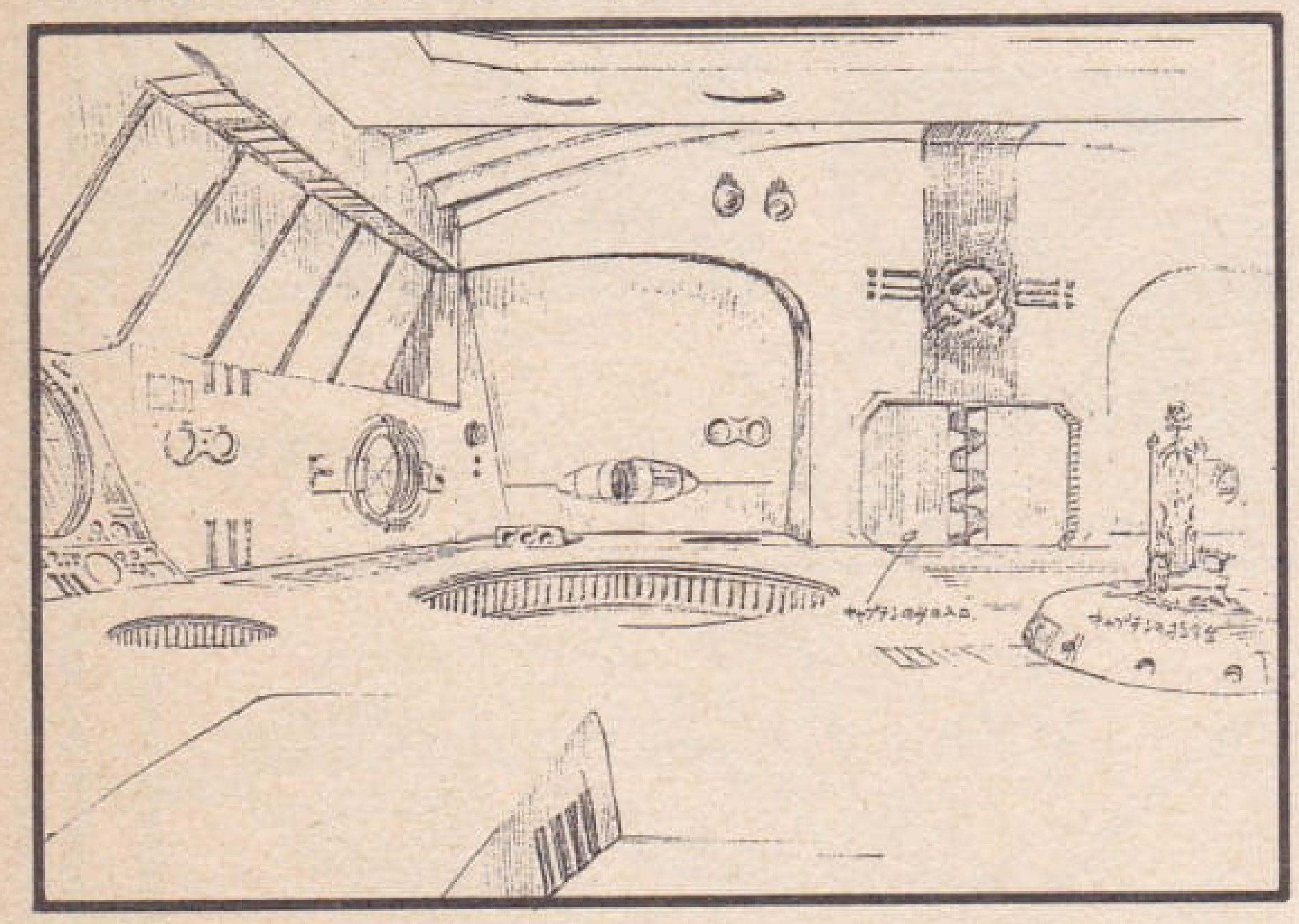
ハーロックの親友トチローの手によりヘビーメルダー星で建造されたもので重装甲におおわれ、氷の星からもちよられたエネルギー鉱石グラビュームによって作動する次元流体動力エンジンを使用。さらに中枢大コンピューターにはトチローの頭脳のデータが納められた生きた艦である。

■データ

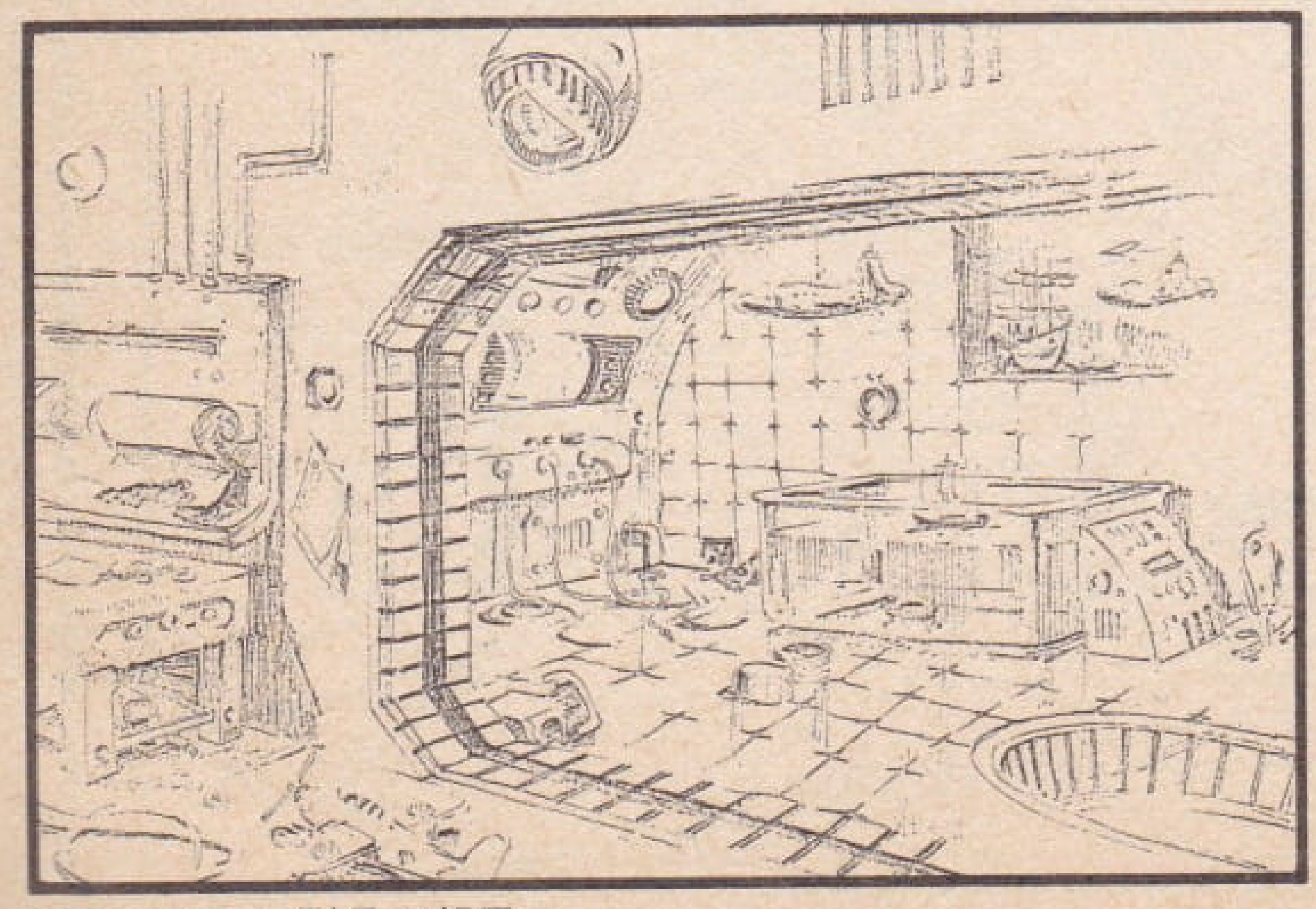
全長 400m

全幅 290m

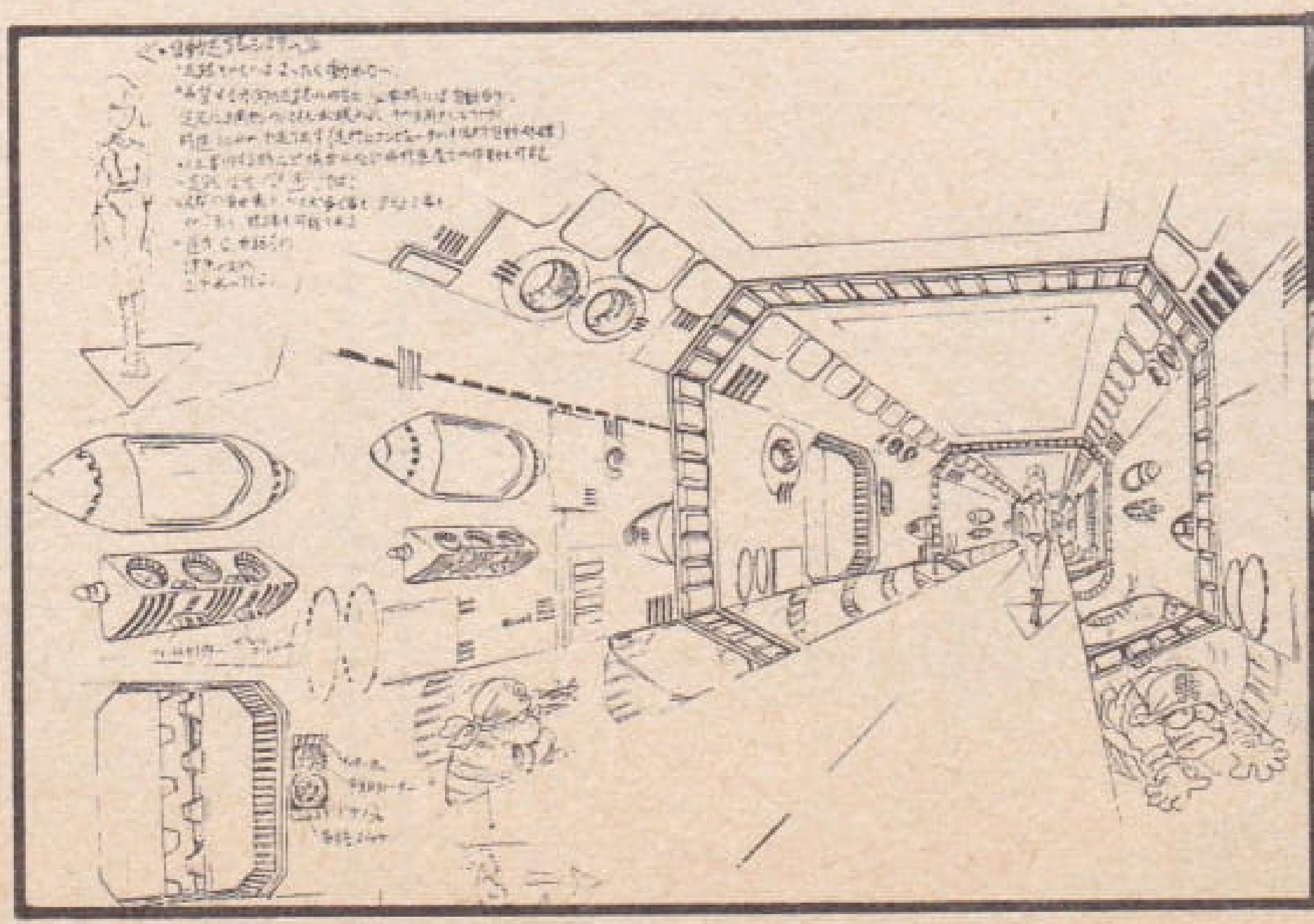
全高 160m



▲ブリッジの1コーナー



▲ヤッタラン副長の部屋

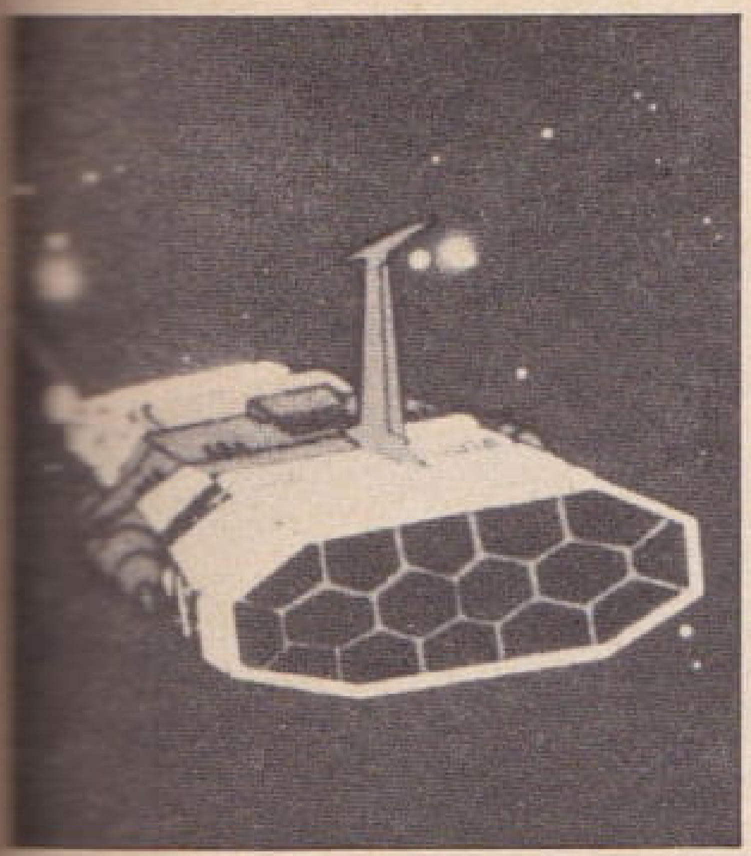


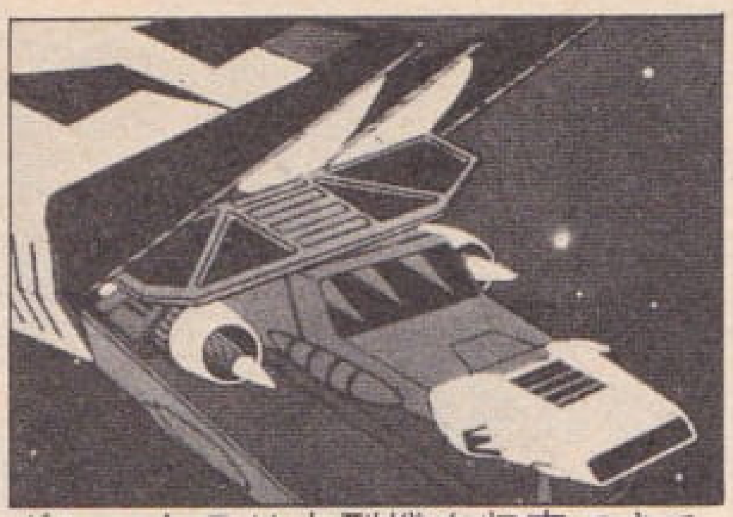
▲基本通路



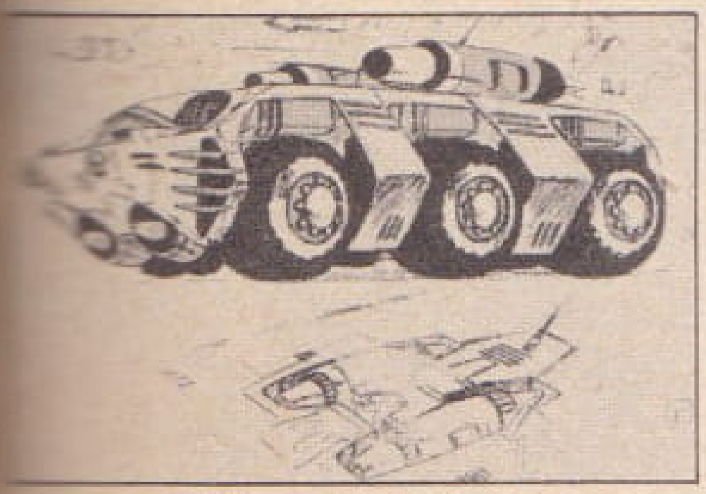
●ボレット

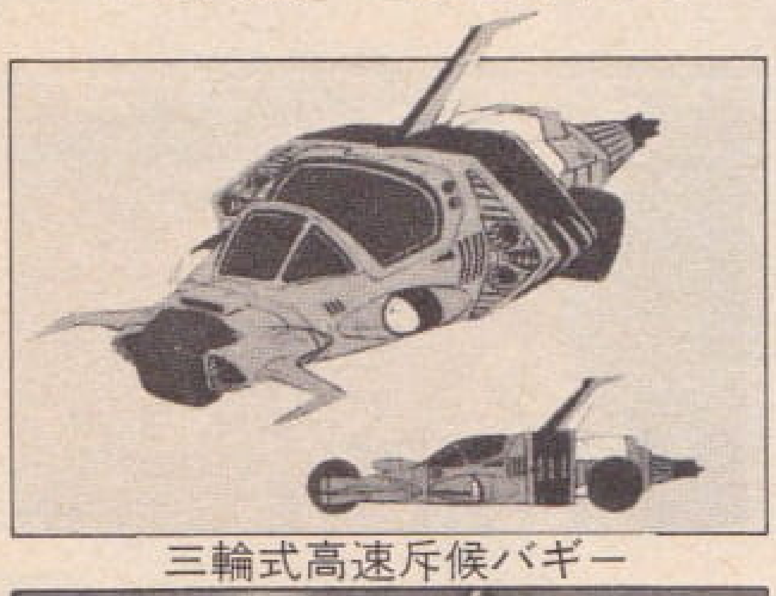
▶正式名称―空間輸送中型高速母艦
▶愛　　称―ボレットＺ
▶機体前部にボレット１号、２号の１機を収容。偵察、戦闘、爆撃、救命活動といったはば広い用途に使用。

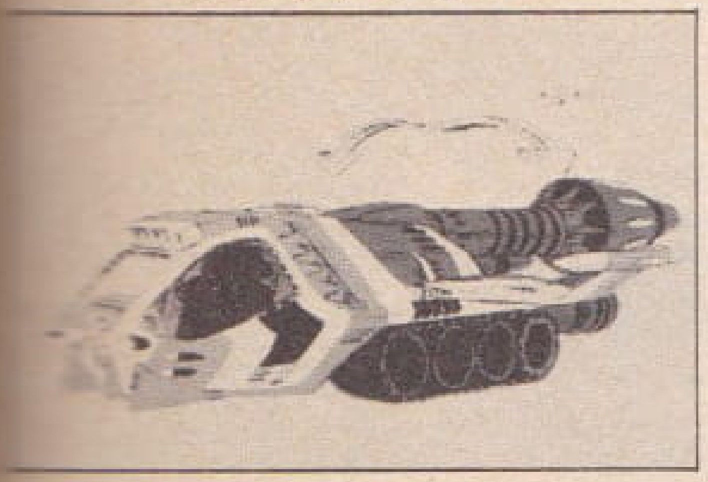

単座小型機・ボレット１号

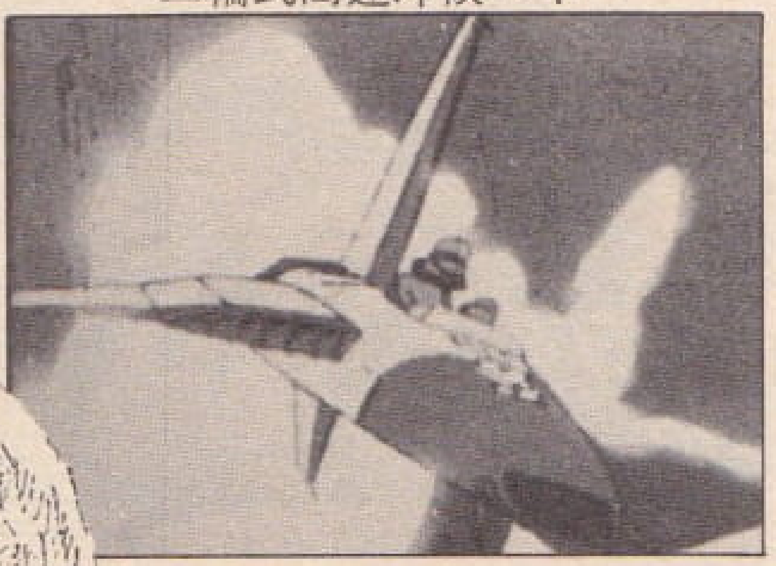

ボレットＺは小型機を収容できる


中型宇宙艇・コスモウイング

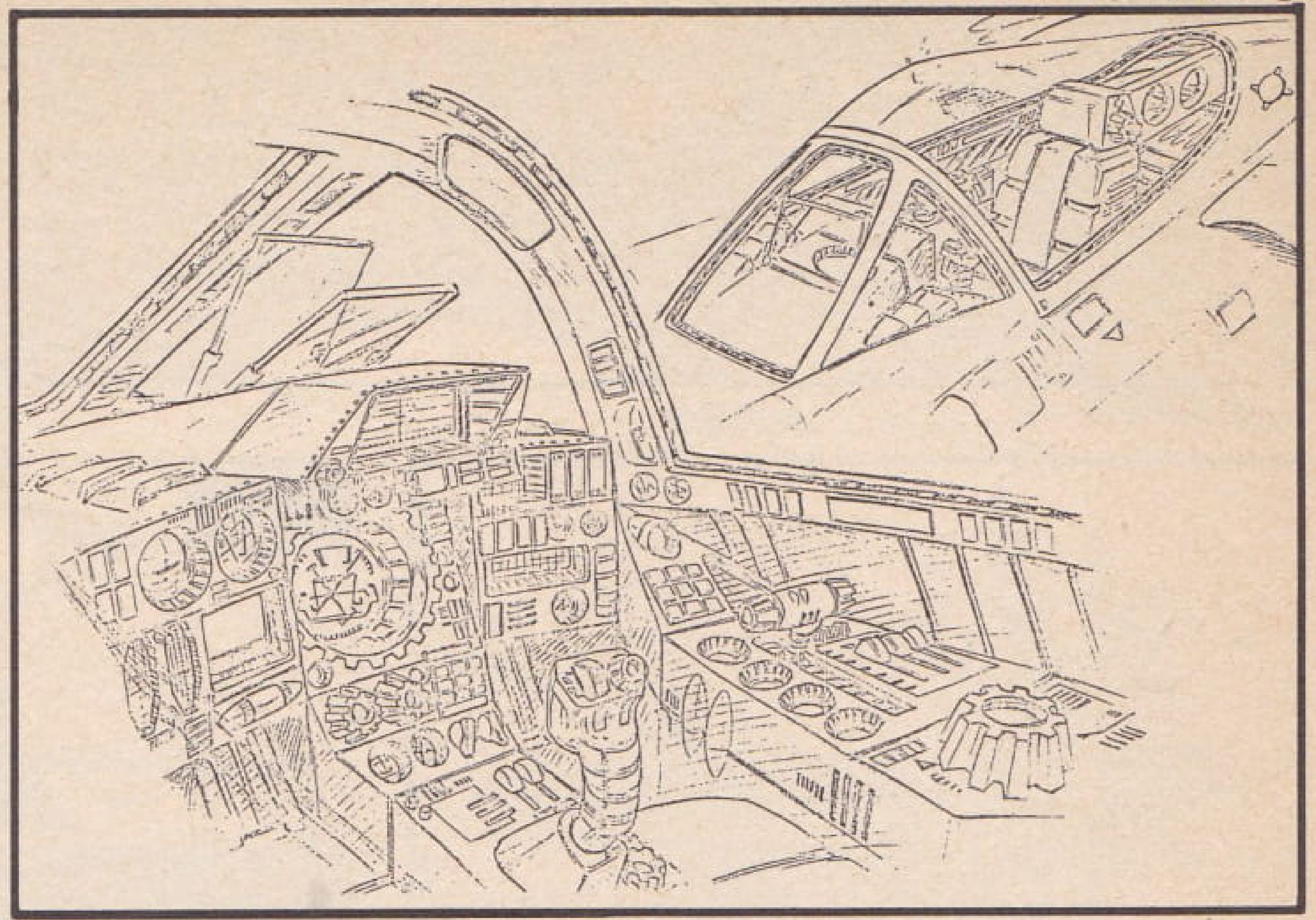

ボレット４号

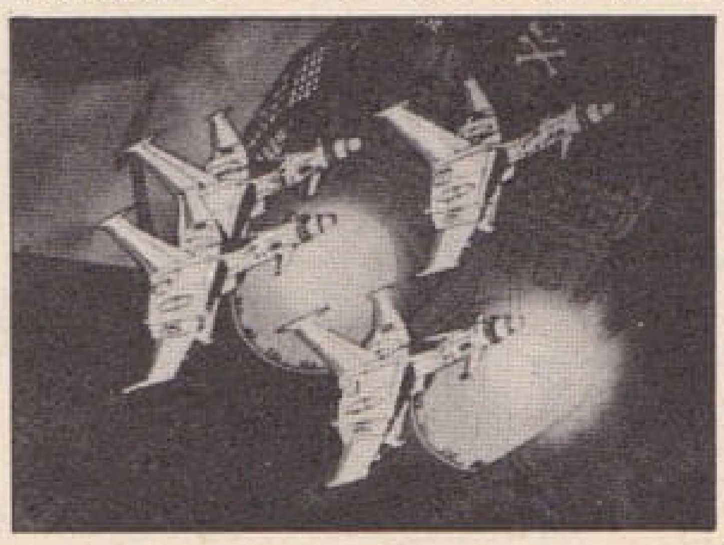

三輪式高速斥候バギー

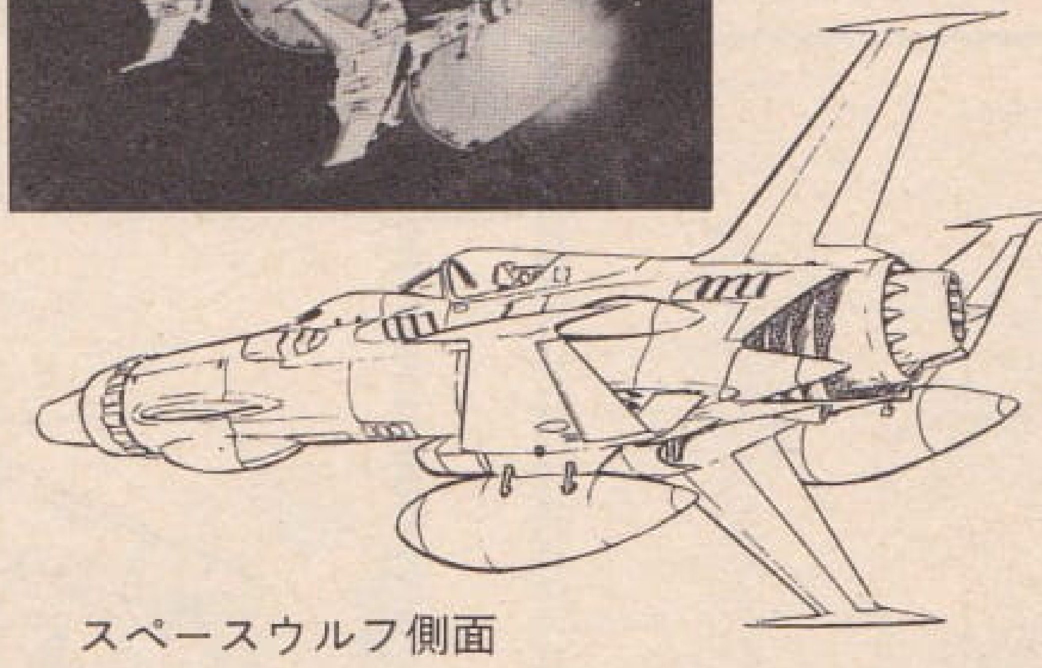

ボレット３号


海中戦闘用小型艇・シーバイク

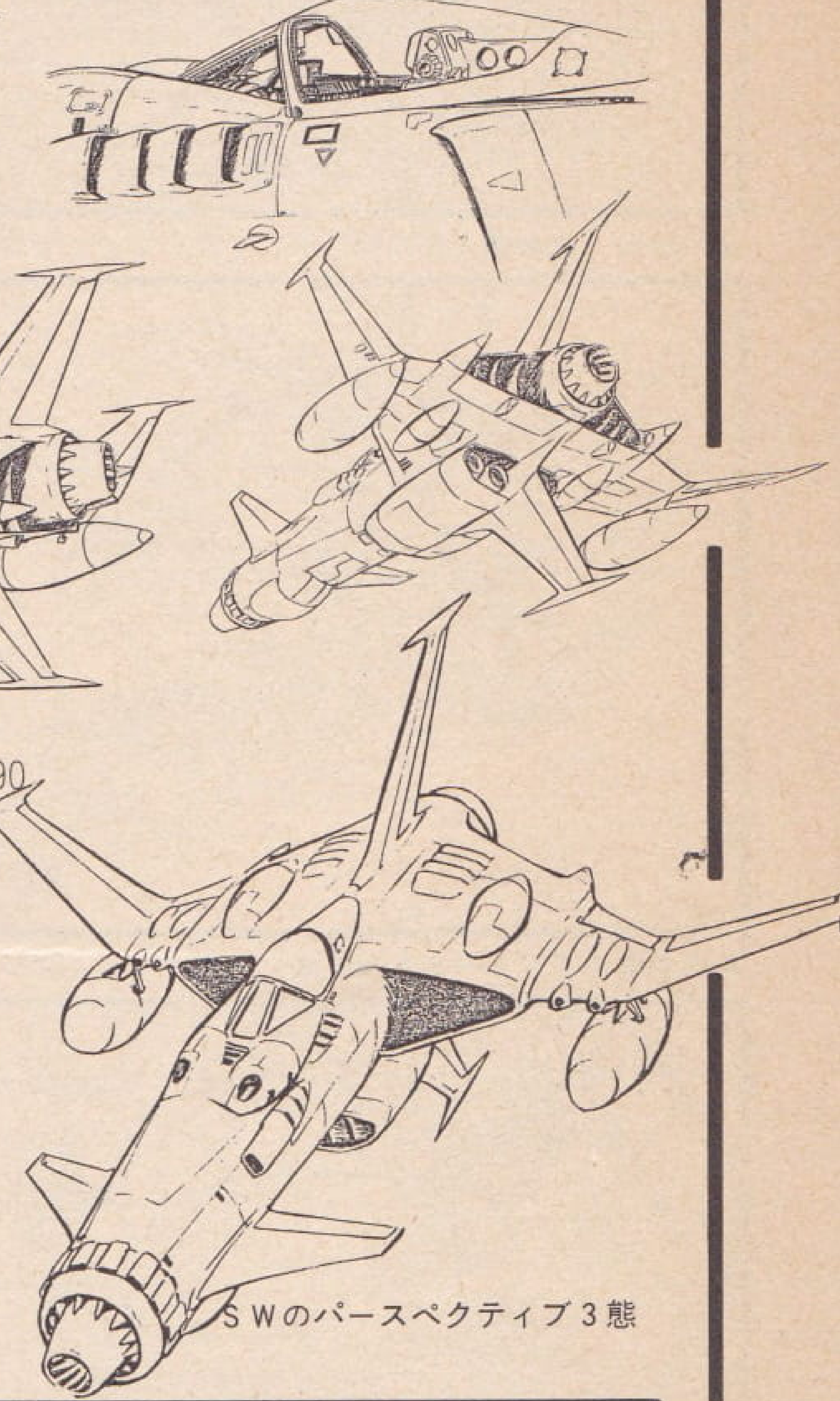
●スペースウルフ


戦闘機、スペースウルフのコクピット



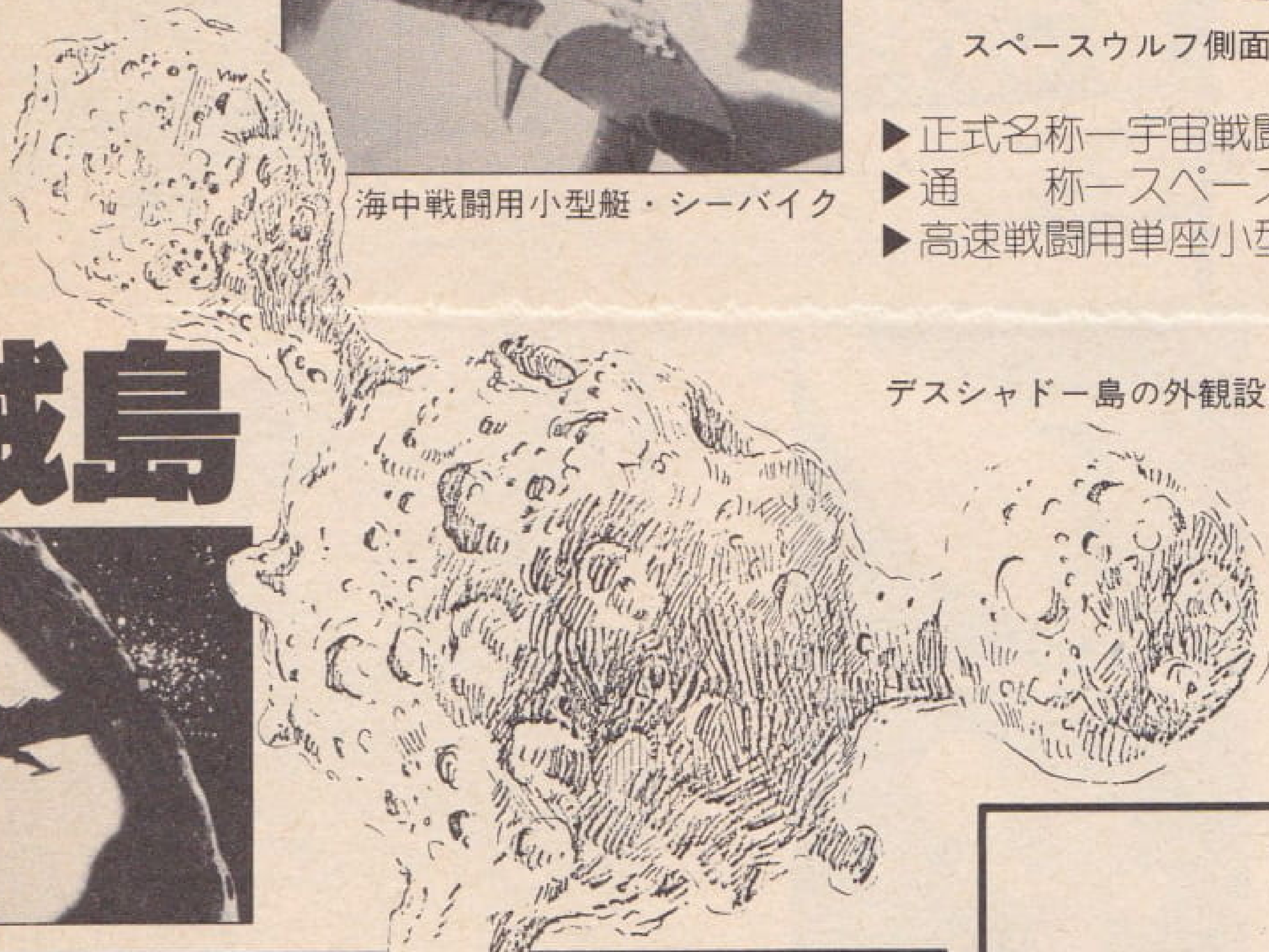

スペースウルフ側面

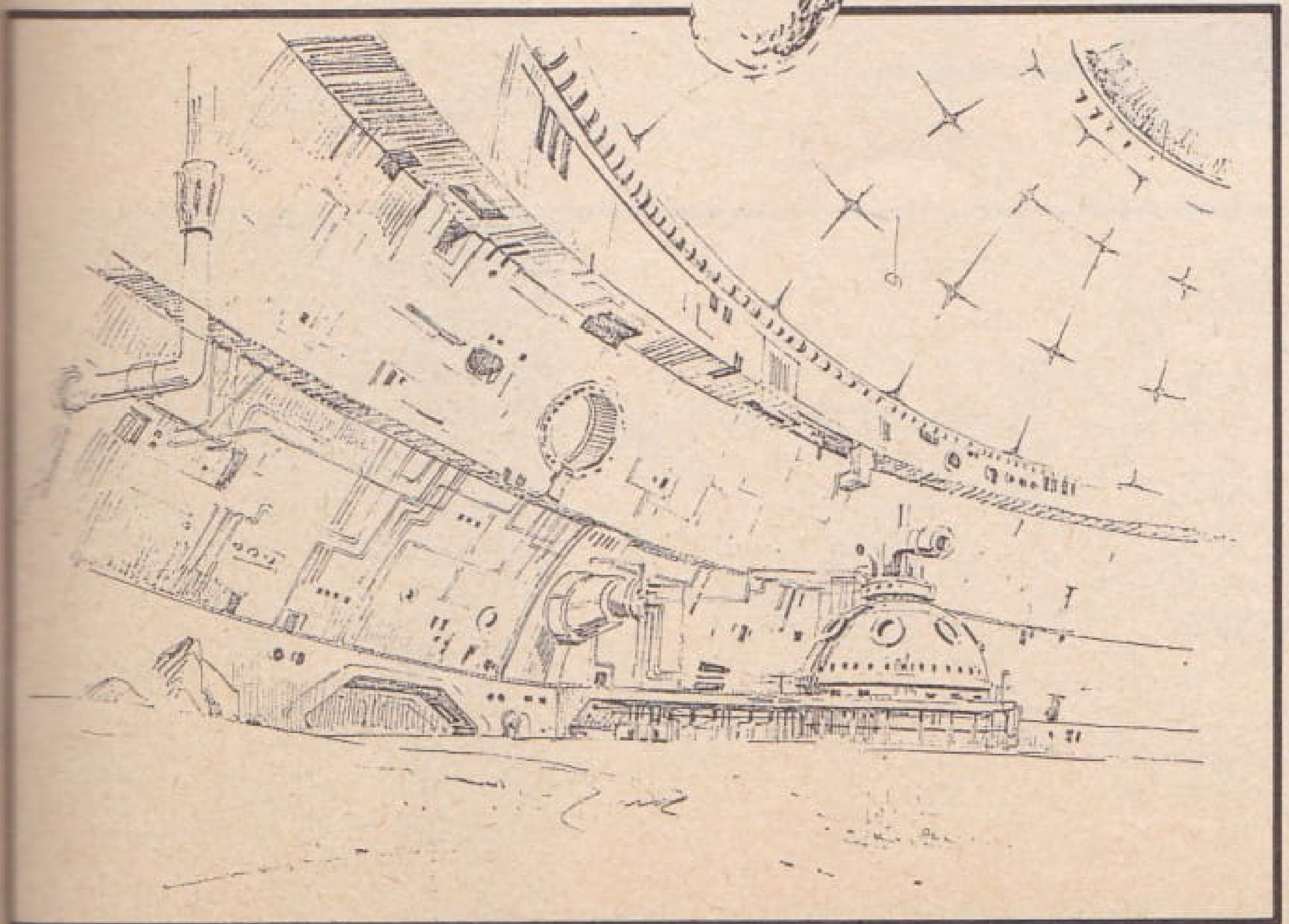
▶正式名称―宇宙戦闘機ＳＷ―190
▶通　　称―スペース・ウルフ
▶高速戦闘用単座小型機。

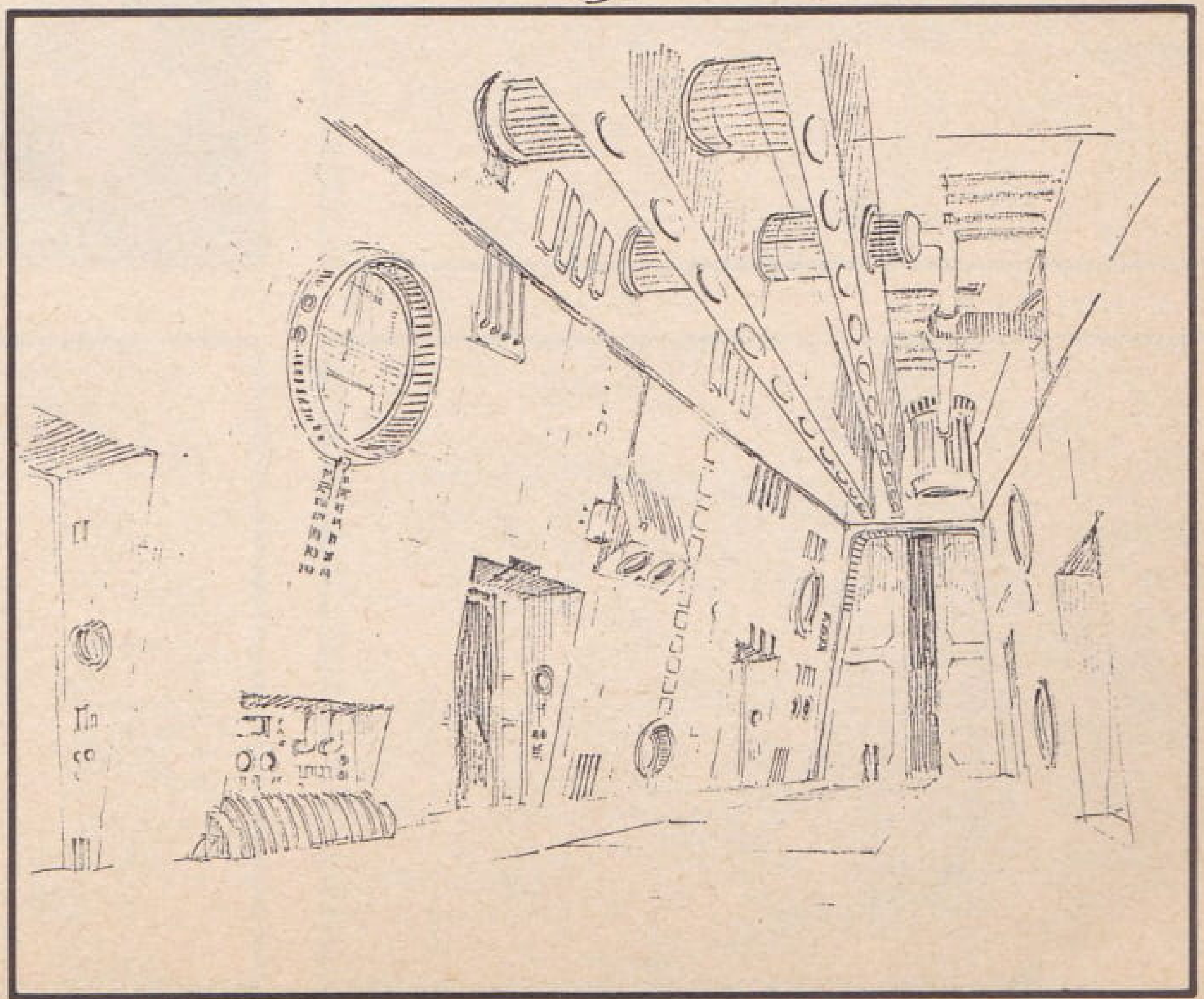

ＳＷのパースペクティブ３態

海賊島

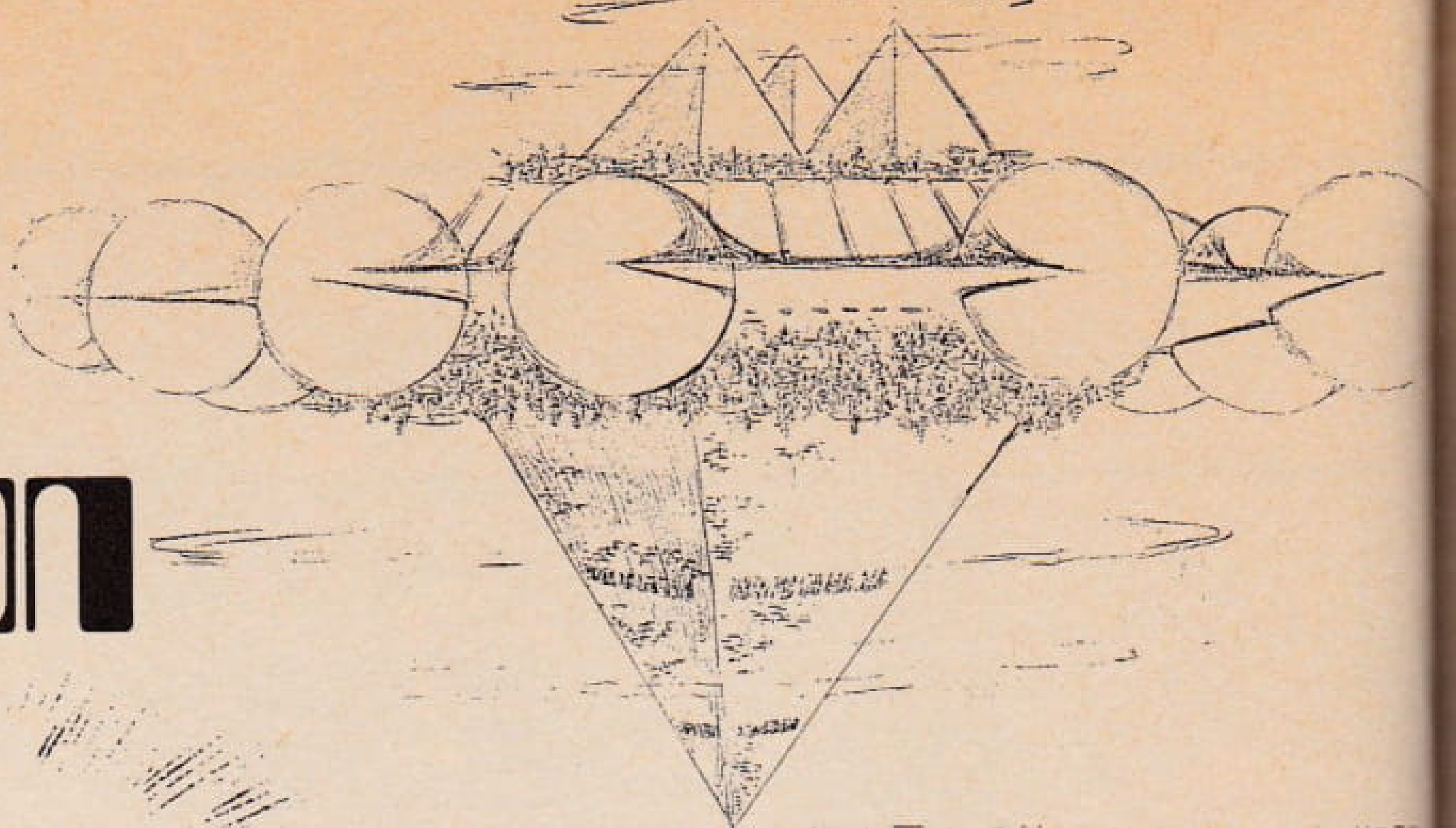



デスシャドー島の外観設定

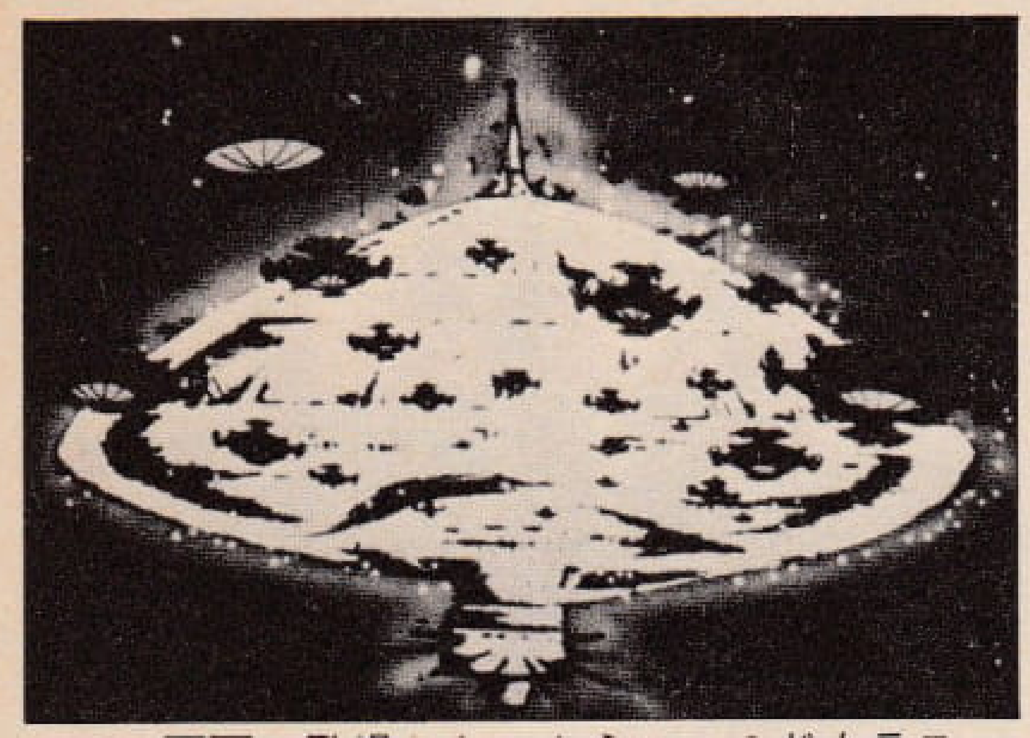

デスシャドー島内（人工海）


海賊島内、倉庫廊下

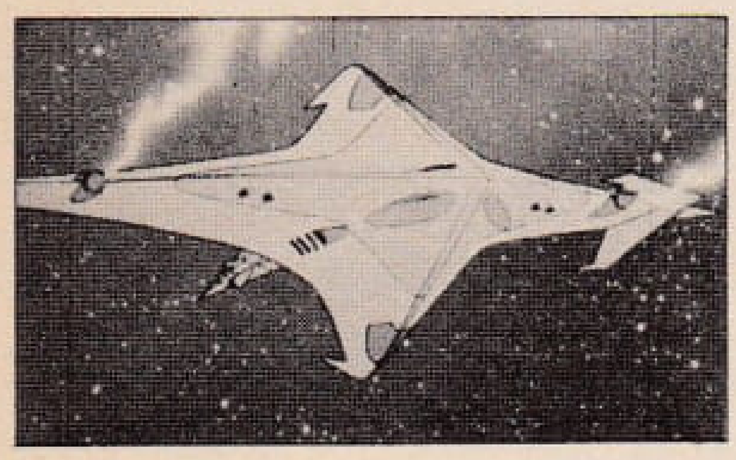
Mazone
MECHANIC SECTION

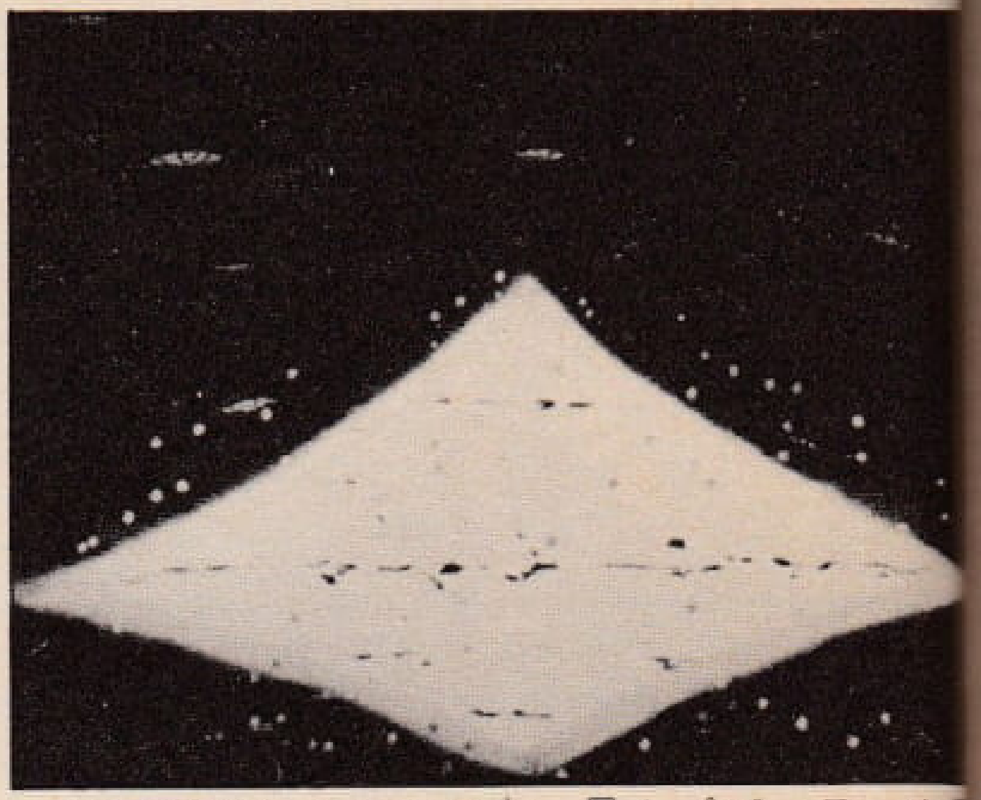


▲松本零士氏筆のドクラスの初期設

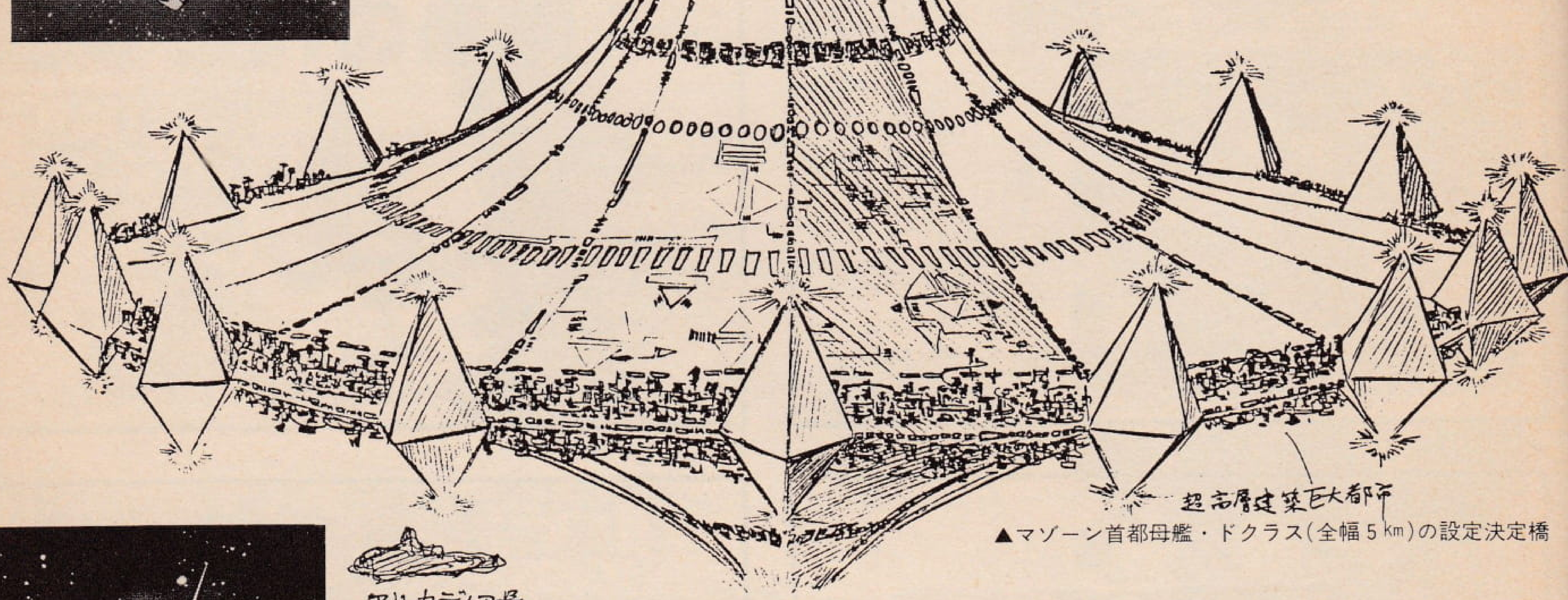


▲ＴＶ画面に登場した、もう一つのドクラス

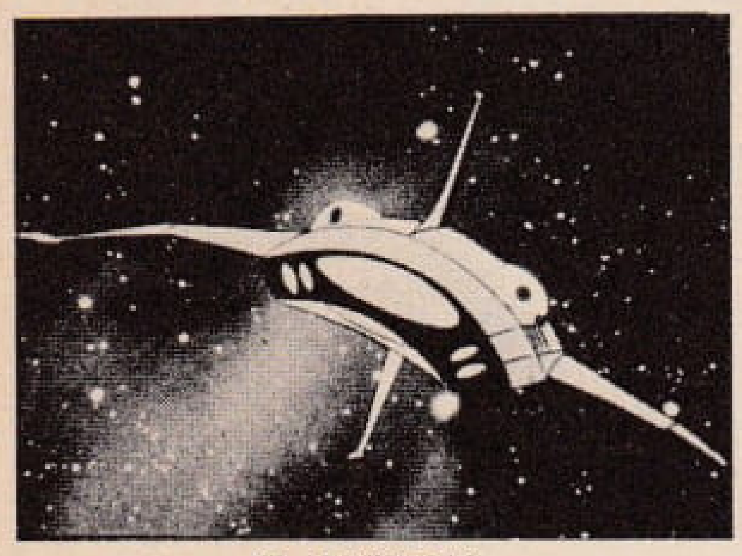




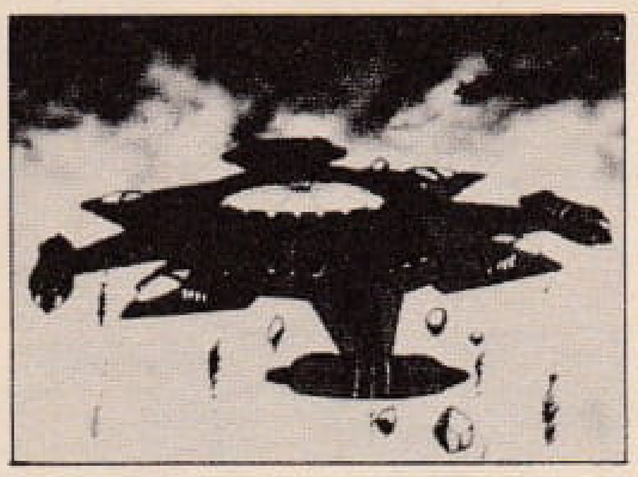
▲２種類のドクラスの内、最もポピュラーな



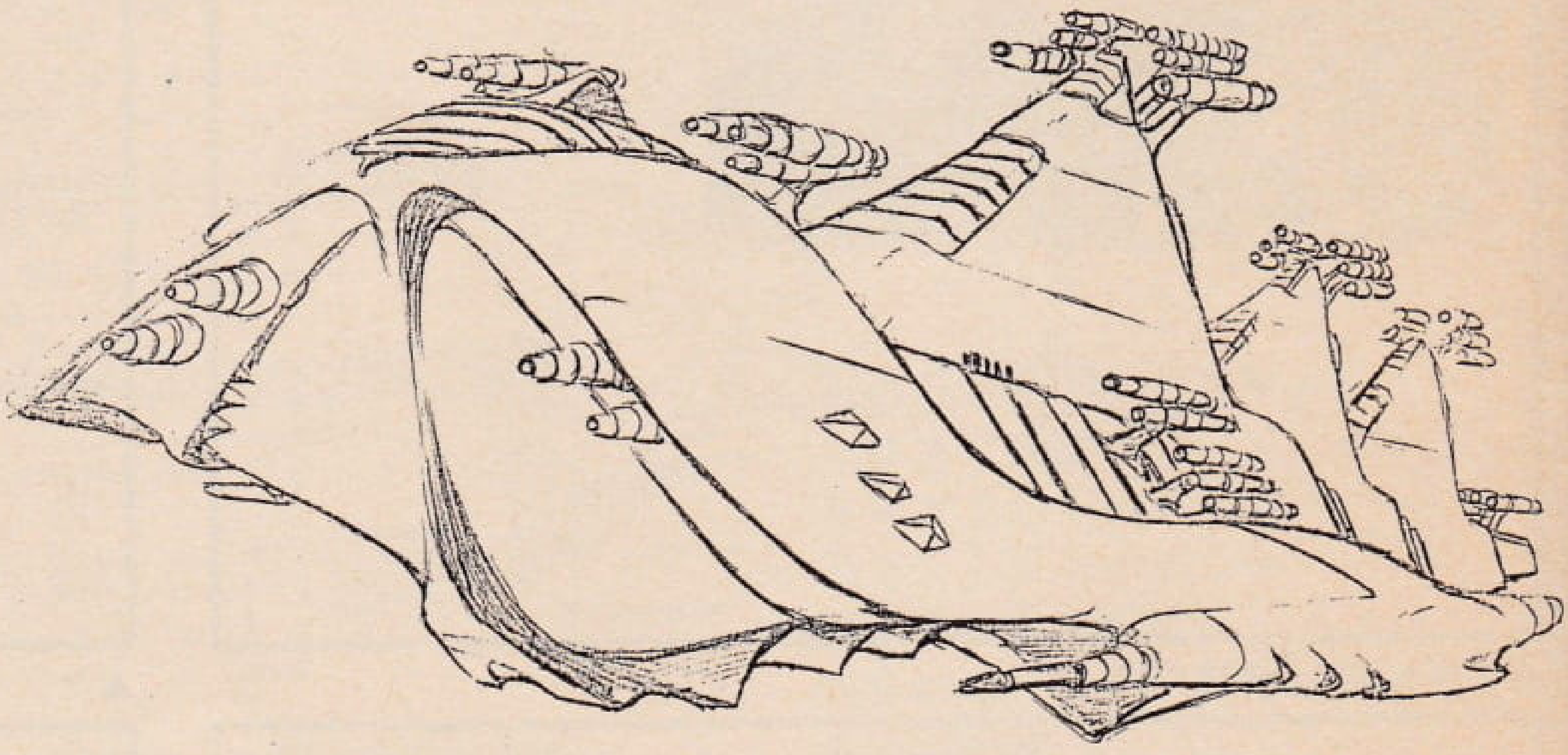
▲マゾーン首都母艦・ドクラス(全幅５km)の設定決定橋

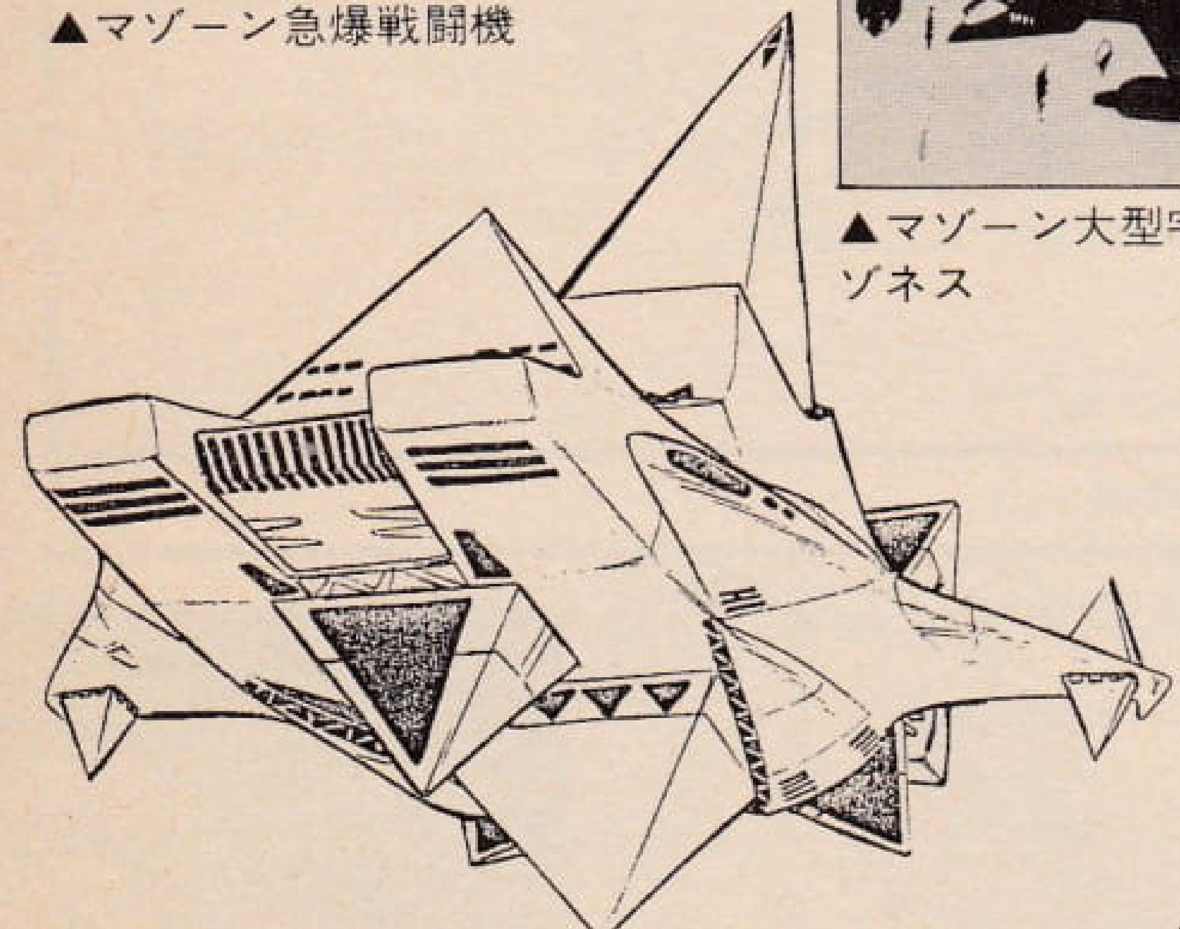


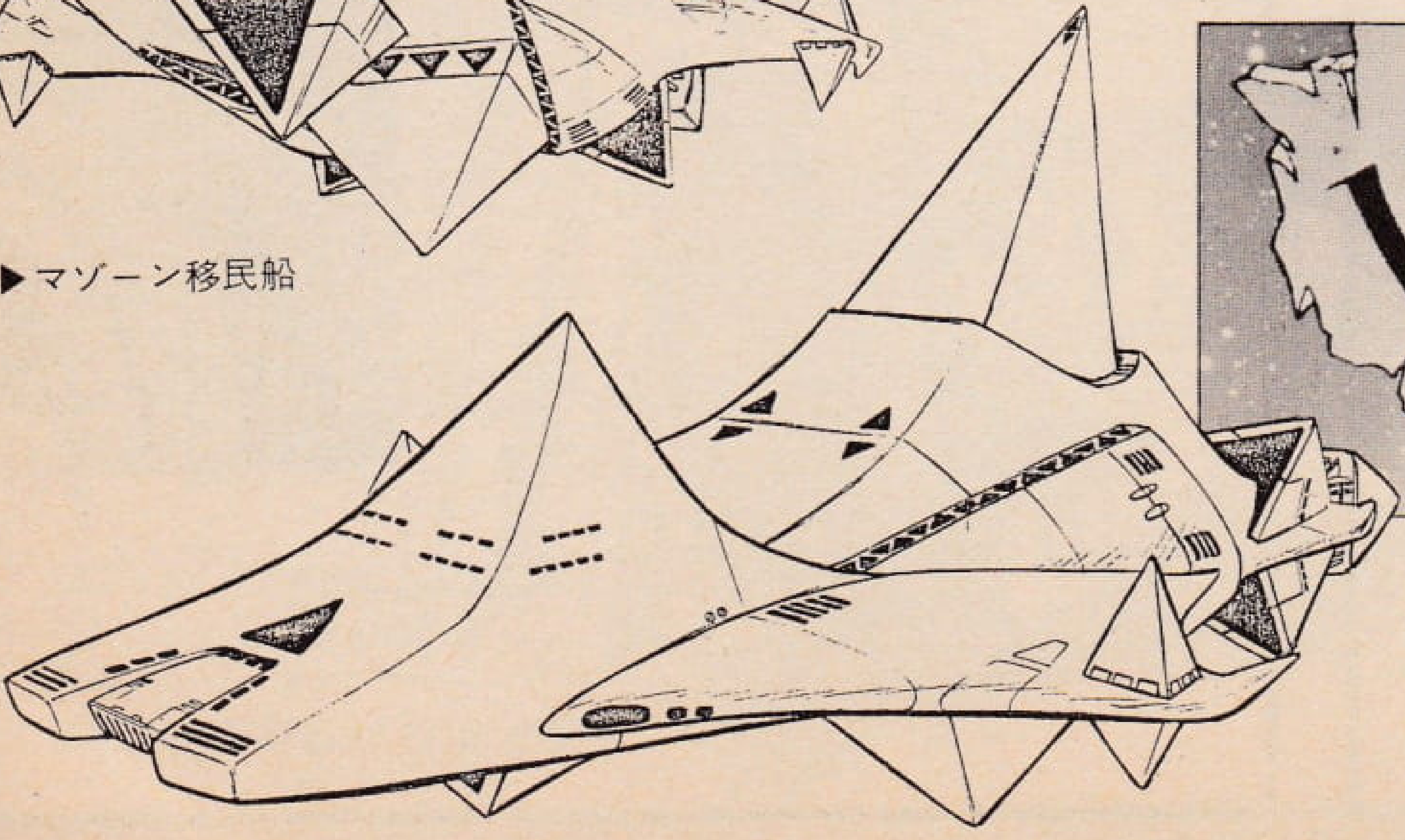
▲マゾーン急爆戦闘機



▲マゾーン大型宇宙空母・ゾネス



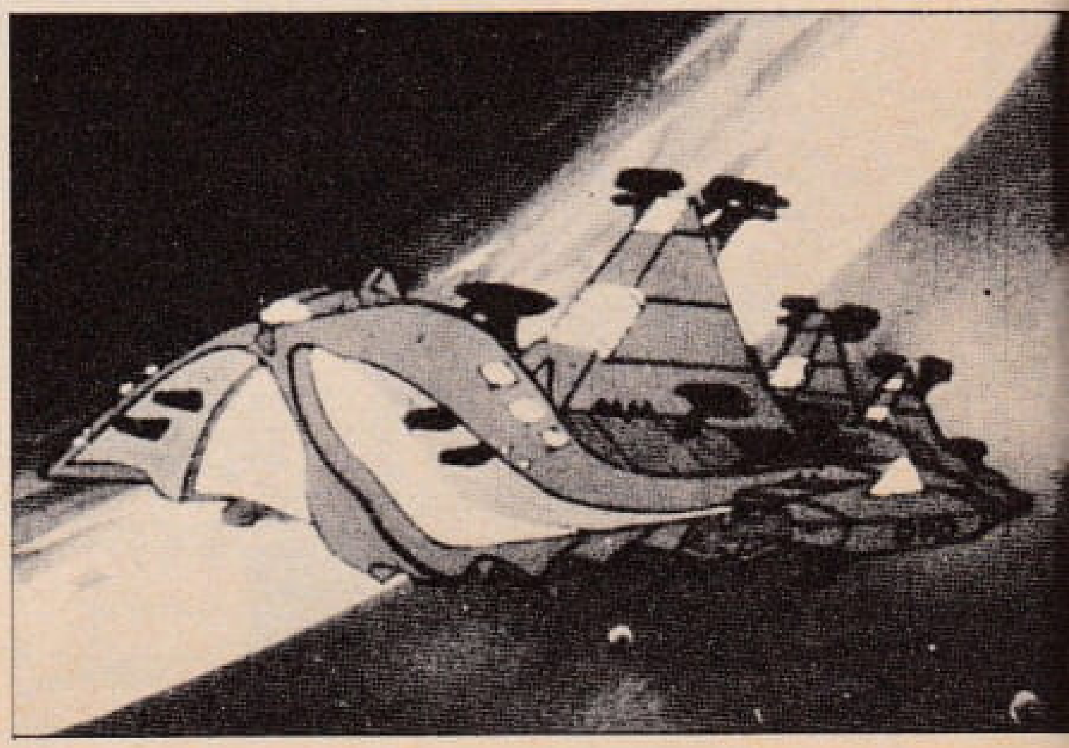


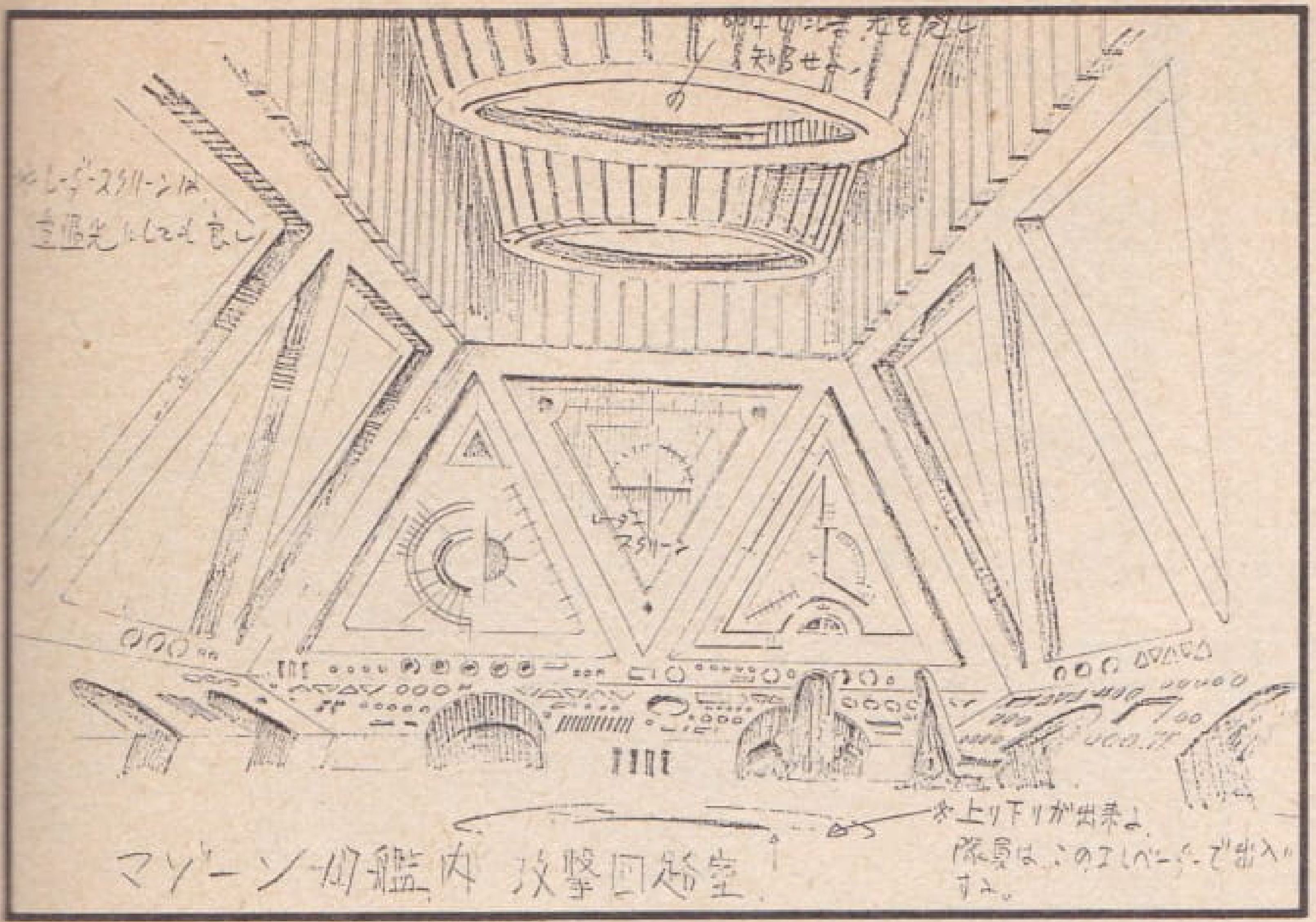


▶マゾーン移民船

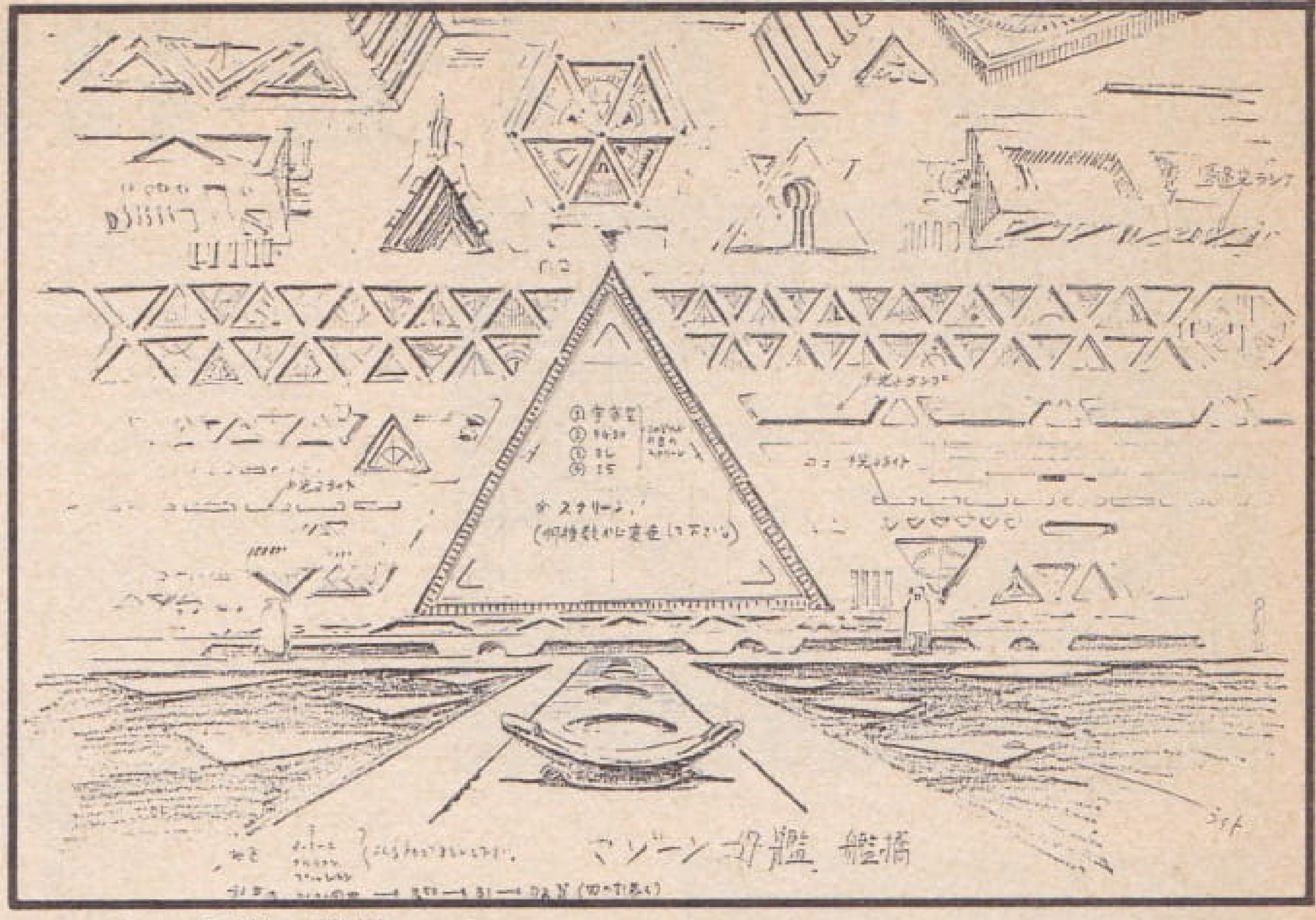


■マゾーン古代戦艦「ピラミッダ」
●全長　アルカディア号の約三倍
全体にくすんだ暗黒色又は鉄サビ色をした大戦艦
ピラミッド型と似た三つの艦橋をもっている。

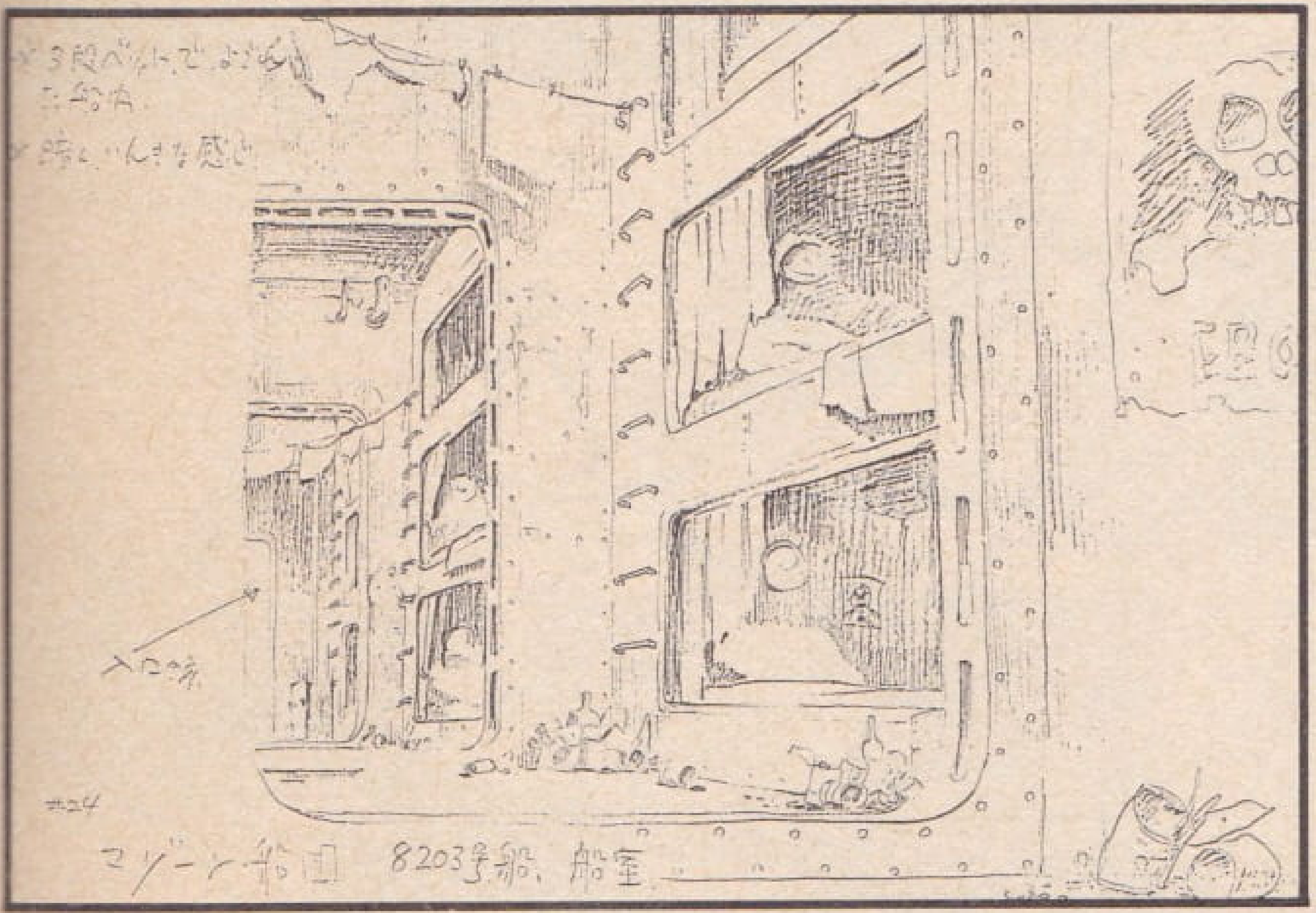




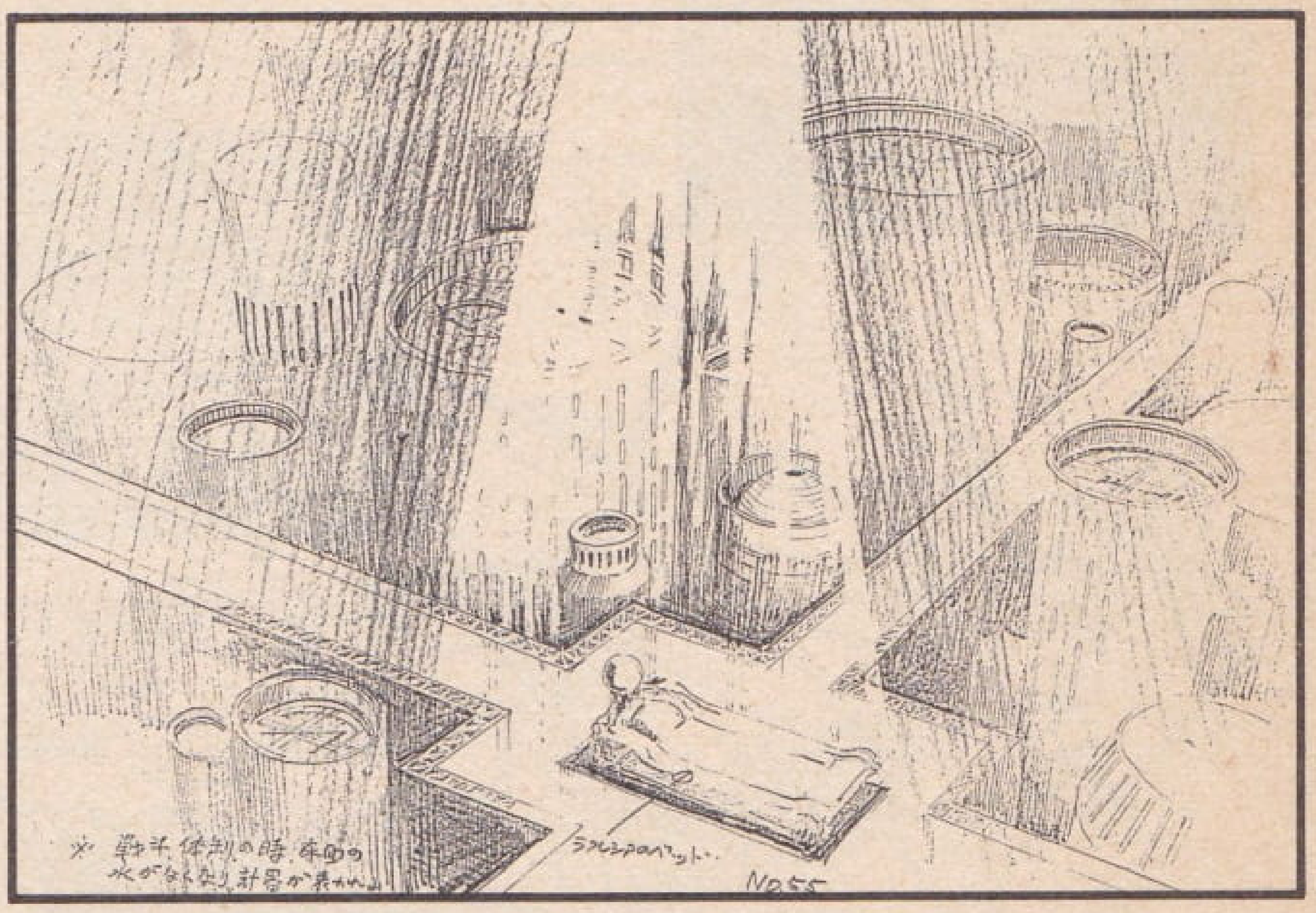
▲マゾーン母艦内、攻撃回路室

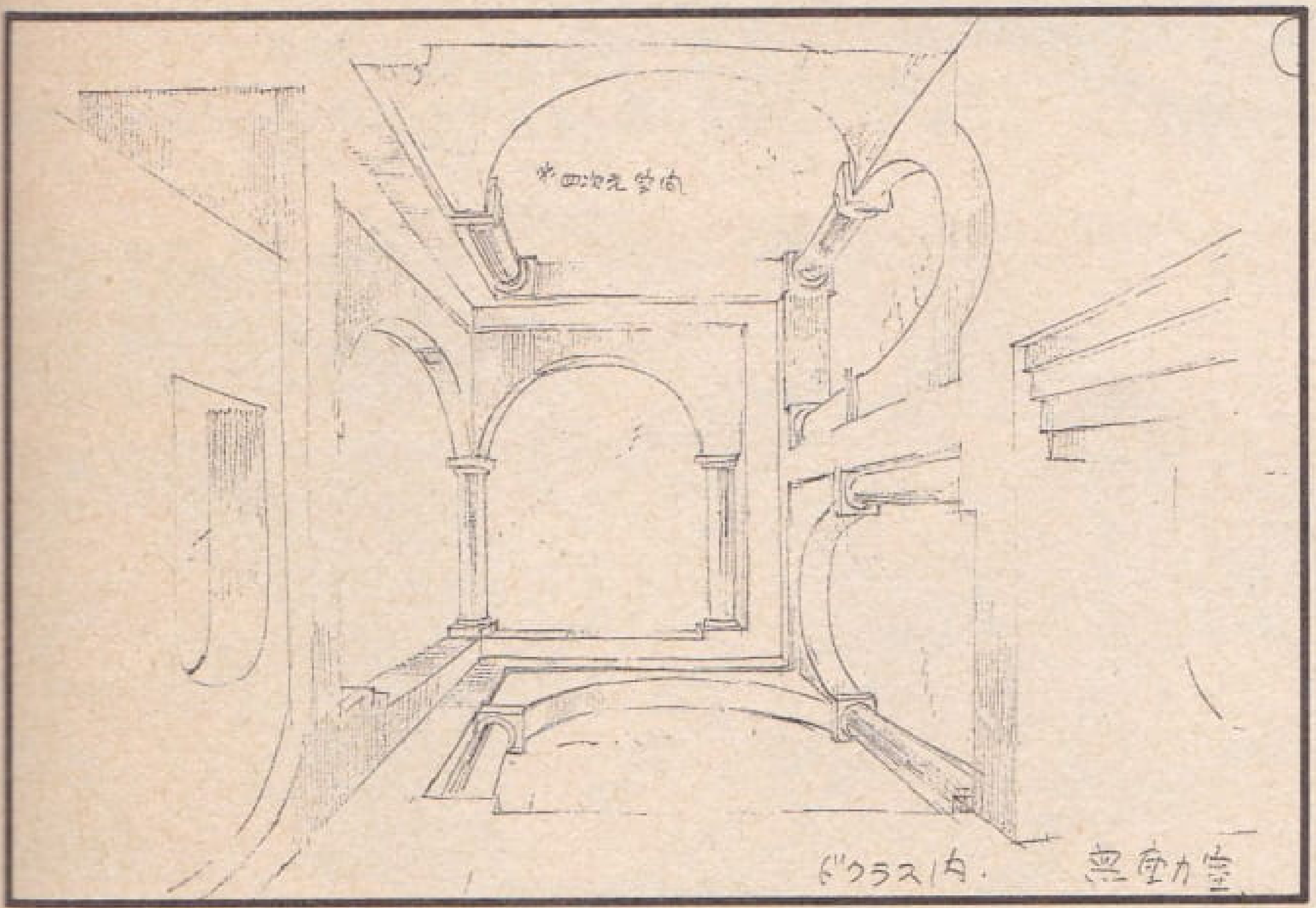


▲マゾーン母艦、艦橋

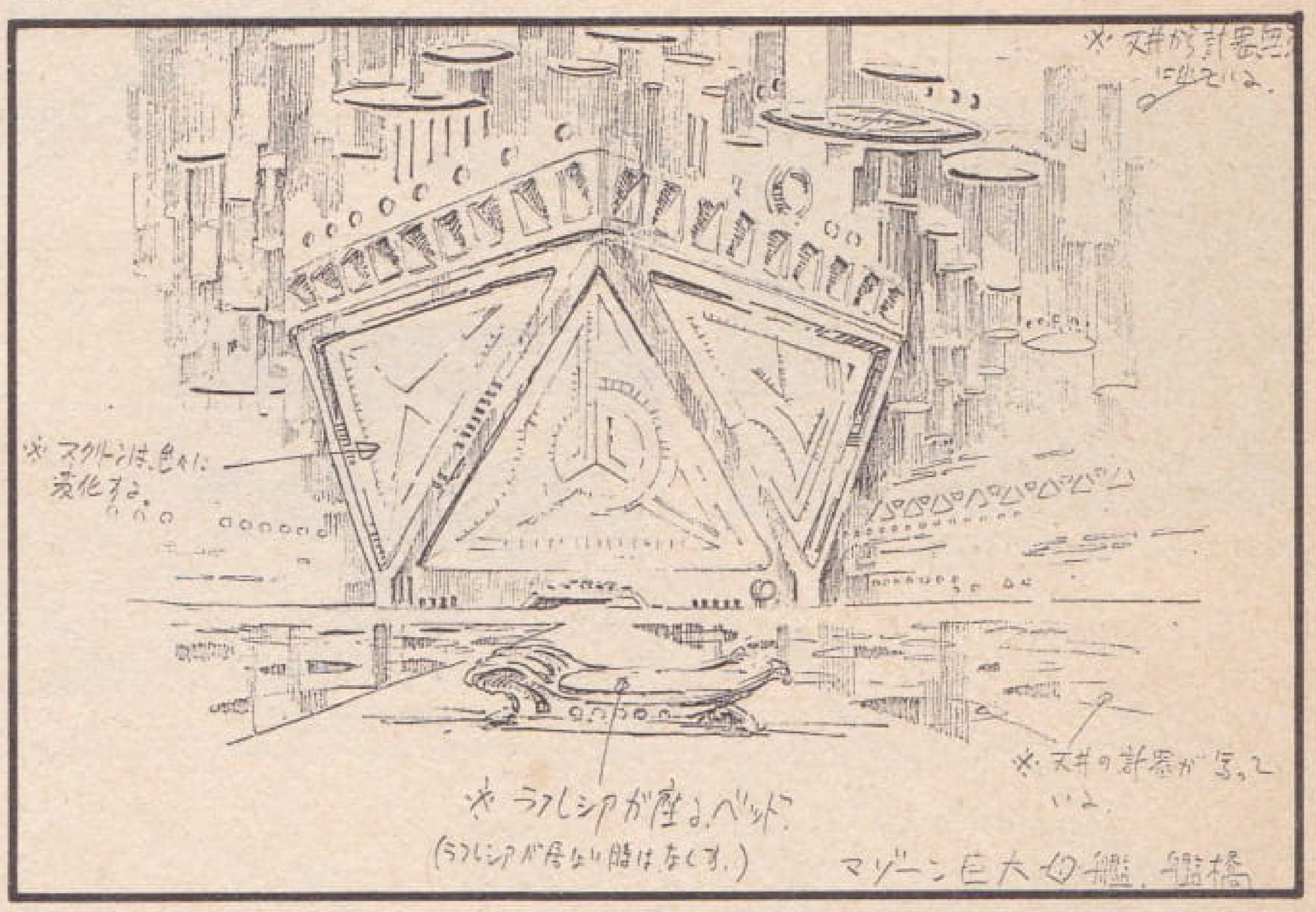


▲ マゾーン船団　8203号船、船室

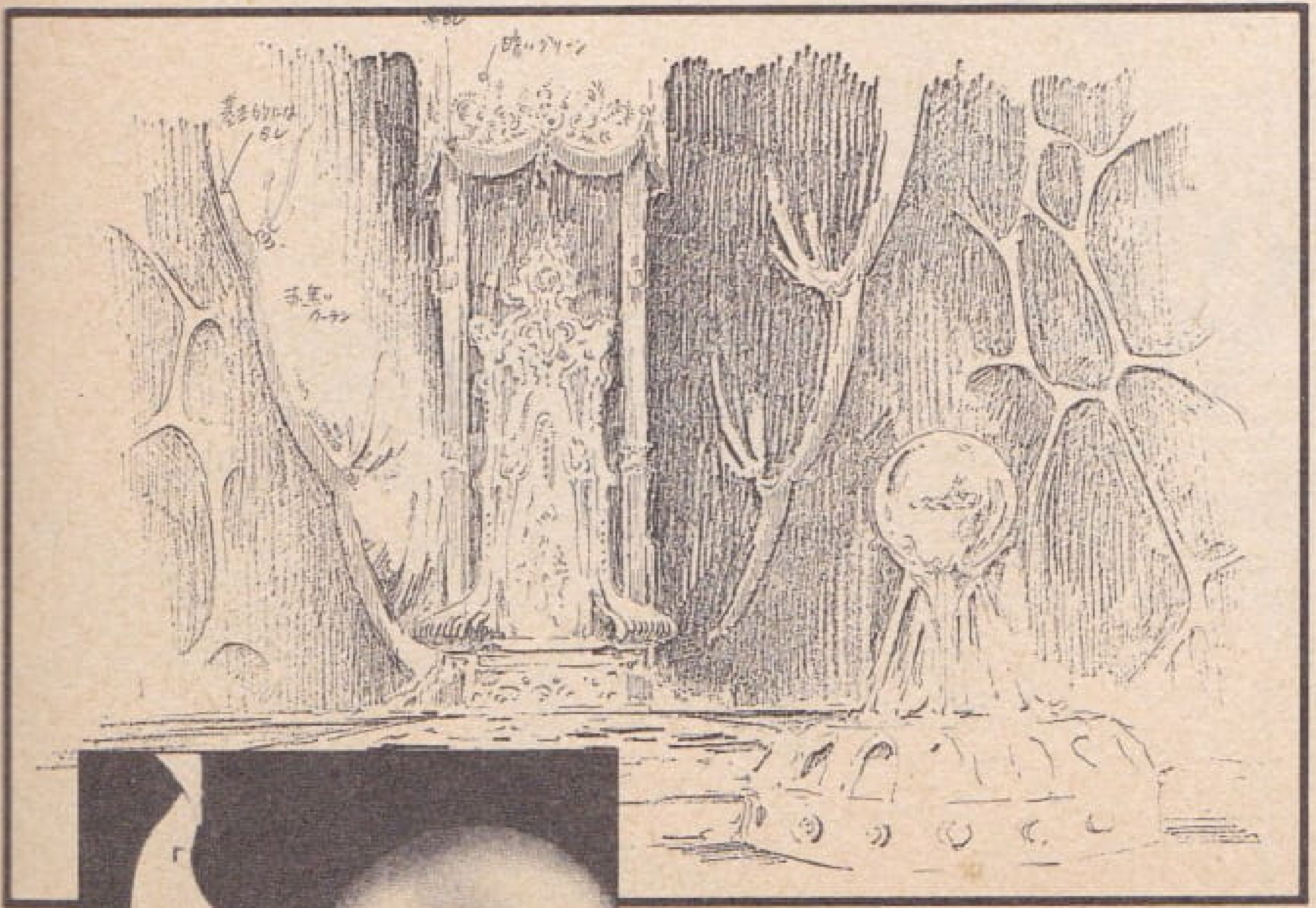

▲ラフレシアのベッド



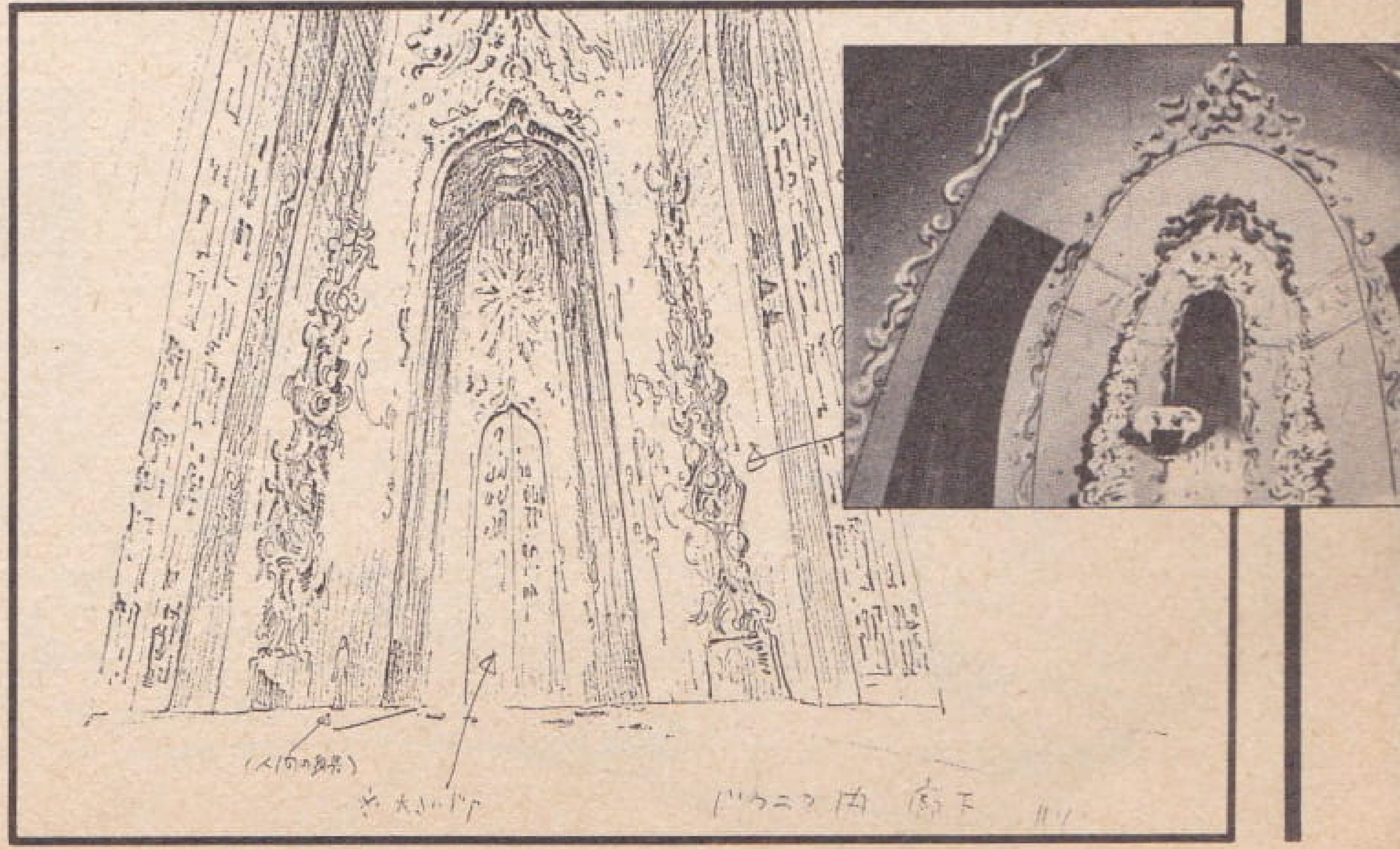
▲ドクラス内、無重力室



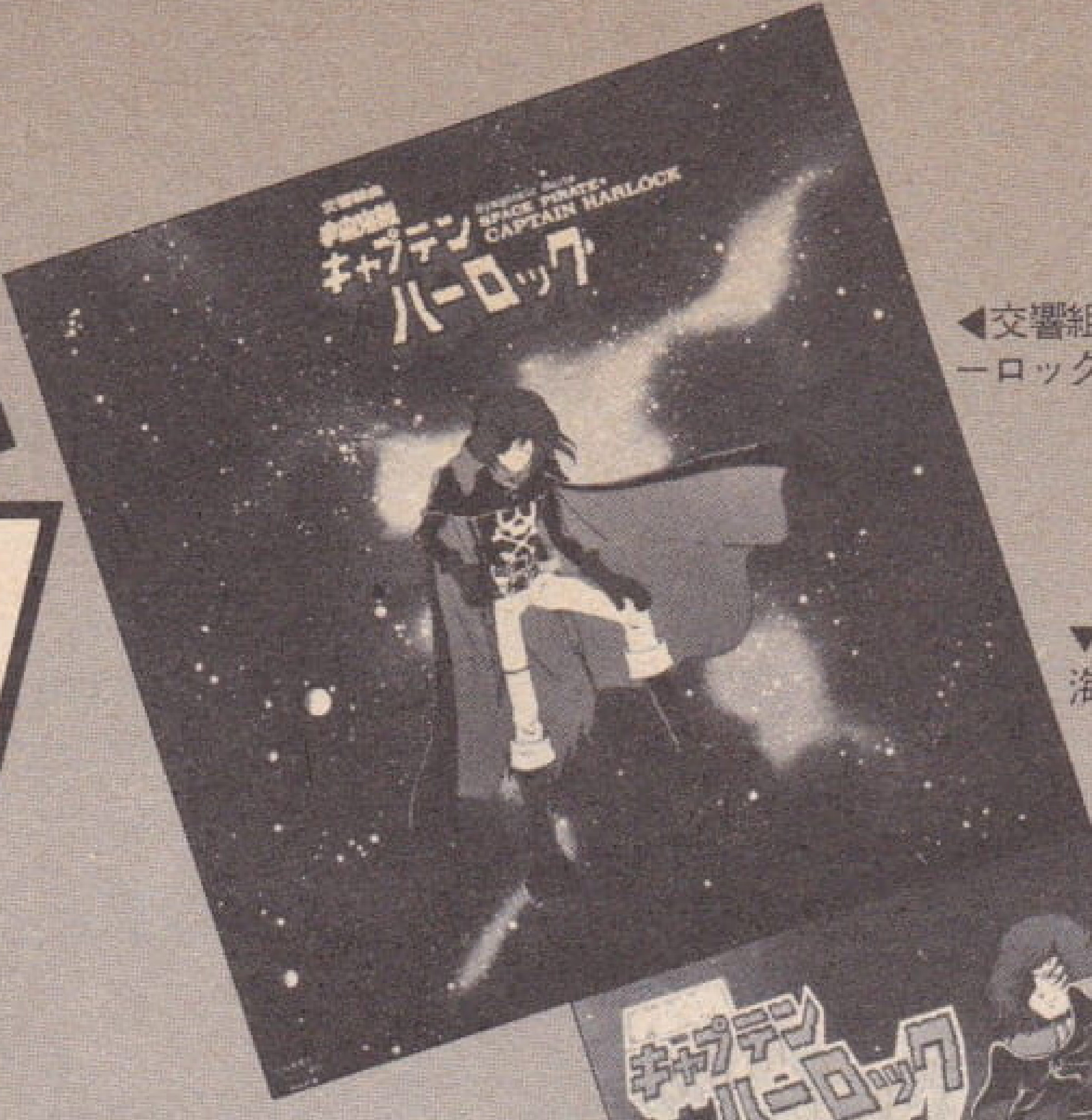
▲マゾーン巨大母艦、艦橋



▲ラフレシア、女王の間のイス


▲ドクラス内、廊下

■ハーロックの世界 MELODY



◀交響組曲　宇宙海賊キャプテンハーロック



▼主題歌／挿入歌集　宇宙海賊キャプテンハーロック

ハーロックは〝音楽〟に力を入れた作品としても認められている。主題歌はもとよりBGMにまでシンフォニックを用い、〝宇宙〟という壮大な海から、歓び、悲しみに至るまでがみごとに表現されている。また挿入歌にも心ひかれるものが多く、それらが画面を一層盛り上げていた。

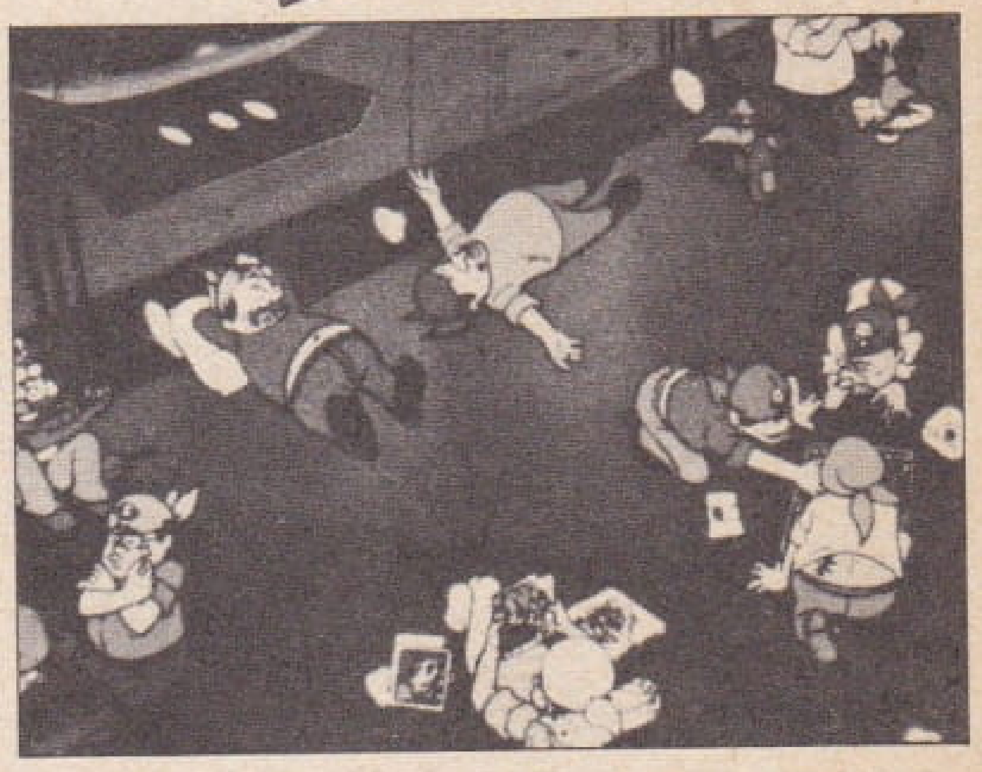
番組で使われた9曲のうち、ここでは7曲を紹介する。

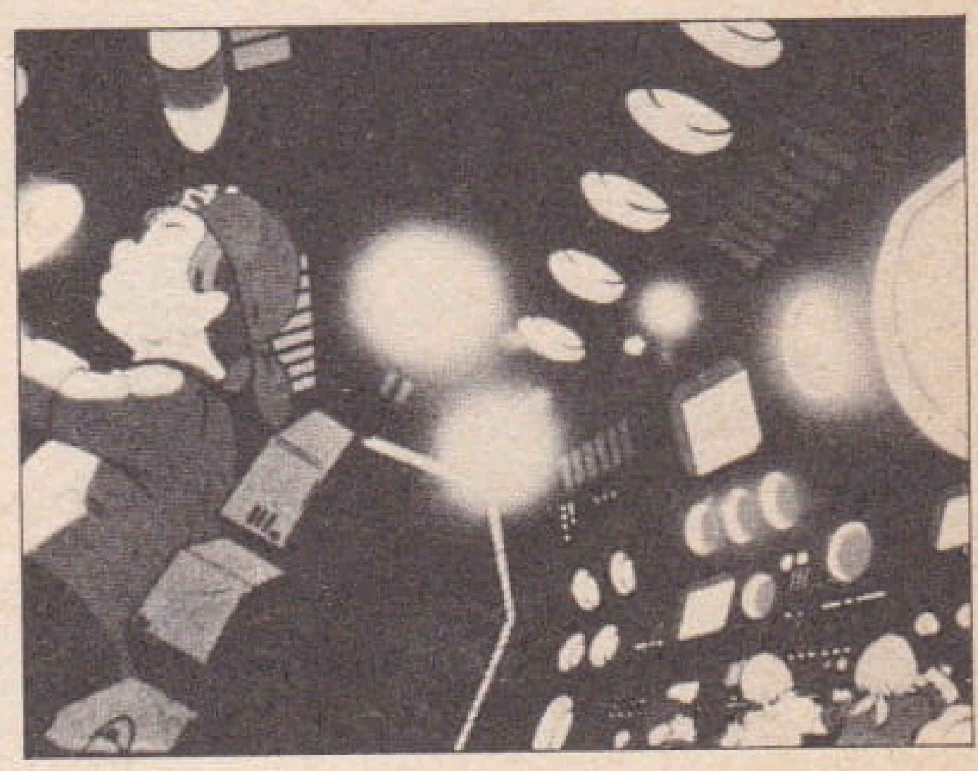
さすらいの舟唄

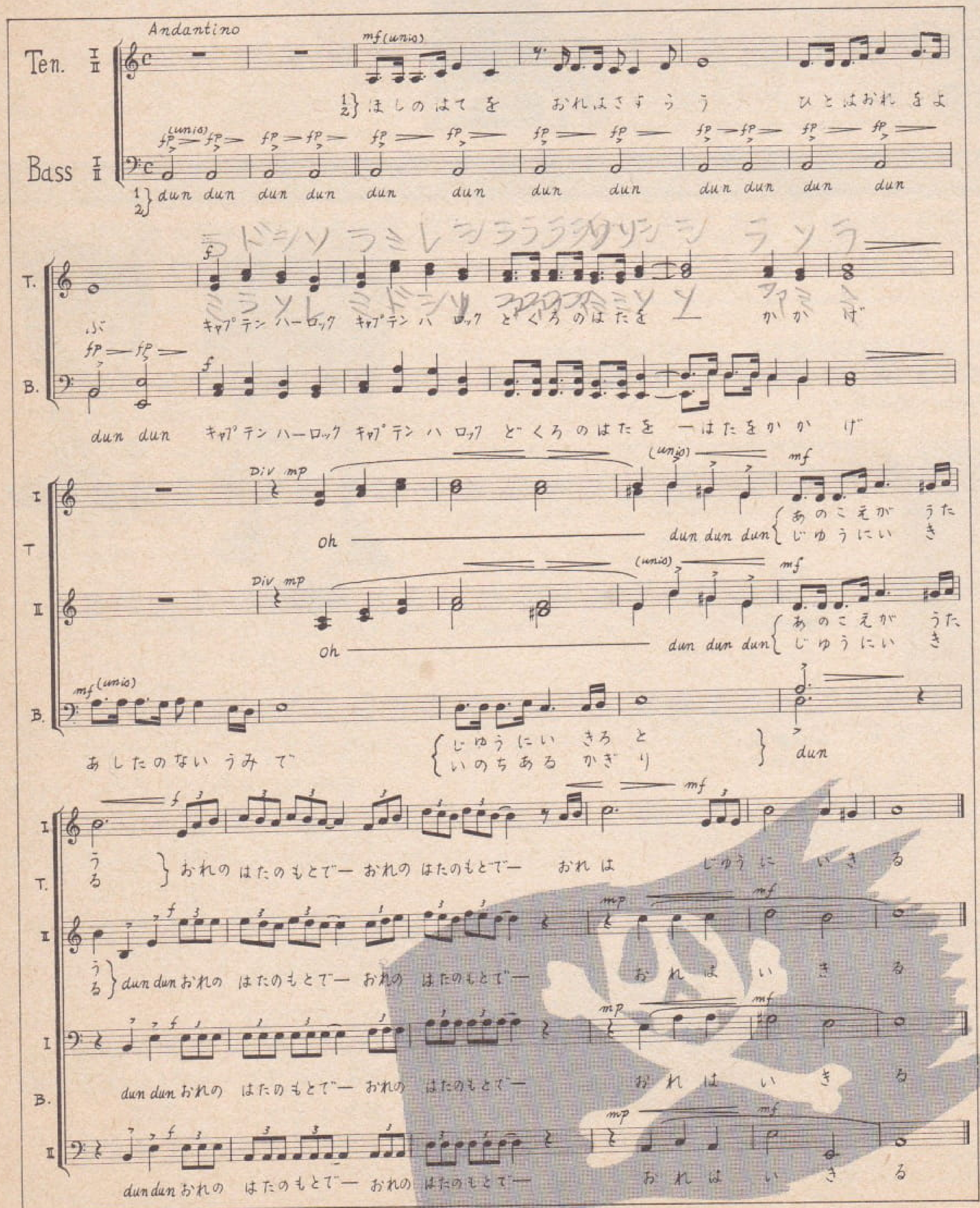
作詩／松本零士　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児
歌／コロムビア男性合唱団

◆1話、2話、5話、15話、17話

歌詞は原作からとったものでハーロックのことを歌っているが、テレビでは主に〝40人の海賊〟のテーマとして使われていた。伴奏がなくしかも合唱なので、実際に海賊たちが歌っているような気もしたのでは？







一、星の果てを　俺はさすらう
人は俺を呼ぶ
キャプテンハーロック
キャプテンハーロック
どくろの旗をかかげ
明日のない海で　自由に生きろと
あの声が歌う
俺の旗の下で　俺の旗の下で
俺は自由に生きる

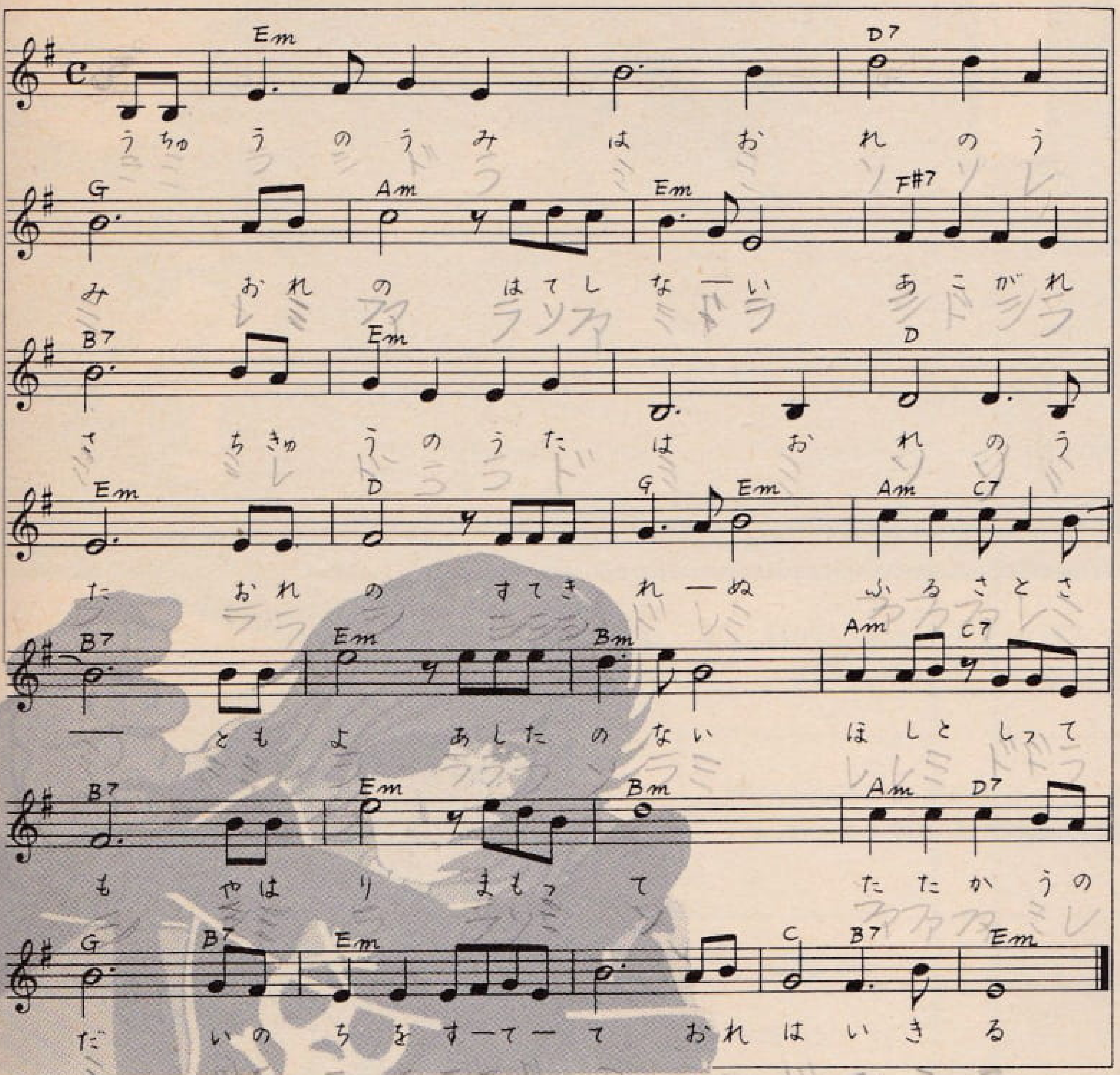
二、星の果てを　俺はさすらう
人は俺を呼ぶ
キャプテンハーロック
キャプテンハーロック
どくろの旗をかかげ
明日のない海で　命あるかぎり
自由に生きる
俺の旗の下で　俺の旗の下で
俺は自由に生きる

宇宙海賊キャプテン・ハーロック

作詩／保富康午　作曲／平尾昌晃
編曲／横山菁児
歌／水木一郎



◆テーマソングとして毎回オープニングに流れる。
同じハーロックを歌った「さすらいの舟唄」に比べるとテンポも早く、詩の意味もストレートで、全体として精悍な感じがする。これは〝テーマソング〟ということを考えてのことだろう。





一、宇宙の海は　おれの海
おれの果てしない　憧れさ
地球の歌は　おれの歌
おれの捨てきれぬ　ふるさとさ
友よ　明日のない星と知っても
やはり　守って戦うのだ
命を捨てて　おれは生きる

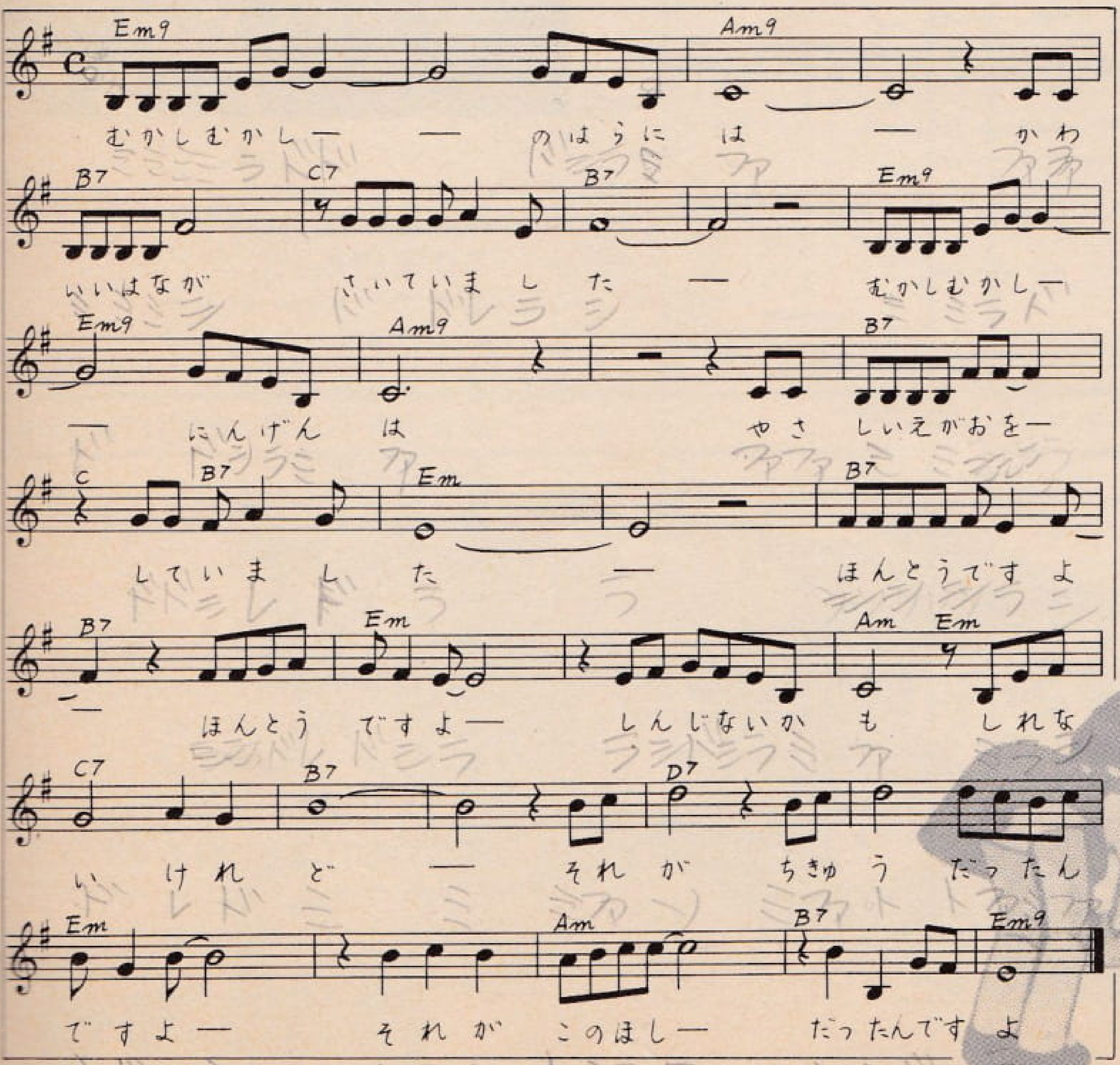
二、宇宙の闇は　おれの闇
おれの果てしない　戦場さ
ドクロの旗は　おれの旗
おれの死に場所の　目印さ
友よ　明日のない星となっても
君は　地球を愛していた
この星捨てて　行きはしない

三、宇宙の風は　おれの風
おれの果てしない　さすらいさ
空行く船は　おれの船
おれの囚われぬ　魂さ
友よ　明日のない星と知るから
たったひとりで戦うのだ
命を捨てて　おれは生きる
命を捨てて　おれは生きる

むかしむかし

作詩／保富康午　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児　歌／水木一郎

◆1話、9話、13話、38話他
まゆとからませた使い方が多かった。1話では誕生日防波堤の上にすわり、ハーロックをまってるシーン。13話ではハーロックに「浦島太郎」の話をしてあげているシーン。そして38話ではまゆ自身が歌っていた。挿入歌の中では特に人気の高い一曲である。





一、むかしむかし　野原には
かわいい花が　咲いていました
むかしむかし　人間は
やさしい笑顔を　していました
☆本当ですよ　本当ですよ
信じないかも　しれないけれど
それが　地球だったんですよ
それが　この星だったんですよ

二、むかしむかし　小川には
きらめく水が　流れていました
むかしむかし　人間は
みんなで明るく　歌いました
☆くりかえし

三、むかしむかし　お陽さまは
みんなの上に　ほほえみました
むかしむかし　人間は
ふれあう目と目で　語りました
☆くりかえし

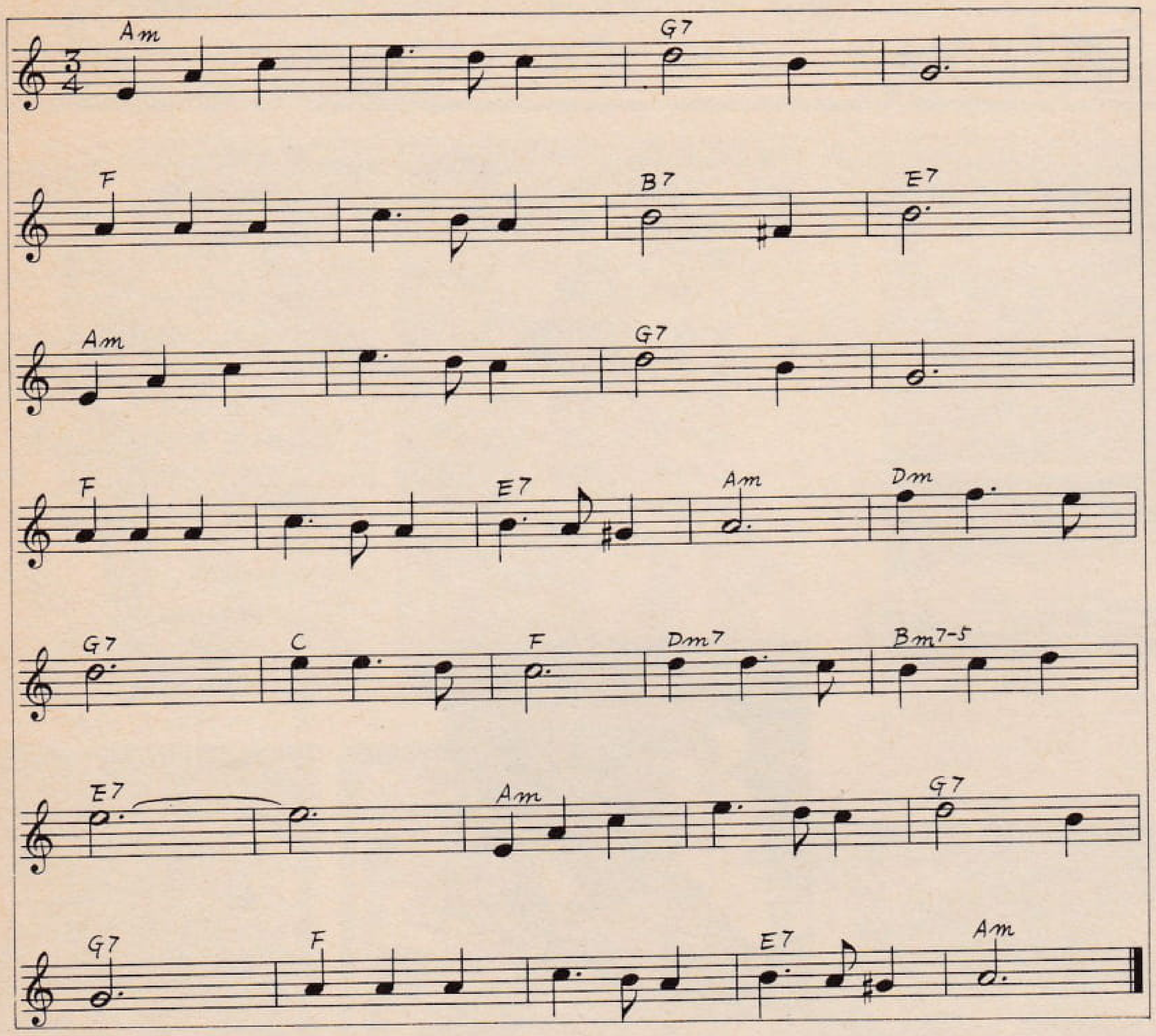
まゆのテーマ

作曲／横山菁児

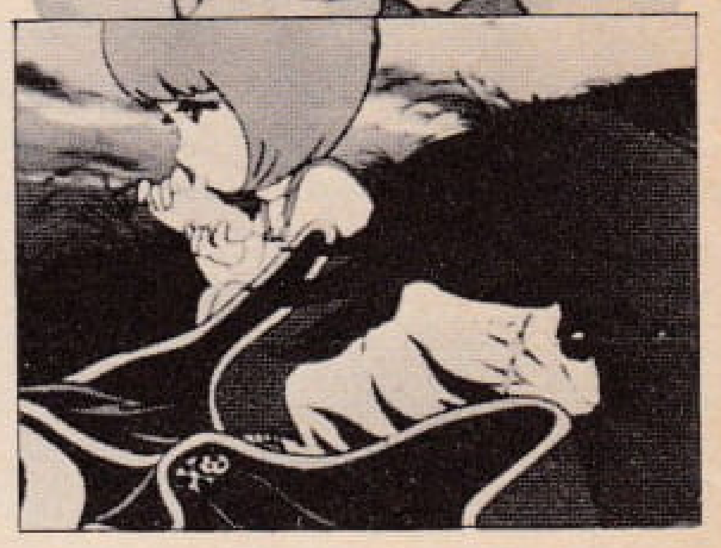


◆１話他多数

りんたろう氏の話によれば、最初〝まゆのテーマ〟には「赤とんぼ」を使おうとしたのだが許可がおりず、急遽新しい曲を作ったということ。ＢＧＭがシンフォニックという中で、オカリナ一本による演奏というのは冒険だったように思えるが、すばらしい効果を示していた。







水木一郎



ハーロックっていうのは松本先生が昔から
たいせつにしているキャラクターですよね。
実はぼくもファンで、連載はずっと読んでい
ました。だからアニメになると知った時はぜ
ひ歌ってみたいと思ったんです。決まった時
は本当にうれしかったですね。

68人ものシンフォニックをバックに、なん
てことは初めてだったのでさすがに緊張しま
したが、感激もひとしおでした。曲にはわり
とスムーズにはいれました。〝ハーロック〟
プラス自分の歌手としての個性をなんとか出
せたんじゃないかな。

挿入歌もそれぞれ訴えるものがちがい、い
い歌ばかりなので忘れられません。

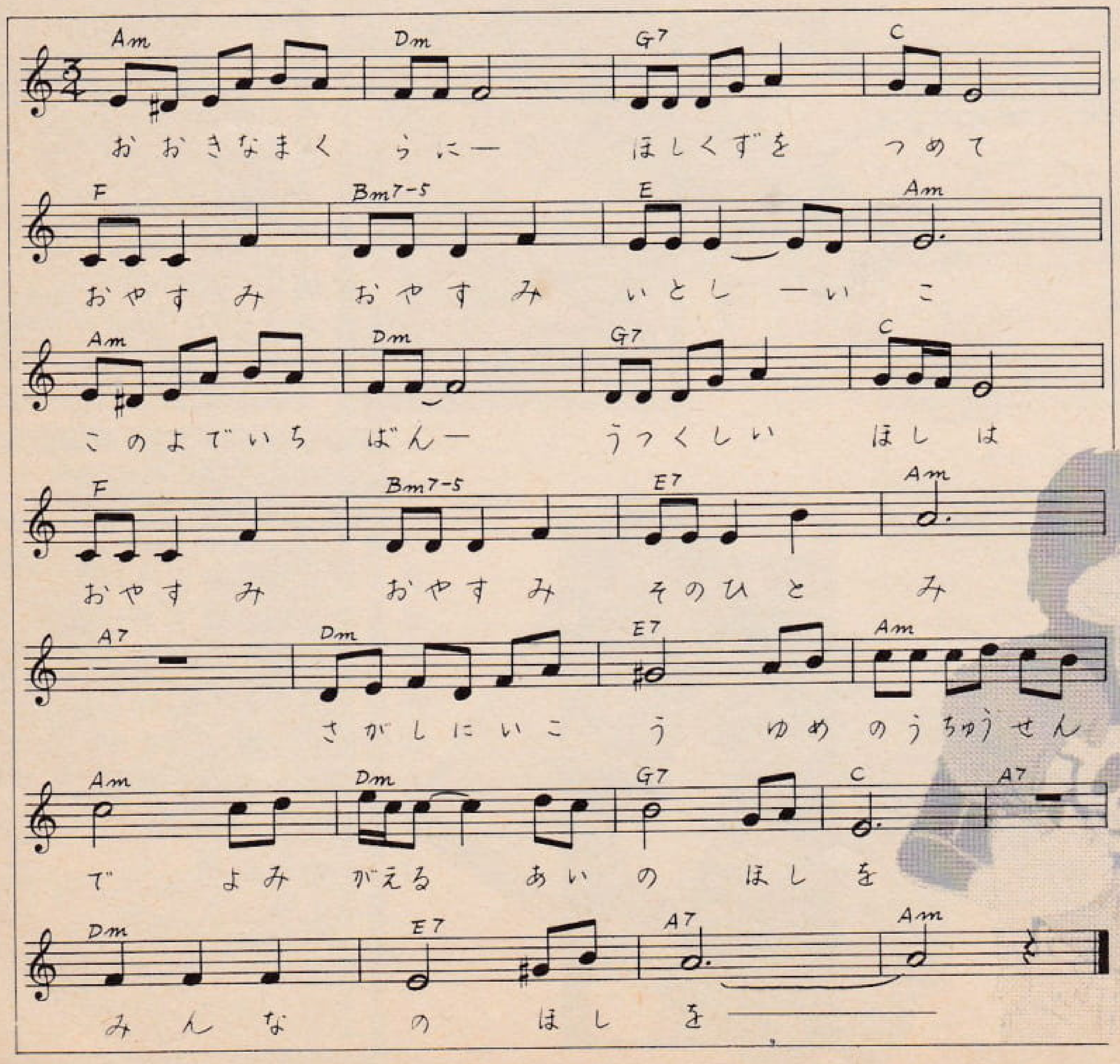
すばらしい作品だったのでファンの方も根
強く、今だにステージにはかかせない曲のひ
とつです。

銀河子守唄

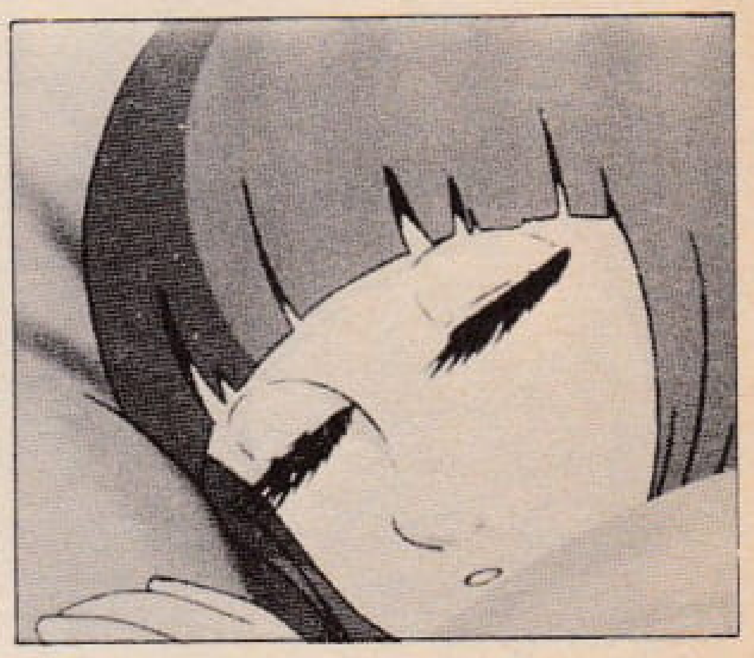
作詩／保富康午　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児
歌／水木一郎

◆34話

誘拐の恐怖からのがれられず神経哀弱に陥りオカリナを吹きつづけるまゆ。そのまゆを眠らせようと中枢大コンピューターはなつかしい子守唄を歌う。まゆが眠りについたところでこの曲が流れた。詩と三拍子のリズムで、どことなくメルヘン的な感じを思わせる。





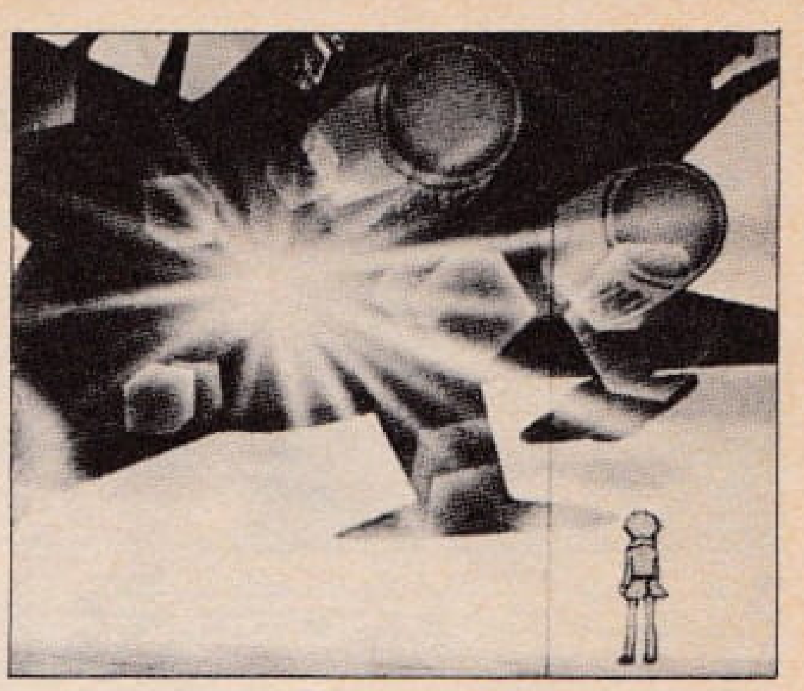


一、大きな枕に　星屑をつめて
おやすみ　おやすみ　いとしい子
この世で一番　美しい星は
おやすみ　おやすみ　その瞳
さがしに行こう　夢の宇宙船で
よみがえる　愛の星を
みんなの星を

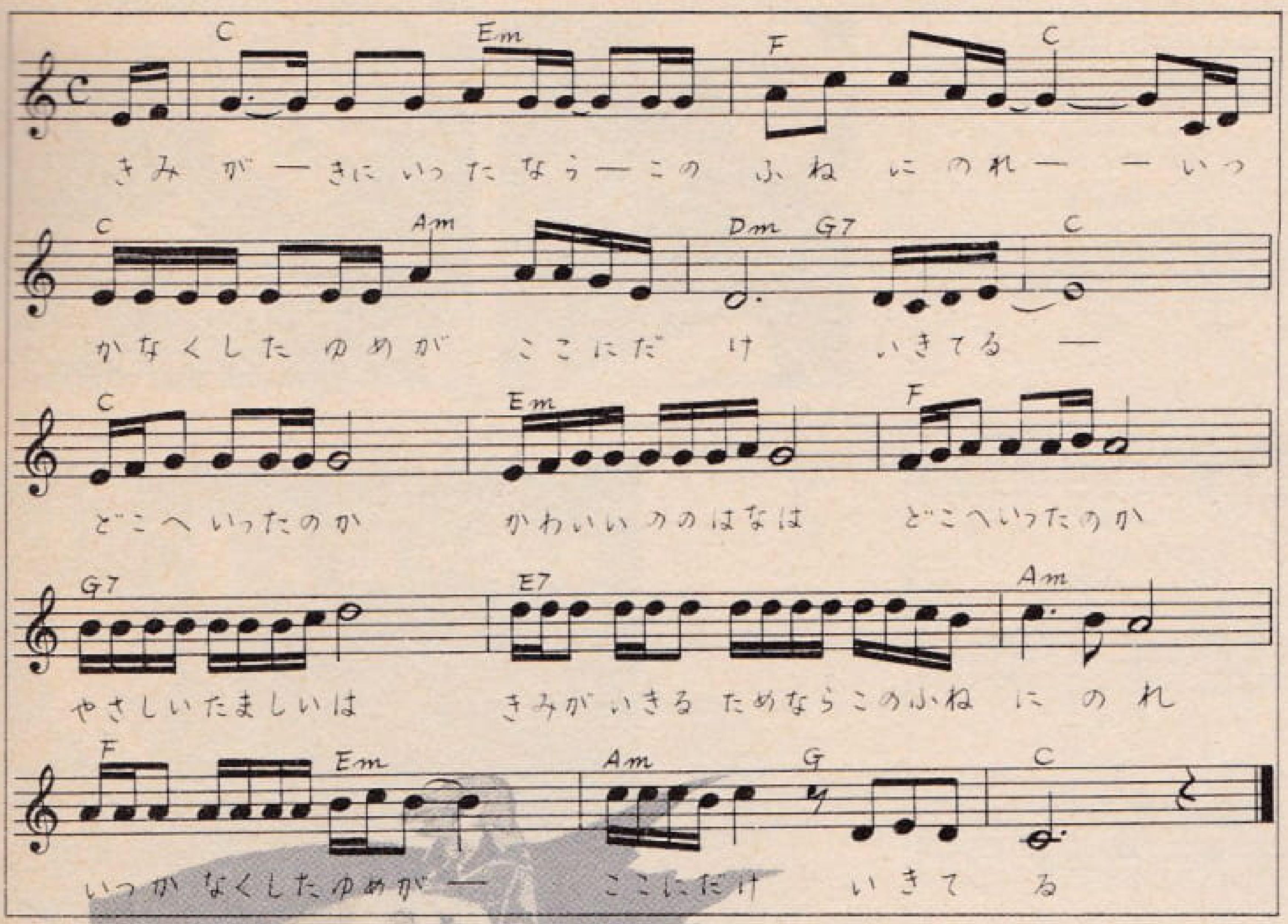
二、輝く銀河の　ゆりかごに乗って
おやすみ　おやすみ　いとしい子
誰もが待ってる　新しい星は
おやすみ　おやすみ　その笑顔
さがしに行こう　若い宇宙船で
父母の　生きた夢を
みはてぬ夢を

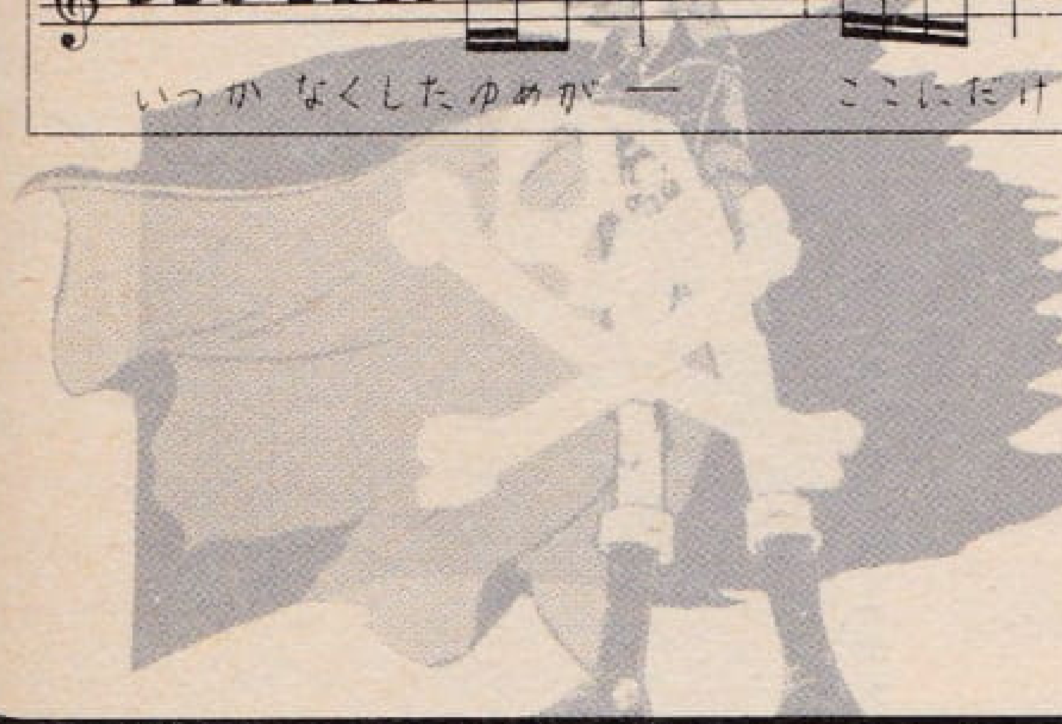
われらの旅立ち

作詩／保富康午　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児
歌／水木一郎



◆サブテーマとして毎回エンディングに流れる。
〝希望〟を感じさせる曲である。物語中の人物のみならず、ハーロックが私たちにも語りかけているように聴こえる。アルカディア号を見上げながら走るまゆの姿がかわいいと評判だった。

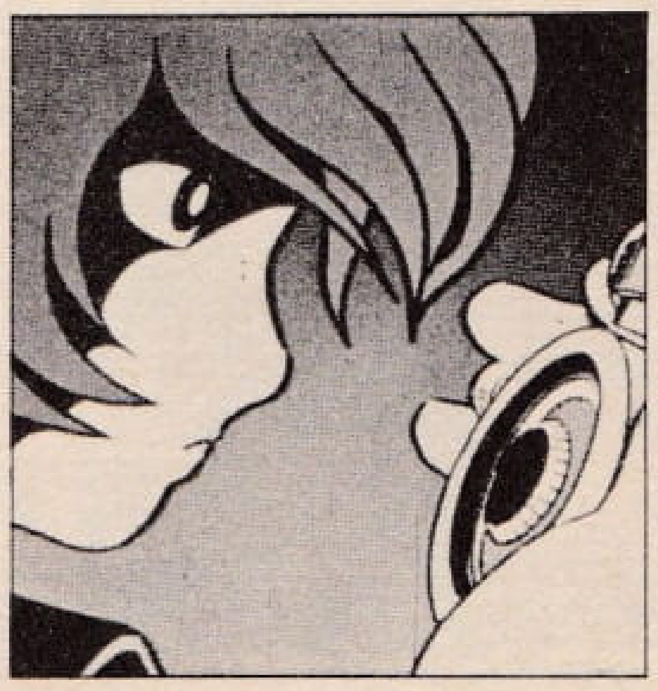




一、君が気に入ったなら
　　この船に乗れ
　　いつかなくした夢が
　　ここにだけ生きてる
　　どこへ行ったのか
　　かわいい野の花は
　　どこへ行ったのか
　　やさしい魂は
　　君が生きるためなら
　　この船に乗れ
　　いつかなくした夢が
　　ここにだけ生きている

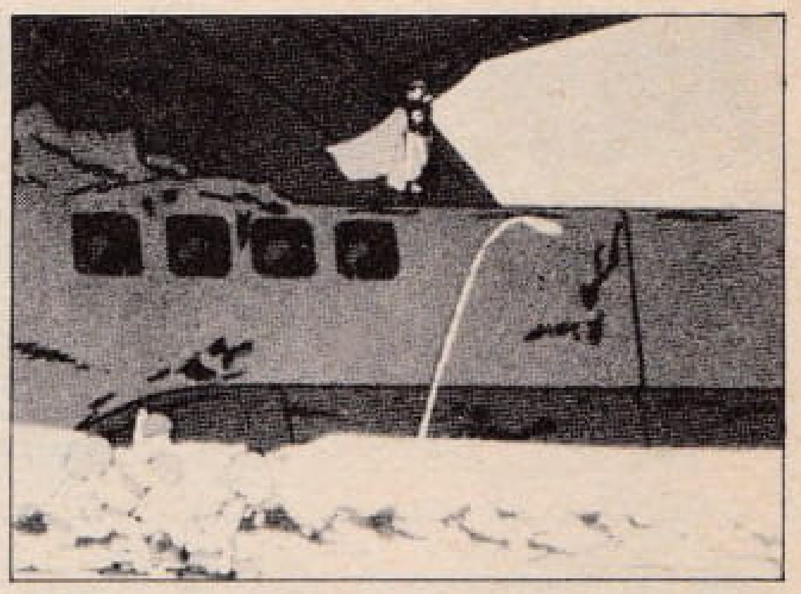
二、君が戦うのなら
　　この船に乗れ
　　胸に信じるものの
　　ためにだけ旅立て
　　どこへ行ったのか
　　きらめくせせらぎは
　　どこへ行ったのか
　　あかるい歌声は
　　君が生きるためなら
　　この船に乗れ
　　胸に信じるものの
　　ためにだけ旅立て

三、君が男だったら
　　この船に乗れ
　　力いっぱい生きて
　　満ち足りて死のうよ
　　どこへ行ったのか
　　ほほえむ太陽は
　　どこへ行ったのか
　　ふれあうまなざしは
　　君が生きるためなら
　　この船に乗れ
　　力いっぱい生きて
　　満ち足りて死のうよ



わが友わが命

作詩／保富康午　作曲／平尾昌晃　編曲／横山菁児
歌／水木一郎



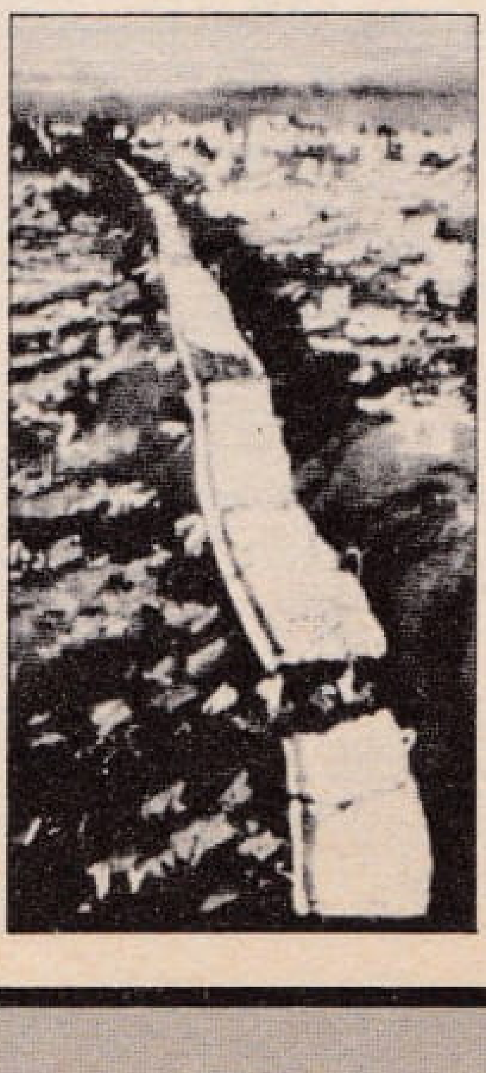
◆42話
ハーロックとミーメを乗せたアルカディア号が去っていくのを、台羽正らが走りながら見送るというシーンで流れた。ゆったりとした広がりのある曲で、戦いが終わったあとの解き放たれた感じがし、この物語のしめにふさわしかったといえる。





一、燃えたつ　夏があればこそ
　　こごえる　冬にも耐えられる
　　君との　出会いあればこそ
　　むなしい　孤独に耐えられる
　　君　我が友　我が命
　　☆宇宙の全てが　滅んでも
　　　誰の手にも　渡さない
　　　ああ　アルカディア号
　　　きみとゆく

二、花散る　春はおしまずに
　　みのりの　秋こそ信じよう
　　君との　秘めた青春は
　　必らず　地球に実らせる
　　君　我が友　我が命
　　涙も　笑いも　わけあって
　　同じ星と　散る日まで
　　ああ　アルカディア号
　　きみとゆく
　　☆くりかえし
　　　きみとゆく



ENDING SPECIAL
キャプテンハーロック資料室

アニメ化によってさらにファン（熱狂的な！）の幅を広げたハーロックは、松本零士氏のライフワークともいえる。それを反映してかこの作品に関する資料、商品はたいへん多い。そのほんの一部分だが集めてみた。

原作を中心に……



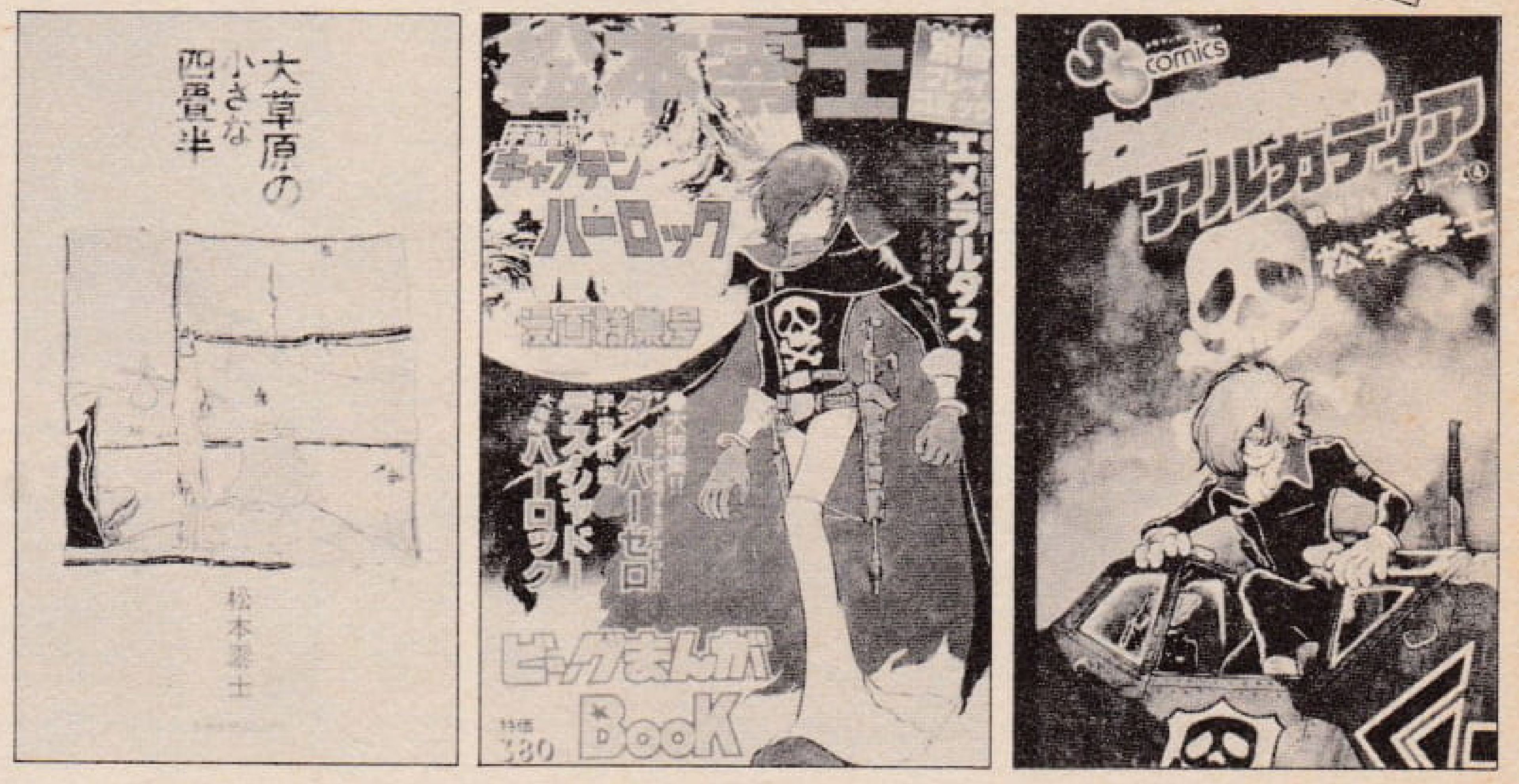
◀ハーロック連載中のプレイコミック



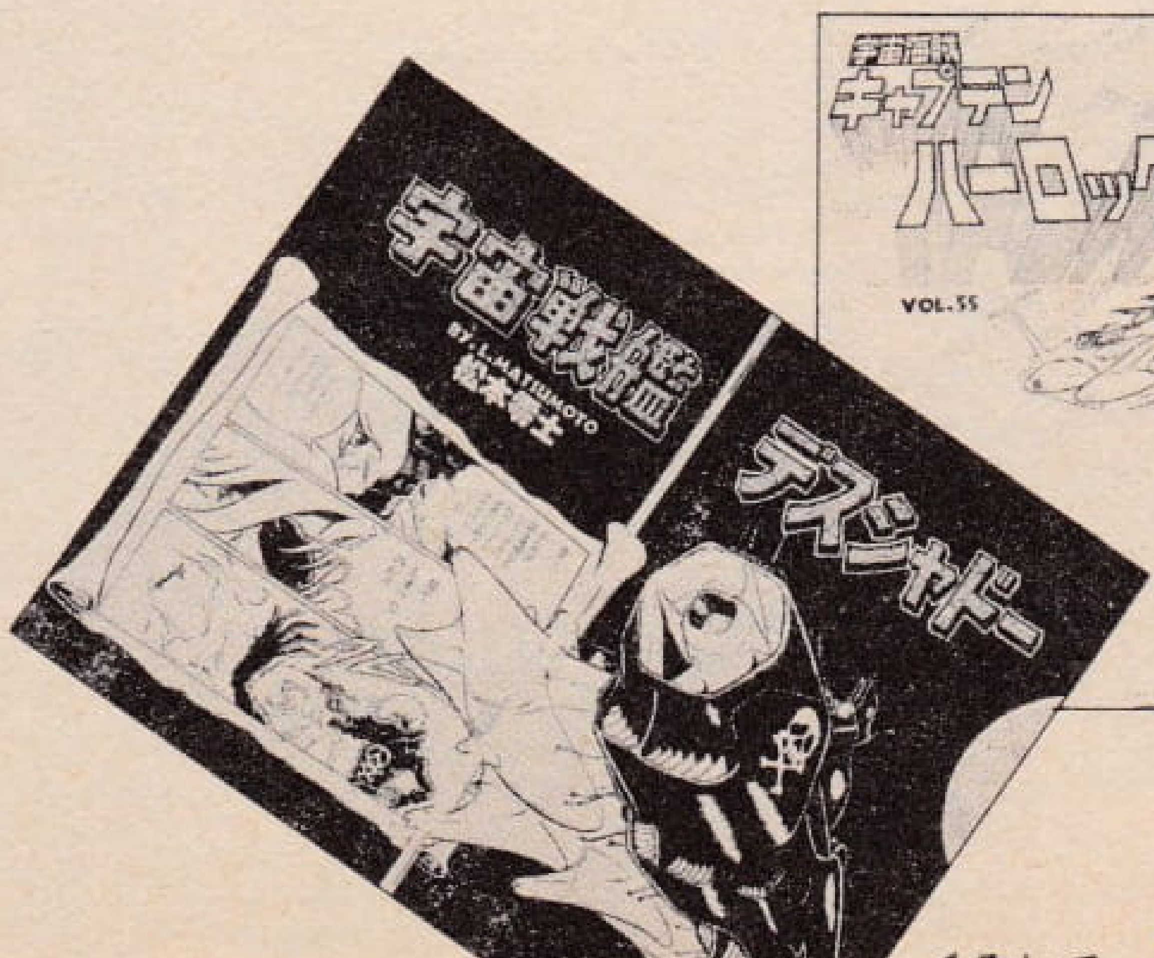
◀表紙

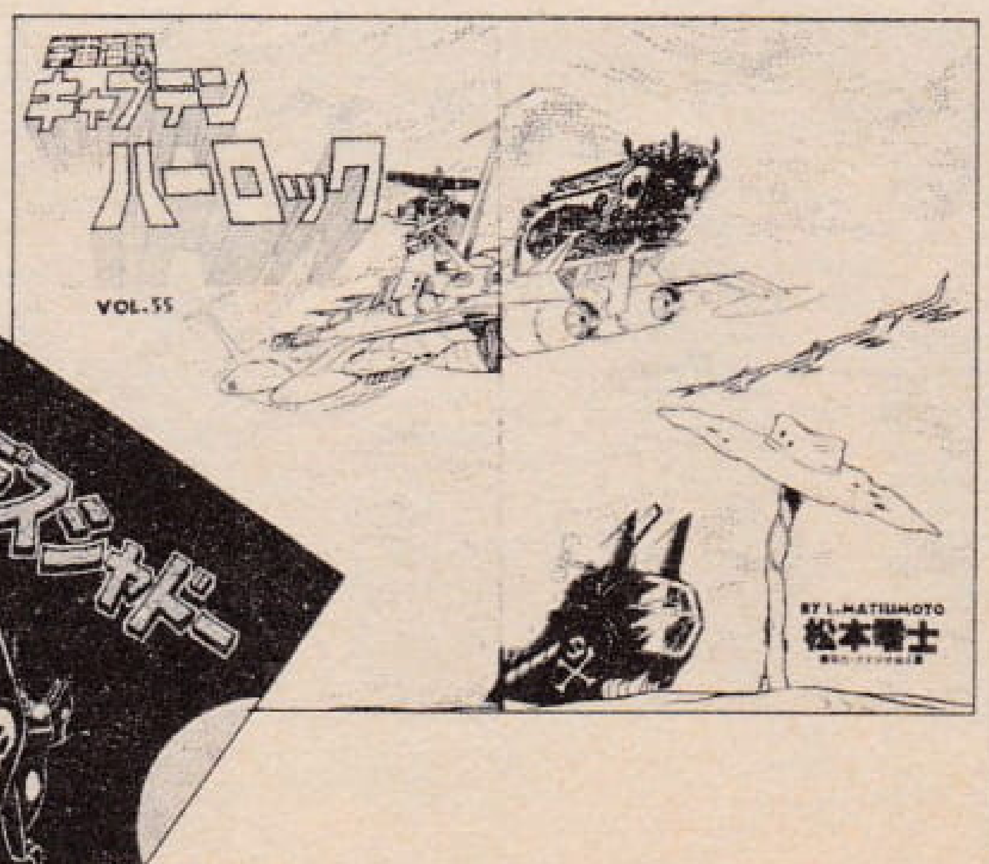


◀単行本・1巻～5巻（秋田書店）

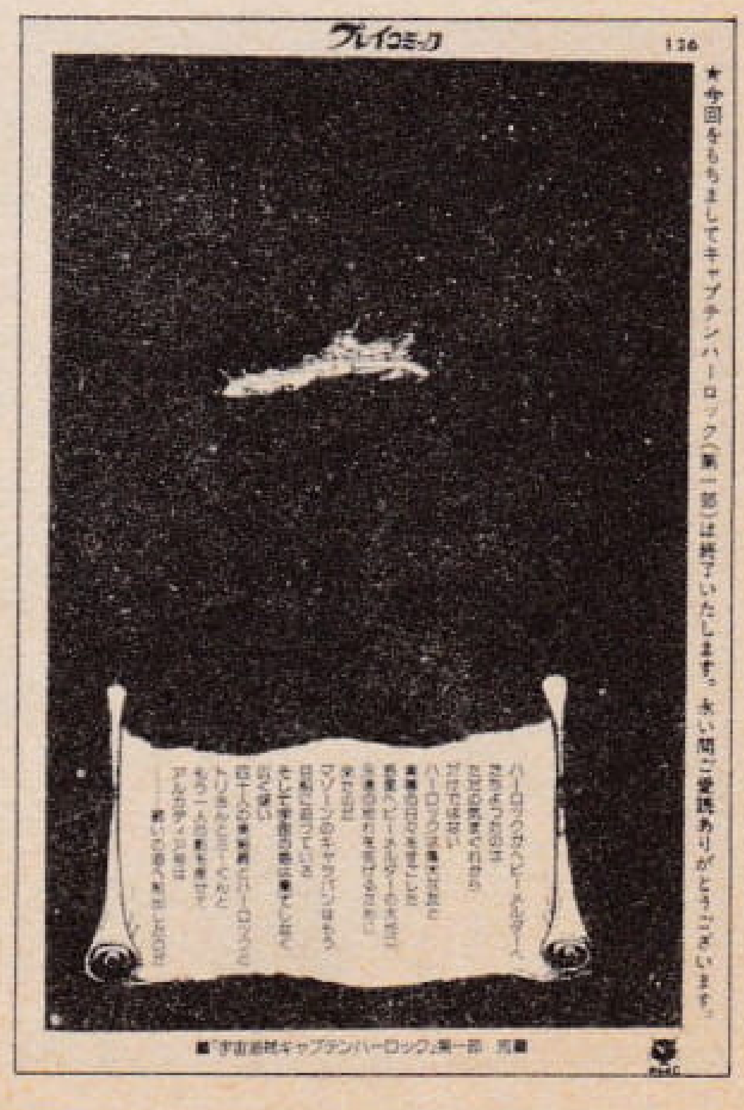


◀ここにもハーロックは生きている！



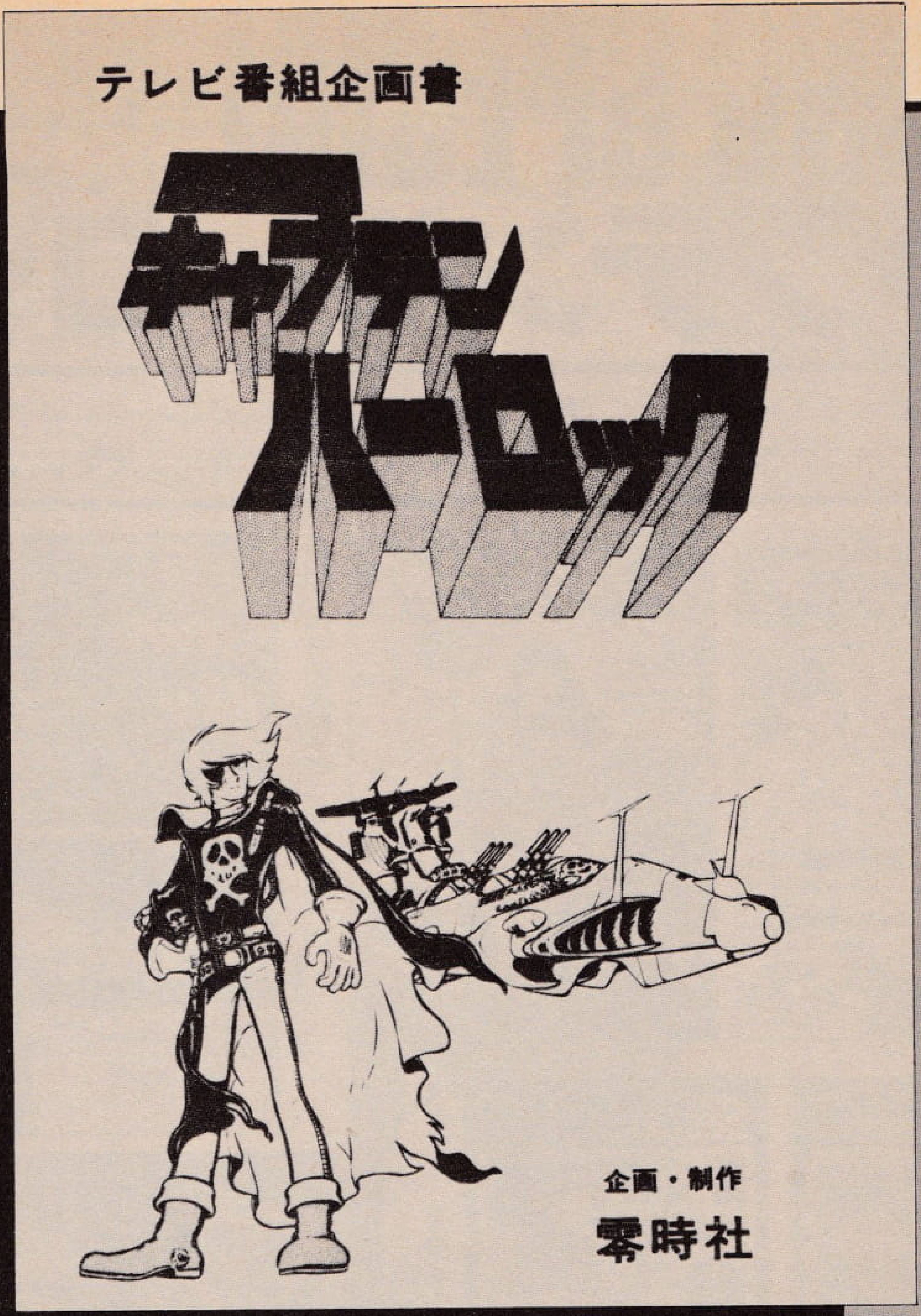


◀そして、ここにもハーロックは生きている！



◀第一部最終回の最終ページと表紙

零時社制作幻のTV番組企画書

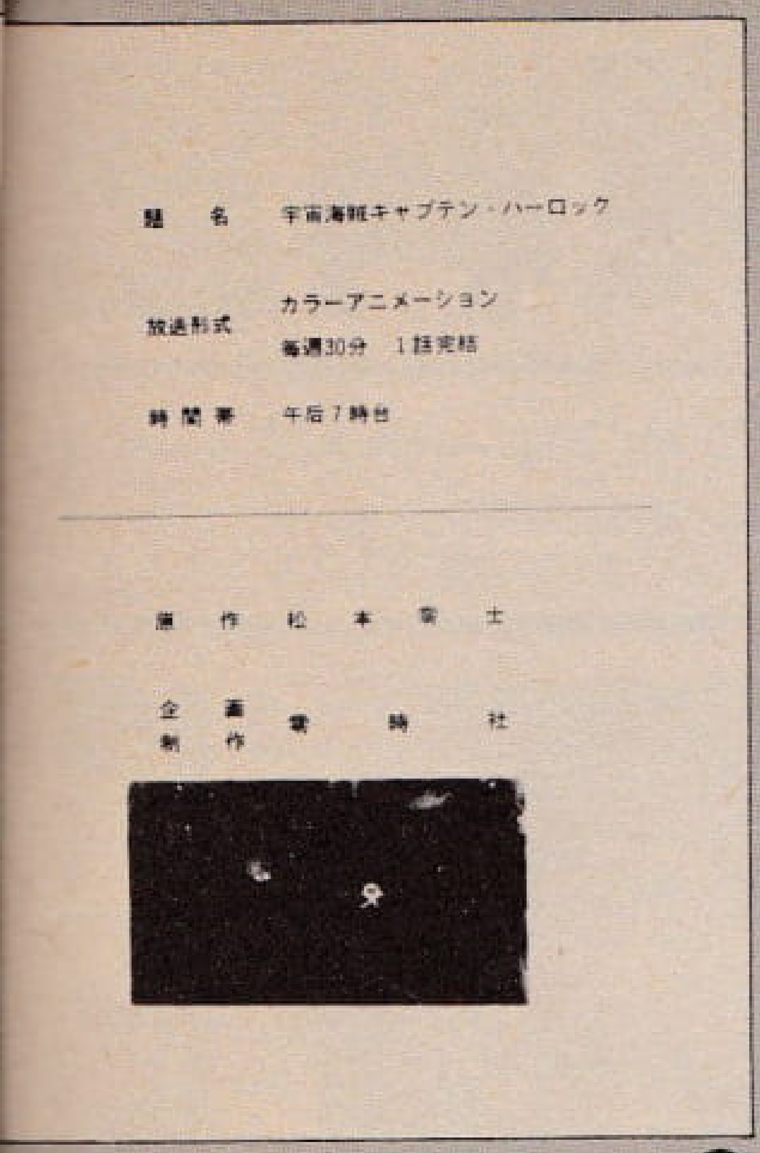

テレビ番組企画書

キャプテン ハーロック

企画・制作

零時社

1


題名　宇宙海賊キャプテン・ハーロック

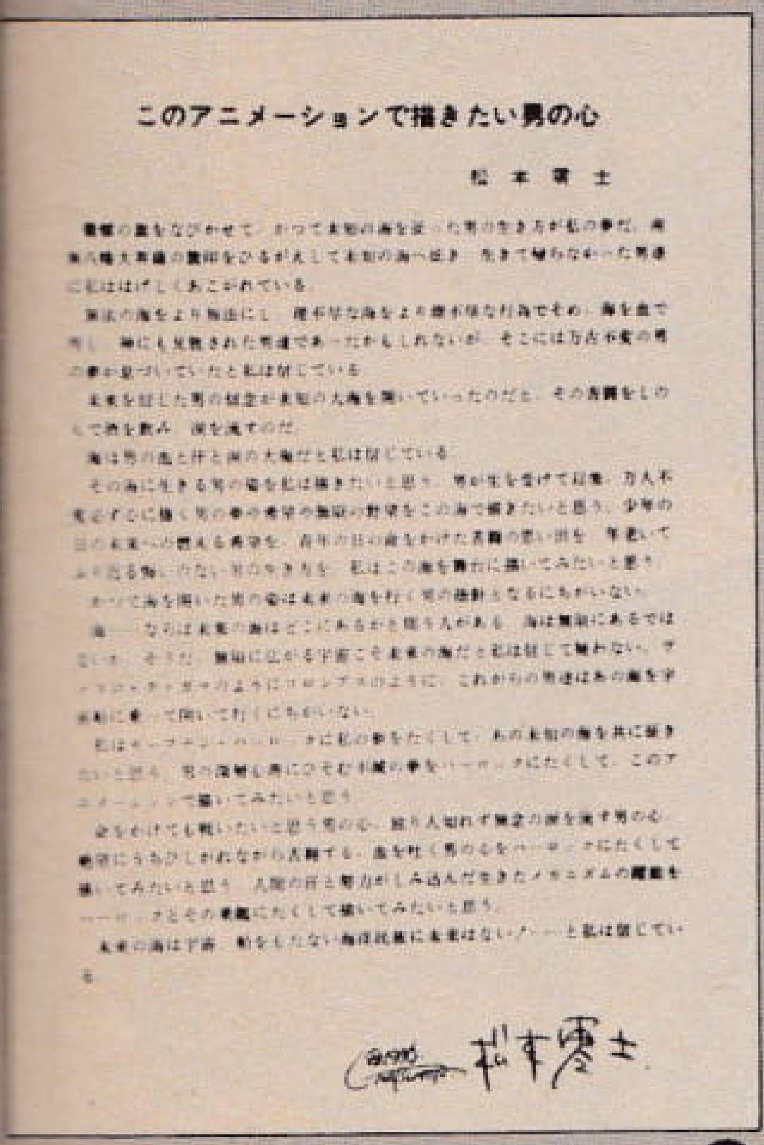
放送形式　カラーアニメーション　毎週30分　1話完結

時間帯　午后7時台

原作　松本零士

企画制作　零時社

2


このアニメーションで描きたい男の心

松本零士

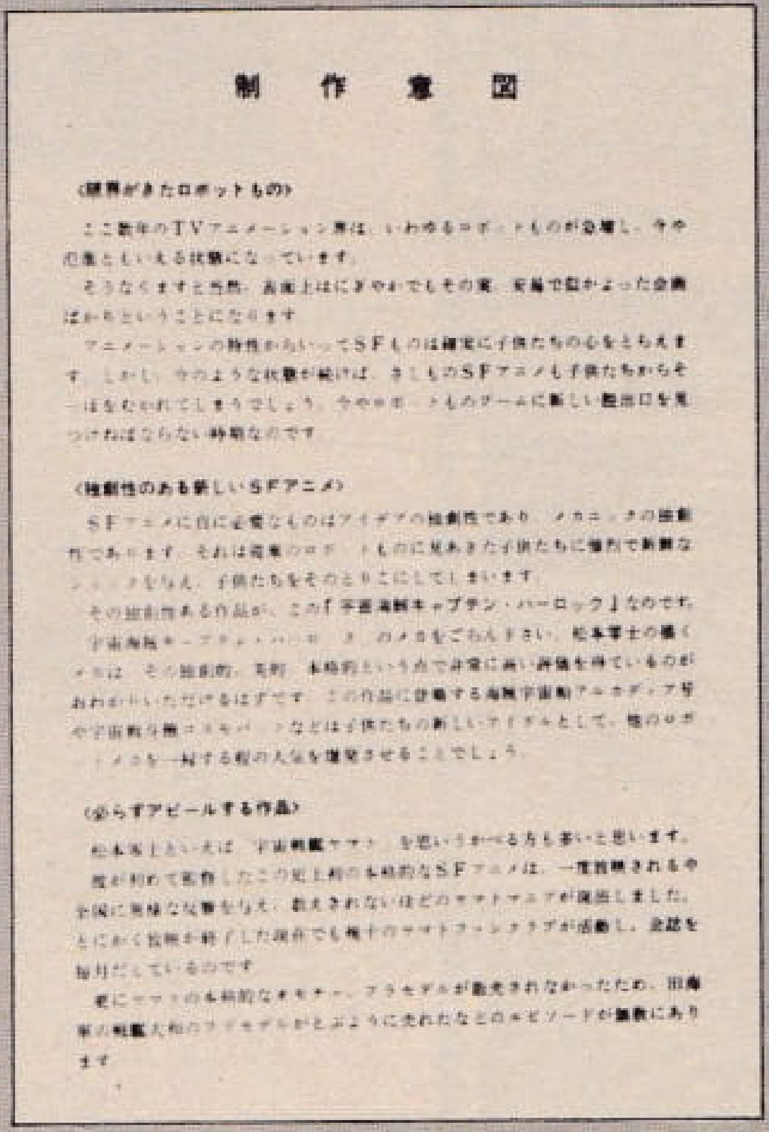
3


なぜ男たちは海をめざすのだろう……

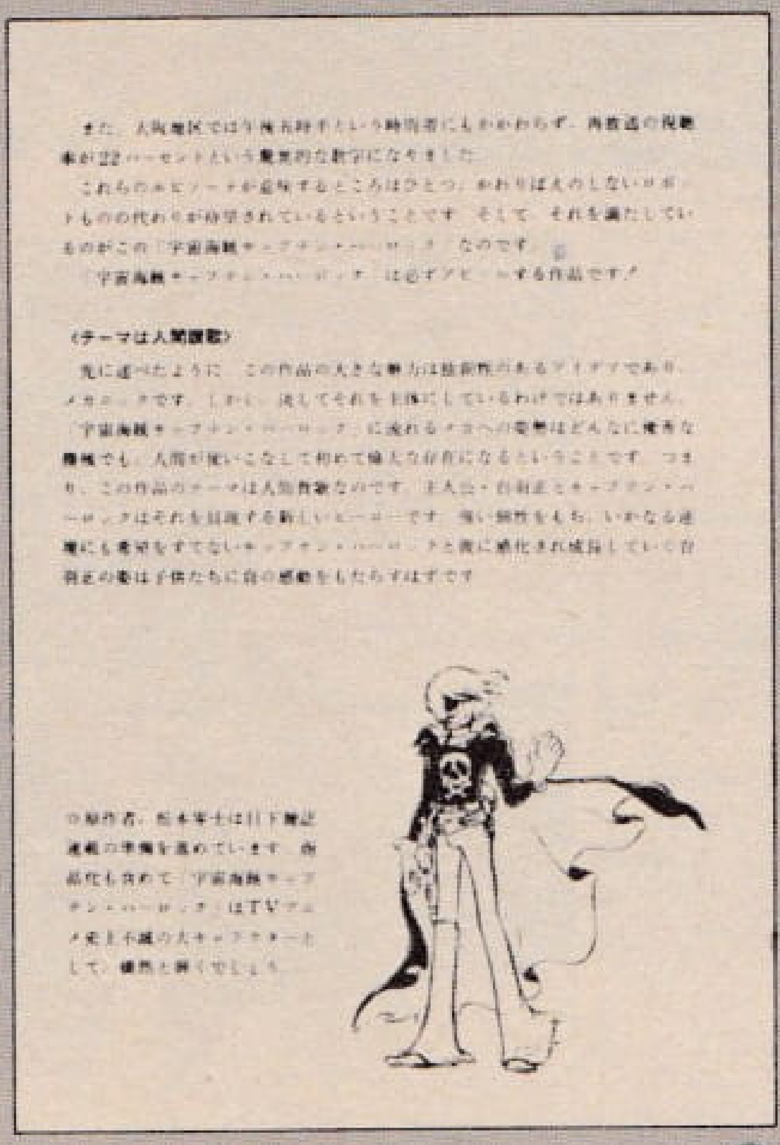
これは宇宙という広大な海に冒険と

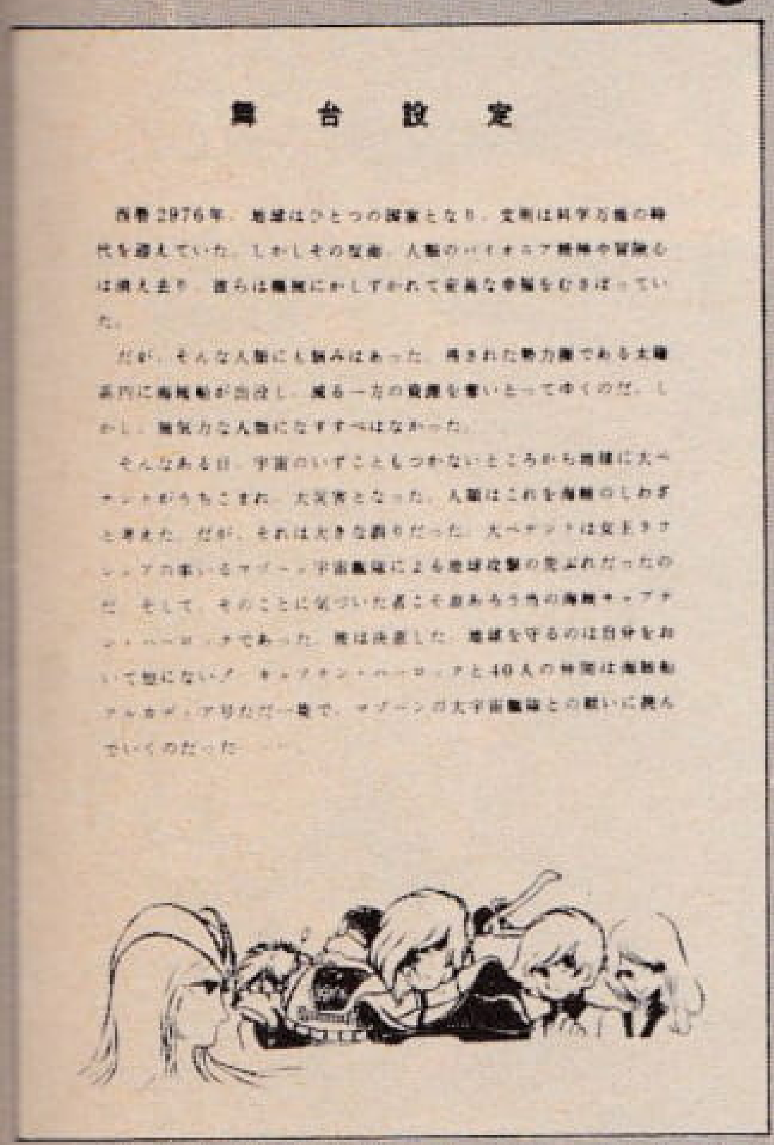
ロマンを求めた男たちの物語である

4


制作意図

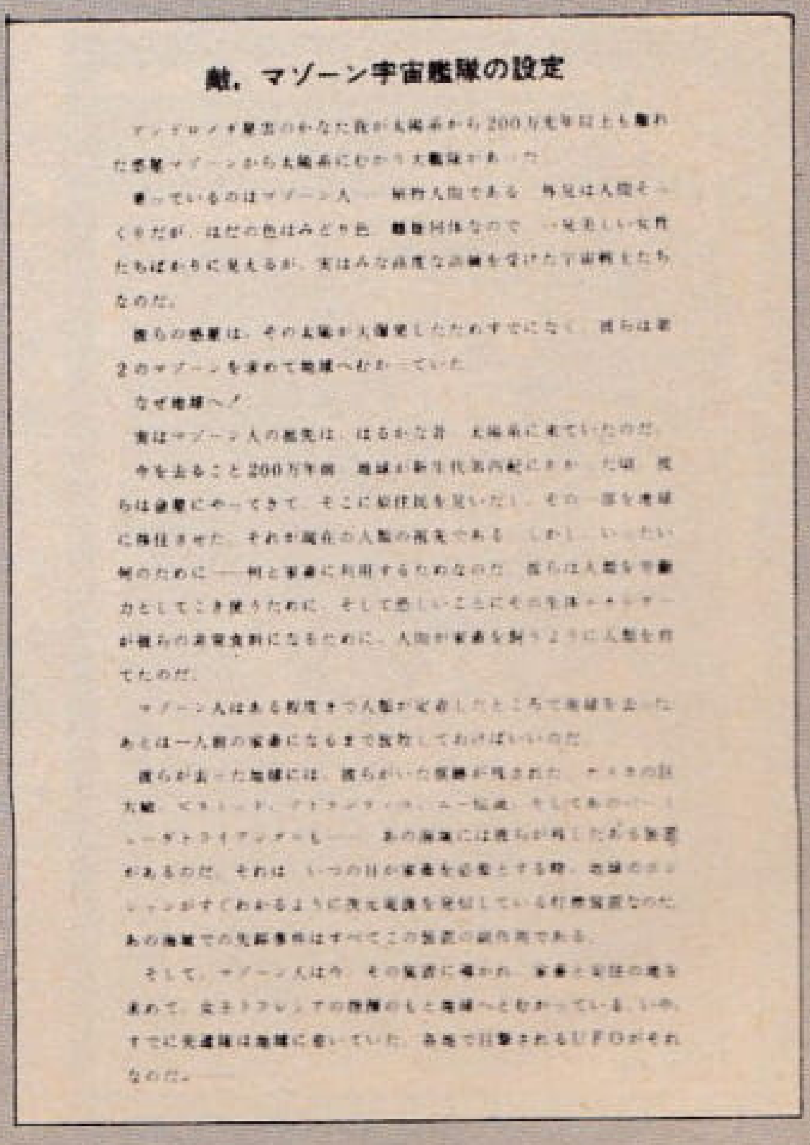
5


6

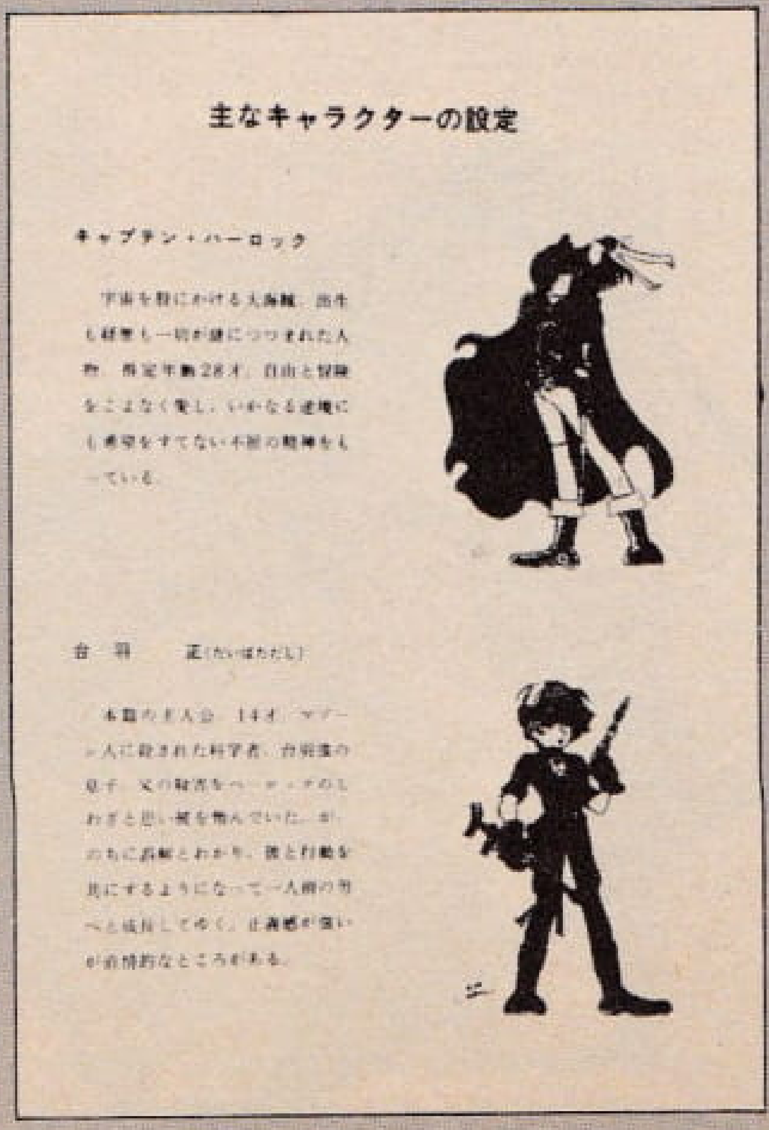

舞台設定

西暦2976年、地球はひとつの国家となり、文明は科学万能の時代を迎えていた。

7


敵、マゾーン宇宙艦隊の設定

8


主なキャラクターの設定

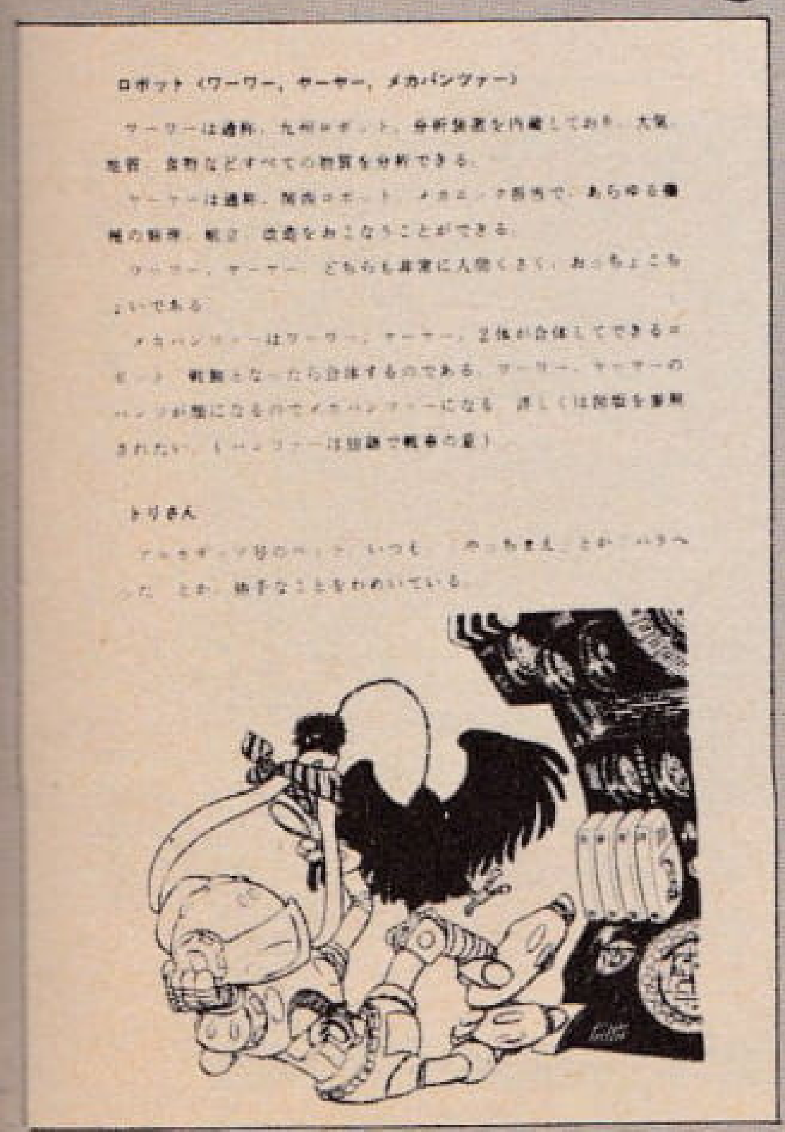
キャプテン・ハーロック

9


有紀　螢

ドクター・ゼロ

10

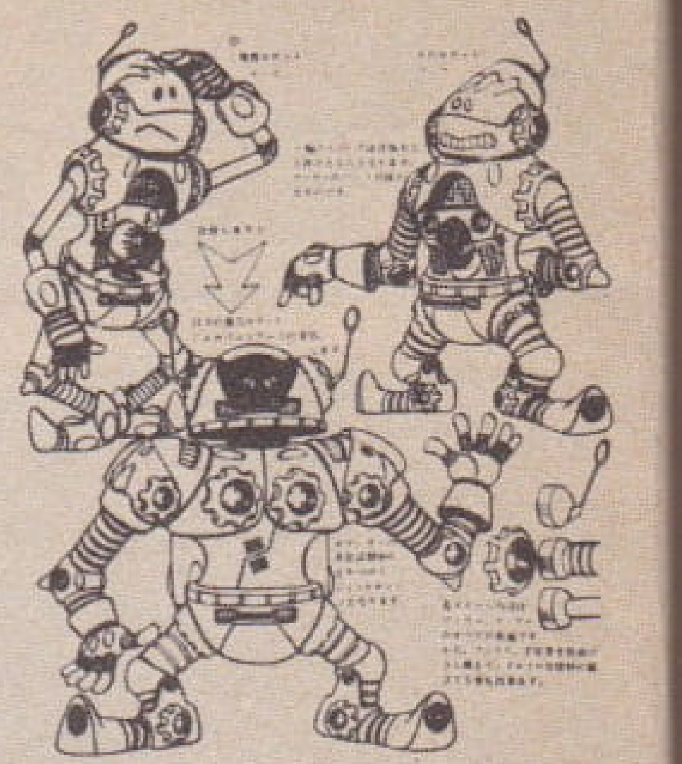

ロボット（ワーワー、ヤーヤー、メカパンツァー）

トリさん

11

〈メカパンツァー合体図〉

ロボット・ターター、ワーターは図のように凹凸面が完全にあうようにデザインされており、そのままプラモデルにしても合体、まじかえて楽しめるように工夫されています。



女王ラフレシア

惑星マゾーンの女王。今はマゾーン宇宙艦隊の総帥として地球攻略の指揮をとっている。マゾーンは好戦的な種ではない。本当は心の豊かな高等種族なのである。しかし、地球人を害虫とみなしていたのと、種族の存亡がかかってきたので地球侵略にふみきったのだ。それ故、女王ラフレシアは、一族には母のごとくやさしく、美女と讃えられている。だが敵対する者に対しては鬼のごとき冷酷さを発揮する。



異星の怪生物

これこそSFアニメの本領ともいえるところであり、想像力の限りを尽した生物を登場させることになっている。



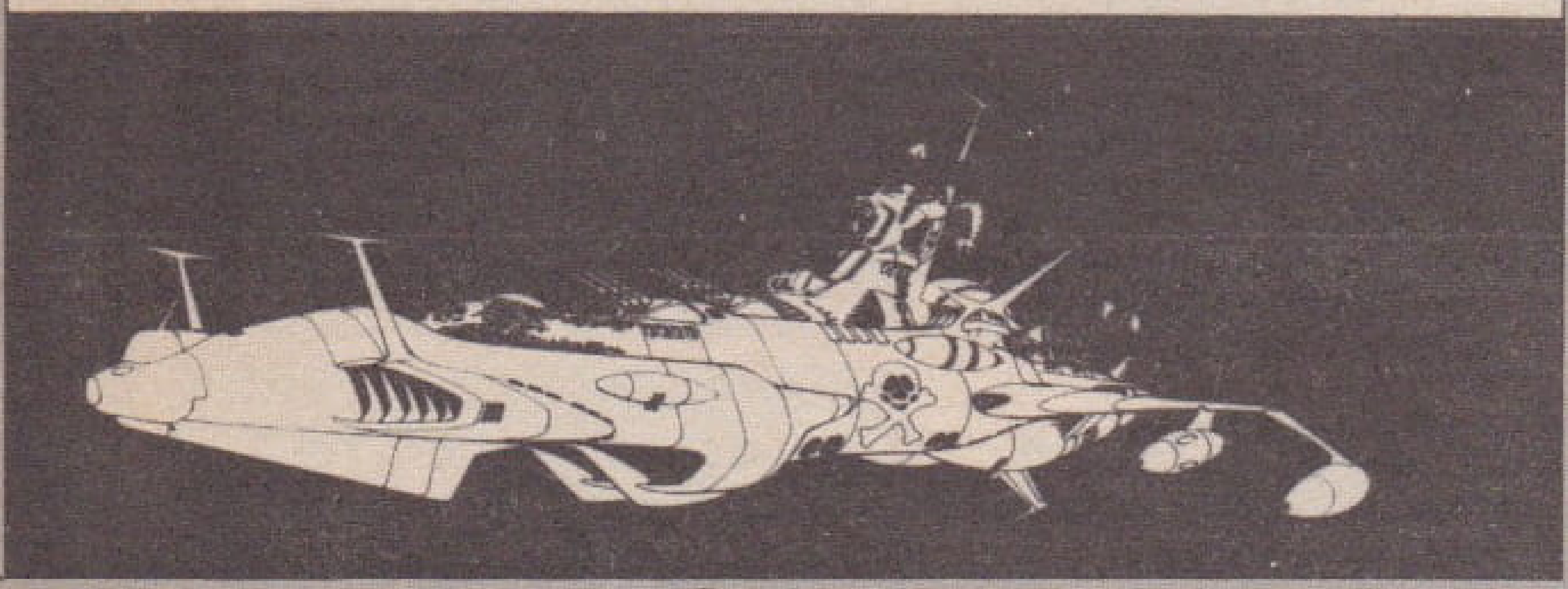
活躍するメカニックの設定

メカニックキャラクターは動画技術のなかで最も力を入れるところであり、よりリアルに、より大きさを感じさせるように全力をかたむけます。そのためにスキャニメートその他の特殊技術の導入も考えています。

戦闘艦アルカディア号

キャプテン・ハーロックが手足の如く操艦する海賊船。残像をキャッチして敵を追尾できるタイムレーダー、広範囲をカバーするコスモレーダー、そして通常の二次元レーダーを備え、あらゆる物体をとらえることが可能。武器は主砲パルサーカノン、速射砲スペース・スパスキー、ミサイルなど多数にある。他に戦斗機コスモバットを30機艦載、特殊戦車ドクロスを3両も搭載している。全長約400mの巨艦。



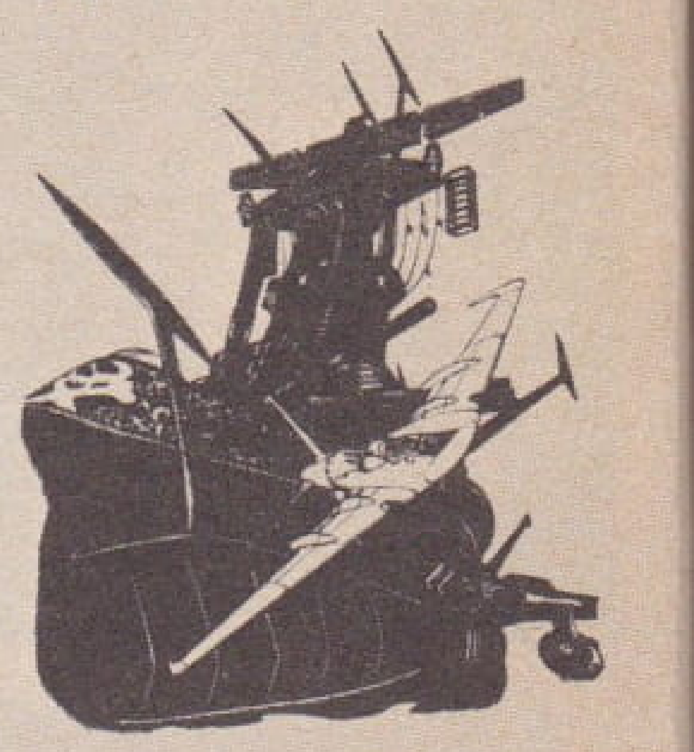


艦載戦斗機コスモバット

航宙最高速度300 L.M.を誇る戦斗機。パルスレーザー、ミサイルを備えている。乗員は操縦士、航宙士、機銃手の3名。

サーベルガン

全長約1メートル、サーベル形の万能銃。レーザー、ブラスター、麻酔銃のいずれにも使うことができる。キャプテン・ハーロックのみが装備している。



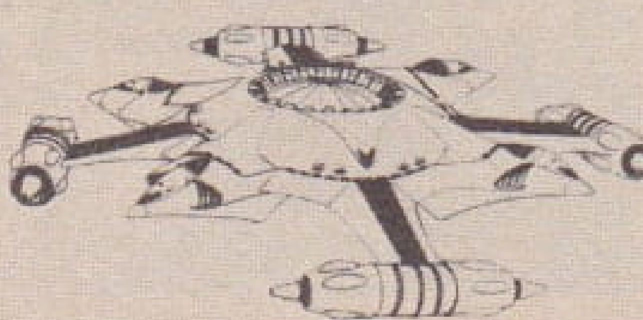
宇宙服

耐熱耐冷防護、対知通信装置、耐圧機能、対放射能機能を備えた万能宇宙服。軽量で活動的なのが特徴。



宇宙空母ゾネス

マゾーン宇宙艦隊の中枢をなす大宇宙空母。爆撃機20機、宇宙戦斗機2000機、上陸用舟艇400隻、宇宙戦車1700両を搭載している。他にミサイル、速射砲も備えている。まさに史上最強の宇宙空母である。



ストーリー〈梗概〉

西暦2976年、地球はひとつの国家に統一され、文明も科学万能となり、人類は退屈な平和をむさぼっていた。

ある日、宇宙のどこかから日本のある地域に巨大なペナントがうちこまれた。人々は、これを最近出没している宇宙海賊のしわざと考えた。しかし、それは違っていた。大ペナントは未知の宇宙人が、地球侵略の目標としてうちこんだ電波灯標であった。宇宙人はその昔、設置したバーミューダ海域の灯標だけでは弱いので新たに強力な標識を地球に送ったのだ。そしてこのことに気づいた人間が2人いた。1人は宇宙海賊キャプテン・ハーロックその人であり、もう1人は老科学者、台羽博士であった。

その台羽博士が殺害された。殺したのは無論ペナントをうちこんだ女王ラフレシア率いるマゾーン宇宙艦隊先遣隊工作員だった。

しかし、台羽博士の息子、台羽正は犯人をハーロックと思いこみ、偶然のことからハーロックの船、アルカディア号に乗り組んだ。

マゾーン先遣隊は手始めに地球の貨物船を襲いだした。地球の危機を確信したハーロックはマゾーン宇宙艦隊との戦闘を開始した。

幾多の戦いが行なわれた。ある時は異生物と、ある時は両艦艇で、ある時は大艦隊と——。その間に台羽正はハーロックに対する誤解をとき、大きく成長していった。

戦いは果しなく続くかと思われたが、ある日それは終わりを告げた。いかなる時にも希望をすてないハーロックの態度が女王ラフレシアを動かしたのだ。マゾーン宇宙艦隊は平和な移住地を求めて他の星系へと去っていった。そして、ハーロックもまた新たなる冒険とロマンを求めて、いずこともなく旅だつのであった——。

サンプル・ストーリー

〈第1話〉

日本のある地域に巨大なペナントがうちこまれ大混乱となった。人々は宇宙海賊キャプテン・ハーロックのしわざだとうわさする。

ペナントの謎を知った老科学者、台羽博士が殺される。息子の正はハーロックを犯人と思い復讐を誓う。台羽正は貨物船に乗っていれば、それを襲うハーロックに出会うチャンスがあると考え、乗員募集に応募する。だが、それは貨物船ではなく、ハーロックの船アルカディア号だった。

〈第2話〉

アルカディア号は地球の貨客船が異星の宇宙船に襲われているのに遭遇する。貨客船には1人の生存者がいた。有紀螢という少女だった。

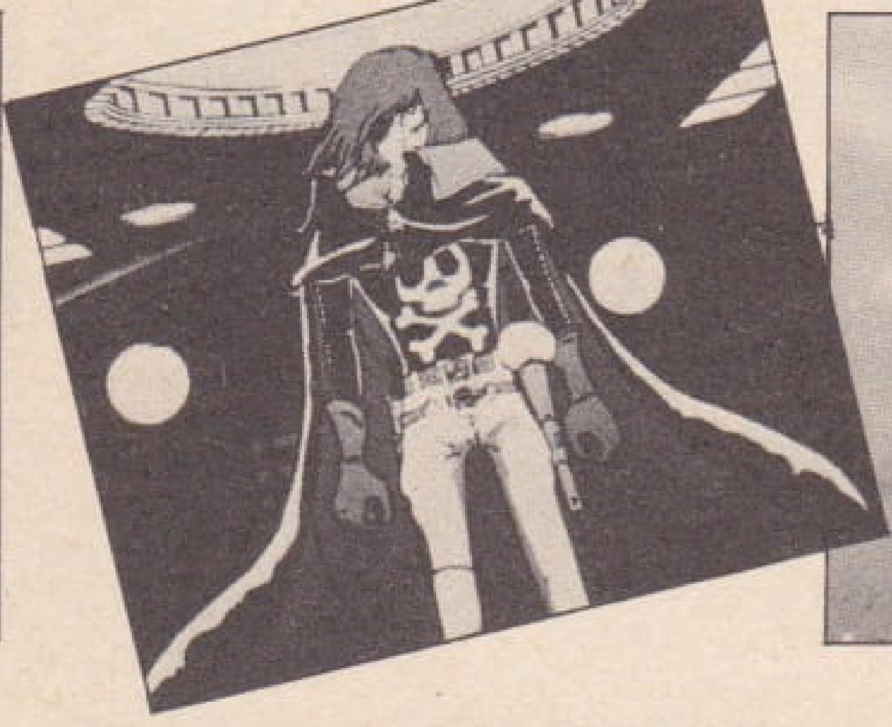
貨客船攻撃もハーロックのしわざと思った正はハーロックを襲うが果せず、異星からの侵略者の話をきかされる。有紀螢が証人となったのだ。正も信じざるを得ない。ハーロックは地球を守る者だったのだ。

〈第3話〉

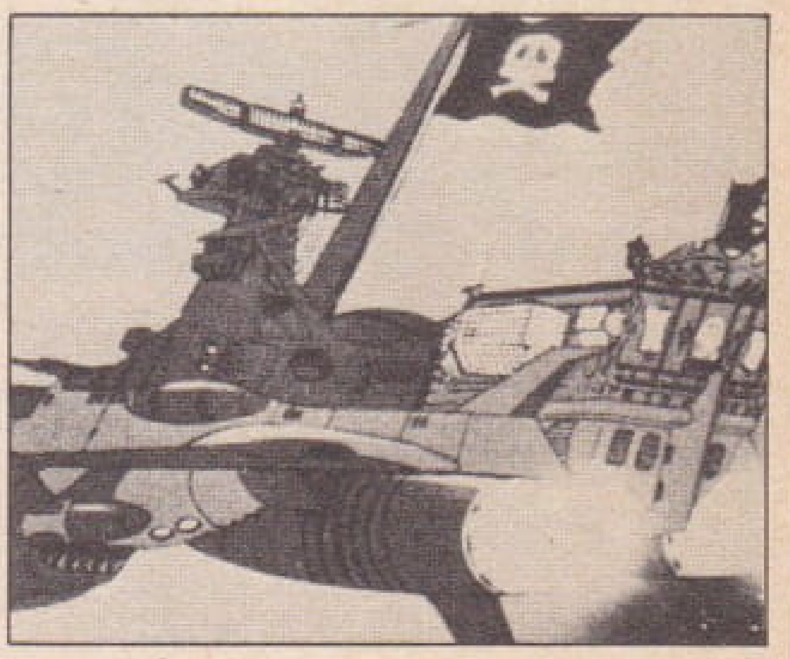
アルカディア号の船内に電動ホログラフによる立体映像のラフレシアが出現し、マゾーンと地球の関わりを話し、降服を求める。ハーロックはそれを拒否、マゾーンの先遣隊と戦闘状態に入る。正は手柄をたてようと敵の只中につっこみ、ワナにはまって捕ってしまう。ハーロックは単身攻撃をかけ、正を救いだす。ここに正はハーロックの真の姿を知り、生死を共にしようと誓う。

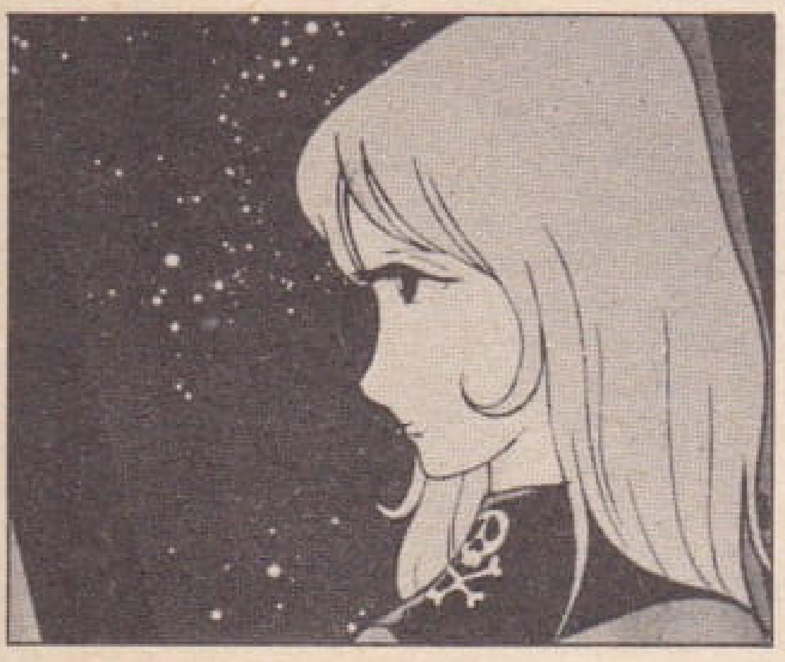
第1話予告

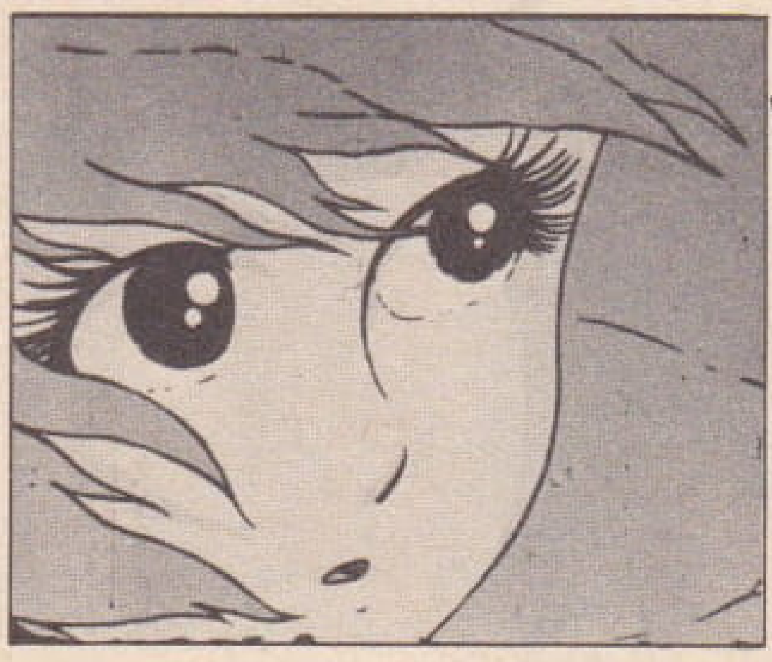


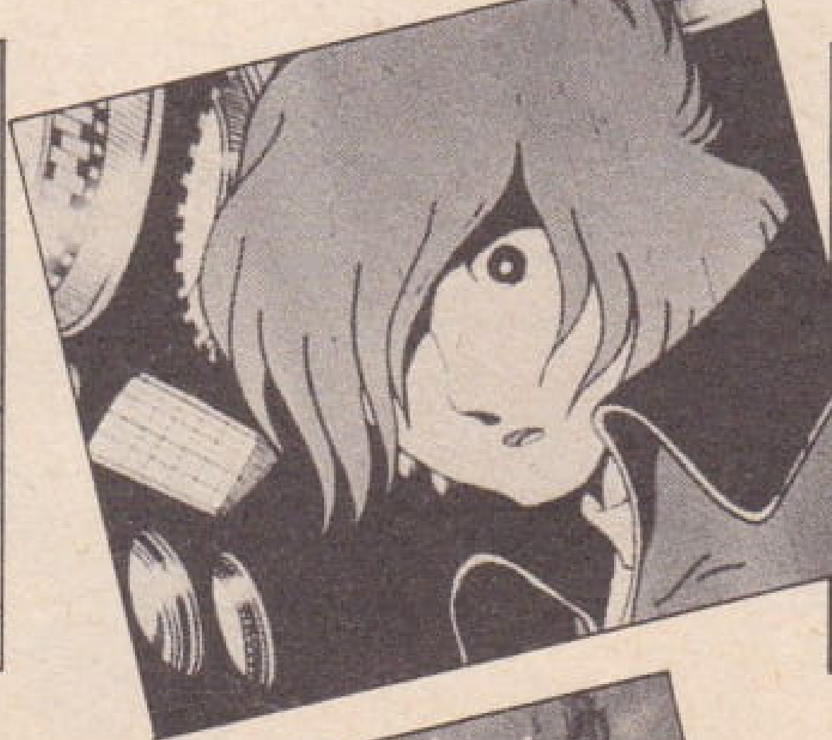




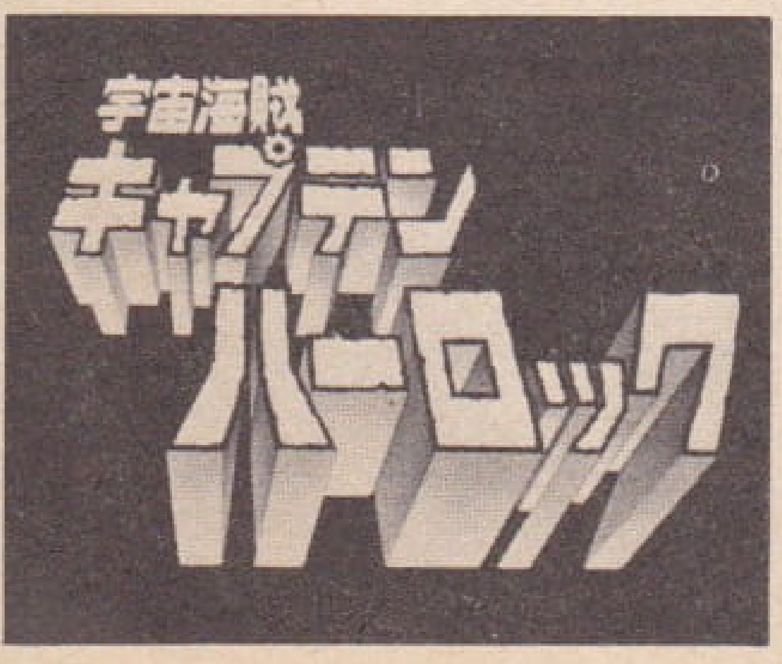




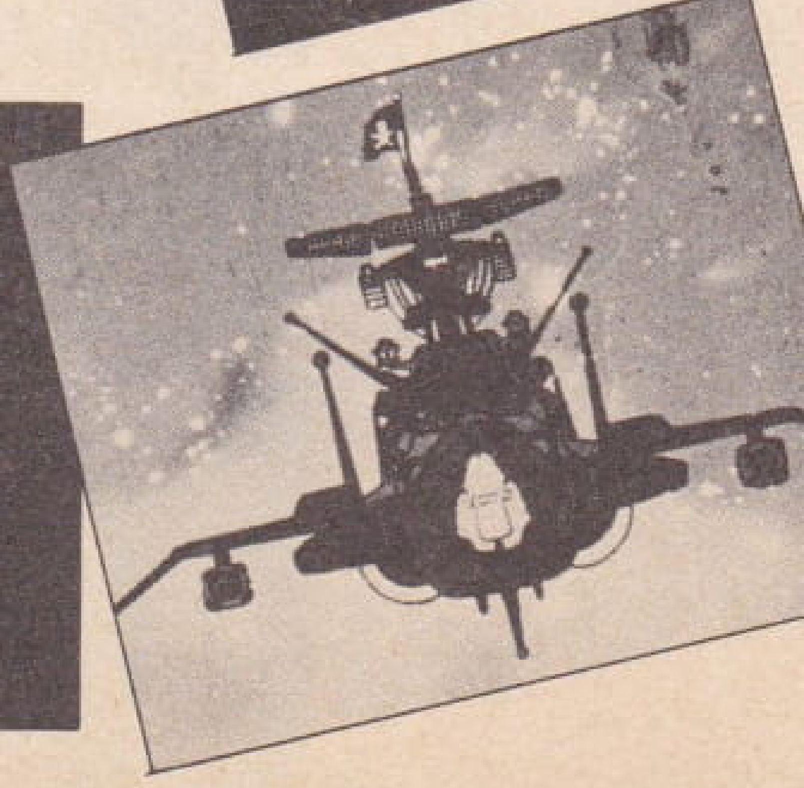


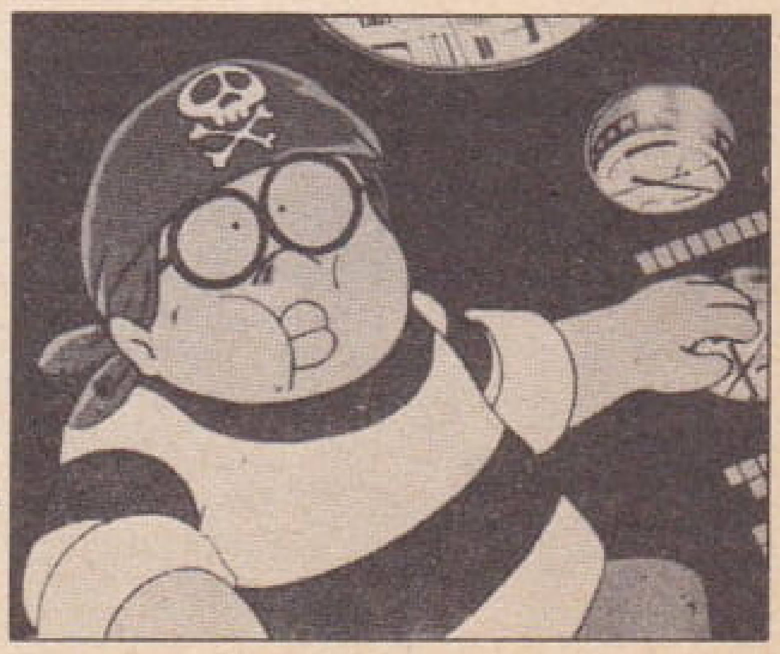












アニメを中心に……







▲アニメ特集号・全3巻（秋田書店）








▲プレイコミックの巻頭アニメ特集



▲レコード・ドラマ編（コロムビア）



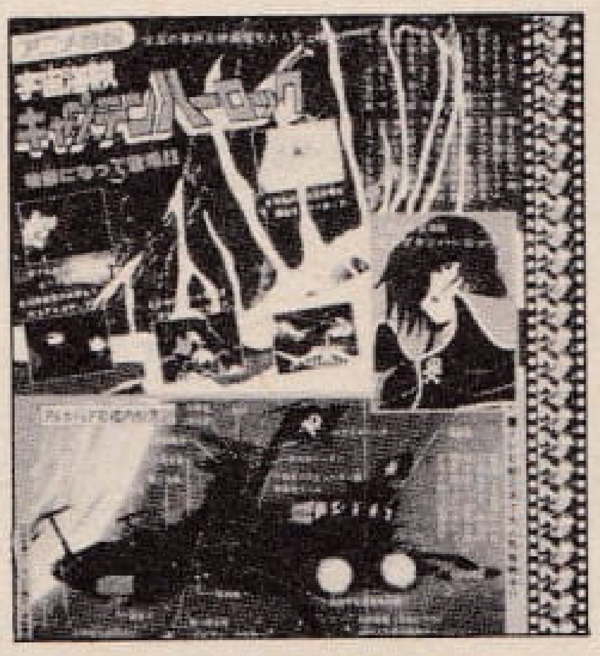
▲宣伝ポスター



▲海外用パンフレット



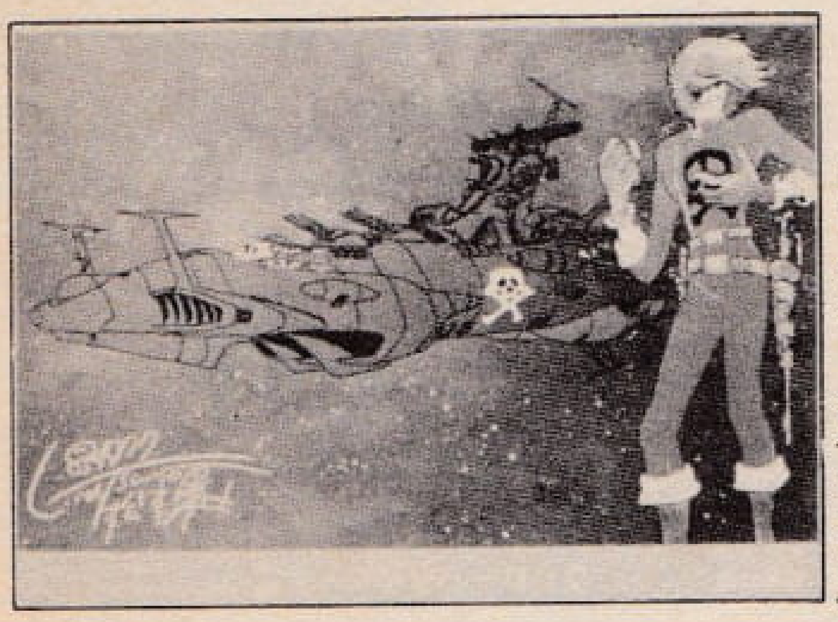
▲レコード・2台のピアノのための組曲




▲冒険王のアニメ特集

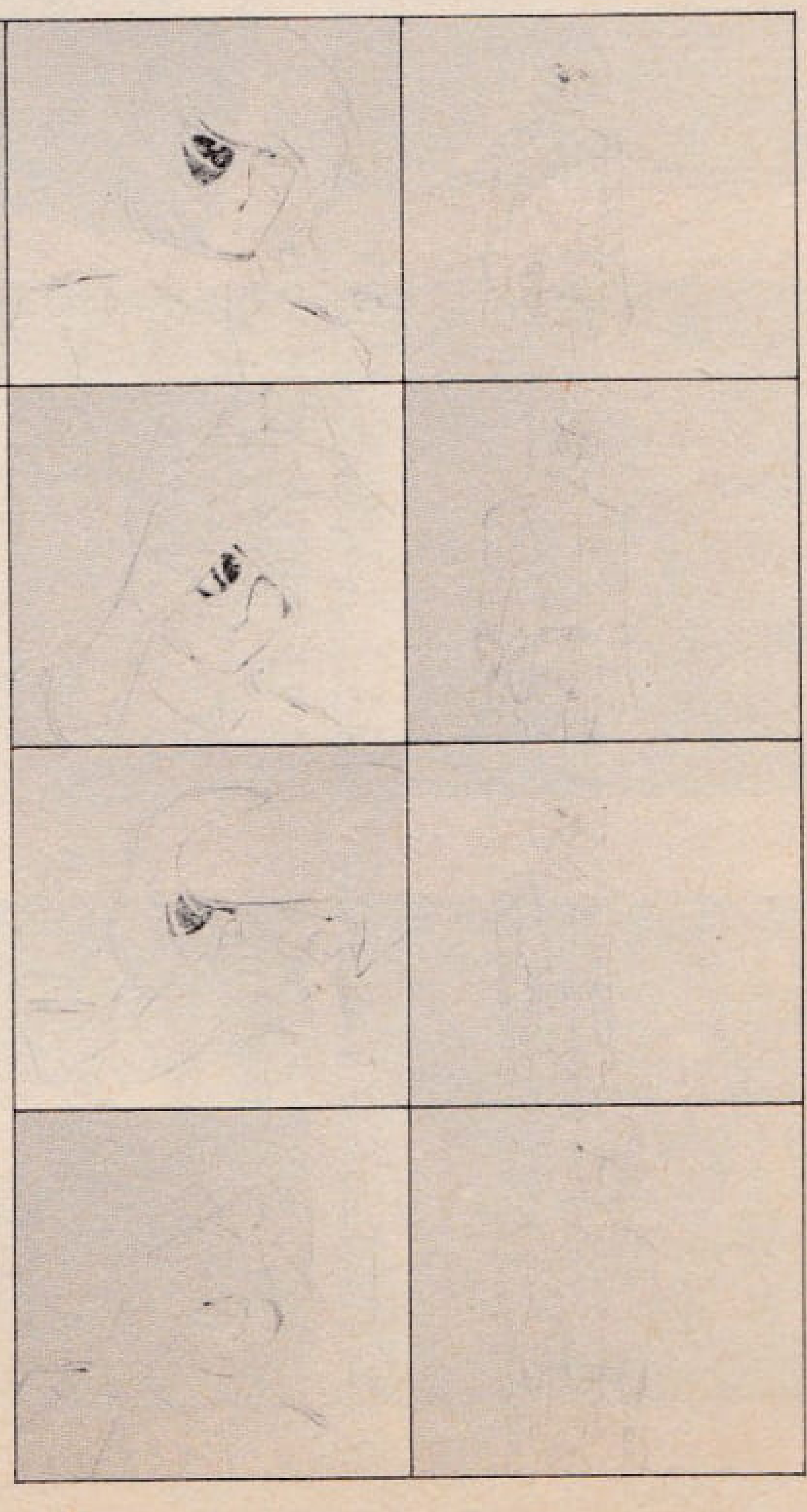


▲TV放映版資料記録コレクション（タカラ）



▲秋田書店の単行本を買うともらえた下じき

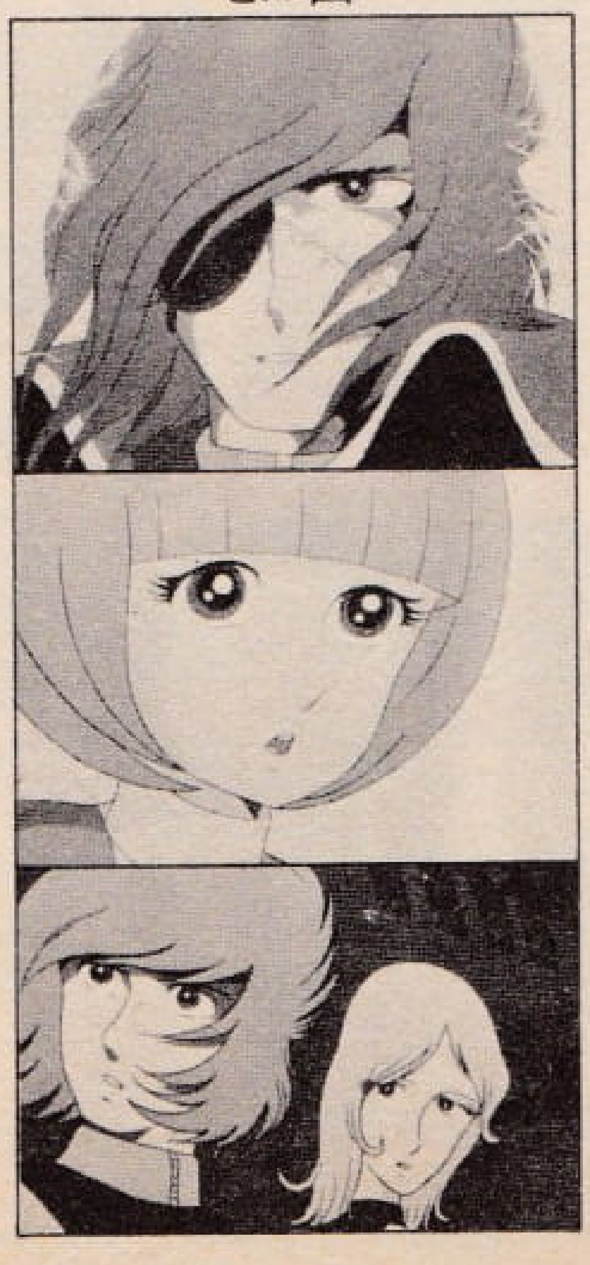
原画・動画・セル画




▲めずらしい連邦軍の制服姿



▲秀作・キャラクター集



▼セレクション・セル画

制作スタッフ

企画　田宮　武
　　　小湊洋市
原作　松本零士（プレイコミック連載）
　　　協力　スタジオぬえ
制作担当　小泉美明
　　　佐伯雅久
チーフディレクター　りん・たろう
キャラクターデザイン　小松原一男
音楽　平尾昌晃
撮影　佐藤隆郎
現像　東映化学
編集　吉川泰弘
録音　二宮健治
選曲　宮下　滋
効果　伊藤道広
制作進行　箕ノ口克巳
制作　東映
　　　テレビ朝日

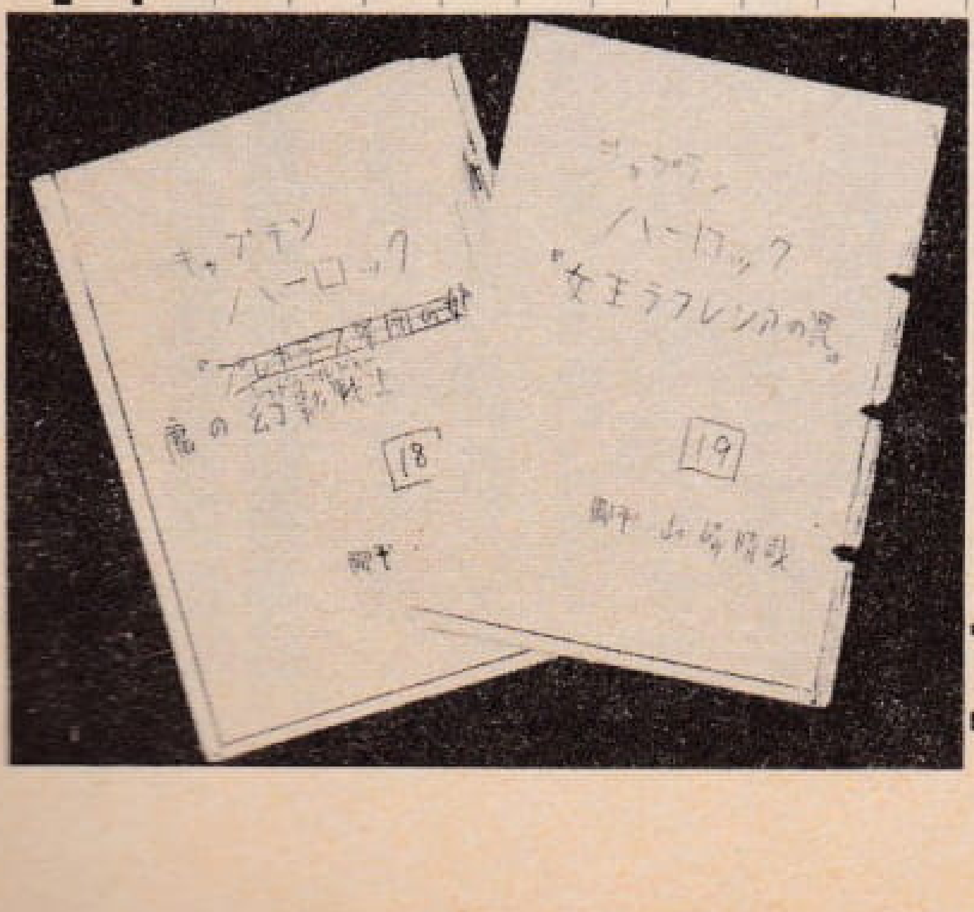
メイン・キャスト

キャプテンハーロック　井上真樹夫
台羽正　神谷明
ミーメ　小原乃梨子
有紀螢　川島千代子
ヤッタラン　大竹宏
ドクターゼロ　八奈見乗児
魔地機関長　緒方賢一
マスさん　つかせのりこ
ロペット・ワーワー　緒方賢一
まゆ　川島千代子
切田長官　柴田秀勝
首相　八奈見乗児
学長　小原乃梨子
司令クレオ　坪井章子（26話より）
女王ラフレシア　北浜晴子
ナレーター　柴田秀勝

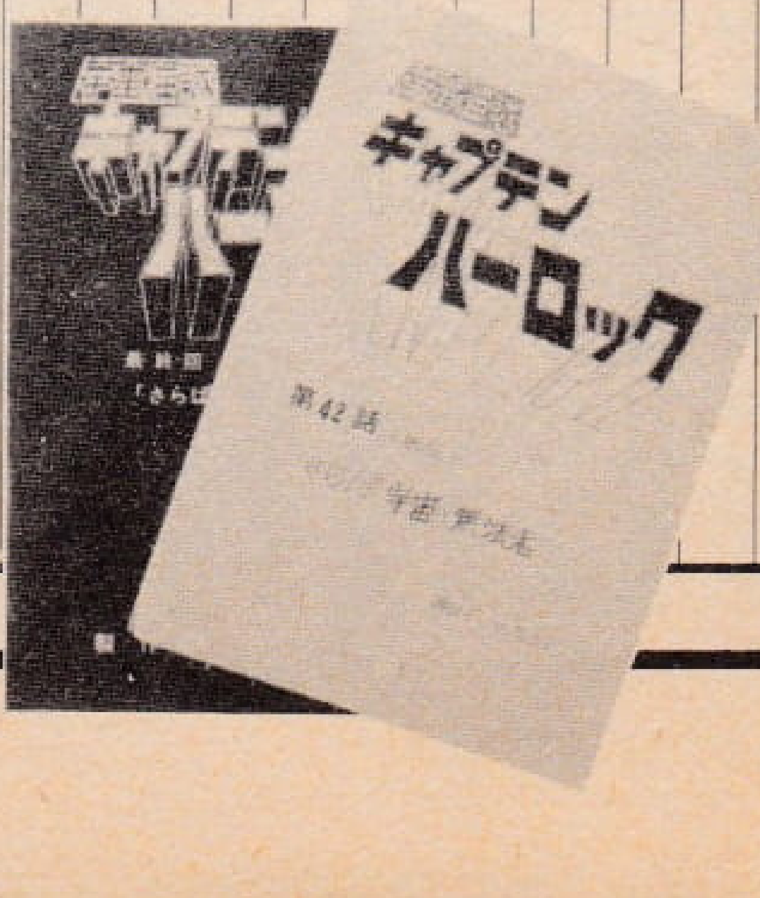
●サブタイトルリスト

放送局　テレビ朝日系／放送期間　昭和53年3月14日～昭和54年2月13日／放映日　火曜日午後7時～7時30分

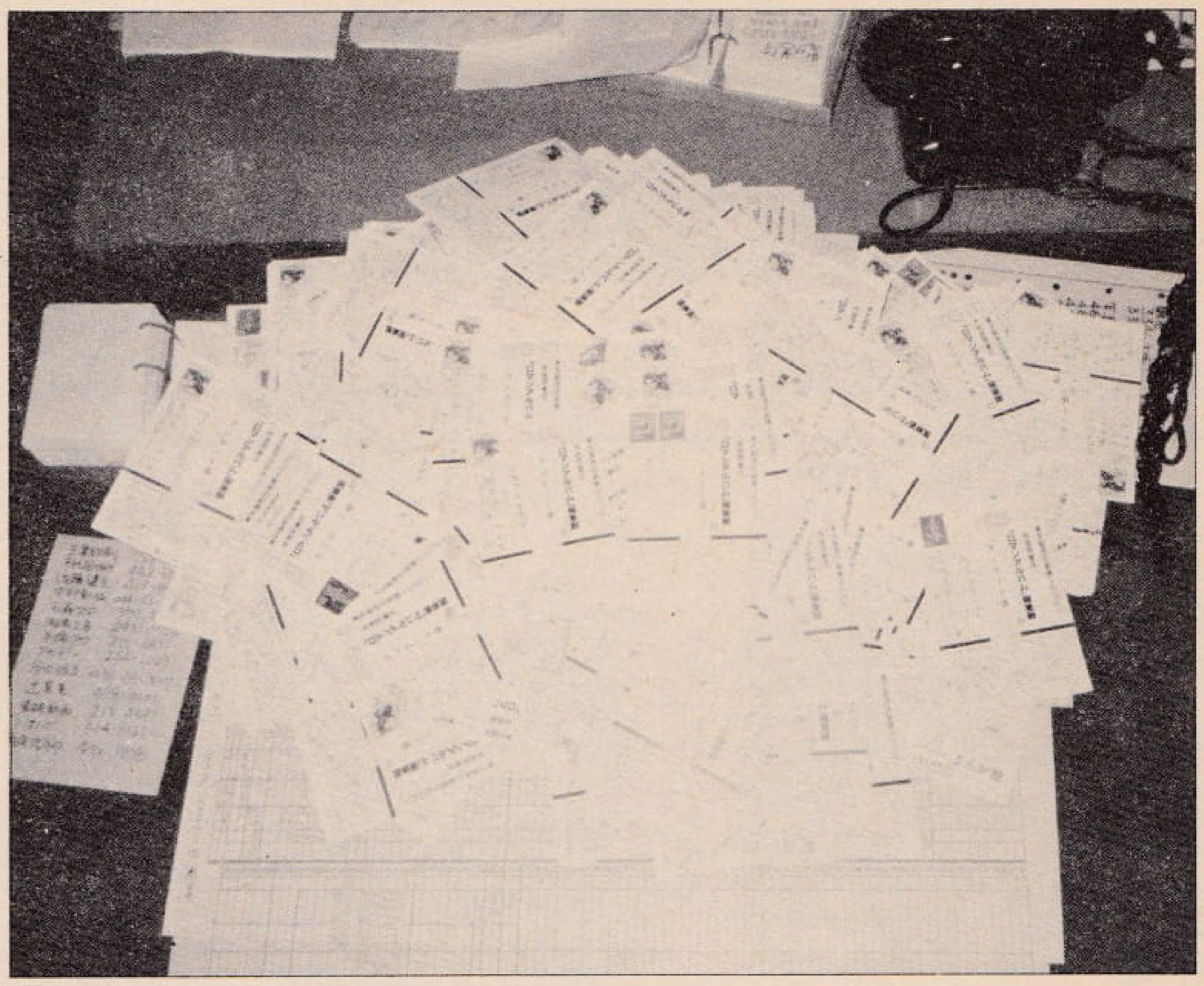
話数	放映日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	ゲストキャラ（原則として名前のある人間）
1	S53・3/14	宇宙にはためく海賊旗	上原正三	りん・たろう	小松原一男	台羽博士
2	3/21	未知からのメッセージ	上原正三	蕪木登喜司	菊池城二	台羽博士
3	3/28	紙のように燃える女	上原正三	福島和美	窪田正史	台羽博士、クスコ教授
4	4/11	自由の旗の下に！	山崎晴哉	川田武範	森　利夫	
5	4/18	はるかなる星の涯に…	上原正三	生頼昭憲	菊池城二	ヌレーム
6	4/25	幻のマゾーン	上原正三	明比正行	谷口守泰	
7	5/2	海底のピラミッド	上原正三	松浦錠平	小松原一男	舎監
8	5/9	女王の宇宙艦隊	上原正三	明比正行	菊池城二	ヒステリアス、メゾン
9	5/16	戦慄の植物生命体	山崎晴哉	大関雅幸、松浦錠平	窪田正史	
10	5/30	謎の惑星に迫れ	山崎晴哉	蕪木登喜司	菊池城二	アレルギアス、ローラ
11	6/6	ローラが金色に輝く時	山崎晴哉	生頼昭憲	野田卓雄	ローラ、台羽浩子
12	6/13	母よ、永遠なれ	山崎晴哉	明比正行	菊池城二	ローラ、台羽浩子、アレルギアス
13	6/20	死の海の魔城	上原正三	りん・たろう	小松原一男	魔女アマン、
14	6/27	スフィンクスの墓標	上原正三	生頼昭憲	菊池城二	ハッシ老人、サーダン、民
15	7/4	悲恋！北極オーロラ	上原正三	松浦錠平	菊池城二	スノーラ、
16	7/11	螢・わかれうた	上原正三	蕪木登喜司	菊池城二	片桐一也、サキ、有紀秀一郎、文
17	7/18	白骨の勇者	山崎晴哉	生頼昭憲	野田卓雄	山中艦長、亜希、みどり
18	7/25	魔の幻影戦士（シャドウソルジャー）	山崎晴哉	明比正行	菊池城二	パトラス（みどり）
19	8/1	女王ラフレシアの罠	山崎晴哉	松浦錠平	小松原一男	アキアス
20	8/8	死滅のジュラ星	山崎晴哉	大関雅幸、蕪木登喜司	菊池城二	ジョジベル（フーレ）
21	8/15	ゴーラム！悲劇の戦士	山崎晴哉	明比正行	菊池城二	ゾル、トカーガ戦士
22	8/22	宇宙の墓場・デスシャドウ	山崎晴哉	神山　香	菊池城二	
23	8/29	ヤッタラン・プラモ狂の詩	山崎晴哉	生頼昭憲	菊池城二	エルザ、マゾーン司令
24	9/5	純愛流れ星	上原正三	大関雅幸	菊池城二	ゾルバ、ルシア、警備隊長、ルマーニ
25	9/12	ドクター・ゼロとミー	山崎晴哉	明比正行	菊池城二	カサンドラ、マゾーン将校
26	9/26	はるかなる長い旅	山崎晴哉	川田武範	菊池城二	カサンドラ、テシウス、サイネス
27	10/3	アルカディア号の意志	上原正三	松浦錠平	小松原一男	
28	10/10	ユリシーズの星雲	山崎晴哉	大関雅幸	菊池城二	アイン博士、イカル、ビーナ、ロメオ、ミユ
29	10/17	虹の星の死闘	山崎晴哉	福島和美	菊池城二	キリカ、シラク
30	10/24	わが友わが青春	上原正三	生頼昭憲	菊池城二	大山トチロー、エメラーダ、ホラー提督、ジミー
31	10/31	アルカディア号建造秘話	上原正三	大関雅幸	菊池城二	大山トチロー、エメラーダ、羊の星の総督
32	11/7	星笛が呼ぶ	山崎晴哉	福島和美	菊池城二	ダイネス
33	11/14	たった一人の突撃！	山崎晴哉	神山　香	菊池城二	大田原剛三、波野静香
34	11/21	銀河子守唄	上原正三	りん・たろう	小松原一男	ツインシスター
35	11/28	美しき謎の女	上原正三	生頼昭憲	菊池城二	波野静香
36	12/5	決戦前夜	山崎晴哉	大関雅幸	菊池城二	波野静香、アドルフ
37	12/19	赤いセーターの涙	上原正三	松浦錠平	菊池城二	波野静香
38	S54・1/9	さらば！まゆ	山崎晴哉	箕ノ口克己	菊池城二	ハッシ老人
39	1/16	壮絶！長官死す	山崎晴哉	生頼昭憲	菊池城二	
40	1/23	その時天使は歌った	上原正三	福島和美	菊池城二	
41	1/30	決闘！女王対ハーロック	上原正三	大関雅幸	菊池城二	
42	2/13	さらば宇宙の無法者	上原正三	りん・たろう	小松原一男	ハッシ老人



▼山崎晴哉氏のシナリオ原稿



ロマンアルバム・アンケートの集計結果を発表します！


RAによせられたハガキの山

RA㉗『バビル2世』(11/27発売)に添付したアンケートはがきの集計が出ましたので報告します(尚編集作業の都合上、12/15の消印のものまでで〆切らせてもらいました)。

・**〈回収はがき総数〉**2275通

・**〈性別〉**　男性1110通
　女性1165通

・**〈学年別順位〉**①高校1年 ②高校3年 ③中学3年 ④高校2年 ⑤大学2年 ⑥大学1年 ⑦中学2年 ⑧大学3年 ⑨小学6年 ⑩中学1年 ⑪大学4年 以下略

※**編集部解説**＝発表日から約半月の間での集計にしては、なかなかの数のはがきが回収できました。読者諸君！ 多謝！ 〈性別〉では一目瞭然、男性読者と女性読者の数がほぼ半々ずつ、という点が注目されます。姉妹誌・アニメージュの読者の7割強が女性であることを思えば、なおのこと特筆ものに感じられます。〈学年別順位〉で印象深かったのは、高校生読者の率が高かった点です。年齢16、17、18歳の高校生層が、全体の43％をしめていました(大学生約33％、中学生約22％)。

・**〈既出RAの売れ行き順位〉**1「闘将ダイモス」⑳1505票 2「宇宙戦艦ヤマト」①1475票 3「さらば宇宙戦艦ヤマト」(愛の戦士たち)⑪1472票 4「海のトリトン」㉓1395票 5「ダンガードA」⑱1325票 6「勇者ライディーン」⑧1244票 7「ザンボット3」㉑1170票 8「サイボーグ009」②1162票 9「コンバトラーV」⑯1150票 10「グレンダイザー」⑮1138票 以下、「銀河鉄道999」㉔「ボルテスV」⑭、「宝島」㉒「マジンガーZ」⑨「デビルマン」④「ガンバの冒険」㉖「レインボー戦隊ロビン」③「マリンエクスプレス」㉕「あしたのジョー」⑬「タイガーマスク」⑤「アルプスの少女ハイジ」⑲「スーパージェッター」⑥「バンダーブック」⑫「エイトマン」⑰「鉄腕アトム」⑦「カムイ外伝」⑩(注・「大恐竜時代」㉘は除外しました)

※**編集部解説**＝じつはこの順位、実際の売れ行きである〝販売売り上げ〟と一致しません。たとえば、トップクラスの売れ行きを示した「銀河鉄道999」㉔が15位であったり、良好といえなかった「海のトリトン」㉓が4位を確保しています。なぜか？ 今回のアンケートは〝バビル二世を買った読者〟から回収されたものだからでしょう。つまり、「バビル二世」の好きな読者の多くは、「闘将ダイモス」は好きだが、「銀河鉄道999」はあまり……という反応を示したわけです。このはがきを、「ガンバの冒険」「マリンエクスプレス」といった、べつのRAにつければ、結果もまた千差万別にあらわれると思います。ですから、〈学年別順位〉にしても、以下解説する項目にしても、あくまでも、「バビル二世」の愛読者によるアンケート結果であることをまず認識してください。

・**〈RAにとりいれてほしい作品の順位〉**①機動戦士ガンダム・648票 ②ルパン三世(新・旧・劇場用合計)・563票 ③野球狂の詩(とくに北の狼南の虎)・417票 ④エースをねらえ(新・旧)・385票 ⑤巨人の星(新・旧)・336票 ⑥未来少年コナン(TV)・335票 ⑦キャプテンフューチャー・328票 ⑧キューティー・ハニー・325票 ⑨ゲッターロボ・324票 ⑩アローエンブレム グランプリの鷹・322票……以下、⑪新・サイボーグ009 ⑫大空魔竜ガイキング ⑬科学忍者隊ガッチャマン ⑭侍ジャイアンツ ⑮未来ロボ ダルタニアス ⑯家なき子 ⑰SF西遊記・スタージンガー ⑱グレートマジンガー ⑲破裏拳ポリマー ⑳原始少年リュウ(以下略)

※**編集部解説**＝ガンダム、ルパンという今を時めく力作二篇が1、2位をしめたのは当然!? 予想以上の健闘をみせたのがキャプテンフューチャー、逆に落ち込み激しく、ついに85位の低支持に終ったのが宇宙空母ブルーノアでした。20位以下でちょっと気になる作



C・Hのフィルム選びを手伝う愛読者諸君



既出RAの売れ行きNo.1の「闘将ダイモス」

品をアトランダムに拾うと、新造人間キャシャーン、宇宙の騎士テッカマン、アンデス少年ペペロの冒険 太陽の王子ホルスの大冒険 佐武と市捕物控などで、けっこう得票していました。

・**〈愛読雑誌ベストテン〉** ①アニメージュ ②OUT ③少年ジャンプ ④ジ・アニメ ⑤アニメック ⑥別冊マーガレット ⑦少年チャンピオン ⑧少年サンデー ⑨マンガ少年 ⑩ロードショー（得票数省略、ロマンアルバムは除外）……以下、花とゆめ、ララ、リュウ、プリンセス、中三時代、ぴあ、ぱふ 少年マガジン、ザ・ベストテン、少女コミック、高一コース、宝島

※編集部解説＝結びにかえて＝誌面の都合でくわしく結果報告できずにすみません。〈1カ月のおこづかい〉の項は、あくまで販売部用データなので、公に発表することもないと思います。一応、おこづかい5000円以下、本代2000円前後、の読者諸君が大半をしめていたと報告しておきます。〈ご意見、ご感想〉の項には、今後のRA編集部の指針となるような、すばらしい提案が数多く寄せられました。編集部一同感謝にたえません。尚、諸提案の詳報は後日改めて発表させてもらいます。

EDITOR'S ROOM

読者諸君！ 明けましておめでとう！

この「キャプテン・ハーロック」号で、ロマンアルバムも30巻を数えるに至りました。ホント、まあ、良く石も投げられないで無事に続いたもんだと胸をなでおろしています。やはり、ニッポンの明日を荷負う青少年婦女子は捨てたもんじゃないんですね……と、ゴマをすりつつ、今後ともRAをヨロシクとお願いしちゃう。

さて、本号のEditor's roomは〝30巻突破おめでとう記念〟と編集部だけがハシャイで語りまくろうとのコンタン。ンナロ！ 馬鹿々々しくて読めるか！……なんぞと苦虫嚙みつぶす読者は即破いちゃってケッコウデス。

※

RA編集部は、徳間書店の2Fにあります。といっても、このフロアには、かの有名な「アニメージュ」編集部と「テレビランド」編集部がデンと構えているので、〝居させてもらっている〟感じ。壁際に押しつけられ、ひっそりと息をしています。なにせ、AM、TLの販売成績の足元にも及ばない状況ですので、厳しい資本主義社会の掟に従わざるを得ないのですよ。そこで一声！ RA編集部に愛の手を！ 差し入れを！

※